別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基本計画										
事項	記入欄									備考
計画の区分	学部の学科の設置									
フリガナ 設置者	コクリツダイガクホウジン　ミエダイガク 国立大学法人　三重大学									
フリガナ 大学の名称	ミエダイガク 三重大学（Mie University）									
大学本部の位置	三重県津市栗真町屋町１５７７									
大学の目的	本学は広く教養を与え、専門の学芸を教授研究し、科学及び技術の発展に努め、真理と正義を愛する人格を形成するとともに、人類の普遍的かつ地域の諸特性に応じた福祉と文化の進展に貢献することを目的とする。									
新設学部等の目的	生物資源に関する独創性及び専門性を兼ね備えた広い視野を持ち、地域に根ざしたグローバルな視点に立ち、自らの力で問題解決ができる知識及び能力を身につけた人材を育成し、自然との共存を図り、生物資源の適正な開発・利用・保全を追求し、地域及び国際社会に貢献することを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
		年	人	年次人	人		年　月 第　年次			
	生物資源学部 (Faculty of Bioresources)							三重県津市栗真町屋町1577		
	生物資源学科 (Department of Bioresources)	4	260	3年次 10	1060	学士 （生物資源学）	令和6年4月 第1年次 令和8年4月 第3年次	同上		
	計		260	10	1060					
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	生物資源学部 資源循環学科（廃止）　（△70） （3年次編入学定員）　（△3） ※令和6年4月学生募集停止 （3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止） 共生環境学科（廃止）　（△70） （3年次編入学定員）　（△3） ※令和6年4月学生募集停止 （3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止） 生物圏生命化学科（廃止）　（△80） （3年次編入学定員）　（△2） ※令和6年4月学生募集停止 （3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止） 海洋生物資源学科（廃止）　（△40） （3年次編入学定員）　（△2） ※令和6年4月学生募集停止 （3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止）									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	生物資源学部生物資源学科	302科目	78科目	67科目	447科目	125単位				

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
			人	人	人	人	人	人	人
	新設分	生物資源学部　生物資源学科	32 (32)	41 (41)	0 (0)	13 (13)	86 (86)	0 (0)	363 (363)
		計	32 (32)	41 (41)	0 (0)	13 (13)	86 (86)	0 (0)	363 (363)
	既設分	人文学部　文化学科	24 (24)	20 (20)	11 (11)	0 (0)	55 (55)	0 (0)	34 (34)
		法律経済学科	17 (17)	9 (9)	1 (1)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	27 (27)
		教育学部　学校教育教員養成課程	54 (54)	18 (18)	2 (2)	0 (0)	74 (74)	0 (0)	142 (142)
		医学部　医学科	49 (49)	28 (28)	18 (18)	52 (52)	147 (147)	0 (0)	37 (37)
		看護学科	10 (10)	7 (7)	2 (2)	10 (10)	29 (29)	0 (0)	26 (26)
		工学部　総合工学科	39 (39)	43 (43)	3 (3)	17 (17)	102 (102)	0 (0)	49 (49)
		全学共通教育センター	3 (3)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	336 (336)
		計	196 (196)	128 (128)	38 (38)	79 (79)	441 (441)	0 (0)	— (—)
	合計		228 (228)	169 (169)	38 (38)	92 (92)	527 (527)	0 (0)	— (—)

	職種	専任	兼任	計	
教員以外の職員の概要		人	人	人	
	事務職員	276 (276)	517 (517)	793 (793)	
	技術職員	912 (912)	665 (665)	1,577 (1,577)	
	図書館専門職員	5 (5)	0 (0)	5 (5)	
	その他の職員	3 (3)	101 (101)	104 (104)	
	計	1,196 (1,196)	1,283 (1,283)	2,479 (2,479)	

	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
校地等	校舎敷地	335,001 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	335,001 ㎡	
	運動場用地	86,970 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	86,970 ㎡	
	小計	421,971 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	421,971 ㎡	
	その他	106,370 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	106,370 ㎡	
	合計	528,341 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	528,341 ㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	179,996 ㎡ (179,996 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	179,996 ㎡ (179,996 ㎡)	

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	177室	65室	338室	11室 (補助職員0人)	0室 (補助職員0人)	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	生物資源学部　生物資源学科	86 室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	生物資源学部	20,595〔3,962〕 (20,595〔3,962〕)	6,639〔6,174〕 (6,639〔6,174〕)	5,915〔5,911〕 (5,915〔5,911〕)	2,533 (2,533)	4,329 (4,329)	0 (0)	(電子ジャーナルは大学全体の数)
	計	20,595〔3,962〕 (20,595〔3,962〕)	6,639〔6,174〕 (6,639〔6,174〕)	5,915〔5,911〕 (5,915〔5,911〕)	2,533 (2,533)	4,329 (4,329)	0 (0)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	8,276 ㎡	741	709,000	

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		
	4,339 ㎡	陸上競技場，野球場，サッカー・ラグビー場	テニスコート，プール，ハンドボール場ほか	大学全体

経費の見積り及び維持の方法の概要		区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
	経費の見積り	教員１人当り研究費等								国費による
		共同研究費等								
		図書購入費								
		設備購入費								

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	千円	千円	千円	千円	千円	千円

学生納付金以外の維持方法の概要	

既設大学等の状況

大学の名称	三重大学							
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
【学部】									
人文学部	—	245	3年次30	1,040	—	1.05	昭和58年度	三重県津市栗真町屋町1577	
文化学科	4	92	3年次10	388	学士（人文科学）	1.06	昭和58年度	同上	
法律経済学科	4	153	3年次20	652	学士（法律経済）	1.05	昭和58年度	同上	
教育学部	—	200		800	—	1.02	昭和41年度	三重県津市栗真町屋町1577	
学校教育教員養成課程	4	200		800	学士（教育学）	1.02	平成9年度	同上	
医学部	—	205	3年次10	1,090	—	0.99	昭和47年度	三重県津市江戸橋2丁目174	
医学科	4	125		750	学士（医学）	1.02	昭和47年度	同上	令和4年度入学定員増（125）
看護学科	4	80	3年次10	340	学士（看護学）	0.93	平成9年度	同上	
工学部	—	400	3年次30	1,660	—	1.03	昭和44年度	三重県津市栗真町屋町1577	
総合工学科	4	400	3年次30	1,660	学士（工学）	1.03	令和元年度	同上	
機械工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成3年度	同上	令和元年度学生募集停止
電気電子工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成3年度	同上	令和元年度学生募集停止
分子素材工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成2年度	同上	令和元年度学生募集停止
建築学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	昭和55年度	同上	令和元年度学生募集停止
情報工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成元年度	同上	令和元年度学生募集停止
物理工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成9年度	同上	令和元年度学生募集停止
生物資源学部	—	260	3年次10	1,060	—	1.05	昭和62年度	三重県津市栗真町屋町1577	
資源循環学科	4	70	3年次3	286	学士（生物資源学）	1.06	平成12年度	同上	
共生環境学科	4	70	3年次3	286	学士（生物資源学）	1.06	平成12年度	同上	
生物圏生命化学科	4	80	3年次2	324	学士（生物資源学）	1.05	平成29年度	同上	
海洋生物資源学科	4	40	3年次2	164	学士（生物資源学）	1.02	平成29年度	同上	
【大学院】									
人文社会科学研究科	—	—	—	—	—	—	—	三重県津市栗真町屋町1577	
（修士課程）									
地域文化論専攻	2	8	—	16	修士（人文科学）	1.31	平成4年度	同上	
社会科学専攻	2	7	—	14	修士（社会科学）	0.64	平成4年度	同上	
教育学研究科	—	—	—	—	—	—	—	三重県津市栗真町屋町1577	
（修士課程）									
教育科学専攻	2	—	—	—	修士（教育学）	—	平成24年度	同上	令和3年度学生募集停止
（専門職学位課程）									
教職実践高度化専攻	2	25	—	50	教職修士（専門職）	0.80	令和3年度	同上	

	医学系研究科	—	—	—	—	—	—	—	三重県津市江戸橋2丁目174	
	（修士課程）									
	医科学専攻	2	12	—	24	修士 （医科学）	0.58	平成13年度	同上	
	看護学専攻	2	11	—	22	修士 （看護学）	1.13	平成14年度	同上	
	（博士課程）									
	看護学専攻	3	3	—	9	博士 （看護学）	2.11	平成28年度	同上	
	生命医科学専攻	4	45	—	180	博士 （医学）	1.12	平成15年度	同上	
	工学研究科	—	—	—	—	—	—	—	三重県津市栗真町屋町1577	
	（博士前期課程）									
	機械工学専攻	2	55	—	55	修士 （工学）	1.16	令和5年度	同上	
	電気電子工学専攻	2	55	—	55	修士 （工学）	1.03	令和5年度	同上	
	応用化学専攻	2	56	—	56	修士 （工学）	1.17	令和5年度	同上	
	建築学専攻	2	20	—	20	修士 （工学）	1.15	令和5年度	同上	
	情報工学専攻	2	30	—	30	修士 （工学）	0.86	令和5年度	同上	
	機械工学専攻	2	—	—	—	修士 （工学）	—	平成7年度	同上	令和5年度学生募集停止
	電気電子工学専攻	2	—	—	—	修士 （工学）	—	平成7年度	同上	令和5年度学生募集停止
	分子素材工学専攻	2	—	—	—	修士 （工学）	—	平成7年度	同上	令和5年度学生募集停止
	建築学専攻	2	—	—	—	修士 （工学）	—	平成7年度	同上	令和5年度学生募集停止
	情報工学専攻	2	—	—	—	修士 （工学）	—	平成7年度	同上	令和5年度学生募集停止
	物理工学専攻	2	—	—	—	修士 （工学）	—	平成13年度	同上	令和5年度学生募集停止
	（博士後期課程）									
	材料科学専攻	3	6	—	18	博士 （工学）	1.22	平成7年度	同上	
	システム工学専攻	3	10	—	30	博士 （工学）	0.90	平成7年度	同上	
	生物資源学研究科	—	—	—	—	—	—	—	三重県津市栗真町屋町1577	
	（博士前期課程）									
	資源循環学専攻	2	23	—	46	修士 （生物資源学）	1.02	平成16年度	同上	
	共生環境学専攻	2	26	—	52	修士 （生物資源学）	1.00	平成16年度	同上	
	生物圏生命科学専攻	2	39	—	78	修士 （生物資源学）	1.53	平成16年度	同上	
	（博士後期課程）									
	資源循環学専攻	3	4	—	12	博士 （学術）	1.08	平成18年度	同上	
	共生環境学専攻	3	4	—	12	博士 （学術）	1.25	平成18年度	同上	
	生物圏生命科学専攻	3	4	—	12	博士 （学術）	1.41	平成18年度	同上	
	地域イノベーション学研究科	—	—	—	—	—	—	—	三重県津市栗真町屋町1577	
	（博士前期課程）									
	地域イノベーション学専攻	2	15	—	30	修士 （学術）	1.40	平成21年度	同上	
	（博士後期課程）									
	地域イノベーション学専攻	3	6	—	18	博士 （学術）	2.00	平成21年度	同上	

附属施設の概要	名　　称：生物資源学研究科附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター 附帯施設農場、附帯施設演習林、附帯施設水産実験所 目　　的：循環型社会の実現、自然との共生、自然環境の保全、多様な生物資源の持続的利用に関する教育・研究を行うことを目的とする。 所 在 地：附帯施設農場　三重県津市高野尾町2072-2 附帯施設演習林　三重県津市美杉町川上2735 附帯施設水産実験所　三重県鳥羽市小浜町641-9 設置年月：平成14年4月改組・設置 規 模 等：附帯施設農場　土地　353,179㎡　建物　7,608㎡ 附帯施設演習林　土地　4,569,562㎡　建物　1,383㎡ 附帯施設水産実験所　土地　1,299㎡　建物　606㎡	
	名　　称：生物資源学研究科附属練習船勢水丸 目　　的：水産学に関する実験，実習及び研究調査等を行うことを目的とする。 所 在 地：三重県松阪市大口町字築地1819-18　（実習船基地） 設置年月：昭和55年7月竣工（現船：平成21年1月竣工） 規 模 等：総トン数　319t	
	名　　称：教育学部附属小学校 目　　的：初等教育を施すことを目的とする。 所 在 地：三重県津市観音寺町359 設置年月：昭和24年5月設置 規 模 等：土地　90,987㎡（小・中・特・幼　合わせて）　建物　6,283㎡	
	名　　称：教育学部附属中学校 目　　的：中等教育を施すことを目的とする。 所 在 地：三重県津市観音寺町471 設置年月：昭和24年5月設置 規 模 等：土地　90,987㎡（小・中・特・幼　合わせて）　建物　5,686㎡	
	名　　称：教育学部附属特別支援学校 目　　的：特別支援教育を施すことを目的とする。 所 在 地：三重県津市観音寺町484 設置年月：昭和48年4月設置 規 模 等：土地　90,987㎡（小・中・特・幼　合わせて）　建物　3,396㎡	
	名　　称：教育学部附属幼稚園 目　　的：幼児教育を施すことを目的とする。 所 在 地：三重県津市観音寺町523 設置年月：昭和24年5月設置 規 模 等：土地　90,987㎡（小・中・特・幼　合わせて）　建物　1,038㎡	
	名　　称：医学部附属病院 目　　的：患者の診療を通じ，医学の教育・研究を行うことを目的とする。 所 在 地：三重県津市江戸橋2丁目174 設置年月：昭和48年10月国立移管 規 模 等：土地　67,346㎡　建物　68,247㎡	

（注）
1　共同学科等の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
2　「教員組織の概要」の「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとすること。
3　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
4　大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
5　「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
6　空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（生物資源学部生物資源学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	大学基礎科目	スタートアップセミナー	スタートアップＰＢＬセミナー	1前	2			○								兼4	共同（一部）
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼4	
		キャリア教育	キャリア教育入門	1後	2			○				2				兼1	オムニバス（一部）
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	2	0	0	0	兼1	
		外国語（英語）	英語Ｉ大学基礎	1前・後	2				○							兼9	
			英語Ｉコミュニケーション	1前・後	2				○							兼11	
			小計（2科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼13	
		データサイエンス	データサイエンスⅠ	1前	2			○			1	2		3		兼5	共同（一部）
			データサイエンスⅡ	1後	2			○			1	5		3			共同（一部）
			小計（2科目）	－	4	0	0	－			1	7	0	5	0	兼5	
		スポーツ健康科学	スポーツ健康科学Ａ	1前	1					○						兼6	
			小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼6	
	教養基礎科目（副専攻科目）		英語ＩＴＯＥＩＣ	1前・後	2				○							兼14	
			英語Ｉ初級ＴＯＥＩＣ	1前・後		2			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ａａ	1前・後		1			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ａｂ	1後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｂ	1前・後		1			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ｃ	1前・後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｄ	1前・後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｅ	1前・後		1			○							兼1	
			スポーツ健康科学Ｂ	1後	1					○						兼5	
			スポーツ健康科学概論	1前		2		○								兼3	オムニバス
			ＰＢＬアカデミック・ライティング	1前・後		2		○								兼4	

		哲学Ｆ	1前・後		2		○									兼1		
		哲学Ｇ	1前・後		2		○									兼1		
		哲学Ｉ	1前・後		2		○									兼1		
		倫理学Ａ	1前		2		○									兼1		
		倫理学Ｂ	1後		2		○									兼1		
		倫理学Ｆ	1前		2		○									兼1		
		倫理学Ｇ	1後		2		○									兼1		
		倫理学Ｈ	1後		2		○									兼1		
		倫理学Ｉ	1前・後		2		○									兼1		
		宗教学Ｂ	1前		2		○									兼1		
		宗教学Ｃ	1後		2			○								兼1		
		宗教学Ｄ	1前		2		○									兼1		
		日本考古学Ｂ	1後		2			○								兼1		
		日本史Ａ	1前		2		○									兼1		
		日本史Ｂ	1前・後		2		○									兼1		
		日本史Ｃ	1前		2		○									兼1		
		日本文化論Ｂ	1前		2		○									兼1		
		西洋史Ａ	1後		2		○									兼1		
		西洋史Ｂ	1前・後		2		○									兼1		
		西洋史Ｃ	1後		2			○								兼1		
		東洋史Ａ	1前・後		2		○									兼1		
		東洋文化史	1前・後		2		○									兼1		
		演劇入門	1前		2		○									兼8	オムニバス	
		日本文学Ａ	1前・後		2		○									兼1		
		日本文学Ｂ	1前		2		○									兼1		
		日本文学Ｃ	1前・後		2		○									兼1		
		日本語学Ａ	1前		2		○									兼1		
		日本語学Ｂ	1後		2		○									兼1		
		比較政治文化	1前・後		2			○								兼1		
		比較文化論	1前・後		2			○								兼1		
		こころのサポート	1前・後		2		○									兼3		
		心理学Ａ	1前・後		2		○									兼3		
		心理学Ｆ	1前・後		2		○									兼2		
		日本国憲法	1前・後		2		○									兼4		
		法学Ａ	1前		2		○									兼1		
		法学Ｂ	1前		2		○									兼1		
		法学Ｃ	1後		2		○									兼2		
		法学Ｇ	1前		2		○									兼1		
		社会学Ａ	1前・後		2		○									兼4		
		社会学Ｂ	1前・後		2		○									兼2		
		文化人類学Ａ	1前・後		2		○									兼2		
		文化人類学Ｂ	1前		2		○									兼1		

		政治学A	1前		2		○									兼2		
		政治学B	1前		2		○									兼1		
		政治学G	1前・後		2		○									兼3		
		ＰＢＬ政治学1	1前・後		2		○									兼1		
		ＰＢＬ政治学2	1前・後		2		○									兼1		
		経済学A	1後		2		○									兼1		
		経済学F	1前		2		○									兼2		
		経済学G	1前・後		2		○									兼6		
		人文地理学A	1前		2		○									兼2		
		人文地理学B	1前・後		2		○									兼1		
		人文地理学C	1後		2		○									兼1		
		文化と空間A	1前・後		2		○									兼1		
		文化と空間B	1前		2			○								兼1		
		文化と空間C	1前		2		○									兼1		
		日本学	1後		2		○									兼1		
		三重学1	1前・後		2		○									兼1		
		地域学	1後		2		○									兼1		
		情報科学A	1後		2		○									兼1		
		情報科学B	1前		2		○									兼1		
		情報科学C	1後		2		○									兼1		
		データサイエンスⅢ	1後		2		○									兼1		
		数理科学A	1前		2		○									兼1		
		数理科学B	1後		2		○									兼1		
		数理科学D	1前		2		○									兼1		
		数理科学F	1前・後		2		○									兼1		
		数理科学G	1後		2		○									兼1		
		数理科学H	1前・後		2		○									兼1		
		物理学1	1後		2		○									兼1		
		物理学2	1前・後		2		○									兼1		
		化学A	1前・後		2		○									兼14	オムニバス	
		化学B	1後		2		○									兼3	オムニバス（一部）	
		生物学1	1前・後		2		○									兼1		
		生物学2	1後		2		○									兼1		
		生物学3	1前		2		○			1	1					兼2	オムニバス	
		生物学4	1後		2		○									兼1		
		入門生物学	1前		2		○									兼1		
		自然科学概論1	1後		2		○									兼1		
		自然科学概論2	1前		2		○				4					兼2	オムニバス	
		自然科学概論3	1前		2			○			2						共同	
		ＰＢＬ自然科学概論	1前		2		○									兼1		
		医学医療A1	1前		2		○									兼1		
		医学医療A2	1後		2		○									兼15	オムニバス	

		医学医療Ｂ1	1後		2		○								兼1	
		医学医療Ｂ2	1前・後		2		○								兼22	オムニバス
		医学医療Ｃ1	1前・後		2		○								兼9	オムニバス（一部）
		医学医療Ｃ2	1前		2		○								兼12	オムニバス（一部）
		医学医療Ｄ	1後		2		○								兼14	オムニバス
		医学医療入門	1前		2		○								兼16	オムニバス
		国際保健と地域医療	1後		2		○								兼9	オムニバス
		ＰＢＬ医学・看護学	1前・後		2		○								兼1	
		環境学Ａ	1前・後		2		○			2	1				兼4	オムニバス（一部）
		環境学Ｆ	1前		2		○								兼2	オムニバス
		環境地理学Ａ	1前		2		○								兼1	
		環境地理学Ｂ	1後		2		○								兼1	
		環境地理学Ｃ	1前・後		2		○								兼1	
		環境科学1	1前・後		2		○							1	兼2	共同（一部）
		環境科学2	1前		2		○								兼7	オムニバス（一部）
		生物資源学Ａ	1前・後		2		○				1				兼1	オムニバス
		生物資源学Ｂ	1前・後		2		○			1	1				兼1	オムニバス（一部）
		地域防災論	1後		2		○								兼11	オムニバス
		防災論	1前		2		○								兼6	オムニバス（一部）
		音楽文化論	1後		2		○								兼1	
		日本理解特殊講義1	1前		2		○								兼2	
		日本理解特殊講義2	1前		2		○								兼8	オムニバス
		日本理解特殊講義4	1前・後		2		○								兼7	オムニバス
		日本理解特殊講義5	1前・後		2		○								兼2	
		現代社会理解特殊講義1	1前・後		2		○								兼4	オムニバス
		現代社会理解特殊講義2	1前		2		○			1					兼10	オムニバス
		現代社会理解特殊講義3	1後		2		○				1				兼1	
		現代社会理解特殊講義4	1前・後		2		○								兼1	
		現代社会理解実践1	1前		2		○								兼2	共同
		現代社会理解実践2	1後		2		○								兼4	オムニバス
		現代社会理解実践3	1前		2		○								兼1	
		国際理解実践1	1後		2		○								兼1	
		国際理解実践2	1後		2		○								兼1	
		国際理解実践3	1後		2		○								兼2	共同
		国際理解特殊講義1	1後		2		○								兼1	
		国際理解特殊講義2	1前・後		2		○								兼2	
		国際理解特殊講義3	1後		2		○								兼1	
		国際理解特殊講義4	1前・後		2		○								兼1	
		国際理解特殊講義5	1後		2		○								兼2	オムニバス
		現代科学理解特殊講義1	1後		2		○								兼1	
		現代科学理解特殊講義2	1後		2		○								兼7	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義1	1後		2		○								兼1	

		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義2	1後		2		○										兼1		
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義3	1前・後		2			○									兼1		
		インターンシップ入門	1前・後		2		○										兼1		
		ピアサポート実践	1前・後		2			○									兼2		
		学習支援実践	1前		2			○									兼1		
		学生生活支援実践	1後		2			○									兼1		
		ビジネスキャリア入門	1前・後		2		○										兼1		
		ドイツの文化	1前・後		2		○										兼1		
		中国の文化	1前・後		2		○										兼1		
		ドイツ語ＩＡａ	1前・後		1			○									兼4		
		ドイツ語ＩＡｂ	1前・後		1			○									兼4		
		ドイツ語ＩＢａ	1前・後		1			○									兼6		
		ドイツ語ＩＢｂ	1前・後		1			○									兼6		
		フランス語ＩＡａ	1前		1			○									兼1		
		フランス語ＩＡｂ	1後		1			○									兼1		
		フランス語ＩＢａ	1前		1			○									兼1		
		フランス語ＩＢｂ	1後		1			○									兼1		
		中国語ＩＡａ	1前		1			○									兼8		
		中国語ＩＡｂ	1後		1			○									兼8		
		中国語ＩＢａ	1前		1			○									兼6		
		中国語ＩＢｂ	1後		1			○									兼6		
		朝鮮・韓国語ＩＡａ	1前		1			○									兼1		
		朝鮮・韓国語ＩＡｂ	1後		1			○									兼1		
		朝鮮・韓国語ＩＢａ	1前		1			○									兼1		
		朝鮮・韓国語ＩＢｂ	1後		1			○									兼1		
		ロシア語ＩＡａ	1前		1			○									兼1		
		ロシア語ＩＡｂ	1後		1			○									兼1		
		ロシア語ＩＢａ	1前		1			○									兼1		
		ロシア語ＩＢｂ	1後		1			○									兼1		
		スペイン語ＩＡａ	1前		1			○									兼1		
		スペイン語ＩＡｂ	1後		1			○									兼1		
		スペイン語ＩＢａ	1前		1			○									兼1		
		スペイン語ＩＢｂ	1後		1			○									兼1		
		ポルトガル語ＩＡａ	1前		1			○									兼2		
		ポルトガル語ＩＡｂ	1後		1			○									兼2		
		ポルトガル語ＩＢａ	1前		1			○									兼2		
		ポルトガル語ＩＢｂ	1後		1			○									兼2		
		フランス語Ⅱ総合ａ	1前		1			○									兼1		
		フランス語Ⅱ総合ｂ	1後		1			○									兼1		
		フランス語Ⅱ演習ａ	1前		1			○									兼1		
		フランス語Ⅱ演習ｂ	1後		1			○									兼1		
		中国語Ⅱ総合ａ	1前		1			○									兼1		

		中国語Ⅱ総合ｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ演習ａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ演習ｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ａａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ａｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ｂａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ｂｂ	1後		1			○							兼1	
		小計（186科目）	－	3	322	0		－		5	10	0	1	0	兼308	
	専攻基礎科目	数学基礎	1前	2			○			1	1				兼3	
		物理学基礎Ⅰ	1前	2			○				1		1		兼2	
		化学基礎Ⅰ	1前	2			○			3					兼2	
		生物学基礎Ⅰ	1前	2			○			4						
		物理学基礎Ⅱ	1後		2		○				1				兼2	
		化学基礎Ⅱ	1後		2		○				1				兼1	
		生物学基礎Ⅱ	1後		2		○			4	2					
		地学基礎	2前		2		○			1						
		化学実験	2前		1				○	3	5		3		兼2	共同
		生物学実験	2前		1				○	3	3		1		兼1	共同
		小計（10科目）	－	8	10	0		－		17	13	0	4	0	兼10	
専門教育科目	学部必修科目	生物資源学総論	1前	2			○			5	8		1			オムニバス
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ体験演習	1通	1				○		3	4		2		兼2	オムニバス・共同
		技術者倫理	3前	2			○								兼1	
		卒業研究	4通	4					○	31	38		13		兼5	
		小計（4科目）	－	9	0	0		－		31	40	0	13	0	兼8	－
	学科選択必修科目	農林環境科学概論	1後		2		○				2		1			オムニバス
		海洋生物学	1後		2		○			2	4		1			オムニバス
		応用生命化学概論	1後		2		○			1	2					オムニバス
		小計（3科目）	－	0	6	0		－		3	8	0	2	0	0	－
	選択科目	入門数学演習	1後		2			○							兼1	
		フードシステムチュートリアル	2通		2				○	2	1					共同
		Science English Ⅰ	2通		2		○								兼1	
		Science English Ⅱ	2・3通		2		○								兼1	
		紀伊黒潮流域圏航海実習	2後		1				○	1			1		兼1	共同
		生物資源学インターンシップ	2・3・4通		1				○	1						
		植物学	2前		2		○			2						オムニバス
		食料・資源経済学	2前		2		○				1					メディア
		農地工学	2前		2		○			1						
		農場・演習林実習	2前		1				○	1	3				兼1	オムニバス・共同
		生理学	2前		2		○			1	2				兼1	オムニバス
		細胞生物科学	2前		2		○								兼2	
		植物保護学	2前		2		○			1	1					オムニバス
		農業生物学実験	2前		1		○			5	5					オムニバス
		農作物生育制御概論	2前		2		○			1					兼1	オムニバス・集中

		フィールドサイエンス農場実習I	2前		1			○	2	2				兼1	オムニバス
		森林微生物機能学	2前		2	○			1						
		木質資源工学	2前		2	○			1						
		FSC演習林実習Ⅰ	2前		1			○	1	1					共同
		環境系数学	2前		2	○				1					
		応用数学	2前		2	○			1						
		国際環境保全学（英語）	2前		2	○			1						
		応用力学Ⅰ	2前		2	○			1						
		農業経済・統計学	2後		2	○				1					
		植物遺伝育種学	2後		2	○			1						
		作物学	2後		2	○				1					
		園芸学	2後		2	○			1						
		動物生産学	2後		2	○			1	1					オムニバス
		植物病理学	2後		2	○			1						
		昆虫学	2後		2	○			1						
		動物飼料学	2後		2	○				1					
		農業経営学	2後		2	○				1					
		食農システム学	2後		2	○			1						
		農業化学実験	2後		1			○		1				兼3	共同
		フィールドサイエンス農場実習II	2後		1			○	1	1				兼1	オムニバス
		フィールドサイエンス農場実習III	2後		1			○	2	1				兼1	オムニバス
		森林・緑環境計画学	2後		2	○				1					
		森林利用・情報学	2後		2	○				1					
		森林化学	2後		2	○			1						
		森林育成学	2後		2	○			1						
		森林生物学実験	2後		1			○	2	1		2			オムニバス
		森林化学実験	2後		1			○	1			1			共同
		FSC演習林実習Ⅱ	3前		1			○		1					
		プログラミング	2後		2	○			1						
		応用力学Ⅱ	2後		2	○			1						
		数値計算法	2後		2	○				1					
		基礎水理学	2後		2	○						1			
		農業情報ネットワーク	2後		2	○						1			
		農林統計学	3前		2	○			2	1					オムニバス
		農学科学英語	3前		2	○				1				兼1	共同
		資源動物学	3前		2	○				1					
		農業・応用経済学	3前		2	○				1					
		森林生態学	3前		2	○			1	1					
		森林科学英語	3前		2	○			4	3		3			共同
		FSC演習林実習Ⅲ	3前		1			○		2					共同
		実践データサイエンス	3前		2	○			1						
		農業工学現場実習	3前		1			○	2						オムニバス

		農学演習Ⅰ	3後		1			○		7	7				兼5	共同
		FSC演習林実習Ⅳ	3後		1				○		1					
		森林科学演習	3後4通		3				○	4	3		3			共同
		フューチャーアース論	3後		2		○			3	3		2			オムニバス
		農学演習Ⅱ	4前		1			○		7	7				兼5	共同
		農学演習Ⅲ	4後		1			○		7	7				兼5	共同
		大気海洋循環学	2前		2		○				1					
		水産学総論	2前		2		○			4	1					オムニバス
		臨海実習	2前		1				○	1	1		1			共同・集中
		乗船実習	2通		1				○				1		兼1	共同・集中
		海洋観測航海実習	2後		1				○				1		兼1	共同・集中
		生物統計学	4前		2		○				1					
		海洋生物比較生理学	2前		2		○				1					
		増殖生態学	2前		2		○			1						
		浮遊生物学	2前		2		○			1						
		藻類学	2前		2		○				1					
		魚類学	2後		2		○				1					
		底生生物学	2後		2		○			1						
		海生哺乳動物学	2後		2		○			1	1					
		海洋個体群動態学	2後		2		○				1					
		海事概論	2後		2		○						1		兼1	オムニバス
		水族発生学	2後		2		○								兼1	
		水産経済学	2後		2		○			1						
		海洋生物資源学演習Ⅰ	3通		2			○		7	11		2			オムニバス・共同
		卒論スタートアップ演習	3後		1			○			2					共同
		海洋科学英語	3後		2		○				1					
		海洋生物資源学演習Ⅱ	4通		2			○		8	10		3		兼1	共同
		有機化学Ⅰ	1後		2		○			1						
		細胞生物学	2前		2		○			1	2					オムニバス
		生命化学概論	2前		1		○			7	13		3		兼1	オムニバス・共同
		分子生物学	2前		2		○			2						オムニバス
		有機化学Ⅱ	2前		2		○								兼1	
		生化学Ⅰ	2前		2		○			1	1					オムニバス
		微生物学	2前		2		○			1						
		物理化学	2前		2		○								兼1	
		生物物理化学	2前		2		○				1					
		生化学Ⅱ	2後		2		○				1					
		分析化学	2後		2		○				1					
		食品化学	2後		2		○				1					
		創薬化学	2後		2		○				1					
		生物化学工学	2後		2		○			1						
		生命機能化学実験Ⅰ	2後		2				○	2	2		1		兼1	オムニバス・共同

		水圏生物化学	2後		2		○			1					
		遺伝子工学	2後		2		○			1					
		水産食品衛生学	2後		2		○							兼1	
		微生物利用学	2後		2		○			1					
		海洋生命化学実験Ⅰ	2後		1				○		1		1		オムニバス
		海洋生命化学実験Ⅱ	2後		1				○	1				兼1	オムニバス
		バイオインフォマティクス	3前		2		○			1					
		微生物遺伝学	3前		2		○			1					
		栄養化学	3前		2		○				1				
		発酵生理学	3前		2		○				1				
		生命機能化学実験Ⅱ	3前		3				○	1	6		1		オムニバス・共同
		生命機能化学概論	3前		1		○			3	10		2	兼1	オムニバス・共同
		海洋資源微生物学	3前		2		○				1				
		水産食品化学	3前		2		○				1				
		生物物性学	3前		2		○							兼1	
		海洋天然物化学	3前		2		○							兼1	
		脂質化学	3前		2		○				1				
		海洋生命化学実験Ⅲ	3前		1				○	1	1				オムニバス
		マリンフードプロセス実習	3前		1				○	1	1				共同
		海洋生命化学実習	3前		1				○		2				オムニバス
		海洋生命化学概論	3前		1		○			4	4		1		オムニバス・共同
		生命化学英語	3後		2		○				1			兼1	共同
		海洋生命化学演習Ⅰ	3後		2			○		4	4		1		共同
		生物機能化学	3後		2		○				1				
		生命機能化学演習Ⅰ	3後		2			○		3	10		2	兼1	共同
		生命機能化学演習Ⅱ	4通		2			○		3	10		2	兼1	共同
		海洋生命化学演習Ⅱ	4通		2			○		4	4		1		共同
		花卉園芸学	3前		2		○							兼1	隔年
		農業生産工程管理学概論	3前		2		○				1			兼1	オムニバス
		水利施設工学	2後		2		○			1					
		測量学	2後		2		○				1				
		地質学	2後		2		○			1					
		持続可能な地域づくり学	2後		2		○			1					
		土壌物理学	2後		2		○				1				
		土壌物理学実験	2後		1				○	1	1				共同
		測量学実習	2後		1				○		1		1		共同
		力学基礎Ⅰ	2後		2		○						1		
		熱力学	2後		2		○						1		
		電気・電子工学	2後		2		○			1					
		農業食料工学実習	2後		1				○	2			3	兼1	オムニバス・共同
		環境情報システム工学実習Ⅰ	2後		1				○	2			3	兼1	オムニバス・共同
		分子細胞生物科学	3前		2		○							兼1	

		作物学各論	3前		2		○				1					
		園芸植物生理学	3後		2		○			1						
		動物機能学	3前		2		○			1	1					オムニバス
		基礎経営学	3前		2		○				1					
		簿記会計演習Ⅰ	3前		2			○							兼1	
		森林・緑環境評価学	3前		2		○				2					オムニバス
		森林政策学	3前		2		○								兼1	
		植物材料化学	3前		2		○			1						
		木質材料学	3前		2		○			1						
		森林生態学実習	3前		1				○	1	1					オムニバス
		森林利用・情報学演習	3前		2			○			1					
		植物微生物学実験	3前		1				○	1			1			共同
		森林物理学実験	3前		1				○	1			1			オムニバス
		植物成分化学実験	3前		1				○	1			1			共同
		FSC演習林実習Ⅴ	3前		1				○		2					共同
		鉄筋コンクリート工学	3前		2		○			1						
		基礎土質力学	3前		2		○			1						
		水理学	3前		2		○						1			
		水文・農業気象学	3前		2		○			1						
		実践農業工学	3前		2		○			1						
		測量応用実習	3前		1				○		1		1			共同
		コンクリート・土質実験	3通		1				○				1			
		力学基礎Ⅱ	3前		2		○						1			
		制御工学	3前		2		○			1						
		メカトロニクス実践	3前		2		○			1						
		設計製図学Ⅰ	3前		2		○						1			
		ベンチャー企業論	3前		2		○			1					兼1	隔年・共同
		食料生産システム学	3前		2		○								兼1	
		環境情報システム工学実習Ⅱ	3前		1				○	2			3		兼1	オムニバス・共同
		簿記会計演習Ⅱ	3後		2			○							兼1	
		バイオマス化学	3後		2		○			1						
		かんがい排水学	3後		2		○				1					
		土質力学	3後		2		○			1						
		農村計画学	3後		2		○				1					
		地球環境リモートセンシング	3後		2		○								兼1	
		土壌圏物質移動論	3後		2		○								兼1	
		農業工学キャリアアップ演習	3後		2		○			1						
		水理実験	3通		1				○		1		1			オムニバス
		農村ワークショップ運営実習	3後		1				○		1				兼1	オムニバス
		CAD実習	3後		1				○				1			
		材料・加工学	3後		2		○								兼1	
		設計製図学Ⅱ	3後		2		○						1			

		設計製図学演習	3後		2		○						1				
		生物情報工学	3後		2		○			2						オムニバス	
		電子計測学	3後		2		○								兼1	隔年	
		エネルギー利用学	3後		2		○								兼1		
		農業食料工学実験	3後		1			○		2			3		兼1	オムニバス・共同	
		将来気候予測論	2前		2		○								兼1		
		フィールド科学技術実習	2前		1			○		1	1		1			共同	
		資源生物学実験	2後		1			○		1			1			共同	
		海洋動物学実験	3前		1			○		1	1					共同	
		海洋植物学実験	3前		1			○		1	1					オムニバス	
		海洋生物生理学実習	3前		1			○			1						
		海洋情報学実習	3後		1			○		1	1		1			共同	
		海洋気象数値解析演習	2後		1		○				1						
		漁業生産学	3前		2		○				1						
		魚類増殖学	3前		2		○				1						
		栽培漁業学	3前		2		○			1							
		水族病理学	3前		2		○			1							
		養殖学	3前		2		○			2					兼1	オムニバス	
		繁殖生理学	3前		2		○			1	1					オムニバス	
		大気海洋科学	3前		2		○				1						
		水圏環境生物学	3前		2		○								兼1	集中	
		水族病理学実験	3前		1			○		1							
		魚類種苗育成学実習	3前		1			○			1					集中	
		藻類学実習	3前		1			○			1					集中	
		浅海増殖学実習	3前		1			○		1						集中	
		生物海洋学実習	3前		1			○		1						集中	
		総合航海実習	3前		2			○					1		兼1	共同・集中	
		水産情報利用学	3後		2		○				1						
		海洋気象学	3後		2		○				1						
		動物分類学	3後		2		○			1							
		海洋生物感覚生理学	3後		2		○				1						
		水産物流通論	3後		2		○			1							
		魚類種苗生産学実習	3後		1			○			2					共同・集中	
		水産物流通調査実習	3後		1			○		1						集中	
		海洋生態学実習	3後		1			○		1						集中	
		漁業生産学実習	3後		1			○			1					集中	
		海洋科学実習	3後		1			○			1					集中	
		大気海洋循環学実習	3後		1			○			1					集中	
		海生哺乳動物学実習	3後		1			○			2					共同・集中	
		無機化学	2前		2		○				1						
		生物無機化学	2後		2		○								兼1		
		環境化学概論	2後		2		○								兼1		

		食品衛生学	2後		2		○				1					
		土壌学	2後		2		○				1					
		生体代謝化学	3前		2		○				1					
		食品工学	3前		2		○			1						
		植物栄養学	3前		2		○				1					
		食品安全化学	2・3後		2		○								兼1	隔年
		生物プロセス工学	3後		2		○								兼1	
		生命機能化学実習	3後		1				○		1					
		公衆衛生学	4前		2		○								兼1	
		小計（234科目）	－	0	404	0	－			32	41	0	13	0	兼34	
	自由科目	実践英語演習	3前			1				1						
		職業指導Ⅰ	2後			2	○								兼1	
		職業指導Ⅱ	2後			2	○								兼1	
		小計（3科目）	－	0	0	5	－			1	0	0	0	0	兼1	－
合計（447科目）			－	33	742	5	－			32	41	0	13	0	兼363	－

学位又は称号	学士（生物資源学）	学位又は学科の分野	農学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
共通教育科目の大学基礎科目13単位、教養基礎科目から必修3単位を含む13単位以上、専攻基礎科目から必修8単位を含む12単位以上と、専門教育科目の学部必修科目9単位，専門教育科目の学科選択必修科目から4単位以上，選択科目から各コースの定める選択必修科目を含む63単位以上を修得し，125単位以上修得すること。（履修科目の登録の上限：26単位（半期））	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

（別添２－２）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要　（　事　前　伺　い　）

（ 生物資源学部　資源循環学科　農業生物学教育コース）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	大学基礎科目	スタートアップセミナー	スタートアップＰＢＬセミナー	1前	2			○								兼4	共同（一部）
			小計（1科目）	－	2	0	0	－								兼4	
		キャリア教育	キャリア教育入門	1後	2			○				2				兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
			小計（1科目）	－	2	0	0	－				2				兼1	
		外国語（英語）	英語Ｉ大学基礎	1前・後	2				○							兼9	
			英語Ｉコミュニケーション	1前・後	2				○							兼11	
			小計（2科目）	－	4	0	0	－								兼13	
		データサイエンス	データサイエンスⅠ	1前	2			○			1			1		兼9	共同（一部）
			データサイエンスⅡ	1後	2			○				2		1		兼6	共同（一部）
			小計（2科目）	－	4	0	0	－			1	2	0	2	0	兼13	
		スポーツ健康科学	スポーツ健康科学Ａ	1前	1					○						兼6	
			小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼6	
	教養基礎科目（副専攻科目）		英語ＩＴＯＥＩＣ	1前・後	2				○							兼14	
			英語Ｉ初級ＴＯＥＩＣ	1前・後		2			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ａａ	1前・後		1			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ａｂ	1後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｂ	1前・後		1			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ｃ	1前・後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｄ	1前・後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｅ	1前・後		1			○							兼1	
			スポーツ健康科学Ｂ	1後	1					○						兼5	
			スポーツ健康科学概論	1前		2		○								兼3	共同
			ＰＢＬアカデミック・ライティング	1前・後		2		○								兼4	
			哲学Ｆ	1前・後		2		○								兼1	
			哲学Ｇ	1前・後		2		○								兼1	
			哲学Ｉ	1前・後		2		○								兼1	
			倫理学Ａ	1前		2		○								兼1	
			倫理学Ｂ	1後		2		○								兼1	
			倫理学Ｆ	1前		2		○								兼1	
			倫理学Ｇ	1後		2		○								兼1	
			倫理学Ｈ	1後		2		○								兼1	
			倫理学Ｉ	1前・後		2		○								兼1	
			宗教学Ｂ	1前		2		○								兼1	
			宗教学Ｃ	1後		2			○							兼1	
			宗教学Ｄ	1前		2		○								兼1	

		日本考古学Ｂ	1後	2			○							兼1	
		日本史Ａ	1前	2		○								兼1	
		日本史Ｂ	1前・後	2		○								兼1	
		日本史Ｃ	1前	2		○								兼1	
		日本文化論Ｂ	1前	2		○								兼1	
		西洋史Ａ	1後	2		○								兼1	
		西洋史Ｂ	1前・後	2		○								兼1	
		西洋史Ｃ	1後	2			○							兼1	
		東洋史Ａ	1前・後	2		○								兼1	
		東洋文化史	1前・後	2		○								兼1	
		演劇入門	1前	2		○								兼8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		日本文学Ａ	1前・後	2		○								兼1	
		日本文学Ｂ	1前	2		○								兼1	
		日本文学Ｃ	1前・後	2		○								兼1	
		日本語学Ａ	1前	2		○								兼1	
		日本語学Ｂ	1後	2		○								兼1	
		比較政治文化	1前・後	2			○							兼1	
		比較文化論	1前・後	2			○							兼1	
		こころのサポート	1前・後	2		○								兼3	
		心理学Ａ	1前・後	2		○								兼3	
		心理学Ｆ	1前・後	2		○								兼2	
		日本国憲法	1前・後	2		○								兼4	
		法学Ａ	1前	2		○								兼1	
		法学Ｂ	1前	2		○								兼1	
		法学Ｃ	1後	2		○								兼2	
		法学Ｇ	1前	2		○								兼1	
		社会学Ａ	1前・後	2		○								兼4	
		社会学Ｂ	1前・後	2		○								兼2	
		文化人類学Ａ	1前・後	2		○								兼2	
		文化人類学Ｂ	1前	2		○								兼1	
		政治学Ａ	1前	2		○								兼2	
		政治学Ｂ	1前	2		○								兼1	
		政治学Ｇ	1前・後	2		○								兼3	
		ＰＢＬ政治学1	1前・後	2		○								兼1	
		ＰＢＬ政治学2	1前・後	2		○								兼1	
		経済学Ａ	1後	2		○								兼1	
		経済学Ｆ	1前	2		○								兼2	
		経済学Ｇ	1前・後	2		○			1					兼5	
		人文地理学Ａ	1前	2		○								兼2	
		人文地理学Ｂ	1前・後	2		○								兼1	
		人文地理学Ｃ	1後	2		○								兼1	
		文化と空間Ａ	1前・後	2		○								兼1	
		文化と空間Ｂ	1前	2			○							兼1	
		文化と空間Ｃ	1前	2		○								兼1	
		日本学	1後	2		○								兼1	
		三重学1	1前・後	2		○								兼1	
		地域学	1後	2		○								兼1	
		情報科学Ａ	1後	2		○								兼1	
		情報科学Ｂ	1前	2		○								兼1	
		情報科学Ｃ	1後	2		○								兼1	
		データサイエンスⅢ	1後	2		○								兼1	
		数理科学Ａ	1前	2		○								兼1	
		数理科学Ｂ	1後	2		○								兼1	

		数理科学D	1前		2		○							兼1	
		数理科学F	1前・後		2		○							兼1	
		数理科学G	1後		2		○							兼1	
		数理科学H	1前・後		2		○							兼1	
		物理学1	1後		2		○							兼1	
		物理学2	1前・後		2		○							兼1	
		化学Ａ	1前・後		2		○							兼14	オムニバス
		化学Ｂ	1後		2		○							兼3	オムニバス(一部)
		生物学1	1前・後		2		○							兼1	
		生物学2	1後		2		○							兼1	
		生物学3	1前		2		○							兼4	オムニバス
		生物学4	1後		2		○							兼1	
		入門生物学	1前		2		○							兼1	
		自然科学概論1	1後		2		○							兼1	
		自然科学概論2	1前		2		○							兼6	オムニバス
		自然科学概論3	1前		2			○		2					共同
		ＰＢＬ自然科学概論	1前		2		○							兼1	
		医学医療Ａ1	1前		2		○							兼1	
		医学医療Ａ2	1後		2		○							兼15	オムニバス
		医学医療Ｂ1	1後		2		○							兼1	
		医学医療Ｂ2	1前・後		2		○							兼22	オムニバス
		医学医療Ｃ1	1前・後		2		○							兼9	オムニバス(一部)
		医学医療Ｃ2	1前		2		○							兼12	オムニバス(一部)
		医学医療Ｄ	1後		2		○							兼14	オムニバス
		医学医療入門	1前		2		○							兼16	オムニバス
		国際保健と地域医療	1後		2		○							兼8	オムニバス
		ＰＢＬ医学・看護学	1前・後		2		○							兼1	
		環境学Ａ	1前・後		2		○			1				兼6	オムニバス(一部)
		環境学Ｆ	1前		2		○							兼2	オムニバス
		環境地理学Ａ	1前		2		○							兼1	
		環境地理学Ｂ	1後		2		○							兼1	
		環境地理学Ｃ	1前・後		2		○							兼1	
		環境科学1	1前・後		2		○							兼3	共同(一部)
		環境科学2	1前		2		○							兼7	オムニバス(一部)
		生物資源学Ａ	1前・後		2		○				1			兼1	オムニバス
		生物資源学Ｂ	1前・後		2		○			1	2				オムニバス(一部)
		地域防災論	1後		2		○							兼11	オムニバス
		防災論	1前		2		○							兼13	オムニバス(一部)
		音楽文化論	1後		2		○							兼1	
		日本理解特殊講義1	1前		2		○							兼2	
		日本理解特殊講義2	1前		2		○							兼8	オムニバス
		日本理解特殊講義4	1前・後		2		○							兼7	オムニバス
		日本理解特殊講義5	1前・後		2		○							兼2	
		現代社会理解特殊講義1	1前・後		2		○			2				兼2	オムニバス
		現代社会理解特殊講義2	1前		2		○							兼11	オムニバス
		現代社会理解特殊講義3	1後		2		○							兼2	
		現代社会理解特殊講義4	1前・後		2		○							兼1	
		現代社会理解実践1	1前		2		○							兼2	共同
		現代社会理解実践2	1後		2		○							兼4	オムニバス
		現代社会理解実践3	1前		2		○							兼1	
		国際理解実践1	1後		2		○							兼1	
		国際理解実践2	1後		2		○							兼1	
		国際理解実践3	1後		2		○							兼2	共同

		国際理解特殊講義1	1後		2		○							兼1	
		国際理解特殊講義2	1前・後		2		○							兼2	
		国際理解特殊講義3	1後		2		○							兼1	
		国際理解特殊講義4	1前・後		2		○							兼1	
		国際理解特殊講義5	1後		2		○			1				兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		現代科学理解特殊講義1	1後		2		○							兼1	
		現代科学理解特殊講義2	1後		2		○							兼7	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義1	1後		2		○							兼1	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義2	1後		2		○							兼1	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義3	1前・後		2			○						兼1	
		インターンシップ入門	1前・後		2		○							兼1	
		ピアサポート実践	1前・後		2			○						兼2	
		学習支援実践	1前		2			○						兼1	
		学生生活支援実践	1後		2			○						兼1	
		ビジネスキャリア入門	1前・後		2		○							兼1	
		ドイツの文化	1前・後		2		○							兼1	
		中国の文化	1前・後		2		○							兼1	
		ドイツ語ＩＡａ	1前・後		1			○						兼4	
		ドイツ語ＩＡｂ	1前・後		1			○						兼4	
		ドイツ語ＩＢａ	1前・後		1			○						兼6	
		ドイツ語ＩＢｂ	1前・後		1			○						兼6	
		フランス語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		フランス語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		フランス語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		フランス語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		中国語ＩＡａ	1前		1			○						兼8	
		中国語ＩＡｂ	1後		1			○						兼8	
		中国語ＩＢａ	1前		1			○						兼6	
		中国語ＩＢｂ	1後		1			○						兼6	
		朝鮮・韓国語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		朝鮮・韓国語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		朝鮮・韓国語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		朝鮮・韓国語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		ポルトガル語ＩＡａ	1前		1			○						兼2	
		ポルトガル語ＩＡｂ	1後		1			○						兼2	
		ポルトガル語ＩＢａ	1前		1			○						兼2	
		ポルトガル語ＩＢｂ	1後		1			○						兼2	
		フランス語Ⅱ総合ａ	1前		1			○						兼1	
		フランス語Ⅱ総合ｂ	1後		1			○						兼1	
		フランス語Ⅱ演習ａ	1前		1			○						兼1	
		フランス語Ⅱ演習ｂ	1後		1			○						兼1	
		中国語Ⅱ総合ａ	1前		1			○						兼1	
		中国語Ⅱ総合ｂ	1後		1			○						兼1	
		中国語Ⅱ演習ａ	1前		1			○						兼1	
		中国語Ⅱ演習ｂ	1後		1			○						兼1	

		中国語Ⅲ応用Ａａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ａｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ｂａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ｂｂ	1後		1			○							兼1	
		小計（186科目）	－	3	322	0		－		5	5	0	0	0	兼314	
	専攻基礎科目	数学基礎	1前	2			○								兼5	
		物理学基礎Ⅰ	1前	2			○								兼4	
		物理学基礎Ⅱ	1後		2		○								兼3	
		化学基礎Ⅰ	1前	2			○								兼4	
		化学基礎Ⅱ	1後		2		○								兼2	
		化学実験	2前		1				○						兼13	共同
		生物学基礎Ⅰ	1前	2			○			4						共同
		生物学基礎Ⅱ	1後		2		○			2	1				兼3	共同
		生物学実験	2前		1				○						兼8	共同
		地学基礎	2前		2		○								兼1	
		小計（10科目）	－	8	10	0		－		6	1	0	0	0	兼39	
専門教育科目	学部必修科目	生物資源学総論	1前	2			○			3					兼11	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ体験演習	1通	1				○		2	2				兼7	集中
		技術者倫理	3前	2			○								兼1	
		卒業研究	4通	4				○		16	13		3		兼2	
		小計（4科目）	－	9	0	0		－		16	13	0	3	0	兼21	－
	学科必修科目	生理学	1後	2			○			1					兼3	
		国際農業開発学	1後	2			○			1	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		食料・資源経済学Ⅰ	1後	2			○				1					
		農林学総論	1後	2			○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		細胞生物科学	2前	2			○			1					兼2	
		農林統計学	3前	2			○			2	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		資源循環学演習	3・4前・後	4				○		8	5				兼3	
		小計（7科目）	－	16	0	0		－		12	8	0	0	0	兼5	－
	教育コース必修科目	土壌学	2前	2			○				1					
		植物学	2前	2			○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		遺伝学	2前	2			○			1						
		植物保護学	2前	2			○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		作物学	2前	2			○			1						
		園芸学	2前	2			○			1						
		動物生産学	2前	2			○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		草地・飼料生産学	2前	2			○				1					
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ農場実習Ⅰ	2前	1					○	4	1				兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ農場実習Ⅱ	2前	1					○	3	1				兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		農業生物学実験	2前	1					○	5	4				兼2	
		植物育種学	2後	2			○			1						
		農業化学実験	2後	1					○	7	3		1		兼3	
		植物病理学	2後	2			○			1						
		昆虫学	2後	2			○			1						
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ農場実習Ⅲ	2後	1					○	2	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ農場実習Ⅳ	2後	1					○	3	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		農林生物学英語	3前	2			○				1				兼1	
		小計（18科目）	－	30	0	0		－		14	14	0	1	0	兼8	－
	選択科目	入門数学演習	1後		2			○							兼1	
		Science EnglishⅠ	2前・後		2		○								兼1	
		Science EnglishⅡ	2・3前・後		2		○								兼1	
		紀伊黒潮流域圏航海実習	2後		1				○						兼3	集中
		生物資源学インターンシップ	2・3・4休		1				○	1						
		農作物生育制御概論	2前		2		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		農業生産工程管理学概論	2前		2		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		花卉園芸学	2・3前・後		2		○								兼1	
		農業生物学特別講義Ⅰ	2・3前・後		1		○								兼1	
		農業生物学特別講義Ⅱ	2・3前・後		1		○								兼1	
		分子細胞生物学	2後		2		○			1					兼1	
		食用作物学	2後		2		○				1					
		園芸植物生理学	2後		2		○			1						
		動物機能学	2後		2		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		工芸作物学	3前		2		○			1	1					
		農業科学実験演習	3前・後		4			○	○	9	4				兼3	
		Presentation Method	1～4前・後		2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		Plant Science and Agro-ecology	1～4前・後		2		○								兼1	
		Introduction to Global Food Security	1～4前・後		2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ

		農業経済学	２前		2		○				1						
		植物生態生理学	２前		2		○			1							
		農業経営学	２前		2		○				1						
		無機化学	２前		2		○				1						
		森林微生物機能学	２前		2		○			1							
		森林流域保全学	２前		2		○			1							
		測量学	２前		2		○			1							
		森林利用・情報学	２前		2		○			1	1						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		森林化学	２前		2		○			1							
		木質資源工学	２前		2		○			1							
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ演習林実習Ⅰ	２前		1				○	1	1						
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ演習林実習Ⅱ	２前		1				○		1						
		測量学実習	２前		1				○	1	1						
		資源植物学	２前		2		○			1							
		草地生産生態学	２前		2		○				1						
		グローカル資源利用学チュートリアル	２前・後		2			○		1	1						
		地域計画学	２・３前・後		2		○								兼１		
		植物素材化学	２・３前・後		2		○			1							
		樹木生理化学	２・３前・後		2		○			1							
		資源動物学	２後		2		○				1						
		植物栄養学	２後		2		○				1						
		森林・緑環境計画学	２後		2		○			1	2						
		森林育成学	２後		2		○			1							
		生物地球化学	２後		2		○				1						
		森林生物学実験	２後		1				○	2	1		2				
		森林化学実験	２後		1				○	1			1				
		フードシステム論	２後		2		○			1							
		森林生態学	３前		2		○				1						
		木質材料学	３前		2		○			1							
		植物材料化学	３前		2		○			1							
		森林・緑環境評価学	３前		2		○			1	2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		森林利用システム学	３前		2		○			1							
		森林物理学実験	３前		1				○	1			1				
		森林利用・情報学実習Ⅰ	３前		1				○	1							
		森林生態学実習	３前		1				○	1	1						
		植物成分化学実験	３前		1				○	1			1				
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ演習林実習Ⅴ	３前		1				○	1	1						
		植物微生物学実験	３前		1				○	1			1				
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ演習林実習Ⅳ	３前		1				○		2						
		水産経済学	３前		2		○			1							
		食料・資源経済学Ⅱ	３前		2		○				1						
		簿記会計演習Ⅰ	３前		2			○							兼1		
		マーケティング論	３前		2		○				1				兼1		
		保全砂防学	３前		2		○			1							
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ演習林実習Ⅵ	３前		1				○		2						
		社会調査演習	３前・後		4			○		2	3						
		地域社会論	３後		2		○				1						
		基礎経営学	３後		2		○				1						
		森林情報学	３後		2		○				1						
		治水砂防・森林保全学	３後		2		○			1	1						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		森林計画学演習	３後		2			○		1							
		土壌学実験	３後		1				○		1						
		森林流域保全学実習	３後		1				○	1	1						
		森林利用・情報学実習Ⅱ	３後		1				○		1						
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ演習林実習Ⅲ	３後		1				○	1	1						
		簿記会計演習Ⅱ	３後		2			○							兼1		
		森林政策学	３前・後		2		○								兼1		集中
		一般物理学	２・３前・後		2		○								兼7		ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		一般生物学	２・３前・後		2		○			7	1						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生態圏循環学	１後		2		○								兼3		
		有機化学Ⅰ	1後		2		○								兼1		
		環境保全生態学	２前		2		○			1	1						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		微生物学	２前		2		○								兼3		ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		有機化学Ⅱ	２前		2		○								兼1		
		生化学Ⅰ	２前		2		○								兼2		
		水産学総論	２前		2		○			1					兼5		ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		景観生態学	２後		2		○								兼1		
		国際環境保全学（英語）	２後		2		○								兼1		
		生化学Ⅱ	２後		2		○								兼2		
		食品化学	２後		2		○								兼1		
		微生物利用学	２後		2		○			2					兼2		ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物化学工学	２後		2		○			1					兼1		
		遺伝子工学	２後		2		○			1					兼1		

		食品衛生学	２後		2		○								兼1	
		創薬化学	２後		2		○								兼1	
		海洋個体群動態学	２後		2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		微生物遺伝学	３前		2		○								兼1	
		栄養化学	３前		2		○								兼1	
		バイオインフォマティクス	３前		2		○								兼1	
		海洋資源微生物学	３前		2		○								兼1	
		漁業生産学	３前		2		○								兼1	
		栽培漁業学	３前		2		○								兼1	
		フューチャー・アース学	３後		2		○								兼1	
		農村計画学	３後		2		○								兼1	
		食料生産システム学	３後		2		○								兼1	
		食品安全化学	２・３前・後		2		○								兼1	
		分子生態学	３後		2		○								兼1	
		小計（106科目）	－	0	195	0	－			16	13	0	3	0	兼63	－
	自由科目	職業指導Ⅰ	２・３・４後		2		○								兼1	
		小計（１科目）	－	0	2	0	－			0	0	0	0	0	兼1	－
合計（339科目）			－	79	529	0	－			16	15	0	3	0	兼442	－

学位又は称号	学士（生物資源学）	学位又は学科の分野	農学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
共通教育科目から40単位以上、専門教育科目から85単位以上、合計125単位以上を修得する。 ※教養教育科目 全学必修科目：4単位、外国語教育：6単位、異文化理解：4単位、健康科学：2単位、基礎教育：14単位、地域理解・日本理解：2単位、国際理解・現代社会理解：4単位、現代科学理解：2単位、地域理解・日本理解又は国際理解・現代社会理解から：2単位 ※専門教育科目 学部必修科目：9単位、学科必修科目：16単位、教育コース必修科目：30単位、選択科目：22単位以上、自由科目：8単位以上	１学年の学期区分	２学期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業時間	９０分

（別添２－２）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要　（　事　前　伺　い　）

（ 生物資源学部　資源循環学科　森林資源環境学教育コース）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	大学基礎科目	スタートアップセミナー	スタートアップＰＢＬセミナー	1前	2			○								兼4	共同（一部）
			小計（1科目）	－	2	0	0	－								兼4	
		キャリア教育	キャリア教育入門	1後	2			○				2				兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
			小計（1科目）	－	2	0	0	－				2				兼1	
		外国語（英語）	英語Ｉ大学基礎	1前・後	2				○							兼9	
			英語Ｉコミュニケーション	1前・後	2				○							兼11	
			小計（2科目）	－	4	0	0	－								兼13	
		データサイエンス	データサイエンスⅠ	1前	2			○			1			1		兼9	共同（一部）
			データサイエンスⅡ	1後	2			○				2		1		兼6	共同（一部）
			小計（2科目）	－	4	0	0	－			1	2	0	2	0	兼13	
		スポーツ健康科学	スポーツ健康科学Ａ	1前	1					○						兼6	
			小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼6	
	教養基礎科目（副専攻科目）		英語ＩＴＯＥＩＣ	1前・後	2				○							兼14	
			英語Ｉ初級ＴＯＥＩＣ	1前・後		2			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ａａ	1前・後		1			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ａｂ	1後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｂ	1前・後		1			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ｃ	1前・後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｄ	1前・後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｅ	1前・後		1			○							兼1	
			スポーツ健康科学Ｂ	1後	1					○						兼5	
			スポーツ健康科学概論	1前		2		○								兼3	共同
			ＰＢＬアカデミック・ライティング	1前・後		2		○								兼4	
			哲学Ｆ	1前・後		2		○								兼1	
			哲学Ｇ	1前・後		2		○								兼1	
			哲学Ｉ	1前・後		2		○								兼1	
			倫理学Ａ	1前		2		○								兼1	
			倫理学Ｂ	1後		2		○								兼1	
			倫理学Ｆ	1前		2		○								兼1	
			倫理学Ｇ	1後		2		○								兼1	
			倫理学Ｈ	1後		2		○								兼1	
			倫理学Ｉ	1前・後		2		○								兼1	
			宗教学Ｂ	1前		2		○								兼1	

		宗教学C	1後		2			○							兼1	
		宗教学D	1前		2		○								兼1	
		日本考古学B	1後		2			○							兼1	
		日本史A	1前		2		○								兼1	
		日本史B	1前・後		2		○								兼1	
		日本史C	1前		2		○								兼1	
		日本文化論B	1前		2		○								兼1	
		西洋史A	1後		2		○								兼1	
		西洋史B	1前・後		2		○								兼1	
		西洋史C	1後		2			○							兼1	
		東洋史A	1前・後		2		○								兼1	
		東洋文化史	1前・後		2		○								兼1	
		演劇入門	1前		2		○								兼8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		日本文学A	1前・後		2		○								兼1	
		日本文学B	1前		2		○								兼1	
		日本文学C	1前・後		2		○								兼1	
		日本語学A	1前		2		○								兼1	
		日本語学B	1後		2		○								兼1	
		比較政治文化	1前・後		2			○							兼1	
		比較文化論	1前・後		2			○							兼1	
		こころのサポート	1前・後		2		○								兼3	
		心理学A	1前・後		2		○								兼3	
		心理学F	1前・後		2		○								兼2	
		日本国憲法	1前・後		2		○								兼4	
		法学A	1前		2		○								兼1	
		法学B	1前		2		○								兼1	
		法学C	1後		2		○								兼2	
		法学G	1前		2		○								兼1	
		社会学A	1前・後		2		○								兼4	
		社会学B	1前・後		2		○								兼2	
		文化人類学A	1前・後		2		○								兼2	
		文化人類学B	1前		2		○								兼1	
		政治学A	1前		2		○								兼2	
		政治学B	1前		2		○								兼1	
		政治学G	1前・後		2		○								兼3	
		ＰＢＬ政治学1	1前・後		2		○								兼1	
		ＰＢＬ政治学2	1前・後		2		○								兼1	
		経済学A	1後		2		○								兼1	
		経済学F	1前		2		○								兼2	
		経済学G	1前・後		2		○			1					兼5	
		人文地理学A	1前		2		○								兼2	
		人文地理学B	1前・後		2		○								兼1	
		人文地理学C	1後		2		○								兼1	
		文化と空間A	1前・後		2		○								兼1	
		文化と空間B	1前		2			○							兼1	
		文化と空間C	1前		2		○								兼1	
		日本学	1後		2		○								兼1	
		三重学1	1前・後		2		○								兼1	
		地域学	1後		2		○								兼1	
		情報科学A	1後		2		○								兼1	
		情報科学B	1前		2		○								兼1	

		情報科学C	1後		2		○							兼1	
		データサイエンスⅢ	1後		2		○							兼1	
		数理科学A	1前		2		○							兼1	
		数理科学B	1後		2		○							兼1	
		数理科学D	1前		2		○							兼1	
		数理科学F	1前・後		2		○							兼1	
		数理科学G	1後		2		○							兼1	
		数理科学H	1前・後		2		○							兼1	
		物理学1	1後		2		○							兼1	
		物理学2	1前・後		2		○							兼1	
		化学A	1前・後		2		○							兼14	オムニバス
		化学B	1後		2		○							兼3	オムニバス(一部)
		生物学1	1前・後		2		○							兼1	
		生物学2	1後		2		○							兼1	
		生物学3	1前		2		○							兼4	オムニバス
		生物学4	1後		2		○							兼1	
		入門生物学	1前		2		○							兼1	
		自然科学概論1	1後		2		○							兼1	
		自然科学概論2	1前		2		○							兼6	オムニバス
		自然科学概論3	1前		2			○		2					共同
		ＰＢＬ自然科学概論	1前		2		○							兼1	
		医学医療A1	1前		2		○							兼1	
		医学医療A2	1後		2		○							兼15	オムニバス
		医学医療B1	1後		2		○							兼1	
		医学医療B2	1前・後		2		○							兼22	オムニバス
		医学医療C1	1前・後		2		○							兼9	オムニバス(一部)
		医学医療C2	1前		2		○							兼12	オムニバス(一部)
		医学医療D	1後		2		○							兼14	オムニバス
		医学医療入門	1前		2		○							兼16	オムニバス
		国際保健と地域医療	1後		2		○							兼8	オムニバス
		ＰＢＬ医学・看護学	1前・後		2		○							兼1	
		環境学A	1前・後		2		○			1				兼6	オムニバス(一部)
		環境学F	1前		2		○							兼2	オムニバス
		環境地理学A	1前		2		○							兼1	
		環境地理学B	1後		2		○							兼1	
		環境地理学C	1前・後		2		○							兼1	
		環境科学1	1前・後		2		○							兼3	共同(一部)
		環境科学2	1前		2		○							兼7	オムニバス(一部)
		生物資源学A	1前・後		2		○				1			兼1	オムニバス
		生物資源学B	1前・後		2		○			1	2				オムニバス(一部)
		地域防災論	1後		2		○							兼11	オムニバス
		防災論	1前		2		○							兼13	オムニバス(一部)
		音楽文化論	1後		2		○							兼1	
		日本理解特殊講義1	1前		2		○							兼2	
		日本理解特殊講義2	1前		2		○							兼8	オムニバス
		日本理解特殊講義4	1前・後		2		○							兼7	オムニバス
		日本理解特殊講義5	1前・後		2		○							兼2	
		現代社会理解特殊講義1	1前・後		2		○			2				兼2	オムニバス
		現代社会理解特殊講義2	1前		2		○							兼11	オムニバス
		現代社会理解特殊講義3	1後		2		○							兼2	
		現代社会理解特殊講義4	1前・後		2		○							兼1	

		現代社会理解実践1	1前		2		○							兼2	共同
		現代社会理解実践2	1後		2		○							兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		現代社会理解実践3	1前		2		○							兼1	
		国際理解実践1	1後		2		○							兼1	
		国際理解実践2	1後		2		○							兼1	
		国際理解実践3	1後		2		○							兼2	共同
		国際理解特殊講義1	1後		2		○							兼1	
		国際理解特殊講義2	1前・後		2		○							兼2	
		国際理解特殊講義3	1後		2		○							兼1	
		国際理解特殊講義4	1前・後		2		○							兼1	
		国際理解特殊講義5	1後		2		○			1				兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		現代科学理解特殊講義1	1後		2		○							兼1	
		現代科学理解特殊講義2	1後		2		○							兼7	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義1	1後		2		○							兼1	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義2	1後		2		○							兼1	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義3	1前・後		2			○						兼1	
		インターンシップ入門	1前・後		2		○							兼1	
		ピアサポート実践	1前・後		2			○						兼2	
		学習支援実践	1前		2			○						兼1	
		学生生活支援実践	1後		2			○						兼1	
		ビジネスキャリア入門	1前・後		2		○							兼1	
		ドイツの文化	1前・後		2		○							兼1	
		中国の文化	1前・後		2		○							兼1	
		ドイツ語ＩＡａ	1前・後		1			○						兼4	
		ドイツ語ＩＡｂ	1前・後		1			○						兼4	
		ドイツ語ＩＢａ	1前・後		1			○						兼6	
		ドイツ語ＩＢｂ	1前・後		1			○						兼6	
		フランス語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		フランス語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		フランス語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		フランス語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		中国語ＩＡａ	1前		1			○						兼8	
		中国語ＩＡｂ	1後		1			○						兼8	
		中国語ＩＢａ	1前		1			○						兼6	
		中国語ＩＢｂ	1後		1			○						兼6	
		朝鮮・韓国語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		朝鮮・韓国語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		朝鮮・韓国語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		朝鮮・韓国語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		ポルトガル語ＩＡａ	1前		1			○						兼2	
		ポルトガル語ＩＡｂ	1後		1			○						兼2	
		ポルトガル語ＩＢａ	1前		1			○						兼2	
		ポルトガル語ＩＢｂ	1後		1			○						兼2	

		フランス語Ⅱ総合ａ	1前		1			○							兼1	
		フランス語Ⅱ総合ｂ	1後		1			○							兼1	
		フランス語Ⅱ演習ａ	1前		1			○							兼1	
		フランス語Ⅱ演習ｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ総合ａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ総合ｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ演習ａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ演習ｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ａａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ａｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ｂａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ｂｂ	1後		1			○							兼1	
		小計（186科目）	－	3	322	0		－		5	5	0	0	0	兼314	
	専攻基礎科目	数学基礎	1前	2			○								兼5	
		物理学基礎Ⅰ	1前	2			○								兼4	
		物理学基礎Ⅱ	1後		2		○								兼3	
		化学基礎Ⅰ	1前	2			○								兼4	
		化学基礎Ⅱ	1後		2		○								兼2	
		化学実験	2前		1				○						兼13	**共同**
		生物学基礎Ⅰ	1前	2			○			4						**共同**
		生物学基礎Ⅱ	1後		2		○			2	1				兼3	**共同**
		生物学実験	2前		1				○						兼8	**共同**
		地学基礎	2前		2		○								兼1	
		小計（10科目）	－	8	10	0		－		6	1	0	0	0	兼39	
専門教育科目	学部必修科目	生物資源学総論	1前	2			○			3					兼11	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ体験演習	1通	1				○		2	2				兼7	集中
		技術者倫理	3前	2			○								兼1	
		卒業研究	4通	4				○		16	13		3		兼2	
		小計（4科目）	－	9	0	0		－		16	13	0	3	0	兼21	－
	学科必修科目	生理学	1後	2			○			1					兼3	
		国際農業開発学	1後	2			○			1	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		食料・資源経済学Ⅰ	1後	2			○				1					
		農林学総論	1後	2			○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		細胞生物科学	2前	2			○			1					兼2	
		農林統計学	3前	2			○			2	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		資源循環学演習	3・4前・後	4				○		8	5				兼3	
		小計（7科目）	－	16	0	0		－		12	8	0	0	0	兼5	－
	教育コース必修科目	土壌学	2前	2			○				1					
		植物学	2前	2			○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		森林微生物機能学	2前	2			○			1						
		森林流域保全学	2前	2			○			1						
		測量学	2前	2			○			1						
		森林利用・情報学	2前	2			○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		森林化学	2前	2			○			1						
		木質資源工学	2前	2			○			1						
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ演習林実習Ⅰ	2前	1					○	1	1					
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ演習林実習Ⅱ	2前	1					○		1					
		測量学実習	2前	1					○	1	1					
		森林・緑環境計画学	2後	2			○			1	2					
		森林育成学	2後	2			○			1						
		森林生物学実験	2後	1					○	2	1		2			
		森林化学実験	2後	1					○	1			1			
		農林生物学英語	3前	2			○				1				兼1	
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ演習林実習Ⅳ	3前	1					○		2					
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ演習林実習Ⅲ	3後	1					○	1	1					
		小計（18科目）	－	29	0	0		－		11	11	0	3	0	兼3	－
	選択科目	入門数学演習	1後		2			○							兼1	
		Science EnglishⅠ	2前・後		2		○								兼1	
		Science EnglishⅡ	2・3前・後		2		○								兼1	
		紀伊黒潮流域圏航海実習	2後		1				○						兼3	集中
		生物資源学インターンシップ	2・3・4休		1				○	1						

		Presentation Method	1～4前・後		2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		Plant Science and Agro-ecology	1～4前・後		2		○								兼1	
		Introduction to Global Food Security	1～4前・後		2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		無機化学	2前		2		○				1					
		植物素材化学	2・3前・後		2		○			1						
		環境保全生態学	2前		2		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		農業経済学	2前		2		○				1					
		農作物生育制御概論	2前		2		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		作物学	2前		2		○			1						
		園芸学	2前		2		○			1						
		動物生産学	2前		2		○			1	1					
		植物生態生理学	2前		2		○			1						
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ農場実習Ⅰ	2前		1				○	4	1				兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ農場実習Ⅱ	2前		1				○	3	1				兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		農業生物学実験	2前		1				○	5	4				兼2	
		草地・飼料生産学	2前		2		○				1					
		資源植物学	2前		2		○			1						
		草地生産生態学	2前		2		○				1					
		農業経営学	2前		2		○				1					
		遺伝学	2前		2		○			1						
		植物保護学	2前		2		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		グローカル資源利用学チュートリアル	2前・後		2			○		1	1					
		花卉園芸学	2・3前・後		2		○								兼1	
		農業生物学特別講義Ⅰ	2・3前・後		1		○								兼1	
		農業生物学特別講義Ⅱ	2・3前・後		1		○								兼1	
		地域計画学	2・3前・後		2		○								兼1	
		樹木生理化学	2・3前・後		2		○			1						
		資源動物学	2後		2		○				1					
		分子細胞生物学	2後		2		○			1					兼1	
		食用作物学	2後		2		○				1					
		園芸植物生理学	2後		2		○			1						
		動物機能学	2後		2		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		植物栄養学	2後		2		○				1					
		植物育種学	2後		2		○			1						
		植物病理学	2後		2		○			1						
		昆虫学	2後		2		○			1						
		農業化学実験	2後		1				○	7	3		1		兼3	
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ農場実習Ⅲ	2後		1				○	2	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ農場実習Ⅳ	2後		1				○	3	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		フードシステム論	2後		2		○			1						
		森林生態学	3前		2		○				1					
		木質材料学	3前		2		○			1						
		植物材料化学	3前		2		○			1						
		森林物理学実験	3前		1				○	1			1			
		森林利用・情報学実習Ⅰ	3前		1				○	1						
		森林生態学実習	3前		1				○	1	1					
		植物成分化学実験	3前		1				○	1			1			
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ演習林実習Ⅴ	3前		1				○	1	1					
		森林利用システム学	3前		2		○			1						
		植物微生物学実験	3前		1				○	1			1			
		森林政策学	3前・後		2		○								兼1	集中
		森林・緑環境評価学	3前		2		○			1	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		保全砂防学	3前		2		○			1						
		工芸作物学	3前		2		○			1	1					
		水産経済学	3前		2		○			1						
		食料・資源経済学Ⅱ	3前		2		○				1					
		簿記会計演習Ⅰ	3前		2			○							兼1	
		社会調査演習	3前・後		4			○		2	3					
		マーケティング論	3前		2		○				1				兼1	
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ演習林実習Ⅵ	3前		1				○		2					
		農業科学実験演習	3前・後		4			○	○	9	4				兼3	
		森林情報学	3後		2		○				1					
		治水砂防・森林保全学	3後		2		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		土壌学実験	3後		1				○		1					
		森林流域保全学実習	3後		1				○	1	1					
		森林利用・情報学実習Ⅱ	3後		1				○		1					
		森林計画学演習	3後		2			○		1						
		地域社会論	3後		2		○				1					
		基礎経営学	3後		2		○				1					
		簿記会計演習Ⅱ	3後		2			○							兼1	
		一般物理学	2・3前・後		2		○								兼7	ｵﾑﾆﾊﾞｽ

		一般生物学	2・3前・後		2		○			7	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生態圏循環学	1後		2		○								兼3	
		有機化学Ⅰ	1後		2		○								兼1	
		微生物学	2前		2		○								兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生化学Ⅰ	2前		2		○								兼2	
		水産学総論	2前		2		○			1					兼5	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物地球化学	2後		2		○				1					
		遺伝子工学	2後		2		○								兼1	
		バイオインフォマティクス	3前		2		○								兼1	
		海洋資源微生物学	3前		2		○								兼1	
		フューチャー・アース学	3後		2		○								兼1	
		分子生態学	3後		2		○								兼1	
		小計（88科目）	－	0	160	0	－			16	13	0	3	0	兼61	－
	自由科目	職業指導Ⅰ	2・3・4後		2		○								兼1	
		小計（1科目）	－	0	2	0	－			0	0	0	0	0	兼1	－
合計（321科目）			－	78	494	0	－			16	15	0	3	0	兼430	－

学位又は称号	学士（生物資源学）	学位又は学科の分野	農学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
共通教育科目から40単位以上、専門教育科目から85単位以上、 合計125単位以上を修得する。 ※教養教育科目 全学必修科目：4単位、外国語教育：6単位、異文化理解：4単位、健康科学：2単位、基礎教育：14単位、地域理解・日本理解：2単位、国際理解・現代社会理解：4単位、現代科学理解：2単位、地域理解・日本理解又は国際理解・現代社会理解から：2単位 ※専門教育科目 学部必修科目：9単位、学科必修科目：16単位、教育コース必修科目：29単位、選択科目：23単位以上、自由科目：8単位以上	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

（別添2－2）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要　（　事　前　伺　い　）

（ 生物資源学部　資源循環学科　グローカル資源利用学教育コース）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	大学基礎科目	スタートアップセミナー	スタートアップＰＢＬセミナー	1前	2			○								兼4	共同（一部）
			小計（1科目）	－	2	0	0	－								兼4	
		キャリア教育	キャリア教育入門	1後	2			○				2				兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
			小計（1科目）	－	2	0	0	－				2				兼1	
		外国語（英語）	英語Ｉ大学基礎	1前・後	2				○							兼9	
			英語Ｉコミュニケーション	1前・後	2				○							兼11	
			小計（2科目）	－	4	0	0	－								兼13	
		データサイエンス	データサイエンスⅠ	1前	2			○			1			1		兼9	共同（一部）
			データサイエンスⅡ	1後	2			○				2		1		兼6	共同（一部）
			小計（2科目）	－	4	0	0	－			1	2	0	2	0	兼13	
		スポーツ健康科学	スポーツ健康科学Ａ	1前	1					○						兼6	
			小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼6	
	教養基礎科目（副専攻科目）		英語ＩＴＯＥＩＣ	1前・後	2				○							兼14	
			英語Ｉ初級ＴＯＥＩＣ	1前・後		2			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ａａ	1前・後		1			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ａｂ	1後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｂ	1前・後		1			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ｃ	1前・後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｄ	1前・後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｅ	1前・後		1			○							兼1	
			スポーツ健康科学Ｂ	1後	1					○						兼5	
			スポーツ健康科学概論	1前		2		○								兼3	共同
			ＰＢＬアカデミック・ライティング	1前・後		2		○								兼4	
			哲学Ｆ	1前・後		2		○								兼1	
			哲学Ｇ	1前・後		2		○								兼1	
			哲学Ｉ	1前・後		2		○								兼1	
			倫理学Ａ	1前		2		○								兼1	
			倫理学Ｂ	1後		2		○								兼1	
			倫理学Ｆ	1前		2		○								兼1	
			倫理学Ｇ	1後		2		○								兼1	
			倫理学Ｈ	1後		2		○								兼1	
			倫理学Ｉ	1前・後		2		○								兼1	
			宗教学Ｂ	1前		2		○								兼1	

		宗教学C	1後		2			○							兼1	
		宗教学D	1前		2		○								兼1	
		日本考古学B	1後		2			○							兼1	
		日本史A	1前		2		○								兼1	
		日本史B	1前・後		2		○								兼1	
		日本史C	1前		2		○								兼1	
		日本文化論B	1前		2		○								兼1	
		西洋史A	1後		2		○								兼1	
		西洋史B	1前・後		2		○								兼1	
		西洋史C	1後		2			○							兼1	
		東洋史A	1前・後		2		○								兼1	
		東洋文化史	1前・後		2		○								兼1	
		演劇入門	1前		2		○								兼8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		日本文学A	1前・後		2		○								兼1	
		日本文学B	1前		2		○								兼1	
		日本文学C	1前・後		2		○								兼1	
		日本語学A	1前		2		○								兼1	
		日本語学B	1後		2		○								兼1	
		比較政治文化	1前・後		2			○							兼1	
		比較文化論	1前・後		2			○							兼1	
		こころのサポート	1前・後		2		○								兼3	
		心理学A	1前・後		2		○								兼3	
		心理学F	1前・後		2		○								兼2	
		日本国憲法	1前・後		2		○								兼4	
		法学A	1前		2		○								兼1	
		法学B	1前		2		○								兼1	
		法学C	1後		2		○								兼2	
		法学G	1前		2		○								兼1	
		社会学A	1前・後		2		○								兼4	
		社会学B	1前・後		2		○								兼2	
		文化人類学A	1前・後		2		○								兼2	
		文化人類学B	1前		2		○								兼1	
		政治学A	1前		2		○								兼2	
		政治学B	1前		2		○								兼1	
		政治学G	1前・後		2		○								兼3	
		ＰＢＬ政治学1	1前・後		2		○								兼1	
		ＰＢＬ政治学2	1前・後		2		○								兼1	
		経済学A	1後		2		○								兼1	
		経済学F	1前		2		○								兼2	
		経済学G	1前・後		2		○			1					兼5	
		人文地理学A	1前		2		○								兼2	
		人文地理学B	1前・後		2		○								兼1	
		人文地理学C	1後		2		○								兼1	
		文化と空間A	1前・後		2		○								兼1	
		文化と空間B	1前		2			○							兼1	
		文化と空間C	1前		2		○								兼1	
		日本学	1後		2		○								兼1	
		三重学1	1前・後		2		○								兼1	
		地域学	1後		2		○								兼1	
		情報科学A	1後		2		○								兼1	
		情報科学B	1前		2		○								兼1	

		情報科学C	1後		2		○							兼1	
		データサイエンスⅢ	1後		2		○							兼1	
		数理科学A	1前		2		○							兼1	
		数理科学B	1後		2		○							兼1	
		数理科学D	1前		2		○							兼1	
		数理科学F	1前・後		2		○							兼1	
		数理科学G	1後		2		○							兼1	
		数理科学H	1前・後		2		○							兼1	
		物理学1	1後		2		○							兼1	
		物理学2	1前・後		2		○							兼1	
		化学A	1前・後		2		○							兼14	オムニバス
		化学B	1後		2		○							兼3	オムニバス(一部)
		生物学1	1前・後		2		○							兼1	
		生物学2	1後		2		○							兼1	
		生物学3	1前		2		○							兼4	オムニバス
		生物学4	1後		2		○							兼1	
		入門生物学	1前		2		○							兼1	
		自然科学概論1	1後		2		○							兼1	
		自然科学概論2	1前		2		○							兼6	オムニバス
		自然科学概論3	1前		2			○		2					共同
		ＰＢＬ自然科学概論	1前		2		○							兼1	
		医学医療A1	1前		2		○							兼1	
		医学医療A2	1後		2		○							兼15	オムニバス
		医学医療B1	1後		2		○							兼1	
		医学医療B2	1前・後		2		○							兼22	オムニバス
		医学医療C1	1前・後		2		○							兼9	オムニバス(一部)
		医学医療C2	1前		2		○							兼12	オムニバス(一部)
		医学医療D	1後		2		○							兼14	オムニバス
		医学医療入門	1前		2		○							兼16	オムニバス
		国際保健と地域医療	1後		2		○							兼8	オムニバス
		ＰＢＬ医学・看護学	1前・後		2		○							兼1	
		環境学A	1前・後		2		○			1				兼6	オムニバス(一部)
		環境学F	1前		2		○							兼2	オムニバス
		環境地理学A	1前		2		○							兼1	
		環境地理学B	1後		2		○							兼1	
		環境地理学C	1前・後		2		○							兼1	
		環境科学1	1前・後		2		○							兼3	共同(一部)
		環境科学2	1前		2		○							兼7	オムニバス(一部)
		生物資源学A	1前・後		2		○				1			兼1	オムニバス
		生物資源学B	1前・後		2		○			1	2				オムニバス(一部)
		地域防災論	1後		2		○							兼11	オムニバス
		防災論	1前		2		○							兼13	オムニバス(一部)
		音楽文化論	1後		2		○							兼1	
		日本理解特殊講義1	1前		2		○							兼2	
		日本理解特殊講義2	1前		2		○							兼8	オムニバス
		日本理解特殊講義4	1前・後		2		○							兼7	オムニバス
		日本理解特殊講義5	1前・後		2		○							兼2	
		現代社会理解特殊講義1	1前・後		2		○			2				兼2	オムニバス
		現代社会理解特殊講義2	1前		2		○							兼11	オムニバス
		現代社会理解特殊講義3	1後		2		○							兼2	
		現代社会理解特殊講義4	1前・後		2		○							兼1	

		現代社会理解実践1	1前		2		○							兼2	共同
		現代社会理解実践2	1後		2		○							兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		現代社会理解実践3	1前		2		○							兼1	
		国際理解実践1	1後		2		○							兼1	
		国際理解実践2	1後		2		○							兼1	
		国際理解実践3	1後		2		○							兼2	共同
		国際理解特殊講義1	1後		2		○							兼1	
		国際理解特殊講義2	1前・後		2		○							兼2	
		国際理解特殊講義3	1後		2		○							兼1	
		国際理解特殊講義4	1前・後		2		○							兼1	
		国際理解特殊講義5	1後		2		○			1				兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		現代科学理解特殊講義1	1後		2		○							兼1	
		現代科学理解特殊講義2	1後		2		○							兼7	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義1	1後		2		○							兼1	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義2	1後		2		○							兼1	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義3	1前・後		2			○						兼1	
		インターンシップ入門	1前・後		2		○							兼1	
		ピアサポート実践	1前・後		2			○						兼2	
		学習支援実践	1前		2			○						兼1	
		学生生活支援実践	1後		2			○						兼1	
		ビジネスキャリア入門	1前・後		2		○							兼1	
		ドイツの文化	1前・後		2		○							兼1	
		中国の文化	1前・後		2		○							兼1	
		ドイツ語ＩＡａ	1前・後		1			○						兼4	
		ドイツ語ＩＡｂ	1前・後		1			○						兼4	
		ドイツ語ＩＢａ	1前・後		1			○						兼6	
		ドイツ語ＩＢｂ	1前・後		1			○						兼6	
		フランス語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		フランス語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		フランス語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		フランス語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		中国語ＩＡａ	1前		1			○						兼8	
		中国語ＩＡｂ	1後		1			○						兼8	
		中国語ＩＢａ	1前		1			○						兼6	
		中国語ＩＢｂ	1後		1			○						兼6	
		朝鮮・韓国語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		朝鮮・韓国語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		朝鮮・韓国語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		朝鮮・韓国語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		ポルトガル語ＩＡａ	1前		1			○						兼2	
		ポルトガル語ＩＡｂ	1後		1			○						兼2	
		ポルトガル語ＩＢａ	1前		1			○						兼2	
		ポルトガル語ＩＢｂ	1後		1			○						兼2	

		フランス語Ⅱ総合ａ	1前		1			○							兼1	
		フランス語Ⅱ総合ｂ	1後		1			○							兼1	
		フランス語Ⅱ演習ａ	1前		1			○							兼1	
		フランス語Ⅱ演習ｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ総合ａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ総合ｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ演習ａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ演習ｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ａａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ａｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ｂａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ｂｂ	1後		1			○							兼1	
		小計（186科目）	－	3	322	0		－		5	5	0	0	0	兼314	
	専攻基礎科目	数学基礎	1前	2			○								兼5	
		物理学基礎Ⅰ	1前	2			○								兼4	
		物理学基礎Ⅱ	1後		2		○								兼3	
		化学基礎Ⅰ	1前	2			○								兼4	
		化学基礎Ⅱ	1後		2		○								兼2	
		化学実験	2前		1				○						兼13	共同
		生物学基礎Ⅰ	1前	2			○			4						共同
		生物学基礎Ⅱ	1後		2		○			2	1				兼3	共同
		生物学実験	2前		1				○						兼8	共同
		地学基礎	2前		2		○								兼1	
		小計（10科目）	－	8	10	0		－		6	1	0	0	0	兼39	
専門教育科目	学部必修科目	生物資源学総論	1前	2			○			3					兼11	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ体験演習	1通	1				○		2	2				兼7	集中
		技術者倫理	3前	2			○								兼1	
		卒業研究	4通	4				○		16	13		3		兼2	
		小計（4科目）	－	9	0	0		－		16	13	0	3	0	兼21	－
	学科必修科目	生理学	1後	2			○			1					兼3	
		国際農業開発学	1後	2			○			1	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		食料・資源経済学Ⅰ	1後	2			○				1					
		農林学総論	1後	2			○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		細胞生物科学	2前	2			○			1					兼2	
		農林統計学	3前	2			○			2	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		資源循環学演習	3・4前・後	4				○		8	5				兼3	
		小計（7科目）	－	16	0	0		－		12	8	0	0	0	兼5	－
	教育コース必修科目	農業経済学	2前	2			○				1					
		資源植物学	2前	2			○			1						
		農業経営学	2前	2			○				1					
		植物生態生理学	2前	2			○			1						
		グローカル資源利用学チュートリアル	2前・後	2				○		1	1					
		フードシステム論	2後	2			○			1						
		資源動物学	2後	2			○				1					
		食料・資源経済学Ⅱ	3前	2			○				1					
		水産経済学	3前	2			○			1						
		社会調査演習	3前・後	4				○		2	3					
		基礎経営学	3後	2			○				1					
		草地生産生態学	2前	2			○				1					
		動物生産学	2前	2			○			1	1					
		土壌学	2前	2			○				1					
		農業生物学実験	2前	1					○	5	4				兼2	農業生物学実験と農業化学実験もしくは森林生物学実験と森林化学実験を修得すること
		農業化学実験	2後	1					○	7	3		1		兼3	
		森林生物学実験	2後	1					○	2	1		2			
		森林化学実験	2後	1					○	1			1			
		小計（16科目）	－	34	0	0		－		14	14	0	4	0	兼3	－
	選択科目	入門数学演習	1後		2			○							兼1	
		Science EnglishⅠ	2前・後		2		○								兼1	
		Science EnglishⅡ	2・3前・後		2		○								兼1	
		紀伊黒潮流域圏航海実習	2後		1				○						兼3	集中
		生物資源学インターンシップ	2・3・4休		1				○	1						

		Presentation Method	1～4前・後		2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		Plant Science and Agro-ecology	1～4前・後		2		○								兼1	
		Introduction to Global Food Security	1～4前・後		2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		簿記会計演習Ⅰ	3前		2			○							兼1	
		マーケティング論	3前		2		○				1				兼1	
		地域社会論	3後		2		○				1					
		簿記会計演習Ⅱ	3後		2			○							兼1	
		地域計画学	2・3前・後		2		○								兼1	
		作物学	2前		2		○			1						
		園芸学	2前		2		○			1						
		植物学	2前		2		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		植物保護学	2前		2		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		遺伝学	2前		2		○			1						
		森林微生物機能学	2前		2		○			1						
		草地・飼料生産学	2前		2		○				1					
		花卉園芸学	2・3前・後		2		○								兼1	
		昆虫学	2後		2		○			1						
		植物栄養学	2後		2		○				1					
		植物育種学	2後		2		○			1						
		食用作物学	2後		2		○				1					
		園芸植物生理学	2後		2		○			1						
		森林・緑環境計画学	2後		2		○			1	2					
		植物病理学	2後		2		○			1						
		工芸作物学	2後		2		○			1	1					
		森林生態学	2後		2		○				1					
		森林政策学	3前・後		2		○								兼1	集中
		水産学総論	2前		2		○			1					兼5	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		植物・土壌と水	2後		2		○			1						
		国際環境保全学（英語）	2後		2		○								兼1	
		景観生態学	2後		2		○								兼1	
		海洋個体群動態学	2後		2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		漁業生産学	3前		2		○								兼1	
		栽培漁業学	3前		2		○								兼1	
		農村計画学	3後		2		○								兼1	
		食料生産システム学	3後		2		○								兼1	
		森林流域保全学	2前		2		○			1						
		測量学	2前		2		○			1						
		森林利用・情報学	2前		2		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		森林化学	2前		2		○			1						
		木質資源工学	2前		2		○			1						
		農作物生育制御概論	2前		2		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		無機化学	2前		2		○				1					
		測量学実習	2前		1			○		1	1					
		農業生物学特別講義Ⅰ	2・3前・後		1		○								兼1	
		農業生物学特別講義Ⅱ	2・3前・後		1		○								兼1	
		植物素材化学	2・3前・後		2		○			1						
		樹木生理化学	2・3前・後		2		○			1						
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ農場実習Ⅰ	2前		1			○		4	1				兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ農場実習Ⅱ	2前		1			○		3	1				兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ演習林実習Ⅰ	2前		1			○		1	1					
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ演習林実習Ⅱ	2前		1			○			1					
		森林育成学	2後		2		○			1						
		分子細胞生物学	2後		2		○			1					兼1	
		動物機能学	2後		2		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ農場実習Ⅲ	2後		1			○		2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ農場実習Ⅳ	2後		1			○		3						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		農林生物学英語	3前		2		○				1				兼1	
		木質材料学	3前		2		○			1						
		植物材料化学	3前		2		○			1						
		森林利用システム学	3前		2		○			1						
		森林・緑環境評価学	3前		2		○			1	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		保全砂防学	3前		2		○			1						
		森林物理学実験	3前		1			○		1		1				
		森林利用・情報学実習Ⅰ	3前		1			○		1						
		植物微生物学実験	3前		1			○		1		1				
		森林生態学実習	3前		1			○		1	1					
		植物成分化学実験	3前		1			○		1		1				
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ演習林実習Ⅳ	3前		1			○			2					
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ演習林実習Ⅴ	3前		1			○		1	1					
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ演習林実習Ⅵ	3前		1			○			2					
		農業科学実験演習	3前・後		4			○	○	9	4				兼3	

		治水砂防・森林保全学	3後		2		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		森林情報学	3後		2		○				1					
		森林計画学演習	3後		2			○		1						
		土壌学実験	3後		1				○		1					
		森林流域保全学実習	3後		1				○	1	1					
		森林利用・情報学実習Ⅱ	3後		1				○		1					
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ演習林実習Ⅲ	3後		1				○	1	1					
		一般物理学	2・3前・後		2		○								兼7	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		一般生物学	2・3前・後		2		○			7	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生態圏循環学	1後		2		○								兼3	
		有機化学Ⅰ	1後		2		○								兼1	
		有機化学Ⅱ	2前		2		○								兼1	
		生化学Ⅰ	2前		2		○								兼2	
		微生物学	2前		2		○								兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物地球化学	2後		2		○				1					
		生化学Ⅱ	2後		2		○								兼2	
		食品化学	2後		2		○								兼1	
		微生物利用学	2後		2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物化学工学	2後		2		○								兼1	
		遺伝子工学	2後		2		○								兼1	
		食品衛生学	2後		2		○								兼1	
		微生物遺伝学	2後		2		○								兼1	
		栄養化学	3前		2		○								兼1	
		バイオインフォマティクス	3前		2		○								兼1	
		海洋資源微生物学	3前		2		○								兼1	
		フューチャー・アース学	3後		2		○								兼1	
		食品安全化学	2・3前・後		2		○								兼1	
		分子生態学	3後		2		○								兼1	
		小計（104科目）	－	0	187	0	－			16	15	0	3	0	兼56	
	自由科目	職業指導Ⅰ	2・3・4後		2		○								兼1	
		小計（1科目）	－	0	2	0	－			0	0	0	0	0	兼1	－
合計（335科目）			－	83	521	0	－			16	15	0	3	0	兼425	－

学位又は称号	学士（生物資源学）	学位又は学科の分野	農学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
共通教育科目から40単位以上、専門教育科目から85単位以上、合計125単位以上を修得する。 ※教養教育科目 全学必修科目：4単位、外国語教育：6単位、異文化理解：4単位、健康科学：2単位、基礎教育：14単位、地域理解・日本理解：2単位、国際理解・現代社会理解：4単位、現代科学理解：2単位、地域理解・日本理解又は国際理解・現代社会理解から：2単位 ※専門教育科目 学部必修科目：9単位、学科必修科目：16単位、教育コース必修科目：32単位、選択科目：20単位以上、自由科目：8単位以上	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

（別添2－2）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要　（　事　前　伺　い　）

（ 生物資源学部　共生環境学科　地球環境学教育コース）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	大学基礎科目	スタートアップセミナー	スタートアップＰＢＬセミナー	1前	2			○								兼4	共同（一部）
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼4	
		キャリア教育	キャリア教育入門	1後	2			○								兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
		外国語（英語）	英語Ｉ大学基礎	1前・後	2				○							兼9	
			英語Ｉコミュニケーション	1前・後	2				○							兼11	
			小計（2科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼13	
		データサイエンス	データサイエンスⅠ	1前	2			○			1			1		兼9	共同（一部）
			データサイエンスⅡ	1後	2			○			1			1		兼7	共同（一部）
			小計（2科目）	－	4	0	0	－			1	0	0	1	0	兼15	
		スポーツ健康科学	スポーツ健康科学Ａ	1前	1					○						兼6	
			小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼6	
	教養基礎科目（副専攻科目）		英語ＩＴＯＥＩＣ	1前・後	2				○							兼14	
			英語Ｉ初級ＴＯＥＩＣ	1前・後		2			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ａａ	1前・後		1			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ａｂ	1後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｂ	1前・後		1			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ｃ	1前・後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｄ	1前・後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｅ	1前・後		1			○							兼1	
			スポーツ健康科学Ｂ	1後	1					○						兼5	
			スポーツ健康科学概論	1前		2		○								兼3	共同
			ＰＢＬアカデミック・ライティング	1前・後		2		○								兼4	
			哲学Ｆ	1前・後		2		○								兼1	
			哲学Ｇ	1前・後		2		○								兼1	
			哲学Ｉ	1前・後		2		○								兼1	
			倫理学Ａ	1前		2		○								兼1	
			倫理学Ｂ	1後		2		○								兼1	
			倫理学Ｆ	1前		2		○								兼1	
			倫理学Ｇ	1後		2		○								兼1	
			倫理学Ｈ	1後		2		○								兼1	
			倫理学Ｉ	1前・後		2		○								兼1	
			宗教学Ｂ	1前		2		○								兼1	

		宗教学C	1後		2			○								兼1	
		宗教学D	1前		2		○									兼1	
		日本考古学B	1後		2			○								兼1	
		日本史A	1前		2		○									兼1	
		日本史B	1前・後		2		○									兼1	
		日本史C	1前		2		○									兼1	
		日本文化論B	1前		2		○									兼1	
		西洋史A	1後		2		○									兼1	
		西洋史B	1前・後		2		○									兼1	
		西洋史C	1後		2			○								兼1	
		東洋史A	1前・後		2		○									兼1	
		東洋文化史	1前・後		2		○									兼1	
		演劇入門	1前		2		○									兼8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		日本文学A	1前・後		2		○									兼1	
		日本文学B	1前		2		○									兼1	
		日本文学C	1前・後		2		○									兼1	
		日本語学A	1前		2		○									兼1	
		日本語学B	1後		2		○									兼1	
		比較政治文化	1前・後		2			○								兼1	
		比較文化論	1前・後		2			○								兼1	
		こころのサポート	1前・後		2		○									兼3	
		心理学A	1前・後		2		○									兼3	
		心理学F	1前・後		2		○									兼2	
		日本国憲法	1前・後		2		○									兼4	
		法学A	1前		2		○									兼1	
		法学B	1前		2		○									兼1	
		法学C	1後		2		○									兼2	
		法学G	1前		2		○									兼1	
		社会学A	1前・後		2		○									兼4	
		社会学B	1前・後		2		○									兼2	
		文化人類学A	1前・後		2		○									兼2	
		文化人類学B	1前		2		○									兼1	
		政治学A	1前		2		○									兼2	
		政治学B	1前		2		○									兼1	
		政治学G	1前・後		2		○									兼3	
		ＰＢＬ政治学1	1前・後		2		○									兼1	
		ＰＢＬ政治学2	1前・後		2		○									兼1	
		経済学A	1後		2		○									兼1	
		経済学F	1前		2		○									兼2	
		経済学G	1前・後		2		○									兼6	
		人文地理学A	1前		2		○									兼2	
		人文地理学B	1前・後		2		○									兼1	
		人文地理学C	1後		2		○									兼1	
		文化と空間A	1前・後		2		○									兼1	
		文化と空間B	1前		2			○								兼1	
		文化と空間C	1前		2		○									兼1	
		日本学	1後		2		○									兼1	
		三重学1	1前・後		2		○									兼1	
		地域学	1後		2		○									兼1	
		情報科学A	1後		2		○									兼1	
		情報科学B	1前		2		○									兼1	

		情報科学C	1後		2		○							兼1	
		データサイエンスⅢ	1後		2		○							兼1	
		数理科学A	1前		2		○							兼1	
		数理科学B	1後		2		○							兼1	
		数理科学D	1前		2		○							兼1	
		数理科学F	1前・後		2		○							兼1	
		数理科学G	1後		2		○							兼1	
		数理科学H	1前・後		2		○							兼1	
		物理学1	1後		2		○							兼1	
		物理学2	1前・後		2		○							兼1	
		化学A	1前・後		2		○							兼14	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		化学B	1後		2		○							兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		生物学1	1前・後		2		○							兼1	
		生物学2	1後		2		○							兼1	
		生物学3	1前		2		○							兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物学4	1後		2		○							兼1	
		入門生物学	1前		2		○							兼1	
		自然科学概論1	1後		2		○							兼1	
		自然科学概論2	1前		2		○							兼6	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		自然科学概論3	1前		2			○						兼2	共同
		ＰＢＬ自然科学概論	1前		2		○							兼1	
		医学医療A1	1前		2		○							兼1	
		医学医療A2	1後		2		○							兼15	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		医学医療B1	1後		2		○							兼1	
		医学医療B2	1前・後		2		○							兼22	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		医学医療C1	1前・後		2		○							兼9	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		医学医療C2	1前		2		○							兼12	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		医学医療D	1後		2		○							兼14	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		医学医療入門	1前		2		○							兼16	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		国際保健と地域医療	1後		2		○							兼8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ＰＢＬ医学・看護学	1前・後		2		○							兼1	
		環境学A	1前・後		2		○							兼6	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		環境学F	1前		2		○							兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境地理学A	1前		2		○							兼1	
		環境地理学B	1後		2		○							兼1	
		環境地理学C	1前・後		2		○							兼1	
		環境科学1	1前・後		2		○							兼3	共同（一部）
		環境科学2	1前		2		○							兼7	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		生物資源学A	1前・後		2		○							兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物資源学B	1前・後		2		○							兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		地域防災論	1後		2		○			2				兼9	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		防災論	1前		2		○							兼13	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		音楽文化論	1後		2		○							兼1	
		日本理解特殊講義1	1前		2		○							兼2	
		日本理解特殊講義2	1前		2		○							兼8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		日本理解特殊講義4	1前・後		2		○							兼7	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		日本理解特殊講義5	1前・後		2		○							兼2	
		現代社会理解特殊講義1	1前・後		2		○							兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		現代社会理解特殊講義2	1前		2		○							兼11	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		現代社会理解特殊講義3	1後		2		○							兼2	
		現代社会理解特殊講義4	1前・後		2		○							兼1	

		現代社会理解実践1	1前		2		○							兼2	共同
		現代社会理解実践2	1後		2		○							兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		現代社会理解実践3	1前		2		○							兼1	
		国際理解実践1	1後		2		○							兼1	
		国際理解実践2	1後		2		○							兼1	
		国際理解実践3	1後		2		○							兼2	共同
		国際理解特殊講義1	1後		2		○							兼1	
		国際理解特殊講義2	1前・後		2		○							兼2	
		国際理解特殊講義3	1後		2		○							兼1	
		国際理解特殊講義4	1前・後		2		○							兼1	
		国際理解特殊講義5	1後		2		○							兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		現代科学理解特殊講義1	1後		2		○							兼1	
		現代科学理解特殊講義2	1後		2		○							兼7	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義1	1後		2		○							兼1	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義2	1後		2		○							兼1	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義3	1前・後		2			○						兼1	
		インターンシップ入門	1前・後		2		○							兼1	
		ピアサポート実践	1前・後		2			○						兼2	
		学習支援実践	1前		2			○						兼1	
		学生生活支援実践	1後		2			○						兼1	
		ビジネスキャリア入門	1前・後		2		○							兼1	
		ドイツの文化	1前・後		2		○							兼1	
		中国の文化	1前・後		2		○							兼1	
		ドイツ語ＩＡａ	1前・後		1			○						兼4	
		ドイツ語ＩＡｂ	1前・後		1			○						兼4	
		ドイツ語ＩＢａ	1前・後		1			○						兼6	
		ドイツ語ＩＢｂ	1前・後		1			○						兼6	
		フランス語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		フランス語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		フランス語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		フランス語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		中国語ＩＡａ	1前		1			○						兼8	
		中国語ＩＡｂ	1後		1			○						兼8	
		中国語ＩＢａ	1前		1			○						兼6	
		中国語ＩＢｂ	1後		1			○						兼6	
		朝鮮・韓国語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		朝鮮・韓国語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		朝鮮・韓国語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		朝鮮・韓国語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		ポルトガル語ＩＡａ	1前		1			○						兼2	
		ポルトガル語ＩＡｂ	1後		1			○						兼2	
		ポルトガル語ＩＢａ	1前		1			○						兼2	
		ポルトガル語ＩＢｂ	1後		1			○						兼2	

		フランス語Ⅱ総合ａ	1前		1			○							兼1	
		フランス語Ⅱ総合ｂ	1後		1			○							兼1	
		フランス語Ⅱ演習ａ	1前		1			○							兼1	
		フランス語Ⅱ演習ｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ総合ａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ総合ｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ演習ａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ演習ｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ａａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ａｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ｂａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ｂｂ	1後		1			○							兼1	
		小計（186科目）	－	3	322	0		－		2	0	0	0	0	兼322	
	専攻基礎科目	数学基礎	1前	2			○			3	1				兼1	
		物理学基礎Ⅰ	1前	2			○			1	1		1		兼1	
		物理学基礎Ⅱ	1後		2		○				1				兼4	
		化学基礎Ⅰ	1前	2			○								兼4	
		化学基礎Ⅱ	1後		2		○								兼2	
		化学実験	2前		1				○						兼13	共同
		生物学基礎Ⅰ	1前	2			○								兼4	
		生物学基礎Ⅱ	1後		2		○								兼6	
		生物学実験	2前		1				○						兼8	共同
		地学基礎	2前		2		○			1						
		小計（10科目）	－	8	10	0		－		5	2	0	1	0	兼37	
専門教育科目	学部必修科目	生物資源学総論	1前	2			○			1	2		1		兼10	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ体験演習	1通	1				○		1					兼10	集中
		技術者倫理	3後	2			○								兼1	
		卒業研究	4通	4				○		11	7		4			
		小計（4科目）	－	9	0	0		－		11	7	0	4	0	兼21	－
	学科必修科目	将来気候予測論	1前	2			○			3						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		共生環境フィールドサイエンスセミナー	1前・後	2				○		3	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生態圏循環学	2前	2			○			4	1		2			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地球環境学概論	2前	2			○			2	1					
		環境保全生態学	2後	2			○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境解析基礎Ⅰ	2後	2			○			2	1		1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境解析基礎Ⅱ	2後	2			○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境解析基礎Ⅲ	3前	2			○				1					
		小計（8科目）	－	16	0	0		－		11	7	0	3	0		－
	教育コース必修科目	環境系数学	1後	2			○				1					
		環境情報学	1後	2			○			1	1					
		ローカル気象学	2前	2			○				2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地球システム進化学	2前	2			○			1						
		地球環境リモートセンシング	2前	2			○			1						
		景観生態学	2後	2			○								兼1	
		グローバル気象学	2後	2			○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		大気海洋科学	2後	2			○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		気象・水文・水資源学	2後	2			○			1						
		未来地球システム学	2後	2			○			1						
		地形学	2後	2			○			1						
		確率統計解析	2後	2			○			1						
		地球環境学セミナーⅠ	3前・後	1				○		4	3				兼1	
		地球環境学セミナーⅡ	4前・後	1				○		4	3				兼1	
		小計（14科目）	－	26	0	0		－		4	5	0	0	0	兼2	－
	選択科目	入門数学演習	1後		2			○							兼1	
		Science EnglishⅠ	2前・後		2		○								兼1	
		Science EnglishⅡ	2・3前・後		2		○								兼1	
		紀伊黒潮流域圏航海実習	2後		1				○						兼3	集中
		生物資源学インターンシップ	2・3・4休		1				○	1						
		自然環境リテラシー学	1前・後		2				○	2	1		1			
		基礎水理学	2前		2		○				1		1			
		基礎構造力学	2前		2		○			1						

		測量学	2前		2		○				1					
		測量学実習	2前		1			○			2					
		土壌物理学	2前		2		○				1					
		森林流域保全学	2前		2		○								兼1	
		応用数学	2前		2		○			1						
		フィールドサイエンス実習	2前		1			○		1	1				兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		応用力学Ⅰ	2前		2		○			1						
		力学基礎Ⅰ	2前		2		○			1						
		電気・電子工学	2前		2		○			1						
		土壌学	2前		2		○								兼1	
		資源植物学	2前		2		○								兼1	
		エネルギー利用学	2後		2		○								兼1	
		生物情報工学	2後		2		○			1						
		情報科学応用演習	2後		2			○		1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		水理学	2後		2		○						1			
		水環境工学	2後		2		○				1					
		フィールド地質学	2後		2		○								兼1	
		基礎土質力学	2後		2		○			1						
		構造力学	2後		2		○			1						
		国際環境保全学（英語）	2後		2		○			1						
		プログラミング	2後		2		○			1						
		植物・土壌と水	2後		2		○			1						
		環境土壌学実験	2後		1			○		1	2					
		海洋地球科学乗船実習	2前・後		1			○			1				兼2	
		建設材料学	2後		2		○			1						
		環境計測実験	2後		1			○		3	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物化学工学	2後		2		○								兼1	
		海事概論	2後		2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物地球化学	2後		2		○								兼1	
		森林・緑環境計画学	2後		2		○								兼1	
		測量学演習	2後		2			○			1				兼1	
		応用力学Ⅱ	2後		2		○			1						
		力学基礎Ⅱ	2後		2		○			1						
		数値計算法	2後		2		○								兼1	
		環境情報システム工学実習Ⅰ	2後		1			○		4			2			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		システム制御学	2後		2		○			1						
		植物栄養学	2後		2		○								兼1	
		園芸植物生理学	2後		2		○								兼1	
		森林育成学	2後		2		○								兼1	
		景観設計論	3前		2		○								兼1	
		自然災害科学	3前		2		○			1						
		土壌圏循環学	3前		2		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		物質循環解析学	3前		2		○			1						
		農業情報ネットワーク	3前		2		○						1			
		応用水文学	3前		2		○				1					
		土質力学	3前		2		○			1						
		ビオトープ論	3前		2		○								兼1	
		CAD演習	3前		2			○		1						
		実践農業土木学	3前		2		○			1						
		森林生態学	3前		2		○								兼1	
		基礎メカトロニクス	3前		2		○			1						
		フードシステム学	3前		2		○			1						
		生物環境計測工学	3前		2		○			1						
		鉄筋コンクリート工学	3前		2		○			1						
		公共事業インターンシップ	3前		1			○		4	3		2			
		設計製図学Ⅰ	3前		2		○			1						
		設計製図学演習Ⅰ	3前		2			○					1			
		環境情報システム工学実習Ⅱ	3前		1			○		4			2			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		森林・緑環境評価学	3前		2		○								兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ベンチャー企業論	2・3・4前・後		2		○			1					兼1	
		電子計測学	3・4前・後		2		○								兼1	
		水理実験	3前・後		1			○			1		1			
		コンクリート・土質材料実験	3前・後		1			○		1						
		海洋化学	3前・後		2		○								兼1	
		陸海空・環境科学実習	3前・後		1			○		1	1				兼2	
		フューチャー・アース学	3後		2		○			1						
		土壌圏物質移動論	3後		2		○			1						
		かんがい排水学	3後		2		○			1						
		農村計画学	3後		2		○				1					
		地盤・防災工学	3後		2		○			1						
		農地工学	3後		2		○			1						

		水利施設工学	3後		2		○			1						
		農村ワークショップ運営実習	3後		1				○		1				兼1	
		農業土木学キャリアアップ演習	3後		2			○		1						
		食料生産システム学	3後		2		○								兼1	
		地理情報システム学	3後		2		○								兼1	
		材料・加工学	3後		2		○								兼1	
		設計製図学Ⅱ	3後		2		○						1			
		設計製図学演習Ⅱ	3後		2			○		1						
		農業生産実習	3後		1				○	3					兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		実地見学	3後		1				○	1						集中
		農業食料工学実験	3後		1				○	3	1		2			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		森林計画学演習	3後		2			○							兼1	
		キャリア対策入門土木工学演習	3後4前		2			○		1						
		大気海洋循環学	4前		2		○			1	2					集中、ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地球環境学演習	4後		2			○		4	3				兼1	
		共生環境学総論	2・3前・後		2		○			11	3		1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		物理学総論	2・3前・後		2		○			4	3					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物学総論	2・3前・後		2		○								兼8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地学総論	2・3前・後		2		○			5	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		作物学	2前		2		○								兼1	
		農業経済学	2前		2		○								兼1	
		地域社会論	3後		2		○								兼1	
		小計（101科目）	－	0	185	0	－			11	7	0	4	0	兼57	－
	自由科目	職業指導Ⅰ	2・3・4後		2		○								兼1	
		小計（1科目）	－	0	2	0	－			0	0	0	0	0	兼1	－
合計（331科目）			－	79	519	0	－			11	7	0	4	0	兼402	－

学位又は称号	学士（生物資源学）	学位又は学科の分野	農学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
共通教育科目から40単位以上、専門教育科目から85単位以上、合計125単位以上を修得する。 ※教養教育科目 全学必修科目：4単位、外国語教育：6単位、異文化理解：4単位、健康科学：2単位、基礎教育：14単位、地域理解・日本理解：2単位、国際理解・現代社会理解：4単位、現代科学理解：2単位、地域理解・日本理解又は国際理解・現代社会理解から：2単位 ※専門教育科目 学部必修科目：9単位、学科必修科目：16単位、教育コース必修科目：26単位、選択科目：26単位以上、自由科目：8単位以上	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要　（　事　前　伺　い　）

（ 生物資源学部　共生環境学科　環境情報システム学教育コース）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	大学基礎科目	スタートアップセミナー	スタートアップＰＢＬセミナー	1前	2			○								兼4	共同（一部）
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼4	
		キャリア教育	キャリア教育入門	1後	2			○								兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
		外国語（英語）	英語Ｉ大学基礎	1前・後	2				○							兼9	
			英語Ｉコミュニケーション	1前・後	2				○							兼11	
			小計（2科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼13	
		データサイエンス	データサイエンスⅠ	1前	2			○			1			1		兼9	共同（一部）
			データサイエンスⅡ	1後	2			○			1			1		兼7	共同（一部）
			小計（2科目）	－	4	0	0	－			1	0	0	1	0	兼15	
		スポーツ健康科学	スポーツ健康科学Ａ	1前	1					○						兼6	
			小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼6	
	教養基礎科目（副専攻科目）		英語ＩＴＯＥＩＣ	1前・後	2				○							兼14	
			英語Ｉ初級ＴＯＥＩＣ	1前・後		2			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ａａ	1前・後		1			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ａｂ	1後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｂ	1前・後		1			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ｃ	1前・後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｄ	1前・後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｅ	1前・後		1			○							兼1	
			スポーツ健康科学Ｂ	1後	1					○						兼5	
			スポーツ健康科学概論	1前		2		○								兼3	共同
			ＰＢＬアカデミック・ライティング	1前・後		2		○								兼4	
			哲学Ｆ	1前・後		2		○								兼1	
			哲学Ｇ	1前・後		2		○								兼1	
			哲学Ｉ	1前・後		2		○								兼1	
			倫理学Ａ	1前		2		○								兼1	
			倫理学Ｂ	1後		2		○								兼1	
			倫理学Ｆ	1前		2		○								兼1	
			倫理学Ｇ	1後		2		○								兼1	
			倫理学Ｈ	1後		2		○								兼1	
			倫理学Ｉ	1前・後		2		○								兼1	
			宗教学Ｂ	1前		2		○								兼1	

		宗教学C	1後		2			○							兼1	
		宗教学D	1前		2		○								兼1	
		日本考古学B	1後		2			○							兼1	
		日本史A	1前		2		○								兼1	
		日本史B	1前・後		2		○								兼1	
		日本史C	1前		2		○								兼1	
		日本文化論B	1前		2		○								兼1	
		西洋史A	1後		2		○								兼1	
		西洋史B	1前・後		2		○								兼1	
		西洋史C	1後		2			○							兼1	
		東洋史A	1前・後		2		○								兼1	
		東洋文化史	1前・後		2		○								兼1	
		演劇入門	1前		2		○								兼8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		日本文学A	1前・後		2		○								兼1	
		日本文学B	1前		2		○								兼1	
		日本文学C	1前・後		2		○								兼1	
		日本語学A	1前		2		○								兼1	
		日本語学B	1後		2		○								兼1	
		比較政治文化	1前・後		2			○							兼1	
		比較文化論	1前・後		2			○							兼1	
		こころのサポート	1前・後		2		○								兼3	
		心理学A	1前・後		2		○								兼3	
		心理学F	1前・後		2		○								兼2	
		日本国憲法	1前・後		2		○								兼4	
		法学A	1前		2		○								兼1	
		法学B	1前		2		○								兼1	
		法学C	1後		2		○								兼2	
		法学G	1前		2		○								兼1	
		社会学A	1前・後		2		○								兼4	
		社会学B	1前・後		2		○								兼2	
		文化人類学A	1前・後		2		○								兼2	
		文化人類学B	1前		2		○								兼1	
		政治学A	1前		2		○								兼2	
		政治学B	1前		2		○								兼1	
		政治学G	1前・後		2		○								兼3	
		ＰＢＬ政治学1	1前・後		2		○								兼1	
		ＰＢＬ政治学2	1前・後		2		○								兼1	
		経済学A	1後		2		○								兼1	
		経済学F	1前		2		○								兼2	
		経済学G	1前・後		2		○								兼6	
		人文地理学A	1前		2		○								兼2	
		人文地理学B	1前・後		2		○								兼1	
		人文地理学C	1後		2		○								兼1	
		文化と空間A	1前・後		2		○								兼1	
		文化と空間B	1前		2			○							兼1	
		文化と空間C	1前		2		○								兼1	
		日本学	1後		2		○								兼1	
		三重学1	1前・後		2		○								兼1	
		地域学	1後		2		○								兼1	
		情報科学A	1後		2		○								兼1	
		情報科学B	1前		2		○								兼1	

		情報科学C	1後		2		○							兼1	
		データサイエンスⅢ	1後		2		○							兼1	
		数理科学A	1前		2		○							兼1	
		数理科学B	1後		2		○							兼1	
		数理科学D	1前		2		○							兼1	
		数理科学F	1前・後		2		○							兼1	
		数理科学G	1後		2		○							兼1	
		数理科学H	1前・後		2		○							兼1	
		物理学1	1後		2		○							兼1	
		物理学2	1前・後		2		○							兼1	
		化学A	1前・後		2		○							兼14	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		化学B	1後		2		○							兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		生物学1	1前・後		2		○							兼1	
		生物学2	1後		2		○							兼1	
		生物学3	1前		2		○							兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物学4	1後		2		○							兼1	
		入門生物学	1前		2		○							兼1	
		自然科学概論1	1後		2		○							兼1	
		自然科学概論2	1前		2		○							兼6	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		自然科学概論3	1前		2			○						兼2	共同
		ＰＢＬ自然科学概論	1前		2		○							兼1	
		医学医療A1	1前		2		○							兼1	
		医学医療A2	1後		2		○							兼15	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		医学医療B1	1後		2		○							兼1	
		医学医療B2	1前・後		2		○							兼22	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		医学医療C1	1前・後		2		○							兼9	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		医学医療C2	1前		2		○							兼12	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		医学医療D	1後		2		○							兼14	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		医学医療入門	1前		2		○							兼16	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		国際保健と地域医療	1後		2		○							兼8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ＰＢＬ医学・看護学	1前・後		2		○							兼1	
		環境学A	1前・後		2		○							兼6	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		環境学F	1前		2		○							兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境地理学A	1前		2		○							兼1	
		環境地理学B	1後		2		○							兼1	
		環境地理学C	1前・後		2		○							兼1	
		環境科学1	1前・後		2		○							兼3	共同（一部）
		環境科学2	1前		2		○							兼7	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		生物資源学A	1前・後		2		○							兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物資源学B	1前・後		2		○							兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		地域防災論	1後		2		○			2				兼9	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		防災論	1前		2		○							兼13	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		音楽文化論	1後		2		○							兼1	
		日本理解特殊講義1	1前		2		○							兼2	
		日本理解特殊講義2	1前		2		○							兼8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		日本理解特殊講義4	1前・後		2		○							兼7	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		日本理解特殊講義5	1前・後		2		○							兼2	
		現代社会理解特殊講義1	1前・後		2		○							兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		現代社会理解特殊講義2	1前		2		○							兼11	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		現代社会理解特殊講義3	1後		2		○							兼2	
		現代社会理解特殊講義4	1前・後		2		○							兼1	

		現代社会理解実践1	1前		2		○							兼2	共同
		現代社会理解実践2	1後		2		○							兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		現代社会理解実践3	1前		2		○							兼1	
		国際理解実践1	1後		2		○							兼1	
		国際理解実践2	1後		2		○							兼1	
		国際理解実践3	1後		2		○							兼2	共同
		国際理解特殊講義1	1後		2		○							兼1	
		国際理解特殊講義2	1前・後		2		○							兼2	
		国際理解特殊講義3	1後		2		○							兼1	
		国際理解特殊講義4	1前・後		2		○							兼1	
		国際理解特殊講義5	1後		2		○							兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		現代科学理解特殊講義1	1後		2		○							兼1	
		現代科学理解特殊講義2	1後		2		○							兼7	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義1	1後		2		○							兼1	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義2	1後		2		○							兼1	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義3	1前・後		2			○						兼1	
		インターンシップ入門	1前・後		2		○							兼1	
		ピアサポート実践	1前・後		2			○						兼2	
		学習支援実践	1前		2			○						兼1	
		学生生活支援実践	1後		2			○						兼1	
		ビジネスキャリア入門	1前・後		2		○							兼1	
		ドイツの文化	1前・後		2		○							兼1	
		中国の文化	1前・後		2		○							兼1	
		ドイツ語ＩＡａ	1前・後		1			○						兼4	
		ドイツ語ＩＡｂ	1前・後		1			○						兼4	
		ドイツ語ＩＢａ	1前・後		1			○						兼6	
		ドイツ語ＩＢｂ	1前・後		1			○						兼6	
		フランス語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		フランス語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		フランス語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		フランス語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		中国語ＩＡａ	1前		1			○						兼8	
		中国語ＩＡｂ	1後		1			○						兼8	
		中国語ＩＢａ	1前		1			○						兼6	
		中国語ＩＢｂ	1後		1			○						兼6	
		朝鮮・韓国語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		朝鮮・韓国語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		朝鮮・韓国語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		朝鮮・韓国語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		ポルトガル語ＩＡａ	1前		1			○						兼2	
		ポルトガル語ＩＡｂ	1後		1			○						兼2	
		ポルトガル語ＩＢａ	1前		1			○						兼2	
		ポルトガル語ＩＢｂ	1後		1			○						兼2	

		フランス語Ⅱ総合ａ	1前		1			○							兼1	
		フランス語Ⅱ総合ｂ	1後		1			○							兼1	
		フランス語Ⅱ演習ａ	1前		1			○							兼1	
		フランス語Ⅱ演習ｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ総合ａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ総合ｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ演習ａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ演習ｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ａａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ａｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ｂａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ｂｂ	1後		1			○							兼1	
		小計（186科目）	－	3	322	0		－		2	0	0	0	0	兼322	
	専攻基礎科目	数学基礎	1前	2			○			3	1				兼1	
		物理学基礎Ⅰ	1前	2			○			1	1		1		兼1	
		物理学基礎Ⅱ	1後		2		○				1				兼4	
		化学基礎Ⅰ	1前	2			○								兼4	
		化学基礎Ⅱ	1後		2		○								兼2	
		化学実験	2前		1				○						兼13	共同
		生物学基礎Ⅰ	1前	2			○								兼4	
		生物学基礎Ⅱ	1後		2		○								兼6	
		生物学実験	2前		1				○						兼8	共同
		地学基礎	2前		2		○			1						
		小計（10科目）	－	8	10	0		－		5	2	0	1	0	兼37	
専門教育科目	学部必修科目	生物資源学総論	1前	2			○			1	2		1		兼10	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ体験演習	1通	1				○		1					兼10	集中
		技術者倫理	3後	2			○								兼1	
		卒業研究	4通	4				○		11	7		4			
		小計（4科目）	－	9	0	0		－		11	7	0	4	0	兼21	－
	学科必修科目	将来気候予測論	1前	2			○			3						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		共生環境フィールドサイエンスセミナー	1前・後	2				○		3	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生態圏循環学	2前	2			○			4	1		2			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地球環境学概論	2前	2			○			2	1					
		環境保全生態学	2後	2			○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境解析基礎Ⅰ	2後	2			○			2	1		1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境解析基礎Ⅱ	2後	2			○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境解析基礎Ⅲ	3前	2			○				1					
		小計（8科目）	－	16	0	0		－		11	7	0	3	0		－
	教育コース必修科目	環境系数学	1後	2			○				1					
		環境情報学	1後	2			○			1	1					
		応用数学	2前	2			○			1						
		応用力学Ⅰ	2前	2			○			1						
		力学基礎Ⅰ	2前	2			○			1						
		電気・電子工学	2前	2			○			1						
		農業食料工学実習	2前	1					○	4	1		2			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物情報工学	2後	2			○			1						
		応用力学Ⅱ	2後	2			○			1						
		力学基礎Ⅱ	2後	2			○			1						
		プログラミング	2後	2			○			1						
		システム制御学	2後	2			○			1						
		環境情報システム工学実習Ⅰ	2後	1					○	4			2			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		設計製図学Ⅰ	3前	2			○			1						
		環境情報システム工学実習Ⅱ	3前	1					○	4			2			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		設計製図学Ⅱ	3後	2			○						1			
		農業食料工学実験	3後	1					○	3	1		2			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		小計（17科目）	－	30	0	0		－		4	3		2			－
		入門数学演習	1後		2			○							兼1	
		Science EnglishⅠ	2前・後		2		○								兼1	
		Science EnglishⅡ	2・3前・後		2		○								兼1	
		紀伊黒潮流域圏航海実習	2後		1				○						兼3	集中
		生物資源学インターンシップ	2・3・4休		1				○	1						

		自然環境リテラシー学	1前・後		2			○	2	1		1				
		エネルギー利用学	2前		2		○								兼1	
		基礎水理学	2前		2		○			1		1				
		フィールドサイエンス実習	2前		1			○	1	1					兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		土壌物理学	2前		2		○			1						
		地球環境リモートセンシング	2前		2		○		1							
		測量学実習	2前		1			○		2						
		地球システム進化学	2前		2		○		1							
		ローカル気象学	2前		2		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		基礎構造力学	2前		2		○		1							
		測量学	2前		2		○			1						
		海洋地球科学乗船実習	2前・後		1			○		1					兼2	
		ベンチャー企業論	2・3・4・前		2		○		1						兼1	
		数値計算法	2後		2		○								兼1	
		確率統計解析	2後		2		○		1							
		水理学	2後		2		○					1				
		景観生態学	2後		2		○								兼1	
		地形学	2後		2		○		1							
		植物・土壌と水	2後		2		○		1							
		環境土壌学実験	2後		1			○	1	2						
		未来地球システム学	2後		2		○		1							
		水環境工学	2後		2		○			1						
		国際環境保全学（英語）	2後		2		○		1							
		フィールド地質学	2後		2		○								兼1	
		構造力学	2後		2		○		1							
		建設材料学	2後		2		○		1							
		気象・水文・水資源学	2後		2		○		1							
		グローバル気象学	2後		2		○		1	1						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物地球化学	2後		2		○								兼1	
		大気海洋科学	2後		2		○		1	1						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		基礎土質力学	2後		2		○		1							
		情報科学応用演習	2後		2			○	1	1						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		測量学演習	2後		2			○		1					兼1	
		環境計測実験	2後		1			○	3	1						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物環境計測工学	3前		2		○		1							
		設計製図学演習Ⅰ	3前		2			○				1				
		フードシステム学	3前		2		○		1							
		農業情報ネットワーク	3前		2		○					1				
		電子計測学	3・4・後		2		○								兼1	
		自然災害科学	3前		2		○		1							
		土壌圏循環学	3前		2		○		2							ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	選択科目	物質循環解析学	3前		2		○		1							
		応用水文学	3前		2		○		1							
		土質力学	3前		2		○		1							
		実践農業土木学	3前		2		○		1							
		ビオトープ論	3前		2		○								兼1	
		CAD演習	3前		2			○	1							
		公共事業インターンシップ	3前		1			○	4	3		2				
		鉄筋コンクリート工学	3前		2		○		1							
		景観設計論	3前		2		○								兼1	
		陸海空・環境科学実習	3前・後		1			○	1	1					兼2	
		水理実験	3前・後		1			○		1		1				
		コンクリート・土質材料実験	3前・後		1			○	1							
		基礎メカトロニクス	3後		2		○		1							
		材料・加工学	3後		2		○								兼1	
		食料生産システム学	3後		2		○								兼1	
		実地見学	3後		1			○	1							
		設計製図学演習Ⅱ	3後		2			○	1							
		農業生産実習	3後		1			○	3						兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地理情報システム学	3後		2		○								兼1	
		農村ワークショップ運営実習	3後		1			○		1					兼1	
		土壌圏物質移動論	3後		2		○		1							
		フューチャー・アース学	3後		2		○		1							
		農村計画学	3後		2		○			1						
		地盤・防災工学	3後		2		○		1							
		農地工学	3後		2		○		1							
		水利施設工学	3後		2		○		1							
		農業土木学キャリアアップ演習	3後		2			○	1							
		かんがい排水学	3後		2		○		1							
		キャリア対策入門土木工学演習	3後4前		2			○	1							
		大気海洋循環学	4前		2		○		1	2						集中、ｵﾑﾆﾊﾞｽ

		共生環境学総論	2・3・後		2		○			11	3		1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		物理学総論	2・3前		2		○			4	3					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物学総論	2・3前・後		2		○								兼8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地学総論	2・3前・後		2		○			5	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		作物学	2前		2		○								兼1	
		土壌学	2前		2		○								兼1	
		農業経済学	2前		2		○								兼1	
		森林流域保全学	2前		2		○								兼1	
		資源植物学	2前		2		○								兼1	
		植物栄養学	2後		2		○								兼1	
		園芸植物生理学	2後		2		○								兼1	
		森林・緑環境計画学	2後		2		○								兼1	
		森林育成学	2後		2		○								兼1	
		生物化学工学	2後		2		○								兼1	
		森林生態学	3前		2		○								兼1	
		森林・緑環境評価学	3前		2		○								兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		海洋化学	3前・後		2		○								兼1	
		森林計画学演習	3後		2			○							兼1	
		地域社会論	3後		2		○								兼1	
		小計（95科目）	－	0	176	0	－			11	7	0	4	0	兼55	－
	自由科目	職業指導Ⅰ	2・3・4後		2		○								兼1	
	自由科目	小計（1科目）	－	0	2	0	－			0	0	0	0	0	兼1	－
合計（328科目）			－	79	510	0	－			11	7	0	4	0	兼397	－

学位又は称号	学士（生物資源学）	学位又は学科の分野	農学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
共通教育科目から40単位以上、専門教育科目から85単位以上、 合計125単位以上を修得する。 ※教養教育科目 全学必修科目：4単位、外国語教育：6単位、異文化理解：4単位、 健康科学：2単位、基礎教育：14単位、地域理解・日本理解：2単 位、国際理解・現代社会理解：4単位、現代科学理解：2単位、地 域理解・日本理解又は国際理解・現代社会理解から：2単位 ※専門教育科目 学部必修科目：9単位、学科必修科目：16単位、教育コース必修 必修科目：30単位、選択科目：22単位以上、自由科目：8単位以上	１学年の学期区分	２学期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業時間	９０分

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要　（　事　前　伺　い　）

（ 生物資源学部　共生環境学科　農業土木学教育コース）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	大学基礎科目	スタートアップセミナー	スタートアップＰＢＬセミナー	1前	2			○								兼4	共同（一部）
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼4	
		キャリア教育	キャリア教育入門	1後	2			○								兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼3	
		外国語（英語）	英語Ｉ大学基礎	1前・後	2				○							兼9	
			英語Ｉコミュニケーション	1前・後	2				○							兼11	
			小計（2科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼13	
		データサイエンス	データサイエンスⅠ	1前	2			○			1			1		兼9	共同（一部）
			データサイエンスⅡ	1後	2			○			1			1		兼7	共同（一部）
			小計（2科目）	－	4	0	0	－			1	0	0	1	0	兼15	
		スポーツ健康科学	スポーツ健康科学Ａ	1前	1					○						兼6	
			小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼6	
	教養基礎科目（副専攻科目）		英語ＩＴＯＥＩＣ	1前・後	2				○							兼14	
			英語Ｉ初級ＴＯＥＩＣ	1前・後		2			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ａａ	1前・後		1			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ａｂ	1後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｂ	1前・後		1			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ｃ	1前・後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｄ	1前・後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｅ	1前・後		1			○							兼1	
			スポーツ健康科学Ｂ	1後	1					○						兼5	
			スポーツ健康科学概論	1前		2		○								兼3	共同
			ＰＢＬアカデミック・ライティング	1前・後		2		○								兼4	
			哲学Ｆ	1前・後		2		○								兼1	
			哲学Ｇ	1前・後		2		○								兼1	
			哲学Ｉ	1前・後		2		○								兼1	
			倫理学Ａ	1前		2		○								兼1	
			倫理学Ｂ	1後		2		○								兼1	
			倫理学Ｆ	1前		2		○								兼1	
			倫理学Ｇ	1後		2		○								兼1	
			倫理学Ｈ	1後		2		○								兼1	
			倫理学Ｉ	1前・後		2		○								兼1	
			宗教学Ｂ	1前		2		○								兼1	

		宗教学C	1後		2			○							兼1	
		宗教学D	1前		2		○								兼1	
		日本考古学B	1後		2			○							兼1	
		日本史A	1前		2		○								兼1	
		日本史B	1前・後		2		○								兼1	
		日本史C	1前		2		○								兼1	
		日本文化論B	1前		2		○								兼1	
		西洋史A	1後		2		○								兼1	
		西洋史B	1前・後		2		○								兼1	
		西洋史C	1後		2			○							兼1	
		東洋史A	1前・後		2		○								兼1	
		東洋文化史	1前・後		2		○								兼1	
		演劇入門	1前		2		○								兼8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		日本文学A	1前・後		2		○								兼1	
		日本文学B	1前		2		○								兼1	
		日本文学C	1前・後		2		○								兼1	
		日本語学A	1前		2		○								兼1	
		日本語学B	1後		2		○								兼1	
		比較政治文化	1前・後		2			○							兼1	
		比較文化論	1前・後		2			○							兼1	
		こころのサポート	1前・後		2		○								兼3	
		心理学A	1前・後		2		○								兼3	
		心理学F	1前・後		2		○								兼2	
		日本国憲法	1前・後		2		○								兼4	
		法学A	1前		2		○								兼1	
		法学B	1前		2		○								兼1	
		法学C	1後		2		○								兼2	
		法学G	1前		2		○								兼1	
		社会学A	1前・後		2		○								兼4	
		社会学B	1前・後		2		○								兼2	
		文化人類学A	1前・後		2		○								兼2	
		文化人類学B	1前		2		○								兼1	
		政治学A	1前		2		○								兼2	
		政治学B	1前		2		○								兼1	
		政治学G	1前・後		2		○								兼3	
		ＰＢＬ政治学1	1前・後		2		○								兼1	
		ＰＢＬ政治学2	1前・後		2		○								兼1	
		経済学A	1後		2		○								兼1	
		経済学F	1前		2		○								兼2	
		経済学G	1前・後		2		○								兼6	
		人文地理学A	1前		2		○								兼2	
		人文地理学B	1前・後		2		○								兼1	
		人文地理学C	1後		2		○								兼1	
		文化と空間A	1前・後		2		○								兼1	
		文化と空間B	1前		2			○							兼1	
		文化と空間C	1前		2		○								兼1	
		日本学	1後		2		○								兼1	
		三重学1	1前・後		2		○								兼1	
		地域学	1後		2		○								兼1	
		情報科学A	1後		2		○								兼1	
		情報科学B	1前		2		○								兼1	

		情報科学C	1後		2		○								兼1	
		データサイエンスⅢ	1後		2		○								兼1	
		数理科学A	1前		2		○								兼1	
		数理科学B	1後		2		○								兼1	
		数理科学D	1前		2		○								兼1	
		数理科学F	1前・後		2		○								兼1	
		数理科学G	1後		2		○								兼1	
		数理科学H	1前・後		2		○								兼1	
		物理学1	1後		2		○								兼1	
		物理学2	1前・後		2		○								兼1	
		化学A	1前・後		2		○								兼14	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		化学B	1後		2		○								兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		生物学1	1前・後		2		○								兼1	
		生物学2	1後		2		○								兼1	
		生物学3	1前		2		○								兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物学4	1後		2		○								兼1	
		入門生物学	1前		2		○								兼1	
		自然科学概論1	1後		2		○								兼1	
		自然科学概論2	1前		2		○								兼6	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		自然科学概論3	1前		2			○							兼2	共同
		ＰＢＬ自然科学概論	1前		2		○								兼1	
		医学医療A1	1前		2		○								兼1	
		医学医療A2	1後		2		○								兼15	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		医学医療B1	1後		2		○								兼1	
		医学医療B2	1前・後		2		○								兼22	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		医学医療C1	1前・後		2		○								兼9	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		医学医療C2	1前		2		○								兼12	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		医学医療D	1後		2		○								兼14	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		医学医療入門	1前		2		○								兼16	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		国際保健と地域医療	1後		2		○								兼8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ＰＢＬ医学・看護学	1前・後		2		○								兼1	
		環境学A	1前・後		2		○								兼6	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		環境学F	1前		2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境地理学A	1前		2		○								兼1	
		環境地理学B	1後		2		○								兼1	
		環境地理学C	1前・後		2		○								兼1	
		環境科学1	1前・後		2		○								兼3	共同（一部）
		環境科学2	1前		2		○								兼7	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		生物資源学A	1前・後		2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物資源学B	1前・後		2		○								兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		地域防災論	1後		2		○			2					兼9	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		防災論	1前		2		○								兼13	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		音楽文化論	1後		2		○								兼1	
		日本理解特殊講義1	1前		2		○								兼2	
		日本理解特殊講義2	1前		2		○								兼8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		日本理解特殊講義4	1前・後		2		○								兼7	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		日本理解特殊講義5	1前・後		2		○								兼2	
		現代社会理解特殊講義1	1前・後		2		○								兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		現代社会理解特殊講義2	1前		2		○								兼11	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		現代社会理解特殊講義3	1後		2		○								兼2	
		現代社会理解特殊講義4	1前・後		2		○								兼1	

		現代社会理解実践1	1前		2		○							兼2	共同
		現代社会理解実践2	1後		2		○							兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		現代社会理解実践3	1前		2		○							兼1	
		国際理解実践1	1後		2		○							兼1	
		国際理解実践2	1後		2		○							兼1	
		国際理解実践3	1後		2		○							兼2	共同
		国際理解特殊講義1	1後		2		○							兼1	
		国際理解特殊講義2	1前・後		2		○							兼2	
		国際理解特殊講義3	1後		2		○							兼1	
		国際理解特殊講義4	1前・後		2		○							兼1	
		国際理解特殊講義5	1後		2		○							兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		現代科学理解特殊講義1	1後		2		○							兼1	
		現代科学理解特殊講義2	1後		2		○							兼7	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義1	1後		2		○							兼1	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義2	1後		2		○							兼1	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義3	1前・後		2			○						兼1	
		インターンシップ入門	1前・後		2		○							兼1	
		ピアサポート実践	1前・後		2			○						兼2	
		学習支援実践	1前		2			○						兼1	
		学生生活支援実践	1後		2			○						兼1	
		ビジネスキャリア入門	1前・後		2		○							兼1	
		ドイツの文化	1前・後		2		○							兼1	
		中国の文化	1前・後		2		○							兼1	
		ドイツ語ＩＡａ	1前・後		1			○						兼4	
		ドイツ語ＩＡｂ	1前・後		1			○						兼4	
		ドイツ語ＩＢａ	1前・後		1			○						兼6	
		ドイツ語ＩＢｂ	1前・後		1			○						兼6	
		フランス語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		フランス語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		フランス語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		フランス語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		中国語ＩＡａ	1前		1			○						兼8	
		中国語ＩＡｂ	1後		1			○						兼8	
		中国語ＩＢａ	1前		1			○						兼6	
		中国語ＩＢｂ	1後		1			○						兼6	
		朝鮮・韓国語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		朝鮮・韓国語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		朝鮮・韓国語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		朝鮮・韓国語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		ポルトガル語ＩＡａ	1前		1			○						兼2	
		ポルトガル語ＩＡｂ	1後		1			○						兼2	
		ポルトガル語ＩＢａ	1前		1			○						兼2	
		ポルトガル語ＩＢｂ	1後		1			○						兼2	

		フランス語Ⅱ総合ａ	1前		1			○							兼1	
		フランス語Ⅱ総合ｂ	1後		1			○							兼1	
		フランス語Ⅱ演習ａ	1前		1			○							兼1	
		フランス語Ⅱ演習ｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ総合ａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ総合ｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ演習ａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ演習ｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ａａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ａｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ｂａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ｂｂ	1後		1			○							兼1	
		小計（186科目）	－	3	322	0		－		2	0	0	0	0	兼322	
	専攻基礎科目	数学基礎	1前	2			○			3	1				兼1	
		物理学基礎Ⅰ	1前	2			○			1	1		1		兼1	
		物理学基礎Ⅱ	1後		2		○				1				兼4	
		化学基礎Ⅰ	1前	2			○								兼4	
		化学基礎Ⅱ	1後		2		○								兼2	
		化学実験	2前		1				○						兼13	共同
		生物学基礎Ⅰ	1前	2			○								兼4	
		生物学基礎Ⅱ	1後		2		○								兼6	
		生物学実験	2前		1				○						兼8	共同
		地学基礎	2前		2		○			1						
		小計（10科目）	－	8	10	0		－		5	2	0	1	0	兼37	
専門教育科目	学部必修科目	生物資源学総論	1前	2			○			1	2		1		兼10	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ体験演習	1通	1				○		1					兼10	集中
		技術者倫理	3後	2			○								兼1	
		卒業研究	4通	4				○		11	7		4			
		小計（4科目）	－	9	0	0		－		11	7	0	4	0	兼21	－
	学科必修科目	将来気候予測論	1前	2			○			3						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生態圏循環学	1後	2			○			4	1		2			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地球環境学概論	1後	2			○			2	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		共生環境フィールドサイエンスセミナー	1前・後	2				○		3	1					
		環境保全生態学	2前	2			○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境解析基礎Ⅰ	2前	2			○			2	1		1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境解析基礎Ⅱ	2前	2			○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境解析基礎Ⅲ	3前	2			○				1					
		小計（8科目）	－	16	0	0		－		11	7	0	3	0		－
	教育コース必修科目	環境系数学	1後	2			○				1					
		環境情報学	1後	2			○			1						
		応用数学	2前	2			○			1						
		基礎構造力学	2前	2			○			1						
		測量学	2前	2			○				1					
		基礎水理学	2前	2			○				1		1			
		フィールドサイエンス実習	2前	1					○	1	1				兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		測量学実習	2前	1					○		2					
		水理学	2後	2			○						1			
		基礎土質力学	2後	2			○			1						
		植物・土壌と水	2後	2			○			1						
		環境土壌学実験	2後	1					○	1	2					
		鉄筋コンクリート工学	3前	2			○			1						
		CAD演習	3前	2				○		1						
		公共事業インターンシップ	3前	1					○	4	3		2			
		水理実験	3前・後	1					○		1		1			
		コンクリート・土質材料実験	3前・後	1					○	1						
		農村ワークショップ運営実習	3後	1					○		1				兼1	
		かんがい排水学		2			○			1						
		小計（19科目）	－	31	0	0		－		4	3	0	2		兼4	－
	選択科目	入門数学演習	1後		2			○							兼1	
		Science EnglishⅠ	2前・後		2		○								兼1	
		Science EnglishⅡ	2・3前・後		2		○								兼1	

		紀伊黒潮流域圏航海実習	２後		1			○								兼3	集中
		生物資源学インターンシップ	2・3・4休		1			○	1								
		自然環境リテラシー学	１前・後		2			○	2	1		1					
		土壌物理学	2前		2	○				1							
		土壌学	2前		2	○										兼1	
		地球システム進化学	2前		2	○			1								
		地球環境リモートセンシング	2前		2	○			1								
		力学基礎Ⅰ	2前		2	○			1								
		応用力学Ⅰ	2前		2	○			1								
		ローカル気象学	2前		2	○				2							ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		電気・電子工学	2前		2	○			1								
		海洋地球科学乗船実習	２前・後		1			○		1						兼2	
		エネルギー利用学	２後		2	○										兼1	
		景観生態学	２後		2	○										兼1	
		構造力学	２後		2	○			1								
		測量学演習	２後		2		○			1						兼1	
		建設材料学	２後		2	○			1								
		水環境工学	２後		2	○				1							
		地形学	２後		2	○			1								
		国際環境保全学（英語）	２後		2	○			1								
		プログラミング	２後		2	○			1								
		情報科学応用演習	２後		2		○		1	1							ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		フィールド地質学	２後		2	○										兼1	
		グローバル気象学	２後		2	○			1	1							ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		気象・水文・水資源学	２後		2	○			1								
		未来地球システム学	２後		2	○			1								
		生物地球化学	２後		2	○										兼1	
		大気海洋科学	２後		2	○			1	1							ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物情報工学	２後		2	○			1								
		数値計算法	２後		2	○										兼1	
		応用力学Ⅱ	２後		2	○			1								
		力学基礎Ⅱ	２後		2	○			1								
		環境情報システム工学実習Ⅰ	２後		1			○	4			2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		確率統計解析	２後		2	○			1								
		システム制御学	２後		2	○			1								
		環境計測実験	２後		1			○	3	1							ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		実践農業土木学	３前		2	○			1								
		土質力学	３前		2	○			1								
		応用水文学	３前		2	○				1							
		農業情報ネットワーク	３前		2	○						1					
		ビオトープ論	３前		2	○										兼1	
		土壌圏循環学	３前		2	○			2								ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		物質循環解析学	３前		2	○			1								
		生物環境計測工学	３前		2	○			1								
		景観設計論	３前		2	○										兼1	
		フードシステム学	３前		2	○			1								
		自然災害科学	３前		2	○			1								
		設計製図学Ⅰ	３前		2	○			1								
		設計製図学演習Ⅰ	３前		2		○					1					
		環境情報システム工学実習Ⅱ	３前		1			○	4			2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		基礎メカトロニクス	３前		2	○			1								
		地球環境学セミナーⅠ	３前・後		1		○		4	3						兼1	
		陸海空・環境科学実習	３前・後		1			○	1	1						兼2	
		電子計測学	3・4前・後		2	○										兼1	
		ベンチャー企業論	2～4前・後		2	○			1							兼1	
		農村計画学	３後		2	○				1							
		地盤・防災工学	３後		2	○			1								
		農地工学	３後		2	○			1								
		水利施設工学	３後		2	○			1								
		農業土木学キャリアアップ演習	３後		2		○		1								
		土壌圏物質移動論	３後		2	○			1								
		地理情報システム学	３後		2	○										兼1	
		地域社会論	３後		2	○										兼1	
		フューチャー・アース学	３後		2	○			1								
		食料生産システム学	３後		2	○										兼1	
		農業生産実習	３後		1			○	3							兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		農業食料工学実験	３後		1			○	3	1		2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		材料・加工学	３後		2	○										兼1	
		設計製図学Ⅱ	３後		2	○						1					
		設計製図学演習Ⅱ	３後		2		○		1								
		実地見学	３後		1			○	1								
		キャリア対策入門土木工学演習	３後４前		2		○		1								
		大気海洋循環学	４前		2	○			1	2							集中、ｵﾑﾆﾊﾞｽ

	地球環境学セミナーⅡ	４前・後		1			○		4	3				兼1	
	地球環境学演習	４後		2			○		4	3				兼1	
	共生環境学総論	２・３前・後		2		○			11	3		1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	物理学総論	２・３前・後		2		○			4	3					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	生物学総論	２・３前・後		2		○								兼8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	地学総論	２・３前・後		2		○			5	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	資源植物学	２前		2		○								兼1	
	森林流域保全学	２前		2		○								兼1	
	作物学	２前		2		○								兼1	
	農業経済学	２前		2		○								兼1	
	植物栄養学	２後		2		○								兼1	
	園芸植物生理学	２後		2		○								兼1	
	森林・緑環境計画学	２後		2		○								兼1	
	生物化学工学	２後		2		○								兼1	
	森林育成学	２後		2		○								兼1	
	森林生態学	３前		2		○								兼1	
	森林・緑環境評価学	３前		2		○								兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	森林計画学演習	３後		2			○							兼1	
	海洋化学	３前・後		2		○								兼1	
	小計（95科目）	－	0	178	0	－			11	7	0	4	0	兼52	－
自由科目	職業指導Ⅰ	２・３・４後		2		○								兼1	
	小計（１科目）	－	0	2	0	－			0	0	0	0	0	兼1	－
合計（330科目）		－	80	512	0	－			11	7	0	4	0	兼396	－

学位又は称号	学士（生物資源学）	学位又は学科の分野	農学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
共通教育科目から40単位以上、専門教育科目から85単位以上、 合計125単位以上を修得する。 ※教養教育科目 全学必修科目：4単位、外国語教育：6単位、異文化理解：4単位、健康科学：2単位、基礎教育：14単位、地域理解・日本理解：2単位、国際理解・現代社会理解：4単位、現代科学理解：2単位、地域理解・日本理解又は国際理解・現代社会理解から：2単位 ※専門教育科目 学部必修科目：9単位、学科必修科目：16単位、教育コース必修科目：31単位、選択科目：21単位以上、自由科目：8単位以上	１学年の学期区分	２学期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業時間	９０分

（別添2－2）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要　（　事　前　伺　い　）

（ 生物資源学部　生物圏生命化学科　生命機能化学教育コース）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	大学基礎科目	スタートアップセミナー	スタートアップＰＢＬセミナー	1前	2			○								兼4	共同（一部）
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼4	
		キャリア教育	キャリア教育入門	1後	2			○				1				兼1	オムニバス（一部）
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	1	0	0	0	兼1	
		外国語（英語）	英語Ⅰ大学基礎	1前・後	2				○							兼9	
			英語Ⅰコミュニケーション	1前・後	2				○							兼11	
			小計（2科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼13	
		データサイエンス	データサイエンスⅠ	1前	2			○								兼11	共同（一部）
			データサイエンスⅡ	1後	2			○				1		1		兼7	共同（一部）
			小計（2科目）	－	4	0	0	－				1	0	1	0	兼13	
		スポーツ健康科学	スポーツ健康科学Ａ	1前	1					○						兼6	
			小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼6	
	教養基礎科目（副専攻科目）		英語ＴＯＥＩＣ	1前・後	2				○							兼14	
			英語Ⅰ初級ＴＯＥＩＣ	1前・後		2			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ａａ	1前・後		1			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ａｂ	1後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｂ	1前・後		1			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ｃ	1前・後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｄ	1前・後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｅ	1前・後		1			○							兼1	
			スポーツ健康科学Ｂ	1後	1					○						兼5	
			スポーツ健康科学概論	1前		2		○								兼3	共同
			ＰＢＬアカデミック・ライティング	1前・後		2		○								兼4	
			哲学Ｆ	1前・後		2		○								兼1	
			哲学Ｇ	1前・後		2		○								兼1	
			哲学Ⅰ	1前・後		2		○								兼1	
			倫理学Ａ	1前		2		○								兼1	
			倫理学Ｂ	1後		2		○								兼1	
			倫理学Ｆ	1前		2		○								兼1	
			倫理学Ｇ	1後		2		○								兼1	
			倫理学Ｈ	1後		2		○								兼1	
			倫理学Ⅰ	1前・後		2		○								兼1	
			宗教学Ｂ	1前		2		○								兼1	

		宗教学C	1後		2			○								兼1	
		宗教学D	1前		2		○									兼1	
		日本考古学B	1後		2			○								兼1	
		日本史A	1前		2		○									兼1	
		日本史B	1前・後		2		○									兼1	
		日本史C	1前		2		○									兼1	
		日本文化論B	1前		2		○									兼1	
		西洋史A	1後		2		○									兼1	
		西洋史B	1前・後		2		○									兼1	
		西洋史C	1後		2			○								兼1	
		東洋史A	1前・後		2		○									兼1	
		東洋文化史	1前・後		2		○									兼1	
		演劇入門	1前		2		○									兼8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		日本文学A	1前・後		2		○									兼1	
		日本文学B	1前		2		○									兼1	
		日本文学C	1前・後		2		○									兼1	
		日本語学A	1前		2		○									兼1	
		日本語学B	1後		2		○									兼1	
		比較政治文化	1前・後		2			○								兼1	
		比較文化論	1前・後		2			○								兼1	
		こころのサポート	1前・後		2		○									兼3	
		心理学A	1前・後		2		○									兼3	
		心理学F	1前・後		2		○									兼2	
		日本国憲法	1前・後		2		○									兼4	
		法学A	1前		2		○									兼1	
		法学B	1前		2		○									兼1	
		法学C	1後		2		○									兼2	
		法学G	1前		2		○									兼1	
		社会学A	1前・後		2		○									兼4	
		社会学B	1前・後		2		○									兼2	
		文化人類学A	1前・後		2		○									兼2	
		文化人類学B	1前		2		○									兼1	
		政治学A	1前		2		○									兼2	
		政治学B	1前		2		○									兼1	
		政治学G	1前・後		2		○									兼3	
		ＰＢＬ政治学1	1前・後		2		○									兼1	
		ＰＢＬ政治学2	1前・後		2		○									兼1	
		経済学A	1後		2		○									兼1	
		経済学F	1前		2		○									兼2	
		経済学G	1前・後		2		○									兼6	
		人文地理学A	1前		2		○									兼2	
		人文地理学B	1前・後		2		○									兼1	
		人文地理学C	1後		2		○									兼1	
		文化と空間A	1前・後		2		○									兼1	
		文化と空間B	1前		2			○								兼1	
		文化と空間C	1前		2		○									兼1	
		日本学	1後		2		○									兼1	
		三重学1	1前・後		2		○									兼1	
		地域学	1後		2		○									兼1	
		情報科学A	1後		2		○									兼1	
		情報科学B	1前		2		○									兼1	

		情報科学C	1後		2		○								兼1	
		データサイエンスⅢ	1後		2		○								兼1	
		数理科学A	1前		2		○								兼1	
		数理科学B	1後		2		○								兼1	
		数理科学D	1前		2		○								兼1	
		数理科学F	1前・後		2		○								兼1	
		数理科学G	1後		2		○								兼1	
		数理科学H	1前・後		2		○								兼1	
		物理学1	1後		2		○								兼1	
		物理学2	1前・後		2		○								兼1	
		化学A	1前・後		2		○								兼14	オムニバス
		化学B	1後		2		○								兼3	オムニバス(一部)
		生物学1	1前・後		2		○								兼1	
		生物学2	1後		2		○								兼1	
		生物学3	1前		2		○								兼4	オムニバス
		生物学4	1後		2		○								兼1	
		入門生物学	1前		2		○								兼1	
		自然科学概論1	1後		2		○								兼1	
		自然科学概論2	1前		2		○			1	4				兼1	オムニバス
		自然科学概論3	1前		2			○							兼2	共同
		ＰＢＬ自然科学概論	1前		2		○								兼1	
		医学医療A1	1前		2		○								兼1	
		医学医療A2	1後		2		○								兼15	オムニバス
		医学医療B1	1後		2		○								兼1	
		医学医療B2	1前・後		2		○								兼22	オムニバス
		医学医療C1	1前・後		2		○								兼9	オムニバス(一部)
		医学医療C2	1前		2		○								兼12	オムニバス(一部)
		医学医療D	1後		2		○								兼14	オムニバス
		医学医療入門	1前		2		○								兼16	オムニバス
		国際保健と地域医療	1後		2		○								兼8	オムニバス
		ＰＢＬ医学・看護学	1前・後		2		○								兼1	
		環境学A	1前・後		2		○								兼7	オムニバス(一部)
		環境学F	1前		2		○								兼2	オムニバス
		環境地理学A	1前		2		○								兼1	
		環境地理学B	1後		2		○								兼1	
		環境地理学C	1前・後		2		○								兼1	
		環境科学1	1前・後		2		○								兼3	共同(一部)
		環境科学2	1前		2		○								兼7	オムニバス(一部)
		生物資源学A	1前・後		2		○								兼2	オムニバス
		生物資源学B	1前・後		2		○								兼3	オムニバス(一部)
		地域防災論	1後		2		○								兼11	オムニバス
		防災論	1前		2		○								兼13	オムニバス(一部)
		音楽文化論	1後		2		○								兼1	
		日本理解特殊講義1	1前		2		○								兼2	
		日本理解特殊講義2	1前		2		○								兼8	オムニバス
		日本理解特殊講義4	1前・後		2		○								兼7	オムニバス
		日本理解特殊講義5	1前・後		2		○								兼2	
		現代社会理解特殊講義1	1前・後		2		○								兼4	オムニバス
		現代社会理解特殊講義2	1前		2		○			1					兼10	オムニバス
		現代社会理解特殊講義3	1後		2		○				1				兼1	
		現代社会理解特殊講義4	1前・後		2		○								兼1	

		現代社会理解実践1	1前	2	○								兼2	共同
		現代社会理解実践2	1後	2	○								兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		現代社会理解実践3	1前	2	○								兼1	
		国際理解実践1	1後	2	○								兼1	
		国際理解実践2	1後	2	○								兼1	
		国際理解実践3	1後	2	○								兼2	共同
		国際理解特殊講義1	1後	2	○								兼1	
		国際理解特殊講義2	1前・後	2	○								兼2	
		国際理解特殊講義3	1後	2	○								兼1	
		国際理解特殊講義4	1前・後	2	○								兼1	
		国際理解特殊講義5	1後	2	○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		現代科学理解特殊講義1	1後	2	○								兼1	
		現代科学理解特殊講義2	1後	2	○								兼7	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義1	1後	2	○								兼1	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義2	1後	2	○								兼1	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義3	1前・後	2		○							兼1	
		インターンシップ入門	1前・後	2	○								兼1	
		ピアサポート実践	1前・後	2		○							兼2	
		学習支援実践	1前	2		○							兼1	
		学生生活支援実践	1後	2		○							兼1	
		ビジネスキャリア入門	1前・後	2	○								兼1	
		ドイツの文化	1前・後	2	○								兼1	
		中国の文化	1前・後	2	○								兼1	
		ドイツ語ＩＡａ	1前・後	1		○							兼4	
		ドイツ語ＩＡｂ	1前・後	1		○							兼4	
		ドイツ語ＩＢａ	1前・後	1		○							兼6	
		ドイツ語ＩＢｂ	1前・後	1		○							兼6	
		フランス語ＩＡａ	1前	1		○							兼1	
		フランス語ＩＡｂ	1後	1		○							兼1	
		フランス語ＩＢａ	1前	1		○							兼1	
		フランス語ＩＢｂ	1後	1		○							兼1	
		中国語ＩＡａ	1前	1		○							兼8	
		中国語ＩＡｂ	1後	1		○							兼8	
		中国語ＩＢａ	1前	1		○							兼6	
		中国語ＩＢｂ	1後	1		○							兼6	
		朝鮮・韓国語ＩＡａ	1前	1		○							兼1	
		朝鮮・韓国語ＩＡｂ	1後	1		○							兼1	
		朝鮮・韓国語ＩＢａ	1前	1		○							兼1	
		朝鮮・韓国語ＩＢｂ	1後	1		○							兼1	
		ロシア語ＩＡａ	1前	1		○							兼1	
		ロシア語ＩＡｂ	1後	1		○							兼1	
		ロシア語ＩＢａ	1前	1		○							兼1	
		ロシア語ＩＢｂ	1後	1		○							兼1	
		スペイン語ＩＡａ	1前	1		○							兼1	
		スペイン語ＩＡｂ	1後	1		○							兼1	
		スペイン語ＩＢａ	1前	1		○							兼1	
		スペイン語ＩＢｂ	1後	1		○							兼1	
		ポルトガル語ＩＡａ	1前	1		○							兼2	
		ポルトガル語ＩＡｂ	1後	1		○							兼2	
		ポルトガル語ＩＢａ	1前	1		○							兼2	
		ポルトガル語ＩＢｂ	1後	1		○							兼2	

		フランス語Ⅱ総合ａ	1前		1			○							兼1	
		フランス語Ⅱ総合ｂ	1後		1			○							兼1	
		フランス語Ⅱ演習ａ	1前		1			○							兼1	
		フランス語Ⅱ演習ｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ総合ａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ総合ｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ演習ａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ演習ｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ａａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ａｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ｂａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ｂｂ	1後		1			○							兼1	
		小計（186科目）	－	3	322	0		－		2	5	0	0	0	兼317	
	専攻基礎科目	数学基礎	1前	2			○								兼5	
		物理学基礎Ⅰ	1前	2			○								兼4	
		物理学基礎Ⅱ	1後		2		○								兼3	
		化学基礎Ⅰ	1前	2			○			4						
		化学基礎Ⅱ	1後		2		○			1	1					
		化学実験	2前		1				○						兼13	**共同**
		生物学基礎Ⅰ	1前	2			○								兼4	**共同**
		生物学基礎Ⅱ	1後		2		○								兼6	**共同**
		生物学実験	2前		1				○						兼8	**共同**
		地学基礎	2前		2		○								兼1	
		小計（10科目）	－	8	10	0		－		5	1	0	0	0	兼39	
専門教育科目	学部必修科目	生物資源学総論	1前	2			○				4				兼10	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ体験演習	1通	1				○			1				兼10	集中
		技術者倫理	3前	2			○								兼1	
		卒業研究	4通	4				○		8	11		4			
		小計（4科目）	－	9	0	0		－		8	11	0	4	0	兼21	－
	学科必修科目	細胞生物学	1後	2			○				2				兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		有機化学Ⅰ	1後	2			○			1						
		生物圏生命化学概論	1後・2前	2			○			5	4		1		兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		分子生物学	2前	2			○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		有機化学Ⅱ	2前	2			○			1						
		生化学Ⅰ	2前	2			○			1					兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		微生物学	2前	2			○			3						
		生化学Ⅱ	2後	2			○				1				兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		分析化学	2後	2			○				1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物圏生命化学英語	3後	2			○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		小計（10科目）	－	20	0	0		－		8	8	0	1	0	兼6	－
	教育コース必修科目	物理化学	2前	2			○								兼1	
		生物物理化学	2前	2			○				1					
		食品化学	2後	2			○				1					
		創薬化学	2後	2			○				1					
		微生物利用学	2後	2			○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物化学工学	2後	2			○			1						
		生命機能化学実験実習１	2後	1					○		1				兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生命機能化学実験実習２	2後	1					○		2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		微生物遺伝学	3前	2			○			1						
		栄養化学	3前	2			○				1					
		生命機能化学実験実習３	3前	1					○		3					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生命機能化学実験実習４	3前	1					○		2		1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生命機能化学実験実習５	3前	1					○	2	1		1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物機能化学	3後	2			○				1					
		生命機能化学演習Ⅰ	3後	2				○		4	7		2		兼1	共同
		生命機能化学演習Ⅱ	4前・後	2				○		4	7		2		兼1	共同
		小計（16科目）	－	27	0	0		－		5	9	0	2	0	兼4	－
	選択科目	入門数学演習	1後		2			○							兼1	
		Science EnglishⅠ	2前・後		2		○								兼1	
		Science EnglishⅡ	2・3前・後		2		○								兼1	
		紀伊黒潮流域圏航海実習	2後		1				○						兼3	集中

		生物資源学インターンシップ	2・3・4休		1			○	1							
		生理学	1後		2		○								兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		土壌学	2前		2		○								兼1	
		食品安全化学	2・3前・後		2		○								兼1	集中
		環境化学概論	2後		2		○								兼1	
		食品衛生学	2後		2		○			1						
		遺伝子工学	2後		2		○		1							
		生物情報工学	2後		2		○		1							
		生物無機化学	2後		2		○								兼1	集中
		水産食品衛生学	2後		2		○		1							
		水圏生物化学	2後		2		○		1							
		海洋生命分子化学実験１	2後		1			○		1		1				
		海洋生命分子化学実験２	2後		1			○	2						兼1	
		食品工学	3前		2		○		1							
		応用酵素化学	3前		2		○		1	1						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		脂質化学	3前		2		○			1						
		生物物性学	3前		2		○		1						兼1	
		バイオインフォマティクス	3前		2		○		1							
		海洋資源微生物学	3前		2		○			1						
		水産食品化学	3前		2		○			1						
		海洋天然物化学	3前		2		○								兼1	集中
		生体代謝化学	3前		2		○			1						
		海洋生命分子化学実験３	3前		1			○	1	1						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物プロセス工学	3後		2		○								兼1	
		生命機能化学実験実習６	3後		1			○		1						
		公衆衛生学	4前		2		○								兼1	
		物理学概論	3前・後		2		○		1	1					兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・集中
		化学概論	3前・後		2		○		2	2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ・集中
		生物学概論	3前・後		2		○		2	2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ・集中
		農林学総論	1後		2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地球システム進化学	2前		2		○								兼1	
		動物生産学	2前		2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		食用作物学	2後		2		○								兼1	
		園芸植物生理学	2後		2		○								兼1	
		動物機能学	2後		2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		工芸作物学	3前		2		○								兼2	
		小計（40科目）	－	0	74	0	－		8	11	0	2	0	兼29	－	
	自由科目	職業指導Ⅰ	2・3・4後		2		○								兼1	
		小計（１科目）	－	0	2	0	－		0	0	0	0	0	兼1	－	
合計（274科目）			－	80	408	0	－		8	11	0	4	0	兼416	－	

学位又は称号	学士（生物資源学）	学位又は学科の分野	農学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
共通教育科目から41単位以上、専門教育科目から84単位以上、合計125単位以上を修得する。 ※教養教育科目 全学必修科目：4単位、外国語教育：6単位、異文化理解：4単位、健康科学：2単位、基礎教育：15単位、地域理解・日本理解：2単位、国際理解・現代社会理解：4単位、現代科学理解：2単位、地域理解・日本理解又は国際理解・現代社会理解から：2単位 ※専門教育科目 学部必修科目：9単位、学科必修科目：20単位、教育コース必修科目：27単位、選択科目：20単位以上、自由科目：8単位以上	１学年の学期区分	２学期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業時間	９０分

（別添2－2）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要　（　事　前　伺　い　）

（ 生物資源学部　生物圏生命化学科　海洋生命分子化学教育コース）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	大学基礎科目	スタートアップセミナー	スタートアップＰＢＬセミナー	1前	2			○								兼4	共同（一部）
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼4	
		キャリア教育	キャリア教育入門	1後	2			○				1				兼1	オムニバス（一部）
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	1	0	0	0	兼1	
		外国語（英語）	英語Ⅰ大学基礎	1前・後	2				○							兼9	
			英語Ⅰコミュニケーション	1前・後	2				○							兼11	
			小計（2科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼13	
		データサイエンス	データサイエンスⅠ	1前	2			○								兼11	共同（一部）
			データサイエンスⅡ	1後	2			○				1		1		兼7	共同（一部）
			小計（2科目）	－	4	0	0	－				1	0	1	0	兼13	
		スポーツ健康科学	スポーツ健康科学Ａ	1前	1					○						兼6	
			小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼6	
	教養基礎科目（副専攻科目）		英語ＩＴＯＥＩＣ	1前・後	2				○							兼14	
			英語Ⅰ初級ＴＯＥＩＣ	1前・後		2			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ａａ	1前・後		1			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ａｂ	1後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｂ	1前・後		1			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ｃ	1前・後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｄ	1前・後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｅ	1前・後		1			○							兼1	
			スポーツ健康科学Ｂ	1後	1					○						兼5	
			スポーツ健康科学概論	1前		2		○								兼3	共同
			ＰＢＬアカデミック・ライティング	1前・後		2		○								兼4	
			哲学Ｆ	1前・後		2		○								兼1	
			哲学Ｇ	1前・後		2		○								兼1	
			哲学Ⅰ	1前・後		2		○								兼1	
			倫理学Ａ	1前		2		○								兼1	
			倫理学Ｂ	1後		2		○								兼1	
			倫理学Ｆ	1前		2		○								兼1	
			倫理学Ｇ	1後		2		○								兼1	
			倫理学Ｈ	1後		2		○								兼1	
			倫理学Ⅰ	1前・後		2		○								兼1	
			宗教学Ｂ	1前		2		○								兼1	

		宗教学C	1後		2			○							兼1	
		宗教学D	1前		2		○								兼1	
		日本考古学B	1後		2			○							兼1	
		日本史A	1前		2		○								兼1	
		日本史B	1前・後		2		○								兼1	
		日本史C	1前		2		○								兼1	
		日本文化論B	1前		2		○								兼1	
		西洋史A	1後		2		○								兼1	
		西洋史B	1前・後		2		○								兼1	
		西洋史C	1後		2			○							兼1	
		東洋史A	1前・後		2		○								兼1	
		東洋文化史	1前・後		2		○								兼1	
		演劇入門	1前		2		○								兼8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		日本文学A	1前・後		2		○								兼1	
		日本文学B	1前		2		○								兼1	
		日本文学C	1前・後		2		○								兼1	
		日本語学A	1前		2		○								兼1	
		日本語学B	1後		2		○								兼1	
		比較政治文化	1前・後		2			○							兼1	
		比較文化論	1前・後		2			○							兼1	
		こころのサポート	1前・後		2		○								兼3	
		心理学A	1前・後		2		○								兼3	
		心理学F	1前・後		2		○								兼2	
		日本国憲法	1前・後		2		○								兼4	
		法学A	1前		2		○								兼1	
		法学B	1前		2		○								兼1	
		法学C	1後		2		○								兼2	
		法学G	1前		2		○								兼1	
		社会学A	1前・後		2		○								兼4	
		社会学B	1前・後		2		○								兼2	
		文化人類学A	1前・後		2		○								兼2	
		文化人類学B	1前		2		○								兼1	
		政治学A	1前		2		○								兼2	
		政治学B	1前		2		○								兼1	
		政治学G	1前・後		2		○								兼3	
		ＰＢＬ政治学1	1前・後		2		○								兼1	
		ＰＢＬ政治学2	1前・後		2		○								兼1	
		経済学A	1後		2		○								兼1	
		経済学F	1前		2		○								兼2	
		経済学G	1前・後		2		○								兼6	
		人文地理学A	1前		2		○								兼2	
		人文地理学B	1前・後		2		○								兼1	
		人文地理学C	1後		2		○								兼1	
		文化と空間A	1前・後		2		○								兼1	
		文化と空間B	1前		2			○							兼1	
		文化と空間C	1前		2		○								兼1	
		日本学	1後		2		○								兼1	
		三重学1	1前・後		2		○								兼1	
		地域学	1後		2		○								兼1	
		情報科学A	1後		2		○								兼1	
		情報科学B	1前		2		○								兼1	

		情報科学C	1後		2		○								兼1	
		データサイエンスⅢ	1後		2		○								兼1	
		数理科学A	1前		2		○								兼1	
		数理科学B	1後		2		○								兼1	
		数理科学D	1前		2		○								兼1	
		数理科学F	1前・後		2		○								兼1	
		数理科学G	1後		2		○								兼1	
		数理科学H	1前・後		2		○								兼1	
		物理学1	1後		2		○								兼1	
		物理学2	1前・後		2		○								兼1	
		化学A	1前・後		2		○								兼14	オムニバス
		化学B	1後		2		○								兼3	オムニバス(一部)
		生物学1	1前・後		2		○								兼1	
		生物学2	1後		2		○								兼1	
		生物学3	1前		2		○								兼4	オムニバス
		生物学4	1後		2		○								兼1	
		入門生物学	1前		2		○								兼1	
		自然科学概論1	1後		2		○								兼1	
		自然科学概論2	1前		2		○		1	4					兼1	オムニバス
		自然科学概論3	1前		2			○							兼2	共同
		ＰＢＬ自然科学概論	1前		2		○								兼1	
		医学医療A1	1前		2		○								兼1	
		医学医療A2	1後		2		○								兼15	オムニバス
		医学医療B1	1後		2		○								兼1	
		医学医療B2	1前・後		2		○								兼22	オムニバス
		医学医療C1	1前・後		2		○								兼9	オムニバス(一部)
		医学医療C2	1前		2		○								兼12	オムニバス(一部)
		医学医療D	1後		2		○								兼14	オムニバス
		医学医療入門	1前		2		○								兼16	オムニバス
		国際保健と地域医療	1後		2		○								兼8	オムニバス
		ＰＢＬ医学・看護学	1前・後		2		○								兼1	
		環境学A	1前・後		2		○								兼7	オムニバス(一部)
		環境学F	1前		2		○								兼2	オムニバス
		環境地理学A	1前		2		○								兼1	
		環境地理学B	1後		2		○								兼1	
		環境地理学C	1前・後		2		○								兼1	
		環境科学1	1前・後		2		○								兼3	共同(一部)
		環境科学2	1前		2		○								兼7	オムニバス(一部)
		生物資源学A	1前・後		2		○								兼2	オムニバス
		生物資源学B	1前・後		2		○								兼3	オムニバス(一部)
		地域防災論	1後		2		○								兼11	オムニバス
		防災論	1前		2		○								兼13	オムニバス(一部)
		音楽文化論	1後		2		○								兼1	
		日本理解特殊講義1	1前		2		○								兼2	
		日本理解特殊講義2	1前		2		○								兼8	オムニバス
		日本理解特殊講義4	1前・後		2		○								兼7	オムニバス
		日本理解特殊講義5	1前・後		2		○								兼2	
		現代社会理解特殊講義1	1前・後		2		○								兼4	オムニバス
		現代社会理解特殊講義2	1前		2		○		1						兼10	オムニバス
		現代社会理解特殊講義3	1後		2		○			1					兼1	
		現代社会理解特殊講義4	1前・後		2		○								兼1	

		現代社会理解実践1	1前		2		○							兼2	共同
		現代社会理解実践2	1後		2		○							兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		現代社会理解実践3	1前		2		○							兼1	
		国際理解実践1	1後		2		○							兼1	
		国際理解実践2	1後		2		○							兼1	
		国際理解実践3	1後		2		○							兼2	共同
		国際理解特殊講義1	1後		2		○							兼1	
		国際理解特殊講義2	1前・後		2		○							兼2	
		国際理解特殊講義3	1後		2		○							兼1	
		国際理解特殊講義4	1前・後		2		○							兼1	
		国際理解特殊講義5	1後		2		○							兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		現代科学理解特殊講義1	1後		2		○							兼1	
		現代科学理解特殊講義2	1後		2		○							兼7	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義1	1後		2		○							兼1	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義2	1後		2		○							兼1	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義3	1前・後		2			○						兼1	
		インターンシップ入門	1前・後		2		○							兼1	
		ピアサポート実践	1前・後		2			○						兼2	
		学習支援実践	1前		2			○						兼1	
		学生生活支援実践	1後		2			○						兼1	
		ビジネスキャリア入門	1前・後		2		○							兼1	
		ドイツの文化	1前・後		2		○							兼1	
		中国の文化	1前・後		2		○							兼1	
		ドイツ語ＩＡａ	1前・後		1			○						兼4	
		ドイツ語ＩＡｂ	1前・後		1			○						兼4	
		ドイツ語ＩＢａ	1前・後		1			○						兼6	
		ドイツ語ＩＢｂ	1前・後		1			○						兼6	
		フランス語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		フランス語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		フランス語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		フランス語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		中国語ＩＡａ	1前		1			○						兼8	
		中国語ＩＡｂ	1後		1			○						兼8	
		中国語ＩＢａ	1前		1			○						兼6	
		中国語ＩＢｂ	1後		1			○						兼6	
		朝鮮・韓国語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		朝鮮・韓国語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		朝鮮・韓国語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		朝鮮・韓国語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		ロシア語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＡａ	1前		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＡｂ	1後		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＢａ	1前		1			○						兼1	
		スペイン語ＩＢｂ	1後		1			○						兼1	
		ポルトガル語ＩＡａ	1前		1			○						兼2	
		ポルトガル語ＩＡｂ	1後		1			○						兼2	
		ポルトガル語ＩＢａ	1前		1			○						兼2	
		ポルトガル語ＩＢｂ	1後		1			○						兼2	

		フランス語Ⅱ総合ａ	1前		1			○							兼1	
		フランス語Ⅱ総合ｂ	1後		1			○							兼1	
		フランス語Ⅱ演習ａ	1前		1			○							兼1	
		フランス語Ⅱ演習ｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ総合ａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ総合ｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ演習ａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅱ演習ｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ａａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ａｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ｂａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ｂｂ	1後		1			○							兼1	
		小計（186科目）	－	3	322	0		－		2	5	0	0	0	兼317	
	専攻基礎科目	数学基礎	1前	2			○								兼5	
		物理学基礎Ⅰ	1前	2			○								兼4	
		物理学基礎Ⅱ	1後		2		○								兼3	
		化学基礎Ⅰ	1前	2			○			4						
		化学基礎Ⅱ	1後		2		○			1	1					
		化学実験	2前		1				○						兼13	**共同**
		生物学基礎Ⅰ	1前	2			○								兼4	**共同**
		生物学基礎Ⅱ	1後		2		○								兼6	**共同**
		生物学実験	2前		1				○						兼8	**共同**
		地学基礎	2前		2		○								兼1	
		小計（10科目）	－	8	10	0		－		5	1	0	0	0	兼39	
専門教育科目	学部必修科目	生物資源学総論	1前	2			○				4				兼10	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ体験演習	1通	1				○			1				兼10	集中
		技術者倫理	3前	2			○								兼1	
		卒業研究	4通	4				○		8	11		4			
		小計（4科目）	－	9	0	0		－		8	11	0	4	0	兼21	－
	学科必修科目	細胞生物学	1後	2			○				2				兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		有機化学Ⅰ	1後	2			○			1						
		生物圏生命化学概論	1後・2前	2			○			5	4		1		兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		分子生物学	2前	2			○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		有機化学Ⅱ	2前	2			○			1						
		生化学Ⅰ	2前	2			○			1					兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		微生物学	2前	2			○			3						
		生化学Ⅱ	2後	2			○				1				兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		分析化学	2後	2			○				1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物圏生命化学英語	3後	2			○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		小計（10科目）	－	20	0	0		－		8	8	0	1	0	兼6	－
	教育コース必修科目	水圏生物化学	2後	2			○			1						
		遺伝子工学	2後	2			○			1						
		水産食品衛生学	2後	2			○			1						
		海洋生命分子化学実験１	2後	1					○		1		1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		海洋生命分子化学実験２	2後	1					○	2					兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		バイオインフォマティクス	3前	2			○			1						
		海洋資源微生物学	3前	2			○				1					
		水産食品化学	3前	2			○				1					
		生物物性学	3前	2			○			1					兼1	
		海洋天然物化学	3前	2			○								兼1	集中
		脂質化学	3前	2			○				1					
		海洋生命分子化学実験３	3前	1					○	1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		マリンフードプロセス実習	3前	1					○	2	1					共同
		海洋生命分子化学実習	3前	1					○		2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		海洋生命分子化学演習Ⅰ	3後	2				○		4	4		2		兼1	共同
		海洋生命分子化学演習Ⅱ	4前・後	2				○		4	4		2		兼1	共同
		小計（16科目）	－	27	0	0		－		6	7	0	2	0	兼5	－
	選択科目	入門数学演習	1後		2			○							兼1	
		Science EnglishⅠ	2前・後		2		○								兼1	
		Science EnglishⅡ	2・3前・後		2		○								兼1	
		紀伊黒潮流域圏航海実習	2後		1				○						兼3	集中

		生物資源学インターンシップ	2・3・4休	1			○	1								
		生理学	1後	2		○								兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ	
		物理化学	2前	2		○								兼1		
		生物物理化学	2前	2		○			1							
		環境化学概論	2後	2		○								兼1		
		創薬化学	2後	2		○			1							
		食品化学	2後	2		○			1							
		微生物利用学	2後	2		○		2							ｵﾑﾆﾊﾞｽ	
		生物化学工学	2後	2		○		1								
		生物無機化学	2後	2		○								兼1	集中	
		食品衛生学	2後	2		○			1							
		食品工学	3前	2		○		1								
		応用酵素化学	3前	2		○		1	1						ｵﾑﾆﾊﾞｽ	
		栄養化学	3前	2		○			1							
		微生物遺伝学	3前	2		○		1								
		生体代謝化学	3前	2		○			1							
		生物プロセス工学	3後	2		○								兼1		
		生物機能化学	3後	2		○			1							
		食品安全化学	2・3前・後	2		○								兼1	集中	
		公衆衛生学	4前	2		○								兼1		
		生命機能化学実験実習１	2後	1			○		1					兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ	
		生命機能化学実験実習２	2後	1			○		2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ	
		生命機能化学実験実習３	3前	1			○		3						ｵﾑﾆﾊﾞｽ	
		生命機能化学実験実習４	3前	1			○		2		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ	
		生命機能化学実験実習５	3前	1			○	2	1		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ	
		生命機能化学実験実習６	3後	1			○		1							
		生命機能化学演習Ⅰ	3後	2			○	4	7		2			兼1	共同	
		生命機能化学演習Ⅱ	4前・後	2			○	4	7		2			兼1	共同	
		物理学概論	3前・後	2		○		1	1					兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ・集中	
		化学概論	3前・後	2		○		2	2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ・集中	
		生物学概論	3前・後	2		○		2	2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ・集中	
		農林学総論	1後	2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ	
		土壌学	2前	2		○								兼1		
		動物生産学	2前	2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ	
		地球システム進化学	2前	2		○								兼1		
		食用作物学	2後	2		○								兼1		
		園芸植物生理学	2後	2		○								兼1		
		動物機能学	2後	2		○								兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ	
		生物情報工学	2後	2		○								兼1		
		工芸作物学	3前	2		○								兼2		
		小計（44科目）	－	0	80	0	－		8	11	0	2	0	兼31	－	
	自由科目	職業指導Ⅰ	2・3・4後		2		○							兼1		
		小計（１科目）	－	0	2	0	－		0	0	0	0	0	兼1	－	
合計（278科目）			－	80	414	0	－		8	11	0	4	0	兼414	－	

学位又は称号	学士（生物資源学）	学位又は学科の分野	農学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
共通教育科目から41単位以上、専門教育科目から84単位以上、合計125単位以上を修得する。 ※教養教育科目 全学必修科目：4単位、外国語教育：6単位、異文化理解：4単位、健康科学：2単位、基礎教育：15単位、地域理解・日本理解：2単位、国際理解・現代社会理解：4単位、現代科学理解：2単位、地域理解・日本理解又は国際理解・現代社会理解から：2単位 ※専門教育科目 学部必修科目：9単位、学科必修科目：20単位、教育コース必修科目：27単位、選択科目：20単位以上、自由科目：8単位以上	１学年の学期区分	２学期
	１学期の授業期間	１５週
	１時限の授業時間	９０分

（別添２－２）
（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教育課程等の概要（事前伺い）

（生物資源学部　海洋生物資源学科　海洋生物学教育コース）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	大学基礎科目	スタートアップセミナー	スタートアップＰＢＬセミナー	1前	2			○								兼4	共同（一部）
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼4	
		キャリア教育	キャリア教育入門	1後	2			○				1				兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
			小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	1	0	0	0	兼2	
		外国語（英語）	英語Ｉ大学基礎	1前・後	2				○							兼9	
			英語Ｉコミュニケーション	1前・後	2				○							兼11	
			小計（2科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼13	
		データサイエンス	データサイエンスⅠ	1前	2			○						3		兼8	共同（一部）
			データサイエンスⅡ	1後	2			○			1			1		兼7	共同（一部）
			小計（2科目）	－	4	0	0	－			1	0	0	4	0	兼14	
		スポーツ健康科学	スポーツ健康科学Ａ	1前	1					○						兼6	
			小計（1科目）	－	1	0	0	－			0	0	0	0	0	兼6	
	教養基礎科目（副専攻科目）		英語ＩＴＯＥＩＣ	1前・後	2				○							兼14	
			英語Ｉ初級ＴＯＥＩＣ	1前・後		2			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ａａ	1前・後		1			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ａｂ	1後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｂ	1前・後		1			○							兼2	
			英語Ⅱ発展Ｃ	1前・後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｄ	1前・後		1			○							兼1	
			英語Ⅱ発展Ｅ	1前・後		1			○							兼1	
			スポーツ健康科学Ｂ	1後	1					○						兼5	
			スポーツ健康科学概論	1前		2		○								兼3	共同
			ＰＢＬアカデミック・ライティング	1前・後		2		○								兼4	
			哲学Ｆ	1前・後		2		○								兼1	
			哲学Ｇ	1前・後		2		○								兼1	
			哲学Ｉ	1前・後		2		○								兼1	
			倫理学Ａ	1前		2		○								兼1	
			倫理学Ｂ	1後		2		○								兼1	
			倫理学Ｆ	1前		2		○								兼1	
			倫理学Ｇ	1後		2		○								兼1	
			倫理学Ｈ	1後		2		○								兼1	
			倫理学Ｉ	1前・後		2		○								兼1	
			宗教学Ｂ	1前		2		○								兼1	
			宗教学Ｃ	1後		2			○							兼1	

		宗教学D	1前		2		○									兼1	
		日本考古学B	1後		2			○								兼1	
		日本史A	1前		2		○									兼1	
		日本史B	1前・後		2		○									兼1	
		日本史C	1前		2		○									兼1	
		日本文化論B	1前		2		○									兼1	
		西洋史A	1後		2		○									兼1	
		西洋史B	1前・後		2		○									兼1	
		西洋史C	1後		2			○								兼1	
		東洋史A	1前・後		2		○									兼1	
		東洋文化史	1前・後		2		○									兼1	
		演劇入門	1前		2		○									兼8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		日本文学A	1前・後		2		○									兼1	
		日本文学B	1前		2		○									兼1	
		日本文学C	1前・後		2		○									兼1	
		日本語学A	1前		2		○									兼1	
		日本語学B	1後		2		○									兼1	
		比較政治文化	1前・後		2			○								兼1	
		比較文化論	1前・後		2			○								兼1	
		こころのサポート	1前・後		2		○									兼3	
		心理学A	1前・後		2		○									兼3	
		心理学F	1前・後		2		○									兼2	
		日本国憲法	1前・後		2		○									兼4	
		法学A	1前		2		○									兼1	
		法学B	1前		2		○									兼1	
		法学C	1後		2		○									兼2	
		法学G	1前		2		○									兼1	
		社会学A	1前・後		2		○									兼4	
		社会学B	1前・後		2		○									兼2	
		文化人類学A	1前・後		2		○									兼2	
		文化人類学B	1前		2		○									兼1	
		政治学A	1前		2		○									兼2	
		政治学B	1前		2		○									兼1	
		政治学G	1前・後		2		○									兼3	
		ＰＢＬ政治学1	1前・後		2		○									兼1	
		ＰＢＬ政治学2	1前・後		2		○									兼1	
		経済学A	1後		2		○									兼1	
		経済学F	1前		2		○									兼2	
		経済学G	1前・後		2		○									兼6	
		人文地理学A	1前		2		○									兼2	
		人文地理学B	1前・後		2		○									兼1	
		人文地理学C	1後		2		○									兼1	
		文化と空間A	1前・後		2		○									兼1	
		文化と空間B	1前		2			○								兼1	
		文化と空間C	1前		2		○									兼1	
		日本学	1後		2		○									兼1	
		三重学1	1前・後		2		○									兼1	
		地域学	1後		2		○									兼1	
		情報科学A	1後		2		○									兼1	
		情報科学B	1前		2		○									兼1	
		情報科学C	1後		2		○									兼1	
		データサイエンスⅢ	1後		2		○									兼1	
		数理科学A	1前		2		○									兼1	

		数理科学B	1後		2		○							兼1	
		数理科学D	1前		2		○							兼1	
		数理科学F	1前・後		2		○							兼1	
		数理科学G	1後		2		○							兼1	
		数理科学H	1前・後		2		○							兼1	
		物理学1	1後		2		○							兼1	
		物理学2	1前・後		2		○							兼1	
		化学A	1前・後		2		○							兼14	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		化学B	1後		2		○							兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		生物学1	1前・後		2		○							兼1	
		生物学2	1後		2		○							兼1	
		生物学3	1前		2		○			3	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物学4	1後		2		○							兼1	
		入門生物学	1前		2		○							兼1	
		自然科学概論1	1後		2		○							兼1	
		自然科学概論2	1前		2		○							兼7	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		自然科学概論3	1前		2			○						兼2	共同
		ＰＢＬ自然科学概論	1前		2		○							兼1	
		医学医療A1	1前		2		○							兼1	
		医学医療A2	1後		2		○							兼15	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		医学医療B1	1後		2		○							兼1	
		医学医療B2	1前・後		2		○							兼22	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		医学医療C1	1前・後		2		○							兼9	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		医学医療C2	1前		2		○							兼12	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		医学医療D	1後		2		○							兼14	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		医学医療入門	1前		2		○							兼16	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		国際保健と地域医療	1後		2		○							兼8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ＰＢＬ医学・看護学	1前・後		2		○							兼1	
		環境学A	1前・後		2		○			3	1			兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		環境学F	1前		2		○							兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境地理学A	1前		2		○							兼1	
		環境地理学B	1後		2		○							兼1	
		環境地理学C	1前・後		2		○							兼1	
		環境科学1	1前・後		2		○				1		1	兼1	共同（一部）
		環境科学2	1前		2		○							兼7	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		生物資源学A	1前・後		2		○				1			兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物資源学B	1前・後		2		○							兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		地域防災論	1後		2		○							兼11	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		防災論	1前		2		○							兼13	ｵﾑﾆﾊﾞｽ（一部）
		音楽文化論	1後		2		○							兼1	
		日本理解特殊講義1	1前		2		○							兼2	
		日本理解特殊講義2	1前		2		○							兼8	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		日本理解特殊講義4	1前・後		2		○							兼7	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		日本理解特殊講義5	1前・後		2		○							兼2	
		現代社会理解特殊講義1	1前・後		2		○							兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		現代社会理解特殊講義2	1前		2		○							兼11	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		現代社会理解特殊講義3	1後		2		○							兼2	
		現代社会理解特殊講義4	1前・後		2		○							兼1	
		現代社会理解実践1	1前		2		○							兼2	共同
		現代社会理解実践2	1後		2		○							兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		現代社会理解実践3	1前		2		○							兼1	
		国際理解実践1	1後		2		○							兼1	
		国際理解実践2	1後		2		○							兼1	

		国際理解実践3	1後		2		○									兼2	共同
		国際理解特殊講義1	1後		2		○									兼1	
		国際理解特殊講義2	1前・後		2		○									兼2	
		国際理解特殊講義3	1後		2		○									兼1	
		国際理解特殊講義4	1前・後		2		○									兼1	
		国際理解特殊講義5	1後		2		○									兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		現代科学理解特殊講義1	1後		2		○									兼1	
		現代科学理解特殊講義2	1後		2		○									兼7	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義1	1後		2		○									兼1	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義2	1後		2		○									兼1	
		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義3	1前・後		2			○								兼1	
		インターンシップ入門	1前・後		2		○									兼1	
		ピアサポート実践	1前・後		2			○								兼2	
		学習支援実践	1前		2			○								兼1	
		学生生活支援実践	1後		2			○								兼1	
		ビジネスキャリア入門	1前・後		2		○									兼1	
		ドイツの文化	1前・後		2		○									兼1	
		中国の文化	1前・後		2		○									兼1	
		ドイツ語ＩＡａ	1前・後		1			○								兼4	
		ドイツ語ＩＡｂ	1前・後		1			○								兼4	
		ドイツ語ＩＢａ	1前・後		1			○								兼6	
		ドイツ語ＩＢｂ	1前・後		1			○								兼6	
		フランス語ＩＡａ	1前		1			○								兼1	
		フランス語ＩＡｂ	1後		1			○								兼1	
		フランス語ＩＢａ	1前		1			○								兼1	
		フランス語ＩＢｂ	1後		1			○								兼1	
		中国語ＩＡａ	1前		1			○								兼8	
		中国語ＩＡｂ	1後		1			○								兼8	
		中国語ＩＢａ	1前		1			○								兼6	
		中国語ＩＢｂ	1後		1			○								兼6	
		朝鮮・韓国語ＩＡａ	1前		1			○								兼1	
		朝鮮・韓国語ＩＡｂ	1後		1			○								兼1	
		朝鮮・韓国語ＩＢａ	1前		1			○								兼1	
		朝鮮・韓国語ＩＢｂ	1後		1			○								兼1	
		ロシア語ＩＡａ	1前		1			○								兼1	
		ロシア語ＩＡｂ	1後		1			○								兼1	
		ロシア語ＩＢａ	1前		1			○								兼1	
		ロシア語ＩＢｂ	1後		1			○								兼1	
		スペイン語ＩＡａ	1前		1			○								兼1	
		スペイン語ＩＡｂ	1後		1			○								兼1	
		スペイン語ＩＢａ	1前		1			○								兼1	
		スペイン語ＩＢｂ	1後		1			○								兼1	
		ポルトガル語ＩＡａ	1前		1			○								兼2	
		ポルトガル語ＩＡｂ	1後		1			○								兼2	
		ポルトガル語ＩＢａ	1前		1			○								兼2	
		ポルトガル語ＩＢｂ	1後		1			○								兼2	
		フランス語Ⅱ総合ａ	1前		1			○								兼1	
		フランス語Ⅱ総合ｂ	1後		1			○								兼1	
		フランス語Ⅱ演習ａ	1前		1			○								兼1	
		フランス語Ⅱ演習ｂ	1後		1			○								兼1	
		中国語Ⅱ総合ａ	1前		1			○								兼1	
		中国語Ⅱ総合ｂ	1後		1			○								兼1	
		中国語Ⅱ演習ａ	1前		1			○								兼1	

		中国語Ⅱ演習ｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ａａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ａｂ	1後		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ｂａ	1前		1			○							兼1	
		中国語Ⅲ応用Ｂｂ	1後		1			○							兼1	
		小計（186科目）	－	3	322	0		－		5	4	0	1	0	兼316	
	専攻基礎科目	数学基礎	1前	2			○								兼5	
		物理学基礎Ⅰ	1前	2			○								兼4	
		物理学基礎Ⅱ	1後		2		○								兼4	
		化学基礎Ⅰ	1前	2			○								兼4	
		化学基礎Ⅱ	1後		2		○								兼2	
		化学実験	2前		1				○						兼13	共同
		生物学基礎Ⅰ	1前	2			○								兼4	
		生物学基礎Ⅱ	1後		2		○			3					兼3	
		生物学実験	2前		1				○	3	3		2			共同
		地学基礎	2前		2		○								兼1	
		小計（10科目）	－	8	10	0		－		4	3	0	2	0	兼34	
専門教育科目	学部必修科目	生物資源学総論	1前	2			○			1	1				兼14	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ体験演習	1通	1				○		1	2		2		兼6	集中
		技術者倫理	3後	2			○								兼1	
		卒業研究	4通	4				○		10	8		4			
		小計（4科目）	－	9	0	0		－		10	8	0	4	0	兼15	－
	学科必修科目	海洋生物学	1後	2			○			4	3					
		細胞生物学	1後	2			○			1					兼2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生理学	1後	2			○			2					兼2	
		海洋生物資源学概論	2前	1			○			10	8		3			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		魚類学	2前	2			○								兼1	
		水産学総論	2前	2			○			4	1				兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		臨海実習	2前	1					○	2	2		2			集中
		乗船実習	2通	1					○		1		1			集中
		海事概論	2後	2			○				1		1			
		海洋観測航海実習	2後	1					○		1		1			集中
		海洋生物資源学演習Ⅰ	3通	2				○		10	8		3			
		生物科学英語	3後	2			○			1					兼1	
		生物統計学	4前	2			○				1					
		海洋生物資源学演習Ⅱ	4通	2				○		10	8		3			
		小計（１４科目）	－	24	0	0		－		10	8	0	4	0	兼7	－
	教育コース選択必修群科目	水族生理学	2後		2		○			1						
		水族発生学	2後		2		○			1						
		水族生理学実験	2後		1				○	1						
		魚類増殖学	3前		2		○				1					
		水族病理学	3前		2		○			1						
		水族繁殖学	3前		2		○			1						
		水族発生遺伝学実験	3前		1				○	2	1		1			
		水族病理学実験	3前		1				○	1						
		浅海増殖学実習	3前		1				○	1						集中
		水圏環境生物学	3通		2		○								兼1	
		魚類種苗生産学実習	3通		2				○	1	1					集中
		水族神経科学	3後		2		○				1					
		水産飼餌料学	3後		2		○			1						
		分子生態学	3後		2		○			1						
		浮遊生物学	2後		2		○			1						
		藻類学	2後		2		○				1					

	海洋個体群動態学	2後		2		○				1					
	底生生物学	3前		2		○			1						
	漁業生産学	3前		2		○				1					
	海洋植物学実験	3前		1				○	1	1		1			
	海洋動物学実験	3前		1				○	1	1					
	藻類学実習	3前		1				○		1					集中
	海洋化学	3通		2		○								兼1	
	小計（２３科目）	－	0	39	0	－			9	8	0	1	0	兼2	－
選択科目	入門数学演習	1後		2			○							兼1	
	Science EnglishⅠ	2前・後		2		○								兼1	
	Science EnglishⅡ	2・3前・後		2		○								兼1	
	紀伊黒潮流域圏航海実習	2後		1				○		1		1			集中
	生物資源学インターンシップ	2・3・4休		1				○	1						
	海洋環境調査実習	3前		2				○	1			1			集中
	海洋総合航海実習	3前		2				○		1		1			集中
	海洋生物資源調査実習	3後		2				○	1	2					集中
	水産生物学実習	3前		1				○	2	1		1			
	栽培漁業学	3前		2		○			1						
	水産情報利用学概論	2後		2		○				1					
	海生哺乳動物学	3後		2		○			1	1					
	海生哺乳動物学実習	3後		1				○	1	2					集中
	地球環境学概論	1後		2		○								兼2	
	分子生物学	2前		2		○								兼2	
	地球システム進化学	2前		2		○								兼1	
	水圏生物化学	2後		2		○								兼1	
	水産経済学	3前		2		○								兼1	
	ローカル気象学	2前		2		○								兼2	
	水産食品化学	3前		2		○								兼1	
	大気海洋科学	2後		2		○								兼2	
	小計（２１科目）	－	0	38	0	－			9	8	0	4	0	兼15	－
自由科目	職業指導Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1	
	小計（１科目）	－	0	2	0	－			0	0	0	0	0	兼1	－
合計（２６６科目）		－	57	411	0	－			10	8	0	4	0	兼427	－

学位又は称号	学士（生物資源学）	学位又は学科の分野	農学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
共通教育科目から41単位以上、専門教育科目から84単位以上、合計125単位以上を修得する。 ※共通教育科目 全学必修科目：4単位、外国語教育：6単位、異文化理解：4単位、健康科学：2単位、基礎教育：15単位、地域理解・日本理解：2単位、国際理解・現代社会理解：4単位、現代科学理解：2単位、地域理解・日本理解又は国際理解・現代社会理解から：2単位 ※専門教育科目 学部必修科目：9単位、学科必修科目：24単位、教育コース選択必修群科目：24単位（水圏増殖学ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ）15単位（海洋生産学ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ）、選択科目：19単位以上（水圏増殖学ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ指定科目を含む。）28単位以上（海洋生産学ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ指定科目を含む。）、自由科目：8単位	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（生物資源学部生物資源学科）

科目			授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	大学基礎科目	スタートアップセミナー	スタートアップＰＢＬセミナー	ＰＢＬに基づいたプロジェクト活動に取り組む中で、三重大学のディプロマ・ポリシー「4つの力」の内容について知り、大学での学習方法やスキルなどを体験的に学習し、大学生活へのスムーズな移行をはかる ・ディプロマ・ポリシー（４つの力）を理解し、大学生活においてそれを獲得・向上を目指すために必要な知識やスキルの習得 ・大学生に必要な学習スキル・学習方法の習得 ・プロジェクトの遂行と達成	共同（一部）
		キャリア教育	キャリア教育入門	「キャリア」とは、単に「就職」に関することだけではなく、過去を振り返るとともに、これからの人生の中で「どのように働くのか」や「どのような生活を送るのか」を含めた「生き方」すべてを指します。 この授業では、キャリアに関して学ぶとともに、自分と他者との価値観や人生観の違いを知り、グループ内で自分が果たす役割にも気づいていってもらいます。 そのため、講義だけではなく、グループワークや演習を多く取り入れます。 （63 淀　太我） （オムニバス方式／全15回） （270 長岡　みか／12回） （52 勝崎　裕隆／4回）	オムニバス （一部）
		外国語（英語）	英語Ｉ大学基礎	大学レベルの英語文献を読むために必要となる読解力・文法力の基礎を身につけることを目的とする。習熟度別に編成された50人規模のクラスにおいて、英文を正確に理解する力を育てる。[1] 大学において専門的文献を英語で読む際に必要となる読解力を身につける。[2] 基本的な英文法の知識・英語の語彙を確認し、それらを実際に使えるようになることを目指す。[3] TOEICのリーディングパートにおいて高得点を取る力を身につける。	
			英語Ｉコミュニケーション	英語を話す力・聞く力を中心に、英語のコミュニケーション能力をバランスよく養成することを目的とする。習熟度別に編成された３５人規模のクラスにおいて、英語のスピーキング・リスニングの練習を行い、必要な表現を身につける。[1] 英語での基本的な日常会話を行うことができるスピーキング力を身につける。[2] 自然なスピードで話されている英語を正確に聞き取って理解することができるリスニング力を身につける。[3] TOEICのリスニングパートにおいて高得点を取る力を身につける。	
		データサイエンス	データサイエンスⅠ	これからの学生生活に必要な情報リテラシー（情報資源や情報技術を活用する能力）やデータリテラシー（データに基づいて判断する能力）を身に付けるため、コンピュータの基礎知識（PCの仕組み、セットアップなど基本操作）、インターネット活用の際に必要な情報通信技術に関する知識と技能（メール送信、情報倫理やマナーなども含む）、文章作成（Word）・表計算（Excel）・プレゼンテーション（PowerPoint）活用術などを学ぶ。さらに、全学共通の学修項目として、主に医療分野で取り扱われるデータを用いたデータサイエンスの基礎（データの可視化、統計学の基礎、プログラミング体験演習など）を学ぶ。	共同（一部）
			データサイエンスⅡ	近年、デジタル化社会の進展は著しく、多種多様なデータが蓄積・公開されている。これらのデータを活用しながら社会が抱える課題を解決できる人材が必要とされ、広くデータサイエンティストとしての教養が求められている。データサイエンティストには、1）社会課題の背景を理解した上で課題を整理・判断する力、2）情報処理、AI、統計学などの情報科学系の知恵を使う力、3）データを現場で使える形に変え実装・運用する力、の3つの力が必要とされている。本科目は、データサイエンスの基礎知識の習得を目的とした「データサイエンスI」の発展科目である。データやAIが取り扱われている事例を教材としながら、データを適切に読み、説明し、扱うためのデータリテラシーについて学ぶことで、上記の3つの力を育成する。また、生物資源学の視点から社会的課題を解決していくために、専門知識に加えて上記の3つの力が必要なことに気づく機会を提供する。	共同（一部）
		スポーツ健康科学	スポーツ健康科学Ａ	スポーツ活動の実践を通して自己の体力の現状を理解し、心身の変化を体験する。また、安全で快適に運動を行うために「スポーツと怪我の予防」、「スポーツと環境」、「スポーツと運動強度」などに関するミニ講義を実施する。運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。	
	教養基礎科目（副専攻科目）		英語ＩＴＯＥＩＣ	専用の教科書および語学e-learningシステムを用いて、TOEICにおいて高得点を取得できる英語力を身につける。[1] TOEICの各パートの練習問題に取り組み、問題の形式を理解し、必要な英語力を身につける。[2] TOEICの各パートにおける頻出の英語表現を確認し、理解・聴解の練習を重ね、苦手なパートをなくすことを目指す。	
			英語Ｉ初級ＴＯＥＩＣ	「英語I TOEIC」が必修でない学部・学科の学生、および「英語I TOEIC」履修済みであるがもう一度基礎から学習したい学生を対象に、比較的難易度の易しいTOEICの練習問題に取り組むことを通して、高得点の取得を目指します。具体的には、TOEICの各パート（リスニング、文法、読解）の問題を解きながら重要事項を確認し、英語力を伸ばします。	
			英語Ⅱ発展Ａａ	In this course you will learn effective methods of making presentations in English. The course is aimed at students who want to be able to clearly and confidently communicate a message to an audience. This course may be appropriate for you if, --you have never taken a presentation course and would like to learn the basics of presenting, or --you have taken a presentation course before and would like to review the basics, or --you have taken a presentation course before but have never done so in English 〈和訳〉英語での効果的なプレゼンテーション方法を学びます。 このコースは、聴衆に明確かつ自信を持ってメッセージを伝えたい学生を対象としています。	

英語Ⅱ発展Ａｂ	Students will learn basic principles and methods of making effective presentations in English. The skills will be useful for research presentation and getting a better understanding of how to make better research papers. This will provide practice in English and boost confidence for future conferences. <和訳>英語で効果的なプレゼンテーションを行うための基本原則と方法を学びます。 このスキルは、研究発表に役立ち、より良い研究論文を作成する方法をよりよく理解するのに役立ちます。 これにより、英語での練習が可能になり、将来の会議への自信が高まります。	
英語Ⅱ発展Ｂ	In this course, students will learn how to improve their reading, listening, speaking and critical thinking skills. We will accomplish this by challenging our cultural perceptions and values then discussing our thoughts and opinions. <和訳>このコースでは、生徒はリーディング、リスニング、スピーキング、クリティカル シンキングのスキルを向上させる方法を学びます。 文化的な認識や価値観に異議を唱え、考えや意見について話し合うことで、これを達成します。	
英語Ⅱ発展Ｃ	In this course we shall study the fundamentals of essay writing. Students will learn how to improve their writing. We will accomplish this by studying what makes up a paragraph and an essay. Emphasis will be placed on brainstorming, analyzing a paragraph, working on content, organizing ideas, and presenting ideas in well structured writing assignments. <和訳>このコースでは、エッセイライティングの基礎を学びます。 学生は自分の文章を改善する方法を学びます。 パラグラフとエッセイを構成するものを研究することで、これを達成します。 ブレーンストーミング、パラグラフの分析、コンテンツの作成、アイデアの整理、適切に構成されたライティング課題でのアイデアの提示に重点が置かれます。	
英語Ⅱ発展Ｄ	English II Business English - English communication in business situations; using proper business phrases, grammar and cultural awareness. Students will study and practice communicative English for use in international business. With a strong focus on listening, speaking, and writing. Speaking and listening skills will be taught via pair work/group based projects, and social media. The skills to be developed in this course are how to conduct oneself in small and large groups in a business setting. <和訳>英語 II ビジネス英語 - ビジネスの場面での英語によるコミュニケーション。 適切なビジネス フレーズ、文法、文化的認識を使用します。 学生は、国際ビジネスで使用するためのコミュニケーション英語を学び、練習します。 リスニング、スピーキング、ライティングに重点を置いています。 スピーキングとリスニングのスキルは、ペアワーク/グループベースのプロジェクト、およびソーシャルメディアを通じて教えられます。 このコースで開発されるスキルは、ビジネス環境で小規模および大規模なグループでどのように行動するかです。	
英語Ⅱ発展Ｅ	「英語I TOEIC」の単位を取得した学生およびTOEIC600点以上取得者を対象に、難易度の高いTOOEICの練習問題に取り組むことを通して、さらなる高得点の取得を目指します。具体的には、TOEICの各パート（リスニング、文法、読解）の問題を解きながら重要事項を確認し、英語力を伸ばします。	
スポーツ健康科学Ｂ	スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解するためにミニ講義（①メンタルヘルス、②スポーツとコミュニケーション、③スポーツと体調管理）を授業中に実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。	
スポーツ健康科学概論	スポーツを取り巻く諸問題や身体のあり方について探求できるようにする。また、健康・運動・身体活動、コーチングに関する基礎的な事項を理解できるようにする。 ・子どもから成人へと身体の発育、体力・運動の発達過程に関する基礎的な事項を理解できるようになる ・子どもの運動や健康についての基礎的な事項を理解できるようになる ・スポーツを取り巻く諸問題やよりよいスポーツへのかかわり方について理解できるようになる （オムニバス方式／全15回） （129 八木　規夫／5回） ・子どもから成人へと身体の発育・体力・運動の発達過程に関する基礎 （130 冨樫　健二／5回） ・子どもの運動や健康についての基礎 （237 大隈　節子／5回） ・スポーツを取り巻く諸問題やよりよいスポーツへのかかわり方	オムニバス
ＰＢＬアカデミック・ライティング	教員のファシリテーションの下、半期で新書を一冊以上読んで、書評を書く。文章の読解、要約、作成に関する解説に加え、グループ学習も取り入れる。学生は読書シートを作成しつつ新書を読み、読書シートに基づく討論や書評のピアレヴューをグループで行う。新書を読み書評を作成することにより、情報収集、情報発信の一般的な形態、自律的・能動的学習力の基盤となる「読む」「書く」能力を育成することを目的とする。	
哲学Ｆ	哲学と現代社会の問題についての教養科目として、現代社会において重要な、生命・環境倫理学のいくつかの問題と関係づけながら、近代・現代西洋哲学の基本的な思想や概念を学ぶ。現代的な諸問題としては、人工妊娠中絶の問題、新しい死の問題、動物の福祉の問題、世代間倫理の問題をとりあげ、こうした問題の背景にある、自己決定としての自由、人格、功利主義、責任といった西洋近代以来の哲学の議論を取りあげる。	
哲学Ｇ	「我々は何を知っているのか、知りうるのか」　　認識論は、知識に関する問いをめぐる、哲学の主要分野の一つである。この授業では、知識に関する古典的理論から始めて、「そもそも何も知りえないのではないか」という懐疑論の問題や、「様々な人々の交わりは知識にどのような影響をもたらすか」という社会的認識論といった近年の発展的問題までを紹介する。	
哲学Ｉ	科学史、科学哲学、科学技術社会論の基礎的内容について講義する。 ・科学の歴史についての基礎知識を習得する ・科学の方法に関してどのような議論がなされてきたかを理解する ・科学技術をめぐるさまざまな問題について批判的に考える力を養う 現代の科学技術のあり方について、学術的知識に基づきつつ、自らの観点を持ち議論を組み立てることができるようになる。	

倫理学Ａ	現在一般に使われている「自然」は、近代に入りnatureの訳語として次第に定着したものである。これに対して近代以前、「自然」は主に「ジネン」と読まれ、現在とは異なる意味を担うものであった。だがまた一方で、そうした「ジネン」は、narureの訳語としても妥当する意味内容を元来含み持つものであったともいえよう。本講では、仏教思想の理解の上に、こうした伝統的文脈における「自然」がどのようなものとして捉えられていたのかを考える。	
倫理学Ｂ	日本近世の思想動向は、中国朱子学の「理」的世界観・人間把握の受容とそれに対する様々な変容や批判によって彩られている。本講では、そうした朱子学の理解の上に、伊藤仁斎や荻生徂徠といった古学派と、賀茂真淵や三重松阪の人である本居宣長を中心とする国学の思想運動とに焦点を当て、彼らが人間の「情」的側面を「理」に対してどのように対置しようとしたのかを明らかにする。	
倫理学Ｆ	どんな状況に置かれる人でも、何かしらの仕方で道徳を気にかけないければならないと、広く考えられているように思われます。しかしながら、なぜ、私たちは道徳的でなければならないのでしょうか。私たちが道徳的でないといけないと信じ込んでいるだけで、本当はそうではないかもしれません。そもそも道徳的であるということはどのようなことなのでしょうか。 本講義では、このような一度は誰しも抱くような問いに、倫理学的観点をとって取り組むということがいかなることであるのかを紹介し、受講者の「道徳」の理解を深めることを目指します。	
倫理学Ｇ	西洋倫理学の源流である古代ギリシャの倫理学Ethicsは「エートス（人間性 ethos）」の学として哲学体系の中に位置づけられてきた。この授業では、西洋倫理学の三大分野といわれる、アリストテレスの「徳倫理学」、カントの「義務論」、ミルの「功利主義」を学ぶことで、西洋倫理学の主な流れを把握し、さらには西洋倫理学の全体像を理解できるように備える。	
倫理学Ｈ	儒家・墨家・道家・法家の順に、その倫理思想の構造と歴史的展開とを考察する。 　祖先神としての色彩の強い「帝」がその土俗性を捨象して「天」という概念に抽象化される時、その「天」から生まれたとされる人間の内部には何らかの神性が宿ると構想されることになる。孔子の時代、このような考えは、極めて素朴な信仰にすぎなかったが、やがて、この考えは統治の根拠としての本性論として展開され、体系性を備えた「性善説」や「性悪説」として光彩を放つこととなる。直接的には本性論を展開しなかった墨家や法家にあっても、この性善や性悪の枠組みが、その思想構造に反映していることを論証しつつ、漢代の董仲舒にいたる本性論の展開を見ていくことにしたい。	
倫理学Ｉ	中国思想の倫理学説について概説する。 1．古代から近世に至る中国思想を概観し、その倫理規範に関する諸説を理解する。 2．中国思想の倫理学説を学ぶことで、我々日本人の倫理観との共通点及び相違点を考察する。 3．中国の思想家たちが、日常生活の人的交際や政治において、何を重視したのかを理解する。 ・儒教の基礎知識を得る。 ・諸子百家の思想を理解することで、現代の社会問題や自己について、新しい視点を得る。	
宗教学Ｂ	インドにおいて発達した諸宗教について学習する。 インドにその起源をたどることができるヨーガ、瞑想などの修行形態は、現代社会の諸宗教に対して多大な影響を及ぼしている。その意味において、宗教的実践の問題について考察する際、インド諸宗教における修行論を決して看過することはできない。本講義では、インドにおける多様な宗教的実践の発生と展開について概説を加え、それを通じて宗教と実践との問題について考えてゆきたい。	
宗教学Ｃ	分類基準という観点から日本の新宗教を概観する。 現代日本においては、実に多種多様な新宗教（あるいは新新宗教）が存在するため、それらのすべてを体系的に把握することは決して容易ではない。このセミナーでは、まず考察の手がかりとして、何人かの宗教学者たちによって提出されている類型論について学習する。そしてその後、果たしてそれらが現代日本の新宗教にも適用可能であるかどうか検討することを通じて、多様な新宗教に対する理解を深めていきたい。	
宗教学Ｄ	宗教を手がかりにトンガ王国の歴史・文化を紹介する。トンガ王国の宗教と関わる諸現象を通して文化を考え、人間の生きる姿について展望を広め、見識を深める。 トンガ王国の歴史・文化に関する基本的な知識を得ることができる。	
日本考古学Ｂ	遺跡や博物館の展示に関する事例を収集し、資料公開のありかたを探る。 遺跡や博物館の展示について、現状とその長所・短所を把握し、資料公開のありかたを判断する力を養う。	
日本史Ａ	考古学・日本史における論争や近年の話題について、解説をもとに理解を深め、分析をおこなう。 考古学や日本史の研究について、現状と問題点を知る。 そして、それぞれの研究方法や根拠の相違を理解し、みずからも分析をおこなう。	
日本史Ｂ	忍者・忍術学 これまで日本史の研究からはまともにとりあげられてこなかった忍者について、どのような存在で、いかに変容してきたのか。具体的史料に基づき明らかにしていきます。日本史上の諸問題について、新たな視点から考えていくヒントを得る。	
日本史Ｃ	歴史学とは、文献史料に基づき史実を確定する学問である。江戸時代を研究する上では、崩し字で記された古文書を読み解くことが必須である。 この授業では、三重県域に関わる初歩的な古文書を取り上げ、崩し字の解読法、史料内容の理解の仕方、史料から課題を読み取る方法を学ぶ	
日本文化論Ｂ	素潜りで漁を営む女性、海女の文化的価値が、近年注目されてきている。原始以来の長い歴史を持つだけでなく、資源管理による持続可能な生業形態を取り、男女協働、無理をしない働き方である点など、現代の私たちが海女文化に学ぶべき点は数多い。 世界中で女性の潜水漁は、歴史的には日本と韓国済州島にしか存在しない。日本では、鳥羽・志摩が古くから現代までその中心地である。女性が潜る理由、近代の朝鮮出漁など広域的な出稼ぎや観光海女の歴史などにも触れつつ、 その豊かな歴史文化と現代的意義を論じたい。	
西洋史Ａ	古代ギリシアの歴史を近年の研究成果をふまえながら概観し、現代日本と異なる価値観や論理を持った社会が存在することを理解する。そのうえで、現代社会をめぐる様々な問題について批判的に考察するための材料を提供する。 古代ギリシアの歴史的展開について、近年の研究成果をふまえて説明でき、異なる時代・社会における文化や考え方の違いを理解したうえで、現代社会の諸問題に多角的な視点から取り組むことができる。	

西洋史Ｂ	アメリカ史における主要なテーマを取り上げ、アメリカ社会の特性や課題について、その歴史的背景を理解する。 アメリカというと「歴史のない国」というイメージを持つ人が多いだろう。しかし現代の国際社会においては、好むと好まざるとにかかわらず、アメリカという国の影響から逃れることは難しい。この絶大な影響力を持つアメリカは様々な顔を持っており、それを理解するためには歴史的にと取ることが重要となる。授業は通史という形をとらず、いくつかのトピックスを取り上げ、アメリカの歴史を概観する。その際、３～４回程度ビデオを利用する予定である。	
西洋史Ｃ	英文及び和文の文献・史資料を題材として、受講者による事前学習を中心とした授業形式により、主として両大戦間期の安全保障をめぐる諸問題について、参加者全員で考える。 研究を基礎に歴史が書かれていることを体得する。 今の時代と少し前の時代の共通点と相違点を把握する。 歴史を学ぶには様々な関連分野の知識が必要であることを知る。	
東洋史Ａ	前近代中国には悪女と評された女性たちがいるが、なぜ悪女といわれるのであろうか。この授業では、当時の状況および女性観を概観したのち、悪女に対する新たな視点を提示する。また、さまざまな女性のあり方も紹介する。 前近代中国の女性について、各時代の女性観を理解したうえで、具体例を挙げて説明することができる。	
東洋文化史	古代から近世まで日本文化は中国文化から多くの影響を受けてきた。造形作品も例外ではない。この講義では日本美術とその源流である中国美術との関係について、仏像と絵画を中心に解説する。 美術作品の様式展開や異文化交流のありようと歴史展開を論述することができる。 日本美術に与えた中国美術の影響を具体的に説明することができる。	
演劇入門	数ある芸術文化の中でも、演劇という舞台芸術を取り上げる。 講義と並ぶ、本授業のもうひとつの柱に演劇ワークショップがある。完成度の高い芝居を作ることよりも、コミュニケーション能力や自己表現力を高めるのが目的である。今後の大学生活、対話の必要な学習、就職活動はもとより、広く社会に出ても役立つ能力を鍛えることをめざす。 演劇を観る習慣のある人生のほうが、ない人生よりも豊かである。演劇の面白さを発見し、劇場へ足を運ぶことが習慣化できればよい。 （オムニバス方式／全15回） （145 吉丸　雄哉／6回） 授業の統括。日本の伝統芸能。 （214 田中　綾乃／2回） 日本の近現代の演劇 （264 小嶋　ちひろ／1回） 西洋演劇 （252 大月　淳／1回） 劇場建築、演劇空間。 （440 吉野　さつき／1回） 演劇ワークショップ実践。 （438 油田　晃／2回） 演劇ワークショップ実践。 （419 鳴海　康平／1回） 演劇ワークショップ実践、舞台演出。 （433 松浦　茂之／1回） 演劇制作と劇場運営。	オムニバス
日本文学Ａ	平安時代を中心とする代表的な古典作品の読解を通して、個々のテクストの生成や享受の具体的な事例を取り上げ、個々の文学作品の魅力に触れる。古代文学作品成立の背景や契機および現在の研究状況について学ぶ。 それぞれの古典作品について特長を把握し、現代に到るまで読みつがれた理由を説明できるようになる。	
日本文学Ｂ	忍者・忍術学の授業です。日本文化を代表する忍者と忍術についてその特徴を学びます。私たちが現在イメージするような忍者、たとえば黒装束で手裏剣を投げるといった忍者像は、文学・芸能の中で作られていったものです。江戸時代から現代までの忍者作品を具体的に辿ることで、忍者像の形成と変遷を明らかにしていきます。	
日本文学Ｃ	文学理論・批評理論の基礎的な事項を概観し、「文学」という概念・制度について考える。 学修の到達目標　文学研究の基礎的な知識を習得する。 物事を批判的、多角的に考える力をつける。	
日本語学Ａ	日本語の歴史的背景を踏まえつつ、音韻・語彙・文法・表記などの諸問題について概観し、日本語への理解を深める。 日本語の音韻・語彙・文法・表記などの事項について、基礎的な知識（専門用語や概念の理解）を身につける。 教科書の事例以外に、日常の日本語の諸問題と関連させて考察し、それを説明することができる。	
日本語学Ｂ	中世口語資料のうち、狂言とキリシタン資料を題材に、資料から読み取れる言語現象について取り上げ、現代語にもつながる日本語の諸問題について理解を深める。 古語と現代語を含む日本語の様々な様相について、理解を深め、授業で取り上げたそれぞれの言語事象について、具体的に自分の言葉で説明することが出来る。狂言及びキリシタン資料それぞれについて、知識と理解を深め、具体的に説明することが出来る。	
比較政治文化	現代日本政治において様々な現象が見受けられる。例えば、「世襲議員の多さ」、「宣伝カーによる選挙運動」、「総理大臣の任期の短さ」、「皇室と政治の関係」、「靖国神社問題」、「領土問題とナショナリズム」、「政治に対する若者の無関心」等。受講生は日本政治におけるこれらの現象の分析を行った上で関連する海外の実態や文化的な特徴を調べ、日本政治の諸現象の再評価を行い、半期の授業を通し一貫して政治への文化の影響について考察する。	
比較文化論	日本で行われている多くの比較文化の研究は、日本文化の絶対的な特殊性を、無意識のうちに前提としている。戦後、その前提を作り上げてきたのはいわゆる「日本人論」だと思われる。この演習において幾つかの日本人論の徹底した分析を通じてその前提の妥当性を問う。つまり、他文化との比較を行うことで日本文化の特殊性を相対化する。	

こころのサポート	こころとからだのしくみを学ぶことは、人間理解へとつながる。講義やワークを通して、自他を理解し、お互いの存在を認め合う。現代社会はこころの問題が多い。私たちがよりよく生きていくためには、メンバー間の相互支援が不可欠である。グループワークでのコミュニケーションにおいてスムースな支援が展開され、Moodleで体験をふりかえることによって、健康なこころとからだを保つための知識とスキルを身につける。	
心理学Ａ	自己および他者の行動を理解するための知識と、人間関係を円滑にし適応していくための基本的知識を学ぶ。 人間の行動について心理学的な視点から理解できるようになる。人と良好な関係を築き、精神的な健康を保つための方法や理論を理解できるようになる。	
心理学Ｆ	心理学は、人の「こころ」を研究対象とし、それを客観的に明らかにしていく学問領域です。人はみなそれぞれ自分の「こころ」をもっていますが、それを客観的に見るというのはそう簡単ではありません。本授業では、「こころのしくみ」や「こころのクセ」について述べます。 「こころ」を対象化し、客観的にとらえることができる。「こころのしくみ」や「こころのクセ」について正確な理解と知識をえる。	
日本国憲法	日本国憲法の全体像を明らかにし、それを貫く基本的な考え方についての理解を得る。ただし、単なる入門的な講義にはならぬよう心がけたい。そこで、日本国憲法にまつわる実際の事件やできごとにもふれることによって、国家と私たちの具体的・現実的なかかわり合いのあり方について検討することとする。 ・日本国憲法の基本的な原理や構造を説明できるようになる。 ・私たちの権利の保障において、日本国憲法がどのような働きをしているか、そこにはどのような問題や課題があるかということを、講義で扱った事例を基にして評価できるようになる。	
法学Ａ	事例を通じて日常生活と法のかかわりを学ぶことを通じて、基礎的な法的知識と法的考え方を身につける。 法分野を中心とする現代社会の諸問題について基礎的な知識を得る。	
法学Ｂ	ジャンージャック・ルソー（Jean-Jacques Rousseau，1712-1778）がフランス革命の世紀である18世紀に著した『社会契約論』の和訳をテキストとして、履修者で輪読し、疑問点や問題点、意義などを議論する。 社会契約論についての理解を深めることにより、古典と関連づけながら、現代社会にみられる格差問題や、国家と国民の関係のあり方などの諸問題を考察することができる。	
法学Ｃ	法は何らかのトラブルが発生したときに裁判所がその問題を解決するための判断基準であることは確かです。したがって、何らかのトラブルに巻き込まれた場合に、その判断基準である法がどのように適用されることになるのかを知っておくことは、事前予防という点で重要になってきます。本講義では、市民間の日常生活を規律する基礎的な法である民法において、どのようなルールが定められているのかを事例を通して理解していきたいと考えている。	
法学Ｇ	学生生活・消費生活・就職・結婚等、ライフステージごとに出会う身近な問題を取り上げて、法的思考にみちびく。 身近な法律問題に関する知識を得るとともに、法的思考力を身につける。	
社会学Ａ	政治学・法学・経済学などと比べて後発の社会科学である社会学は，全体像をつかむことが難しい学問です。この授業では，多くの社会学者が共有する社会学的思考法（ソシオロジカル・シンキング）に着目することで、社会学の全体像を示したいと思います。 三大社会学者（E・デュルケム，M・ウェーバー，G・ジンメル）、および、K・マルクスの学説を比較して、その共通点と相違点を述べられるようになることを，学習の到達目標とします。	
社会学Ｂ	初学者向けに講師が考案した「論証ゲーム」という方式で、ディベートの練習をおこないます。論証ゲームとは、論証スクリプト（議論の要素を定義する穴埋め式の台本）に従ってプレイヤーが交替で発話しながら、論証マップ（議論の構造をあらわすマインドマップ）を協同で描き、より多様な論点の発想を目指すものです。 あたえられた論題について、予測・評価・批判・再反論の各論点を発想できるようになることを、学習の到達目標とします。	
文化人類学Ａ	文化人類学は世界中の多様な社会の人々＜他者＞を理解するための学問です。他者理解とは、他者を既存の枠組みに当てはめて、「あの人はああいう種類の人だ」と分類することとは違います。テレビのバラエティ番組の「“部族”の人々の生活は……」という見方は、他者を「自分と違う人間」という箱に投げ入こんでいるだけです。大切なのは自分と異なる存在に素直に驚くこと、いったいどこが違うのか／どこに共有できる点があるのかを考えること、その上で他者と向き合う中で自らの認識枠組みを作りかえていくことです。	
文化人類学Ｂ	異文化理解に様々な形で取り組んできた文化人類学の視点から世界の諸文化を紹介し、人間にとって「文化とは何か？」という根源的な問題にアプローチする。 異文化理解のための新しい視野を獲得するとともに、近年の多文化共生をめぐる諸問題への関心が高まる。また、世界のさまざまな文化事象に関して文化比較の視座から建設的な議論ができる。	
政治学Ａ	終戦から現在に至るまでの日本外交を通史的に概説する。その際、人物（政治家、官僚など）、日本政治、国際政治の視点を適宜交えながら、複眼的に授業内容を構成していく。歴史の年号や出来事を単に覚えたり、イメージや感情で論じるのではなく、自らの問題意識、考え方を構築していくための歴史的な基礎を提供していきたい。	
政治学Ｂ	TPP、消費税増税、領土問題、憲法改正など、現在、日本政治が直面している課題は枚挙に暇がない。有権者の一人として、これらの在り方を考えるために、政治学の基礎を体系的に学習する。その際、主として日本の政治を手掛かりとし、経済、社会、国際関係との接点を踏まえながら、授業を進めていく。現実政治を規定する政策構造を捉えるための基盤を提供する。	
政治学Ｇ	民主主義や民主化に関する政治理論に依拠しつつ、民主主義に基づく政治の現状と課題を紹介します。 民主主義とは何か、民主化とは何か、非民主主義的体制にはどのようなものがあるかを理解したうえで、現代の民主主義に基づく政治（民主政）の現状、意義、課題を知り、それらの課題に対する対応策を自ら探究できるようになることが、学習の到達目標です。	

ＰＢＬ政治学1	現代の国際関係は、地球規模の課題への対応に絶えず迫られている。内戦、テロリズム、貧困、感染症、環境破壊など枚挙に暇がない。これらの諸課題は、いかなる経緯で生まれ、世界はどのように解決を目指してきたのだろうか。とりわけ戦後の国際関係に着目しながら、自ら政策課題を導き出す。そのうえで、史資料、データなどに基づいた考察を深めていく。 　授業を進めるに際し、問題発見解決型学習（PBL: Problem-based Learning）と呼ばれる方法を用いる。前半は、主として調査の方法、論文の読み方を学習する。後半は、4、5人程度のグループを作った後、特定のテーマでプレゼンテーションを実施する。こうした作業を通じ、単に知識を得るのみならず、複眼的に物事を捉える素地を形成する。	
ＰＢＬ政治学2	これまで日本は、どのような国際問題に直面し、いかに対応してきたのだろうか。とりわけ、戦後75年の歩みを意識しながら、自ら政策課題を導き出す。そのうえで、史資料、データに基づいた考察を深めていく。 　授業を進めるに際し、問題発見解決型学習（PBL: Problem-based Learning）と呼ばれる方法を用いる。前半は、主として調査の方法、論文の読み方を学習する。後半は、4、5人程度のグループを作った後、特定のテーマでプレゼンテーションを実施する。こうした作業を通じ、単に知識を得るのみならず、複眼的に物事を捉える素地を形成する。	
経済学Ａ	この授業は講義形式で行われる。講義では、ミクロ経済学の代表的な理論について紹介する。特に、消費者と生産者に関する諸理論に加え、市場が成立するための条件と価格の役割について説明する。 ミクロ経済学の諸理論について理解し、経済主体の行動原理と市場における価格調整の役割について理解し、身近な経済問題を経済学の視点から考えられるようになることを目標とする。	
経済学Ｆ	経営戦略とは「企業が競争優位を獲得し、競合他社よりも多くの利益を得ることを目標としたセオリー（理論）」であり、これを適切に策定しマーケティングを推進することで企業価値の向上が期待できます。本講義では経営戦略、マーケティング戦略、企業価値（事業価値）の概念について実務的視点から学び、企業の経済活動に関する理解を深めます。また、実在する企業を取り上げ、その評価について議論します。受講者の積極的な議論への参加を期待します。	
経済学Ｇ	人間の経済活動の歴史を概説する。とりわけ資本主義社会の歴史について重点的に取り上げる。それは現代の社会を生きるうえでの一般的な教養であるのみならず、専門的な経済学を学習するうえでの土台となる経済の具体的イメージを涵養するものでもある。この講義では、世界の経済の歴史を学ぶことによって、現代の世界経済が直面する諸課題を、学術的に分析できる基礎的能力を培う。	
人文地理学Ａ	歴史地理学は、過去の人間集団が地表空間をいかに組織し、そこでいかに生きてきたかを追究する学問です。地図や絵図、諸史料を手に、土地利用、都市・村落構造などの具体的観点から、歴史時代における人々の生き方・考え方を明らかにしていきます。 地図や絵図から、地理的・歴史的情報を引き出していく「読図」力を身につけることができる。	
人文地理学Ｂ	文化地理学的視点とその視点の現実生活への適用を概説する。身近な生活の中から、地理学的な地域、環境、景観という視点から光を当てて課題を浮かび上がらせて、パターンを発見し、要因を説明し、意味を解釈し、応用する方法を学ぶ 本授業を受講することにより、学生は、身近な現象に地理的な側面から光を当てる感受性、発見した現象を説明･解釈する思考力、試行の結果を応用する実践力、を身につけることができる。	
人文地理学Ｃ	三重県と県内の市町（計29）を対象にして、その地理的特徴を学修し理解する。授業では、統計データを読み解き、参考資料を集めて、地誌（地理的特徴をまとめた文章）を作成する。こうした作業を通して、現代社会を地域的に理解する視点を養い、地誌をまとめ上げる手順を学ぶ。 身近な地域の地理的特徴について、興味をもって考える。そして、市町ごとの地理的多様性に対して理解を深める。	
文化と空間Ａ	現代のグローバルな世界の空間的・政治的・経済的状況はますます複雑化し、不均等なものとなっており、争われるものとなっています。授業では、ここ数年の時事的な問題を通じて、資本主義の社会・空間について考察します。そのさい、新自由主義という概念・イデオロギーを提示します。それをふまえながら、世界（特にヨーロッパから日本まで）のさまざまなトピックを取り上げます。主題は、社会、政治、文化、経済と多岐にわたります。	
文化と空間Ｂ	この授業は大学教育への入門と位置づけられる。コロナウィルス感染症の拡大状況に依るが、対面授業の場合は、グループでの討論をとおして、地表面の諸現象に対する仮説の検討を行なう。オンデマンド式の場合は、スライド内での質問や補助教材をとおして理解を深める。また学外でのグループ調査と発表も行なわれる。授業は反転授業で行う。	
文化と空間Ｃ	グループ学習を通して、日常生活に潜む法則を発見し、学問的アプローチを用いて説明・解釈し、結果をどのように応用できるかを考える方法を実践的に学び、その成果を発表する。 本授業を受講することにより、学生は、日常生活から法則を発見する感受性、発見した現象を説明・解釈する思考力、試行の結果を応用する実践力、および、それを公開の場で発表し、議論するためのコミュニケーション力を身につけることができる。	
日本学	日本の「古典芸能」や「民俗芸能」、広く親しまれてきた「大衆芸能」から、日本文化の形式や、日本人の感性を垣間見ることができる。 芸能者を「発信機」観客を「受信機」に例えれば、受信回路は「知性」と「感性」で構成され、その芸能から受ける印象は人によって異なる。ところが、現代人は日本の伝統的な芸能について、知識も乏しく、鑑賞する機会も稀有である。本授業では、映像資料を頻繁に用い、さまざまな日本の芸能を概観し、知識を広げるとともに、芸能から感じる「日本らしさ」とは何かを理解することを目的とする。	
三重学1	留学生と日本人学生が協力して、三重の社会と文化を学習する。また、学外施設を訪れるフィールドトリップを実施する。	
地域学	地域学は、ある地域の社会、文化、教育、政治、環境などの諸特徴やその要因を分析して、その地域の全体像や固有性を明らかにしていく学問である。本来、学際的な研究分野であるが、本授業ではオセアニア地域の学校教育をテーマに取り上げる。学校は受講学生は誰もが学んだ経験のある場所であり、また多様な地域の特徴を反映している。オセアニア地域からオーストラリアやニュージーランド、ポリネシア、メラネシア、ミクロネシアの国々の教育制度、学校文化、教育と社会・文化との関係、教育改革の流れを学ぶことで、オセアニア地域の特徴を考えていく。そのためにフィールド調査の感覚を持ち、文献や資料、画像・映像等を分析し、記述、整理、比較といった作業を進め、当該地域の学校教育と教育が目指すことを考察する。こうした研究手法は、多様な学問分野にも通じるものであり、様々な学部の学生の受講を歓迎したい。	

情報科学Ａ	JavaScriptを用いて、プログラミングの基礎を身に付ける。 簡単なプログラムによって表示されるものが変わる楽しさを知り、本格的なプログラミングの経験のない学生でも、プログラミングへの意欲を得ることができる。JavaScriptによって作ることができるものを知り、静的なホームページから動的なホームページへ改良をすることができるようになる。	
情報科学Ｂ	大学の情報教育において、基礎的な事柄を学習する。一般的にコンピュータ科学の基礎となる部分を、プログラミングを通して学習する。新入生を対象に、コンピュータ科学の知識を有していなくて、プログラミング経験もないものを前提に、簡単な処理を行うプログラムが作成できるようになることを目的とする。プログラミングの家庭で、コンピュータの成り立ちや、内部でのデータの保持、処理の概要を学習する。	
情報科学Ｃ	大学の情報教育において、基礎的な事柄を学習する。数値計算の初歩を、Excelでの処理とプログラミングを通して、学習する。 1年生を対象に、コンピュータ科学の知識を有していなくて、プログラミング経験もないものを前提に、簡単な処理を行うプログラムの作成を通して、コンピュータで処理をすることはどういうことなのかを理解する。	
データサイエンスⅢ	研究室で取り組む研究で必要となるデータの取り扱い・解析のうち、研究分野に依存しない基礎的な事項を学ぶ。 未知のデータを与えられた時、その中身を理解するための具体的な手続きを想起し、臆することなくデータと向き合う事ができるようになる。 具体的な手続きの例: ・データについている説明書きを読む ・テキストエディタや表計算ソフトで中身のデータを眺める ・統計解析ソフトのコマンドを用いてデータ処理の過程をプログラムで実装し、人為的なミスを減らす工夫をする ・複数の解析手法を用いて同じデータを多面的に捉え、互いに矛盾がないかを確認することで、解析に誤りがないか確認する ・次にどのような出力が得られるかを解析の各過程で予想し、想定外の結果が得られた場合に解析の誤りを疑う ・解析に誤りがないことがある程度立証できた場合には、データ自体の誤りを疑う	
数理科学Ａ	群、部分群とラグランジュの定理、整数の基本性質、合同式と剰余類、既約剰余類、中国剰余定理、置換群、シャッフルの位数 上記の内容についてある程度の計算ができるようになること。	
数理科学Ｂ	円は、身近で美しい図形の一つであり、古代ギリシャ時代から多くの人々を魅了してきた。円に関する数学や円周率の問題が、いろいろな数学の発展とどのように関連し、進歩してきたかを学ぶ。円の数学の面白さや奥深さ、円周率の不思議な性質を理解できる。円の数学がいろいろな数学とともに発展してきたことを理解できる。	
数理科学Ｄ	「基礎線形代数学I」と「基礎微分積分学I」の理解のために役立つような問題演習を行う。当たっている問題について学生が発表する。 ･数列の極限に関する問題が解けるようになる。 ･関数の極限に関する問題が解けるようになる。 ･連続関数に関する問題を解けるようになる。 ･逆三角関数の問題が解けるようになる。 ･行列の簡約化と階数の知識を使って連立1次方程式を解けるようになる。 ･行列の簡約化を使って行列の正則性を判定できるようになる。また、逆行列を求めることが出来るようになる。	
数理科学Ｆ	言語としての数学を定理 公理 定義 推論規則を明確にして独自の構造を探ります。論証的な数学証明について 超数学の観点から習得することを特徴としています。 数学基礎論は数学の１分野です。ここでは数学の形式化を通じて証明の見通しをよくすることができるということを学びます。その上で論理的構造を考察してゆきます。ちょうど学問としての証明論への橋渡しにもなっています。応用は無尽蔵です。 論証数学にとどまらず ユークリッド幾何学から非ユークリッド幾何学誕生の変遷をたどってみるなどのより広義な意味での教養に意識がむけられるようになることです。	
数理科学Ｇ	学生自らが、黒板の前で、微分積分学および線形代数学の問題について学んだことを発表することを通して、大学初年次に学ぶ数学の理解を深める。 微分積分学および線形代数学の演習問題を自ら学び発表することにより、微分、積分、面積、消去法、固有値等の知識を得るとともに、解決法も身に着け、能動的に学修することができるようになることを目的とする。	
数理科学Ｈ	統計的な思考がますます重要となる時代の流れを受けて、高校における統計教材がますます充実し、その分、タイムラグのある大学生の未学習部分（外れ値、相関と因果、二項分布と正規分布、統計的な推測）が増えてきました。それをカバーすることから始めます。授業では統計検定３級から２級の内容を丁寧に説明します。 データの特徴をつかむこと、少ないサンプルから全体像をつかむこと、２つのグループの差をつかむことなどが出来るようになる。具体的にはサンプルの標準偏差から母集団の標準偏差を推定できること、複数の集団の違いを統計的に判断できること。具体的には、統計検定２級の資格取得を目指す。	
物理学1	地球誕生と同時にもたらされた金属元素及びその合金が人類の社会活動の中で積極活用された時期は早い。歴史学の中で石器時代に続く青銅時代、鉄器時代と歴史区分を表す用語となっていることからも生産手段として高い利用価値を有していた事が推察される。 更に貨幣利用や錬金術を考えると、道具としてばかりでなく経済活動や科学理解の発展の中で金属材料が重要な役割を果たして来たことも確認できる。本講義では、金属・合金利用や科学概念に関わる歴史を振り返りつつ、金属、合金の特性への科学理解が関連の研究分野とともにどのように深化して来たか学ぶ。	
物理学2	エネルギーは現代人の暮らしに欠かせないが、東日本大震災やそれが基で起きた福島第一原発事故は、エネルギー問題を自身のこととして考えさせる大きなきっかけを与えた。これまでも環境問題やエネルギー資源の枯渇を背景に、新エネルギーの開発が進められていたが、化石エネルギーの代替となる画期的なエネルギーの開発には至っていない。このような状況の中で、本授業は、世間にあふれるエネルギーの情報から、その特徴を多面的に見ながら正しく理解していくことを目指す。	

化学Ａ	化学に関するトピックスや最新の研究について、オムニバス形式の講義で学習する。また、その理解のために、基礎知識や化学的な見方について、学習する。 化学関連の事象や話題について、理解できる。さらに、化学の知識に基づいた解釈の仕方や見方を身につける。 （オムニバス方式/全15回） （177 石原　篤・261 橋本　忠範 2回） 無機素材化学の提供する話題 （100 久保雅敬・203 宇野　貴浩 2回） 高分子合成化学の提供する話題 （187 八谷　巌・238 溝田　功　 2回） 有機合成化学の提供する話題 （245 森　大輔・325 田港　聡 2回） エネルギー変換化学の提供する話題 （262 勝又　英之　1回） 有機機能化学の提供する話題 （137 伊藤　彰浩・263 小塩　明2回） ナノ材料物理化学の提供する話題 （149 金子　聡 2回） 分析環境化学 の提供する話題 （184 鳥飼　直也・253 藤井　義久 1回） 有機素材化学の提供する話題	オムニバス
化学Ｂ	現在の遺伝子工学の発展について、その基礎となった実験・発見の歴史的な意義も理解しながら、化学的視点で講述する。組換えDNA技術の基礎とその応用および社会における役割について理解する。 （147 宮本　啓一） 豊かな未来社会は健全な社会の熟成のみならず個人の健康に負うところが大きい。健康を損ねた体を人工的に置換したり、再生を促進したりする医療技術の発展は驚くばかりである。この学際的領域を工学、医学、社会等多面的に捉え、将来の姿を受講者と共に考察する。 （オムニバス方式/15回） 遺伝子工学および抗体工学に関する基礎的事項を学習し、バイオテクノロジーに関する知識を修得する共に、セミナー発表による学習の向上、発表における質疑応答の重要性について学ぶ。 （191 湊元　幹太 11回） 遺伝子工学関連の話題の提供 （258 鈴木　勇輝 4回） 抗体工学関連の話題の提供	オムニバス （一部）
生物学1	[生物多様性」とは生物が多様であることを表し、生物多様性の概要を知ることは、生物学の基本である。この授業では、高校までの生物学では断片的にしか語られない「生物多様性」について講義する。具体的には、生物がどのように多様化してきたか、人間が生物をどのように認識し、理解し、整理してきたか、生物を知るためにどのような調査・研究が行われてきたかなどについて俯瞰する。また、生物多様性の保全についても考える。	
生物学2	私たちの暮らしや医療にもかかわる放射線についての基礎を理解する。講義は、まず放射線の性質にはじまり、生物への影響、放射線計測、放射線利用、関係法令にもおよぶ。このうち、放射線生物学に重点をおく。教科書「初級放射線（第2種放射線取扱主任者受験用テキスト）」にそって講義を行う。学生に意思があれば国家資格の取得も応援する。	
生物学3	海洋生態系はバクテリア、単細胞生物、ベントス、ネクトン等多様な生物群から構成される。生態系について理解を深めるためには、これらの生物の持つ特性を理解することが必要である。本講義では海洋、水域に生息する、プランクトン、底生生物、魚類等、海洋生態系を構成する生物の多様な特徴について興味深い事例をとりあげて概説する。 （オムニバス方式/全15回） （331 古丸　明 4回） 軟体動物の繁殖方法・生活史概説 （24 石川　輝 5回） 海洋プランクトンの概説 （61 宮﨑　多恵子　3回） 海産魚類の感覚 （94 神原　淳 3回） 海産魚類の味覚と嗅覚の比較生理学	オムニバス
生物学4	哺乳類の中で、一部の動物たちは海を生活の場所とするようになった。クジラやイルカ（鯨類）はその代表格であり、多くの水族館でも飼育され、マスコミで取り上げられることも多く、興味・関心を持つ者も多い。一方、日本は、調査捕鯨やイルカ漁業が国際的な批判を受けてきた中。2019年商業捕鯨を再開した。本授業では、鯨類の生物学について、単に日本語での講義ではなく、英文の入門書の一部を教材として利用し、それを受講者で輪読するアクティブラーニングの要素を取り込んだ方式での講義を行う。また、授業終了時の成果物として最終的に一冊の和訳集にまとめあげる。	
入門生物学	医療系に必要な生物学の基礎知識の習得を目的とする。この科目を履修することによって、解剖学、生理学、免疫学、微生物学、生化学、分子病態学などを学びやすい環境を整える。 生体内で行われている化学反応を理解するために、生化学と関連する疾患について学ぶ。感染症の理解を促すために、微生物の特性とそれに対する生体防御機構を学ぶ。生体の微妙な調整を行うために、ホルモンなど信号伝達を学ぶ。脳科学の基礎を学ぶために、脳と神経の基礎について講義する。死亡原因の上位を占める癌の理解のために、発癌のメカニズムの基礎を学ぶ。遺伝情報の流れを理解するために、遺伝学の基礎を学ぶ。	
自然科学概論1	科学・技術は、わたしたちの生活に様々な面で多大な影響を与えている。本授業では、19世紀以降、現代に至るまでの科学・技術がどのように発展してきたのか、その歴史的な進歩の過程を見る。とくに19世紀以降の科学と技術の歴史は、国家や産業界との関係が深く、急激に大規模化・高度化してきた。そのため、科学・技術が社会とどのような影響関係にあるのか幅広く探ることが重要である。本授業の受講を通して、現代の科学技術文明が、歴史の積み重ねによって成り立っていることを学んでほしい。また、本授業の後半では、日本における科学・技術の発展も扱う。日本の文化を学ぶ一つのきっかけとしてほしい。	

自然科学概論2	食品には、一次機能（栄養面での機能）、二次機能（味や香りなど嗜好面での機能）、三次機能（病気のリスクを低減させる機能）があり、私たちの食生活の豊かさや心身の健康の維持に極めて重要な役割を果たしている。この講義では、「食品の科学」と「食と健康（食品の機能）」を授業テーマとし、糖質、脂質、タンパク質など食品に含まれる栄養成分とポリフェノール類など非栄養性成分の構造と生理機能について、学修する。さらに、それらが健康の維持へ及ぼす影響や生活習慣病に対する効果、遺伝子と生活習慣病との関わりなど、基礎研究を行っている第一線の研究者達が分かりやすく解説する。 （オムニバス方式/全15回） （60 柴田　敏行 3回） ガイダンス・水産食品と機能 （55 西尾　昌洋 3回） ポリフェノールの構造と生理機能 （92 苅田　修一 1回） 発酵食品と健康 （52 勝崎　裕隆 1回） 農産物の機能性 （54 磯野　直人 1回） 炭水化物の科学 （410 田中　晶善 6回） 食品の栄養・環境問題	オムニバス
自然科学概論3	源流域の森林環境の成り立ちや仕組みを理解し、流域環境保全における森林の重要性について現場教育を通して体験的に学習するため、三重大学で最大面積を占める平倉演習林（津市美杉町）において３日間の実地演習・講義を実施する。林業の実際と林産加工の実践について学ぶ。 平倉演習林で３日間の学習をとおして、 １）森林環境と森林資源が広く人間生活を支えていることを知る。 ２）地球上の自然環境は有限だが維持再生可能な部分もある。自然災害や環境荒廃を避け持続可能な範囲で利用することを学ぶ ３）森林で安全に行動するための基本を学ぶ ４）演習林の役割や自然状態が維持されている現場での教育・研究の重要性を理解する。	共同
ＰＢＬ自然科学概論	現代の科学技術について、その全体像を知ることは容易ではありません。科学者であっても、自分の研究分野については詳しいものの、ひとたび専門外のことになれば素人も同然ということが起こります。本授業では、「科学という営みはどのようなものか」、また「科学者というのはどういう人たちなのか」といった視点から、科学を離れた目で見ることで、科学の理解を深めます。 本授業では、PBLの手法を用います。15回の授業は、前半と後半に分かれており、それぞれ小さなテーマを探究します。テーマごとに、4人程度のグループを作ります。各セッションの終盤には、10分間のプレゼンテーションと5分間の質疑応答を行います。	
医学医療Ａ1	人体の構造や機能に関する情報は膨大で、授業内にすべてを講義できません。仮に講義したとしても一方的に解説を聞くだけでは眠くなってしまうかもしれません。結局のところ成書（ある分野を体系的にまとめた本・教科書）を自力で読み調べて理解することが求められています。 運動器系（骨・関節・筋）に関する知識を得る。 中枢神経系（脳・脊髄）に関する知識を得る。 末梢神経系（脳神経・脊髄神経）に関する知識を得る。	
医学医療Ａ2	生命医科学研究の最先端を講義より学ぶ。各専門分野の研究者がオムニバス形式で講義を担当する。 生命医科学研究の最先端を講義より学ぶ。 医学教育モデル・コア・カリキュラム「A-2 医学知識と問題対応能力」「A-8-1) 医学研究への志向の涵養」「B-3 医学研究と倫理」に準じる内容を理解できるようになる。 （オムニバス方式/全15回） （160 山崎　英俊／1回） 幹細胞発生学 （107 竹本　研／1回） 生化学 （176 西村　有平／1回） 統合薬理学 （154 後藤　英仁／1回） 組織学・細胞生物学 （102 小谷　泰一／1回） 法医法科学 （180 村田　真理子／1回） 衛生学 （173 成田　正明／1回） 発生再生医学 （127 油田　正夫／1回） 医動物・感染医学 （313 安間　太郎／1回） 免疫学 （186 島岡　要・312 阿栄　高娃／1回） 分子病態学 （286 河野　光雄／1回） 感染症制御医学・分子遺伝学 （113 渡邉　昌俊／1回） 腫瘍病理学 （133 笹島　茂／1回） 公衆衛生・産業医学 （157 今中　恭子／1回） 修復再生病理学	オムニバス
医学医療Ｂ1	人体の構造や機能に関する情報は膨大で、授業内にすべてを講義できません。仮に講義したとしても一方的に解説を聞くだけでは眠くなってしまうかもしれません。結局のところ成書（ある分野を体系的にまとめた本・教科書）を自力で読み調べて理解することが求められています。 内臓系（呼吸器・消化器・泌尿器・生殖器）に関する知識を得る。 脈管系（循環器・リンパ）に関する知識を得る。	

			医学医療Ｂ2	最新の臨床医学の進歩について各分野ごとに実務経験を持つ専門家から分かりやすく解説する。最新の医学技術、医薬品の進歩が目覚しく、これらを一般教養科目として受けることにより、生命科学、工学技術、教育分野、医療分野を将来専攻する際に大きく寄与する。 臨床医学の最前線を学び、現代医学の動向や将来展望を理解する。 （オムニバス方式/全15回） （158 佐久間　肇　1回）放射線医学領域 （307 内藤　陽平　1回）整形外科学領域 （185 土肥　薫　2回）循環器内科領域 （161 山中　恵一　1回）皮膚科学領域 （223 豊田　秀実　1回）小児科学領域 （222 片山　鑑　1回）腎臓の話 （168 新井　直也　1回）口腔外科学領域 （142 岡田　元宏　1回）精神医学領域 （163 小林　哲　1回）呼吸器内科領域の話 （248 水野　聡朗　1回）　腫瘍内科学領域 （119 俵　功　1回）血液の話 （156 今井　寛　1回）救急医学領域 （169 新堂　晃大　1回）神経内科学領域 （148 近藤　峰生　1回）眼科学領域 （オムニバス方式/全15回） 生理学や病理学の膨大な知識の中から、キャンパスライフにおける健康に役立つ話題について実践的に学ぶ。「心（メンタル）」と　「身体（フィジカル）」両面の健康に関連した講義を通して、心身の健康に対する自己管理能力を習得する。 （164 小林　由直　5回）総括・大学生及び大学生活での健康管理 （103 谷井　久志　3回）学生生活において身近な精神的問題 （323 松本　龍介　1回）薬物とアルコールの依存 （244 城山　隆　1回）高齢者のメンタルヘルス （397 楠本　みちる　1回）地域のメンタルヘルス （290 古田　範子　2回）　肥満、糖尿病、メタボリック症候群など生活習慣に関連する病気 （318 斎木　晴子　1回）タバコによる健康被害 （292 高橋　佳紀　1回）肺の感染症 -インフルエンザと結核、新型コロナウイルス	オムニバス
			医学医療Ｃ1	身近な保健・健康に関する考察 （266 玉利　健悟） 人体の仕組みを理解することは、文系、理系と問わず、教養として備えておくべき知識である。本授業では、人体を器官系別に、全身にある臓器や組織がどの様に働くことで、生命を維持しているかを簡潔に解説する。 人の痛みは、その本人にしか分かりません。痛みをどのように理解するのか、考えてみましょう。授業では、痛みのしくみを理解し、人々が、どのように痛みに向き合うのかを学びます。さらに、医療人が、どのように痛みに対処しようとしているのかを学びます。 （オムニバス方式/全15回） （284 横地　歩　8回） 痛みのしくみについての専門的授業 （143 賀来　隆治　1回） 痛みと緩和 （118 百崎　良　1回） 痛みに対するリハビリテーション （121 福録　恵子　1回） 看護支援 （277 明田　浩司　1回） 痛みと整形外科的疾患 （319 坂本　正　1回） 麻酔 （321 小野　大輔　1回） 麻酔 （304 松崎　孝　1回） 麻酔	オムニバス （一部）

医学医療Ｃ2	現代社会の変化、歪みなどに影響される健康課題に焦点を当てたオムニバス方式の授業、その実態と対策についての理解を促し、健康支援やサポートシステムのあり方について考える力を育てる。 １）現代社会における健康課題の実態や発生要因についての理解を深めることができる。 ２）現代社会が抱える健康課題の発生メカニズムと実施されている対策について理解することができる。 ３）健康支援の方向性やサポートシステムのあり方、自分の担える役割について考えることができる。 （オムニバス方式/全15回） （106 竹内　佐智恵　5回） 総括・手術を受ける病気になったら （123 片岡　三佳　１回） 知っていて欲しいこころのケア （318 北川　亜希子　１回） 高齢者のケアシステム （316 犬丸　杏里　１回） がんをもって生きること （315 近藤　桃子　１回） 育児に必要なこと （105 谷村　晋　１回） 感染症流行拡大の数理モデリング （190 桝屋　正浩　１回） がんと生きる （305 船尾　浩貴　１回） コミュニティと健康 （212 村端　真由美　１回） 子どもの療養環境 （309 服部　由佳　１回） 環境と健康 （293 松裏　豊　１回） 睡眠リズムと健康	オムニバス
医学医療Ｄ	日常生活で起こりやすい身近な健康課題についてのオムニバス方式の授業を行う。 この課題についての理解を促し、具体的な対処方法と予防的観点からの「健康的な生活の過ごし方」について考える力を育てる。本講義では、 １）生活の中にある身近な健康課題について再確認し、その対処方法や予防方法のあり方について理解する。 ２）各健康課題の視点から自分の生活をみつめ直し、発生要因や具体的な対処方法について考える。 ３）身近な健康課題の予防に向け、生活習慣を改善する具体的方策について考える。 の3点を学習すの到達目標とする。 （オムニバス方式/全15回） （106 竹内　佐智恵　2回）　ガイダンス・まとめ （231 井村 香積　1回）　人間関係 （121 福録　恵子　1回）　骨の健康学 （320 小川　将太　1回）　異文化の人々の生活と健康 （306 田村　裕子　1回）　「こころ」の世界を考える （167 松岡　真里　1回）　こどもの育ちとおとなの存在 （221 平松　万由子　1回）　老年期におけるこころとからだの変化と健康 （236 宮田　千春　1回）　ワークエンゲージメントを高めて活き活きと働く （136 安積　陽子　1回）　リプロダクティブヘルス （302 種田　ゆかり　1回）　リンパとむくみ （241 坂口　美和　1回）　いのちについて考える （139 磯和　勅子　1回）　超高齢社会における防災対策 災害看護の視点から （322 松田　未来子　1回）　食生活と健康 （194 林　智子　1回）　他者の立場に立って考える	オムニバス
医学医療入門	医学医療に関する科学、倫理、社会的立場からの幅広い総論及び各論について幅広く講義するし、医学医療に関する科学的知識と医学医療の持つ倫理性及び社会的概念と課題を提供する。医学医療の歴史、倫理、いのちの尊さ、医療情報、医療と家族、医療と看護、緩和ケア、性感染症、在宅医療、チーム医療や多職種連携等に関する知識を持ち、医学医療の倫理性及び社会的課題について考えることができる。 （オムニバス方式/全15回） （434 丸山　淳子　1回）　医学の歴史 （411 谷崎　隆太郎　1回）　医の原則 （160 兼児　敏浩　1回）　医療安全と医療倫理 （271 藤井　武宏　1回）　診療情報および個人情報の扱い、 （139 森尾　邦正　1回）　臨床研究と倫理、 （129 福録　恵子　1回）　看護の実践 （317 後藤　道子　1回）　コミュニケーションとチーム医療、 （405 鈴木　中人　1回）　いのちの授業 （119 田丸　智巳　1回）　渡航医学 （388 梅本　正和　1回）　こどもを通して人間を知る喜びを伝えたい （328 岩本　彰太郎　1回）　重い病気を抱えた小児が地域で生活するために医師ができること （423 林　辰弥　1回）　薬物療法の基礎知識 （394 金丸　恵子　1回）　性のトラブルを避けるために、 （289 橋詰　令太郎　1回）　ゲノムと病理 （303 松原　貴子・276 望木　郁代　1回）　ストレスマネジメントとコミュニケーション	オムニバス

国際保健と地域医療	医療と公衆衛生の課題を「国際」と「地域」のふたつの視点から考える授業である。地域医療の原点がある低所得国の医療現場の理解を通して、戦後、急速に発展した日本の保健医療の発展過程や近年、大きな問題となっている地域医療の崩壊について考える機会を提供する （オムニバス方式／全15回） （189 堀　浩樹／7回） 総括・ガイダンス・「Think globally, Act locally・地域医療」 （399 小泉　圭吾／1回） 「神島と地域医療と私」 （385 稲葉　寛人／1回） 「多様な視点から学んだ地域枠・小児科医の一例」「へき地は医者をステキにする」 （395 神谷　元／1回） 「COVID-19パンデミック」 （174 成島　三長／1回） 「学生からの国際医療」 （247 水谷　真由美／1回） 「農村地域の強みを活かした国際地域看護活動」 （446 久留宮　隆／1回） 「三重の産業を支える外国籍住民の医療と未来・日本の国際医療貢献」 （402 櫻井　洋至／1回） 「私にとっての医療－国際医療協力の経験からー」 （105 谷村　晋／1回） 「顧みられない熱帯病（NTD)」	オムニバス
ＰＢＬ医学・看護学	医学は医療・介護職にとっては必須なものですが、どの分野の学生にとっても、自分の病気の理解や、日常の健康問題に対する正しい判断のために、重要な学問です。中でも、ものを味わったり、嗅いだりすることは人生の楽しみだけでなく、危険の察知など、誰にとっても重要な研究テーマであります。 本授業は、プロジェクト型授業（Project Based Learning: PBL）の手法を用いています。	
環境学Ａ	食料生産と環境保全に関するテーマについての問題点や解決方法、また、態系保全や持続可能な社会について理解し、これらの諸問題にどう取り組んでゆくべきなのか認識を深める。 （96 梅崎　輝尚） 人口増加によって引き起こされる環境破壊について現状を認識し、人類の生存に必要不可欠な食料の生産と環境保全に関する知識を身につけるとともにプレゼンテーションの方法を学ぶ。 （369 マホニー　ブライアン・ジェームス） To study and evalute various environmental issues relating to global warming, biodiversity, our planet earth and to begin to recongnize the impact these pose to life and sustainabilty. （和訳） 地球温暖化、生物多様性、地球上のさまざまな環境問題を研究・評価し、これらが生命と持続可能性に及ぼす影響を理解する。 （432 間島　順哉） 三重大学が取り組んでいる環境マネジメントシステム（ISO14001）の知識と監査技術の取得をする。 （オムニバス方式　15回） ブラックバス、ミシシッピアカミミガメ、ヌートリア、ムラサキイガイといった水生生物をモデルケースとして、これらの生物が外来生物になったかについて理解を深めるとともに、外来生物問題をめぐる社会的背景についても考察する。 （27 河村　功一 4回） 授業全体の概要説明ならびに外来種問題の総論を担当 （331 古丸　明 3回） 水生貝類を中心とした外来種問題の解説 （26 木村　妙子 3回） 水生無脊椎動物を中心とした外来種問題の解説 （63 淀　太我 5回） 淡水魚を中心とした外来種問題の解説	オムニバス （一部）
環境学Ｆ	水質や大気などの身近な環境問題が、近年益々重要視されるようになってきた。本授業では、前半部で地球環境問題、環境問題とエネルギー、大気環境、水質環境などの環境の基礎的概念を講義し、後半部で、排水処理、水リサイクル、環境基準、排水基準、濃度、有害汚染物質（重金属元素、有機化合物）の項目を概説する。環境を汚染しない排水処理方法を理解することにより、環境保全に関する企業に就職してからのプレゼンテーション能力を向上させる。水をきれいにするとはどのようなことであるか、分かりやすくに説明し、一般的な排水処理プロセスを理解する。 また、近年、特に重要になってきた持続可能な開発目標（SDGs）は、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標であるため、SDGsの内容と共に、今後の環境問題の動向を講義する。 （オムニバス方式／全15回） （149 金子　聡／8回） 環境化学全般 （326 立石　一希／7回） 環境化学各論	オムニバス
環境地理学Ａ	地理学の調査・研究に必要な基礎的事項である地形図についての講義および実習を行う。前半は地域の環境の捉え方、見方に関する事項を中心に講義、作業を行う。後半はフィールドワークやその事前準備などで必要とする地形図に関する事項を中心に講義、作業を行う。 地域の風土・環境を理解するために地形図が活用できる。統計資料および現地観察によって地域の特徴が理解できる。地域性・地域差を理解できる。	
環境地理学Ｂ	「水」を取り巻く環境は、水循環に係わる降水・河川・地下水から、水資源・水害に係わる利水・治水のなど多くの面にわたっており、地域の発展にとっても不可欠である。以上の観点から、地域に存在する具体的な「水」について紹介し、水に関する環境の基本を理解するとともに身近にある水に関心・理解を深めることを目的とする。	

環境地理学Ｃ	身近な自然の中でも人々の生活にも不可欠であり、比較的すぐに接することのできる「水」を取り上げ、動態地理的なアプローチから地域の自然環境と人間活動について関わり方について学ぶ。 21世紀の世界的課題である水問題や自然災害の現状と解決について、これら課題や問題に対しての理解と取り組みができるようになることを目指す。あわせて、これらの道筋を次世代に向けて説明できるようにする。	
環境科学1	人間をとりまく諸環境の特性 （182 大野 研） 景観を創るうえで必要な基礎知識と手法を問題と議論によって学び、身近な三重大のキャンパス景観改良計画を企画し、その成果を公開発表会で報告する。 （428 古川　浩司、338 前川　陽一／15回）（共同） 勢水丸に乗船して伊勢湾にで実施します。表面海水測温や透明度測定といった基本的作業から、CTDオクトパスシステムを使用した断面観測といった本格的な海洋観測作業を行います。また、ベントスネットなどを用いた底生生物採集も同時に行い、三重県の東側に面する伊勢湾の海洋環境と生態系との関わりについて体験的に学習します。	共同（一部）
環境科学2	地球規模の問題である環境問題に関する知識を自然科学的な側面と社会学的な側面の両面から理解し、同時に環境問題を身近な問題として捉え、柔軟に考察ができる能力を育てることを目的とします。 （428 古川　浩司） 地球温暖化や水質・大気・土壌など環境汚染、衛生環境（水道水・浴槽水）、有害化学物質管理、放射能、エネルギー、廃棄物など様々な環境問題を基礎的に幅広く講義を行います。 2030年までに達成すべき国際目標のSDGs、また、日本が2050年までに目標としているカーボンニュートラルについて、各分野を専門とする教職員が、国内外の動向を踏まえ、その重要性や先進的な取り組み事例などについてオムニバス形式で講義をします。 （オムニバス方式/全15回） （122 平山　大輔／5回） 講義ガイダンス、地球温暖化による生物多様性への影響、アーバンフォレスト戦略について （114 朴　恵淑／3回） SDGsについて （98 丸山　直樹／1回） CO2削減技術（省エネ技術等）について （326 立石　一希／1回） CO2削減技術（水素など燃料転換）について （260 市川　俊輔／1回） CO2削減技術（バイオマスエネルギー）について （68 渕上　佑樹／1回） CO2吸収（森林吸収：グリーンカーボン）について （62 倉島　彰／1回） CO2吸収（海洋吸収：ブルーカーボン）について （391 奥山　哲也／2回） 国内のカーボンクレジット制度（排出量取引）について	オムニバス（一部）
生物資源学Ａ	生物資源とそれを育む環境の自然的側面 土は、自然環境の構成要素としての側面と食糧生産の基盤としての側面を併せ持つ。水田、畑地、果樹園、茶園、畜産ならびに農産物加工などの学習を通して、作物生産において土が示す両側面の相互関係について理解するとともに、両側面の持続的発展の方向を探る。また、地域の特産物を講義対象とすることで、三重の地域農業・社会との関わりに気付き、地産地消の精神を学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （337 奥田　均／6回） ガイダンス・総括・地域特産物・果樹関係 （3 松井　宏樹／2回） 肉牛（松阪牛）の肥育関連 （66 三島　隆／6回） 農産物加工関係 （29 長菅　輝義／1回） 水稲関係 生物と環境は相互に作用を及ぼし合っている。本講義では動物と環境の関わりについて概説し、進化、資源の循環、自然環境、環境保全について考える。 （オムニバス方式／全15回） （34 伴　智美／5回） 環境が動物の生体調節機能に及ぼす影響 （3 松井　宏樹／5回） 動物が環境に及ぼす影響 （35 近藤　誠／5回） 動物を中心とした資源の循環 土壌とは何かを理解した上で、森林による土壌の生成と、森林−土壌間におけるさまざまな物質の循環について学び、森と土壌の重要性について理解を深める。 （オムニバス方式／全15回） （9 野中　寛／8回） 森林の炭素循環と利活用 （38 水野　隆文／7回） 土壌に関する一般教養と森林との関係	オムニバス

生物資源学Ｂ	野生哺乳類の生態や産業動物（ヒツジ）の健康について講義する。 動物の生態学、行動学、保全管理学と、獣医学に関する分野（病理学、薬理学、疫学、寄生虫学）などを理解し、動物に対する素養を身につける。 野生動物の生態と産業動物の獣医学の基礎を理解し、野生動物の管理や産業動物の健康を診断する能力を身につける。 （46 吉原　佑／15回） （オムニバス方式／全15回） （103 石川　知明／4回） （43 板谷　明美／4回）	オムニバス （一部）
地域防災論	三重県を中心に東海地方において、近年多発している自然災害や、今後起こり得る自然災害について、発生のメカニズム、従来の災害の歴史、自治体や地域における対策、復興・復旧、被災地支援や被災地における保健・医療・介護・福祉といった幅広い情報と知識の涵養が必要である。本講義では、さまざまな分野において地域における防災・減災に関わる専門家から、これからの学生生活や社会生活の中で最低限必要な事項について講義を行う。 （オムニバス方式/15回） （204 栗原　行人 1回） 地質 （154 宮岡　邦任 3回） 全体総括、地理的要因、グループディスカッション （12 立花　義裕 1回） 気象 （99 葛葉　泰久 1回） 風水害 （98 酒井　俊則　1回） 地盤・土砂 （118 塚本　明 1回） 災害史 （267 水木　千春 3回） 啓発（防災マップ、GIS、アーカイブ）、グループディスカッション （190 大野　研 1回） 景観（復興まちづくり） （317 服部　由佳 1回） 要配慮者対策 （205 溝口　明 1回） 阪神淡路大震災の体験 （444 丸山　一男 1回） 救急救命	オムニバス
防災論	我が国における自然災害についての基礎的知識を身につけ、それに対する行政から、市民までの様々な主体による、防災・減災の対策を理解する。またあわせて、受講者自身が災害対策（特に予防対策から緊急対応）をしっかり実践できるようになる。 （オムニバス方式/15回） 最近、事故や自然現象による災害が数多く報道されており、一般市民の防災に対する意識は高まりつつある。三重県を含む東海地方では、東海・東南海・南海地震の近い将来での発生が危惧されている。また、近年、三重県内では数多くの風水害・土砂災害も発生している。災害発生後は自助・公助・共助が必要であり、特に、学生を含めたボランティアは災害復興の大きな力となる。本講義では、防災意識の向上を目標に、建築・地域及び防災の専門の立場から、災害・防災に関する講義を行う。 （250 川口　淳 7回） 防災全般、過去の災害、地域防災 （159 三田　紀行 2回） 建築材料学、コンクリート工学 （252 大月　淳 1回） 建築計画と防災 （97 永井　久也 1回） 建築環境工学 （179 浅野　聡 2回） 防災都市計画、防災コミュニティー （240 佐藤　公亮 2回） 建築物の被害と対策	オムニバス （一部）
音楽文化論	西洋の芸術音楽は1000年以上の長きに渡って社会との関わりの中で変化、発展を遂げてきた。本講義では、社会史、文化史、精神史の観点から西洋の芸術音楽を論じる。 作曲家や作品の名前で把握されることの多い西洋の芸術音楽が、社会や文化とどのように結び付き、人にとってどのような意味や役割を担っていたのかを理解する。 音楽が社会と連動した営みであることを認識し、さらには、音楽を通して自国とは異なる文化、精神性を理解する。	
日本理解特殊講義1	三重県は、2000年の歴史を有する伊勢神宮を中心として、豊かな文化を育み、いまなお、魅力的な地域資源を数多く残す。本授業では、三重県の歴史的事象、文化的特徴、先人の功績、地域資源を活用した観光展開等に注目し、各テーマに精通したゲストスピーカーを迎え、三重県の歴史・文化を学ぶ。 本講義のねらいは、古代より育まれてきた三重県固有の地域資源が、これまでどのように利用され、どのように豊かな文化を形成してきたのかを考察し、今後、如何に持続的に利用していくことで三重県の発展に貢献できるのかを考えるための基礎的な視座を得ることである。授業は、各テーマに精通したゲストスピーカーを迎え講義をしていただくが、より深い学びを得られるよう、事前にグループワークを通じて各テーマについて学習する。	

日本理解特殊講義2	日本語教育に関する研究分野や実践は多岐に渡る。三重県内の外国人住民の割合は、全国3位と非常に高い。日本語教育を必要としている外国人は、留学生、高度人材、生活者、EPAによる看護士・介護福祉士、年少者（児童生徒）など、背景も様々である。本授業では、日本語教育の全体像および三重県における現状と課題を示す。 （オムニバス方式／全15回） （220 服部　明子／5回） 概要①・日本語教授法（会話）・日本語教育と評価 （199 林　朝子／2回） 概要②・日本語教授法（文字表記・語彙） （243 松岡　知津子／1回） 日本語教授法（文法・文型） （120 福岡　昌子／1回） 日本語教授法（音声） （149 金子　聡／2回） 日本の留学生施策および三重大学の留学生教育 （146 宮岡　邦任／1回） 地域と外国人①日系ブラジル人コミュニティとその背景 （189 堀　浩樹／2回） 地域と外国人外国人医療の現状とやさしい日本語 （324 正路　真一／2回） 第二言語習得	オムニバス
日本理解特殊講義4	起業のための基礎知識と方法を起業プランの作成を通じて実践的に獲得する。 （オムニバス方式／全15回） （166 松岡　守／2回） 起業に関する取り組み （219 八神　寿徳／7回） 総括・ガイダンス・プランニング・プレゼンテーション （445 武田　秀一／6回） ビジネスプランの作成 地域社会の中核人材として活躍する人材になるために必要な素養（感じる力、考える力、コミュニケーション力、生きる力）について理解できるようになる。 （オムニバス方式／全15回） （175 西村　訓弘／2回） 総括・ガイダンス （207 狩野　幹人／3回） 食品・医療分野の授業実施の進行・監督 （219 八神　寿徳／3回） バイオ・農林水産分野の授業実施の進行・監督 （233 加藤　貴也／7回） モノづくり工業分野の授業実施の進行・監督	オムニバス
日本理解特殊講義5	日本人学生と留学生が共に日本社会や文化についてディスカッションを通して学びあう。お互いを尊重しながら、日本社会や留学生の出身国・地域について、日本人学生は留学生に説明し、留学生はそれぞれの文化との比較した視点を提供する。受講者は、社会や文化に対する観察力を磨き、自分の考えをまとめて発表する能力を養う。(留学生は上級レベルの学生)	
現代社会理解特殊講義1	三重大学のESD実践方法の一つとして、持続発展教育（ESD）の基礎として自然環境・地域経済・環境への取り組みの事例などを学び、また、三重大学独自の環境活動に対するポイント付与システムであるMIEUポイントシステムについての理解を深め、MIEUポイント活動の実践を通して環境マインドの育成を図る。 （オムニバス方式／全15回） （98 丸山　直樹 1回） 環境に関する講義としてLCAについての講義を行う （95 石川　知明 0.5回） 環境に関する講義として森林資源についての講義を行う （96 梅崎　輝尚 0.5回） 環境に関する講義として地域追加についての講義を行う （242 山村　直紀 13回） 環境活動の実践を指導する	オムニバス
現代社会理解特殊講義2	男女共同参画を含むダイバーシティ（多様性）について多方面から考え、活動できるよう、社会の様々な分野におけるダイバーシティに関する取組み等について学ぶ。 （オムニバス方式／全15回） （180 村田　真理子／5回） 総括・オリエンテーション・ダイバーシティ・ライフプラン （124 朴　恵淑／1回） ダイバーシティ社会と持続可能な開発目標（SDGs） （203 宇野　貴浩／1回） 男女共同参画の推進 （227 國仲　寛人／1回） 科学技術分野におけるダイバーシティ （236 宮田　千春／1回） ヘルスケア分野におけるダイバーシティ （150 駒田　諭／1回） エンジニアの仕事における男女共同参画 （23 福﨑　智司／1回） 衛生管理技術に欠かせない女性の経験知 （291 江藤　みちる／1回） ダイバーシティとワークライフバランス （171 森脇　由美子／1回） 歴史のなかの男女共同参画 -アメリカの事例を中心に- （329 水谷　泰子／1回） 大学病院におけるダイバーシティ、男女共同参画の推進 （204 下村　智子／1回） 男女共同参画と多様性	オムニバス

現代社会理解特殊講義3	三重は、東海圏を代表する日本でも有数のものづくり拠点である。また、熊野灘・伊勢湾に面することから、温暖な気候下で特色ある農林水産業が発展し、それを活かした食品製造業も盛んである。他方、三重県において全国の傾向と同様、高齢化が進展し、労働力不足を解消すべく、AI等を活用したビジネス戦略も進んでいる。三重県の経済は多様な産業から構成され、各産業が相互に関係性をもちながら発展している。本授業においては、科学技術の発展や国際化、健康志向、高齢化、withコロナ等の時代の趨勢等を踏まえ、三重の経済を支える産業に着目し、その歴史的発展や現状、課題を客観的なデータを用いながら学術と実務の両面から学習するものである。
現代社会理解特殊講義4	英語で実施する授業科目 What questions do you have about the world? This is a course about asking questions about society and social issues and then searching for the answers. <和訳>世界についてどんな質問がありますか? 社会や社会問題について問いかけ、その答えを探すコースです。
現代社会理解実践1	三重県内の企業・市役所等における環境実務への参加を通して、地域について学び、企業や自治体の行っている環境活動に対する理解を深めると共に、実務に必要なスキル・態度を習得することをねらいとする。2023年度は、インターンシップ受入れ先として、キオクシア株式会社 四日市工場（旧・東芝メモリ株式会社 四日市工場）、ミキモト真珠島真珠博物館、亀山市役所（環境課）、三重県環境保全事業団、伊勢商工会議所を予定している。
現代社会理解実践2	今日、ノーマライゼーション（あらゆる活動にすべての人が平等に参加できる）社会の実現が求められている。大学への進学も社会参加の一つと捉えた場合、障がいのある学生の修学について、その人の疾病や機能の問題だけでなく、教育支援や生活支援についても考える必要がある。この授業では、さまざまな障がいの実態について実習形式で学ぶとともに、事例検討を通して障がい学生支援が障がい学生のためだけの支援ではなく、すべての学生にとって教育的な価値があるということを理解することを目的とする。 （オムニバス方式／全15回） （274 風間　悼希／9回） 総括・精神障害・発達障害領域における授業 （421 丹羽　怜史 1回） 聴覚障害・支援方法についての授業 （439 横山　慶 2回） 聴覚障害・手話についての授業 （430 前川　賢一 3回） 視覚障害・支援方法についての授業
現代社会理解実践3	誰かに何かを教えるとき、まず興味を持ってもらわないと学習への意欲が生じず、学習が成り立たないと考える「教える技術」とその理論があります。「教える技術」は誰でも身につけることができ、学校だけでなく、普段の生活や社会でも役に立ちます。この授業は、担当教員が実施（予定）した高校生向けの高大連携講座の事例の体験を踏まえて、新たな高大連携企画の修正案を提案するというプロジェクト型のPBL授業です。本授業では、プロジェクトの遂行（問題解決）を通して、誰もが使える「教える技術」の修得をめざします。
国際理解実践1	人口、食料、エネルギー、環境、教育などの問題に関する英語論文の作成とパワーポイントを用いた発表技法について演習形式で学び、三重大学が海外の協定大学とともに輪番で開催するTri-U国際ジョイントセミナー＆シンポジウム（Tri-U International Joint Seminar & Symposium）に参加して研究発表を行なう。
国際理解実践2	三重大学の外国人留学生の実態やニーズを把握し、留学生支援のために学生に何ができるのかを検討するプロジェクト活動に携わることを通して、多様化する社会の中で生かせる国際性とコミュニケーション力を育成する。
国際理解実践3	三重大学の協定大学(ベトナム・ホーチミン市師範大学または韓国・啓明大学の日本語専門)の学生とグループを作り、グループごとに設定した調査テーマについて、日本語でディスカッション、準備、調査を実施し、成果発表を行う。前半の講義では、座学による現地に関する概要を理解したり、オンラインによる現地学生との交流を行う。後半では、現地を訪問し、実際の調査と交流を行う。なお、2022年度はベトナム・ホーチミン市師範大学との交流を予定している。
国際理解特殊講義1	現代社会における「教育言説(教育において自明視されていること)」を4つ取り上げ、それぞれについて思想的背景を明らかにした上で、「今日における実態」を確認し、「今後に残される課題」について検討する。現代社会における「教育言説」を思想的背景を含めて理解したうえで、今後の教育の在り方を思考することができる。
国際理解特殊講義2	To introduce, explore and reflect upon the many wonders, both natural and man-made, that exist around our world. Extended reading, feature film & documentary, oral presentation and written research reports will also give students the opportunity to express facts, viewpoints and opinions in English. A creative art project is also an important component of this course. <和訳>私たちの世界に存在する自然と人工の両方の多くの驚異を紹介し、探求し、熟考すること。長時間の読書、長編映画とドキュメンタリー、口頭発表、書面による研究報告も、生徒に事実、視点、意見を英語で表現する機会を与えます。 クリエイティブ アート プロジェクトも、このコースの重要な構成要素です。
国際理解特殊講義3	血統原理や世襲原理に基づく君主を戴く国家は、わが国をはじめとして実は少なくない。君主が有する権能は歴史上、また国によって様々である。 この授業では二十世紀以降の立憲君主制を主たる対象として、近年の研究成果に拠りつつ、その諸相に迫りたい。 研究に基づいて歴史が書かれていることを知る。 研究の発展が歴史観を変えることを、先端的な研究を通じて体得する。 一つの事柄になぜ複数の解釈や見方があるのかを知る。 歴史上の出来事や人物について、世間には誤ったイメージが流布していることに気付く。 歴史というものはイデオロギーや政治的意図によって歪曲されることもあることを認識する。

国際理解特殊講義4	Work and Global Understanding This is a course about the connections between work, culture, and personal values, and how they affect people's real experiences. You will use English every week and improve your speaking, listening, reading, and writing skills. <和訳>仕事と国際理解 これは、仕事、文化、個人の価値観の関係と、それらが人々の実際の経験にどのように影響するかについてのコースです。 毎週英語を使用し、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングのスキルを向上させます。	
国際理解特殊講義5	社会や経済、科学技術の発展著しい今日の国際社会において、なおも経済格差、教育、貧困、紛争、環境や自然災害、感染症など多くの課題がある。これらはもはや、国単位だけではなく、地球規模の課題としても認識されるようになってきており（SDGs）、日本も先進国の一員として独自に、また国際機関や他ドナー、NGOなど様々なアクターとともに国際協力を展開している。本授業では、開発援助・協力の基礎理論、理念などの歴史的な変遷と現在の潮流、SDGsの理念と内容を学んでから、教育分野、環境保全や農業、平和構築、貧困やジェンダーなどのテーマ別の課題をアフリカやアジアの現状も取り上げあげて学ぶ。次にNGOやODA、JICA、大学における様々な取り組みや組織、制度など、どのような実践が行われているのかを学ぶ。これらを通して基本的な知識だけでなく、国際協力のあり方をどのように考えればいいのかについて学ぶのが本授業の特徴である。特にSDGsを深く理解することが求められ、SDGsを踏まえた新たな国際協力の可能性について考えていく。 （オムニバス方式／全15回） （265 奥田 久春／14回） 総括・国際協力概論・グローバルイシュー（教育）など （4 中島　千晴／1回） 国際協力・環境保全・農業	オムニバス
現代科学理解特殊講義1	現代の科学・技術は、科学者や技術者だけの問題ではなく、一般の社会と密接に関係している。科学・技術の成果は、われわれの暮らしに恩恵を与える一方で、ときに問題を生み出すことがある。しかし、現代の科学・技術は急激な進展をみせており、専門家でさえ個人が把握できるのは、科学・技術全体のほんの一部分にすぎない。こうした科学・技術をわれわれはどのように捉え、問題に対処していけばよいのか。各回の授業では、現代の科学・技術が社会と関わりをもつ際に生じる問題を取りあげ、それらを分析する視点を提供する。	
現代科学理解特殊講義2	近年、人工知能（AI）という言葉をよく耳にする。AIに関連した技術の進歩は、わたしたちの暮らしを便利にする一方で、AIに仕事を奪われるかもしれないなど、新たな社会問題となってきている。そもそも、AIとは何でしょうか。本講義では、まず初めにAIとそれを支える技術（データ収集・解析、機械学習など）との関係を整理し、マーケティング、企業分析、品質管理、生命科学、金融、保険、製造業などの分野でAIが社会でどのように活用されているかを学ぶ。つぎに、AIを理解するために必要なデータサイエンスの基礎（データを収集して読み、説明し、適切に扱う）を学ぶことで、現在、AIが得意としている画像認識と音声認識（類似画像検索やキノコの種類を教えてくれる、自動翻訳や音声検索アプリに応用されている）を例に、実際にデータがどのようにして扱われているのかを理解する。	
ＰＢＬ現代科学理解特殊講義1	現代の科学技術について、その全体像を知ることは容易ではありません。科学者であっても、自分の研究分野については詳しいものの、ひとたび専門外のことになれば素人も同然ということが起こります。本授業では、「科学という営みはどのようなものか」、また「科学者というのはどういう人たちなのか」といった視点から、科学を離れた目で見ることで、科学の理解を深めます。	
ＰＢＬ現代科学理解特殊講義2	ダーウィンの「種の起源」は現在の進化研究の源流としてさまざまな機会に引用されるが、実際に通読される機会は少ないと言われている。 そこで、教養課程のPBL形式授業としてこの本の日本語訳の輪読を行い、進化の発想の元に触れることで、現在の進化研究への理解を深めることを目標とする。 種の起源の内容を正しく把握することによって、ダーウィンの考えた進化の考え方を理解できるようになる。また、現在の進化研究の意義を、進化の観点から評価できるようになる。	
ＰＢＬ現代科学理解特殊講義3	生物関係の話題は一般のニュースや記事の中ではあっさりと紹介されることが多いが、深く読むと面白い事実や背景が見えてくることがある。そこでこの授業では、生物関係の話題をグループごとに深読みし、まとめを発表することを通じて、生物をさまざまな観点から考え理解を深める機会とする。生物関係の話題は一般のニュースや記事の中ではあっさりと紹介されることが多いが、深く読むと面白い事実や背景が見えてくることがある。そこでこの授業では、生物関係の話題をグループごとに深読みし、まとめを発表することを通じて、生物をさまざまな観点から考え理解を深める機会とする。	
インターンシップ入門	インターンシップは、職業観や就業意識を向上させ、仕事理解を深める上で非常に有効な手段です。この授業は、インターンシップに参加するための事前教育として位置づけています。インターンシップに参加する前にビジネスで必要なコミュニケーションスキルやマナーを身につけたり、業界や企業研究を通して市場理解を深めたりします。さらに、履歴書の書き方や「志望動機」「自己PR」の書き方を学んで、就職活動の準備としても活用することができます。	
ピアサポート実践	相互に支え合い、助け合うという「ピアサポート」の理念を念頭に、学生の「学びのモチベーション」を活性化するような取り組みを、学生自らで企画検討し、それに基づく実践を行う。 ・学生らしさを大事にしつつ、ピアサポートを意識した学生支援活動（取り組み）を実践することができる。 ・学内に存在する多様なリソース（支援資源）を活用することができる。 ・グループでの議論や様々な作業に対して積極的にコミットできる。	
学習支援実践	三重大学に在籍する大学生の学修や学生生活に関する困り感やモチベーションに関する状況について、講義や学生へのインタビュー等を通して理解する。その上で、大学生がより良い充実した学習や学生生活を送るための支援の方法を検討、実践する。 ・同年代の大学生の置かれる状況について知識・理解を深め、共感する姿勢や態度を身につけることができる。 ・大学生の困り感やモチベーションを向上するための、具体的な方法に関するアイデアを検討し、そのプロセスを通してコミュニケーションやサポートのあり方について学び、実践することができる。	

学生生活支援実践	学生支援に求められる考え方を理解し、様々な背景を持つ学生がいかに充実した大学生活を送るか、そのために同じ学生として自分たちに貢献できることはなにか、についてグループで検討し、それに基づく実践を行なう。 １．大学コミュニティ全体を対象とした「学生支援」という考え方についての講義。 ２．現在備えている「援助資源」を探すための全体ワーク。 ３．グループワークによる、同じ学生の立場だからできる学生支援企画の検討と実践。 ４．グループ単位での実践内容の振り返り（考察）。 ５．「実践報告会」におけるグループ発表。	
ビジネスキャリア入門	就業力の育成を目的として、主に職業理解を重点とした入門科目である。 社会構造、会社のしくみ（ビジネスフレーム、ビジネスモデル、ワークルールなど）、労働環境（労働法規、労働問題、消費者視点を含む企業倫理など）などを把握し理解するなかで、遣り甲斐をもって働き、豊かな生活を享受できる能力や姿勢を身に着ける。	
ドイツの文化	例えば日本語と英語とドイツ語はそれぞれ異なる言語ですが、「ことば」という点では同じ。普遍性を見出すことも差異を見出すことも、両方できるようになる「体系的な見方」が言葉や文化の理解にとって肝要です。 ドイツの文化をヨーロッパとの関係や日本にある身近な題材から紐解くことで、当たり前のように存在するものに対する洞察力を養います。一見取るに足らないように思えるものもよくよく目を凝らしてみれば、思わぬ世界に通ずる扉であったり、様々な切り口で旨味が出る果実であったりすることを学んでいきます。	
中国の文化	特に古典詩文（漢詩・漢文）を題材として、中国語圏の文化への理解を深め、その特色について考える。中国の伝統的な文化についての知識を得、その特色について考えることができる。 授業では、おおよそ時代順に各時代の特徴的な事柄について、時代背景なども視野に入れつつ資料に拠り検討する。なお、資料では高校までの教科書で取り上げられている作品も取り上げる。	
ドイツ語ＩＡａ	教員はドイツ語の初歩的な文法事項や語彙、発音を説明します。受講生は練習問題などをとおして、総合的な基礎知識を身につけます。 ドイツ語の基本的な構造を把握することにより、ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）の言語文化に対する理解を深めます。 ドイツ語の初歩的な表現力を身につけ、ドイツ語技能検定試験5級に対応する語彙と文法知識の習得を目指します。	
ドイツ語ＩＡｂ	教員はドイツ語の基礎的な文法事項や語彙、発音を説明します。受講生は練習問題などをとおして、総合的な基礎知識を身につけます。 「ドイツ語ＩAa」に引き続き、ドイツ語の基礎文法を身につけながら、ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）の言語文化に対する理解を深めます。 ドイツ語の基礎的な表現力を身につけ、ドイツ語技能検定試験4級に対応する語彙と文法知識の習得を目指します。さらに過去形や現在完了形まで学ぶことによって、ドイツ語の基礎的な表現力と読解力を身に付けます。	
ドイツ語ＩＢａ	ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）の文化と社会について学びつつ、ドイツ語の語彙や構造を学びます。ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）のさまざまな文化的現象や社会的事象などについて学ぶことで、ドイツ語圏の文化や社会に対する理解を深めます。 ドイツ語の初歩的な表現力と読解力を身につけ、ドイツ語技能検定試験5級に対応する語彙と文法の知識を習得することを目指します。	
ドイツ語ＩＢｂ	「ドイツ語ＩBa」に引き続き、ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）の文化と社会について学びつつ、ドイツ語の語彙や構造を学びます。 「ドイツ語ＩBa」に引き続き、さまざまな文化的事象や社会的現象等について学ぶことをとおして、ドイツ語圏の文化と社会に対する理解を深めます。 ドイツ語の基礎的な表現力と読解力を身につけ、ドイツ語技能検定試験4級に対応する語彙と文法知識の習得を目指します。さらに過去形や現在完了形まで学ぶことによって、ドイツ語の基礎的な表現力と読解力を身につけます。	
フランス語ＩＡａ	フランス語の文法と語彙の基礎的な知識を学ぶ 初歩的な日常的フランス語を読んで理解し書くことができるようになること フランス語ＩＢａと並行して履修し、理解、修得、暗記がすべて十分であれば、文部省認定実用フランス語検定試験５級合格程度の実力が得られます。	
フランス語ＩＡｂ	フランス語の文法と語彙の基礎的な知識を学ぶ 基礎的な日常的フランス語を読んで理解し書くことができるようになること フランス語ＩBｂと並行して履修し、理解、修得、暗記がすべて十分であれば、文部省認定実用フランス語検定試験４級合格程度の実力が得られます。	
フランス語ＩＢａ	入門フランス語会話の実践に加え、テキストの文字情報および必要に応じて他のメディアを用い、フランス文化に触れ、理解する。 初歩的な日常的フランス語を聞いて理解し話すことができるようになること。フランス文化のいくつかの側面に関して初歩的な知識を得ること。 フランス語ＩAａと並行して履修し、理解と習得と暗記が十分であれば、文部科学省認定実用フランス語検定試験５級合格程度の実力が得られます。	
フランス語ＩＢｂ	基礎フランス語会話の実践に加え、テキストの文字情報および必要に応じて他のメディアを用い、フランスとフランス語圏の文化に触れ、理解する。 基礎的かつ日常的なフランス語を聞いて理解し話すことができるようになること。フランス文化のいくつかの側面とフランス語圏に関して初歩的な知識を得ること。 フランス語ＩAｂと並行して履修し、理解と習得と暗記が十分であれば、文部科学省認定実用フランス語検定試験４級合格程度の実力が得られます。	
中国語ＩＡａ	中国語の基礎発音、基本文法を学ぶ。 中国語の基礎発音と基礎文法を修得する。 中国語検定試験準4級相当の中国語を修得する。	

中国語ＩＡｂ	中国語の基礎発音、基本文法を学ぶ。 中国語の基礎発音と基礎文法を修得する。 中国語検定試験4級相当の中国語を修得する。	
中国語ＩＢａ	中国語の基礎的な文法の知識を用いて、会話・作文・講読等を練習する。 中国語の基礎的な文法の知識を用いた会話・作文・講読等の練習を行い、使える中国語を修得する。 日本中国語検定試験準4級程度の語彙・文法・会話・作文等を修得することができる。	
中国語ＩＢｂ	中国語の基礎的な文法の知識を用いて、会話・作文・講読等を練習する。 中国語の基礎的な文法の知識を用いた会話・作文・講読等の練習を行い、使える中国語を修得する。 日本中国語検定試験準4級程度の語彙・文法・会話・作文等を修得することができる。	
朝鮮・韓国語ＩＡａ	・ハングルとは何かを理解する。韓国語と朝鮮語は同一言語であることも理解する。 ・文字の仕組みの理解も加え、「読む・書く・話す・聞く」をバランスよく学べるようにする。基礎文法の学習だけではなく日常会話の練習も行う。 ・併せて、韓国の文化・歴史・風俗・社会事情などと接することにより、もっと韓国語を理解を深める。	
朝鮮・韓国語ＩＡｂ	・前期に続き、文法や語彙の勉強をする。 ・文字をしっかり覚え、文法の活用をしっかり学習し、「読む・書く・話す・聞く」をバランスよく学べるようにする。基礎文法の学習だけではなく日常会話の練習も行う。 ・併せて、韓国の文化・歴史・風俗・社会事情などと接することにより、もっと韓国語を理解を深める。 ・ 日常会話に良く用いられる決まり文句、挨拶表現を学び、話せるように練習する ・後期に教科書の7～12課まで勉強する ・学んだ語彙と文法を応用して簡単な文を作り話せるようにする	
朝鮮・韓国語ＩＢａ	・韓国語と朝鮮語は同一言語であることを理解するためのテーマで調べることを課題にして進む。 ・ハングルとは何か、文字の仕組みはどうなっているかなどを理解し、会話練習を取り組む。 ・文法の授業を受けている或いは基礎レベルの初級者として望ましいが、基礎知識が無てもどうぞ。 ・会話練習をするともに韓国の文化・歴史・風俗・社会事情などと接することにより、もっと韓国語を理解を深める。	
朝鮮・韓国語ＩＢｂ	・前期と同様、日常会話の練習を行う ・会話練習をするとと に、韓国の文化・歴史・風俗・社会事情などと接することにより、もっと韓国語の理解を深める ・話す訓練を通じて韓国語の基本的な基礎知識がまだない段階でも簡単に話せるようにする ・韓国語の正しい発音と聞き取りができる ・基本的な表現ができる	
ロシア語ＩＡａ	異文化理解の観点からみて、英語以外にいくつかの外国語を知ることは大切です。本授業では、ヨーロッパの言語のなかでも英語とは多くの点で異なるロシア語を学び、そのことによって言語の多様性を知ってもらいたいと思います。ロシア語の発音の基礎を手はじめに、初級文法をすこしずつ学んでいきます。 ロシア語の基礎的な文法を習得したうえで、日常生活でよく使われる文章を理解でき、自らの考えを伝えられるようになることをめざします。	
ロシア語ＩＡｂ	異文化理解の観点からみて英語以外にいくつかの外国語を知ることは大切です。本授業では、ヨーロッパの言語のなかでも英語とは多くの点で異なるロシア語を学び、そのことによって言語の多様性を知ってもらいたいと思います。ロシア語の初級文法を基礎からすこしずつ学んでいきます。 前期にひきつづき、ロシア語の初等文法を習得する。ロシア語の文章を読解し、短い文を自ら書くことができる力を身につける。	
ロシア語ＩＢａ	異文化について理解を深めるための糸口として、ロシア語を通してロシアの文化と社会について親しむことを目的とする。初等文法を活用しながら、ロシア語の会話や購読に慣れ親しんでいく。また、ロシア社会の特徴やロシア人の国民性についても学んでいく。 文法の授業で学んだロシア語の知識を定着させ、会話能力を養い、文章を読めるようになる。ロシア社会の特徴を知り、ロシア人の国民性についても理解する。	
ロシア語ＩＢｂ	異異文化について理解を深めるための糸口として、ロシア語を通してその文化と社会について親しむことを目的とする。前期に引きつづき、文法を活用しながら、ロシア語の会話や購読に慣れ親しんでいく。また、適宜ロシアの社会・文化やロシア人の国民性についても学んでいく。 文法の授業で学んだロシア語の知識を定着させ、会話能力を養い、文章を読めるようになる。ロシア社会の特徴を知り、ロシア人の国民性についても理解する。	
スペイン語ＩＡａ	スペイン語は20を超える国や地域の公用語として使用され、母語話者数は年々増加し5億人に迫るグローバルな言語です。日本国内においても、在日ラテンアメリカ人や訪日外国人観光客の増加を背景に、スペイン語を運用できる人材は近年ますます必要とされてきています。したがってスペイン語を習得することは、皆さんの将来にとってより有益なものとなるでしょう。この授業では、スペイン語圏のさまざまな文化を紹介しながら、スペイン語初級文法の習得を目指します。	
スペイン語ＩＡｂ	スペイン語は20を超える国や地域の公用語として使用され、母語話者数は年々増加し5億人に迫るグローバルな言語です。日本国内においても、在日ラテンアメリカ人や訪日外国人観光客の増加を背景に、スペイン語を運用できる人材は近年ますます必要とされてきています。したがってスペイン語を習得することは、皆さんの将来にとってより有益なものとなるでしょう。この授業では、スペイン語圏のさまざまな文化を紹介しながら、スペイン語初級文法の習得を目指します。	

スペイン語ＩＢａ	スペイン語は20を超える国や地域の公用語として使用され、母語話者数は年々増加し5億人に迫るグローバルな言語です。日本国内においても、在日ラテンアメリカ人や訪日外国人観光客の増加を背景に、スペイン語を運用できる人材は近年ますます必要とされてきています。したがってスペイン語を習得することは、皆さんの将来にとってより有益なものとなるでしょう。この授業では、スペイン語圏のさまざまな文化を紹介しながら、スペイン語初級コミュニケーションの習得を目指します。	
スペイン語ＩＢｂ	スペイン語は20を超える国や地域の公用語として使用され、母語話者数は年々増加し5億人に迫るグローバルな言語です。日本国内においても、在日ラテンアメリカ人や訪日外国人観光客の増加を背景に、スペイン語を運用できる人材は近年ますます必要とされてきています。したがってスペイン語を習得することは、皆さんの将来にとってより有益なものとなるでしょう。この授業では、スペイン語圏のさまざまな文化を紹介しながら、スペイン語初級コミュニケーションの習得を目指します。	
ポルトガル語ＩＡａ	ブラジルで話されているポルトガル語の基礎文法を学び、コミュニケーションに必要な最低限の知識をつけていく。前期はポルトガル語の文法に慣れ、簡単な表現を言えるようにする。東海地方にはたくさんのブラジル人が住んでいるので、ブラジルポルトガル語は非常に身近な言語である。将来的にポルトガル語を使って簡単なコミュニケーションが取れるように、ポルトガル語の初歩的な文法を学んでいく。	
ポルトガル語ＩＡｂ	ブラジルで話されているポルトガル語の基礎文法を学び、コミュニケーションに必要な最低限の知識をつけていく。前期はポルトガル語の文法に慣れ、簡単な表現を言えるようにする。後期は前期で学んだ文法事項を踏まえて、さらに発展させた表現を覚えていく。東海地方にはたくさんのブラジル人が住んでいるので、ブラジルポルトガル語は非常に身近な言語である。将来的にポルトガル語を使って簡単なコミュニケーションが取れるように、ポルトガル語の初歩的な文法を学んでいく	
ポルトガル語ＩＢａ	ブラジルで話されているポルトガル語の基礎文法を学び、コミュニケーションに必要な最低限の知識をつけていく。特に単語や動詞の活用を覚えられるよう、パターンプラクティスを中心に行う。またブラジルの社会や文化に関する情報も同時に紹介していく。東海地方にはたくさんのブラジル人が住んでいるので、ブラジルポルトガル語は非常に身近な言語である。将来的にポルトガル語を使って簡単なコミュニケーションが取れるように、ポルトガル語での会話練習を行い、コミュニケーションの助けとなるようなブラジルについての知識も学んでいく。	
ポルトガル語ＩＢｂ	ブラジルで話されているポルトガル語の基礎文法を学び、コミュニケーションに必要な最低限の知識をつけていく。特に単語や動詞の活用を覚えられるよう、パターンプラクティスを中心に行う。またブラジルの社会や文化に関する情報も同時に紹介していく。東海地方にはたくさんのブラジル人が住んでいるので、ブラジルポルトガル語は非常に身近な言語である。将来的にポルトガル語を使って簡単なコミュニケーションが取れるように、ポルトガル語での会話練習を行い、コミュニケーションの助けとなるようなブラジルについての知識も学んでいく。	
フランス語Ⅱ総合ａ	現代のフランスについて、わかりやすく書かれた時事フランス語の文章を講読する。学生の理解度に応じて、テキスト以外の新聞・雑誌記事等を抜粋し講読するが、DVDなども随時用い、フランス文化に親しんでもらう。 フランス文化を概観することで、現代フランスの現状や歴史的背景及びその問題点について理解する。 フランス語に関しては、フランス語検定試験3級・準2級程度の文法力、語彙力、および読解力を習得する。	
フランス語Ⅱ総合ｂ	現代のフランスについて、わかりやすく書かれた時事フランス語の文章を講読する。学生の理解度に応じて、テキスト以外の新聞・雑誌記事等を抜粋し講読するが、DVDなども随時用い、フランス文化に親しんでもらう。 フランス文化を概観することで、現代フランスの現状や歴史的背景及びその問題点について理解する。 フランス語に関しては、フランス語検定試験3級・準2級程度の文法力、語彙力、および読解力を習得する。	
フランス語Ⅱ演習ａ	フランス人教員と日常フランス語中級会話を学ぶことを通して、異文化コミュニケーションのスキルを増し、異文化理解を深める。機会があれば映画も利用する。 フランス人教員との平易な対話を通して会話の力を伸ばすとともに、フランス人の対人関係の在り方、ものの考え方を知る。フランス語の文法と語彙の知識とともに、その実践的応用力も伸ばす。	
フランス語Ⅱ演習ｂ	フランス人教員と日常フランス語中級会話を学ぶことを通して、異文化コミュニケーションのスキルを増し、異文化理解を深める。機会があれば映画も利用する。フランス人教員との平易な対話を通して会話の力を伸ばすとともに、フランス人の対人関係の在り方、ものの考え方を知る。フランス語の文法と語彙の知識とともに、その実践的応用力も伸ばす。	
中国語Ⅱ総合ａ	教科書各課の内容に沿って、読解、書き取り、会話、作文などを総合的に学習する。中国語読解力、会話力、作文力の養成及び中国文化に対する理解。 中国語検定試験三級レベルに相当する語学力を得ることができる。	
中国語Ⅱ総合ｂ	教科書各課の内容に沿って、読解、書き取り、会話、作文などを総合的に学習する。中国語読解力、会話力、作文力の養成及び中国文化に対する理解。 中国語検定試験三級レベルに相当する語学力を得ることができる。	
中国語Ⅱ演習ａ	文法や表現などを習得し、リスニングとスピーキングを中心に中国語総合運用能力を高めつつ、中国語圏の文化への理解を深める授業です。 ボキャブラリーを増やし、自然な表現を身につけること、また、中国語や中国語圏の文化への理解を深め、国際社会に相応しい教養を育むことを目的とします。 中国語検定3級に合格できるレベルに達することを目標とします。	
中国語Ⅱ演習ｂ	文法や表現などを習得し、リスニングとスピーキングを中心に中国語総合運用能力を高めつつ、中国語圏の文化への理解を深める授業です。 ボキャブラリーを増やし、自然な表現を身につけること、また、中国語や中国語圏の文化への理解を深め、国際社会に相応しい教養を育むことを目的とします。 中国語検定3級に合格できるレベルに達することを目標とします。	

			中国語Ⅲ応用Ａａ	中国語の口語表現を学び、実践する授業です。授業では文法の説明以外は基本的に中国語を用いて授業を行います。 ①中国語中級・上級レベルの口語表現、ネイティブらしい表現と発想の習得 ②中国現代文化への理解の深化 中国語検定３級、２級レベルの単語や文法、口語表現を習得します。中国語で自分の意見を表明することができるようになります。また、中国の事情、特に若者のリアルな生活や趣味関心を知ることもできます。	
			中国語Ⅲ応用Ａｂ	中国語の口語表現を学び、実践する授業です。授業では文法の説明以外は基本的に中国語を用いて授業を行います。 ①中国語中級・上級レベルの口語表現、ネイティブらしい表現と発想の習得 ②中国現代文化への理解の深化 中国語検定３級、２級レベルの単語や文法、口語表現を習得します。中国語で自分の意見を表明することができるようになります。また、中国の事情、特に若者のリアルな生活や趣味関心を知ることもできます。	
			中国語Ⅲ応用Ｂａ	アウトプットに重点を置いた授業です。文法ポイントを確認した後に、受講生に文を作ってもらいます。また、月に一度ほど受講生にまとまった文章を作成してもらい、授業中に皆で添削を行います。 中級レベル以上の文法に対する理解が深まります。中国語で自己表現（例えば日記を書くことなど）することがある程度できるようになります。	
			中国語Ⅲ応用Ｂｂ	中国語の中級～上級レベルの文章表現を習得します。文法ポイントを確認した後に、受講生に文を作ってもらいます。また、月に一度ほど受講生にまとまった文章を作成してもらい、授業中に皆で添削を行います。 中級レベル以上の文法に対する理解が深まります。中国語で自己表現（例えば日記を書くことなど）することがある程度できるようになります。	
	専攻基礎科目		数学基礎	微積分学の基礎。理工系学生を対象とした数学基礎教育で、専門科目への応用力を養う。	
			物理学基礎I	物理学は、実験や観測によって得られたデータを数学のことばで表すことによって、自然現象の本質的な部分をできるだけ簡潔に表現しようとする学問である。講義では、自然現象を数学のことばで表すための基本的な方法を学び、主に力学的な現象を例にとって、紙の上に書かれた数式がどのようにして多彩な自然現象を表現できるようになるかを学ぶ。	
			化学基礎I	生命活動の化学的理解に役立つ基礎的な学力と、２年次以降の関連分野の講義の基礎となる学力を養う。化学の基礎知識を再確認し、それを身近な問題を考える際に応用する方法を身につける。	
			生物学基礎I	4つの主題「生命現象と物質」、「植物という生き物」、「動物という生き物」、「生態と進化」に沿って生物学の基礎を学び、生物の共通性と多様性に関する理解を深める。	
			物理学基礎II	熱力学に関する基礎的な理解を得て、熱効率についての計算方法の基礎を身につけることができる。理想気体の挙動から始め、一部はエンジンなど実用機関の原理にも触れる。	
			化学基礎II	生物体を構成し、生命活動を担う基本分子である糖質、脂質、タンパク質、核酸、無機塩類などの構造と機能について学ぶ。専門基礎として必要な生物化学の全体像を広範に扱う。高等学校の教科「化学」にある有機化合物と人間生活、天然高分子化合物の構造と機能について指導するために必要な基本的事項を習得する。	
			生物学基礎II	生物学の基礎のうち、特に生態学分野について学ぶ。専門科目において生物と環境のかかわり等を学ぶための基礎となる科目である。「生態と環境」、「生物の進化と系統」に関連してこれまでに学界で得られている知見を学ぶ。	
			地学基礎	天文・地質・気象・環境といった地学に必要な基礎的な単元を網羅的に学修する。それぞれの学修ではグループワークを中心に学生自身が主体的に地学を学ぶアクティブラーニングの手法を用いて知識の定着を図る。	
			化学実験	無機化学、有機化学、物理化学、分析化学に関連する基礎的実験を行う。	共同
			生物学実験	多様な観点からの観察や実験・実習を通じ、生物の分類、生態、形態的特徴や細胞、器官の活動・機能について学ぶ。	共同

専門教育科目	学部必修科目	生物資源学総論	生物資源学が、自然科学のほとんどすべての分野と社会科学の一部の分野にまたがる総合科学であることを、地球や生命の歴史をたどりながら解説する。生物資源が人間社会に対して持つ食料的、素材的、環境的側面の歴史的展開とその評価について説明する。また、生命倫理、環境倫理、技術倫理、倫理規範関連技術、IT技術の現状などをふまえ、生物資源と人間社会との関係の歴史の中から、生物資源学の現代的課題を説明する。さらに、三重の地域をフィールドに、「三重を知る」、「地域を学ぶ」実践を行う。 （オムニバス方式/全15回） （研究科長/1回）生物資源とフードシステム （58 田中礼士/1回）海の微生物ﾊﾝﾃｨﾝｸ：個性的な生き物をみつけよう！ （34 伴智美/1回）ウシやヒツジはなぜ牧草だけで生きられるのか？ （43 西井和晃/1回）地球温暖化ってなんだろう？ （72 坂井勝/1回）足もとから考えよう：土壌のはたらき （76 森阪匡通/1回）尾鷲のとある漁港に現れた1頭のイルカをめぐって （31 福島崇志・84 内藤啓貴/1回）農業・食料×ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ×ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ （2 名田和義/1回）植物の生理・生命現象の宝庫：野菜と果物の科学 （7 松田陽介/1回）豊かな森を支える日陰者－菌根を通して森をみる－ （11 関谷信人/1回）「美味しい」こそが品種選択のモチベーション （62 倉島彰/1回）海の中の森が消えた （26 木村妙子/1回）サイレントエイリアン：海の外来生物 （54 磯野直人/1回）進化する食品 （57 伊藤智広/1回）肌寿命50年を引き伸ばすためにあなたがすべきこと （49 竹林慎一郎/1回）21世紀はゲノムの時代	オムニバス
		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ体験演習	生物資源学部には附属教育研究施設として附属紀伊黒潮生命地域フィールドサイエンスセンターと附属練習船勢水丸が設置されている。これらの施設へ赴き、実地実習を受講し、生物資源学におけるフィールド科学の基礎を学ぶ。 （オムニバス方式/15回） （FSC長/3回）生物資源と付属教育研究施設を通したフィールド科学 （29 長菅輝義、 337 奥田均、66 三島隆/3回）農場実習：畑地の作物、水田と稲作、農地の理解 （67 沼本晋也、68 渕上佑樹/3回）演習林実習：森林の遷移、天然林と人工林、長期観測調査 （30 松田浩一、69 岡辺拓巳、84 山本康介/3回）水産実験所実習：伊勢湾の生物 （338 前川陽一、85 中村亨/3回）乗船実習：航海と海洋観測の基礎）	オムニバス 共同
		技術者倫理	社会的諸関係の中で、科学技術あるいは科学技術者の倫理を巡ってどのような問題が生じているのか、いくつかの事例を題材にして明らかにし、さ らに自らが科学技術者として倫理上の問題に直面したときにどのように対処すべきかについて様々な角度から検証し、どこに人間の目標を置くかを考える。	
		卒業研究	各専門分野で学んだ知識および技術を応用しながら一つの研究テーマについて、主体的且つ計画的に取り組むことで、生物資源やフードシステムにおける科学的、社会的課題を研究という科学的手法で解決することを目指す。	
	学科選択必修	農林環境科学概論	この授業科目は、農業と林業の産業としての側面、環境との関わり、農業従事者の生活スタイルや、地域との関わりについて、地球環境およびわが国の実態と国の施策の観点も含め、多層的に解説し知識を習得する。また、気候変動が環境に及ぼす影響と環境及び様々な産業が農業を中心に複雑に影響し合っているフードシステムを俯瞰しながら、農業および林業で使用する植物の物質生産特性、栽培技術特性、成長および収量特性について基礎的な知識の習得を高めるとともに、今後の農業や林業、環境の在り方について自分なりの方向性が決定できるように配慮する。 （オムニバス方式/全15回） （33 長屋祐一/5回）第１回から第５回までを担当し、農業の現状、農業の役割、圃場利用型農作物生産、施設利用型農作物生産、飼料生産・家畜生産・エネルギー生産、農業の持続的な発展に関する技術と施策、農業生産工程管理（GAP）、里地里山の暮らし、獣害と農業について講義する。 （68 渕上佑樹/5回）林業及び木材産業の実態と今後の在り方を学び、持続可能な社会づくりについて考える。 （77 内藤啓貴/5回）気候変動、地球環境、フードシステム、フードサイエンスについて講義する	オムニバス
		海洋生物学	海洋等の水域に生息する様々な生物種群についての生物学的特徴や生態学的特性について最新の知見を教授する。これによって、海洋生物についての基本的な知識を定着させるとともに、生物多様性の意味や重要性について理解を深め、科学的な自然観を涵養する。 （オムニバス方式/全15回） （62 倉島彰/2回）海藻・海草類を担当する。 （24 石川輝/2回）浮遊生物を担当する。 （26 木村妙子/2回）底生生物を担当する。 （83 伯耆匠二/2回）軟体動物を担当する。 （63 淀太我/2回）淡水魚・汽水魚を担当する。 （61 宮﨑多恵子/2回）海水魚を担当する。 （32 森阪匡通/3回）海生哺乳類を担当する。	オムニバス
		応用生命化学概論	化学、物理学、生物学を基盤として生物の様々な現象を分子レベルから学習し、生物種々の機能を理解する。また、環境問題や食料問題、持続可能な社会の構築など人類が直面する様々な問題の解決にこれら生物が有する機能を応用するための基礎的な知識を習得する。 （オムニバス方式/全15回） （23 木村哲哉/5回）生命、食糧、環境に関連した「化学と生物」の基礎から応用まで広く研究する農芸化学という学問の発展のなかで、微生物発酵や醸造、酵素の応用といった研究の歴史から最新の分子生物学的な研究までを取り上げて紹介する。 （57 勝崎裕隆/5回）鈴木梅太郎がビタミンを発見して以来、この日本では応用生命化学という分野は発展をしてきた。この分野の一部の内容は食品と栄養さらには医薬品へとつながるものである。ヒトは健康でいたいと思い、常に体に良いものを求め（探索）、さらに作り出す（化学合成）ということをしてきた。機能性食品も30年前くらいから日本で発展してきた。これらの歴史と研究を紹介する。 （62 伊藤智広/5回）水産物の原料特性とその原料学的特性に基づいて古来開発されてきた各種の貯蔵・加工法の原理、問題点などについて工場における加工工程映像を活用しながら解説する。また、食品だけではなく、水生動植物を利用した香化粧品開発、機能性水産物の作出などについて解説する。	オムニバス

選択科目	入門数学演習	微分積分をはじめとした、理系大学数学に関する基本的事項を修得する。	
	フードシステムチュートリアル	農林水産業およびフードシステムの課題に対して解決策を提示するための方法論を学びます。調査法の基礎を学んだ上で現地調査やアンケート調査を行い、収集したデータの統計解析や既往研究との比較などから調査結果の意味を理解します。そして、調査結果の記述方法や発表方法を身につけ、俯瞰的な視野と分野横断的な理解を深めます。	共同
	Science EnglishⅠ	英語によるプレゼンテーションを4つ（Physical Aspects, Oral Aspects, Visual Aspects, Organizational Aspects） に分けて学習し、英語でスピーチができる力をつける。また、Science に関連した読み物などを材料に、英語によるディスカッションを通して、スピーキング力、リスニング力、リーディング力、及びライティング力を養う。	
	Science EnglishⅡ	Science に関連した読み物などを材料に、英語によるディスカッションを行い、スピーキング力、リスニング力、リーディング力、及びライティング力を養いう。また、英語でのプレゼンテーションに必要な表現などを習得し、英語で口頭発表ができる力をつける。	
	紀伊黒潮流域圏航海実習	1泊2日の日程で実施する。前半は勢水丸に乗船し1泊2日の航海を行い、漁業体験や海洋観測などの水産学や海洋学に関する洋上実習を行う。下船後の1日で陸上実習を行う。陸上実習では、海洋生物資源の加工や流通に関する施設の見学、調理実習、関係者による講演を行う。	共同
	生物資源学インターンシップ	生物資源学に関連した企業等の現場において実務経験や就業体験を積み、専門分野における高度な知識・技術に触れることで、生物資源学に対する理解を深めるとともに、課題解決・探求能力、実行力といった「社会人基礎力」や「基礎的・汎用的能力」を高める。	
	植物学	目標は、主要な森林構成樹種および栽培植物について、形態および生態的特性ならびに資源としての利用について修得し、それらの同定能力を高めること。また、森林管理や生態系保全を行ううえで、重要な樹木の取り扱いに関する基礎知識を深める。さらに、植物の成長・生存・種の保存に関する生理生態機能について網羅的な解析ができる能力を涵養する。目的は、森林を構成する樹木や公園などの植栽樹木、栽培植物について、基本的な形態的特徴の理解と同定能力の修得、ならびに植物の生理生態特性の理解である。この講義では、植物学について、前半は主に植物分類学、後半は主に植物生理学の内容とする。とくに植物分類学では、森林に生育する樹木ならびに栽培される植物を対象とし、それらの形態、分布、生態的特性、利用について解説する。植物生理学では、イネや野菜などの作物や果樹などの栽培植物の育成や品質向上を視野に入れた内容とする。 （オムニバス方式/全15回） （6 木佐貫博光/8回） 第1回　植物学とは 第2回　植物の形態と分類体系 第3回　葉の形態 第4回　シュートの構造 第5回　生殖器官の構造と生態 第6回　果実と種子の構造と生態 第7回　主要樹木の分布と系統 第8回　主要樹木の用途 （2 名田和義/7回） 第9回　植物における無機栄養と水の獲得 第10回　植物の基礎代謝 - 光合成と呼吸 - 第11回　光合成の多様性 第12回　光合成の生理生態 第13回　光合成産物の転流と蓄積 第14回　植物の養水分吸収機構 第15回　植物の成長と植物ホルモン－休眠と発芽・成長と老化・果実の成熟 -	オムニバス
	食料・資源経済学	生物資源を効率的かつ持続可能な方法で利用するために、人や企業、社会がどのように取り組むべきかを考える上で、経済学は有用である。特に、経済学の一分野であるミクロ経済学は、限られた資源の効率利用に関する学問であり、経済政策のみならず、効率的な技術開発のあり方や、技術普及のあり方、人々の行動原理に至るまで、一人一人が自ら考えるための方法や分析枠組を提供してくれる。本講義では、ミクロ経済学の基礎理論について学ぶことで、社会科学研究だけでなく、自然科学研究にも役立ち、さらには社会人として政策立案や企業経営、製品開発について考える上で役立つ知識や考え方を修得することを目的とする。	メディア
	農地工学	農村環境および水田および畑地の特徴と物質移動、灌漑や農地保全についての基本的な知識と考え方を概ね理解し、計画の評価とおおよそのデザインができるようになることを目標とする。	
	農場・演習林実習	農作物の栽培と収穫物や副産物の加工に関する基本知識、および森林育成における基礎知識を学び実際の管理作業を習得する。農場では、実習項目に応じて履修者を2-8班に分け、附帯施設農場を巡回しながら全8回を農場教員が共同で実施する。演習林では、森林育成に関わる施設や、里山、人工林、天然林などを巡り生物資源環境を涵養するさまざまな場所に赴き、県内の森林・林業・木材産業に関係する現場での実習を行う。 （オムニバス方式/全15回） （29 長菅輝義、 337 奥田均、66 三島隆/8回）（共同）第1回から第8回を担当し、水田における各種管理、常緑果樹と畑作物の栽培管理、収穫物等の加工を実施する （67 沼本晋也、68 渕上佑樹/7回）（共同）第9回から第15回を担当し、県内の森林・林業・木材産業に関係する現場での実習により、生物資源学の社会実装の様子を学ぶ。	オムニバス 共同

生理学	生理学は生命現象を化学物質の働きとして解釈する学問分野で、生命を理解するために必要不可欠な基礎学問分野の1つである。この講義では、植物の光合成と物質代謝、植物の形態形成と適応制御におけるホルモンの役割、動物の呼吸・循環機能と物質代謝、また、陸圏と水圏に生息する動物の内部環境の維持機構と環境への適応について、植物・動物の細胞、組織、器官レベルで解説し、さらにそれらを統合・調節して生命を維持している生理学的機構について概説する。この講義を通じて、生命現象の理解に必要不可欠な酵素学、代謝学および分子生物学などに基づく生理現象を理解できる基礎能力を身につけることを目指す。 （オムニバス方式/全15回） （2 名田和義/4回）第1回から第4回を担当し、生理学とは、植物生理学のうち炭酸固定、養水分吸収と膨圧調節、窒素同化と炭素分配を講義する （201 加賀谷安章/4回）第5回から第8回を担当し、植物生理学のうち形態形成と成長調節物質、植物の環境応答、栄養成長と生殖成長を講義する （66 三島隆/3回）第9回から第11回を担当し、動物生理学のうち細胞と呼吸、呼吸器官の種類と機能的特徴を講義する （65 船坂徳子/4回）第12回から第15回を担当し、動物生理学のうち細胞と呼吸、呼吸器官の種類と機能的特徴を講義する。循環系とガス交換の比較生理、恒常性の維持－神経系、恒常性の維持－内分泌系、恒常性の維持－水と浸透圧調節、動物の潜水生理を講義する	オムニバス
細胞生物科学	生物の基本構造である細胞について、その構造を理解するとともに、細胞内・細胞間で起こる様々な事象（DNAの複製・転写・翻訳、遺伝子発現調節、細胞分裂、遺伝、エピジェネティクス、細胞内・細胞間情報伝達など）の機能・メカニズムを分子レベルで理解し、細胞機能に関する基礎知識を得る。また、細胞機能を分析・検出するための分子生物学・遺伝子工学の実験・解析技術の講義を通し、遺伝子工学の考え方や生命倫理に関する理解を深める。	
植物保護学	農林植物の生育を阻害する病害と虫害の主因となる病原体と害虫を紹介し、いかにして植物を保護すべきかを考える。世界の人口は増加の一途にあり、また地球温暖化の影響から従来では定着できなかった地域に病害虫が進出・定着している。これらを理解するための、基礎的知識の習得を目指す。 （オムニバス方式/全15回） （5 塚田森生/8回）第1回から第8回を担当し、虫害を引き起こす昆虫の種類や形態、生理生態を解説する。またこれに基づき、害虫の発生予察、化学的、物理的、生物的、耕種的防除法について解説する。 （36 白水貴/7回）第9回から第15回を担当し、植物の病原体に関する基礎的な分類、生理、生態について解説する。これらの講義を通して、植物とかかわりの深い微生物の同定や防除に関する基礎的な能力の習得を目指す。	オムニバス
農業生物学実験	農業生物学の基礎的諸事項を理解するために必要な生物学実験（各種顕微鏡観察、植物学実験、生物統計、動物機能実験など）を行う。 （オムニバス方式/全15回） （36 白水貴、4 中島千晴/3回） 第1回　実体顕微鏡および光学顕微鏡の取り扱い 第2回　徒手切片の作製 第9回　微生物の機能 （29 長菅輝義、11 関谷信人/2回） 第3回　植物の生長解析 第15回　生殖と発生 （5 塚田森生/1回） 第4回　昆虫の解剖と分類 （11 関谷信人/1回） 第5回　植物の構造 （42 吉原佑、5 塚田森生/4回） 第6回　群落の生産構造 第7回　圃場植物の観察と分類 第10回　水生動植物の観察 第11回　野外での生物の分布調査とデータ処理 （34 伴智美、35 近藤誠/1回） 第8回　動物ホルモン （33 長屋　祐一/2回） 第12回　種子発芽 第13回　植物ホルモン （2 名田和義/1回） 第14回　光合成・呼吸・蒸散の測定	オムニバス
農作物生育制御概論	農業を始めるにあたって必要となる基礎知識、具体的には、各種の主要農作物の生理生態的特徴とその栽培管理方法、栽培環境の物理化学的特徴と農作物の成長へ及ぼす影響を説明し、農場実習などの実際の農作物栽培に応用できる力を涵養することを目的とする。 （オムニバス方式/全15回） （29 長菅輝義/7回）第1回から第7回までを担当し、イネやダイズ等の水田・畑作物の基本的な生理生態的特徴とその栽培管理技術を説明する。 （337 奥田均/8回）第8回から第15回までを担当し、温州ミカンを中心とした各種果樹の基本的な生理生態的特徴とその栽培管理技術・栽培環境の物理化学的特徴を説明する。	オムニバス 集中
フィールドサイエンス農場実習I	日本人の食の基礎に位置するイネをはじめ野菜、果樹の収穫期にあたると同時に冬作物の準備にとりかかる秋季の管理ならびに収穫物の食味や収量、果実品質の調査手法を学ぶ。夏季休暇中に宿泊をともなう短期集中実習の形態で実施する。 （オムニバス方式/全15回） （29 長菅輝義/6回）第1回から第6回を担当し、各種農作物の夏季の栽培管理と収穫について学ぶ （337 奥田均/4回）第7回から第10回を担当し、各種果樹の観察、管理、収穫を実施する （66 三島隆/3回）第11回から第13回を担当し、各種農作物の収穫物の加工について学習する （3 松井宏樹/1回）第14回を担当し、学外の食肉センターを視察して肥育牛のと殺方について学ぶ （36 白水貴/1回）第15回を担当し、農業生態系における寄生菌や腐生菌の多様性と生態について調査する	オムニバス
森林微生物機能学	森林生態系に生息する微生物、とくに真菌類（カビ、キノコ）を中心に、それらの形態、分類、生態系における役割、微生物と他の生物との寄生、腐生、共生のメカニズムについて解説し、世界の森林における菌根共生や枯損問題となっている病害について考えるため、以下の項目を教授する。微生物の誕生、微生物研究の歴史と進化、微生物の形態と分類、微生物の生育、微生物と植物の関わり合い、世界の主要病害、日本の主要病害、真菌類の分類、キノコの形態と分布、さまざまな根内共生菌、葉内内生菌、環境耐性菌類。	

木質資源工学	木質環境形成材料としての木材の以下の諸性質、1：水分特性・2：熱特性・3：電磁気特性・4：振動特性・5：光学特性、について解説し知識を習得する。加えて、木質構造の種類とその発達・木質構造とその特性・木質構造の設・環境と木質構造・教育と木質環境を順次解説し知識を習得する。なお、木質資源が環境とどのように関連しているかを理解できるよう配慮する。	
FSC演習林実習Ⅰ	学修の到達目標は、木本植物を同定でき、植物と立地環境との関係の理解でき、森林構造とその成立過程を推測できるようになることである。森林生態系の基本構成要素である木本植物についての基礎的知識を習得することを目的とする。このために、１）木本植物の同定について、暖温帯～冷温帯の代表的樹種の押し葉標本を作製し、２）植物と立地環境との関係の理解のために、標高や地形に応じた植生変化を観察し、３）森林構造の理解のために、代表的な森林の林分構造を観察する。実習の形態は、生物多様性と森林生態系についての理解を深めるために、フィールドサイエンスセンター附帯施設演習林において、森林の主要構成要素である樹木の植物分類学を対象とする採集および標本の作製といった、実技を伴うものである。	共同
環境系数学	身近な現象をモデル化し予測することを通して、数学の有用性について学ぶ。その際、簡単な微分方程式を立てて解を求めること、エクセルを使って解を評価することを目標とする。	
応用数学	農業工学において必要不可欠な内容である線形代数のベクトルや行列に慣れることから始め、身の回りの簡単な問題に応用できるスキルを身に付けることを目的とする。ベクトルや行列は使える道具であることを理解する。	
国際環境保全学（英語）	近年世界的に環境保全を考慮したリサイクル骨材及び建設廃棄物の再利用が注目されている。そこで本講義では、比較的現場で応用が多いリサイクル骨材及び建設廃棄物を取り上げ、環境保全を考慮した施設の設計・施工法を学ぶ。	
応用力学I	荷重が作用した時の静定ばりの断面力、たわみを求める問題を解くことが出来るとともに、外力、内力、変位、ひずみを理解し、実際の構造物の設計、施工に対して基礎的な知識を習得する。	
農業経済・統計学	農学分野で実証分析を行うために必要な統計学に関する基礎理論を学修し、Microsoft Excel を使ってデータの管理や集計、基礎的な統計的検定を行う方法を実践的に習得する。その上で、需要関数や生産関数など、ミクロ経済学の基礎的な関数を題材として、データを用いて実証分析し、その結果を解釈する方法を学ぶ。さらに、アンケート調査の基礎的な手法を実践的に学修し、自らが設定した農学上の仮説を検証するため、アンケート調査によりデータを収集し、収集したデータを用いて統計的検定を行い、結果を解釈することを通じ、統計学に対する理解を深める。	
植物遺伝育種学	植物育種（品種改良）の基礎となる遺伝学、ならびに植物育種の基本的理論や技術の概要を講義する。遺伝子の分離、染色体地図の作成などに関する問題演習を通じて遺伝学的な考え方の基礎を修得させた後、作物品種改良のための基本的育種法や新しい育種技術、育種対象となる様々な遺伝形質とその関連遺伝子について説明し、最後にいくつかの作物品種の実際の育種過程を紹介する。これらを通じて、人々の食料や生活を支えている作物の品種が、遺伝学や遺伝子の研究を基礎として、どのように改良（育種）されてきたかを認識し、その理論や技術の基本を理解することを到達目標とする。	
作物学	人間が生きていくためには安全な「食べ物」が持続的に生産・供給されなければならない。本講義では、資源作物の諸特性と生産技術の学習を通して陸圏生物生産学の基礎と応用を修得することを目的に、穀類、マメ類、イモ類など食糧用の資源作物の生態・形態・機能などの諸特性、それらを利用した生産技術、ならびに生産に伴う環境への負荷等について学習する。これにより身近に存在する資源作物の諸特性についての基礎的知識、資源作物の作物化や農耕の起源についての知識を身につけ、基礎的な作物生産技術の原理と発展について学び、現在に至る技術の変遷、作物生産と環境との関わりについて広い視野をもった考えが出来るようになることを目標とする。	
園芸学	主要園芸植物における成長・花芽形成・結実・果実成熟など、主に生理的な諸特性を講述する。主要な果樹・野菜の成長特性や基本的栽培技術に関する知識を得ることを目的に、食品としての園芸作物、園芸作物の成育生理に関わる植物ホルモン、ポストハーベストテクノロジー、野菜の生殖成長機能と作型、野菜の連作障害、養液栽培技術、果樹の年間成長サイクル、果樹の着果習性、果実の発育と成熟について理論的背景を解説し、理解を深める。	
動物生産学	食料や衣料などに利用する目的で、種々の家畜が飼養されている。家畜の栄養、飼料、繁殖、利用などを学習することにより、動物生産に関わる基礎知識を修得し、専門的学識を向上させる。そのために、家畜の品種特性、家畜の栄養、飼料の生産、家畜繁殖、家畜衛生、畜産物利用、主要家畜の飼養管理、バイオテクノロジーなどを概説する。 （オムニバス方式/全15回） （3 松井宏樹/8回） 第1回　動物生産の概要 第2回　家畜化 第3回　養豚 第4回　採卵鶏 第5回　肉養鶏 第6回　乳牛 第7回　肉牛 第8回　肉の各付け （34 伴智美/7回） 第9回　消化管の構造 第10回　単胃動物の消化 第11回　単胃動物の吸収 第12回　反芻動物の消化 第13回　反芻動物の吸収 第14回　動物と微量栄養素 第15回　動物と病気	オムニバス
植物病理学	植物病理学は農学のなかで重要な一角を占める学問である。これは植物の病害により農作物の15%が失われており、病害の防除は欠かすことが出来ないことが挙げられる。また近年にあっては地球温暖化の影響により、従来は熱帯地域にのみ分布が知られた病害の北上や、地球規模での物流の発達や栽培法の変化による思いもかけない病害による被害が深刻となっている。これらは病原微生物の理解、病害発生の仕組み、病原微生物と植物の相互作用を理解することでより効果的に防除に取り組むことが可能である。本講義では病害発生の仕組み、病原生物の性状、病害の発生生態、防除方法の基礎を講義する。	

昆虫学	昆虫は、種の数では地球の全動物の4分の3以上を占め、最も栄えている動物として知られる。また、その多様性は古来から農業上の害虫や益虫、衛生害虫としてだけではなく、重要な生態的位置を占めるとともに、虫を愛でるという文化の対象となるなど、人間社会と深いかかわりをもってきた。本講義では、この関わりを更に深く理解するため、昆虫についての基礎知識としての分類、形態、生理、生態の概要を学び、それを関連分野に応用できることを目指す。	
動物飼料学	畜産では、人間が消化できない植物資源を、家畜の体を通すことによって私たちの健康に寄与する乳や肉を生産することができる。一方、現代では穀物なども家畜の飼養管理に欠かせない資源として利用されている。本講義では、植物（飼料）資源が身近な食品である乳や肉に転換されるまでの過程を理解するために、飼料資源の分類、飼料の生産と流通、飼料に含まれる成分、家畜による飼料成分の消化・吸収・代謝、家畜の栄養要求量と飼料設計、飼料および家畜生産における資源の循環と環境とのかかわりについて解説する。また、東海地域における飼料生産、乳肉生産の状況についても解説する。	
農業経営学	農業生産の概況、品目別の流通構造の特徴を学びながら、日本農業の展開方向や地域における農家の動向、国際的な農業経営の趨勢を理解できるようする。同時に報道等に現れる農業問題の裏側にある構造的な変化の原理を理解し、社会現象の憶測にある現在原理や構造を理解できるようにする。わが国の農業の最小構成要素である農家に焦点を当てた経済・経営理論の基礎を学ぶことによって、農家の階層ごとの農業機械や栽培技術の採用の特等が理解できる。新技術が農家に普及する過程を理解する基礎となる。	
食農システム学	農林水産業の正しい理解には、単なる一次産品の生産という技術的視点だけではなく、加工、販売、流通、消費、およびそれらの各段階に影響を及ぼす政策を含めた食農システムとしての総合的な視点が必須である。本授業では、食農システム従事者を対象とした現地調査により食農システムの今日的課題を把握し、データの収集と分析により課題に対する解決策を提示しようとする。一連の活動を通じて食農システムを俯瞰的に捉える視点を獲得する。	
農業化学実験	農学の基礎的諸事項を理解するために必要な化学実験（薬品・実験器具の取り扱い、 化学計算、生体成分の分析、 遺伝子解析など）を行う。特に実験器具の取り扱いや機器分析など各種化学実験の基礎を身につける。 （全15回を共同で実施する: 34 伴智美、87 諏訪部圭太、200 土屋亨、201 加賀谷安章） 第1回　科学技術の発展と科学技術倫理、科学と似非科学、 実験ノートの作成・レポートの作成、 第2回　実験器具の名称、取扱い方、洗浄方法、実験機器の名称・原理、 第3回　濃度計算、 試薬の秤量・調製方法 第4回　有機合成実験 第5回　中和滴定 第6回　酸化還元滴定 第7回　灰化法・原子吸光分析法による無機成分分析 第8回　比色定量法による無機成分分析 第9回　植物二次代謝産物の測定 第10回　動植物組織からのゲノムDNA精製 第11回　微量組織からのゲノムDNA精製 第12回　PCRによる遺伝子の増幅と電気泳動による確認 第13回　DNAシーケンサーによる塩基配列解析 第14回　大腸菌への形質転換 第15回　大腸菌からの組換えタンパク質の精製	共同
フィールドサイエンス農場実習II	農作物の栽培と収穫物や副産物の加工に関する基本知識を学び実際の管理作業を習得する。具体的には秋から冬にかけての果樹、露地・施設野菜の栽培や農産物加工についての管理（種類、時期、方法）を実施する。また、農業機械（刈り払い機、トラクター）を安全に操作する。 （オムニバス方式/全15回） （29 長菅輝義/2回）第1回から第2回を担当し、夏季に栽培した農作物の収穫やその食味評価について学ぶ （337 奥田均/6回）第3回から第8回を担当し、各種果樹の冬季栽培管理と秋季農作物の定植・収穫について学ぶ （66 三島隆/7回）第9回から第15回を担当し、各種農作物の収穫物の加工や各種農業機械の安全な操作方法を学習する	オムニバス
フィールドサイエンス農場実習III	畑作物、野菜、果樹、畜舎の春季管理ならびに食品の加工、農作物の安全管理などを行い、該当作目の栽培管理方法を身に付けるとともに、生産現場で求められている課題の解決方法を考察する。 （オムニバス方式/全15回） （29 長菅輝義/6回）第1回から第6回を担当し、冬季畑作物の栽培管理とその過程で収集した各種デジタルデータの解析について学ぶ （337 奥田均/3回）第7回から第9回を担当し、各種果樹の冬季栽培管理と施設栽培における管理・収穫について学ぶ （66 三島隆/5回）第10回から第14回を担当し、各種農作物の収穫物の加工について学ぶ （3 松井宏樹/1回）第15回を担当し、家畜の肥育管理について学ぶ	オムニバス
森林・緑環境計画学	日本の国土の3分の2を占める森林は我が国にとって重要な資源である。こうした森林を持続的に管理・保全するためには、森林が持つ多面的機能に十分に配慮しつつ、森林資源を計画的に利用していく必要がある。本講義では、森林の多面的機能として一次生産や炭素循環、水循環、窒素循環、多様性保全などの機能について解説する。さらに、日本の森林だけでなく、熱帯林など海外の森林において起きている諸問題についても紹介し、それらの解決につながる森林資源の適切な管理方法について考える。	
森林利用・情報学	森林の総合的利用における伐出生産システムの意義と役割、そのための森林情報解析の意義と役割、調和のある森林利用システム設計のための基礎的理論とGISを用いた技術について解説する。	
森林化学	森林資源は、地球上で最大量のバイオマスを誇る再生可能資源である。森林から切りだされる木材は、主に建材、板材、パルプとして使われており、バイオマス資源として燃料や素材原料としても期待されている。本講義では、木と草の違い、木材の組織構造、木材の主成分と副成分、化学成分の分析法など、糖類やフェノール類の化学、セルロース、ヘミセルロース、リグニンの基礎や化学構造など、木材の化学的側面についての基礎を講義する。	

森林育成学	森林に内在するさまざまな自然環境を把握し、樹木において多様な生理学的機能の違いがあることを理解できること、そしてそれらの機能における違いが、樹種の分布を制限することについて理解できることを目標にする。目的は、身近な樹木を通して、植物の水分生理、光環境への適応、低温環境への適応に関する知識を得ることで、森林を育成することが単純なことではなく、樹木の生理的特性に応じた対応が必要であることを理解すること。授業計画は、落葉樹や常緑樹、針葉樹や広葉樹、高木や低木などの数多くの特徴が認められる樹木を対象として、光環境、水分環境、温度環境に対する生理学的機能を解説し、さまざまな自然環境への適応を可能にする生理的特徴について講義する。	
森林生物学実験	目標は、次の3点である。1）森林の主要な構成要素である樹木の各器官の観察を通して、樹木の様々な性質に関する基礎的知識を習得し、群落調査できるようになる。2）森林に生育する土壌生物についての種多様性と生態系における重要な機能の理解ができるようになる。3）木材の観察を通して樹木の基礎知識を習得する。目的は、沿岸に位置するキャンパスに生育する植物および土壌生物の種多様性を理解し、群落調査方法を修得する。また、樹木の各器官のマクロ的観察を行うことで、樹木の様々な形態に関する基礎的知識を習得する。さらに、木材の観察を顕微鏡レベルで行うことで、樹木の基礎知識を習得する。 （オムニバス方式/全15回） （6 木佐貫博光/3回）樹木の各器官の観察。構内に生育する樹木の種類、特徴および用途についての理解。 （37 鳥丸 猛/3回）群落調査法 （73 北上雄大/3回）土壌生物の観察 （8 中井毅尚、74 内迫貴幸／各3回）木材の肉眼および光学顕微鏡により観察、木材構成要素の標本作成技術や統計処理の修得。	オムニバス
森林化学実験	森林科学を専攻する学生が、化学的素養を身につけ、木材など木質バイオマスの化学的研究に必要な基礎的な知識、分析技術、物質の定量システム理解し習得できるよう、化学実験を安全に行うための注意点、一般的なガラス器具の使い方、ガラス細工、無機分析、および、木材分析、紙のリサイクルについて、講義および実験を行う。無機分析としては中和滴定、木材分析では、含水率や灰分の定量、抽出物の定量、セルロースやリグニンの定量法などを学ぶ。	共同
FSC演習林実習II	測量原理と方法を実践により学び、測量方法に応じた正しい機器操作を習得する。レベルによる海岸堤防の標高を求める水準測量、トランシットによる生物資源学部校舎の外周のトラバース測量、コンパスによる細部測量を習得する。また、地形図の判読技術を習得する。	
プログラミング	最も重要なITスキルの一つである、多量の数値データを迅速にかつ正確に処理するプログラミングスキルを身に付ける。プログラミング言語にはC言語を用いる。	
応用力学II	荷重が作用した時の静定ばりの断面力、たわみを求める問題を解くことが出来るとともに、外力、内力、変位、ひずみを理解し、実際の構造物の設計、施工に対して基礎的な知識を習得する。	
数値計算法	数値計算法とは、様々な数学的な問題を解析的ではなく、数値データに展開して（測定や観測調査によりまたは理論式に数値を代入して）、そのデータに数値的処理を施し問題を解く手法である。本講義では、複雑な関数や精度の高いデータの補間法やその数値微分・積分法をはじめ、数値シミュレーションの基礎となる常微分方程式の初期値問題の数値解法について具体的なコンピュータ演習を交えながら学習する。	
基礎水理学	生命活動を維持するには水の存在が必須である。水道や河川などが身近な水の流れになる。水理学（Hydraulics）は水の流れに関する学ぶ学問である。水理学では水の流れは管路（水道など）と開水路（河川など）に分類される。水理計算に必要な物理・数学の知識の再確認から始め、物理学で学んだ質点系の力学から連続系の力学へと導いていく。できるだけ多くの問題を解きながら管路流れの現象を定量的に理解できるようにする。この授業では主として管路流れについて学び、開水路流れは後期の水理学で学ぶことができる。	
農業情報ネットワーク	IoT、クラウド、センサネットワークなど進歩発展が目まぐるしいICT（Information and Communication Technology）の農業への応用について学ぶ。ネットワークの基礎知識の習得から始めて、その発展として応用技術について学ぶ。演習や実習も交えてながら農業分野へのICT導入について学ぶ。	
農林統計学	農林学の実験、観察、調査等で得られたデータの基礎的な統計処理方法を解説する。卒業研究を開始するにあたり、実験・研究計画に必要な実験計画の基礎を学ぶとともに、実験結果として得られるデータの取り方や、生物を対象とする研究における特有な統計学的手法による評価法、社会科学分野における定量的、定性的データの処理についての基本を身につける。また、パソコンや統計解析ソフトを活用するためのデータ処理の方法や、得られた結果の評価法を身につける。 （オムニバス方式/全15回） （7 松田陽介/5回） 第1回　変数の種類と尺度 第2回　項分布、２項検定、フィッシャーの直接確率検定 第3回　ポアソン分布、 カイ２乗適合度検定 第4回　カイ２乗独立性検定、ランダム化検定 第5回　ランダム化検定、正規分布 （5 塚田森生/5回） 第6回　母集団の表現、母数の区間推定 第7回　母平均の差の検定 第8回　分散分析 第9回　相関・回帰分析１ 第10回　相関・回帰分析２ （41 野中章久/5回） 第11回　単回帰分析：最小自乗法の仕組み 第12回　単回帰分析：計算の方法と演習 第13回　単回帰分析：検定 第14回　重回帰分析：手法の概要と注意点 第15回　理解確認のための全範囲の重要事項の演習	オムニバス
農学科学英語	植物、動物、微生物、農業、環境、社会、経済など農学分野に関係するトピックについて英語文献などを読解し、英語で内容をまとめた資料を作成し、発表、討論するとともに、専門科目に関連する基礎的事項について英語で表現できる力を身につける。本講義ではプレゼンテーションとディベートを取り入れ、グループ毎に英語による発表を行うとともに、やはり英語でのディベートに積極的に参加することが求められる。全15回を下記教員が共同で行う。 （86 THALAGALA ARACHCHIGE THARANGA PIYAMALI THALAGALA、339 KULARATNE JAGATH SIRI）	共同

資源動物学	畜産草地学と生態学を網羅的に取りまとめた独自のテキストを使用し、講義と実習を組み合わせて行われる。生産現場が求める生産システムに関する知識とそれを統合的に思考する能力を身につけるため、家畜の紹介、畜産物製品の種類や製造工程、乳牛、肉牛と羊の飼養管理技術、我が国の畜産動向、動物の栄養、動物福祉、 飼料設計法、 家畜の疾病と健康、 家畜糞尿の処理と管理、 草食動物の生態及び放牧と草地などについて学ぶ。	
農業・応用経済学	主として食料・資源経済学や農業経済学に関する実証分析を行うために必要な統計学理論を学修し、統計分析ソフトウェアを使ってデータの管理や集計、統計的検定をより効率的に行う方法を実践的に習得する。その上で、消費者需要や生産者行動に関する分析テーマについて、データを用いて実証分析し、その結果を解釈する方法を学ぶ。ここで学習する手法は、経済学にとどまらず、広く農学や他の学術分野においても有用で、様々な分野で活用されることが期待される。	
森林生態学	陸上植物が作り出したひとつの大きな生態系である森林生態系を維持しているしくみを理解させるために、森林を構成する樹木の生活史、自然環境・生物的環境と樹木との相互関係を中心に講義する。特に、国内に分布するさまざまな代表的樹種の生態に関する知識ならびに自然撹乱の重要性、それらが森林の成立過程に対して果たす役割を解説する。またそのために、具体的な樹木の種名をリストアップするとともに、それぞれの樹種の生活史を詳しく解説する。そして、樹木の生活史特性を通じた森林全体を構成する必然的要因と偶然的要因を解説し、自然界における生物群集のバランスの重要性を理解することを目指す。	
森林科学英語	森林科学に関するトピックに関する古典的なものから最新の英語文献を購読し、内容の理解とその背後にある問題を議論する。履修者を所属研究分野に分け、全15回を下記教員が共同で行う。 （6 木佐貫博光、8 中井毅尚、7 松田陽介、9 野中寛、39 板谷明美、37 鳥丸猛、71 松尾奈緒子、74 内迫貴幸、73 北上雄大、75 德永有希）	共同
FSC演習林実習III	フィールドサイエンスセンター附帯施設演習林などを利用して、森林計測の実習と森林経営の現場見学を行う。演習林のスギ人工林を対象として、樹高や胸高直径の毎木調査、樹高曲線の作成、林分材積の推定などを実習し、森林資源調査の基礎を習得する。また、林業経営などの現場を見学し、関係者らから森林経営の現状について学ぶ。これらにより、森林を持続的に管理・保全する際に必要となる、林分構成因子の把握、森林資源量の推定、森林環境の評価、持続的森林管理の指標や目標林型に関する理解を深める。	共同
実践データサイエンス	現象を正しく評価するためには、現象を定量化し、科学的に解析・考察する必要がある。本講義では、データサイエンスの基礎として、「データを集める」、「データを読む」、「データを解く」、「データを見せる」の4つの技能を理論的に理解・実践する。	
農業工学現場実習	農業工学の専門分野と関係深い事業現場での実務研修を行うことによって、農業機械や土木・建設工事の目的、意義および技術についての認識を深めるとともに、農業工学に関する専門的知識を豊かにする。 （オムニバス方式/全15回） （14 岡島賢治/10回）土木・建設関連の現場について （13 森尾吉成/5回）農業機械関連の現場について	オムニバス
農学演習I	設定された農学上の課題について情報を得るための文献検索等の技術を高め、その内容を理解するとともに、要約する能力、知識や情報を他人に理解させるためのプレゼンテーション能力を向上させる。そのために、学生は所属する各教育研究分野に分かれ、外国文献等の紹介を通して自らの卒業研究課題に関する基礎知識と最新情報を習得する。また、外国語の読解力とプレゼンテーション能力の涵養を図る。特に文献検索等を行ってその内容を理解するとともに、要約して他人に理解させること、その内容について科学的な根拠に基づいた討論を行う技術を身につけることを重視する。 演習は履修者を所属研究分野に分け、全15回を下記教員が共同で行う。 （1 掛田克行、87 諏訪部圭太、2 名田和義、3 松井宏樹、4 中島千晴、5 塚田森生、11 関谷信人、33 長屋祐一、34 伴智美、35 近藤誠、36 白水貴、41 野中章久、40 中島亨、42 吉原佑、337 奥田均、29 長菅輝義、200土屋亨、201加賀谷安章）	共同
FSC演習林実習IV	集材架線の索張りの検定、丸太の搬出作業、採材作業、林道設計の技術を体験実習する。	
森林科学演習	目標は以下の3点、すなわち、1。 設定された課題に関する情報を得るための文献検索等の情報探索技術を身につける、2。 設定された課題に関する内容を整理・理解し、要約する能力を身につける、3。 設定された課題に関する知識や情報を他人にわかりやすく伝えるプレゼンテーション能力を身につける、ことである。また目的は、卒業研究課題に関する基礎知識、最新情報に関わる文献検索を行い、その内容を整理・理解するとともに、要約して他人に伝えることができるようになることである。文献等の紹介を通して、外国語の読解力とプレゼンテーション能力の涵養を図るとともに、卒業研究課題に関する基礎知識と最新情報を習得する内容である。履修者を所属研究分野に分け、全15回を下記教員が共同で行う。 （6 木佐貫博光、8 中井毅尚、7 松田陽介、9 野中寛、39 板谷明美、37 鳥丸猛、71 松尾奈緒子、74 内迫貴幸、73 北上雄大、75 德永有希）	共同
フューチャーアース論	21世紀の現在、人間活動による地球環境の大幅な改変は、人間の生存に重大な影響をすでにもたらしつつあり、今後社会が一体となって、これまでの人間活動の結果を内省しつつ、将来の環境問題にどのように対処していくべきかを本気で考え、行動する時代に突入している。フューチャー・アース（Future Earth）とは、それを学術・研究分野のみならず、社会全体で包摂して取り組む世界的なプログラムを表す言葉である。この授業では、地球規模から地域までの環境問題のつながりを理解した上で、直面する環境変化と人間の持続可能性について相互に議論を重ねながら、問題解決の糸口を探求する。 （オムニバス方式/全15回） （14 岡島賢治、15 保世院座狩屋、16 渡邊晋生、46 森本英嗣、47 近藤雅秋、72 坂井勝、78 田中宣多/各2回、79 伊藤良栄/1回）学生と教員で各回においてテーマを検討し、議論する。	オムニバス
農学演習II	設定された農学上の課題について情報を得るための文献検索等の技術を高め、その内容を理解するとともに、要約する能力、知識や情報を他人に理解させるためのプレゼンテーション能力を向上させる。そのために、学生は所属する各教育研究分野に分かれ、外国文献等の紹介を通して自らの卒業研究課題に関する基礎知識と最新情報を習得する。また、外国語の読解力とプレゼンテーション能力の涵養を図る。特に文献検索等を行ってその内容を理解するとともに、要約して他人に理解させること、その内容について科学的な根拠に基づいた討論を行う技術を身につけることを重視する。演習は履修者をx所属研究分野に分け、全15回を下記教員が共同で行う。 （1 掛田克行、87 諏訪部圭太、2 名田和義、3 松井宏樹、4 中島千晴、5 塚田森生、11 関谷信人、33 長屋祐一、34 伴智美、35 近藤誠、36 白水貴、41 野中章久、40 中島亨、42 吉原佑、337 奥田均、29 長菅輝義、200土屋亨、201加賀谷安章）	共同

	農学演習III	設定された農学上の課題について情報を得るための文献検索等の技術を高め、その内容を理解するとともに、要約する能力、知識や情報を他人に理解させるためのプレゼンテーション能力を向上させる。そのために、学生は所属する各教育研究分野に分かれ、外国文献等の紹介を通して自らの卒業研究課題に関する基礎知識と最新情報を習得する。また、外国語の読解力とプレゼンテーション能力の涵養を図る。特に文献検索等を行ってその内容を理解するとともに、要約して他人に理解させること、その内容について科学的な根拠に基づいた討論を行う技術を身につけることを重視する。演習は履修者をx所属研究分野に分け、全15回を下記教員が共同で行う。 （1 掛田克行、87 諏訪部圭太、2 名田和義、3 松井宏樹、4 中島千晴、5 塚田森生、11 関谷信人、33 長屋祐一、34 伴智美、35 近藤誠、36 白水貴、41 野中章久、40 中島亨、42 吉原佑、337 奥田均、29 長菅輝義、200土屋亨、201加賀谷安章）	共同
	大気海洋循環学	海洋における様々な自然現象を支配する基本法則を理解し、さらに海洋が気候や生態系に及ぼす影響を理解するための基礎知識を習得することで、海洋学に関連する様々な解析結果を解釈し、初歩的な考察を行うことができるようになることを目的とする。これまでに履修した自然科学や数理科学に関する基礎知識の復習を交えつつ、海洋における自然現象を支配する基本法則を解説し、基本法則を適用することで、どのようにデータを解釈し、考察することができるのか、実例を挙げながら説明する。	
	水産学総論	種苗生産学、魚類学、魚病学、漁撈学、水産資源学、水産経済学の各分野について、水産学を理解する上で必要な基礎的知識について講義する。また、トピックス的に時事的な問題を取り上げた解説を行うことにより、日本の水産業について理解と認識を深める。さらに、日本の水産が抱える諸問題について理解を深める。 （オムニバス方式/全15回） （30 松田浩一/3回）水産学の内容と役割（水産学の対象範囲、求められる役割を説明）、変化する漁業生産（海域の環境の変化に対応して変化が求められる漁業生産を説明）、水産資源の増殖と管理（魚種ごとに増殖と管理手法を解説）について解説する。 （28 筒井直昭/3回）世界の水産増養殖の状況と課題について、日本の増養殖の特色について、水産重要種の種苗生産や養殖について、特に飼餌料の面から解説する。 （70 森川由隆/3回）日本の漁業生産1（漁業生産量の推移と世界の水産物生産の動向について）、日本の漁業生産2（網漁業の種類、漁具漁法について）、日本の漁業生産3（釣漁業の種類、漁具漁法について）について解説する。 （25 一色正/3回）魚病学概論1（種類、病因について）、魚病学概論2（流行、生体防御について）、魚病学概論3（治療、予防について）について解説する。 （10 常 清秀/3回）水産物の流通と価格形成、水産物のブランド化と水産業の六次産業化について解説する。	オムニバス
	臨海実習	沿岸域における魚類や無脊椎動物、プランクトン等様々な生物の採集・観察・同定・保存・記録等を体験する実習を水産実験所において実施するとともに、地域水産業の実状に触れるための視察等を行う。多種多様な沿岸海洋生物に実際に触れ、漁業生産の現場を知ることで水生生物や漁業に関する研究を行うための基礎的な知見や技術を修得するとともに、生物多様性に対して具体的な知識を得ることによって、沿岸生態系の理解を深める。	共同 集中
	乗船実習	勢水丸に乗船し、練習船の船内生活や船内諸設備の見学から、船舶の運航、結索方法や機関実習など観測船に乗船するための知識を体得し、以降の水産学や海洋学など海洋科学に関する本格的な実習航海や研究航海への基本とする。実習では、船内各所、諸設備の見学などから船内生活の基本から、航海当直、外洋航行、漁労作業、航海機器計測、出入港作業など実践的な内容と海洋観測航海実習の内容を扱う。	共同 集中
	海洋観測航海実習	勢水丸に乗船し、海洋環境の現状や自然環境の保全について体験的に理解を深める。実際に観測機器を用いて観測を体験することで海洋観測の基礎を学習し、以降の海洋科学全般に関する本格的な実習航海や研究航海へのスムースな導入を図る。	共同 集中
	生物統計学	海洋生物学に関わる諸研究を行う上で必要な基礎的な生物統計学の知識を説明し、実習形式で修得する。これにより、卒業研究に必要な基礎的な統計学的解析手法の理解と、実際のデータを用いた解析手法の習得を目指す。	
	海洋生物比較生理学	魚類は他の脊椎動物とともに新口動物の頂点に位置するが、旧口動物の頂点には同じ水中適応者である頭足類が存在する。魚類については淡水から深海まで、幅広い水中生息地で繁栄するための生理学的システムについて、細胞および組織の機能として取り上げる。一方、頭足類については、内部・外部の形態ならびに機能を理解した上で、発生と成長、繁殖、神経生理の基礎を学ぶとともに、擬態などのユニークな一面についても理解を深める。これらの学修を経て、進化生物学的観点から両者の生理を議論するとともに、養殖、漁業、環境といった応用的要素を統合できるようになる。	
	増殖生態学	沿岸域における水産資源の多くが減少している現状において、水産資源の生態を理解し、沿岸生態系の中で適切に資源管理や増殖を行い、持続的な漁業生産を実現していくことが重要になっている。本講義では、沿岸の生態系や無脊椎動物を中心に重要な水産生物の生態について解説するとともに、それらの資源状況、資源管理や資源増殖のための技術を講義する。学生によるこれらの知識や技術の修得を進め、現状と課題を理解し、実際の生産現場で実行できるようになる。	
	浮遊生物学	海洋の生態系は、空気とは性状が大きく異なる水中に存在し、陸上生態系にはない様々な特徴を有する。本講義では、海洋のプランクトン群集に焦点を当て、環境への適応、プランクトンに始まる食物連鎖、プランクトンの時空間分布を制御する要因などを学習する。また、海洋環境の特徴的な点を理解し、浮遊生物学的な観点から海洋環境とプランクトンとの関係に関する基本的事項について学ぶ。	
	藻類学	ヒトエグサ、ノリ、ヒジキなどの海藻は三重県の重要な海産物である。また、古来、志摩半島の海女は伊勢神宮に納める海藻を採取しており、三重県の文化は海藻とのつながりが非常に深い。この授業では、海藻（海産大型藻類）を主な対象として取り挙げながら、藻類とはどのような生物なのかを理解する。授業ではコンブ、ワカメ、ノリ、ヒジキなどの身近な海藻を例に挙げながら、真核生物の中での藻類の系統的な位置と多様性、陸上植物との関係、海藻の形態学的特徴、光合成と物質生産、環境と海藻の分布、藻場の生態系における役割、養殖や利用法、人間と海藻の関わり、三重県における藻場衰退現象（磯焼け）への対策状況を紹介する。	
	魚類学	魚類の外部形態（体形、鰭、鱗等）、内部形態（骨格、消化器系、呼吸器系）、食性、年齢と成長、成熟と繁殖、仔稚魚の形態形成、系統・分類体系について解説する。これをもって、水産学を含む海洋生物資源学の諸分野の学修に必要な魚類に関する基礎知識を包括的に修得する。これにより、以下のことが出来るようになることを目指す。 ・代表的な魚類について図鑑等をみなくてもその分類群（目・科レベル）の見当が付くようになる。 ・検索図鑑等を使って種同定が出来るようになる。 ・食性の解析手法を説明できるようになる。 ・年齢査定方法と成長解析手法を説明できるようになる。 ・生殖腺の成熟過程と解析手法を説明できるようになる。	

底生生物学	底生生物は海洋生物の代表的な生活形であり、多様な分類学的及び生態学的な側面を持っている。底生生物学の講義では生態学の基礎的な概念を通じて、海洋の底生生物の分類学的および生態学的な特徴について主体的に考え、議論しながら学ぶ。また、三重県地域の沿岸生態系についても、実例を通じて学ぶ。さらに海洋生態系と人間の関わりについて学び、今後の海洋生態系の保全や持続的な利用のあり方について考える。	
海生哺乳動物学	海生哺乳動物、特に鯨類を中心に、進化、形態、生態、社会、保全といった基礎知識と、人と鯨類との関係性といった発展的な事項について概説し、考えてもらう。私たちと同じ哺乳類でありながら水生である海生哺乳動物について学ぶことで、その基礎を知ると同時に、私たち自身についても深く理解する。海生哺乳動物の基礎を知るのみならず、私たち自身を客観視できるようになる。海生哺乳動物をめぐる様々な問題についても客観的に議論できるようになる。	
海洋個体群動態学	海洋生物の資源管理・保全に必要不可欠な個体群動態を理解することを目的とし、その基礎となる生活史特性や個体数変動機構、進化生態に関する基礎知識とともに資源管理や保全に関する理論を教授する。	
海事概論	練習船を用いた実習や研究を行っていく上で、船舶を運航するために必要な基本的な知識を学び理解する。授業の内容は、航海学（地文航法、天文航法、航海計器、海図作業など）、運用学（係留や錨泊法、気象や海象、船体構造、荒天操船など）、法規（海上衝突予防法、海上交通安全法、港則法、船員法、船舶職員法、海洋基本法など）に加え、舶用機関、無線通信、海洋観測機器や海洋観測手法など船舶や海洋に関する基礎知識を広く学習する。 （オムニバス方式/全15回） （338 前川陽一/8回）海や船の基礎知識をはじめ、航海学として地文航法、天文航法、海図知識、海図作業の応用、搭載航海計器など、運用学として海流、気象、操船、船体構造など、その他として舶用機関、船舶無線などについて解説する。 （85 中村亨/7回）法規に関する科目として海上衝突予防法、海上交通安全法、港則法、船員法など、航海学として海図作業の基礎、位置の線など、運用学として錨、係留、船体形状、荒天操船など、その他として搭載観測機器漁労装置などについて解説する。	オムニバス
水族発生学	本講義では発生学と進化学の基本を講義する。前半ではおもに無脊椎動物を対象に、配偶子形成から個体発生に至るまでの過程について解説する。さらに、後半で進化学について概説し、自然選択説、分子進化について概説する。生物の発生、進化の過程について基礎知見を身につける事により、水生生物についての理解を深める事を目的とする。初期発生、形態形成、進化論の基本について知識をえる。	
水産経済学	海洋資源の適正利用と適正管理、および持続可能な生産・流通システムのあり方について、経済学の視点から学ぶ。学習の目的は、漁業の多面的機能を理解したうえ、漁業が産業とする特性、海洋資源が商品とする特性を把握し、これらの資源を対象とする産業分野での経済活動の仕組みを経済学的な視点から理解し、水産経済学の分野で生じた諸現象に対する考察力を高めることである。到達目標は、水産資源は自律更新的資源の典型であると同時に強い資源の制約を持っており、こうした特徴を持つ産業を正しく理解し、水産業界で生じた経済現象を水産経済学の専門知識に基づき、ある程度説明できるようになることである。	
海洋生物資源学演習I	前期については、海洋生物資源学科の理念と目標、ならびに各教育研究分野の研究内容をオムニバス形式で紹介する。後期については、各所属教育研究分野において卒業研究に必要な知識および技術を修得する。 （前期：オムニバス方式/全15回） （24 石川輝/1回）生物海洋学を担当する （61 宮﨑多恵子/1回）水族生理学を担当する （62 倉島彰/1回）藻類学を担当する （28 筒井直昭/0.3回）浅海増殖学を担当する （30 松田浩一/0.3回）水産実験所を担当する （84 山本康介/0.3回）水産実験所を担当する （69 岡辺拓巳/0.3回）水産実験所を担当する （25 一色正/1回）先端養殖管理学を担当する （63 淀太我/0.3回）魚類増殖学を担当する （32 森阪匡通/0.3回）魚類増殖学を担当する （65 船坂徳子/0.3回）魚類増殖学を担当する （26 木村妙子/1回）海洋生態学を担当する （83 伯耆匠二/1回）水圏資源生物学を担当する （27 河村功一/1回）水圏分子生態学を担当する （64 金岩稔/1回）海洋個体群動態学を担当する （70 森川由隆/1回）応用行動学を担当する （10 常清秀/1回）水産経済学を担当する （44 山田二久次/1回）海洋気候学を担当する （43 西井和晃/1回）気象解析予測学を担当する （45 万田敦昌/1回）未来海洋予測学を担当する	オムニバス （前期） 共同（後期）
卒論スタートアップ演習	卒業研究を行うにあたり、研究に関する基礎的な知識や技術、すなわち（１）研究計画の立案（２）実験の準備・実施（３）論文の執筆・発表、について演習を通して理解を深める。具体的には、科学技術における倫理観、科学論文の構成、論理的・実証的思考方法、参考文献の調査や整理の仕方、論文の書き方や研究発表の基本など、卒業研究に役立つ初歩的知識や技術を習得する。	共同
海洋科学英語	海洋生物科学を学ぶ上で必要な，科学英語の読解および聞き取りと会話に関する能力を修得する。Majority of earth's surface is covered with ocean and it is considered as the critical source of life, energy and resources. Therefore, this course is specially designed to deepen the fundamental knowledge related to the areas of physical oceanography, chemical oceanography, marine ecology and marine geology. This course offers lectures using video clips, handouts etc. and provides opportunities to perform formal presentations based on scientific information along with the variety of opportunities for engaging in scientific vocabularies, writing scientific reports, reading and understanding of research papers or other types of scientific literature, improving communication skills in English. This course will help them to improve their fundamental knowledge and apply their knowledge to find options for the problems related to the aquaculture and fisheries industry in the future.	
海洋生物資源学演習II	この演習では所属する教育研究分野の海洋生物資源学関係の卒業研究課題の遂行に必要な、高度な専門知識や技能を体験的に修得する。研究課題における研究背景や研究手法を関連文献や書籍を購読することで把握する。また、これらを通じてアカデミック・ライティングの基本も学ぶ。さらに、既往文献をまとめて発表することでプレゼンテーションの基礎を学ぶ。	共同

有機化学Ⅰ	生命科学分野においてもっとも重要な基礎学問である有機化学の基礎を有機化学I（本講義）と有機化学IIの2科目を立てて講義を行う。有機化学を将来の専門分野として取り組む学生に対して、講義を聴くだけでなく、練習問題を解き、自ら積極的に調べるなどの反転授業の学習スタイルも取り入れ、有機化学の知識と考え方をしっかり身につける。ボルハルト・ショアー現代有機化学（化学同人）を教科書に指定する。有機化学が実際の医療や食糧生産などに関わっていることを具体的に説明した例も多く含まれ、目的意識を持ちながら学習できる本である。その１章有機分子の構造と結合から8章ヒドロキシ官能基（アルコール）までを範囲として、重要な点を選び出して解説する。	
細胞生物学	細胞膜、遺伝子発現、細胞骨格、細胞分裂、細胞周期、細胞内の情報伝達など、細胞の営みを分子レベルで解説する。生物の営みを細胞、分子レベルで理解し、細胞機能に関する基礎知識を得る。生命現象を理解するために、すべての生物の基本単位である細胞の機能を理解する。 （オムニバス方式/全15回） （56 梅川碧里/5回）細胞膜の動態、遺伝子からタンパク質への物質の流れについて理解する。 （27 河村功一/5回）細胞骨格の特徴と機能について知識を深め細胞周期の概要とそれを制御する因子について理解する。 （58 田中礼士/5回）細胞内の情報伝達や細胞の作る社会や、癌細胞について理解を深めることにより生物の営みを細胞、 分子レベルで理解し、細胞機能に関する基礎知識を得る。	オムニバス
生命化学概論	地球上に生息する多様な生物に関する生理機能、代謝機能、物質生産能について理解し、食品、環境、エネルギー、医療分野に寄与するバイオサイエンスとバイオテクノロジーの基礎を概説するとともに、生命化学に限定せず、生物資源学がいかにして社会に貢献できるかを考える。また、専修配属に向けて、専修を構成する各教育研究分野でどのような基礎研究および応用研究が進められているのかをわかりやすく解説する。 （オムニバス方式／全8回） （49 竹林慎一郎、55 西尾昌洋、81 栗谷健志/1回）（共同） 分子細胞生物学・栄養化学関連の研究内容を紹介する。 （50 三宅英雄、18 橋本篤、88 末原憲一郎/1回）（共同） 分子生物情報学・食品生物情報工学関連の研究内容を紹介する。 （17 稲垣穣、51 増田裕一、38 水野隆文/1回）（共同） 生理活性化学・創薬化学・土壌圏生物機能学関連の研究内容を紹介する。 （52 勝崎裕隆、53 岡咲洋三、54 磯野直人/1回）（共同） 生物機能化学・食品化学関連の研究内容を紹介する。 （19 木村哲哉、80 國武絵美、56 梅川碧里/1回）（共同） 微生物遺伝学・食品発酵学関連の研究内容を紹介する。 （20 柿沼誠、82 五十嵐洋治、21 田丸浩、57 伊藤智広、22 舩原大輔、23 福﨑智司、58 田中礼士、59 岡﨑文美、60 柴田敏行/3回）（共同） 多様な海洋生物の生命機能の基礎的性質の解明、 医薬品・食品・香粧品などの原料となる海洋生物資源の有効利用に寄与するバイオサイエンスとバイオテクノロジーの先端研究について概説する。	オムニバス 共同
分子生物学	様々な生物に共通する生命現象を分子（核酸とタンパク質）レベルで理解・把握させることを目的とし、遺伝子の構造、遺伝情報の転写・翻訳、遺伝子発現の調節、タンパク質の構造と機能について概説する。また発展内容として、主に海洋生物に特異な機能の発現や環境適応・適応の仕組みについて分子の働きを中心に解説する。 （オムニバス方式／全15回） （22 舩原大輔/8回）核酸とタンパク質、ゲノム、組換えDNA技術、セントラルドグマ、DNA複製、転写の調節、RNAプロセシング、翻訳の調節を担当。 （20 柿沼誠/7回）翻訳後調節、DNAの損傷・修復、ウイルスとファージ、細胞周期と細胞分裂、動くDNA、機能性RNA、エピジェネティクス・ゲノミクスを担当。	オムニバス
有機化学Ⅱ	生命体や化学材料の基本構成物質である有機化合物に関して、その有機化学的概念・原理を中心に講義する。大学の化学の基礎科目である有機化学としての位置づけとして、有機化学Ⅰの続きとして、アルコール化合物、エーテル化合物、二重結合化合物、三重結合化合物、芳香族化合物、カルボニル化合物に関し説明する。	
生化学Ⅰ	生命を分子レベルで理解するための基本的事項、すなわち、アミノ酸、タンパク質、糖質、脂質、核酸などの生体分子の化学構造や機能・代謝について、より深い内容を学習する。本講義と生化学Ⅱ（2年次後期）をセットとして学ぶことで、生化学を奥深く学ぶ。生体分子の化学構造、機能、代謝についてより深い知識を得るとともに、重要な生体分子の構造式や英語名が書けるようになることを目的とする。 （オムニバス方式/全15回） （54 磯野直人/8回）アミノ酸とペプチドの性質、タンパク質の構造と機能などについて概説する。 （20 柿沼誠/7回）ヌクレオチド、核酸、単糖、多糖、脂質、生体膜の構造と機能、膜輸送などについて概説する。	オムニバス
微生物学	微生物は微小で形態的には単純な生物群であり、多種多様な細菌、真菌類、原生生物及びウイルス等を含んでいる。これらの微生物の分類、形態、細胞構造、機能、生理、遺伝、代謝、物質・エネルギーの変換機能などの基本事項について講義する。特に、生命科学分野において重要な大腸菌、酵母、糸状菌を中心にして、細胞構造から生理、遺伝子に重点を置いて、これら微生物群の基礎研究からバイオインダストリー分野への関わりを教授する。	
物理化学	物理化学は自然界の挙動を理論的に取り扱う学問であり、数式を用いて現象を定量的に記述し理解することが要求される。自然現象（特に生命現象）を理解するために必要な熱力学の基本概念（エンタルピー、エントロピー、自由エネルギーなど）を学ぶ。	
生物物理化学	生命現象を分子レベルで定量的に理解するための基礎となる内容として、酸・塩基平衡、酵素反応速度論、および分光学の初歩を解説する。 生体内反応や生体高分子の構造や機能、およびそれらの解析方法について、定性的・定量的に理解する。この学習を通し、「物理化学」ともあわせて、物理化学的な考え方・学び方の基本を身につける。それらの知識や考え方を、生命現象に関連する他教科での学習内容と関連づけて理解できる。総じて分子レベルで見た生命（現象）像の確立に資することを目的とする。	
生化学Ⅱ	酵素が担う細胞内の代謝系について学ぶ。さらに、酵素が担う様々な生物学的現象や遺伝子の発現制御と複製についても幅広く学習する。高等学校の理科教科・「化学」の（4）「有機化合物の性質と利用」、（5）「高分子化合物の性質と利用」を指導するために必要な基本的事項について解説する。糖質・アミノ酸・ヌクレオチド代謝、ビタミン、シグナル伝達、ゲノム・クロマチンの構造と機能、複製、転写、翻訳、遺伝子の発現制御等について化学的に説明できる能力を修得することを目的とする。	

分析化学	食品を含む生物由来の試料には様々な化合物が含まれている。それらの成分を正確に分析する方法を理解することは、食品産業に将来従事する学生には不可欠である。この講義の前半では分析化学の基礎論理を分かりやすく講義し、後半では機器分析による化学構造解析について解説する。	
食品化学	食品の機能には栄養面でのはたらき、嗜好面でのはたらき、疾病予防面でのはたらきなどがある。本授業ではこれらの機能に関与する食品成分の構造・性質・化学変化について学ぶ。県内外の企業で、どのような食品成分・素材を製造・利用しているか学ぶ。食品成分についての科学的知識を習得し、健康的な食生活を送ることに役立てる。卒業研究や、卒業後の企業・教育研究機関において食品に関連する活動をする際に役立つ基本的知識を身につける。	
創薬化学	薬について生命化学の観点から学習する。有機化学と生化学の基礎知識を整理した上で、重要な医薬・農薬の化学構造と作用機構を解説する。薬の開発経緯や作用機構を知ることにより、有機化学や生化学をはじめとした基礎学問の本質や重要性を、実感を伴って理解することができる。本授業で学ぶ創薬化学の専門的概念は、製薬企業だけでなく食品開発、農業生産、品質管理、環境保全の現場においても生かされるものである。また、身近な薬を賢く利用するための「薬のリテラシー」を身に付けることができる。本授業は15回の講義形式で行い、薬の作用機構の理解に必要な有機化学と生化学の基礎知識を復習した後に、医薬・農薬の解説を種類ごとに行う。	
生物化学工学	バイオプロセスにおいては、生化学反応や生体反応の定量的理解に基づいた制御が重要になる。そこで、バイオプロセスの基盤的な学問としての化学工学の基礎概念、とりわけ収支の概念と速度の概念について概観し、バイオプロセスにおける重要な操作やその解析方法の基礎事項について学習する。また、この講義を通じて、生体触媒を用いた定量的かつ速度論的な物質生産の基礎を身につけることを目指す。	
生命機能化学実験Ⅰ	生命化学関連分野（主に物理化学、有機化学、微生物学）の基礎的な実験手法や、データ解析手法について学ぶ。器具・試薬などの正しい取扱い方と、安全に実験を実施するための基本的な知識を身に付ける。実験計画の立案方法と、報告書の作成方法を習得する。また、データの正しい取り扱い方、処理方法、整理の仕方などを学ぶ。グループ実験では、他の学生と協力しながら円滑に実験を行うために必要な能力を身に付ける。 （オムニバス方式/全30回） （88 末原憲一郎、50 三宅英雄、18 橋本篤/10回）（共同）物理化学関連の実験を行う。 （56 梅川碧里、80 國武絵美、19 木村哲哉/10回）（共同）微生物学関連の実験を行う。	オムニバス 共同
水圏生物化学	魚介類、海藻類は陸上生物と異なり、生長、成熟、繁殖などの様相がきわめて特徴的である。水圏生物に含まれるアミノ酸、タンパク質、糖質、脂質、核酸、エキス、色素などの特色と代謝の様相を生育環境との関連からとらえ、水圏生物の生理・生化学的機能の基礎を解説する。水圏生物の生体内に存在する各種成分について学び、それらの特色、生体内における代謝と機能、ヒトとの関わりについての知識を得る。	
遺伝子工学	前半の「基礎編」では遺伝子工学で用いられる基本技術について解説する。後半の「応用編」では、遺伝子工学を利用したさまざまなバイオテクノロジーについて学ぶことができる。遺伝子操作などのバイオテクノロジーにおける遺伝子工学の基礎的理論と実験方法について講義し、工業的バイオテクノロジーとの関連から、化学品生産や有用物質生産、優良品種の作製などの応用について解説する。	
水産食品衛生学	本講義の目的は、飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止し、公衆衛生の向上および増進に寄与することである。そのため、ここでは水産物を中心として食中毒の原因、予防法、動植物自然毒、食品汚染物質、食品の安全性およびHACCPなどを学習し、併せて基本的な安全性評価の手法を説明する。さらに、食品に基づく健康への悪影響を少しでも起こさないように、消費者側の立場と共に製造者側の立場からみた合理的な「食の安全」に対する理解、およびHACCP等を通した食品製造の衛生管理に関する概念に対して理解することを目指す。	
微生物利用学	地球に生息する微生物には、産業利用するうえで有用な微生物と有害な微生物が存在する。有用微生物を有効に利用するためには、最適な生育条件を設定することと、有害微生物を積極的に制御する必要がある。この授業では、有用微生物の代謝作用（異化、同化）と生体触媒（酵素）作用が、種々の産業界でどのように工業的に利用されているのかを講義し、最適利用技術に至る過程とその理由を考える。講義は、「微生物の代謝酵素の基礎」、「発酵食品・代謝産物の工業生産における微生物の利用」、「微生物による環境浄化」、「食品産業におけるの制御技術」に大別される。	
海洋生命化学実験Ⅰ	実験データを整理して文献情報などと比較し、レポートにまとめる。また学生が自ら専門科目の講義内容に直結する実験を行うことにより、講義で修得した内容の具体的な性質や動態を知ると共に、卒業研究などに必要な実験技術の基礎を習得する。また、水圏生物のうち、特に藻類と微生物（海洋細菌）を対象とし、その生体成分、生態、ならびに形態の特性を把握するために必要な実験の基礎理論を理解すると共に、実験の基礎技術とその応用方法を習得する。講義で学習した内容に関わる実験を行うことで、水圏生物の生理・生化学的諸性状を具体的・総合的に理解する。 （オムニバス方式/全15回） （82 五十嵐洋治/7回）海洋生物からの生体成分の抽出・精製、定量・定性分析の基本原理を解説し、これら操作を実際に行うことで、生体成分の分画および分析操作の基本原理・技術を習得すると共に、生体成分の諸性状を理解する。 （58 田中礼士/8回）海洋微生物を取り扱うための基本的な操作方法（培地調整法、携帯観察法、培養法、遺伝子解析法）を解説し、各自が微生物、機器・器具の取り扱いに習熟できるように実験を行う。	オムニバス
海洋生命化学実験Ⅱ	本実験では、脂質やタンパク質、核酸の化学的性質を理解するために、粘性の測定、生体組織からの抽出、電気泳動などの実験を行う。また、実験データ解析に必要な処理をコンピュータを用いて行う。 （オムニバス方式/全15回） （89 大井淳史/8回）食用油、魚油などの粘性測定、脂肪酸のヨウ素価の測定、実験データ解析（統計処理と検定）を担当。 （22 舩原大輔/7回）筋タンパク質および核酸の抽出、濃度測定、電気泳動（SDSポリアクリルアミドゲル電気泳動、アガロースゲル電気泳動）、分子量測定（移動度測定、画像解析）を担当。	オムニバス
バイオインフォマティクス	本授業では、生物情報データベース（①DNA/RNA塩基配列データベース、②タンパク質配列データベース、③タンパク質立体構造データベース、④文献データベース　など）に登録されている遺伝子やタンパク質の情報を解析するための方法や技術について学ぶ。コンピュータを用いてインターネット上の情報を適切に取得し、ソフトウェアを用いて情報を処理・解析できるようになる。毎回の授業テーマに沿った情報をデータベースから取得し、ソフトウェアを用いて処理・解析する。	
微生物遺伝学	微生物遺伝学の基礎について分子レベルで講義し、また、それを発展させた遺伝子工学の手法について講義する。さらに、応用的な側面についても取り入れる。大腸菌、酵母から糸状菌までの過去の研究論文を紹介しながら、微生物遺伝学の基礎から分子生物学的側面までを講義する。基礎研究の大切さを理解したうえで、それらを応用した遺伝子工学やゲノム編集など最新の実験手法についても紹介する。最終的な学修到達点として、微生物の様々な生理を分子レベルで理解し、その知識を発展させて産業に応用する発想ができるようになる。	

栄養化学	タンパク質、脂質、糖質、ビタミン、ミネラルなどの各種栄養成分の化学・消化・吸収・代謝を講義する。また、それら物質から起因する生活習慣病などの疾患なども学ぶ。食品に含まれる栄養成分の化学、それらの消化･吸収･代謝過程について理解することを目的とする。さらに、栄養成分と健康の関わりについて理解することも目的としている。栄養化学で可能なことは、その化合物がどの様に身体の中の入っていくか、化合物の物性変化等を詳細に考えるすべを作ることも目的としている。	
発酵生理学	発酵生理に関わる酵素の特性と機能およびその産業利用に関する内容を講義する。発酵生理および栄養代謝に関わる広範な酵素に対する理解と知識を持ち合わせ、酵素を扱い、利用するに必要な知識を習得することを目的とし、具体的には以下の項目について、実例をあげながら解説する。（1）酵素の一般的性質、（2）酵素の機能と分類法、（3）酵素の分離精製法、（4）食品・医療・遺伝子工学・有用物質生産などにおける酵素の利用、（5）発酵食品製造における酵素の役割、（6）食品発酵微生物の特性および発酵生理	
生命機能化学実験Ⅱ	生命化学関連分野（主に有機化学、食品学、生化学、微生物学）の基礎的および発展的な実験手法や、データ解析手法について学ぶ。器具・試薬などの取扱い方についての知識と、安全に実験を実施するための知識を深める。実験計画の立案方法、データ解析、報告書作成などの能力を伸ばす。グループ実験では、他の学生と協力しながら円滑に実験を行うために必要な能力を向上させる。 （オムニバス方式/全45回） （53 岡咲洋三、52 勝崎裕隆、51 増田裕一、17 稲垣穣/18回）（共同）有機化学関連の実験を行う。 （54 磯野直人、81 栗谷健志、55 西尾昌洋/18回）（共同）食品学関連の実験を行う。 （49 竹林慎一郎/9回）生化学関連の実験を行う。	オムニバス 共同
生命機能化学概論	生命機能化学専修内の各教育研究分野で行われている研究内容を中心に、最近の生命機能化学関連分野の研究動向の詳細を学ぶ。研究の背景・目的・意義・原理・産業や社会との関連性などの理解を深める。受講者は、3年生後期以降に所属する教育研究分野や、卒業研究のテーマを決定するために必要な参考情報を収集する。 （オムニバス方式/全8回） （49 竹林慎一郎、55 三宅英雄/1回）（共同）分子細胞生物学・分子生物情報学関連の研究内0容を紹介する。 （55 西尾昌洋、81 栗谷健志/1回）（共同）栄養化学関連の研究内容を紹介する。 （18 橘本篤、88 末原憲一郎/1回）（共同）食品生物情報工学関連の研究内容を紹介する。 （17 稲垣穣、51 増田裕一/1回）（共同）生理活性化学・創薬化学関連の研究内容を紹介する。 （52 勝崎裕隆、53 岡咲洋三/1回）（共同）生物機能化学関連の研究内容を紹介する。 （54 磯野直人、56 梅川碧里/1回）（共同）食品化学・食品発酵学関連の研究内容を紹介する。 （19 木村哲哉、80 國武絵美/1回）（共同）微生物遺伝学・食品発酵学関連の研究内容を紹介する。 （38 水野隆文、66 三島隆／1回）（共同）土壌圏生物機能学・附帯施設農場関連の研究内容を紹介する。	オムニバス 共同
海洋資源微生物学	海洋微生物（特に細菌類）は、生息環境により多様な性質を有し、その形質や遺伝子は有用な生物資源である。これら海洋微生物を有効に活用するための基礎的知見として、海洋微生物の特性を生理学的、生態学的、生化学的、かつ分子生物学的に講述する。海洋微生物の特性を理解し、これらの特性を有効活用できるように生理学的、生態学的、生化学的、かつ分子生物学的な知識を持つことを目的とすることにより海洋微生物を生物進化および系統分類の観点から生物学的位置を理解する。また海洋微生物が共通して有する生理学的特質について学び、それらの特性に適合した利用法を習得する。さらに遺伝子操作技法にもとづく生態学的解析法を理解する。	
水産食品化学	「水産物の鮮度」と「水産物のおいしさ」を科学するために、水産物に含まれる生体分子について、種類やそれぞれの構造と特性、貯蔵や加工に際して生じる性状変化について科学的な視点から講義する。水産物と畜肉、魚種間におけるそれらの差違や生体分子の定量分析方法について併せて解説を行い、品質管理に必要な力を養う。「魚食と健康」をテーマに「水産物に特徴的な生理活性物質」の構造や生理機能に関する最新の知見も紹介する。	
生物物性学	生命現象には多種類の物理的・化学的な反応が複雑に係わっており、それらの素過程を理解することが重要である。この授業では、2年次の細胞生物学で履修したさまざまな生命現象を題材にして、分子間に起きる物理的・化学的現象から理解できるよう掘り下げて学習する。	
海洋天然物化学	海洋生物に含まれる医薬などとして有用な化合物、海洋生態系に働く化合物などについて、研究法、化学構造と生合成、活性と作用機構、あるいは宿主における機能および生態系における役割を概説する。海洋に生息する多様な生物の生理・生態およびヒトとの関わり合いをより深く理解するために、海洋生物に含まれる化合物とそれらの生理活性、および医薬などへの応用についての知識を身につける。	
脂質化学	脂質は、タンパク質や糖質とともに生体活動をするためのエネルギーを作り出す材料の一つであり、その中でもカロリーの高い成分である。また、脂質は生体を構成する最小単位である細胞の細胞膜を構成する上で必要不可欠な物質でもある。したがって、脂質の特徴を理解することは、生命科学の分野だけでなく食品や化学工業の産業面における素材開発の部分で非常に重要である。本講義では、自然界に広く存在する脂質の種類およびその性質について生活に密接する油脂を例に解説し、生体内における脂質の代謝（消化吸収、生合成）や近年増加する脂質異常症の発症要因について講述する。	
海洋生命化学実験Ⅲ	この実験では、クロマトグラフィーを用いた水産物の鮮度評価に関する実験、水産物に含まれる成分の機能性評価に関する実験、大腸菌の遺伝子組換えおよび糖質加水分解酵素を用いた酵素反応に関する実験をそれぞれ行い、バイオテクノロジー研究や食品の品質管理、開発に必要な知識を習熟する。実験を通じて得られたデータの解析をコンピューターを用いて整理し、様々な文献からの情報を活用しながら自らの考えをまとめあげ、討論を行う。 （オムニバス方式/全15回） （60 柴田敏行/8回）ガイダンス、水産物の鮮度評価と機能性評価に関する実験を担当。 （21 田丸浩/7回）遺伝子組換えと酵素反応に関する実験を担当。	オムニバス
マリンフードプロセス実習	三重大学キャンパス内にある水産製造実験工場において、水産加工製品の製造原理と製造方法、各種機器（機械、装置、器具）の構成、機能、使用方法の講義、そして缶詰・水産練り製品の製造実習を行う（集中・4日間）。この授業では、ヒトが摂取する食品を製造する上で必須な食品衛生や5S活動の基礎、HACCPの原理に基づく衛生管理手法（毛髪の除去、靴の履き替え、帽子、手袋、マスクの着用、手指消毒）の必要性と危害分析への理解を深めたうえで製造実習を行う。また、社会人技術者を講師に招き、実際の現場における製造過程の留意点や微生物制御の実践ポイントを学び考える。実習は、「カツオの缶詰の製造」、「ちくわの製造」、「食品衛生の講義」、「原価計算」に大別される。 （23 福﨑智司）室内除菌、器具類の洗浄・殺菌（食品衛生）、すり身のカッティング・擂潰を担当。 （59 岡﨑文美）カツオの加工（蒸煮、切断・肉詰、加塩・注油）、缶詰の巻き締め、レトルト殺菌、ちくわの機械成型・焼き工程、包装・ラベリング、原価計算指導を担当。	共同

海洋生命化学実習	食品や医薬・香粧品は常に新しい機能的な商品が開発され、様々な品質管理項目をクリアすることで安心・安全な商品を消費者に提供している。本講義では食品の開発や品質管理に関連する様々な手法を学ぶとともに、生物による「ものづくり」の次世代技術として期待されている分子生物学と工学が融合した「合成生物学」の基礎を習得する。 （オムニバス方式/全15回） （57 伊藤智広/7。5回）水産食品に含まれる塩分やグリコーゲン量、ビタミン量の測定技術を習得する。また、水棲動物組織から酵素液を調製し、活性評価を行うことで動物組織学的評価技術の習得をする。 （59 岡﨑文美/7。5回）酵素遺伝子の発現を制御するプロモーターおよびリボソーム結合サイトの組合せによる遺伝子発現制御の設計手法を学ぶ。さらに、遺伝子および微生物株の組合せの解析により物質生産宿主の役割および機能を学ぶ。これらの実習により合成生物学の基礎を習得する。	オムニバス
海洋生命化学概論	海洋生命化学専修では、教育研究分野のいずれかに配属し、多様な海洋生物の生命機能の基礎的性質の理解や、医薬品・食品・香粧品などの原料となる海洋生物資源の有効利用に寄与するバイオサイエンスとバイオテクノロジーについて総合的に学ぶ。教育研究分野配属に向けて、どのような基礎研究および応用研究が各教育研究分野で進められているのかを概説する。 （オムニバス方式/全8回） （20 柿沼誠、82 五十嵐洋治/1回）水圏生物（特に海産大型藻類と軟体動物）の生化学、分子生物学、バイオインフォマティクス関連の先端研究について概説する。 （21 田丸浩/1回）水圏生物（特に魚類と微生物）の生化学、分子生物学、バイオインフォマティクス関連の先端研究について概説する。 （57 伊藤智広/1回）　持続的可能な社会に貢献するための海洋生物資源の有効利用法や細胞や微生物の機能を活用した香粧品素材開発について概説する。 （22 舩原大輔/1回）水生生物の生体高分子のうち特にタンパク質の機能解析に関する最新研究について概説する。 （23 福﨑智司/1回）食品プロセス、食品微生物制御に関する先端技術や最新研究について概説する。 （58 田中礼士/1回）海洋微生物の生態、利用、制御に関する国内外の最新研究について概説する。 （59 岡﨑文美/1回）水産物の品質と食品衛生に関する研究および水産資源の高付加価値化に資する遺伝子の機能解析、物質生産に関する研究を概説する。 （60 柴田敏行/1回）希少糖を含めた糖質、海藻ポリフェノールやペプチドを中心に水産物由来の機能性成分に関わる研究について概説する。	オムニバス・ 共同（一部）
生命化学英語	Biology is the foundation of all characteristics of life on Earth. It helps to understand the complex forms of life involving humans, animals and plants and the functioning of ecosystems. Apart from creating solutions to the many challenges that living organisms face, it provides a way for inventions that improve the quality of life. Many international organizations, academics, and multinational companies in biological sciences widely use English as their language of instruction. Therefore this course is designed to deepen the knowledge of biological sciences in the English medium. The students will engage with basic scientific facts about food and nutrition, cell biology, organisms, human body systems, diseases, and plasma nanotechnology applications in biological sciences. The lectures are offered in English, and lessons are focused on developing the skills of presentation, writing, and formal communications. 生物学は、地球上のあらゆる生命の特徴の基礎となる。人間、動物、植物を含む複雑な生命の形態や、生態系の機能を理解するのに役立つ。生物が直面する多くの課題に対する解決策を生み出すだけでなく、生活の質を向上させる発明の道筋を提供するものでもある。生物科学分野の多くの国際機関、学術機関、多国籍企業では、指導言語として英語を広く使用している。そこで、このコースでは、生物科学に関する知識を英語媒体で深めることを目的とする。学生は、食品と栄養、細胞生物学、生物、人体システム、病気、および生物科学におけるプラズマナノテクノロジーの応用に関する基本的な科学的事実に取り組む。講義は英語で行われ、授業はプレゼンテーション、ライティング、フォーマルなコミュニケーションのスキルを身につけることに重点を置く。	共同
海洋生命化学演習Ⅰ	海洋生命化学専修を担当する8教育研究分野（海洋生物化学、水圏生物利用学、水圏材料分子化学、生物物性学、生体高分子化学、海洋微生物学、水産物品質学、海洋食糧化学）のいずれかに配属し、指導教員の教育研究指導の下で卒業研究に取り組む。卒業研究の課題・計画の策定や卒業研究を遂行する上で必要な基礎・専門知識、実験技術の基礎・理論、文献資料の収集法等を習得する。 （海洋生物化学：20 柿沼誠、82 五十嵐洋治）水圏生物（特に海産大型藻類と軟体動物）の特異な生命現象や生体成分に関する卒業研究を遂行する上で必要な基礎知識、実験の基礎技術を指導する。 （水圏生物利用学：21 田丸浩）水圏生物（特に魚類と微生物）の特異な生命現象や生体成分に関する卒業研究を遂行する上で必要な基礎知識、実験の基礎技術を指導する。 （水圏材料分子化学：57 伊藤智広）天然動植物に含まれる低分子化合物や微生物、細胞が分泌する膜小胞の応用利用に関する卒業研究課題に取り組む上で必要な基礎知識や論文閲読、プレゼンテーション資料作成法および発表技術を指導する。 （生物物性学：89 大井淳史）水圏生物の食品素材としての特性および一般食品の物性評価の手法について輪講形式で学習する。 （生体高分子化学：22 舩原大輔）水生生物のタンパク質の機能解析に関する研究を遂行する上で必要な基礎知識、実験の基礎技術を指導する。 （海洋微生物学：23 福﨑智司、58 田中礼士）海洋微生物の生態、利用、制御に関する卒業研究を遂行する上で必要な基礎知識、実験の基礎技術を指導する。 （水産物品質学：336 青木恭彦、59 岡﨑文美）水産物の品質と食品衛生および水産資源の高付加価値化に資する遺伝子の機能解析、物質生産に関する卒業研究を遂行する上で必要な基礎知識、実験の基礎技術を指導する。 （海洋食糧化学：60 柴田敏行）水産物に含まれる生理活性物質について生理機能の解析や定量分析法の開発に関する卒業研究を行う上で必要な知識と実験の基礎的な技術を指導する。	共同
生物機能化学	生物機能を持つ二次代謝産物の生合成機構を縦糸とし、その生物機能を横糸として、生物機能物質を概観する。具体的には脂肪酸関連物質、ポリケチド、フェニルプロパノイド、フラボノイド、リグナン、イソプレノイド、アルカロイドの生合成過程にその中間体までを有機化学的に解説する。また、この生合成反応と通常の合成反応との比較、補酵素の役割などについても有機化学的に解説する。またそれらのホルモンやフェロモン、オータコイド、毒、機能性食品などの生物機能ついても紹介する。	
生命機能化学演習Ⅰ	生命機能化学専修の各教育研究分野に関連する、研究手法や研究動向についての基礎的な知識を得るために、英語文献を中心とした専門書籍・論文などの輪読会を行う。また、研究内容を説明するためのプレゼンテーション方法の基礎を学ぶ。各教育研究分野で必要とする実験技術、データ解析と記録の手法、安全に関する知識等の基礎的内容を身に付ける。この講義は各教育研究分野において、それぞれ実施する。	共同

生命機能化学演習Ⅱ	生命機能化学専修の各教育研究分野に関連する、専門分野の研究手法や研究動向についての発展的な知識を得るために、英語文献を中心とした専門書籍・論文などの輪読会を行う。また、研究内容を説明するためのプレゼンテーションの経験を積む。各教育研究分野で必要とする実験技術、データ解析と記録の手法、安全に関する知識等の発展的内容を身に付ける。この講義は各教育研究分野において、それぞれ実施する。	共同
海洋生命化学演習Ⅱ	海洋生命化学専修を担当する教育研究分野のいずれかに配属し、指導教員の教育研究指導の下で卒業研究に取り組む。卒業研究を遂行する上で必要な専門知識、実験技術、研究計画・展開力、研究成果のまとめ方や発表法を習得する。 （20 柿沼誠、82 五十嵐洋治）水圏生物（特に海産大型藻類と軟体動物）の特異な生命現象や生体成分に関する卒業研究を遂行する上で必要な専門知識、実験の応用技術を指導する。 （21 田丸浩）水圏生物（特に魚類と微生物）の特異な生命現象や生体成分に関する卒業研究を遂行する上で必要な専門知識、実験の応用技術を指導する。 （57 伊藤智広）細胞や微生物の機能を活用した香粧品素材開発を目標とした細胞尾よび実験動物実験における生化学的および遺伝子工学的手法について指導する。 （22 舩原大輔）水生生物のタンパク質の機能解析に関する研究を遂行する上で必要な基礎知識、実験の基礎技術を指導する。 （23 福﨑智司）食品プロセス、食品微生物制御に関する卒業研究を遂行する上で必要な専門知識、実験の応用技術を指導する。 （58 田中礼士）海洋微生物の生態、利用、制御に関する卒業研究を遂行する上で必要な基礎知識、実験の基礎技術を指導する。 （59 岡﨑文美）水産物の品質と食品衛生および水産資源の高付加価値化に資する遺伝子の機能解析、物質生産に関する卒業研究を遂行する上で必要な基礎知識、実験の基礎技術を指導する。 （60 柴田敏行）水産物に含まれる生理活性物質について生理機能の解析や定量分析法の開発に関する卒業研究を行う上で必要な専門知識と実験の応用的な技術を指導する。	共同
花卉園芸学	花きは、基本的に観賞用園芸植物の総称であり、一般に生産される花きとして切り花、鉢物、苗物、球根があり、それぞれ特有の栽培技術が成立している。このように多様な花きの遺伝的・生理・生態的特徴や栽培技術について解説する。具体的には花き産業の現状、花き分類、花きの生活環と形態、花きの遺伝育種、花き育種の実際、花きのバイオテクノロジー、花きの発育生理、花きの開花生理、花きの生産技術、花きの収穫後生理、花きの品質保持技術、花色と香気成分について講義する。	隔年
農業生産工程管理学概論	安全な農産物の生産、環境に配慮した農業、農業従事者の労働安全と人権尊重、法蓮順守などの観点から、農業生産の工程管理を評価し、持続的に実行可能な仕組みを概説する。GAPは、多様な基準があり、これらの事例を参照にして、GAPを構成する「管理点」「適合基準」を説明する。GAP取得した団体に出向き、圃場および農産物取扱い施設、GAP基準を満たす農場ルールの説明を聞き取り、GAPの運営を知る。 （オムニバス方式/全15回） （33 長屋祐一/7回） 第1回　農業と環境、農業従事者と労働安全 第2回　GAPに必要な危害分析と重要な管理点の設定（HACCPの導入） 第3回　GFSIベンチマーキング要求事項 第4回　生産工程図、リスク検討、リスク評価の方法 第5回　帳票類の作成方法 第8回　農場ルールの作成III（種苗・農薬・肥料等の管理） 第9回　関連法令 （337 奥田均/6回） 第6回：農場ルールの作成I（経営：農場の見える化、経営者の責任、計画、実績評価、食品安全における前提プログラムとリスク管理、食品防御、供給者の管理、検査、苦情・異常・ルール違反の対応、トレーサビリティ） 第7回：農場ルールの作成II（教育訓練、労務管理、衛生管理、労働安全管理と事故発生時の対応、土の管理、水の利用と廃水管理、交差汚染防止、機械・設備などの管理、エネルギー等の管理と地球温暖化防止、廃棄物の管理、周辺環境への配慮、地域社会との共生、生物多様性の配慮）リスク評価の流れⅠ（リスク評価図） 第10回　現場視察I（圃場） 第11回　現場視察II（取扱施設・倉庫・農薬・肥料・機械） 第12回　現場視察III（農場ルール、帳票類の確認、作業の聞き取り） 第15回　GGAP、JGAP、ASIAGAP、GH　の認証比較 （33 長屋祐一、34 奥田均/2回） 第13回　ワークショップ（GAPの運用について） 第14回　ワークショップ（GAPの長所、短所）	オムニバス
水利施設工学	農業水利システムにおいて、重要な施設であるダム、頭首工、水路工に関する構造設計の基礎、および土木施工を講義する。これらの農業水利システムが自然環境の保全・再生に寄与しながら技術を発展させてきた歴史を俯瞰し、地震被災事例と耐震対策、老朽化とその劣化要因および補修工法を概説し、築造から長期経過した現在の我が国の農業水利構造物の現状を解説する。さらに、施工計画と施工管理の概要、施設施工時の環境への配慮について解説する。	
測量学	自然環境を安全に保つために「土地資源情報」は必要かつ重要な情報となる。この授業では、土地資源情報すなわち地形情報を得る技術の一つである地形測量（平面測量）、および得られた情報の解析法、利用法等について学習する。	
地質学	持続可能な社会の実現に向けて、人類が自然環境とどのように共生していくのか、が問われている。本講義では、地球の生い立ち。自然の成り立ち、三重県の自然環境について学び、現在の地球環境がいかに成立しているのか、人類の活動～特に第一次産業による自然の改変と、自然の保護に関する基本的考え方と自然と共生する農林水産業や社会システムについての先進事例を学ぶ。	
持続可能な地域づくり学	持続可能な社会の実現に向けて、身近な地域のおける地域づくり～特に農山漁村づくり～が重要な課題である。本講義では、持続可能な社会の実現に向け。第一次産業および地方自治体のあり方や具体的な実践についての基本的な観点について学ぶ。PBL的な観点での課題解決形の演習も行う。	
土壌物理学	生物生産の場である地表面から地下水までの土壌は、土粒子と水と空気から成る水分不飽和状態にある。本講義では、土の構造、水分保持機構、および不飽和状態の土中水分移動について、土壌物理学の基礎的な知識に基づき講義する。	
土壌物理学実験	土壌の性質、土壌における物質変化・生成、土壌中および土壌大気間の物質移動について実験・観測し、農地や森林の土壌の持つ物質変換能・収容能とその生態系での役割について理解を深める。	共同

測量学実習	地域の保全・管理のための施策に必要な基礎的地形データを得る技術である「測量」について、基本的な測量方法と機器の扱いを学ぶ。6人前後の少人数の班を編制し、班ごとに実習を行う。	共同
力学基礎I	低環境負荷や環境改善のための機械・装置システムを設計・開発するときに必要とされる力学の基礎知識と解析能力を高めるために、本講義では、高等学校で物理を履修していない者でも理解できるように、静力学の基礎知識および応用方法について多くの例を挙げながら平易に解説する。	
熱力学	熱力学の基本を説明する。理想気体の挙動から始め、一部はエンジンなど実用機関の原理にも触れる。	
電気・電子工学	Society5.0にむけ、現在では農学系分野においてもコンピュータを含む電気・電子の知識が必要とされている。本講義は電磁気学とコンピュータに係わる電子回路の基礎の習得を目標として、実践を含め平易に解説する。	
農業食料工学実習	農業食料工学分野の研究で使用される計測機器や道具の紹介と、それらの動作原理を解説する。さらに、現場に出て機器を操作し、データを取得する実習を通して、機器の操作方法やデータの取り扱い方法を習得する。また、耕作栽培作業や草刈り作業といったフィールドワークを行う体験を通して、農業食料工学分野が対象とする現場を身をもって知る。 （オムニバス方式/全15回） （333 王　秀崙／3回）フィールドワーク・耕作栽培作業、（13 森尾吉成、76 滝沢憲治、333 王　秀崙、31 福島崇志、77 内藤啓貴、48 鈴木哲仁／3回）フィールドワーク・草刈り作業、（13 森尾吉成、76 滝沢憲治、333 王　秀崙、31 福島崇志、77 内藤啓貴、48 鈴木哲仁／8回）計測機器の説明と計測実習、（13 森尾吉成、76 滝沢憲治、333 王　秀崙、31 福島崇志、77 内藤啓貴、48 鈴木哲仁／1回）実習開始時のガイダンス。	オムニバス 共同（一部）
環境情報システム工学実習Ⅰ	環境情報システム工学分野に関連する、金工実習、エンジン分解・組み立て、材料の強度試験、歪みなどの力学計測、センサーを使った計測実習、農産物・食品の物性計測を行う実習を通して、専門知識とスキルを身に付けるとともに、実習作業に取り組む姿勢を訓練する。 （オムニバス形式/全15回） （76 滝沢憲治、77 内藤啓貴／1回）初回時の実習ガイダンス、（13 森尾吉成／2回）金工実習　旋盤作業・ネジ製作、（76 滝沢憲治／2回）エンジン分解・組み立て、（333 王　秀崙／2回）材料の強度試験、（31 福島崇志／2回）ひずみなどの力学計測とキャリブレーション、（77 内藤啓貴／2回）農産物・食品の物性計測、（31 福島崇志、48 鈴木哲仁／4回）センサーを使った計測実習。	オムニバス 共同（一部）
分子細胞生物科学	細胞生物科学等の関連基礎講義の内容を踏まえ、細胞機能に関するさらに専門的な知識を得るとともに、高等植物における各種性質や機能について分子レベルでの知識を深める。また、DNAからみた生物の進化と多様性等、これらの知識の応用・発展に関する考え方や理解を深める。これにより分子レベルの知識を支える分子生物学や、遺伝子工学に関する知識・考え方を修得し、生命科学研究や生命倫理に関する正しい理解を深める。	
作物学各論	食用作物は人類のいわゆる主食、またはこれに準ずる食糧の生産を目的として栽培され、工芸作物は収穫物が工業的なプロセスによって製品化される作物群である。本講義では食用作物としてイネ、ムギ、ダイズ、サツマイモ、ジャガイモについて量的ならびに質的向上と環境保全を前提とした栽培の基礎的理論を整理し、体系的に説明する。また、工芸作物としてワタ（繊維作物）、ゴマ（油料作物）、サトウキビ（糖用作物）、チャ（嗜好料作物）、コショウ（香辛料作物）など風土に根ざした衣・食・住に深く関わり、日常生活や文化を育んできたことを説明するとともにその栽培方法や利用法について解説する。	
園芸植物生理学	主要な果樹や野菜類の品種特性、育成、生体内で生じている代謝や環境応答について習得させ、園芸植物栽培の背景にある生理的な基礎知識を涵養することを目的とする。そのために主要な園芸植物がもつ発芽・茎葉成長・着果・糖集積などの特徴的な諸反応を説明する。また、これらの諸反応が温度・無機栄養・土壌（培地）水分などの非生物的な環境要因によってどのような影響を受けるかについても解説する。さらに、植物工場の検討と課題、作型と品種選定、鮮度保持技術と流通、繁殖法、品質評価と高品質化について解説する。	
動物機能学	肉、乳、卵などの動物性たんぱく質の生産は栄養素を体内へ取り込み、それを体内で変換することによって行われる。この講義では動物の消化生理、消化管微生物、代謝、免疫、内分泌の機構、繁殖、泌乳、産肉などの生産性の生理について解説する。これにより、動物（反芻動物、単胃動物）の栄養や生理を理解し、動物の生理機能や消化管微生物についての基礎知識を習得することを目的とする。 （オムニバス方式/全15回） （3 松井宏樹/8回） 第1回　消化管微生物とは 第2回　消化管微生物の代謝1（嫌気発酵、メタン生成） 第3回　消化管微生物の代謝2（還元的酢酸生成、硫酸還元） 第4回　短鎖脂肪酸の吸収 第5回　ルーメン微生物 第6回　ルーメン微生物による繊維分解 第7回　消化管微生物の解析方法 第8回　腸管免疫 （34 伴智美/7回） 第9回　内分泌と機能 第10回　ホルモンの作用 第11回　脂肪組織の機能 第12回　単胃動物と反芻動物の脂質代謝 第13回　動物の生殖（生殖ホルモンと繁殖機能） 第14回　動物の生殖（受精・妊娠・分娩） 第15回　乳・肉の生産生理 第16回　定期試験	オムニバス
基礎経営学	農家、アグリビジネスおよび関連産業をはじめとする生物資源に関わる経営主体についての分析の基礎となる経営学全般について、経営管理、意思決定、経営組織、マーケティング、人的資源などの視点から基礎的事項を中心に講義すると共に、被雇用の側のモティベーション、働き方を中心に議論を行う。また、企業の統治・社会的責任、グループ経営などの現在の企業の在り方にも言及し、経済現象の認識力や企業研究の基礎的な知識を育てる。	

簿記会計演習Ⅰ	社会一般で用いられる財務・会計の概念を理解し、貸借対照表と損益計算書の意義、資産・負債・資本（純資産）・収益・費用の概念を体系的に理解すること、これらを通じて日商簿記検定３級程度の簿記会計能力を習得することを目標とする。そのために生物資源を利用する事業者の経営実態を把握・評価するために不可欠な簿記会計と財務分析の基礎について解説・演習を行う。	
森林・緑環境評価学	森林を持続的に管理・保全するためには、森林資源量の把握と森林の多面的機能の理解が必要である。そのため本講義の前半では、樹木サイズの計測や林分材積の推定、成長モデルなどの測樹学の基礎について学ぶ。後半では、森林の多面的機能のうちの一次生産（炭素循環）や水循環に関連した素過程の観測・解析方法、モデル化、環境変動に対する応答予測などについて学ぶ。これらにより、森林の機能評価と経営計画についての基本的知識・技術を習得する。 （オムニバス方式/全15回） （67 沼本晋也/7回）測樹学の基礎、キャンパス構内での測樹実習を担当。 （71 松尾奈緒子/8回）森林素過程の観測・解析、モデル化、環境応答予測を担当。	オムニバス
森林政策学	行政や市民活動の現場で、森林・林業の現状を分析し、森林政策を策定するための基礎的な素養を身につけることを目的とする。森林・林業の現状と森林、林業政策の概要を学習した後、近現代におけるそれらの展開過程を中心に整理し、将来に向けた森林と社会のあり方を探る。	
植物材料化学	近年、海洋プラスチックごみ問題等が深刻化しており、植物材料に注目が集まっている。世の中の最も代表的な植物材料は木と紙である。原料となる木材、木材からパルプの製造方法、パルプから紙の製造方法、和紙などについて講義する。紙以外に、パルプを立体成形してつくられるパルプモールド、溶解パルプから作られるセロハンやレーヨンなどのセルロース製品、セルロースを解繊してつくられるセルロースナノファイバーについても触れる。木材が、自然界において、木材腐朽菌やシロアリなどによる分解する様式、化学加工技術による木材の保護についても概説する。	
木質材料学	木材の微視的・巨視的組織構造や、木材の欠点、針葉樹および広葉樹の識別、木材の物理的特性や化学成分とその利用、さらに木質材料の分類や接着剤などについて解説し知識を習得する。なお、木材の物理的・力学的諸性質や化学成分が組織構造とどのように関連しているかを理解できるよう配慮する。	
森林生態学実習	多面的機能を持つ森林の育成・保全を考える上で必要な、森林を構成する生物種ならびに生物集団の生態に関する知識および理解を習得するために、植物の観察を屋内外において行う。具体的には、三重大学構内に植栽されている樹木の観察、圃場における根圏の観察、植栽木の葉の水ポテンシャルの測定、花序の構造やシュートの観察を行うとともに、得られた森林群落データの統計処理ならびにデータの視覚化の手法を解説する。また、植物体からのDNA抽出方法、DNAの精製、電気泳動によるDNA濃度の推定を通じた一般的な分子生物学的手法を教授する。 （オムニバス方式/全15回） （6 木佐貫博光/8回） 第1～2回　構内の樹木観察 第3回　根圏の観察 第4回　葉の水ポテンシャルの測定 第5回　花序の構造の観察 第6～8回　シュート成長の測定 （37 鳥丸猛/7回） 第9回　森林群落データの統計処理 第10回　森林群落データの視覚化 第11回　植物体からのDNA抽出方法 第12回　DNAの精製 第13回　電気泳動によるDNA濃度の推定 第14回　PCRによる多型解析 第15回　実習の解説	オムニバス
森林利用・情報学演習	「森林利用・情報学」の授業で修得した知識を実地に応用することを目的に、林道設計およびGISについての実習を行う。	
植物微生物学実験	植物、特に樹木に関わる微生物や線虫類の基本を学ぶ。菌類の分離、培養、接種、観察、DNA解析などを体験し、植物に関わる調査研究するため、次のような項目の実験を行う。マツノザイセンチュウ、微生物分離培養のための培地作成、微生物の分離、培養、移植、子実体採取と形態観察、子実体からのDNA抽出とPCR増幅、塩基配列の決定と類似配列解析、分子系統樹作成、顕微鏡観察、微生物密度の計数、線虫接種による樹木の病徴観察と解剖観察。	共同
森林物理学実験	１）木材の物理的性質、２）木材および木質材料の力学的性質、３）木質材料の製造と性質、４）木質構造の構造強度、を実験を通して修得する。 （オムニバス方式/全15回） （74 内迫貴幸/8回） 第1回　科学機器の基礎操作 第2回　木材の物理的性質①（密度（比重）） 第3回　木材の物理的性質②（水および乾燥） 第4回　木材および木質材料の力学的性質①（曲げ・圧縮） 第5回　木材および木質材料の力学的性質②（せん断・割裂） 第6回　木材および木質材料の力学的性質③（座屈） 第7回　木材および木質材料の力学的性質④（強度異方性） 第8回　木質材料の製造と性質（集成材） （8 中井毅尚/7回） 第9回　木質構造の構造強度①（壁） 第10回　木質構造の構造強度②（柱） 第11回　木質構造の構造強度③（床） 第12回　木質構造の構造強度④（梁・桁） 第13回　木質構造の構造強度⑤（屋根） 第14回　木質構造の構造強度⑥（階段） 第15回　木質構造の構造強度⑦（総括）	オムニバス
植物成分化学実験	木材は、木材細胞から構成され、成分としてはセルロース、ヘミセルロース、リグニンより構成される。木材から、繊維（パルプ）やセルロース・ヘミセルロース・リグニンを分離して、利用するための原理や各種技術を実験を通して指導する。ソーダ蒸解、クラフト蒸解によるパルプ化と黒液からのリグニン回収、パルプの離解・叩解、ペントサンの定量、木材糖化、機能性リグニンの単離など。	共同

FSC演習林実習Ⅴ	源流域の森林の存在意義、多面的機能からみた地域森林の適切な取り扱い方について森林の現場で復習し、既に学んできた森林科学・林学の知識を総合的に理解するため、平倉演習林および周辺森林流域における３泊４日の学習を行う。	共同
鉄筋コンクリート工学	鉄筋コンクリート構造の特徴と構成材料の力学的性質について講述した後、限界状態設計法に基づいてコンクリート構造物を設計するための基礎理論を講義する。また、プレストレストコンクリートなどについても講述するほか、鉄筋コンクリート構造物の設計演習を課す。	
基礎土質力学	地域の生活を支えるインフラ整備の基礎となる地盤を対象に、土構造物を設計、施工する場合に必要となる土質力学の基礎を理解する。	
水理学	水理計算に必要な物理・数学の知識の再確認から始め、基礎水理学で学んだ知識を再度確認しつつ、できるだけ多くの問題を解きながら主として開水路における流れの現象（水循環、水と土の基本的性質、水の基本的性質）を定量的に理解できるようにする。	
水文・農業気象学	合理式を中心に説明する。すなわち、洪水時にどの程度の確率で、どの程度の降雨が発生し、どのように河川に水が集まってくるのか、そういったことをイメージしながら授業を進める。その結果によって、川が水位が堤防よりも高くなり、水があふれてくるのかどうかの評価でできるようになる。降雨が関わるので確率についての知識も必要になる。	
実践農業工学	農業農村地域に発生する問題・課題・解決策がどのような経緯・手法で実施されたかを講義する。この講義をもとにして、受講生の斬新なアイデアを引き出し、「問題解決法を考えること」を期待する。 そのための手段として、「地域の自然環境と人間活動の共生」に着目し、自然環境を維持しながら人間活動を発展させていくために必要な知識・技術や能力を得て生かすためのトレーニングを行うとともに、技術者倫理についての能力を養う。	
測量応用実習	前期で習得した基礎的測量技術をもとに、トータルステーションとフリーソフトを使用して実務レベルでの測量作業に近い内容で観測と計算を行うことで、デジタル化された測量データの取扱い技術の習得を図る。また、無人航空機（UAV）を用いた測量技術の利活用が進んでいるため、UAVの理論と利活用の講義及びトイドローン体験実習を行う。	共同
コンクリート・土質実験	コンクリート実験では、セメント、骨材およびコンクリートに関する基本的な試験をJISと土木学会の指導書に基づいて行う。 土質実験では、土木構造物を造る際に必要な、土の力学的性質を調べる実験を地盤工学会の土質試験の手引きに基づいて行う。	
力学基礎II	生物生産を含む生産プラント用の装置や機器の環境負荷を最少化・最適化するための技術として力学の基礎知識が重要である。本講義では、高等学校で物理を履修していない者でも理解できるように、運動学と動力学の基礎知識および応用方法について多くの例を挙げながら平易に解説する。	
制御工学	自然界をシステムと考えると、環境問題はシステムの現象を正確に捉え。適切に対応・制御することによって対処することができる。本講義はこのような手法の基礎となる、システム表現、システム応答、制御工学の初歩について学習する。	
メカトロニクス実践	メカニクス、エレクトロニクスの両分野が融合したメカトロニクスは、コンピュータ機械制御の基本であり、中でもロボットは多くの要素技術の集まりからなるシステムである。本講義は、ロボティクスの基本的な要素技術であるアクチュエータとセンサについて概説し、体表的アクチュエータであるモータの制御について学習する。	
設計製図学Ⅰ	機械システム・装置を構成する機械要素のJISに基づく製図法を学ぶと共に、３次元CAD/CAMの基礎を概説し、３次元CADを用いた基本的な３次元モデリング・アセンブリおよび２次元図面化法を学ぶ。	
ベンチャー企業論	本授業では、ベンチャー企業経営者を講師に招き、ベンチャービジネスをテーマとしたPBL（Project Based Learning） 型の授業を展開する。第1部では、受講生は、ベンチャービジネスの世界、ベンチャービジネスをするために必要な要素、ベンチャービジネスを支援する制度、ベンチャービジネスの進め方などについての知識を獲得する。第2部では、受講生はグループに分かれ、ベンチャービジネスに実際に挑戦する活動を行う。第3部では、受講生が活動成果をプレゼンテーションし、講師ならびに外部評価者から評価を受ける。	隔年 共同
食料生産システム学	地域の基幹産業として重要な食糧生産システムについて、農業機械を中心に、装置類の概要、機能、原理について、まずそれらの基礎を教授する。次に、各種機械類の特性およびそれらの応用法に関し、分かりやすく教授する。	
環境情報システム工学実習Ⅱ	環境情報システム工学分野に関連する、画像処理、耕耘・栽培実習、金工実習、センサー・マイコンを使った計測実習と回路製作、データサイエンス解析実習を行う実習を通して、専門知識とスキルを身に付けるとともに、実習作業に取り組む姿勢を訓練する。 （オムニバス形式/全15回） （76 滝沢憲治、77 内藤啓貴／1回）実習ガイダンス、（13 森尾吉成／2回）画像処理実習、（333 王　秀崙／2回）耕耘・栽培実習、（31 福島崇志／2回）金工実習・金属加工、（76 滝沢憲治／2回）金工実習・溶接、（31 福島崇志、77 内藤啓貴、48 鈴木哲仁／3回）センサ・マイコンを使った計測実習と回路製作、（77 内藤啓貴、48 鈴木哲仁／3回）データサイエンス解析実習。	オムニバス 共同（一部）
簿記会計演習II	簿記会計演習Ⅰの学習内容、すなわち社会一般で用いられる財務・会計の概念を理解し、貸借対照表と損益計算書の意義、資産・負債・資本（純資産）・収益・費用の概念を応用し、これらを通じて日商簿記検定2-３級程度の簿記会計能力を習得することを目標とする。そのために、簿記会計と財務分析の具体的手法の解説・演習を行う。	
バイオマス化学	森林資源、竹、稲わらなどは、資源量豊かな再生可能資源であり、「バイオマス資源」として、燃料や石油代替化学原料として期待されている。まず前半で、石油、石炭、天然ガス等と植物資源の違い、バイオマスの種類、発熱量、バイオマス発電、バイオマスの熱利用などについて説明する。後半では、現在の石油化学工業の原料をバイオマスに転換する「バイオリファイナリー」のコンセプトや、それを具現化するバイオマス成分分離技術、植物から作りうる製品などについても講義する。	

かんがい排水学	河川を中心に、最大利水者である農業部門（水田灌漑、畑地灌漑）の用水量算定方法などについて講義する。また、水利施設と水管理組織についての基礎についても講義する。	
土質力学	基礎土質力学の講義に基づいて、数学、自然科学に関する知識を応用して理解し、地域の生活環境を豊かに創造、保全するための知識と技術の基礎を習得することを目的にする。	
農村計画学	農山村地域は、かつて食料や資源、エネルギーの上流域だった。しかしながら、今日、この位置関係は逆転し農業・農村のもつ多面的機能が十分に発揮されなくなってきている。そこで、農山村地域の持続が都市域の安定・安全な暮らしの基盤となっていることを理解し、これらが法制度のもと計画・実施されていることを学修する。	
地球環境リモートセンシング	㉖モートセンシングは地球上の様々な事象を空間的に可視化し、自然・社会現象の分布や、時間変化を把握することができる測定技術ある。また、それらのデータを複合させることで、自然科学から社会科学を学際的につないで関係性を理解することも可能になり、情報ツールとしての重要性も飛躍的に高まっている。本授業では、人工衛星で展開されている様々なセンサー、観測手法によるリモートセンシングの原理と、そのデータを理解し、地理情報システム（Geographic Information System）と組み合わせることで、どのような空間情報解析が可能になるかを講義する。	
土壌圏物質移動論	土中の水分・溶質移動について、汎用プログラムHYDRUSを用いてシミュレーションを行い、不飽和土中の物質移動の理解を深める。また、課題を発表することにより、プレゼンテーションの技術を身につける。	
農業工学キャリアアップ演習	農業土木学において必要な農業土木系技術の実践的内容を材料として授業を行う。農業農村地域に発生する問題・課題・解決策がどのような経緯・手法で実施されたかを解説する。これらの話題をもとにして、受講生の斬新なアイデアを引き出し、「問題解決法を考えること」を期待する。 そのための手段として、「地域の自然環境と人間活動の共生」に着目し、自然環境を維持しながら人間活動を発展させていくために必要な知識・技術や能力を得て生かすためのトレーニングを行う。	
水理実験	基礎水理学および水理学で学んだ内容について、実際に実験してデータを解析することにより理解を深める。流れの性質・分類から始め、基礎的な水理量の測定、支配方程式を用いた各種解析へと進み、流れ場における物質収支までを扱う。 （オムニバス形式/全15回） （47 近藤雅秋/7回）管水路の流れの性質とレイノルズ数、管水路の流量測定、管水路の摩擦抵抗、堤体浸透、揚水試験、揚水試験の解析 （202 藤山　宗/8回）開水路流れの分類、オリフィス、ピトー管を用いた流速測定、三角ゼキによる流量測定、開水路の流量測定、不等流水面形の数値計算、レーザ変位計を用いた粗度係数計測	オムニバス
農村ワークショップ運営実習	農業農村工学の実践の場では、農家、水土里ネット、行政、建設コンサルタンツ、ゼネコンなど多様な主体と意見を調整しながら物事を進めていく場面が多々ある。多くの人の意見をまとめるための手法としてワークショップが用いられる。この講義は、ワークショップ運営力を身に付けるための演習を主体とする。 （オムニバス形式/全15回） （46 森本英嗣/8回）地域における地域資源の活用法に関するワークショップ案、環境教育教材作成 （356 野村廉士/7回）ワークショップ実践と理論	オムニバス
CAD実習	製図の基礎とCADの基本操作を解説する。また、代表的なCADシステムにより土木製図に関する実習を行い、対象物の位置や形を図面上に正しく表現するための方法を解説する。さらに、土木構造物の設計の演習を通じて土木構造物への理解や関心を高める。	
材料・加工学	製品の製造に必要な材料の種類・選定法・特性、材料を加工する各種加工法について、その特徴・原理・設備を広く対象に取り上げて、生態系に優しい加工技術の採用に役立つ視点から解説をする。教科書に書かれている内容に関連し広く応用的に解説する。	
設計製図学Ⅱ	具体的な機械装置の設計および3Dモデリング課題に取り組む。設計に必要な知識・技術・情報を自ら学び、アイデアや創造性を発揮して具体的な機械を創造していくプロセスを体験する。	
設計製図学演習	機械システムを構成する基本的要素の設計法から機械設計の応用法について講述すると共に、演習を通じて実際の設計問題を解決する能力を身につけさせ、機械系の技術者としての基礎的素養を養わせることを目的とする。	
生物情報工学	農業食料工学分野ならびに生物情報工学分野で、人間、動物、植物などの生物情報を各種センサを使って取得する方法、取得した情報を処理して特徴量を計算する方法について説明する。具体的には、加速度センサやマイクを使った信号処理、カメラを使った画像処理、分光光度計を使った成分分析について取り扱う。 （オムニバス形式/全15回） （13 森尾吉成/8回）加速度センサーやマイクを用いた信号処理・高速フーリエ変換 （31 福島崇志/7回）生体情報モニタリング・物性計測のための時系列解析。	オムニバス
電子計測学	環境の測定に必要な物理量の測定や電気信号の変換と処理に重点を置いて講述する。単位と標準、誤差、検出と信号変換、測定系の構成と特性など基礎的事項、環境に関係する諸量の測定原理と方法、測定信号の処理方法を解説し農産物の非破壊計測について言及する。	隔年
エネルギー利用学	枯渇する化石燃料に代わる新たなエネルギーを開発することは急務である。本講義は、現在のエネルギー事情を踏まえて、再生可能なエネルギーである自然エネルギーについて、その利用技術、変換技術およびメカニズムについて解説する。	
農業食料工学実験	環境情報システム工学講座で教授される種々の理論について実際に実験を行うことによって、取得したデータを処理・解析するための知識やスキルを身に付けるとともに、結果を考察をし報告書にまとめるスキルを身に付ける。 （オムニバス形式/全16回） （13 森尾吉成／3回）実験ガイダンス、レポート作成方法、データ取得・解析方法の説明、色の計測実験、（48 鈴木哲仁／2回）農産物・食品の光学物性計測実験、（31 福島崇志／2回）農産物の物性計測実験、生体センシング実験（77 内藤啓貴／3回）、（333 王　秀崙／2回)エンジン回転数の計測実験、（76 滝沢憲治／3回)メタン発酵のモニタリング実験。	オムニバス 共同（一部）

将来気候予測論	過去と現在の地球の気候がいかなるプロセスで変動し、未来の地球はどうなるのか？そして人類はそれにどう対処すべきか？我々人類はその答えをまだ得ていない。これが21世紀の我々の前に立ちはだかる地球環境問題とそれに連関するエネルギー問題である。人為がない場合の気候変動は、大気と海洋そして固体地球との、いわば地球内の相互作用と、太陽活動の変化や隕石の衝突など地球外の影響で短期そして長期に気候が変化している。気候変動の理解と人類の未来へむけた持続的発展のために、気象学・気候力学・海洋気候学・地球システム進化学、未来地球システム学学を融合させ、これら地球の現在過去未来の気候システムの解明と、人類の対応について最先端の研究事例を交え講義を行う。	
フィールド科学技術実習	野外研究活動における水棲生物の基礎的な生物サンプリング技術として、採集道具の種類、扱い方の他、目的生物の発見と捕獲に至るまでの過程について学ぶ実習を行う。フィールドは水産実験所および上浜キャンパス周辺の干潟、磯、砂浜等の沿岸域を主とする。また、野外研究活動を安全に実施するため、野外研究活動に適した装備、道具の種類と扱い方、危険生物、地形や天候の把握、事故やトラブルに対する対応、関係法令、安全管理、危機管理の方法を学ぶ。	共同
資源生物学実験	本実験では魚類、軟体動物、節足動物、棘皮動物、環形動物といった水生生物における各分類群について、初期発生実験、解剖を用いた形態観察、環境反応を中心とした生理実験などを行い、水生生物の発生、生理、形態、分類生態について基礎的理解を深めると共に基礎的な実験技術の習得を目的とする。また、得られたデータを元に簡単な統計解析を行い、生物統計の使い方を理解する。	共同
海洋動物学実験	海洋動物は多様な分類学的及び生態学的な側面を持っている。海洋動物学実験では底生生物学の講義と連動し、海洋動物の分類学的および生態学的な特徴について実際の海洋動物を通じて学ぶ。地域の砂浜や干潟に実際に出かけ、主体的に他の受講者と協力しながら動物や環境の調査や観察を行い、データを解析し、科学的な論述や発表の方法を学ぶ。	共同
海洋植物学実験	植物プランクトンと海藻およびそれらに関連する生物群の多数の代表的な種類を使って、種の同定、生活史、さらには生理生態について主として顕微鏡を駆使した実験を行う。実験に用いるフィールド試料は三重県の伊勢湾や隣接する海域の身近なものを使用し、「地域を学ぶ」実習とする。 （オムニバス方式／全15回） （62 倉島 彰／8回）海藻および海産種子植物の観察手法や同定方法、海藻の基礎的な培養方法を習得する。 （24 石川 輝／7回）海洋植物プランクトンの観察手法や同定方法、増殖速度を求める方法を習得する。	オムニバス
海洋生物生理学実習	解剖、組織、遺伝子実験などで良好な結果を取得するには、フィールドで採集した生物標本が新鮮な状態のときに、適切な処理を行い、適切な試薬に保存する必要がある。本実習では勢水丸に3泊4日で乗船し、大型漁具を用いて生物採集を行い、標本の計測、解剖、組織・器官の摘出、固定・保存等の方法を学ぶ。また、海洋観測の基本であるCTD観測を実施して環境項目の鉛直プロファイルを解析することにより、生物の生息分布と環境との関係を考察する。同時に、船上での安全管理やモラル、フィールドにおける協働作業の意義を体得する。乗船前には実験室で必要な器具・試薬の準備を行い、試薬の取り扱いや調整方法についても習得する。	
海洋情報学実習	海洋環境を情報通信技術（ICT）を使ってデータ化するために必要な基礎技術を養う実習科目である。IoT機器とセンサを組み合わせた環境計測装置を電子工作などを織り交ぜて作成し、計測原理やIoT機器の特徴を学ぶ。また、モニタリングデータを送受信する仕組みを実装することで、情報通信を利用した海洋環境モニタリングのシステム構成を理解する。これら環境のデジタル化プロセスを学習することで、海洋や漁業におけるICTの基礎を理解する。加えて、持続可能な海洋環境・水産業を実現するのために、ICTの果たす役割や重要性を認識する。	共同
海洋気象数値解析演習	海洋環境とそれに連関する気象の状態は数値データによって表される。よってこれらの過去と現在を理解し、これらにまつわる諸問題を解決するには、適切に数値データを扱う能力が必要である。本演習では、海洋環境および気象に関連する数値データの基礎的な取り扱いや可視化などの手法の習得を目標とする。さらに、これまでの講義で学習した内容を数値データに基づき、実感できることを目標とする。	
漁業生産学	日本は世界でも有数の水産国であり、様々な漁法により水産生物が漁獲されている。本講義では農林水産省・海面漁業生産統計調査・漁業種別の分類に基づいて、網漁業および釣漁業に焦点を絞り、これら各種漁業の①生産量の推移、②漁場と漁獲対象種、ならびに各漁法における③漁具の種類や仕組み、④操業方法、⑤漁獲過程を解説するとともに、⑤については漁具に対する魚の行動についても講述する。	
魚類増殖学	魚類の増殖に関する概念や原理に加え、魚類増殖の歴史的発展過程を含む現状や問題点、魚類増殖に必要な技術や理論について解説する。漁業を中心とした水産業が水圏生態系におよぼしている影響について認識し、適切な魚類資源の増殖・管理に向けた提言を行い、実行できるようになる。魚類増殖の意義や必要性について理解するとともに、現状と問題点について理解できるようになる。また、主要な対象種の増殖の手法と成立過程および現状について理解できるようになる。	
栽培漁業学	拡大する食糧需要に対して、いわゆる水産増養殖の果たすべき役割は非常に大きくなっている。この講義では、水産増養殖の一つの方策である栽培漁業を理解することを目的とし、水圏の涵養力をもたらす浅海域の生物に関する知識や、各地で行われている種苗生産の状況等について学修する。種苗生産の対象として、また種苗生産の構成要素として、浅海域の生態系を構築している生物の特徴やヒトとの関わりを理解する。また、種苗生産技術に関わる生体制御機構についての基本的知識を身につける。これらを通じ、栽培漁業の現状を認識するとともに、改善点を思案することができるようになることを目的とする。	
水族病理学	増養殖魚介類に発生して大きな被害を引き起こす各種病害の原因と特徴および魚介類の生体防御機構について講義するとともに、病害の予防と治療に有効な対策について増養殖現場における事例を交えて紹介する。増養殖における病害の発生機構と魚介類の生体防御機構に関する知識に基づいて、病害防除の原理とその対策手法の概要を理解する。増養殖魚介類の病害とその防除に関する基礎的知識を修得し、魚類防疫の重要性を認識する。	
養殖学	水産物の供給において重要性を増している養殖に係る基礎的知識の習得を目的とし、水産重要魚介類を対象に養殖の理論、技術、社会的意義について説明する。 （オムニバス方式/全15回） （30 松田浩一/5回）水産養殖の歴史や現状、課題を概説するとともに、魚類養殖を中心に養殖方法、飼餌料、環境等養殖技術の基本について解説 （345 筒井努/5回）三重県で開発され発展してきた真珠養殖を中心に貝類養殖の技術や漁場環境、品質管理、課題等を解説 （27 河村功一/5回）内水面と海面における水産重要魚種を対象に遺伝育種学の理論と実践等の基礎的事項について解説	オムニバス

繁殖生理学	水圏動物を対象とした繁殖生理学の基礎的講義である。代表的な種における外部および内部生殖器や生殖腺の構造、配偶子形成過程、生殖腺の発達過程、ならびに繁殖を制御する神経系や内分泌系に関する基礎的事項等を解説する。これにより、同じ水中で生活する動物群間における繁殖システムの多様性や、根底にある共通性を理解できるようになる。 （オムニバス方式/全15回） （28 筒井直昭/8回）魚類と無脊椎動物に関する内容を担当する。 （65 船坂徳子/7回）海生哺乳類とその他の一部の水生脊椎動物に関する内容を担当する。	オムニバス
大気海洋科学	海洋物理学や大気海洋相互作用をテーマとし、主に海洋の基本的現象（混合層、水温躍層、表層や深層の水温、塩分等の水平・鉛直分布、海流、風浪とうねり、潮汐、海洋循環（風成循環、熱塩循環）、ENSO等の大気海洋相互作用、等）を解説する。	
水圏環境生物学	沿岸域を中心とした水圏環境の時空間的な特徴と生物生産との関係について基礎的な知識を解説する。水圏環境の変動や生態系の構造と海洋資源生物の年級群水準決定機構との関係について、過去から最新の理論までを紹介し変動する生物資源を安定的に管理するための資源管理方策や栽培漁業について講述する。さらに、沿岸域の生物生産に対する陸域の影響、および海岸の人為的改変の影響についてもとりあげる。環境と生物生産について、沿岸域から陸域に至るまで、その時空間変動や相互の影響について理解する。	集中
水族病理学実験	代表的な魚病微生物（ウイルス、細菌等）と魚類を用いて、水族病理学に関する基礎的な実験を行う。水族病理学に関する基礎的な実験の理論と手法を体得する。魚病微生物を取り扱うための基本的な知識と操作法を理解し、実験器具の取扱いに慣れるとともに、魚病を理解するために必要な実験方法の基礎を修得する。	
魚類種苗育成学実習	魚類種苗について、卵管理、孵化仔魚の取り扱いから初期餌料の給餌を経て幼魚に至るまでの育成過程を体験的に学修する。主として温水性淡水魚（金魚等）を使用し、屋外水槽という閉鎖的環境で魚類を学生自らが飼育し、水質の測定と管理を行うことにより、魚類の種苗育成および増養殖技術を体験的に習得する。また、小生態系である飼育水槽における水質変動や魚類の成長・生残を解析することにより、水圏生態系の物質循環や養殖を始めとする人間活動が生態系に与える影響を体験的に学修する。 これにより、魚類の代表的種苗育成技術について理解するとともに、種苗生産・育成現場や養殖現場における環境負荷などの影響について体験的に理解し、他の分野に応用できるようになる。魚類増養殖業における代表的理論と基礎的技術の一部を自ら対象生物を扱って体験することにより、その作業手順と意義を理解するとともに、魚類養殖場の現場についての認識を高める。	集中
藻類学実習	三重県の志摩半島周辺には、サガラメ、カジメ、ホンダワラ類からなる東海地方随一の藻場が広がっている。また、ワカメやノリ、ヒトエグサなど有用海藻の養殖も盛んな地域である。これらの海藻は三重県の沿岸環境、水産業、文化と密接な関わりを持つ。この実習では生物資源学部附属水産実験所と鳥羽市水産研究所を利用することで、海藻の生育環境や養殖場を実地に学ぶ。海藻の生育環境の観察、海藻の採集と分類、有用海藻の増養殖に関する実験を通して、大型藻類・藻場と環境や水産業との関わりについて理解を深める。	集中
浅海増殖学実習	真珠産業が盛んな鳥羽市にある附帯施設水産実験所において、真珠形成のメカニズムを生物学的見地から理解する目的で、解剖によりアコヤガイの体の構造を理解し、実際に真珠挿核手術を施す。また、伊勢湾の重要資源である甲殻類の生産を生物学的見地から理解するため、三重県で種苗生産されているクルマエビの行動観察や解剖を行う。この実習を通じて、水産資源の活用の重要性を認識できる能力を身につけることを目指す。真珠挿核に必要な知識と技術を習得することを通じて真珠養殖過程を理解できるようになることを目的とする。また、真珠の品質や利用加工に関連する知識や知識を習得する。栽培漁業学で学修した、二枚貝類や甲殻類の生産に必要な技術の確認もおこなう。	集中
生物海洋学実習	海の育んだ生物資源を学ぶためには、環境場としての海洋の特性や系内で起きている仕組みを良く理解しておく必要がある。実際に練習船「勢水丸」の航海に自ら乗船し、沿岸・外洋での海洋観測および各種試料の採集・観察を通して自然と対峙することにより、如何に現場の生物が海洋の物理・化学的環境要因と密接に関係しているのかを深く理解する。また、フィールドとして三重県の伊勢湾や隣接する遠州灘外洋域を観測し、「地域を学ぶ」実習となる。	集中
総合航海実習	勢水丸に乗船し、多種多様な漁具（カイト式LCネット、イカ手釣りなど）での試験操業と海洋観測を実施する。採集試料は、種同定、体長・重量計測を行い、そのデータは集計・整理し資源解析試料とする。総合的にフィールドでの水産学を学ぶことを目指す。	共同 集中
水産情報利用学	社会実装が本格化しつつある情報通信技術（ICT）を活用した水産業を主題とし、様々な手法を用いた漁業情報の収集・解析とデータ利活用に関する基礎を学ぶ。海域の環境計測から沿岸での養殖業などへのデータ利用の実例を交えて講義する。スマート水産業の社会実装と生産から流通、消費までをデジタル化で一貫するデジタルトランスフォーメーション（DX）について解説する。	
海洋気象学	気象は風、熱輸送、降水などを通じて海洋環境の形成と変動とに寄与する。さらに海における人間活動にも多大な影響を及ぼす。本講義では海洋に関係の深い気象現象についての実態を把握し、そのメカニズムについて理解できることを目標とする。特に、海洋の風成循環を駆動する大気大循環、強風や大雨をもたらす温帯低気圧、台風、竜巻、積乱雲、さらに視界不良の原因となる霧について解説する。	
動物分類学	最新の分子生物学的知見を基に動物界の分類体系について説明すると共に海綿動物から脊椎動物に至る主要分類群について形態、発生、生理、生態の観点から網羅的解説を行い、各分類群の生物学的特徴を理解する。これにより、動物界を構成する主要分類群について分類、形態、遺伝、生理、生態における基礎的知識を修得する。	
海洋生物感覚生理学	三重県は閉鎖性の強い伊勢湾、狭い湾や入り江が複雑に入り組んだ志摩半島、日本有数の深海底をもつ熊野灘と、様々な表情の「海」を抱くほか、紀伊半島沖は黒潮大蛇行という特異な海洋現象が起こる場所でもある。このため、三重県では多種多様な海水魚に接することができる。海水魚が生息する「海」の中の環境は陸上よりもはるかに複雑であり、そこに生息する魚類の感覚器官は種ごとに異なる特徴を持っている。魚が水中の光、音や振動、化学物質などの外界情報をどのように受容し、神経系を通じて中枢に伝搬・処理しているのか、各種感覚器官の特徴的構造や機能、ならびに情報伝播経路を学ぶ。これらの学修を通じて、魚の感覚と種特異的な行動生態との関連を考えるとともに、互いに意見を交換し議論を深める。	
水産物流通論	水産物流通の基本的枠組を理解するために必要とする基礎知識（商流・物流・情報流の概念、流通機構、物流システム、流通経路、卸売市場、流通コスト、中食・外食市場、企業行動、企業戦略、開発輸入、消費者志向、流通政策など）について講義する。この講義を通じて、学生に現行の水産物流通システムに対する理解を深めると同時に、今日の食料問題、食の「安全・安心」に関する諸問題をフードシステム学の視点から捉える能力を養うことを目的とする。	

魚類種苗生産学実習	魚類の種苗生産に関する技術の実際を体験的に学修する。主として冷水魚（ニジマス等）を対象として東京海洋大学大泉ステーションを利用して実施する。これにより以下の知識と技術を体得する。 ・重要な水産資源であるマス類の増養殖技術を体験的に修得する。 ・魚類の養殖が水質に与える影響を実測を基に体験的に修得する。 ・サケ科魚類の精子の運動性について、実験を基に体験的に修得する。 ・サケ科魚類の外部形態および内部構造について、解剖して体験的に修得する。 これにより、魚類の代表的種苗生産技術について理解するとともに、種苗生産や養殖現場における環境負荷などの影響について体験的に理解し、他の分野に応用できるようになる。魚類増養殖業における代表的理論と基礎的技術の一部を自ら対象生物を扱って体験することにより、その作業手順と意義を理解するとともに、魚類養殖場の現場についての認識を高める。	共同 集中
水産物流通調査実習	市場調査の方法論の学習と産地市場あるいは消費地卸売市場のフィールド調査を行う。授業の前半では、講義形式で、調査票の作成、調査により得られた情報の整理と分析方法について学習する。後半では、学生各自の問題意識と課題設定に基づき、市場調査計画の立案、調査票の作成、流通現場でのヒアリング調査と調査結果のとりまとめを行う。調査実習を通じて、学生には、水産物流通、乃至漁村地域社会が抱える課題を人々とのコミュニケーションにより主体的に把握することができる能力と考える力を養成する。	集中
海洋生態学実習	海洋動物は多様な分類学的及び生態学的な側面を持ち、浅海から深海の環境に適応している。本実習では練習船勢水丸に乗船し、洋上で海洋動物の採集を行い、同時に水質などの海洋環境を観測する。採集された動物から分類学的、生態学的データを収集し、環境データと併せて解析を実施することにより、海洋生態学の調査手法を実践的に身につける。この実習は底生生物学の講義や海洋動物学実験と連動しており、主体的に他の受講者と協力しながら地域の海洋動物や環境の調査を行い、データを解析し、科学的な論述の方法を学ぶ。	集中
漁業生産学実習	伊勢湾・熊野灘において、はえ縄操業および小型底びき網操業を体験することにより、釣り・網漁業に関する漁具や操業過程について理解を深めるとともに、伊勢湾や周辺海域の水産資源量を調査する。また環境マルチプロファイラーなどの海洋観測機器を使用した観測を行うことで、物理的な環境要因の地形的特徴、時間的変化、気象と海況との関連、内湾と外洋の特徴などを把握し、生息する水産生物の分布との関連を考察する。	集中
海洋科学実習	授業の概要：実際の練習船への乗船及び海洋観測機器の操作を通じて、船内生活及び海洋調査の基本を体験し、観測データ等から現場の海洋環境を分析、把握する。	集中
大気海洋循環学実習	本講義は対面授業に加え、実験室もしくは練習船における実習を基本とし、必要に応じてオンライン授業も併用する。本講義では、海洋学基礎、海洋物理学、海洋気象学で習得した基礎知識をもとに、観測・実験データに関する初歩的な解析ができるようになることを目的とする。さらに解析に必要となる基礎理論を理解し、計算の手続きを計算機上で実装できるようになることを目的とする。データの取得方法に関する実習から始め、解析に必要な基礎理論に習熟するための演習、データ解析のための計算手続きの計算機への実装、および結果の可視化に関する実習を行う。	集中
海生哺乳動物学実習	鯨類研究における基礎的な手法である骨格計測および個体識別法を体験的に学び、鯨類研究の基礎的研究手法を身につけるとともに、講義で学ぶ鯨類の基礎的な知識を体験的に理解する。実際に鯨類を対象とした研究を体験することで、鯨類に関する正しい知識を身につけ、より深く理解できるようになる。また、得られたデータを解析し考察できるようになる。	共同 集中
無機化学	無機化合物について理解するため、原子と分子に関する基礎的事項を解説した後、生物圏における主たる無機化学反応（酸塩基反応、酸化還元反応、錯形成反応）について、生物体内における化学反応等を例示しつつ説明する。これらの基礎知識を元に、生物資源学部の様々な研究室で用いられる分析機器（吸光度計、金属分析機器等）の測定原理について理解を深める他、「単位」や「測定誤差」など分析化学の基礎についても学習する。	
生物無機化学	まず「化学」の基礎である無機化学を理解するために、元素の誕生、原子・分子の構造、溶液化学、錯体などについて概説する。その後、生体内での各無機元素の役割と機能、無機元素の循環と生命機能の関わりを解説する。また発展内容として、バイオミネラリゼーションなど生物無機化学分野の研究もいくつか紹介する。	
環境化学概論	環境科学は、「大気・水・土壌・生物などの自然環境と人間とのかかわりを科学的に探究する学問分野（荒木　峻、環境科学辞典、東京化学同人）」といわれ、対象が極めて広い。ここでは、環境汚染と資源循環に焦点をあて、主に化学の視点から大気環境、水質環境、土壌環境、食糧、放射能、廃棄・循環などを解説する。	
食品衛生学	食中毒・食品添加物など、従来の食品衛生事項の他に、BSE、ノロウイルス、高病原性鳥インフルエンザウイルス、食品衛生法違反事例や食品衛生行政における食の安全に対する取り組みなど、最近の話題も含め多角的に講義する。そして食品衛生のスペシャリストとして最低限必要な知識を身につける。	
土壌学	科学的観点から環境や農業における土壌の機能について学習する。土壌の生成、分類について学習し、土壌の基本的な物理・化学・生物性の理解を通じて土壌の多面的な機能を知る。さらに森林、水田、畑の性質の異なる土壌について理解を深め、さらに土壌を取り巻く現状や問題点、土砂災害についても講義する。	
生体代謝化学	食品中に含まれる各種成分の生体内における消化、吸収、代謝および作用機序を理解し、機能性食品などの製品開発およびその評価を行うために基盤となる代謝学の知識および考え方を学修する。本講義では、まず代謝過程の基本要素である酵素および一連の酵素反応により形成される代謝経路に関して理解を図る。次いで各種食品成分の吸収、代謝機構ならびに機能性成分の代謝、作用機序に関する知識を習得する。本講義により、生命の維持に必須である「代謝」の基礎知識を習得するとともに、主要な食品成分の吸収、代謝機構ならびに機能性成分の作用機序を理解する。さらに、食品成分の機能評価においては、常に生体内における代謝と代謝型を考慮する必要が有ることを理解する。	
食品工学	食品加工プロセスは、加熱、冷却、乾燥などといった単位操作を有機的に組み合わせることによって構成されている。そこで、食品加工の原理と方法、とりわけ移動現象論の概念について概観し、食品加工プロセスを構成する重要な加工方法（単位操作）やその解析方法の基礎事項について学習する。また、この講義を通じて、食品加工プロセスにおける単位操作の定量的かつ速度論的な基礎を身につけることを目指す。	
植物栄養学	自然界における大きな物質循環の一つに、土壌と大気に含まれる無機物を植物が吸収し、有機物を作り出す作用がある。植物における物質の吸収と配分、光合成、各種元素の役割を理解したうえで、食料生産における施肥の重要性を学習する。光合成と窒素同化による炭素・窒素の取り込みと、糖質、脂質、タンパク質の合成と代謝について学ぶほか、各元素がなぜ植物にとって必要かを具体例を挙げて説明する。また化学肥料と有機質肥料、堆肥の基礎について学習し、農業に必要な施肥の基本について学ぶ。	

		食品安全化学	食品の安全につながる品質および衛生管理には、冷凍冷蔵の理論および技術が必要となる。本講義では冷凍食品業界の動向をモデルに加工食品の原材料から製造技術・管理を中心に実用技術を解説し、食品工場における実際の管理について事例を基に説明する。また、食品の安全性について消費者とのコミュニケーション（リスクコミュニケーション）について解説する。	隔年
		生物プロセス工学	食品・農産物加工に関わる経験をもとに、農産物の付加価値を高めるためにその品質を保持・向上する取り組みについて学習する。また、農産物に関わるプロセスの基礎を身につけることを目指す。そして、生鮮農産物や農産加工品が、どのようなプロセスを経て店頭に並んでいるかを知ることにより、それらを生産する立場や支援する立場となった時に、付加価値向上方法を考えられる素地を形成する。さらに、農産物の生産、加工、流通などに関わる生物プロセスの基礎知識を身につけることにより、生物プロセスに関して論理的に理解する。	
		生命機能化学実習	実験実習を通じて食品製造技術の基礎知識の習得、大学生レベルのレポート記述法の習得、科学的な思考ができるようになる。また、見学を通じてものづくりを実現する会社の活動が理解できるようになる。	
		公衆衛生学	人々を疾病から守る事を目的とし、健康の増進や発育などについての日本の現状と将来について講義を行う。さらに、環境因子による発がんや老化促進機構の最新のトピックスについても分子生物学や医学の面から講義する。具体的には、健康の増進や発達などについて日本の現状、環境問題や発がん、老化などについて最新の情報、環境と健康問題に関する分子生物学と医学などについて教授する。これらの学習を通じて健康の意義を学習し、環境因子が健康に与える影響の評価能力を養い、食品衛生管理者として必要な基礎知識を身に着ける。	
	自由科目	実践英語演習	指定の基準を満たした資格・検定試験の結果の申請により単位を認める。	
		職業指導Ⅰ	（農業）職業の意義を知り、望ましい職業選択や職業における自己実現を図る方策を学習する。また、職業指導はキャリア教育であり、高校生へのキャリア教育の現状から、正しい職業観の形成とともに人生の生き方を考える。	
		職業指導Ⅱ	（水産）職業指導の意義と理論を踏まえ、専門高校の現場で「進路指導」を行うに当たって必要な基礎的な知識と技術について、実際に使用されている資料などを活用して講義を行う。	

国立大学法人三重大学　設置認可等に関わる組織の移行表

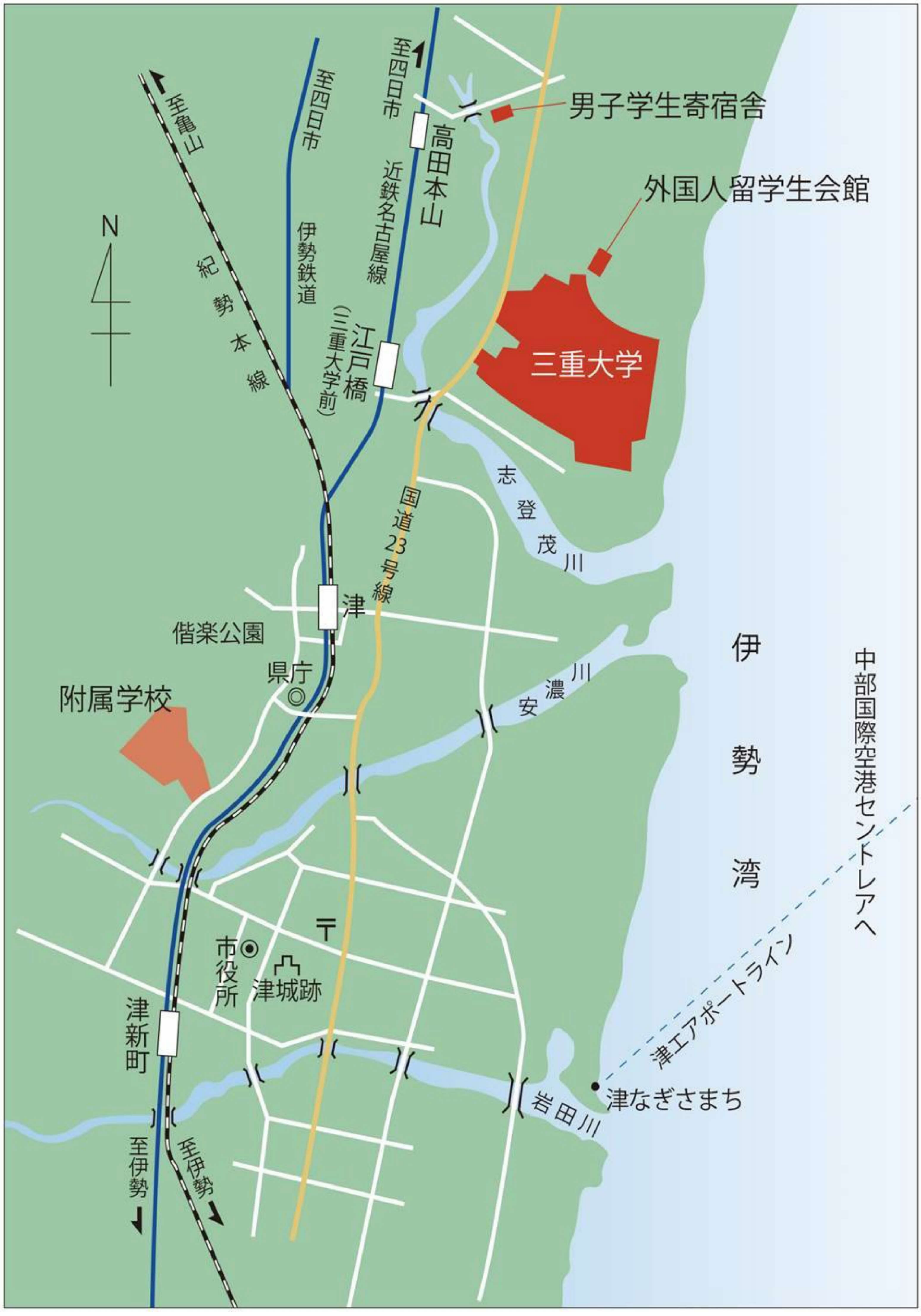
令和5年度	入学定員	編入学定員	収容定員		令和6年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
三重大学				→	三重大学				
人文学部		3年次			人文学部		3年次		
文化学科	92	10	388		文化学科	92	10	388	
法律経済学科	153	20	652		法律経済学科	153	20	652	
教育学部					教育学部				
学校教育教員養成課程	200	―	800		学校教育教員養成課程	200	―	800	
医学部					医学部				
医学科	125	―	650		医学科	105	―	630	臨時定員増終了による定員変更のため
看護学科	80	10	340		看護学科	80	10	340	
工学部					工学部				
総合工学科	400	30	1660		総合工学科	400	30	1660	
生物資源学部					生物資源学部				
					生物資源学科	260	10	1060	学科の設置（認可又は届出）
資源循環学科	70	3	286			0	0	0	令和6年4月学生募集停止（3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止）
共生環境学科	70	3	286			0	0	0	令和6年4月学生募集停止（3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止）
生物圏生命化学科	80	2	324			0	0	0	令和6年4月学生募集停止（3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止）
海洋生物資源学科	40	2	164			0	0	0	令和6年4月学生募集停止（3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止）
計	1,310	80	5,550		計	1,290	80	5,530	
三重大学大学院					三重大学大学院				
人文社会科学研究科					人文社会科学研究科				
地域文化論専攻(M)	8	―	16		地域文化論専攻(M)	8	―	16	
社会科学専攻(M)	7	―	14		社会科学専攻(M)	7	―	14	
教育学研究科					教育学研究科				
教職実践高度化専攻(P)	25	―	50		教職実践高度化専攻(P)	25	―	50	
医学系研究科					医学系研究科				
医科学専攻(M)	12	―	24		医科学専攻(M)	12	―	24	
看護学専攻(M)	11	―	22		看護学専攻(M)	11	―	22	
看護学専攻(D)	3	―	9		看護学専攻(D)	3	―	9	
生命医科学専攻(D)(4年制)	45	―	180		生命医科学専攻(D)(4年制)	45	―	180	
工学研究科					工学研究科				
機械工学専攻(M)	55	―	110		機械工学専攻(M)	55	―	110	
電気電子工学専攻(M)	55	―	110	→	電気電子工学専攻(M)	55	―	110	
応用化学専攻(M)	56	―	112		応用化学専攻(M)	56	―	112	
建築学専攻(M)	20	―	40		建築学専攻(M)	20	―	40	
情報工学専攻(M)	30	―	60		情報工学専攻(M)	30	―	60	
材料科学専攻(D)	6		18		材料科学専攻(D)	6	―	18	
システム工学専攻(D)	10		30		システム工学専攻(D)	10	―	30	
生物資源学研究科					生物資源学研究科				
資源循環学専攻(M)	23	―	46		資源循環学専攻(M)	23	―	46	
共生環境学専攻(M)	26	―	52		共生環境学専攻(M)	26	―	52	
生物圏生命科学専攻(M)	39	―	78		生物圏生命科学専攻(M)	39	―	78	
資源循環学専攻(D)	4	―	12		資源循環学専攻(D)	4	―	12	
共生環境学専攻(D)	4	―	12		共生環境学専攻(D)	4	―	12	
生物圏生命科学専攻(D)	4	―	12		生物圏生命科学専攻(D)	4	―	12	
地域イノベーション学研究科					地域イノベーション学研究科				
地域イノベーション学専攻(M)	15	―	30		地域イノベーション学専攻(M)	15	―	30	
地域イノベーション学専攻(D)	6	―	18		地域イノベーション学専攻(D)	6	―	18	
計	464		1,055		計	464		1,055	

位置図

■三重県内

N
岐阜県
愛知県
至名古屋
滋賀県
附属紀伊・黒潮生命地域
フィールドサイエンスセンター
四日市
京都府
至奈良
関西本線
亀山
近鉄湯の山線
鈴鹿川口駅所
附帯施設農場
三重大学
伊勢湾
附属学校
津
実習船基地
近畿大阪線
中川
至大阪
名松線
松阪
近鉄山田線
附帯施設水産実験所
参宮線
伊勢奥津
多気
伊勢
鳥羽
紀勢本線
附帯施設演習林
奈良県
英虞湾
賢島
和具
熊野灘
至和歌山

■津市内


至亀山
至四日市
至四日市
高田本山
近鉄名古屋線
男子学生寄宿舎
外国人留学生会館
N
伊勢鉄道
紀勢本線
江戸橋
(三重大学前)
三重大学
志登茂川
国道23号線
津
偕楽公園
県庁
附属学校
伊勢湾
中部国際空港セントレアへ
濃安川
市役所
津城跡
津新町
津エアポートライン
津なぎさまち
岩田川
至伊勢
至伊勢

津駅から

津駅東口バスのりば「4番」から三重交通バスで、「白塚駅」（06系統）、「三重病院」（51系統）、「椋本（むくもと）」（52系統）、「豊が丘」（52系統）、「サイエンスシティ」（52系統）、「東豊野」（53系統）、「高田高校前」（56系統）行きで、「三重大学前」下車。（附属病院、医学部、工学部へは「大学病院前」下車。）

津駅からタクシーで約10分

江戸橋駅（三重大学前）から

徒歩で約15分（近鉄電車「特急」は停車しません。バス停やタクシー乗り場がないため、基本的に徒歩で大学へお越しいただくことになります。）

中部国際空港（セントレア）から

津エアポートライン（船）で津なぎさまちへ45分

「津なぎさまち」から三重交通バスで「津駅前」まで約15分

「津なぎさまち」からタクシーで三重大学まで約15分

上 浜 団 地 配 置 図

0 50 100 150 200m

S=1/4,000

○国立大学法人三重大学学則（案）

（平成 16 年 4 月 16 日学則第 1 号）

目次

第 1 章　総則(第 1 条・第 1 条の 2)
第 2 章　大学の構成(第 2 条－第 32 条)
第 3 章　修業年限，在学期間，学年，学期及び休業日(第 33 条－第 38 条)
第 4 章　入学，休学，退学，転学，除籍及び賞罰(第 39 条－第 58 条)
第 5 章　教育課程及び教育職員免許(第 59 条－第 71 条)
第 6 章　卒業要件及び学位(第 72 条・第 73 条)
第 7 章　授業料等(第 74 条－第 87 条)
第 8 章　専攻生(第 88 条－第 94 条)
第 9 章　科目等履修生(第 95 条－第 101 条)
第 10 章　特別聴講学生(第 102 条－第 104 条)
第 11 章　研究生(第 105 条－第 112 条)
第 12 章　委託生(第 113 条－第 115 条)
第 13 章　公開講座及び市民開放授業(第 116 条・第 116 条の 2)
第 14 章　厚生保健(第 117 条－第 120 条)
附則

第 1 章　総則

(目的)

第 1 条　本学は，広く教養を与え，専門の学芸を教授研究し，科学及び技術の発展に努め，真理と正義を愛する人格を形成するとともに，人類の普遍的かつ地域の諸特性に応じた福祉と文化の進展に貢献することを目的とする。

第 1 条の 2　学部，学科又は課程ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は，各学部において，別に定める。

第 2 章　大学の構成

(学部，学科，課程及び収容定員)

第 2 条　本学に次の学部及び学科又は課程を置く。

人文学部	文化学科
	法律経済学科
教育学部	学校教育教員養成課程
医学部	医学科
	看護学科
工学部	総合工学科
生物資源学部	生物資源学科

2　前項の各学部に置く学科及び課程の収容定員は，次のとおりとする。

学部	学科・課程	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
人文学部	文化学科	92	10	388
	法律経済学科	153	20	652
教育学部	学校教育教員養成課程	200		800
医学部	医学科	105		630
	看護学科	80	10	340
工学部	総合工学科	400	30	1660
生物資源学部	生物資源学科	260	10	1060

3　学科及び課程に，教育・研究上の目的を達成するための教員組織として，講座又は学科目を置く。

4　講座及び学科目に関し必要な事項は，別に定める。

（大学院）

第3条　本学に大学院を置く。

2　大学院に関し必要な事項は，別に定める。

第4条　削除

（機構）

第5条　本学に次の機構を置く。

高等教育デザイン・推進機構
学生総合支援機構
情報教育・研究機構
みえの未来図共創機構
研究基盤推進機構

2　機構に関し必要な事項は，別に定める。

（地域拠点サテライト）

第5条の2　本学に地域拠点サテライトを置く。

2　地域拠点サテライトに関し必要な事項は，別に定める。

（情報ライブラリーセンター）

第6条　情報教育・研究機構に情報ライブラリーセンターを置く。

2　情報ライブラリーセンターに関し必要な事項は，別に定める。

（附属病院）

第7条　医学部に附属病院を置く。

2　附属病院に関し必要な事項は，別に定める。

（学内共同教育研究施設）

第8条　本学に次の学内共同教育研究施設を置く。

リカレント教育センター
国際交流センター
国際環境教育研究センター

2　学内共同教育研究施設に関し必要な事項は，別に定める。

（保健管理センター）

第 9 条　本学に保健管理センターを置く。
2　保健管理センターに関し必要な事項は，別に定める。
（学部附属の教育研究施設）
第 10 条　本学に次の学部附属の教育研究施設を置く。
教育学部　教職支援センター
2　学部附属の教育研究施設に関し必要な事項は，別に定める。
（附属学校）
第 11 条　教育学部に次の附属学校を置く。
附属幼稚園，附属小学校，附属中学校，附属特別支援学校
2　附属学校に関し必要な事項は，別に定める。
第 12 条　削除
（事務組織）
第 13 条　本学に事務組織を置く。
2　事務組織に関し必要な事項は，別に定める。
（寄附講座等及び連携講座等）
第 14 条　学部，学部に置く学科及び課程並びに研究科，研究科に置く専攻その他本学に附属又は学部に附属する組織に，寄附講座及び寄附研究部門（以下「寄附講座等」という。）並びに産学官連携講座及び産学官連携研究部門（以下「連携講座等」という。）を設けることができる。
2　寄附講座等及び連携講座等に関し必要な事項は，別に定める。
（役員及び職員の種類）
第 15 条　本学の役員及び職員の種類は，次のとおりとする。
(1)　役員
学長
理事
監事
(2)　職員
教授
准教授
講師
助教
助手
校長
園長
教頭
主幹教諭
教諭
養護教諭
栄養教諭

教務職員
事務職員
技術職員
技能職員
医療職員
船員

(副学長)

第16条　本学に副学長を置き，本学の理事又は教授をもって充てる。

2　前項の規定にかかわらず，学長が特に必要と認める場合は，理事又は教授以外の者をもって充てることができる。

(学部長等)

第17条　各学部に学部長を置き，当該学部(教育学部にあっては，教育学研究科を含む。)の教授をもって充てる。

2　前項の規定にかかわらず，医学部，工学部及び生物資源学部にあっては，当該学部を基礎とする研究科の長をもって充てる。

(副学部長等)

第18条　各学部に副学部長を置き，当該学部(教育学部にあっては，教育学研究科を含む。)の教授をもって充てる。

2　前項の規定にかかわらず，医学部，工学部及び生物資源学部にあっては，当該学部を基礎とする研究科の副研究科長をもって充てる。

(学科長等)

第18条の2　各学科に学科長を置き，当該学科の教授をもって充てる。

2　前項の規定にかかわらず，医学部の各学科にあっては，医学系研究科の教授を，工学部の学科にあっては，工学研究科の教授を，生物資源学部の学科にあっては，生物資源学研究科の教授をもって充てる。

(機構長)

第18条の3　各機構に機構長を置き，本学の理事又は副学長をもって充てる。

(地域拠点サテライト統括者)

第18条の4　地域拠点サテライトに統括者を置き，学長又は理事をもって充てる。

(情報ライブラリーセンター長)

第19条　情報ライブラリーセンターにセンター長を置き，本学の理事，副学長又は特命副学長をもって充てる。

(病院長)

第20条　附属病院に病院長を置く。

(副病院長)

第21条　附属病院に副病院長を置く。

(学内共同教育研究施設の長)

第22条　各学内共同教育研究施設に長を置き，本学の理事，副学長，教授又は准教授をもって充てる。

（保健管理センター所長）
第 23 条　保健管理センターに所長を置き，本学の教授又は准教授をもって充てる。
（学部附属の教育研究施設の長）
第 24 条　学部附属の教育研究施設に長を置き，当該学部（教育学部にあっては，教育学研究科を含む。）の教授又は准教授をもって充てる。
第 25 条及び第 26 条　削除
（役員会）
第 27 条　本学に役員会を置く。
2　役員会に関し必要な事項は，別に定める。
（学長選考・監察会議）
第 28 条　本学に学長選考・監察会議を置く。
2　学長選考・監察会議に関し必要な事項は，別に定める。
（経営協議会）
第 29 条　本学に経営協議会を置く。
2　経営協議会に関し必要な事項は，別に定める。
（教育研究評議会）
第 30 条　本学に教育研究評議会を置く。
2　教育研究評議会に関し必要な事項は，別に定める。
（委員会等）
第 31 条　本学に管理運営，教育研究に関する事項を審議する組織として，委員会その他必要な組織（以下「委員会等」という。）を置くことができる。
（教授会）
第 32 条　各学部に教授会を置く。
2　教授会に関し必要な事項は，別に定める。

第 3 章　修業年限，在学期間，学年，学期及び休業日

（修業年限）
第 33 条　学部の修業年限は，4 年とする。ただし，医学部医学科の修業年限は，6 年とする。
（在学期間の限度）
第 34 条　在学期間は，修業年限の 2 倍の年数を超えることができない。
2　前項の規定にかかわらず，第 46 条第 1 項から第 3 項までの規定により入学した者及び第 47 条第 1 項の規定により入学を許可された者（以下「編入学者等」という。）は，それぞれ第 46 条第 5 項及び第 47 条第 3 項の規定により定められた在学すべき年数の 2 倍の年数を超えて在学することはできない。
（長期にわたる教育課程の履修）
第 35 条　学生が，職業を有している等の事情により，第 33 条に規定する修業年限を超えて計画的に教育課程を履修し卒業する旨を申し出たときは，その計画的な履修（以下「長期履修」という。）を認めることができる。
2　長期履修の期間は，入学時から通算して 8 年以内とする。
3　長期履修の在学期間は，入学時から通算して 12 年を超えることができない。

4　長期履修に関し必要な事項は，別に定める。

(学年)

第 36 条　学年は，4 月 1 日に始まり，翌年 3 月 31 日に終わる。

(学期)

第 37 条　学年を分けて，次の 2 学期とする。

前期　4 月 1 日から 9 月 30 日まで

後期　10 月 1 日から翌年 3 月 31 日まで

(休業日)

第 38 条　休業日は，次のとおりとする。

日曜日，土曜日及び国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に定める休日

春季休業　4 月 1 日から 4 月 10 日まで

夏季休業　8 月 1 日から 9 月 30 日まで

冬季休業　12 月 21 日から翌年 1 月 10 日まで

2　学長は，必要により前項の休業日を変更し，又は休業日の期間中においても授業，実験，実習を課することがある。

3　臨時休業日は，学長がその都度定める。

第 4 章　入学，休学，退学，転学，除籍及び賞罰

(入学の時期)

第 39 条　学生の入学時期は，学年の始めとする。ただし，学年の途中においても，学期の区分に従い，学生を入学させることができる。

(入学資格)

第 40 条　本学に入学することのできる者は，次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1)　高等学校又は中等教育学校を卒業した者

(2)　通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外により，これに相当する学校教育を修了した者

(3)　外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

(4)　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5)　専修学校の高等課程(修業年限が 3 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(6)　文部科学大臣の指定した者

(7)　高等学校卒業程度認定試験規則(平成 17 年文部科学省令第 1 号)による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(同規則附則第 2 条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程(昭和 26 年文部省令第 13 号。以下「旧規程」という。)による大学入学資格検定(以下「旧検定」という。)に合格した者を含む。)

(8)　学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)第 90 条第 2 項の規定により大学に入学した者であって，本学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの

(9)　本学において，個別の入学資格審査により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，18 歳に達したもの

2　前項の規定にかかわらず，次の各号のいずれかに該当する者であって，特に優れた資質を有すると認めるものを，入学させることができる。

(1)　高等学校に 2 年以上在学した者

(2)　中等教育学校の後期課程，高等専門学校又は特別支援学校(学校教育法等の一部を改正する法律(平成 18 年法律第 80 号)第 1 条の規定による改正前の学校教育法第 1 条に規定する盲学校，聾学校又は養護学校を含む。)の高等部に 2 年以上在学した者

(3)　外国において，学校教育における 9 年の課程に引き続く学校教育の課程に 2 年以上在学した者

(4)　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設(高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定したものを含む。)の当該課程に 2 年以上在学した者

(5)　前項第 5 号の規定により文部科学大臣が別に指定する専修学校の高等課程に同号に規定する文部科学大臣が定める日以後において 2 年以上在学した者

(6)　文部科学大臣が指定した者

(7)　高等学校卒業程度認定試験規則第 4 条に定める試験科目の全部(試験の免除を受けた試験科目を除く。)について合格点を得た者(旧規程第 4 条に規定する受検科目の全部(旧検定の一部免除を受けた者については，その免除を受けた科目を除く。)について合格点を得た者を含む。)で，17 歳に達したもの

(入学志願手続)

第 41 条　入学を志願する者は，入学願書に検定料並びに別に指定する書類を添えて提出しなければならない。

(入学者の選考)

第 42 条　入学志願者については，選考の上，当該学部教授会の議を経て，学長が合格者を決定する。

2　入学者の選考に関しては，別に定める。

(入学手続)

第 43 条　前条の選考に合格した者は，所定の期日までに，誓約書その他指定の書類を提出するとともに，入学料を納付しなければならない。

(入学許可)

第 44 条　学長は，前条の入学手続を終えた者に対し，入学を許可する。

2　第 86 条により入学料の免除又は徴収猶予を願い出た者の入学料に関しては，その免除願又は徴収猶予願の受理をもって入学手続を終えた者とみなし，入学を許可する。

(既納料の返還)

第 45 条　既納の検定料及び入学料は，返還しない。

2　前項の規定にかかわらず，第 41 条の規定に基づいて検定料を納付した者のうち，2 段階選抜における第 1 段階選抜で不合格となった者及び個別学力検査の出願受付後に大学入学共通テスト受験科目の不足等による出願無資格者であることが判明した者に対しては，検定料のうち別表第 1 に定める額を返還する。ただし，第 1 段階選抜において，出願書類のほかに学力検査等を実施する場合を除く。

3　学校推薦型選抜，総合型選抜，帰国生徒の特別選抜，社会人の特別選抜及び第 2 次募集の各選抜において，2 段階選抜を行った場合は，前項の規定を準用する。

4　前 2 項に規定するもののほか，大規模な風水害等の災害を受ける等やむを得ない事情があると学長が特に認めた場合は，既納の検定料相当額を返還することができる。

(3 年次編入学)

第 46 条　人文学部，工学部及び生物資源学部の 3 年次に編入学することのできる者は，次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1)　大学を卒業した者又は学校教育法第 104 条第 7 項の規定により学士の学位を授与された者

(2)　学校教育法施行規則(昭和 22 年文部省令第 11 号)附則第 7 条の規定による者

(3)　大学の 2 年課程修了者及び短期大学卒業者

(4)　外国の短期大学を卒業した者及び外国の短期大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を我が国において修了した者(学校教育法第 90 条第 1 項に規定する者に限る。)

(5)　高等専門学校，国立養護教諭養成所及び国立工業教員養成所のいずれかを卒業した者

(6)　学校教育法第 132 条の規定による専修学校の専門課程を修了した者

(7)　大学に 2 年以上在学し，所定の単位を修得した者

(8)　学校教育法第 58 条の 2 の規定による高等学校の専攻科の課程を修了した者

2　人文学部及び工学部の 3 年次に編入学することのできる者は，前項各号のいずれかに該当する者のほか，別に定める者とする。

3　医学部看護学科の 3 年次に編入学することのできる者は，次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1)　短期大学の看護に関する学科を卒業した者

(2)　学校教育法第 132 条の規定による専修学校の専門課程のうち看護に関する課程を修了した者

(3)　学校教育法第５８条の２の規定による高等学校の専攻科の課程のうち看護に関する課程を修了した者

4　編入学した者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱いについては，当該学部教授会の議を経て学部長が決定する。

5　編入学した者の在学すべき年数は，2年とする。

（再入学，転入学，編入学及び転学部）

第47条　学長は，次の各号のいずれかに該当する者につき欠員のある場合，入学又は転学部（以下「入学等」という。）を許可することがある。

(1)　本学を退学した者又は除籍された者で同一学部に再入学を志願するもの

(2)　他大学の学生で当該学部長又は学長の承認を得て本学に転入学を志願する者

(3)　我が国において，外国の大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程に在学する者（学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。）で本学に転入学を志願するもの

(4)　大学を卒業した者又は学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者で本学に編入学を志願するもの

(5)　学校教育法施行規則附則第7条の規定により，本学に編入学を志願する者

(6)　大学の2年課程修了者及び短期大学卒業者にして本学に編入学を志願する者

(7)　高等専門学校，国立養護教諭養成所及び国立工業教員養成所のいずれかを卒業した者で本学に編入学を志願するもの

(8)　学校教育法第132条の規定による専修学校の専門課程を修了した者で本学に編入学を志願するもの

(9)　外国の短期大学を卒業した者及び外国の短期大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を我が国において修了した者（学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。）で本学に編入学を志願するもの

(10)　学校教育法第58条の2の規定による高等学校の専攻科の課程を修了した者で本学に編入学を志願するもの

(11)　本学の学生で，転学部を志願する者

2　前項の規定により入学等を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱いについては，当該学部教授会の議を経て学部長が決定する。

3　第1項の規定により入学等を許可された者の在学すべき年数については，当該学部教授会の議を経て学長が決定する。

第48条　前2条の規定による入学志願者については，第41条から第45条までの規定を適用する。

（留学）

第49条　学生が，外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下同じ。）又は外国の短期大学に留学を志願する場合は，学長に願い出て，その許可を受けなければならない。

2　前項の場合，学長は，当該学部教授会の議を経てこれを許可する。

3　留学した期間は，第33条の修業年限に含まれるものとする。

（休学）

第 50 条　疾病又はその他の理由により 3 月以上修学することができない者は，休学願により，学長に願い出なければならない。この場合において，休学の理由が疾病であるときは，医師の診断書を添えるものとする。
2　前項の場合，学長は，当該学部教授会の議を経てこれを許可する。
3　疾病のため修学することが適当でないと認められる者については，学長は，当該学部教授会の議を経て，休学を命ずることができる。

(休学期間)

第 51 条　休学期間は，1 年以内とする。ただし，相当の理由がある場合は，引き続き休学することができる。
2　休学期間は，通算して修業年限(編入学者等にあっては，在学すべき年数とする。以下同じ。)の年数を超えることができない。ただし，特別の理由があり，学生の修学に支障がある場合は，この限りでない。
3　休学期間は，在学期間の年数に算入しない。

(復学)

第 52 条　休学期間が満了する場合又は休学期間中にその理由が消滅した場合は，復学願により，学長に願い出なければならない。この場合において，休学の理由が疾病であったときは，医師の診断書を添えるものとする。
2　前項の場合，学長は，当該学部教授会の議を経てこれを許可する。

(退学)

第 53 条　退学しようとする者は，退学願により，学長に願い出なければならない。
2　前項の場合，学長は，当該学部教授会の議を経てこれを許可する。

(転学)

第 54 条　学生が，転学しようとするときは，事由を詳記して学長に願い出て，その許可を受けなければならない。
2　前項の場合，学長は，当該学部教授会の議を経てこれを許可する。

(除籍)

第 55 条　学生が，次の各号のいずれかに該当する場合，学長は，当該学部教授会の議を経て除籍する。
(1)　長期間にわたり行方不明のとき。
(2)　第 34 条の規定に定める在学期間の限度を超えたとき。
(3)　第 51 条の規定に定める休学期間を超えてなお復学できないとき。
(4)　入学料の免除又は徴収猶予を願い出て，免除又は徴収猶予が不許可になった者又は一部の免除を許可された者で所定の期日までに，納付すべき入学料を納付しないとき。
(5)　授業料の納付を怠り督促を受けてもなお納付しないとき。

(表彰)

第 56 条　学生にして学業又はその行為が他の模範とするに足ると認めた者があるときは，学長は，当該学部教授会又は委員会等の議を経てこれを表彰することがある。

(懲戒)
第 57 条　学生が，本学の規則に違反し，又は学生としての本分に反する行為をしたときは，学長は，当該学部教授会の議を経てこれを懲戒する。
2　懲戒は，戒告，停学及び放学とする。ただし，放学は，次の各号のいずれかに該当する場合に限り命ずることがある。
(1)　学業を怠り成業の見込みのないとき。
(2)　性行不良で改善の見込みがないと認められたとき。
(3)　正当な理由なく出席常でないとき。
(4)　本学の秩序を乱し，その他学生の本分に反したとき。
(停学期間の取扱い)
第 58 条　停学期間が 2 か月以上に及ぶとき，その期間は，修業年限の年数に算入しない。
2　停学期間は，在学期間の年数に算入する。

第 5 章　教育課程及び教育職員免許

(教育課程の編成方針)
第 59 条　本学は，学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に基づき，必要な授業科目を自ら開設し，体系的に教育課程を編成する。
2　教育課程の編成に当たっては，本学は，学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに，幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い，豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮する。
(特別の課程の編成)
第 59 条の 2　本学は，前条に規定するもののほか，学校教育法第 105 条の規定に基づき，本学の学生以外の者を対象とした特別の課程を編成することができる。
2　前項の特別の課程の編成に関し必要な事項は，別に定める。
(授業科目)
第 59 条の 3　授業科目は，共通教育科目及び専門教育科目とする。
(授業科目等の特例)
第 60 条　外国人留学生(大学において教育を受ける目的をもって入国し，本学に入学した外国人留学生をいう。以下同じ。)の教育について必要があると認めるときは，前条に規定するもののほか，日本語科目及び日本事情に関する科目を開設することができる。
第 61 条　外国人留学生以外の学生で外国において相当の期間中等教育(中学校又は高等学校に対応する学校における教育をいう。)を受けたものの教育について必要があると認めるときは，前条の規定を準用する。
(単位の計算方法)
第 62 条　授業科目の単位の計算方法は，1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，第 64 条第 1 項に規定する授業の方法に応じ，当該授業による教育効果，授業時間外に必要な学修等を考慮して，次の基準によって計算する。

(1)　講義及び演習については，おおむね 15 時間から 30 時間までの範囲で，学部等が定める時間の授業をもって 1 単位とする。
(2)　実験，実習及び実技については，おおむね 30 時間から 45 時間までの範囲で，学部等が定める時間の授業をもって 1 単位とする。ただし，芸術等の分野における個人指導による実技の授業については，学部等が定める時間の授業をもって 1 単位とすることができる。
(3)　一の授業科目について，講義，演習，実験，実習又は実技のうち 2 以上の方法の併用により行う場合については，その組み合わせに応じ，前 2 号に規定する基準を考慮して学部等が定める時間の授業をもって 1 単位とする。

2　前項の規定にかかわらず，卒業研究等の授業科目については，これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には，これらに必要な学修等を考慮して，単位数を定めることができる。

(単位の授与)

第 63 条　授業科目を履修した学生に対しては，試験その他の学部等が定める適切な方法により学修の成果を評価し，合格した者に単位を与える。

(授業の方法)

第 64 条　授業は，講義，演習，実験，実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2　前項の授業は，文部科学大臣が定めるところにより，多様なメディアを高度に利用して，当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3　第 1 項の授業は，外国において履修させることができる。前項の規定により，多様なメディアを高度に利用して，当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても，同様とする。

(履修方法)

第 65 条　学部の授業科目，単位数，履修方法(履修科目登録単位数の上限設定を含む。)及び考査に関することは，学部規程でこれを定める。

2　前項に規定するもののほか，共通教育科目に関し必要な事項は，別に定める。

(他学部の授業科目の履修)

第 66 条　他学部の授業科目を履修しようとする者は，所属学部長を経て当該学部長の許可を受けなければならない。

(他の大学(専門職大学を含む。)又は短期大学における授業科目の履修等)

第 67 条　教育上有益と認めるときは，学生が別に定めるところにより他の大学(専門職大学を含む。以下同じ。)又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を，学部教授会の議を経て 60 単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　前項の規定は，学生が，第 49 条の規定により留学する場合，外国の大学又は外国の短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は外国の短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定する

ものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第68条　教育上有益と認めるときは，学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を，学部教授会の議を経て本学における授業科目の履修とみなし，単位を与えることができる。

2　前項により与えることができる単位数は，前条第1項及び第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(休学期間中の外国の大学等における修得単位の取扱い)

第68条の2　教育上有益と認めるときは，学生が休学期間中に外国の大学又は外国の短期大学において修得した単位について，第67条第1項の規定を準用する。

2　前項により修得したものとみなすことのできる単位数は，第67条第1項及び第2項並びに前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第69条　教育上有益と認めるときは，学生が本学に入学する前に大学(専門職大学を含む。)又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位(大学設置基準(昭和31年文部省令第28号)第31条第1項に規定する科目等履修生及び同条第2項に規定する特別の課程履修生(いずれも本学の学生以外の者に限る。)として修得した単位を含む。)を，学部教授会の議を経て本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　前項の規定は，第67条第2項の場合に準用する。

3　教育上有益と認めるときは，学生が本学に入学する前に行った第68条第1項に規定する学修を，学部教授会の議を経て本学における授業科目の履修とみなし，単位を与えることができる。

4　前3項の規定により修得したものとみなし，又は与えることのできる単位数は，第46条第4項及び第47条第2項に規定する場合を除き，本学において修得した単位以外のものについては，第67条第1項及び第2項並びに第68条第1項並びに前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前に一定の単位を修得した者の修業年限の通算)

第70条　学校教育法第88条に規定する修業年限の通算は，第59条の2に基づき編成された特別の課程の履修生又は第95条に規定する科目等履修生(いずれも本学の学生以外の者に限る。)として本学において一定の単位を修得した者に対し，前条第1項の規定により本学に入学した後に修得したものとみなすことのできる当該単位数，その修得に要した期間その他本学が必要と認める事項を勘案し，学部教授会の議を経て学長が決定する。

(成績評価基準等の明示等)

第 70 条の 2　本学は，学生に対して，授業の方法及び内容並びに 1 年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2　本学は，学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては，客観性及び厳格性を確保するため，学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに，当該基準にしたがって適切に行うものとする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第 70 条の 3　本学は，学生に対する教育の充実を図るため，授業の内容及び方法を改善するための組織的な研修及び研究を行うものとする。

(教育職員の免許)

第 71 条　教員の免許状を受けるための所要資格を取得しようとする者は，教育職員免許法(昭和 24 年法律第 147 号)及び教育職員免許法施行規則(昭和 29 年文部省令第 26 号)に定める所要の単位を修得しなければならない。

2　本学の学部の学科又は課程において，教員の免許状を受けるための所要資格を取得できる免許状の種類及び免許教科又は特別支援教育領域は，別表第 2 のとおりとする。

第 6 章　卒業要件及び学位

(卒業要件)

第 72 条　卒業要件は，第 33 条に規定する修業年限を満たし，学部規程で定める授業科目を履修し，所定の単位数を修得するものとする。ただし，本学(医学部医学科を除く。)に 3 年以上在学し，学校教育法第 89 条に規定する場合には，その卒業を認めることができる。

2　前項の規定により卒業要件として修得すべき単位数のうち，第 64 条第 2 項の授業の方法により修得する単位数は 60 単位を超えないものとする。ただし，124 単位を超える単位数を卒業要件としている場合は，同条第 1 項の授業の方法により 64 単位以上の修得がなされていれば，60 単位を超えることができる。

(学位)

第 73 条　卒業した者には，学士の学位を授与する。

2　学位について必要な事項は，本学学位規則の定めるところによる。

第 7 章　授業料等

(授業料，入学料及び検定料の額)

第 74 条　授業料，入学料及び検定料の額は，別表第 3 に定めるところによる。

(授業料の徴収方法)

第 75 条　授業料は，年額の 2 分の 1 ずつを次の 2 期に分けて納付しなければならない。

前期(4 月から 9 月まで)　　納期　4 月中

後期(10 月から翌年 3 月まで)　納期　10 月中

2　前項の規定にかかわらず，学生の申出があったときは，前期に係る授業料を徴収するときに，当該年度の後期に係る授業料を併せて徴収するものとする。

3　入学年度の前期又は前期及び後期に係る授業料については，第1項の規定にかかわらず，入学を許可される者の申出があったときは，入学を許可するときに徴収するものとする。
4　特別の理由のある者は，本人の願い出により，許可を得て，月割分納をすることができる。ただし，月割分納額は，年額の12分の1ずつを毎月5日までに納付しなければならない。
（長期履修を認められた者の授業料）
第76条　長期履修を認められた者の授業料の額及び徴収方法は，別に定めるところによる。
（転入学者等の授業料）
第77条　転入学，編入学及び再入学した者の授業料の額は，その者が転入学，編入学及び再入学した当該年次の在学者の額と同額とする。
（退学者等の授業料）
第78条　退学，除籍又は放学の場合は，その者の在学していた期までの授業料を納入しなければならない。
2　前項の規定にかかわらず第55条第5号の規定により除籍された者の未納の授業料は，これを免除する。
（休学者の授業料）
第79条　授業料納期限以前に休学を許可された者及び授業料の徴収猶予又は月割分納を許可された休学者については，月割計算により，休学許可当月の翌月から復学当月の前月までの授業料を免除する。
2　前項の規定に定める者以外の休学者は，その期の授業料を全額納入しなければならない。
（停学者の授業料）
第80条　停学を命ぜられた者については，その期間中の授業料は，これを納入しなければならない。
（授業料の免除及び徴収猶予）
第81条　学資の支弁が極めて困難と認められる学生に対しては，当該学年の授業料の全部又は一部を免除し，又は各学期末まで徴収を猶予することがある。
第82条　前条の規定により，授業料の免除又は納入猶予を受けようとする者は，事由を詳記した願書を当該学部長を経て学長に提出しなければならない。
第83条　授業料を免除された者で，その事由が止んだときは，翌月から月割でこれを納入しなければならない。
第84条　授業料を指定の日までに納入しないときは，これを催告し，なお，納入を怠る場合は，出席を停止する。
第85条　第81条から前条までに定めるもののほか，授業料の免除及び徴収猶予に関し必要な事項は，別に定める。
（授業料の不徴収）

第85条の2　第74条から第80条までの規定にかかわらず，学長が特に必要と認めた場合は，授業料を徴収しない。

（入学料の免除及び徴収猶予）

第86条　特別な事情により入学料の納付が著しく困難であると認められる者等に対しては，入学料の全部又は一部を免除し，又は徴収を猶予することがある。

2　入学料の免除及び徴収猶予に関し必要な事項は，別に定める。

（検定料の免除）

第86条の2　大規模な風水害等の災害を受ける等やむを得ない事情があると学長が特に認めた場合は，検定料を免除することができる。

（既納料の返還）

第87条　既納の授業料は，返還しない。ただし，前期に係る授業料を徴収するときに，後期に係る授業料を併せて納付した者が，後期に係る授業料徴収時期前に休学又は退学した場合には，納付した者の申出により後期に係る授業料相当額を返還する。

2　前項本文の規定にかかわらず，第75条第3項により徴収した授業料については，納付した者が入学年度の前年度の3月31日までに入学を辞退した場合は，納付した者の申出により当該授業料相当額を返還する。

3　第1項本文の規定にかかわらず，第75条第1項又は第2項により授業料を納付した者が，その後授業料納期限以前に休学を許可された場合は，納付した者の申出により第79条第1項の規定による当該授業料相当額を返還する。

4　第1項本文の規定にかかわらず，第75条第3項により徴収した授業料については，納付した者が入学年度の4月1日から休学を許可された場合は，納付した者の申出により月割計算により休学当月から復学当月の前月までの当該授業料相当額を返還する。

5　第1項本文の規定にかかわらず，第1項ただし書き及び前3項に規定するもののほか，学長が特に必要と認めた場合は，既納の授業料相当額を返還する。

第8章　専攻生

（入学許可）

第88条　学部の専門科目につき精深な程度において履修しようとする者があるときは，学長は，関係学部教授会の議を経た上，所定の手続を終えた者に対し，専攻生として入学を許可する。

（入学期，修業年限）

第89条　専攻生の入学期は，学年の始めとし，その修業年限は，1年以上とする。

（入学資格）

第90条　専攻生として入学することのできる者は，次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1)　大学を卒業した者

(2)　学校教育法施行規則第155条により大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

（検定料，入学料及び授業料）
第 91 条　専攻生の検定料，入学料及び授業料の額は，別表第 3 に定めるところによる。
2　授業料は，在学予定期間に応じ，3 か月分又は 6 か月分を当該期間における当初の月に納入するものとし，在学予定期間が 3 か月又は 6 か月未満であるときは，その期間分に相当する額を当該期間における当初の月に納入しなければならない。
（研究費の負担）
第 92 条　研究に要する費用は，専攻生の負担とすることがある。
（証明書の交付）
第 93 条　専攻生が，専攻科目につき証明を希望したときは，専攻証明書を交付する。
（準用規定）
第 94 条　本章に定めるものの外，第 4 章及び第 87 条の規定は，専攻生にもこれを準用する。

第 9 章　科目等履修生

（入学許可）
第 95 条　本学の学生以外の者で，一又は複数の授業科目を履修しようとする者があるときは，学長は，関係学部教授会の議を経て科目等履修生として入学を許可することがある。
（入学期）
第 96 条　科目等履修生の入学期は，毎学期の始めとする。ただし，特別の事情がある場合は，この限りでない。
（入学資格等）
第 97 条　科目等履修生の入学資格及び入学志願手続等については，別に定める。
第 98 条　削除
（検定料，入学料及び授業料）
第 99 条　科目等履修生の検定料，入学料及び授業料の額は，別表第 3 に定めるところによる。
（単位の授与，証明書の交付）
第 100 条　科目等履修生に対しては，第 63 条の規定を準用し，単位を与える。
2　前項の規定により授与された単位について，科目等履修生が証明を希望したときは，単位修得証明書を交付する。
（準用規定）
第 101 条　本章に定めるものの外，第 4 章，第 5 章及び第 87 条の規定は，科目等履修生にもこれを準用する。

第 10 章　特別聴講学生

（入学許可）
第 102 条　他の大学，短期大学若しくは高等専門学校又は外国の大学若しくは外国の短期大学（以下この条において「他大学等」という。）の学生で，本学の授業科目を履修することを志願する者があるときは，他大学等との協議に基づき，学長は，関係学部教授会の議を経て特別聴講学生として入学を許可することがある。

（検定料，入学料及び授業料）
第 103 条　特別聴講学生の検定料及び入学料は，徴収しない。
2　特別聴講学生の授業料については，第 99 条の規定を準用する。ただし，特別聴講学生が他の国立大学法人が設置する大学，大学間相互単位互換協定に基づき締結された公立若しくは私立の大学若しくは短期大学又は単位互換協定に基づき締結された高等専門学校の学生であるときは，これを徴収しないことができる。
3　前項に定めるもののほか，特別聴講学生が本学研究科附属の教育研究施設を利用する授業科目を履修する場合は，授業料を徴収しないことができる。
4　特別聴講学生が外国の大学又は外国の短期大学との大学間交流協定(部局等間交流協定を含む。)に基づき受け入れる外国人留学生である場合，その授業料の額は，当該大学間交流協定の定めるところによる。
（準用規定）
第 104 条　本章に定めるものの外，第 97 条，第 100 条及び第 101 条の規定は，特別聴講学生にもこれを準用する。

第 11 章　研究生

（入学許可）
第 105 条　学部において特殊事項について研究しようとする者があるときは，学長は，関係学部教授会の議を経て研究生として入学を許可することがある。
（入学期）
第 106 条　研究生の入学期は，毎学期の始めとする。ただし，特別の事情がある者は，この限りでない。
（入学資格）
第 107 条　研究生の入学資格その他に関しては，学部においてこれを定める。
（入学志願手続）
第 108 条　研究生として入学を志願する者は，入学願書に研究事項及び期間を記載し，履歴書及び検定料を添え，本学に提出しなければならない。
（検定料，入学料及び授業料）
第 109 条　研究生の検定料，入学料及び授業料の額は，別表第 3 に定めるところによる。
2　授業料は，在学予定期間に応じ，3 か月分又は 6 か月分を当該期間における当初の月に納入するものとし，在学予定期間が 3 か月又は 6 か月未満であるときは，その期間分に相当する額を当該期間における当初の月に納入しなければならない。
（研究費の負担）
第 110 条　研究に要する費用は，研究生の負担とする。
（証明書の交付）
第 111 条　研究生が研究事項につき，証明を希望したときは，研究証明書を交付する。
（準用規定）
第 112 条　本章に定めるものの外，第 4 章及び第 87 条の規定は，研究生にもこれを準用する。

第 12 章　委託生

（入学許可）

第 113 条　官庁又は公共団体から，履修科目或は研究事項を定め願い出る者があるときは，学長は，関係学部教授会の議を経て委託生として入学を許可することがある。

（証明書の交付）

第 114 条　委託生が，履修した科目又は研究事項につき，証明を希望したときは，証明書を交付する。

（準用規定）

第 115 条　本章に定めるものの外，第 4 章，第 5 章，第 87 条，第 99 条，第 100 条，第 108 条，第 109 条及び第 110 条の規定は，委託生にもこれを準用する。

第 13 章　公開講座及び市民開放授業

（公開講座）

第 116 条　本学は，必要に応じ，公開講座を行うことがある。

2　公開講座に関する事項は，別に定める。

（市民開放授業）

第 116 条の 2　本学は，市民開放授業を行うことがある。

2　市民開放授業に関する事項は，別に定める。

第 14 章　厚生保健

（寄宿舎）

第 117 条　本学に寄宿舎を置き，学生の希望者を入舎させる。

2　寄宿舎に関する規程は，別に定める。

（厚生保健施設）

第 118 条　本学に厚生保健に関する施設を置き，学生に利用させる。

（健康診断）

第 119 条　学生は，毎年 1 回所定の健康診断を受けなければならない。

2　学長は，学生の健康を管理し，必要に応じ，治療を命じ，又は登校を停止することがある。

（施設の利用）

第 120 条　学生は，本学の施設を利用しようとするときは，その許可を受けなければならない。

附　則

1　この学則は，平成 16 年 4 月 16 日から施行し，平成 16 年 4 月 1 日から適用する。

2　平成 15 年度以前の入学者は，第 2 条及び第 71 条の規定については，なお従前の例による。

3　平成 10 年度以前の入学者の授業料については，別表第 3 の規定にかかわらず，次の表により読み替えるものとする。

平成 5 年度・6 年度入学生	平成 7 年度・8 年度入学生	平成 9 年度・10 年度入学生
年額　411,600 円	年額　447,600 円	年額　469,200 円

附　則(平成 17 年 1 月 20 日学則)

この学則は，平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附　則(平成 17 年 2 月 24 日学則)

この学則は，平成 17 年 2 月 24 日から施行し，平成 16 年 10 月 1 日から適用する。

附　則(平成 17 年 2 月 24 日学則)

この学則は，平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附　則(平成 17 年 3 月 24 日学則)

この学則は，平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附　則(平成 17 年 3 月 29 日学則)

この学則は，平成 17 年 3 月 31 日から施行し，平成 17 年度授業料から適用する。

附　則(平成 17 年 5 月 12 日学則)

この学則は，平成 17 年 5 月 12 日から施行する。

附　則(平成 17 年 9 月 29 日学則)

この学則は，平成 17 年 10 月 1 日から施行する。

附　則(平成 17 年 12 月 22 日学則)

この学則は，平成 17 年 12 月 22 日から施行し，平成 17 年 4 月 1 日から適用する。

附　則(平成 18 年 3 月 23 日学則)

1　この学則は，平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の学則第 2 条第 2 項の規定にかかわらず，教育学部学校教育教員養成課程，情報教育課程及び生涯教育課程の収容定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科・課程	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
教育学部	学校教育教員養成課程	445	490	535
	情報教育課程	200	160	120
	生涯教育課程	75	70	65

附　則(平成 18 年 5 月 25 日学則)

この学則は，平成 18 年 5 月 25 日から施行する。

附　則(平成 18 年 9 月 28 日学則)

この学則は，平成 18 年 9 月 28 日から施行し，平成 18 年 4 月 1 日から適用する。

附　則(平成 18 年 11 月 24 日学則)

この学則は，平成 18 年 11 月 24 日から施行する。ただし，第 97 条及び第 98 条の改正規定は平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附　則(平成 19 年 3 月 29 日学則)

この学則は，平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附　則(平成 19 年 12 月 27 日学則)

この学則は，平成 19 年 12 月 27 日から施行し，平成 19 年 12 月 26 日から適用する。

附　則(平成 20 年 3 月 27 日学則)

1　この学則は，平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

2　この学則施行前の人文学部社会科学科(以下「従前の学科」という。)は，改正後の学則第 2 条第 1 項の規定にかかわらず，平成 20 年 3 月 31 日に従前の学科に在学する者(平成 20 年度及び平成 21 年度に当該学科に編入学する者を含む。)が在学しなくなるまでの間，存続するものとする。

3　改正後の学則第 2 条第 2 項の規定にかかわらず，平成 20 年度及び平成 21 年度における人文学部法律経済学科(以下「法律経済学科」という。)への 3 年次編入学については，従前の学科に編入学するものとし，法律経済学科及び医学部医学科の収容定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
人文学部	法律経済学科	165	330	515	―	―
医学部	医学科	610	620	630	640	650

4　平成 19 年度以前の入学者については，改正後の学則第 46 条第 5 項の規定にかかわらず，なお従前の例による。

附　則(平成 21 年 3 月 30 日学則)

1　この学則は，平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の学則第 2 条第 2 項の規定にかかわらず，医学部医学科の収容定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
医学部	医学科	630	650	670	690	710

附　則(平成 22 年 2 月 25 日学則)

1　この学則は，平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の学則第 2 条第 2 項の規定にかかわらず，医学部医学科の収容定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
医学部	医学科	655	680	705	730	745

3　平成 22 年 3 月 31 日に人文学部法律経済学科及び工学部に在学する者(以下「在学者」という。)並びに平成 22 年 4 月 1 日以降に在学者の属する年次に編入学等する者に係る教員の免許状を受けるための所要資格を取得できる免許状の種類及び免許教科は，改正後の学則別表第 2 の規定にかかわらず，なお従前の例による。

附　則(平成 23 年 2 月 24 日学則)

1　この学則は，平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

2　平成 23 年 3 月 31 日に教育学部に在学する者に係る教員の免許状を受けるための所要資格を取得できる免許状の種類及び免許教科は，改正後の学則別表第 2 の規定にかかわらず，なお従前の例による。

附　則(平成 23 年 12 月 22 日学則)

この学則は，平成 24 年 1 月 1 日から施行する。

附　則(平成 24 年 2 月 23 日学則)

1　この学則は，平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

2　平成 24 年 3 月 31 日に教育学部に在学する者に係る教員の免許状を受けるための所要資格を取得できる免許状の種類及び免許教科は，改正後の学則別表第 2 の規定にかかわらず，なお従前の例による。

附　則(平成 24 年 9 月 27 日学則)

この学則は，平成 24 年 9 月 27 日から施行する。

附　則(平成 25 年 2 月 28 日学則)

この学則は，平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附　則(平成 26 年 3 月 27 日学則)

1　この学則は，平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

2　この学則施行前の教育学部情報教育課程及び生涯教育課程（以下「従前の課程」という。）は，改正後の学則第 2 条第 1 項の規定にかかわらず，平成 26 年 3 月 31 日に従前の課程に在学する者が在学しなくなるまでの間，存続するものとする。

3　改正後の学則第 2 条第 2 項の規定にかかわらず，教育学部学校教育教員養成課程の収容定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科・課程	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
教育学部	学校教育教員養成課程	615	650	685

4　この学則施行前の特別支援教育特別専攻科（以下「従前の専攻科」という。）は，改正後の学則第 4 条の規定にかかわらず，平成 26 年 3 月 31 日に従前の専攻科に在学する者が在学しなくなるまでの間，存続するものとする。

5　平成 26 年 3 月 31 日に従前の課程に在学する者に係る教員の免許状を受けるための所要資格を取得できる免許状の種類及び免許教科は，改正後の学則別表第 2 の規定にかかわらず，なお従前の例による。

附　則(平成 26 年 9 月 30 日学則第 1 号)

1　この学則は，平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

2　平成 26 年度以前の入学者に係る授業科目は，改正後の学則第 59 条の 3 の規定にかかわらず，なお従前の例による。

附　則(平成 27 年 2 月 26 日学則第 1 号)

1　この学則は，平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の学則第 2 条第 2 項の規定にかかわらず，生物資源学部資源循環学科，共生環境学科及び生物圏生命科学科の収容定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科・課程	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
生物資源学部	資源循環学科	250	260	270
	共生環境学科	325	310	295
	生物圏生命科学科	385	390	395

附　則(平成 27 年 5 月 28 日学則第 1 号)

この学則は，平成 27 年 6 月 1 日から施行する。

附　則(平成 27 年 10 月 30 日学則)

この学則は，平成 27 年 11 月 1 日から施行する。

附　則(平成 28 年 3 月 24 日学則第 1 号)

1　この学則は，平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

2　この学則施行前の教育学部人間発達科学(以下「従前の課程」という。)は，改正後の学則第 2 条第 1 項の規定にかかわらず，平成 28 年 3 月 31 日に従前の課程に在学する者が在学しなくなるまでの間，存続するものとする。

3　改正後の学則第 2 条第 2 項の規定にかかわらず，教育学部学校教育教員養成課程の収容定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科・課程	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
教育学部	学校教育教員養成課程	705	760	780

附　則(平成 28 年 7 月 20 日学則第 1 号)

この学則は，平成 28 年 7 月 21 日から施行する。

附　則(平成 28 年 9 月 29 日学則第 1 号)

この学則は，平成 28 年 11 月 1 日から施行する。

附　則(平成 29 年 2 月 23 日学則)

1　この学則は，平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

2　この学則施行前の生物資源学部生物圏生命科学科(以下「従前の学科」という。)は，改正後の学則第 2 条第 1 項の規定にかかわらず，平成 29 年 3 月 31 日に従前の学科に在学する者(以下「在学者」という。)及び平成 29 年 4 月 1 日以降在学者の属する年次に編入学する者が在学しなくなるまでの間，存続するものとする。

3　改正後の学則第 2 条第 2 項の規定にかかわらず，平成 29 年度及び平成 30 年度における生物資源学部の 3 年次編入学による収容定員については，なお従前の例によるものとし，人文学部文化学科及び法律経済学科並びに生物資源学部資源循環学科，共生環境学科，生物圏生命化学科及び海洋生物資源学科の収容定員は，次の 2 表により読み替えるものとする。

学部	学科・課程	平成 29 年度
人文学部	文化学科	412
	法律経済学科	688
生物資源学部	生物圏生命化学科	80
	海洋生物資源学科	40

学部	学科・課程	平成 30 年度	平成 31 年度
人文学部	文化学科	404	396
	法律経済学科	676	664
生物資源学部	資源循環学科	280	283
	共生環境学科	280	283
	生物圏生命化学科	160	242
	海洋生物資源学科	80	122

4　在学者及び平成 29 年 4 月 1 日以降に在学者の属する年次に編入学する者に係る教員の免許状を受けるための所要資格を取得できる免許状の種類及び免許教科は，改正後の学則別表第 2 の規定にかかわらず，なお従前の例による。

附　則(平成 30 年 2 月 22 日学則第 1 号)

1　この学則は，平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の学則第 2 条第 2 項の規定にかかわらず，医学部医学科の入学定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	平成 30 年度	平成 31 年度
医学部	医学科	125	125

3　改正後の学則第 2 条第 2 項の規定にかかわらず，医学部医学科の収容定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	平成 30	平成 31	平成 32	平成 33	平成 34	平成 35	平成 36

		年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度
医学部	医学科	750	750	730	710	690	670	650

附　則(平成 30 年 6 月 28 日学則第 1 号)

この学則は，平成 30 年 7 月 1 日から施行する。

附　則(平成 31 年 2 月 28 日学則第 1 号)

1　この学則は，平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

2　この学則施行前の工学部機械工学科，電気電子工学科，分子素材工学科，建築学科，情報工学科及び物理工学科（以下「従前の学科」）という。）は，改正後の学則第 2 条第 1 項の規定にかかわらず，平成 31 年 3 月 31 日に従前の学科に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成 31 年 4 月 1 日以降在学者の属する年次に編入学する者が在学しなくなるまでの間，存続するものとする。

3　改正後の学則第 2 条第 2 項の規定にかかわらず，平成 31 年度及び平成 32 年度における工学部の 3 年次編入学による収容定員については，なお従前の例によるものとし，工学部総合工学科の収容定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
工学部	総合工学科	400	800	1230

附　則(平成 31 年 3 月 28 日学則第 1 号)

この学則は，平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附　則(令和 2 年 3 月 12 日学則第 1 号)

1　この学則は，令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の学則第 2 条第 2 項の規定にかかわらず，医学部医学科の入学定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	令和 2 年度	令和 3 年度
医学部	医学科	125	125

3　改正後の学則第 2 条第 2 項の規定にかかわらず，医学部医学科の収容定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
医学部	医学科	750	750	730	710	690	670	650

4　令和 2 年 3 月 31 日に工学部に在学する者に係る教員の免許状を受けるための所要資格を取得できる免許状の種類及び免許教科は，改正後の学則別表第 2 の規定にかかわらず，なお従前の例による。

附　則(令和 3 年 3 月 24 日学則第 1 号)

この学則は，令和3年4月1日から施行する。

附　則(令和4年3月24日学則第1号)

1　この学則は，令和4年4月1日から施行する。

2　改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず，医学部医学科の入学定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	令和4年度
医学部	医学科	125

3　改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず，医学部医学科の収容定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
医学部	医学科	750	730	710	690	670	650

附　則(令和4年6月28日学則第1号)

1　この学則は，令和5年4月1日から施行する。

2　令和5年3月31日に在学する者(以下「在学者」という。)及び令和5年4月1日以降に在学者の属する年次に編入学等する者に係る授業科目及び履修方法は，改正後の学則第59条の3及び第65条第2項の規定にかかわらず，なお従前の例による。

附　則(令和5年2月28日学則第1号)

1　この学則は，令和5年4月1日から施行する。

2　改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず，医学部医学科の入学定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	令和5年度
医学部	医学科	125

3　改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず，医学部医学科の収容定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
医学部	医学科	750	730	710	690	670	650

附　則

1　この学則は，令和6年4月1日から施行する。

2　この学則施行前の生物資源学部資源循環学科，共生環境学科，生物圏生命化学科及び海洋生物資源学科（以下「従前の学科」という。）は，改正後の学則第2条第1項の規定にかかわらず，令和6年3月31日に従前の学科に在学する者（以下

「在学者」という。）及び令和6年4月1日以降在学者の属する年次に編入学等する者が在学しなくなるまでの間，存続するものとする。

3　改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず，令和6年度及び令和7年度における生物資源学部の3年次編入学による収容定員については，なお従前の例によるものとし，生物資源学部生物資源学科の収容定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	令和6年度	令和7年度	令和8年度
生物資源学部	生物資源学科	260	520	790

4　在学者並びに令和6年4月1日以降に在学者の属する年次に編入学等する者に係る教員の免許状を受けるための所要資格を取得できる免許状の種類及び免許教科は，改正後の学則別表第2の規定にかかわらず，なお従前の例による。

別表第1(第45条関係)

返還額
13,000円

別表第2(第71条関係)

学部	学科・課程	免許状の種類	免許教科又は特別支援教育領域
人文学部	文化学科	中学校教諭一種免許状	国語，社会，英語
		高等学校教諭一種免許状	国語，地理歴史，公民，英語
教育学部	学校教育教員養成課程	幼稚園教諭一種免許状	
		小学校教諭一種免許状	
		中学校教諭一種免許状	国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，技術，家庭，英語
		高等学校教諭一種免許状	国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，保健体育，家庭，情報，工業，英語
		特別支援学校教諭一種免許状	知的障害者，肢体不自由者，病弱者
工学部	総合工学科	高等学校教諭一種免許状	工業
生物資源学部	生物資源学科	高等学校教諭一種免許状	理科，農業，水産

別表第3(第74条・第91条・第99条・第109条関係)

区分	授業料	入学料	検定料
学部学生	平成11年度以降の入学生 年額　535,800円	282,000円	17,000円
科目等履修生	1単位　14,800円	28,200円	9,800円
専攻生 研究生 委託生	月額　28,900円	84,600円	9,800円

国立大学法人三重大学学則の変更事項を記載した書類

１．　変更事由

本学生物資源学部における資源循環学科，共生環境学科，生物圏生命化学科及び海洋生物資源学科を廃止し，新たに，生物資源学科を設置することに伴い，所要の改正を行うものである。

２．　変更点

・生物資源学部の資源循環学科，共生環境学科，生物圏生命化学科及び海洋生物資源学科の学科及び収容定員を削る。
・生物資源学部に，生物資源学科を新設し，収容定員を規定する。
・学科数の減少に伴い，所要の文言修正を行う。
・生物資源学部の資源循環学科，共生環境学科，生物圏生命化学科及び海洋生物資源学科において取得可能な免許状の種類及び免許教科を削る。
・生物資源学部の生物資源学科において取得可能な免許状の種類及び免許教科を記載する。
・附則において，令和６年３月３１日における生物資源学部における資源循環学科，共生環境学科，生物圏生命化学科及び海洋生物資源学科は，当該学科に在学する学生及び令和６年３月３１日以降に在学者の属する年次に編入学等する者が存在しなくなるまでの間存続する旨を記載する。
・附則において，令和６年度及び令和７年度における生物資源学部の３年次編入学による収容定員については，従前の例によるものとする旨，並びに令和６年度，令和７年度及び令和８年度における生物資源学部生物資源学科の収容定員を規定する。
・附則において，在学者並びに令和６年３月３１日以降に在学者の属する年次に編入学等する者が取得できる免許状の種類及び免許教科は，従前の例によるものとする旨を記載する。

３．　施行日　令和６年４月１日

国立大学法人三重大学学則新旧対照表（案）

<table>
<tr><th>新</th><th>旧</th></tr>
<tr><td>（学部，学科，課程及び収容定員）
第２条　本学に次の学部及び学科又は課程を置く。
人文学部　文化学科
法律経済学科
教育学部　学校教育教員養成課程
医学部　医学科
看護学科
工学部　総合工学科
生物資源学部　（削る。）
（削る。）
（削る。）
（削る。）
生物資源学科
２　前項の各学部に置く学科及び課程の収容定員は，次のとおりとする。</td><td>（学部，学科，課程及び収容定員）
第２条　本学に次の学部及び学科又は課程を置く。
人文学部　文化学科
法律経済学科
教育学部　学校教育教員養成課程
医学部　医学科
看護学科
工学部　総合工学科
生物資源学部　資源循環学科
共生環境学科
生物圏生命化学科
海洋生物資源学科
（新設）
２　前項の各学部に置く学科及び課程の収容定員は，次のとおりとする。</td></tr>
</table>

学部	学科・課程	入学定員	３年次編入学定員	収容定員
人文学部	文化学科	９２	１０	３８８
	法律経済学科	１５３	２０	６５２
教育学部	学校教育教員養成課程	２００		８００
医学部	医学科	１０５		６３０
	看護学科	８０	１０	３４０
工学部	総合工学科	４００	３０	１６６０
生物資源学部	（削る。）	（削る。）	（削る。）	（削る。）
	（削る。）	（削る。）	（削る。）	（削る。）
	（削る。）	（削る。）	（削る。）	（削る。）

学部	学科・課程	入学定員	３年次編入学定員	収容定員
人文学部	文化学科	９２	１０	３８８
	法律経済学科	１５３	２０	６５２
教育学部	学校教育教員養成課程	２００		８００
医学部	医学科	１０５		６３０
	看護学科	８０	１０	３４０
工学部	総合工学科	４００	３０	１６６０
生物資源学部	資源循環学科	７０	3	２８６
	共生環境学科	７０	3	２８６
	生物圏生命化学科	８０	2	３２４

	（削る。）	（削る。）	（削る。）	（削る。）
	生物資源学科	２６０	１０	１０６０

３　（現行に同じ。）

４　（現行に同じ。）

（学科長等）

第１８条の２　（現行に同じ。）

２　前項の規定にかかわらず，医学部の各学科にあっては，医学系研究科の教授を，工学部の学科にあっては，工学研究科の教授を，生物資源学部の学科にあっては，生物資源学研究科の教授をもって充てる。

（教育職員の免許）

第７１条　（現行に同じ。）

２　（現行に同じ。）

別表第２（第７１条関係）

学部	学科・課程	免許状の種類	免許教科又は特別支援教育領域
人文学部	文化学科	中学校教諭一種免許状	国語，社会，英語
		高等学校教諭一種免許状	国語，地理歴史，公民，英語

	海洋生物資源学科	４０	２	１６４
	（新設）	（新設）	（新設）	（新設）

３　学科及び課程に，教育・研究上の目的を達成するための教員組織として，講座又は学科目を置く。

４　講座及び学科目に関し必要な事項は，別に定める。

（学科長等）

第１８条の２　各学科に学科長を置き，当該学科の教授をもって充てる。

２　前項の規定にかかわらず，医学部の各学科にあっては，医学系研究科の教授を，工学部の学科にあっては，工学研究科の教授を，生物資源学部の各学科にあっては，生物資源学研究科の教授をもって充てる。

（教育職員の免許）

第７１条　教員の免許状を受けるための所要資格を取得しようとする者は，教育職員免許法（昭和２４年法律第１４７号）及び教育職員免許法施行規則（昭和２９年文部省令第２６号）に定める所要の単位を修得しなければならない。

２　本学の学部の学科又は課程において，教員の免許状を受けるための所要資格を取得できる免許状の種類及び免許教科又は特別支援教育領域は，別表第２のとおりとする。

別表第２（第７１条関係）

学部	学科・課程	免許状の種類	免許教科又は特別支援教育領域
人文学部	文化学科	中学校教諭一種免許状	国語，社会，英語
		高等学校教諭一種免許状	国語，地理歴史，公民，英語

教育学部	学校教育教員養成課程	幼稚園教諭一種免許状	
		小学校教諭一種免許状	
		中学校教諭一種免許状	国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，技術，家庭，英語
		高等学校教諭一種免許状	国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，保健体育，家庭，情報，工業，英語
		特別支援学校教諭一種免許状	知的障害者，肢体不自由者，病弱者
工学部	総合工学科	高等学校教諭一種免許状	工業
生物資源学部	（削る。）		
	（削る。）		
	（削る。）		
	（削る。）		
	生物資源学科	高等学校教諭一種免許状	理科，農業，水産

教育学部	学校教育教員養成課程	幼稚園教諭一種免許状	
		小学校教諭一種免許状	
		中学校教諭一種免許状	国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，技術，家庭，英語
		高等学校教諭一種免許状	国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，保健体育，家庭，情報，工業，英語
		特別支援学校教諭一種免許状	知的障害者，肢体不自由者，病弱者
工学部	総合工学科	高等学校教諭一種免許状	工業
生物資源学部	資源循環学科	高等学校教諭一種免許状	理科，農業
	共生環境学科	高等学校教諭一種免許状	理科，農業
	生物圏生命化学科	高等学校教諭一種免許状	理科，農業
	海洋生物資源学科	高等学校教諭一種免許状	水産
	（新設）	（新設）	（新設）

附　則

１　この学則は，令和６年４月１日から施行する。

２　この学則施行前の生物資源学部資源循環学科，共生環境学科，生物圏生命化学科及び海洋生物資源学科（以下「従前の学科」という。）は，改正後の学則第２条第１項の規定にかかわらず，令和６年３月３１日に従前の学科に在学する者（以下「在学者」という。）及び令和６年４月１日以降在学者の属する年次に編入学等する者が在学しなくなるまでの間，存続するものとする。

３　改正後の学則第２条第２項の規定にかかわらず，令和６年度及び令和７年度における生物資源学部の３年次編入学による収容定員については，なお従前の例によるものとし，生物資源学部生物資源学科の収容定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	令和６年度	令和７年度	令和８年度
生物資源学部	生物資源学科	２６０	５２０	７９０

４　在学者並びに令和６年４月１日以降に在学者の属する年次に編入学等する者に係る教員の免許状を受けるための所要資格を取得できる免許状の種類及び免許教科は，改正後の学則別表第２の規定にかかわらず，なお従前の例による。

○三重大学教授会規程

（平成 16 年 4 月 16 日規程第 13 号）

改正 平成 17 年 3 月 24 日規程　平成 18 年 3 月 23 日規程
平成 18 年 5 月 18 日規程　平成 20 年 1 月 24 日規程
平成 21 年 3 月 30 日規程　平成 26 年 3 月 27 日規程
平成 27 年 3 月 26 日規程第 13 号　平成 28 年 3 月 30 日規程第 13 号
平成 29 年 2 月 23 日規程　平成 30 年 3 月 30 日規程第 13 号
令和 4 年 3 月 24 日規程第 13 号

（趣旨）

第 1 条　この規程は，国立大学法人三重大学学則第 32 条第 2 項及び三重大学大学院学則第 8 条第 3 項の規定に基づき，三重大学の教授会（以下「教授会」という。）に関し必要な事項を定める。

（任務）

第 2 条　教授会は，次に掲げる事項について，学長が決定を行うに当たり，審議し，意見を述べるものとする。

(1)　学生の入学，卒業及び課程の修了に関する事項

(2)　学位の授与に関する事項

(3)　教育課程の編成に関する事項

(4)　学生の再入学，転入学，編入学及び転学部に関する事項

2　教授会は，前項に規定するもののほか，別表に掲げる事項について審議する。また，学長，学部長又は研究科長の求めに応じ，意見を述べることができる。

3　前 2 項に規定する意見を述べる方法は，次のとおり取り扱うものとする。

(1)　文書（意見書・理由書を添付したもの）による上申

(2)　口頭による説明

（組織）

第 3 条　各学部に置かれる教授会（以下「学部教授会」という。）は，当該学部（教育学部にあっては，教育学研究科を，医学部にあっては，医学系研究科を含み，工学部及び生物資源学部にあっては，当該学部を基礎とする研究科とする。以下同じ。）の専任の教授をもって組織する。

2　各研究科に置かれる教授会（以下「研究科教授会」という。）は，当該研究科（医学系研究科にあっては，医学部を含む。以下同じ。）の専任の教授をもって組織する。

3　学部教授会には，当該学部の専任で第 1 項の職員以外の者を加えることができる。

4　研究科教授会には，当該研究科の専任で第 2 項の職員以外の者を加えることができる。ただし，審議事項によっては，当該研究科を担当する第 2 項の職員以外の者を加えることができる。

（議長）

第 4 条　教授会に議長を置き，学部教授会にあっては当該学部長を，研究科教授会にあっては当該研究科長をもって充てる。

2　議長は，教授会を主宰する。

3　議長に事故があるときは，あらかじめ議長が指名した教授が，その職務を代行する。

(会議)

第5条　教授会は，半数以上であって当該教授会が定める割合以上の構成員が出席しなければ，会議を開き，議決することができない。

2　教授会の議事は，出席構成員の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。ただし，特別の必要があると認められるときは，半数以上であって当該教授会の定める割合以上の多数をもって議決しなければならないとすることができる。

(構成員以外の者の出席)

第6条　教授会が必要と認めたときは，構成員以外の者を出席させ，意見又は説明を聴くことができる。

(代議員会等)

第7条　教授会は，当該教授会の定めるところにより，構成員の一部の者をもって組織される代議員会，専門委員会等(以下「代議員会等」という。)を置くことができる。

2　教授会は，当該教授会の定めるところにより，代議員会等の議決をもって，教授会の議決とすることができる。

3　代議員会等の組織及び運営に関し必要な事項は，当該教授会が別に定める。

(庶務)

第8条　教授会の庶務は，学部教授会にあっては当該学部の事務を所掌するチームにおいて，研究科教授会にあっては当該研究科又は当該研究科の基礎となる学部の事務を所掌するチーム(医学・病院管理部を含む。)において処理する。

(雑則)

第9条　この規程に定めるもののほか，教授会の運営に関し必要な事項は，当該教授会が別に定める。

附　則

この規程は，平成16年4月16日から施行し，平成16年4月1日から適用する。

附　則(平成17年3月24日規程)

この規程は，平成17年4月1日から施行する。

附　則(平成18年3月23日規程)

この規程は，平成18年4月1日から施行する。

附　則(平成18年5月18日規程)

この規程は，平成18年5月18日から施行し，平成18年4月1日から適用する。

附　則(平成20年1月24日規程)

この規程は，平成 20 年 1 月 24 日から施行する。

附　則(平成 21 年 3 月 30 日規程)

この規程は，平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附　則(平成 26 年 3 月 27 日規程)

この規程は，平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附　則(平成 27 年 3 月 26 日規程第 13 号)

この規程は，平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附　則(平成 28 年 3 月 30 日規程第 13 号)

この規程は，平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附　則(平成 29 年 2 月 23 日規程)

この規程は，平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附　則(平成 30 年 3 月 30 日規程第 13 号)

この規程は，平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附　則(令和 4 年 3 月 24 日規程第 13 号)

この規程は，令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

別表(第 2 条関係)

教授会の審議事項

区分	事項名
教育	学部・学科等又は研究科・専攻の設置及び改廃等に関する事項
	学部規程又は研究科規程の制定及び改廃に関する事項
	学生の懲戒に関する事項
	学生の休学，復学，退学，転学，除籍及び留学に関する事項
	再入学，転入学，編入学及び転学部を許可された者の既修得単位数等の取扱い及び在学すべき年数に関する事項
	他の大学・大学院又は短期大学で履修した授業科目の単位認定に関する事項
	大学以外の教育施設等における学修の単位認定に関する事項
	入学前の既修得単位及び学修の単位認定に関する事項
	入学前に一定の単位を修得した者の修業年限の通算に関する事項
	学位論文の審査及び最終試験に関する事項
	国費外国人留学生の選考に関する事項

	複数学位取得を目的とした大学間交流協定により入学した外国人留学生の入学前に修得した単位の認定に関する事項
	学生の表彰に関する事項（三重大学学業優秀学生表彰に関する取扱要項による表彰を含む。）
	専攻生，科目等履修生，研究生，特別聴講学生，特別研究学生及び委託生の入学許可等に関する事項
	教職課程の認定申請等に関する事項
	司書及び学芸員養成課程の認定申請等に関する事項
	看護師学校等指定申請に関する事項
研究	産学官連携講座及び産学官連携研究部門の設置申請に関する事項
	寄附講座及び寄附研究部門の設置申請に関する事項
	プロジェクト研究室の設置申請に関する事項
人事	評議員の選考に関する事項
	学部長，研究科長又は病院長の選考に関する事項
	学科長，専攻長又は院部門長の選考に関する事項
	学部・研究科附属の教育研究施設の長の選考に関する事項
	大学教員の選考に関する事項
	大学院担当教員の資格審査に関する事項
	特任教員の選考に関する事項
	外国人教師及び外国人研究員の選考に関する事項
	客員教授及び客員准教授の選考に関する事項
	連携教授及び連携准教授の選考に関する事項
	招へい教員の受入に関する事項
	附属学校園特別教員の選考に関する事項
	大学教員早期退職制度による退職の申出に関する事項
	大学教員のクロスアポイントメント制度の適用に関する事項
	大学教員のサバティカル制度利用の申出に関する事項
	名誉教授称号授与候補者の申出に関する事項
	名誉博士称号授与候補者の推薦に関する事項
―	その他学部・研究科等が必要と認めた教育研究に関する事項

○三重大学生物資源学部教授会内規

（平成 16 年 4 月 1 日内規第 484 号）

（設置）

第 1 条　この内規は，三重大学教授会規程第 8 条の規定に基づき，三重大学生物資源学部（以下「本学部」という。）の教授会の運営に関し必要な事項を定める。

（開催）

第 2 条　教授会は，原則として毎月 1 回開催する。ただし，特に必要と認めた場合は，臨時に開催することができる。

（学科長会議等）

第 3 条　教授会に学科長会議及び常置委員会を置く。ただし，教授会が必要と認めたときは，専門委員会を置くことができる。

2　学科長会議及び常置委員会については，別に定める。

（会議）

第 4 条　教授会は，構成員（海外渡航中の者，内地研究員，休職中の者及び病気休暇その他の事由により 1 か月以上不在の者を除く。）の 3 分の 2 以上の出席をもって成立する。

（幹事）

第 5 条　教授会に幹事を置き，事務長をもって充てる。

（改正）

第 6 条　この内規の改正は，教授会において出席の構成員の 3 分の 2 以上の同意を得なければならない。

（雑則）

第 7 条　この内規に定めるもののほか，必要な事項は教授会が別に定める。

附　則

この内規は，平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

目次

１．再編の趣旨及び必要性 p. 2
２．学部・学科の特色 p. 4
３．学科の名称及び学位の名称 p. 6
４．教育課程の編成の考え方及び特色 p. 6
５．教育方法、履修指導方法及び卒業要件 p. 9
６．多様なメディアを高度に利用して授業を教室以外の場所で履修させる場合の計画 p. 11
７．編入学の具体的計画 p. 11
８．学外実習の具体的計画 p. 11
９．取得可能な資格 p. 12
10. 入学者選抜の概要 p. 13
11. 教員組織の編成の考え方及び特色 p. 15
12. 施設、設備等の整備計画 p. 16
13. 管理運営 p. 17
14. 自己点検・評価 p. 19
15. 情報の公表 p. 19
16. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等 p. 21
17. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制 p. 22

１．再編の趣旨及び必要性

三重大学生物資源学部（以下、本学部）は、昭和 62 年度に三重高等農林学校以来の伝統を持ち地域の農林業の発展に貢献してきた農学部と、三重県立大学を出自とし地域の水産業に貢献してきた水産学部が統合し、農・林・水の生物資源総体の保全と利活用という視点からフードシステムを支える生物資源科学を推進する国内初の学部として新設された。その後、平成 12 年度には生物機能を利用した新たな産業の創生、地球温暖化等の資源･環境問題への対応といった社会ニーズの変化に対応し、資源循環型社会に向けた生物情報、資源化技術、社会システムを総合的に探究する資源循環学科、自然との共存・自然環境の保全を探求する共生環境学科、多様な生物資源の持続的利用を探求する生物圏生命科学科の 3 学科に改組して教育・研究を進めてきた。平成 29 年度には、従前の改組の理念を踏襲しつつ、強みとして培ってきた教育・研究分野を拡充・強化し地域のフードシステム関連産業の振興を担う人材を育成するため、生物圏生命科学科を二つのオンリーワン学科、すなわち農芸化学と水産化学が協働した他大学にない生物資源に関する総合的な生命化学を教育・研究する生物圏生命化学科と、本学部が研究で先行している鯨類繁殖分野を活かし海洋生物資源の保全と増養殖の発展を目指す海洋生物資源学科に二分し、基礎教育の効率化と特色の明確化を進めた。

フードシステムは食料生産の現場から、物流、消費、廃棄までの食農バリューチェーンと関連する金融、インフラ、政策、自然生態系等から構成される。今日に至るまで本学部では、社会的要請の変化に対応しながら、フードシステム構成要素の全てに関わる教育・研究分野を網羅する全国でも希有な組織という強みを活かし、論理的判断力、知識量、思考力、企画力、実践力を備えた人材の育成を担ってきた。そして、地域の中核大学として本学が所在する東海近畿圏内外におけるフードシステムを支える基盤企業に生産現場で指導的役割を担うスペシャリストを輩出するとともに、公的機関で農林水産行政を担う人材を輩出してきた。

本学は、これまで「三重から世界へ　世界から三重へ　未来を拓く地域共創大学：地域に根ざし、世界に誇れる教育・研究に取り組み、人と自然の調和・共生の中で、社会との共創に向けて切磋琢磨する。」の基本理念の下で、グローバルな視野を持ちながら、地域に立脚した教育・研究に取り組み、人材育成、研究成果の社会への還元によって地域に貢献してきた。

しかしながら、近年ますます複雑化・グローバル化する東海近畿圏のフードシステムには SDGs や Society5.0 への対応が突きつけられている。コロナ禍はこうした課題の複雑化に拍車をかけており、食農バリューチェーン各セクターにおける個別対応では解決困難な課題が噴出している。2021 年の国連フードシステムサミットにおいても、フードシステムに関わる様々な問題解決による食料の公平な分配、貧困の撲滅、環境の保護を掲げられている。フードシステムの諸問題に関する SDGs は直接的なものから環境や生物多様性に関連する項目まで多岐にわたる。また、気候変動に関する政府間パネル

（IPCC）の第六次報告では、実効性のある地球温暖化対策や持続的発展、我が国も他国に先駆けて実現を宣言した脱炭素社会とポストコロナのライフスタイルの変容、異常気象災害の低減技術、異常気象にも対応しうる農作物の導入と栽培技術の導入、最適化が注視されている。特に気候変動に関しては、食品・農林水産業分野、すなわち一連のフードシステムにおいて排出されるグリーンハウスガス（GHG）排出量が、地球規模での人間活動由来の排出量の 1/3 を占める。工業分野での GHG 排出量削減技術の開発は進んでいるものの、食品・農林水産業分野での対策は遅れている。これは、森林の伐採や農地への転換、家畜生産、土壌と肥培管理、フードロスや廃棄が GHG 排出の主要因であり、生産現場での直接的な削減が難しいためである。

このようなフードシステム諸問題の解決には、ステークホルダーが地域に根ざした企業や農業者、遠く離れた消費者であることから、地域の自然・気候と栽培環境の資源循環、作物や栽培技術の選定、インフラ、加工、流通、経営・経済等の専門家に加え、これらの分野について幅広い知識を有し、総合的な取捨選択の判断や啓発活動が可能な行政官や経営者といった人材の育成が急務である。フードシステムを俯瞰した実効性の高い対応策を提案するため、各専門性に加え、情報収集とそれを分析・総括する力、組織を牽引するマインドと行動力を持った、変革を迫られる地域経済の基盤を支える人材や、生産者だけでなく消費者にも寄り添った農林水産行政を運用できる人材が求められている。これらの教育を受けた専門家やジェネラリストは、特定の地域だけではなく、様々な地域の発展を担う人材となると期待される。

ところが、現在の本学部はフードシステム構成要素を網羅する国内屈指の教員陣容にもかかわらず、近年の社会変容に即応した分野横断的な教育・研究が不足している。学生においても、自分の専門分野の教育に限らず、専門外の周辺分野の学際的知識も学びたいという要求は高い【資料 1】。また、様々な社会ニーズに対応して研究室を細分化した結果、高い研究力と専門性を顕示した反面、近年多様化の進む配属学生への対応やカリキュラムの持続的開講に脆弱性が生じている。SDGs や Society5.0 を考えるうえで必要不可欠なデータサイエンス教育についても、関連講義が兼ねてより幾つかの分野で個々に開講されているものの、必ずしも全ての学生が享受できる仕組みが整っておらず、分野間の課題を有機的に関連付けて応用する仕組みも十分に整っていない。また、学生の中には入学時から志望する分野が明確な者がいる一方、広く生物資源各分野の内容に触れてから志望分野を選択したい学生もいる【資料 1】。

すなわち、現在の本学部の課題は、専門的教育の質を維持した上での分野横断的な教育、学生対応やカリキュラムの持続的開講の脆弱性、既存のデータサイエンス科目群の更なる活用、入学時から志望する分野が明確な学生と、広く生物資源各分野の内容に触れてから志望分野を選択したい学生両者への対応と要約できる。

そこで、生物資源学の各分野の専門知識を持ちながら、俯瞰的知識を身につけた人材を養成するため、1 学科制に再編し、平成 29 年度の改組を経ていない農・林・農業工学

を１コースに融合することで、フードシステム関連諸分野を学ぶ機会を創出し、自然科学だけでなく社会科学を含めた専門知識を養う柔軟かつ堅牢なカリキュラムを組むとともに、バイオ DX 教育の浸透を図る。また、生物資源総合科学コースを新設し、生物資源学の基礎を学んだ後に志望分野を考えられるよう選択の幅を広げることに加え、フードシステム関連分野のつながりを自発的に学ぶ力を養う。

生物資源学部で養成する人材像は、食と農林水産・フードシステムに関わる俯瞰的な視点を持ちつつ、地域の豊かな自然から生み出される生物資源の適切な開発・利用・保全に貢献出来る知識と能力を身につけ、データの論理的な分析に基づき、地域でも世界でも活躍できる人材である。その上で、学生が独創性と専門性を兼ね備え、自らの力で問題解決ができる知識と能力を修得させるため【資料2】のディプロマポリシーを置く。

２．学部・学科の特色

これまで培ってきた本学部の強みは、第一に多くの有用な人材を地域に輩出し、農林水産業や食品産業などのフードシステム関連産業で要職について活躍する卒業生ネットワークを擁していることである。そのため、既にネットワークが形成されており、共同研究をはじめとする地域における多様な連携が進行している。第二は、農学部と水産学部の伝統を引き継ぎ、農・林・水産業にわたる基礎から応用までのフードシステム構成要素の全ての教育・研究分野を網羅していることである。特に、海の底から山の頂に至るまでの多様な生物資源を有する三重県において、紀伊半島や伊勢湾など豊富な自然のフィールドに対応した農学や林学を網羅的・体系的に教育・研究できるようになっている。さらに、東海圏随一の農業工学系の分野は、三重高等農林学校からの長い伝統と蓄積した技術を持ち、昨今社会的関心が高まっている農業 DX やスマート農業研究においても数多の研究実績を有している。

今回の組織再編においては、上記の本学部の強みとなっている教育・研究分野の連携を深め、日本最大の紀伊半島が生み出す多様な生物資源を活かした紀伊黒潮生命地域の創生を支える教育・研究を展開することを目指し、生物資源を効率よく循環利用し調和の取れた循環型社会の構築に貢献する資源循環学科と自然との共存・自然環境の保全を探求する共生環境学科を融合し、農学、林学、農業工学が協働した生物資源に関する総合的な教育研究を行う「農林環境科学コース」を新設する。これにより持続可能なデータ駆動型農業・林業の人材育成やフードシステム各構成要素に共通する物質変換プロセス分野の人材育成についての教育研究機能を強化する。そして、平成 29 年度の改組で強みの拡充・強化に既に成功している、鯨類繁殖分野を活かし海洋生物資源の保全と増養殖の発展を目指した海洋生物資源学科には気象・海洋物理の分野を補強し「海洋生物資源学コース」とし、農芸化学と水産化学が協働した生物資源に関する生命化学の教育研究を行う生物圏生命化学科は「生命化学コース」とする。また、SDGs、Society5.0、ポストコロナの新生活様式等、近年の農林水産分野の現場的課題は複合的であり、単一

分野の専門知識のみでは対応できない。社会の要請の一つは地域の基幹産業である生物資源・フードシステムの様々な分野の基礎知識を学んだ上で専門性を身につけ、場面に応じて異なる分野に応用、展開できるトランスファラブルな知識と経験を有する人材の育成である。このような要請に応えるため、「生物資源総合科学コース」を新設する。生物資源総合科学コースでは、入学時に志望コースを限定せず、1 年次に各コースの基礎を一通り学び、2 年次に自分の適性や志向と合致した前述の 3 コースのいずれかを選択する。この際、生物資源総合科学コースには、学校推薦型選抜に地域枠を設定するとともに、フードシステム関連科目をつなぐ自発的学びを促す科目を課す。幅広い生物資源学・フードシステム構成各要素の知識を修得した後に専門分野を選択することは、地域を先導するマインドや地域課題への対応力の涵養にも繋がる。さらに、多様な入口、志向の学生が高学年でともに学ぶことで、分野間での取り組みへの刺激や学生の研究意識の向上にもつながると期待される。

「農林環境科学」、「海洋生物資源学」、「生命化学」と「生物資源総合科学」の 4 つのコースを「生物資源学科」内に併設することで、多学科制では難しかった異分野科目の効果的、学際的な履修を可能とするカリキュラム体制の構築を通して学生定員と部局組織に柔軟性を持たせ、多様な社会問題に対応できる能力を持った学生、自律的に学修を継続できる学生を育成する俯瞰的知識の涵養と専門性の深化を促すカリキュラム、農林水産業・製造業の高度化に対応できるバイオ DX 人材を育成するフィールドも活用したカリキュラムを整えて、社会の要請や時代の変化に迅速に対応できる組織と機動力を確保する。またコースの中に複数研究室からなるユニットを置くなど教員組織を多層化することで、バラエティに富んだ特色ある研究力を保持しつつ、教員数の変化に依らず多様な学生への対応、主要科目の維持など教育の質の保証の担保、安全管理や運営負担を相補するとともに自由な研究の場を確保し、教育研究両輪の強化をはかる。

「生物資源学科」1 学科への再編後の入学定員は、現在の 4 学科の総定員と同数の 260 名である。各コースの配属目安は、現在の定員が各々70 名の資源循環学科全てと共生環境学科 3/4 からなる農林環境科学コースは 130 名程度、定員 40 名の海洋生物資源学科と共生環境学科 1/4 からなる海洋生物資源学コースは 50 名程度、定員 80 名の生物圏生命化学科からなる生命化学コースは 80 名程度とする。

各コースの募集人員については、生物資源総合科学コースは、現行の学校推薦型志願者数や県内高校からの進学者数、学生アンケートの結果【資料 1】を鑑み 30 名とする。農林環境科学、海洋生物資源学、生命化学各コースについては、前段落の各コース配属目安から、2 年次進級時に生物資源総合科学コースよりそれぞれのコースへ 20 名、5 名、5 名が配属されると考え、その数を除いた 110 名、45 名、75 名程度とする。【資料 3】

生物資源学部で養成する人材像は、食と農林水産・フードシステムに関わる俯瞰的な視点を持ちつつ、地域の豊かな自然から生み出される生物資源の適切な開発・利用・保全に貢献出来る知識と能力を身につけ、データの論理的な分析に基づき、地域でも世界

でも活躍できる人材である。生物資源学科一つに再編したことを活かし、高い専門性と俯瞰的知識を身につけ、上記のような活躍ができる人材の養成を目指す。

それぞれのコースで養成する人材育成像を踏まえ、これまで通り本学部で掲げる入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に合致する学生を受け入れる。学位授与と教育課程についてもこれまでの学部の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏襲し、生物資源とそれを育む自然環境、フードシステムに対する幅広い知識と専門知識を兼ね備えた教育を実施する【資料 2】。

３．学科の名称及び学位の名称

今回設置する生物資源学科は、『１．再編の趣旨と必要性』及び『２．学部・学科等の特色』に述べたように「農林環境科学」「海洋生物資源学」「生命化学」の三つのコースと後からコースを選択する「生物資源総合科学」コースからなる、単一学科となる。生物資源学科では本学部の理念に則り多様な生物資源・フードシステムに関わる人材の養成を行うことから、学科の名称は学部の名称「生物資源学部（Faculty of Bioresources）」と同じ「生物資源学科（Department of Bioresources）」とする。

本学部生物資源学科に所定の期間在学し、所定の単位を修得した者に対しては、①幅広い教養と倫理観、国際感覚を身につけ、豊かな人間性を有しており、②生命、環境、食料、健康等に関する生物資源学の基本的な知識と技術、経験を有しており、③科学的で論理的な思考を展開することができ、計画的に問題の解決に取り組むことができ、④豊かなコミュニケーション能力を持ち、他者と協力して行動することができ、⑤社会の変化に柔軟かつ自律的に対応し、発展的に生きていくことができることが期待される。これらの知識、技術を充分に修得した者にこれまで同様、「学士（生物資源学）（Bachelor of Science in Bioresources Science）」を授与する。

４．教育課程の編成の考え方及び特色

（教育課程の基本的な考え方）

生物資源学科では、食と農林水産・フードシステムに関わる多様な教育研究分野からなる学科として、初年次にフードシステム各構成要素の概括的な知識と基礎的知識、フィールド科学の基礎となる教育を全体で行う。カリキュラムポリシーは表【資料 2】の通りである。生物資源学科には農林環境科学コースと、海洋生物資源学コース、生命化学コースを置き、生物資源総合科学コースの学生は 2 年次に 3 つのコースいずれかへの配属を選択する。また、農林環境科学コースには農学専修、森林科学専修、農業工学専修を、海洋生物資源学コースには海洋生物資源学専修を、生命化学コースには生命機能化学専修と海洋生命化学専修を置く。そして、2 年次以降は専修間の横断型教育を行う

一方、各専修では専門性を明確に打ち出した科目群による基礎から応用までの積み上げ教育を実施する【資料 4】。

今回の改組では、現在の 4 学科 9 教育コース制を 1 学科 3 教育コース 6 専修制とする。1 学科内に多面的・多層的な枠組みを設けることで、科目の共通利用や柔軟なカリキュラム編成を可能としつつ高い専門教育体制を保持する。学生にとっても他コースの科目が選択しやすくなり、専門知識の習得に加えフードシステムについての幅広い知識の涵養が可能となるとともに、周辺の学際分野の研究に触れる機会の増加が分野横断型思考の萌芽が促される。

農林環境科学コース農学専修の母体は、現行の資源循環学科農業生物学教育コースとグローカル資源利用学教育コース、森林科学専修の母体は、現行の資源循環学科の森林資源環境学教育コース、農業工学専修の母体は、現行の共生環境学科の地球環境学教育コースの一部と農業土木学教育コース、環境情報システム学教育コースである。これらが協働することにより、生産の現場に即した教育やデータサイエンス教育を相補的に行う【資料 3】。その上で、農学専修では農学の考え方を出発点として、そこから新たに発展した生物科学を様々な視点から追究し、世界的な食料問題の解決や緑豊かな環境の維持に役立てる教育・研究を行う。森林科学専修では生態学、植物学、微生物学、化学、物理学、情報科学等の講義・実習や、附属演習林における実習等を通して、多面的な機能をもつ森林の特性を理解し、自然環境との調和を保ちながら、その資源と多様な機能を持続的に利用する教育・研究を行う。農業工学専修では、環境改善に関連する各種プラントおよび環境共生技術について基礎原理に基づく教育・研究、および農業を営む場である農村地域を保全し、健全な物質循環の場としての豊かな農村環境を創出することを目標とした教育・研究を行う。

海洋生物資源学コースの母体は、現行の海洋生物資源学科である。海洋生物資源学コースは、1 教育コース 1 専修制として海洋生物資源の増養殖・生産と資源管理、流通、保全に関する基礎から応用までの積み上げ教育を実施する。微細藻類から脊椎動物にわたる様々な水圏生物を対象にして、海洋における生物と物理的・化学的な環境との関係を正しく理解し、分子レベルから生物レベル、気象・気候レベルに至る多様な視点から自然との共存や持続的な利用のあり方について総合的に学ぶ。

生命化学コースの母体は、現行の生物圏生命化学科である。生命機能化学専修はバイオサイエンスとバイオテクノロジーの手法を用いて、食料、健康、医薬、生活、環境の広範囲な領域において生物資源を有効利用することを目的として、動物・植物・微生物の多彩な生命現象の仕組みおよびこれらの生物が生産する物質の分子構造と機能を明らかにし、その成果を新しい機能性分子や食品の開発、環境技術などに応用するための理論や技法に関する教育・研究を行う。海洋生命化学専修では、魚介類、藻類、海洋微生物などの海洋の生物資源の有効利用を目指し、それらのもつ成分の分離と分析、生物

情報の集積、さらにそれらを素材として機能性をもった食糧資源や香粧品などを創出するための理論と技術に関する教育・研究を行う。

（教育課程の特色）

教育課程は、共通教育科目と専門教育科目の学部必修科目、学科選択必修科目、選択科目（各コースの定める選択必修科目を含む）、自由科目で構成される。共通教育科目は、大学教育の導入段階として、主として 1～2 年次に履修する。また、副専攻科目群を配し、高学年次において学生が主体的に選択・申請できるようにする。学部必修科目と学科選択必修科目は広く知識を涵養する科目として 1～2 年次に、コースの指定する選択必修科目は専門基礎科目として、2～3 年次を中心に、専修に関わる選択科目と自由科目は、応用・探究科目として 3～4 年次に履修する【資料 4】。

共通教育科目は、農林環境科学コースで 38 単位、海洋生物資源学コースと生命化学コースでは 39 単位と、改組前の母体学科と同様とする。また、今回は学科の改組であり、本学部の教育・研究理念の本質に変更がないため、学部必修科目 9 単位は変更しない。学科選択必修科目にはフードシステム各構成要素の基礎を学ぶ科目 6 単位を配置し、生物資源総合科学コースの学生はその全てを、他のコースの学生は中から 4 単位を履修する【資料 5】。コースの指定する選択必修科目については、農林環境科学コースでは食料・資源経済学、植物学、農業工学、農場・演習林実習など農・林・農業工学およびフィールド科学の基礎に関する科目を配置し、生命化学コースでは有機化学、生化学、細胞生物学、分子生物学、微生物学、分析化学など生物資源の生命科学の基礎に関する科目を配置する。そして、専修に関わる科目群は、フードシステムの多様な分野の発展科目で構成され、社会のニーズに対応する既存のカリキュラムの主要部を今後も保持できるようにする。

一方、フードシステムを俯瞰的に理解、活用、展開できるようにするために、特に生物資源総合科学コース入学者には、自らの分野の科目の他に「地域」、「生産」、「製造・加工」、「流通・外食」、「輸出・消費」、「金融」、「政策」、「インフラ」、「自然生態系」の分野【資料 6】から 4 科目以上の選択科目の履修を推奨するとともに俯瞰的かつ分野横断型理解を促すチュートリアル型の科目（フードシステムチュートリアル）を開設する。さらに、自由科目を 10 単位設け、科目選択の自由度を増す。また、生物･生態系を取り巻く環境、食糧･食品や加工･プロセス、健康など、多様な生物資源を起点とするフードシステム全体にわたる多次元的なビッグデータを取得、精査、有機的に関連付け、応用、駆使できるようにするため、1 年次の共通教育科目にデータサイエンス I とデータサイエンス II を配置し、2 年次以降はデータサイエンスアドバイザーの助言を踏まえて、専門教育を学びながら継続的に生物資源データサイエンス科目群を履修する【資料 6】。

このように、これまでの専門性を高める科目を基軸に、分野横断的志向やデータサイエンスの素地を養う科目を学ぶことで、生物資源・フードシステムに関する各分野の高い能力とそれを俯瞰的に活用できる能力を身に付けた人材の育成を目指す。

５．教育方法、履修指導方法及び卒業要件

（教育・履修指導方法）

生物資源学科 1 学科制とし、その下にコースおよび専修を設置することにより、従来の学科の枠に捕らわれない分野横断的な履修を可能としている。カリキュラムは共通教育科目と専門教育科目で構成し、講義、演習、実習、実験等による授業を開講する。

共通教育科目は、社会人となるために必要な幅広い知識を習得するための科目として設定している。共通教育科目に含まれるデータサイエンス科目や外国語科目、理数系の基礎科目は、教育効果や習得不十分な学生への配慮を鑑み、人数と習熟度を考慮したクラス指定とする。ある程度専門性を習得した上で、専門性を活かすために有益となる幅広い知識を身につける高学年次を対象とした科目も設け、特定の分野から 10 単位以上の科目を習得したものには副専攻を認定する。

専門教育科目は特定の高度な知識及び技術的な専門分野を学び、周辺分野と合わせて俯瞰的に理解するものとして、学部・学科共通の科目とコースや専修の科目に分けられている。学部・学科共通の科目は各専門領域の基礎となる授業科目として位置づけており、生物資源・フードシステムの学問・研究に必要な基礎的知識や俯瞰的視点からの学際的な知識を身につけるための科目を設定している。コースの定める選択必修科目はコースの共通的な科目で、各コースの専門領域についての知識と技術を習得し、専門技術者やジェネラリスト双方の素養を身につけるための科目である。専修に関わる科目では、コースからさらに細分化された専門領域についてより深い知識と技術を身につけるための科目を設定している。これらの専門科目の講義についてはコースや専修の学生規模で行い、実習や実験については実験室や練習船の規模と学生の習得効率を考慮した学生規模で行う。授業は三重大学学則【資料 8】第 64 条に従い、多様なメディアを高度に利用して当該教室等以外の場所で履修させることができる。

1 年次には共通教育科目と学部・学科共通の科目を、2 年次からは専門科目を中心にコースや専修の科目を履修する。生物資源総合科学コースの学生は 1 年次に学んだ知識に基づき選択したコースに 2 年次に配属され、1 年次から在籍している学生と同様にコースや専修の科目を履修する。3 年次あるいは 4 年次には教育研究分野（研究室）に配属され、専修の演習と卒業研究により課題発見と解決に取り組む。卒業研究は週に 6 時間の 4 年次通年の演習・実験相当と考え 4 単位とする。各コースのカリキュラムマップを【資料 7】にそれぞれ記載する。他大学の科目履修については、三重大学学則【資料 8】第 67 条および第 68 条により教育上有益と認めるとき 60 単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものと見なすことができる。

各学年には専属教員が付き、就学上のアドバイスや指導ならびに生活等各種相談を行う就学カウンセラー制度を敷く。留学生の入学後の履修指導や生活指導については、同様に就学カウンセラーが行うとともに、日本語教育科目や国際キャリアアップ科目履修を含め本学国際交流センターからも受けられる。また留学生の在籍管理については、半期に一度コース主任及び指導教員または就学カウンセラー教員により面談を実施し、面談シートの記録と保管により行う。

（卒業要件）

学則【資料 8】33 条に規定する修業年限を満たし（休学期間を除く）、農林環境科学コースについては共通教育科目から 38 単位以上、専門教育科目から 87 単位以上、海洋生物資源学コースと生命化学コースについては共通教育科目から 39 単位以上、専門教育科目から 86 単位以上、合計各コース共通で 125 単位以上修得する。また、卒業までに教育的インターンシップに参加する。

共通教育のうち、英語やスポーツ健康科学、データサイエンス、キャリア科目などの大学における基礎的素養を学ぶために 13 単位（大学基礎科目）を習得する。また、社会人としての幅広い教養を涵養するために 13 単位以上（教養基礎科目）を習得する。そして、理数系の基礎的素養を学ぶために 12～13 単位（専攻基礎科目）を習得する。

専門科目については、フードシステムの基礎と俯瞰的視野を身につけるために技術者倫理と卒業研究を含めた学部必修および学科選択必修科目 13 単位を習得する。一方、各分野の専門性を養うためにコースの選択必修および選択科目 60 単位程度を履修する。コース毎の履修要件の詳細は、各コースの卒業要件単位数表【資料 5】に記載する。

三重大学では平成 30 年度より、授業時間外の学修時間を確保するために全学部・学科において CAP 制を導入しており、履修科目登録単位数の上限を原則、半期 26 単位とする。履修した科目の試験等に合格した者に、単位を与える。成績の評価については、三重大学成績評価のガイドライン【資料 9】に基づき、次のように定める。

10～9 点：科目の内容を修得し、到達目標を優れて満たしている。
8 点：科目の内容を修得し、到達目標を十分に満たしている。
7 点：科目の内容を修得し、到達目標を概ね満たしている。
6 点：科目の内容を修得し、到達目標を必要限度満たしている。
5～0 点：科目の内容を修得したと認められず到達目標を満たしていない。
成績は 10 点満点をもって表し、6 点以上を合格とする。

（履修モデル）

コースごとに具体的な養成する人材像に対応した履修モデルを提示する。

A. 農林環境科学コースの履修モデル【資料 10-1】

B. 海洋生物資源学コースの履修モデル【資料 10-2】

C. 生命化学コースの履修モデル【資料 10-3】

６．多様なメディアを高度に利用して授業を教室以外の場所で履修させる場合の計画

三重大学学則【資料 8】第 64 条に従い、大学の教室における授業のオンライン配信やオンデマンドを利用した遠隔授業を当該教室等以外の場所で履修させることができる。遠隔授業については、共通教育科目の大学基礎科目と教養基礎科目については 12 単位を、共通教育科目の専攻基礎科目と専門教育科目については 48 単位を上限単位とする【資料 11】。

７．編入学の具体的計画

これまでの実績を踏まえ、編入学の時期は 3 年次、定員は農林環境科学コース 6 名、海洋生物資源学コース 2 名、生命化学コース 2 名とする。

既習単位の読み替えは卒業に必要な 125 単位のうち 60 単位を上限とし、出身校と生物資源学部のシラバスを参考に行う。

編入生の履修モデルは編入したコースの学生と同様とする。履修については、編入したコースの 3 年次就学カウンセラーが、同学年の学生と同様に行う。編入生が 3、4 年次に取得する必要がある単位は通常学生より多数となるため、特定の時期に集中し過ぎないよう履修指導を行う。

８．学外実習の具体的計画

農林環境科学コースの農業工学専修では学外実習（農業工学現場実習：2 週間（土日を除く 10 日間））を専修の必修科目として課す。

（実習先の確保の状況）

農業工学現場実習は、農業工学専修において 30 年近い歴史を持つ必修のインターンシップ科目である。実習先は農林水産省により紹介される全国の国営事業所、農研機構農村工学部門および水資源機構の関連機関などから、学生が第 6 希望まで選択する。【資料 12-1】。学生が選択した結果を受けて、農林水産省が全体の調整をすることで受入先を決定する【資料 12-2】。

（実習先との連携体制）

農業工学現場実習は、古くからある講義であるため、農林水産省との連携体制は構築されているが、より円滑な連携体制を構築するために、2016 年 10 月 18 日に農林水産省東海農政局農村振興部と三重大学大学院生物資源学研究科との間に連携協定が締結された【資料 12-3】。締結後は年に 1 回の連携会議において、農業工学現場実習の実施

状況について双方で意見交換を行い、大学および実習先機関との間で講義の改善活動を行っている。

（成績評価体制及び単位認定方法）

農業工学現場実習の成績評価は、開講学年である 3 年次の就学カウンセラーと専修の担当教員によって行われる。

知識：事前研修会において働くうえで必要な社会人力を評価します。（10%） 態度：インターンシップ中の記録の提出で評価します。（50%） 　　また、事後報告会の発表内容で評価します。（30%） 技能：インターンシップの事前、事後に必要な提出物、誓約書などの提出、及び 　　その内容の可否で評価します。（10%）

学生はこれらの認定方法で評価され、総計 60%以上で単位を取得することができる。

９．取得可能な資格

以下の取得可能な免許・資格を設定する。いずれも修了要件としない。各免許・資格の修得に必要な科目の詳細は【資料 13】に提示する。

（１）教育職員免許状（高等学校教諭一種免許状（理科・農業・水産）） 教育職員免許状取得のための養成課程を置き、指定科目を修得し、卒業した者が申請できる免許。
（２）学芸員資格 学芸員養成課程を置き、指定科目を修得し、卒業した者が取得できる国家資格。
（３）食品衛生管理者および食品衛生監視員 食品衛生管理者および食品衛生監視員資格取得のための養成課程を置き、指定科目を修得し、卒業した者が取得できる国家資格。
（４）測量士補 所定の必要単位を取得して卒業し、国土地理院に登録することで得られる国家資格。測量士補資格取得後、測量に関する 1 年以上の実務経験によって国家資格「測量士」を取得できる。
（５）樹木医補 樹木医補資格取得のための専門科目を開講し、指定科目を修得した者が申請できる日本緑化センター認定資格。
（６）修習技術者 農業工学専修の JABEE（農業土木プログラム）修了者は、技術士１次試験合格者と同等の「修習技術者」の資格を取得できる。修習技術者は実務経験を経て第二次試験に合格すれば国家資格「技術士」を得られる。

１０．入学者選抜の概要

（入学者選抜の概要）

フードシステム構成要素の俯瞰的理解と横断的な学びを推進すべく「生物資源学科」の１学科制として再編するが、受験生が入学後に学ぼうと考えている学問領域を「コース」として設定し、この単位で入学者選抜を行う。この際、コースの一つは１年次に生物資源・フードシステムの様々な基礎を学んだ上で進級後に志望する学問領域に配属される「生物資源総合科学コース」とし、これにより学部一括の完全大括り入試を行った場合に生じる受験生の将来の方向性に対する不安感の解消や、入学後に自分の将来の方向性を熟慮したい受験生の希望に対応する。あわせて、入学後の進路変更にも柔軟に対応する。

募集定員は本学部として変更はなく、現行の資源循環学科70名、共生環境学科70名、生物圏生命化学科 80 名、海洋生物資源学科 40 名を合わせた 260 名とする【資料 14】。多様性に富んだ人材確保のため、一般選抜（前期日程）、一般選抜（後期日程）、学校推薦型選抜の３つを柱とした選抜形態をとることにより、それぞれの入学者選抜の特徴を活かした人材を確保する。一般選抜（前期日程）では、大学入学共通テストと個別学力検査により、生物資源の適正な開発・利用と保全を学ぶために必要とされる幅広い基礎知識語学力、理数系の学力を持った人材を確保する。そして、一般選抜（後期日程）では、大学入学共通テストとペーパーインタビュー（大学入学後の学修への意欲・関心を確認するための記述試験）により、生物資源の適正な開発・利用と保全を学ぶために必要とされる幅広い基礎学力、英語力、理数系能力に加え、学習への関心・意欲の高い人材を確保する。学校推薦型選抜（推薦 I）は大学入学共通テストを課さない入試とし、小論文、面接および出願書類に基づき、特に志望するコースで学ぶための基礎的知識と理解力を持ち、生物資源に関する問題の解決能力を自ら進んで身につける意欲のある人材を確保する。学校推薦型選抜（推薦 II）では、大学入学共通テスト、面接および出願書類により、生物資源学部で学ぶために必要な基礎的知識と理解力を持ち、生物資源に関する問題の解決能力を自ら進んで身につける意欲のある人材を確保する。特に生物資源総合科学コースの推薦 II については地域枠（紀伊黒潮枠）を設定し、地域課題に対応する意欲の高い人材を確保する。

（アドミッションポリシー）

今回は学科の改組であり学部としての教育・研究理念の本質に変更がないため、アドミッションポリシーは現行の生物資源学部のポリシーを引き継ぎ、基礎的な学力と理解能力を備え、生物資源学を学ぶ者として求められる資質や探究心、直感力、基本的倫理観を有する者を受け入れる。

アドミッションポリシー

・高等学校の教育課程において履修する内容を十分に理解し、高校卒業レベルの知識を有する人。
・農林水産学を対象とした専門高校において専門科目を深く学び、優れた成績を修めた人。
・入学後の就学に必要な基礎学力としての知識ならびに理解能力を有している人。
・農林水産学や生命科学に関わる様々な現象に関心を持ち、生物資源の適正な開発・利用と保全とその展開に関心のある人。
・自然と人が共生する持続的社会の創出を目指し、社会貢献に対する明確な目的意識を有する人。

（入学者の選抜方法）

・一般選抜（前期日程）（全募集人員の 50～55%）

志願者は、出願時に希望するコースを第三希望まで申請することができ、大学入学共通テストと個別学力検査の合計成績の上位者優先で希望のコースに配属される。コース毎に募集人員の目安を設定し、個別学力検査では全てのコースで数学と理科を課す。また、生物資源総合科学コース以外を第一希望とした場合に、第二、第三希望として生物資源総合科学コースを申請することはできない。

・一般選抜（後期日程）（全募集人員の 20%程度）

受験生は、希望するコースを第二希望まで申請することができ、大学入学共通テストと個別学力検査の合計成績の上位者優先で希望のコースに配属される。コース毎に募集人員の目安を設定し、個別学力検査では理科又は数学を課すほか、ペーパーインタビュー（大学入学後の学修への意欲・関心を確認するための記述試験）を課す。

・学校推薦型選抜（全募集人員の 25%～30%）

コース毎に目安の募集人員を設定し、面接を課す入試を実施する。推薦 I は農業、水産、工業に関する学科又は総合学科で学んだ者を、推薦 II は普通科またはそれに準ずる学科で学んだ者を対象に実施する。また、生物資源総合科学コースの学校推薦型選抜は推薦 II のみとし、三重県から東海近畿圏に広がる紀伊黒潮地域の地域枠として地域に関わるテーマを設定して実施する。

・帰国生徒特別選抜（4 名）

総合問題（英語、数学、小論文）と面接、出願書類による入試をコース毎に実施する。

・社会人特別選抜（4 名）

高等学校、中等教育学校を卒業あるいは通常の課程による 12 年の学校教育を修了した満 23 歳以上で、社会人の経験が 5 年以上となる者を対象とし、総合問題（英語、数学、小論文）と面接、出願書類による入試をコース毎に実施する。社会人の経験には主婦（主夫）業も含む。

・私費外国人特別選抜（若干名）

外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者あるいはこれに準ずる者、国際バカロレア資格、バカロレア資格、あるいはアビトゥア資格を有する者で満 18 歳以上の者を対象とする。また、志望コースの指定する「日本留学試験」の科目を受験した者で、「日本語」の得点が 240 点以上、「日本語記述」の得点が 33 点以上、「理科」と「数学」それぞれ 120 点以上、TOFEL 試験を受験し「iBT」の得点が 39 点以上を資格要件とし、面接と出願書類による入試をコース毎に実施する。

・3 年次編入学試験（10 名）

学力試験、面接、出願書類等による入試をコース毎に実施する。

（科目等履修生）

当該授業科目を履修するに十分な学力があると教授会が認めた者については、1 学期に 10 単位以内の科目等の履修を認める。また、当該授業科目を履修するに十分な学力があると教授会が認めた国立大学法人または公立・私立大学等に所属している機関の学生については、練習船等を利用した授業の履修を特別聴講学生として認める。

１１．教員組織の編成の考え方及び特色

（教員組織の編成）

現在の生物資源学部の教員組織は、平成 18 年 4 月、大学院重点化施策により大学院へ移行された。具体的には、生物資源学部の教員は大学院生物資源学研究科の所属となるとともに、生物資源学部の教育を担当することになった。

今回の改組により、改組の特色である「生物資源各分野の専門知識を持ちながら俯瞰的知識を身につけたジェネラリスト教育」の実践がより展開できる体制となる。具体的にはデータサイエンス基礎科目、データサイエンス科目、技術者倫理及びフィールドサイエンス科目である【資料 4】、【資料 6】。

教員配置については、入試倍率などのデータを用いて各コースの学生目安定員を再検討し、本学部の人事計画も考慮して総合的な観点から教員数を検討し、決定する。なお、教員数の管理は本学部全体で行う。

（授業科目における教員の配置）

教育上主要と認める講義科目には教授、准教授、講師を配置し、実験・実習科目には助教を配置することを原則とする。各教員の学位、研究業績及び教育実績と授業科目との適合性を重視して、各科目の担当教員として配置する。

（教員組織における研究分野）

生物資源学には、農学（生命農学、農環境管理、地域創生）、森林科学（林学、林産学）、農学工学（農業土木、環境情報）、海洋生物資源学（増殖・種苗生産、資源・生態・保全生理生態・行動、気候・気象）、生命機能化学（応用生命化学、応用有機化学、分子情報化学）、海洋生命化学など、多くの学問分野がある。教員はこれらのいずれか、又は分野にまたがった研究を行っており、各分野における研究内容を網羅する。

（教員組織の年齢構成）

各コース・専修の講義を担う教員の年齢に、できるだけ偏りがないように配置する【資料 15】。また、本学教員の定年年齢は三重大学職員就業規則【資料 16】により満 65 歳と定められており、当該教員の定年退職後は後任補充を行い、教育の質を十分に保証できる編成である。

１２．施設、設備等の整備計画

（校地、運動場の整備計画）

生物資源学部の教育研究は、津市中心部近くの上浜キャンパスで実施する。本キャンパスは 528,341㎡（令和 5 年 4 月 1 日現在）の敷地面積を有し、文系及び理系の学部、大学院がここで教育研究を行っている。講義室、実験・実習室、研究室、研究圃場、附属図書館などのほか、保健管理センター、食堂、売店等が入る福利保健施設、運動場、体育館などの体育施設、学生寮などの厚生施設も整備されていることから、共通教育から専門教育までの一体的な教育が可能な環境にある。

（校舎等施設の整備計画）

施設整備にあたっては、既存のスペースを利用する。また、実験等の科目についても、既存の設備において十分対応可能である。

（図書等の資料及び図書館の整備計画）

本学は、教育研究上必要な図書館資料の収集、整理及び提供並びに学術情報を提供し、本学の学生及び教職員の教育、研究、調査及び学習に資することを目的に附属図書館を設置している。附属図書館は、附属図書館本館、医学部図書館で構成されており、蔵書数は、全体で図書 937,473 冊（令和 5 年 4 月 1 日現在）となっている。また、ネットワ

ーク及び演習用端末の管理に加えて各種 IT サービスを提供する情報基盤部門を設置し、本学の情報化と情報セキュリティ体制の強化を進めている。

１３．管理運営

（教授会等の学部管理運営体制）

本学部の運営管理は学部長のもと生物資源学部教授会を置く。教授会は、学生の入学、卒業及び課程の修了並びに学位の授与に関する事項等の重要事項を審議する。学部の運営を円滑に行うため、執行部会議、学部教務委員会、学生委員会、入試委員会、FD 委員会等を置く。また、学部長のイニシアティブによる学部のガバナンスを円滑に行うため、学部長の業務を補佐支援する学部長指名の副学部長を 2 名置く。なお、組織の活性化及び優秀な人材確保のため年俸制を導入しており、新規に雇用する教員に適用している

（教授会）

本学では「教授会規則」の規定に基づき、学部ごとに教授会を置くことになっており、本学部にも教授会を設置する。教授会の議長は本学部の教授のうち、学長が任命した学部長が務め、議長が教授会を主宰する。教授会は構成員である教授の 3 分の 2 以上の出席で成立し、出席した構成員の 2 分の 1 以上をもって議事を決する（可否同数の場合は議長の決するところによる）。なお、教授会は月 1 回の定例開催のほか、必要に応じて臨時開催する。「教授会規程」には「教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする」とあり、学部の教育研究に関する重要事項について審議・判断する組織として位置づけられている。

一　学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
二　学位の授与に関する事項
三　教育課程の編成に関する事項
四　学生の再入学、転入学、編入学及び転学部に関する事項
五　前 4 号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が別に定めるもの、また、教育研究に関する事項について審議し、及び学長の求めに応じ意見を述べる事ができる。

（教学に関わる各種委員会）

生物資源学部の主に教学に関わる事項について検討を行い、必要に応じて運営上の実務を担当する組織として、生物資源学部の教員で構成される委員会を設置する。主な委員会とその所掌事項は次のとおりである。

a　教務委員会 一　学部教務全般に関する事項 二　共通教育に関する事項 三　情報処理教育に関する事項 四　高等教育デザイン・推進機構に関する事項 五　教職課程・学芸員養成課程運営委員会との連携に関する事項 六　外国人留学生（学部生）に関する事項 七　非正規生（学部生）に関する事項 八　学生の休学・退学・復学に関する事項（学生委員会と連携） 九　教育的インターンシップに関する事項 十　他委員会等との連携調整に関する事項
b　学生委員会 一　学生生活に関する事項 二　就学カウンセラーに関する事項 三　学生相談及びピアサポーターに関する事項 四　インターンシップ及び就職支援に関する事項 五　奨学金（渡邉文二奨学金を含む。）に関する事項 六　保護者懇談会及び保護者対象学部紹介に関する事項 七　学生の休学・退学・復学・懲戒に関する事項（学部教務委員会及び大学院教務委員会と連携） 八　非正規生対応に関する事項 九　他委員会等との連携調整に関する事項
c　入試委員会 一　学生募集・入試方法に関する事項 二　入学試験の実施に関する事項 三　学内外で実施される入試説明会等に関する事項
d　FD 委員会 一　授業評価に関する事項 二　授業参観に関する事項 三　研究科 FD 実施に関する事項 四　アセスメントに関する事項 五　その他研究科長が諮問する事項

１４．自己点検・評価

自己点検・評価は、本学内に「三重大学評価委員会」及び「三重大学評価専門委員会」を設置し、これらの委員会が中心となり、第三者評価である大学機関別認証評価及び国立大学法人評価に対応する教育・研究活動等の自己点検・評価と、大学独自の自己点検・評価を実施している。

自己点検・評価は、「三重大学における内部質保証に関する規程」に基づいて、年度計画や自己点検項目等の評価対象事項について、各担当部局が自己点検・評価した上で、その結果を評価専門委員会において検証し、評価委員会で総括するという方法で毎年実施している。

評価の結果は、評価報告書として取りまとめ、学内会議で報告、法人評価や認証評価の受審年においては評価実施機関（大学改革支援・学位授与機構）に提出するとともに、委員会での検証により課題が判明した事項については担当部局に対して提言又は改善を求めている。

１５．情報の公表

本学は情報公開の促進を中期目標に掲げ、社会への説明責任を果たし、社会に開かれた大学を目指している。そのため大学の現況や教育・研究活動、組織・運営、人事、財務などに関する情報を、ホームページ（https://www.mie-u.ac.jp/）及び広報誌等を通じて社会に対し積極的に提供している。

以下の項目については本学ホームページ｜学校教育法施行規則第 172 条の 2 に基づく教育情報の公表 (https://www.mie-u.ac.jp/about/disclosure/annouce/)にて公表している。

ア　大学の教育研究上の目的に関すること ・基本的な目標および基本理念・目的
イ　教育研究上の基本組織に関すること ・組織図 ・教育研究上の基本組織の概要
ウ　教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること ・教員組織の概要 ・教員組織・教員数
エ　入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること ・入学者の受け入れ方針 ・入学定員、収容定員、在籍学生数、入学者数 ・卒業者数、進学者数、就職者数、就職先 ・主な就職・進路

オ　授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること ・ウェブシラバス ・取得可能な資格一覧 ・キャンパスカレンダー（学年暦）
カ　学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること ・卒業必要単位数、必修科目 ・成績評価、GPA 制度 ・授与する学位の名称
キ　校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること ・基本情報（校地・校舎面積） ・施設・整備 ・交通アクセス ・課外活動状況 ・休息が取れる環境・その他学修環境
ク　授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること ・授業料、入学料 ・授業料免除 ・学生寄宿舎寄宿料 ・施設利用料
ケ　大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること ・学生支援制度 ・奨学金制度 ・進路就職支援 ・国際交流センター
コ　学部・研究科等の設置計画に関する情報 ・設置計画等に関する情報
サ　その他 ・学則等 https://www.mie-u.ac.jp/koukai/kisoku/index.htm ・自己点検・評価書 https://www.mie-u.ac.jp/about/check/#15jikotenken ・大学機関別認証評価の結果 https://www.mie-u.ac.jp/about/check/#12ninsho

１６．教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学部では、ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動等を充実し、教員の教育力向上に向けた取り組みを展開するために、FD 委員会を主体に、教育内容等の継続的な改善を図る組織的な研修等の FD 活動を実施する。日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定プログラム教育、あるいは JABEE に準拠した教育を行っており、継続的に実施してきた本学部の FD 活動は、JABEE の求める教育改善のための PDCA サイクルに取り込まれた形で実施する。以下が本学部における組織的な主な活動である。

・授業改善アンケートの実施
・授業参観の実施
・新任教員等の講演会の実施
・FD 講演会の実施
・学外 FD 研修会（オンライン）の教員への案内
・授業改善アンケートの分析

全教員の全担当科目に対して学生による授業改善アンケートを実施し、フィードバックする。平成 17 年度に制定した教育貢献表彰制度において、授業改善アンケートの満足度で最も高い評価を得た科目の授業担当者の教員を回収件数に基づいて 3 件選出し、学部長より表彰を受ける。さらに、教育貢献表彰を受賞した教員による授業参観を実施し、優れた教育方法の共有化を図る。

新たに生物資源学部に着任した教員、または助教から准教授あるいは准教授から教授に昇任した教員が、その学期の間に自身の研究内容を本学部内の教職員等に紹介する講演会を実施する。この講演会の意義として、新任あるいは昇任教員が自身を本学部の構成員全体に紹介すること、研究内容を周知し本学部内の横断的な共同研究のきっかけを探ること、専門家以外の聴講者に対する研究プレゼンテーション能力の向上を図ることである。講演会は全体で約 50 分とし、質疑応答も含む。聴講者は、本学部内の全教職員と学部生・大学院生の希望者とし、多数が聴講可能となる昼休みに実施する。基本的には、大人数を収容できる会議室を会場として対面方式で実施するが、農場や演習林、水産実験所に勤務する聴講者の利便性を鑑み、オンラインでの実施も検討する。既往の実績から判断し、半期に 3～5 名程度が講演会を実施することが予定される。講演会の企画・運営は FD 委員会が実施し、講演会には学部長と FD 委員会委員長が必ず参加する。

教員が行う講義の授業参観を実施する。講義を行う教員と参観する教員はともに本学部内の教員を対象とする。授業参観によって、教員相互に講義手法を検証し、参観する教員は効果的な新しい講義手法を学ぶことができ、また講義担当教員は、通常では気づかない問題点や客観的な学生の反応等についての指摘を受けることで改善する機会を得ることができることが期待される。授業参観の企画・運営は、FD 委員会が行う。半期

ごとに各コースからそれぞれ１名、計３名の教員を選出し、各教員が実施している通常講義の１回を対象講義として授業参観を実施する。講義担当教員の選出は、各コースに一任されるができるだけ多くの教員が担当するように、過去の担当履歴から判断し、担当回数が少ない教員を積極的に選出することとする。また、学生による授業改善アンケートで高得点をとった講義を担当する教員を過去の担当履歴とは切り離して選出することも推奨する。それぞれの講義に対して、本学部教員から参観希望者を募ると同時に、各コース教員から 2、3 名の参観者を指名する。加えて、FD 委員会からも 2、3 名の委員が参観に加わる。講義担当教員と参観教員の日程を調整して計画するが、参観者の専門分野に関わらず、分野横断的に参観対象の講義を決定する。授業参観当日の講義前には参観者が集い、授業参観における注目ポイントや担当教員の特色等について事前ディスカッションを 20 分程度行う。授業参観中は、参観教員は聴講に徹し、各自が講義の進行過程、講義に用いる機材、講義の特色、着目点、講義を受けている学生の反応や態度等を記録する。講義後に講義担当教員と参観教員が集い、30 分程度をかけて、講義の特徴、優れている点、改善が必要な点についてディスカッションを行う。それらの内容は、参観した FD 委員が報告書にまとめ、本学部内で公開し、参観していない教員にも情報共有を行う。

１７．社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

（教育課程内の取組）

本学では、共通教育科目においてキャリア教育科目を開設しており、本学部の学生が履修している。本授業科目においては、在学中に学ぶべき授業科目や内容について、カリキュラムマップをもとに理解を深め、大学での学びが社会で求められる能力にどのように活かされるかを考えるとともに、学部の特性に応じた講義や講演、種々のグループ活動、社会見学、インターシップ等を通して社会が求める人材像を知り、自らのキャリアや将来像を構想するための内容となっている。

（教育課程外の取組）

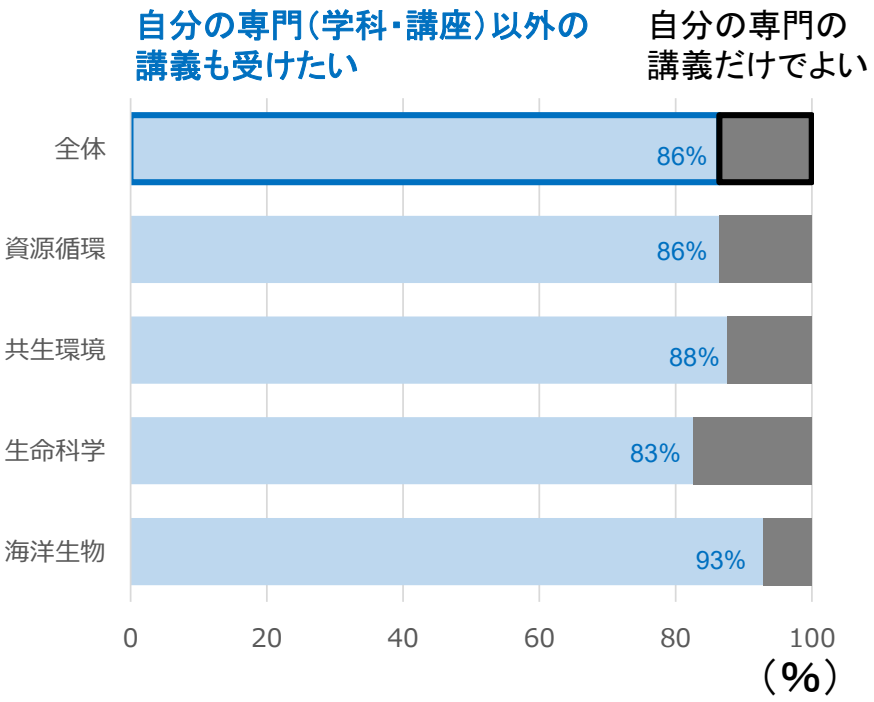
就職ガイダンス及びミニ講座を実施することで、実社会において活躍するために必要な能力とこれを身につけるための方法、指針を学生に提示する。これにより、学生の学習並びに自己研鑽の意欲を高め、就業に向けた職業観を養成するとともに、学生が自身のキャリアを自ら計画、設計するための能力を育成する。さらに、業界研究セミナーや企業説明会、企業説明会を実施し、就職相談（キャリアカウンセリング）を通して、学生が自らの生き方や将来の生活について具体的な展望を持つための支援を行う。

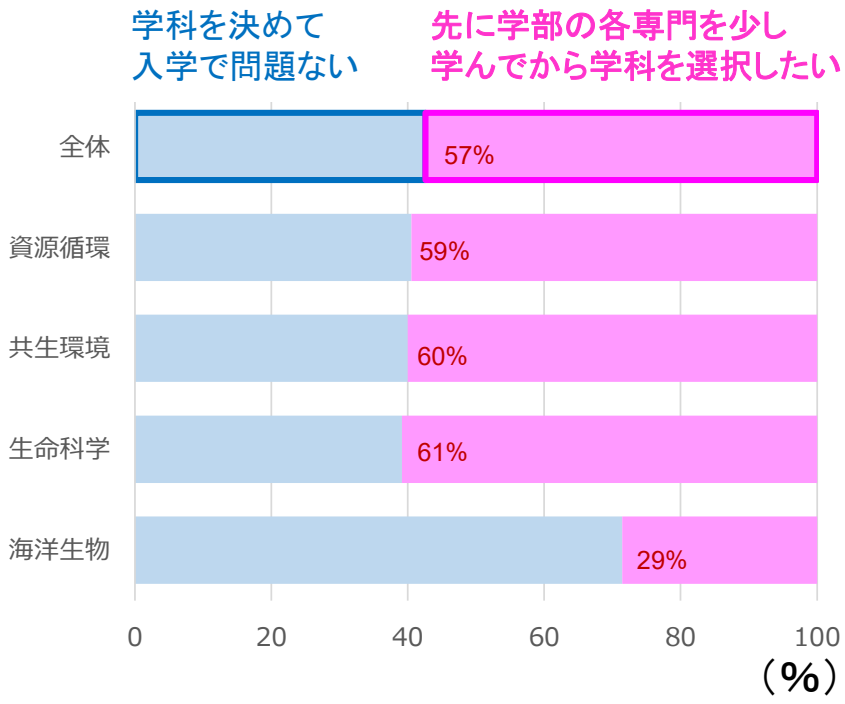
目次

【資料1】学生アンケートの結果
【資料2】生物資源学部の入学者受け入れ、学位授与、教育課程編成・実施の方針（DP、CP、AP）
【資料3】既存の組織との比較
【資料4】生物資源学部の教科課程のイメージ
【資料5】各コースの卒業に必要な単位数
【資料6】フードシステム構成9要素の基礎を学ぶ科目群と生物資源データサイエンス科目群
【資料7-1】農学専修のカリキュラムマップ
【資料7-2】森林科学専修のカリキュラムマップ
【資料7-3】農業工学専修のカリキュラムマップ
【資料7-4】海洋生物資源学コースのカリキュラムマップ
【資料7-5】海洋生命化学専修のカリキュラムマップ
【資料7-6】生命機能化学専修のカリキュラムマップ
【資料8】国立大学法人三重大学学則
【資料9】成績評価のガイドライン
【資料10-1】農林環境科学コースの履修モデル
【資料10-2】海洋生物資源学コースの履修モデル
【資料10-3】生命化学コースの履修モデル
【資料11】遠隔授業
【資料12-1】学外実習受入機関調書
【資料12-2】実施要領等
【資料12-3】連携・協力協定書
【資料13】取得可能な資格
【資料14】選抜方法
【資料15】教員組織の構成
【資料16】職員就業規則

【資料 1】学生アンケートの結果

生物資源学部 1 年生対象に 2021 年 11 月実施。回答率は全学生 260 名中 65%。
自分の専攻する専門科目に加え、生物資源・フードシステムに関わる基礎科目を広く修得する機会を希望する学生は多い。また、海洋生物資源学科以外の学科の学生からは、生物資源・フードシステムに関わる基礎科目を一通り受講後に自分に適した専門を選択したかったという声もある。





【資料 2】生物資源学部の入学者受け入れ、学位授与、教育課程編成・実施の方針（AP, DP, CP）

赤字：変更箇所

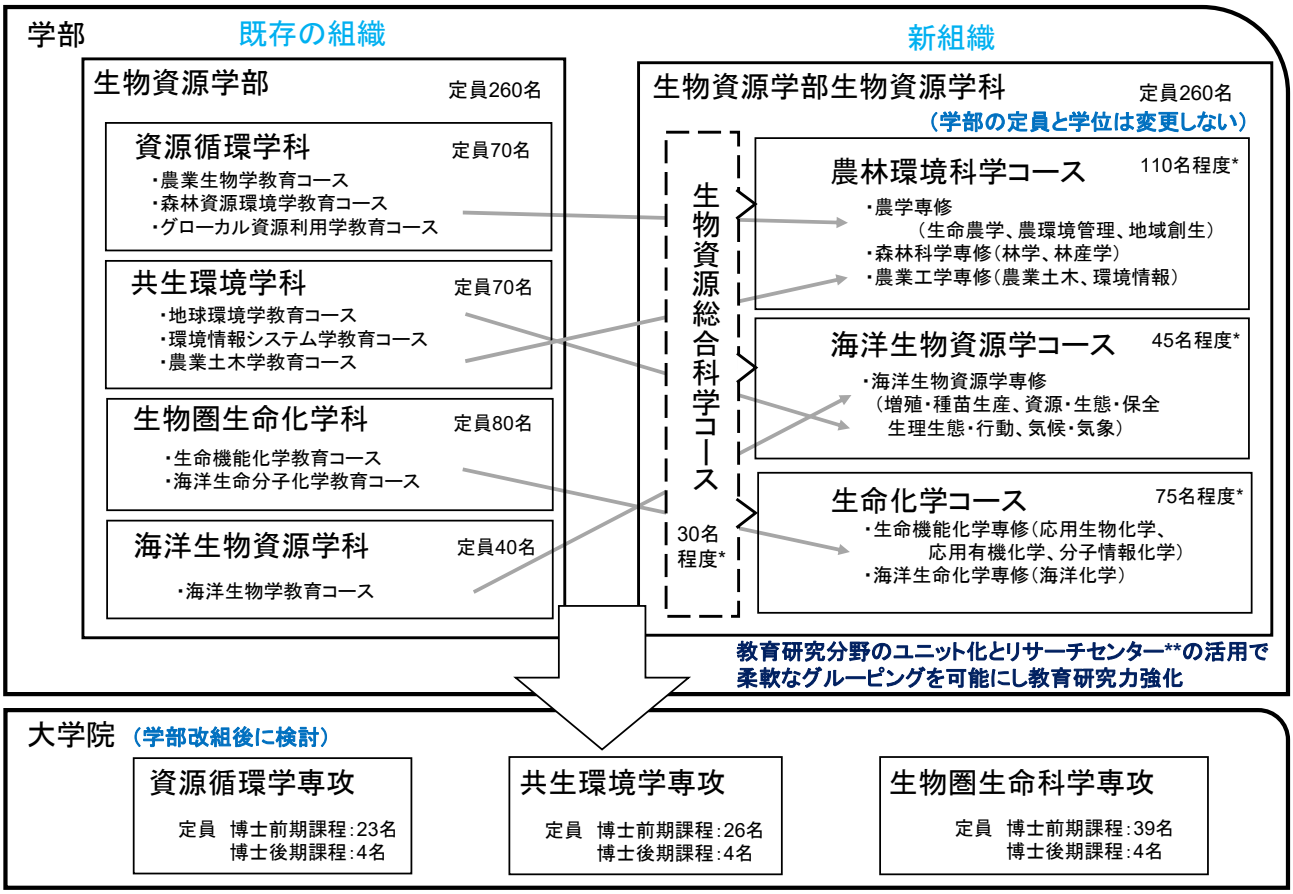
	改組前	改組後
DP	生物資源学部は、地域に根ざしたグローバルな視点に立ち、自然との共存を図り、生物資源の適正な開発・利用と保全を追求するための基礎的・応用的な科学技術に関する教育・研究成果を生み出すことを目指しています。幅広い講義や実験・実習を通し、独創性と専門性を兼ね備え、自らの力で問題解決ができる知識と能力を身につけた人材の育成を目標に掲げ、以下の能力を総合的に備えている人に学位を授与します。 ・幅広い教養と倫理観、国際感覚を身につけ、豊かな人間性を有している。 ・生命、環境、食料、健康等に関する生物資源学の基本的な知識と技術、経験を有している。 ・科学的で論理的な思考を展開することができ、計画的に問題の解決に取り組むことができる。 ・豊かなコミュニケーション能力を持ち、他者と協力して行動することができる。 ・社会の変化に柔軟かつ自律的に対応し、発展的に生きていくことができる。	生物資源学部は、食と農林水産・フードシステムに関わる俯瞰的な視点を持ちつつ、地域の豊かな自然から生み出される生物資源の適正な開発・利用・保全を追求し、データの論理的な分析に基づく科学技術に関する教育・研究成果を生み出すことで地域と世界に貢献することを目指しています。幅広い講義や実験・実習を通し、独創性と専門性を兼ね備え、自らの力で問題解決ができる知識と能力を身につけた人材の育成を目標に掲げ、以下の能力を総合的に備えている人に学位を授与します。 ・幅広い教養と倫理観、国際感覚を身につけ、豊かな人間性を有している。 ・生命、環境、食料、健康等に関する生物資源学の基本的な知識と技術、経験を有している。 ・科学的で論理的な思考を展開することができ、計画的に問題の解決に取り組むことができる。 ・豊かなコミュニケーション能力を持ち、他者と協力して行動することができる。 ・社会の変化に柔軟かつ自律的に対応し、発展的に生きていくことができる。
CP	＜教育内容＞ 生物資源学部は、地域に根ざしたグローバルな視点に立ち、自然との共存を図り、生物資源の適正な開発・利用と保全を追求するための基礎的・応用的な科学技術に関する教育・研究成果を生み出すことを目指した教育を行います。そのために、以下の４つの学科を設け、それぞれの教育目標を掲げています。	＜教育内容＞ 生物資源学部は、食と農林水産・フードシステムに関わる俯瞰的な視点を持ちつつ、地域の豊かな自然から生み出される生物資源の適正な開発・利用と保全を追求するための基礎的・応用的な科学技術に関する教育・研究成果を生み出すことを目指した教育を行います。

	資源循環学科 資源循環学科では、持続的な社会の基盤としての生物資源を環境に配慮した方法で循環的に利用するための、技術の開発や新しい社会のデザインをすることができる人材を育成することにより、調和のとれた循環型社会の構築に貢献することを目指しています。 共生環境学科 共生環境学科では、多様な生態系でなりたつ地球生命圏の環境、陸圏、海洋圏、大気圏が連動する複雑な地球生態システムを現場レベルで理解し、数理的に紐解くことで、人類、生物と自然環境が共生できる生物生産システムと持続可能な社会の実現を目指しています。 生物圏生命化学科 生物圏生命化学科では、多様な生物の代謝・物質・機能を解析することを通して生命化学の分野における幅広い知識と応用力を有する人材を育成することにより、人類の健康増進及び農林水産業の発展に貢献することを目指しています。 海洋生物資源学科 海洋生物資源学科では、海洋環境や海洋生物資源を取り巻く様々な問題に対して多面的な視野からの解決能力を有する人材を育成し、豊かな社会の実現に貢献することを目指しています。 以上の教育目標を達成するために、幅広い教養、国際理解の素養を身につける教養教育科目と、生命、環境、食料、健康等に関する生物資源学の基礎的な専門知識と科学技術を身につけるための専門教育科目が体系的、段階的に編成されています。	そのために幅広い教養、国際理解の素養を身につける共通教育科目と、生命、環境、食料、健康等に関する生物資源学の基礎的な専門知識と科学技術を身につけるための専門教育科目が体系的、段階的に編成されています。

	＜教育方法＞ 生物資源学部は、学士としての基盤能力と専門能力を総合的に備えている人材を養成するため、以下の方針に基づいたカリキュラムを編成し、実施します。 ・幅広い教養、国際理解の素養を身につけるために、外国語科目、人文社会科目、これに加えて初年次教育では自ら調査し他者と議論しながら意見を構築する科目を教養教育科目に用意している。豊かな人間性を育むため、倫理及び健康に関する科目も開設する。 ・生命、環境、食料、健康等に関する生物資源学の基礎知識と技術を身につけるため、理系基礎と専門教育に関する講義及びそれらを総合的に学ぶ実験・実習・演習を開設する。 ・科学的・論理的な思考を展開することや、計画的に問題解決に取り組む姿勢を養うため、フィールドを活用する実験・実習や卒業研究を課す。 ・コミュニケーション能力を高め、他者と協力してプロジェクトを推し進める能力を身につけるため、研究セミナー、卒業研究を課し、得られた成果を発表・討論する機会を設ける。 ・社会の変化に柔軟に対応し、自律的・発展的に行動することができるように、総合的な演習科目、学生参加型の講義やセミナー、PBL 型講義、アクティブラーニング、インターンシップへの参加などを通して、知識と経験の融合を目指します。	＜教育方法＞ 生物資源学部は、学士としての基盤能力と専門能力を総合的に備えている人材を養成するため、以下の方針に基づいたカリキュラムを編成し、実施します。 ・幅広い教養、国際理解の素養を身につけるため、外国語科目、人文社会科目、これに加えて初年次教育では自ら調査し他者と議論しながら意見を構築する科目を共通教育科目に用意している。豊かな人間性を育むため、倫理及び健康に関する科目も開設する。 ・複数の専門領域にまたがる普遍的な知識を身につけた地域を先導する人材の養成／育成を内包し、生命、環境、食料、健康等に関する生物資源学の知識と技術の礎となる基礎科目と専門基礎科目および専門応用科目と実験実習・演習を開設する。また、領域をまたいで得られた複合的な情報を適切に処理、解釈するため、データサイエンス科目を開設する。 ・科学的・論理的な思考の展開や、計画的に問題解決に取り組む姿勢を養うため、フィールドを活用する実験実習や卒業研究を課す。 ・コミュニケーション能力を高め、他者と協力してプロジェクトを推し進める能力を身につけるため、研究セミナー、卒業研究を課し、得られた成果を発表・討論する機会を設ける。 ・社会の変化に柔軟に対応し、複数の専門領域から得られた俯瞰的な知見を自律的・発展的な行動に結び付けることができるように、総合的な演習科目、学生参加型の授業やセミナー、PBL 授業などを通して、知識と経験の融合を図る。

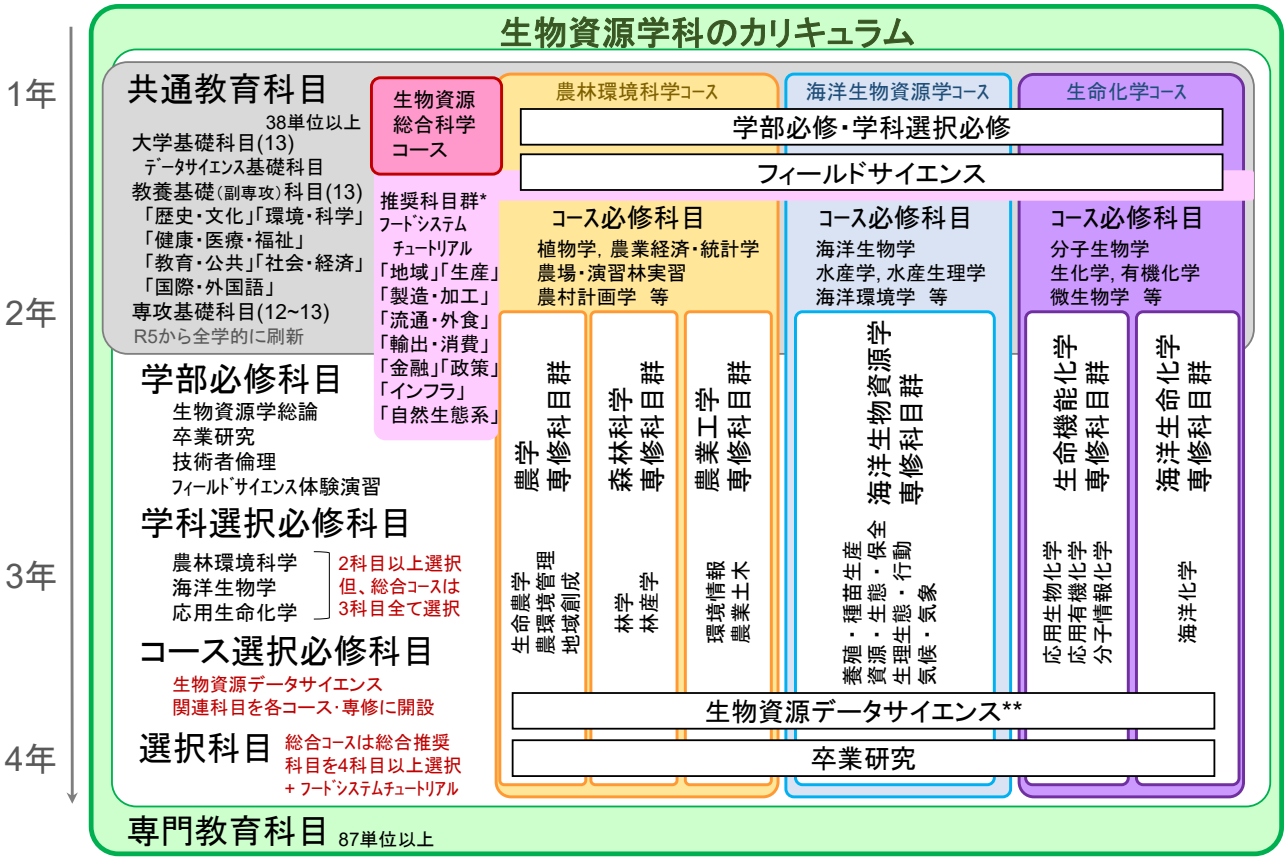
	＜学習成果の評価＞ 講義の成績は、定期試験・小テスト・レポートの成績などを組み合わせて評価します。発表型・協働型演習では、情報収集から問題解決及びプレゼンテーションまでの実践的な能力を多面的に評価します。実験・実習科目では、課題レポートや実験レポートなどを通じて、課題を科学的に思考し、その思考過程を論理的に表現できる能力を評価します。卒業研究は、課題設定、データの取得、適切な既往知見を引用した考察から結論に至る一連の課程とそれらを科学的で論理的な文章に構成する能力に対する評価に加え、発表会におけるプレゼンテーションや教員及び学生からの質疑応答に基づくコミュニケーション能力や問題解決能力を複数教員で評価します。	＜学習成果の評価＞ 講義の成績は、定期試験・小テスト・レポートの成績などを組み合わせて評価します。発表型・協働型演習では、情報収集から問題解決及びプレゼンテーションまでの実践的な能力を多面的に評価します。実験・実習科目では、課題レポートや実験レポートなどを通じて、課題を科学的に思考し、その思考過程を論理的に表現できる能力を評価します。卒業研究は、課題設定、データの取得、適切な既往知見を引用した考察から結論に至る一連の課程とそれらを科学的で論理的な文章に構成する能力に対する評価に加え、発表会におけるプレゼンテーションや教員及び学生からの質疑応答に基づくコミュニケーション能力や問題解決能力を複数教員で評価します。
AP	生物資源学部は、基礎的な学力と理解能力を備え、生物資源学を学ぶ者として求められる資質や探究心、直感力、基本的倫理観を有する者を受け入れます。 ・高等学校の教育課程において履修する内容を十分に理解し、高校卒業レベルの知識を有する人。 ・農林水産学を対象とした専門高校において専門科目を深く学び、優れた成績を修めた人。 ・入学後の就学に必要な基礎学力としての知識ならびに理解能力を有している人。 ・生命科学や農林水産学に関わる様々な現象に関心を持ち、生物資源の適正な開発・利用と保全とその展開に関心のある人。 ・自然と人が共生する持続的社会の創出を目指し、社会貢献に対する明確な目的意識を有する人。	生物資源学部は、基礎的な学力と理解能力を備え、生物資源学を学ぶ者として求められる資質や探究心、直感力、基本的倫理観を有する者を受け入れます。 ・高等学校の教育課程において履修する内容を十分に理解し、高校卒業レベルの知識を有する人。 ・農林水産学を対象とした専門高校において専門科目を深く学び、優れた成績を修めた人。 ・入学後の就学に必要な基礎学力としての知識ならびに理解能力を有している人。 ・生命科学や農林水産学に関わる様々な現象に関心を持ち、生物資源の適正な開発・利用と保全とその展開に関心のある人。 ・自然と人が共生する持続的社会の創出を目指し、社会貢献に対する明確な目的意識を有する人。

【資料 3】既存の組織との比較



* 入学当初の目安定員
**様々な分野の教員が新たな視点を持った研究や新技術の創生を目指す事を目的に構築する横断的な研究グループ

【資料 4】生物資源学部の教科課程のイメージ



* 総合推奨科目群：ﾌｰﾄﾞｼｽﾃﾑ構成各分野の基礎を学び、ﾌｰﾄﾞｼｽﾃﾑﾁｭｰﾄﾘｱﾙで様々な課題の検討方法を修得することで、俯瞰的対応力を身につける
** ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ教育：初年次に基礎知識を学び、高学年で専門的素養に基づき実践的方法を修得することで、各分野の課題に真に対応できる力を身につける
様々な分野の事例に適した生物資源ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ科目をﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰと選択

【資料 5】各コースの卒業に必要な単位数

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">所　属
科　目</th><th rowspan="2">生物資源
総合科学コース</th><th colspan="3">農林環境科学コース</th><th rowspan="2">海洋生物資源学
コース</th><th colspan="2">生命化学
コース</th></tr>
<tr><th>農学</th><th>森林
科学</th><th>農業
工学</th><th>海洋
生命</th><th>生命
機能</th></tr>
<tr><td colspan="2">共通教育科目</td><td>注1</td><td colspan="3">38</td><td>39</td><td colspan="2">39</td></tr>
<tr><td rowspan="5">専
門
教
育
科
目</td><td>学部必修科目</td><td colspan="7">9注2</td></tr>
<tr><td>学科選択必修科目</td><td>6注3</td><td colspan="3">4注4</td><td>4注4</td><td colspan="2">4注4</td></tr>
<tr><td>コース選択必修科目</td><td>注1</td><td>51注4</td><td>43注4</td><td>32注4</td><td>42注4</td><td>49注4</td><td>49注4</td></tr>
<tr><td>選択科目</td><td>注1</td><td>13注5</td><td>21注5</td><td>32注5</td><td>21注5</td><td>14注5</td><td>14注5</td></tr>
<tr><td>自由科目</td><td colspan="7">10</td></tr>
<tr><td colspan="2">計</td><td colspan="7">125</td></tr>
</table>

注1）2年次に配属されたコースによる
注2）学部必修科目には卒業研究4単位を含む
注3）6単位中2単位は2年次以降配属後のコースの選択科目に算入される。
注4）学科選択科目およびコース選択必修科目の履修単位を超えて修得した単位は選択科目に算入される。
注5）選択科目の履修単位を超えて修得した単位は自由科目に算入される。

【資料 6】フードシステム構成 9 要素の基礎を学ぶ科目群と生物資源データサイエンス科目群

生物資源各分野の専門知識を持ちながら俯瞰的知識を身につける

生物資源総合科学の学生を念頭におくが、
他コースの学生の受講を妨げない

食農バリューチェーンを内包するフードシステム構成各要素の専門的知識を身につけた上で、それらを俯瞰的に理解・活用・展開できる人材を育成するために

・1年次に三つの学科選択必修科目の全てを学びます。
・2~3年次の選択科目では、自らの専門に加え他のフードシステム構成要素の概要が分かる講義を４科目以上選択します。

【地域】農村WS運営実習，森林流域保全学，国際環境保全学，森林化学，食料・資源経済学，水産学総論，水産経済学
【生産】食料・資源経済学，農地工学，森林化学，水産学総論，水産経済学 **【製造・加工】**生物プロセス工学，木質資源工学，森林化学，食品衛生学，食料・資源経済学 **【流通・外食】**食品衛生学、食料・資源経済学、水産学総論、水産経済学
【輸出・消費】食料・資源経済学，水産学総論，水産経済学 **【金融】**食料・資源経済学 **【インフラ】**農業情報ネットワーク，水利施設工学，かんがい排水学，森林流域保全学 **【政策】**農村計画学，食料・資源経済学，水産学総論，水産経済学
【自然生態系】森林育成学，森林微生物機能学，森林化学，水産学総論，国際環境保全学
【統合】フードシステムチュートリアル，プログラミング，実践データサイエンス，環境系数学

・そして、2年後期にこれらの俯瞰的／横断型理解を促すPBL／チュートリアル型科目を1科目（フードシステムチュートリアル，FST）履修します。

SDGsが内包する社会科学的教育やSociety5.0に求められるバイオDX教育

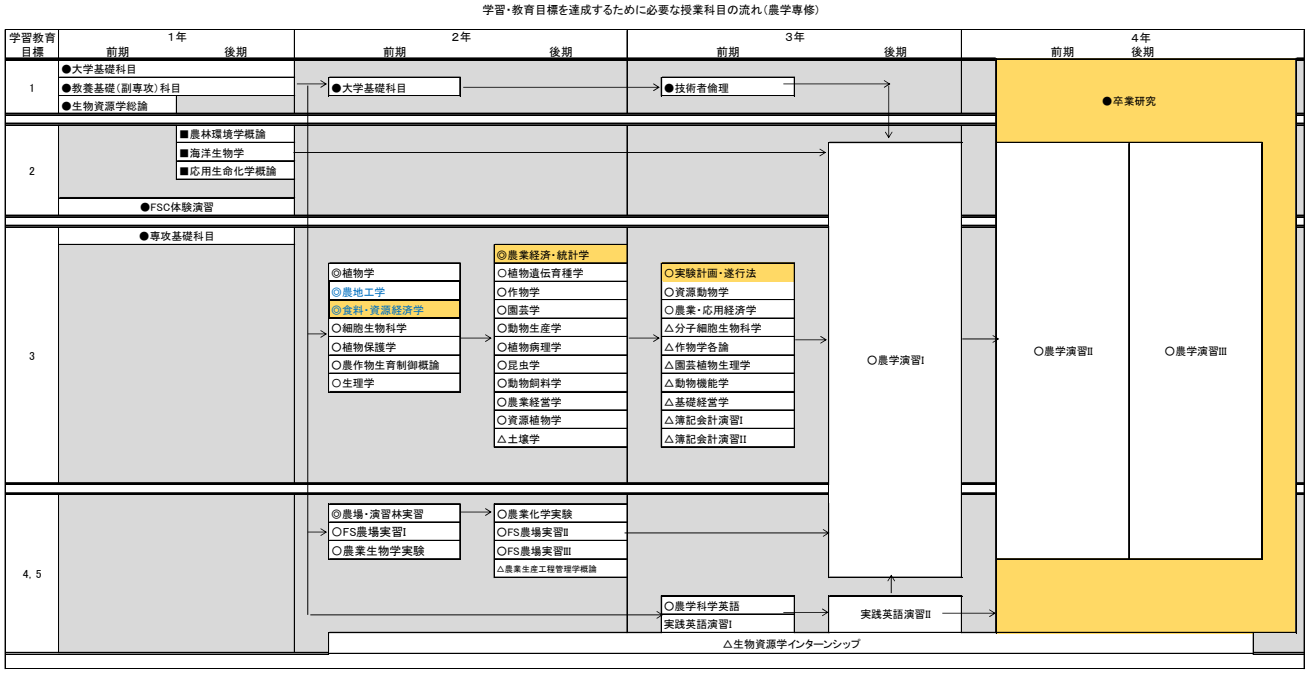
生物･生態系を取り巻く環境、食糧･食品や加工･プロセス、健康など、多様な生物資源を起点とするフードシステム全体にわたる多次元的なビッグデータを取得、読解き、専門性と関連付けて、応用、駆使できる人材を育成するために

・1年次の教養教育データサイエンスⅠとⅡでＤＸの基礎を学びます。
・専門教育を学びながら、2年次以降も継続的に各コースのデータサイエンス関連科目を履修します。

【生物資源データサイエンス科目群】 食料・資源経済学，実験計画・遂行法／応用数学，プログラミング，農業食料工学実習，実践データサイエンス，電気・電子工学，制御工学，生物情報工学，電子計測学，環境情報システム工学実習Ⅰ，環境情報システム工学実習Ⅱ，農業食料工学実験／環境系数学，数値計算法，農業情報ネットワーク，水文・農業気象学，土壌圏物質移動論，地球環境リモートセンシング，土壌物理学実験，CAD実習，測量学実習，測量応用実習／バイオインフォマティクス，生命機能化学実験Ⅰ~Ⅱ，海洋生命化学実験1～3，海洋生命化学実習／生物統計学，海洋学基礎，水産情報利用学，海洋個体群動態学，海洋気象数値解析演習，海洋観測航海実習，海洋科学実習，海洋情報学実習／卒業研究

・バイオDXは画一的なものではなく、分野や状況に応じて柔軟な考えが求められることからバイオDXアドバイザ（データサイエンスアドバイザ）を置き、入学当初、あるいは低学年半期毎に説明や個々にあった履修モデルを提案します。

【資料 7-1】農林環境科学コース（農学専修）のカリキュラムマップ

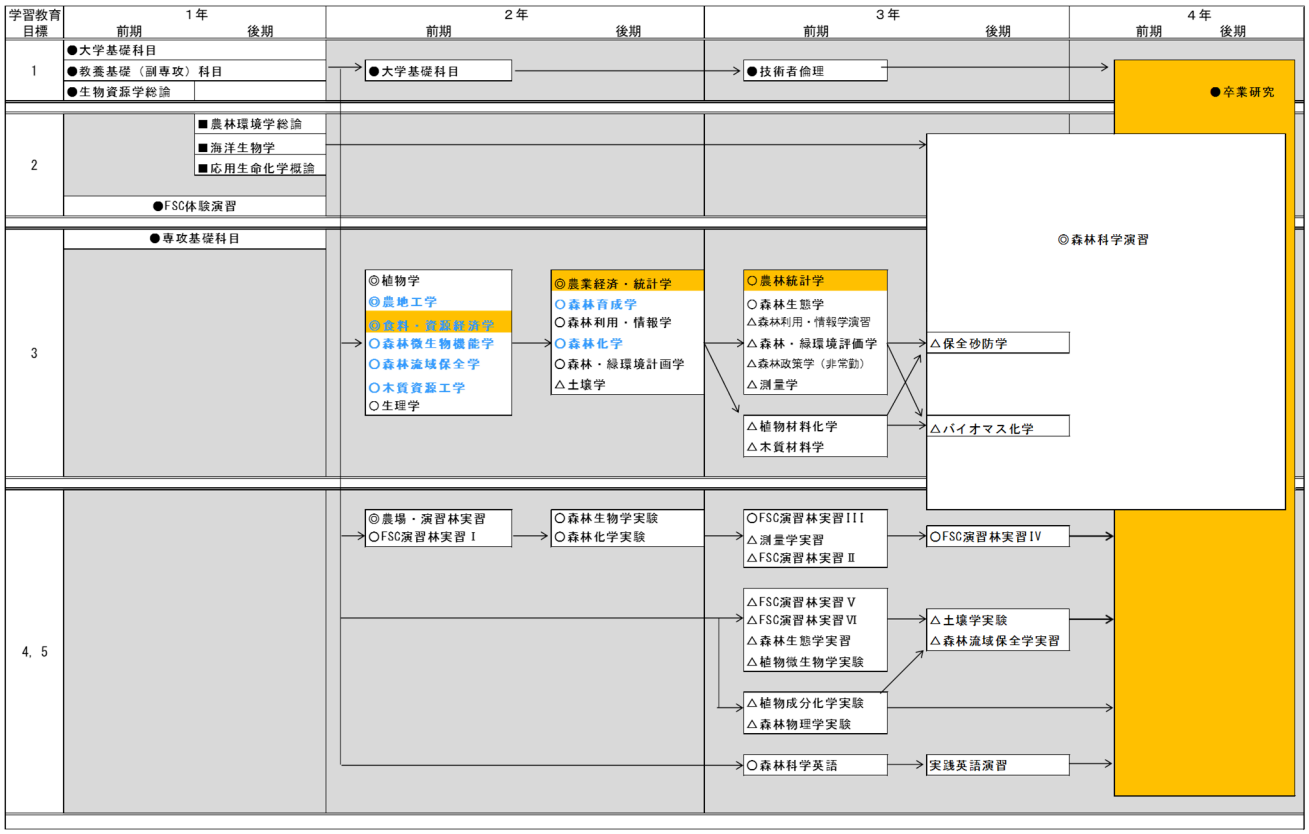


学習教育目標
(1) 幅広い教養と倫理観、国際感覚を身につけ、豊かな人間性を有している。
(2) 生命、環境、食料、健康等に関する生物資源学の基本的な知識と技術、経験を有している。
(3) 科学的で論理的な思考を展開することができ、計画的に問題の解決に取り組むことができる。
(4) 豊かなコミュニケーション能力を持ち、他者と協力して行動することができる。
(5) 社会の変化に柔軟かつ自律的に対応し、発展的に生きていくことができる。

●教養・学部必修
■学科選択必修
◎コース必修
○専修必修
△選択科目
生物資源DS科目
総合推奨科目

【資料 7-2】農林環境科学コース（森林科学専修）のカリキュラムマップ

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ（森林科学専修）

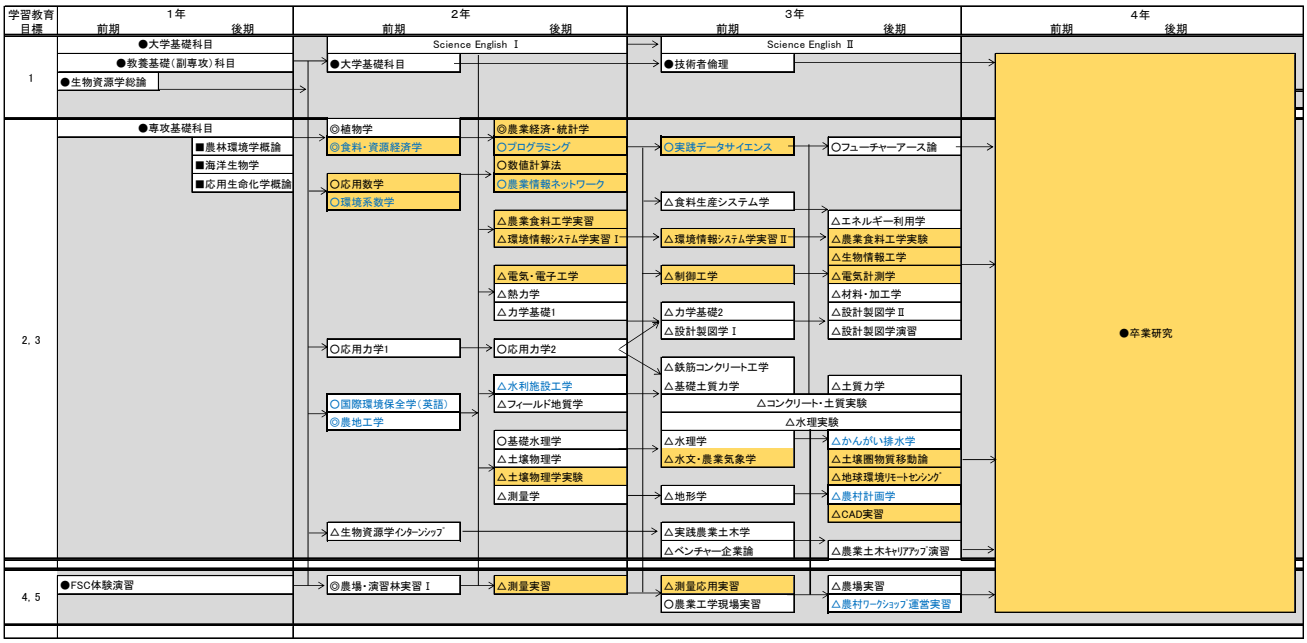


学習教育目標
(1) 幅広い教養と倫理観、国際感覚を身につけ、豊かな人間性を有している。
(2) 生命、環境、食料、健康等に関する生物資源学の基本的な知識と技術、経験を有している。
(3) 科学的で論理的な思考を展開することができ、計画的に問題の解決に取り組むことができる。
(4) 豊かなコミュニケーション能力を持ち、他者と協力して行動することができる。
(5) 社会の変化に柔軟かつ自律的に対応し、発展的に生きていくことができる。

●教養・学部必修
■学科選択必須
◎コース必修
○専修必修
△選択科目
生物資源DS科目
総合推奨科目

【資料 7-3】農林環境科学コース（農業工学専修）のカリキュラムマップ

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ（農業工学専修）

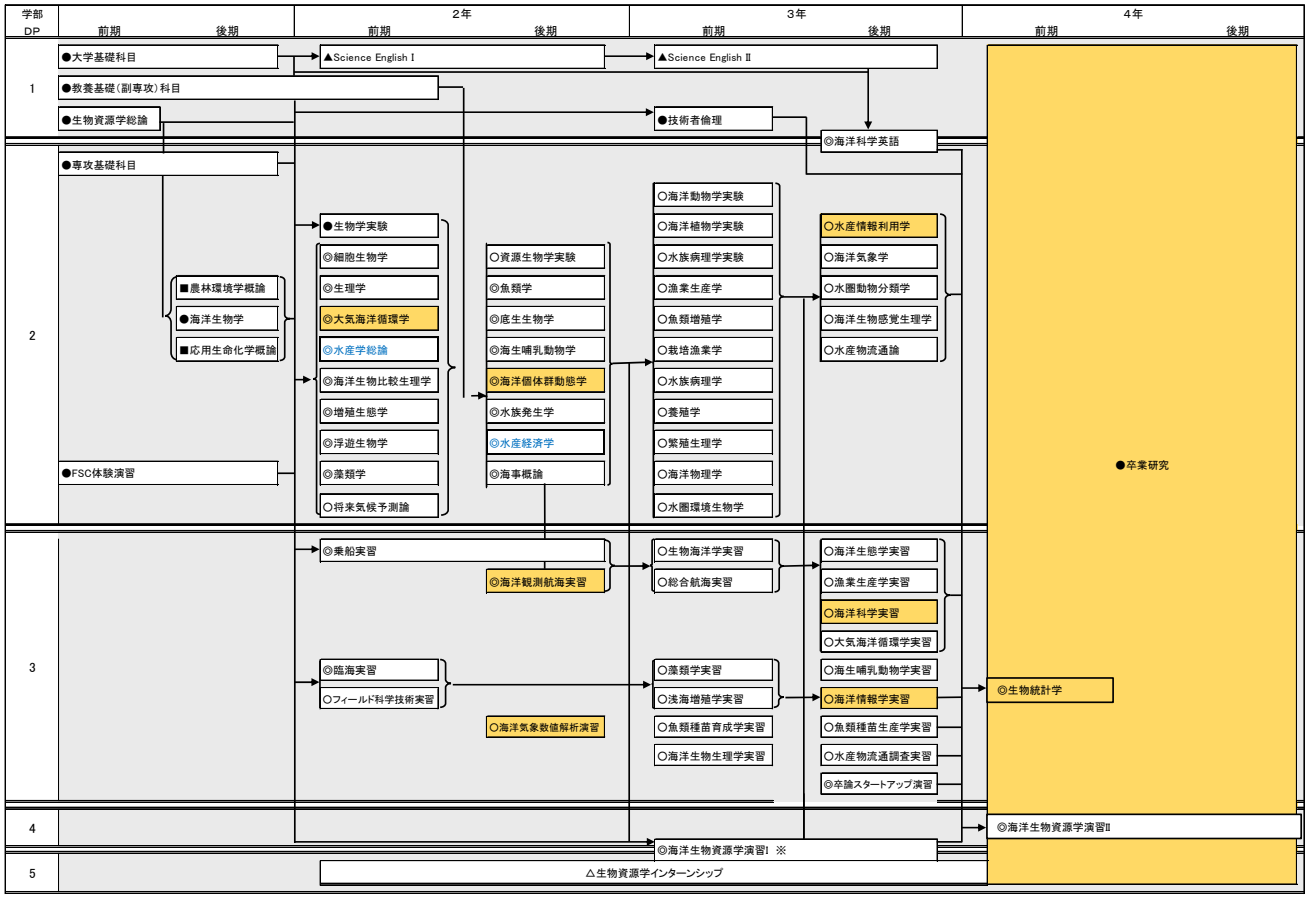


学習教育目標
(1) 幅広い教養と倫理観、国際感覚を身につけ、豊かな人間性を有している。
(2) 生命、環境、食料、健康等に関する生物資源学の基本的な知識と技術、経験を有している。
(3) 科学的で論理的な思考を展開することができ、計画的に問題の解決に取り組むことができる。
(4) 豊かなコミュニケーション能力を持ち、他者と協力して行動することができる。
(5) 社会の変化に柔軟かつ自律的に対応し、発展的に生きていくことができる。

●教養・学部必修
■学科選択必修
◎コース必修
○専修必修
△選択科目
生物資源DS科目
総合推奨科目

【資料 7-4】海洋生物資源学コースのカリキュラムマップ

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ（海洋生物資源）

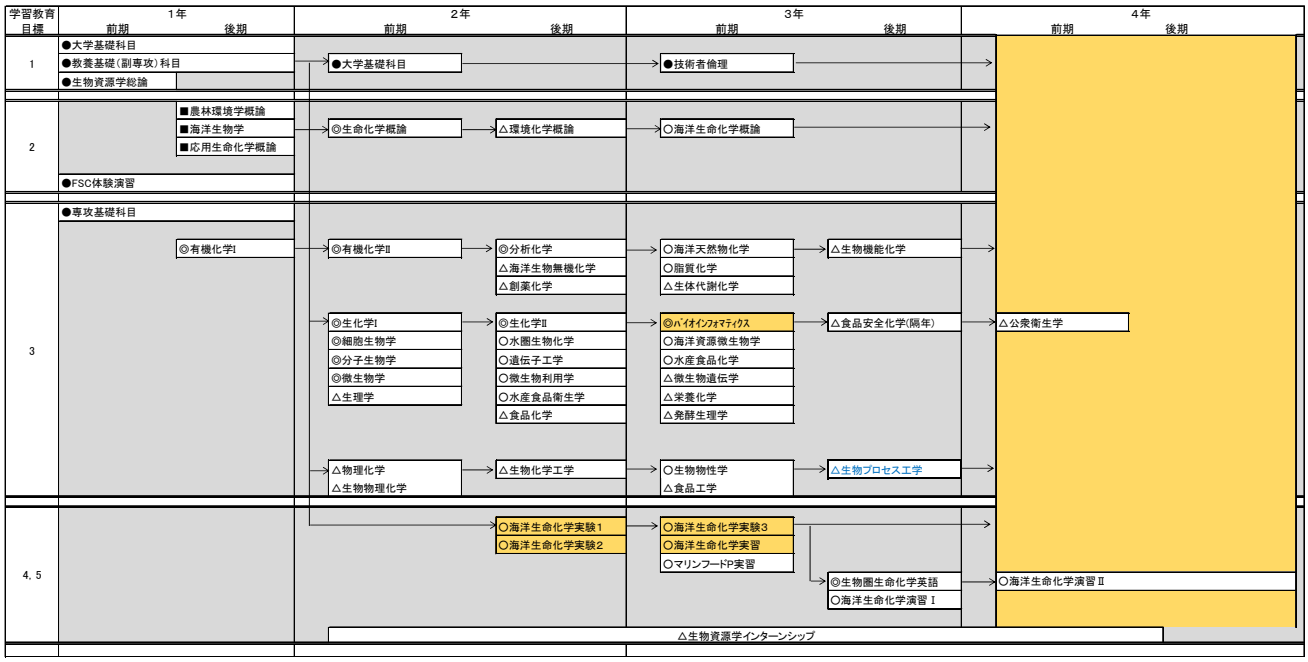


学習教育目標
(1) 幅広い教養と倫理観、国際感覚を身につけ、豊かな人間性を有している。
(2) 生命、環境、食料、健康等に関する生物資源学の基本的な知識と技術、経験を有している。
(3) 科学的で論理的な思考を展開することができ、計画的に問題の解決に取り組むことができる。
(4) 豊かなコミュニケーション能力を持ち、他者と協力して行動することができる。
(5) 社会の変化に柔軟かつ自律的に対応し、発展的に生きていくことができる。

●教養・学部必修
■学科選択必修
◎コース必修
○専修必修
△選択科目
生物資源DS科目
総合推奨科目

【資料 7-5】生命化学コース（海洋生命化学専修）のカリキュラムマップ

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ（海洋生命化学専修）



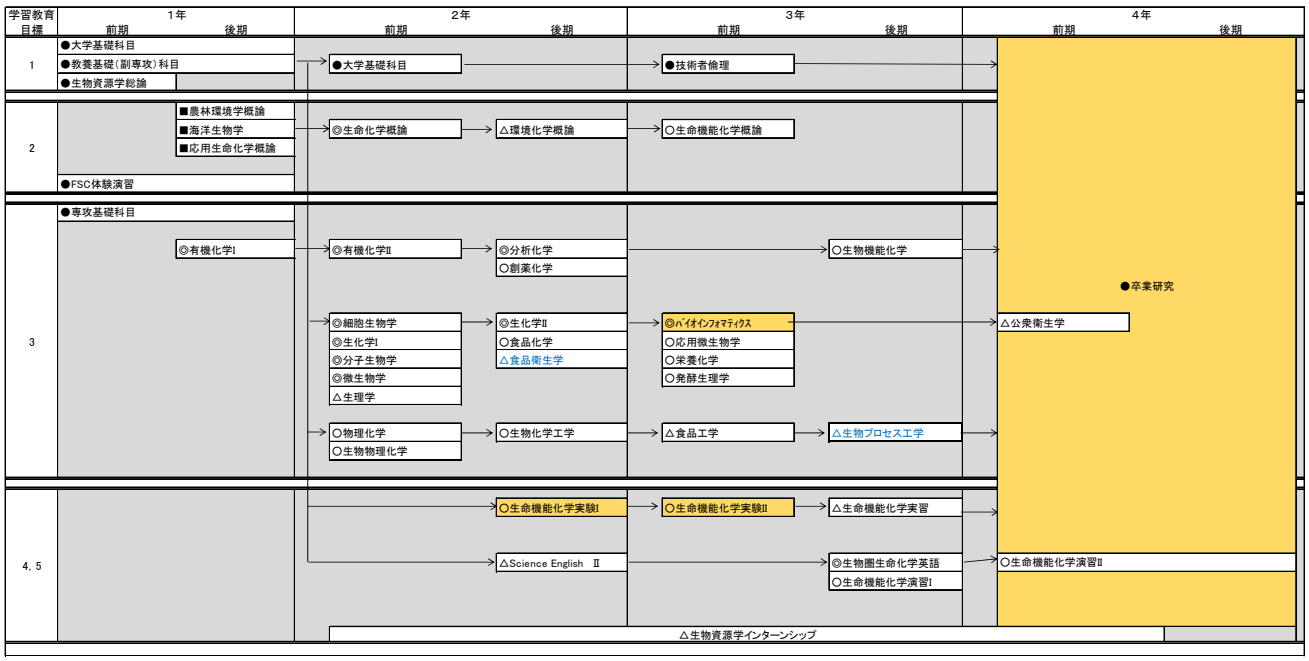
学習教育目標
(1) 幅広い教養と倫理観、国際感覚を身につけ、豊かな人間性を有している。
(2) 生命、環境、食料、健康等に関する生物資源学の基本的な知識と技術、経験を有している。
(3) 科学的で論理的な思考を展開することができ、計画的に問題の解決に取り組むことができる。
(4) 豊かなコミュニケーション能力を持ち、他者と協力して行動することができる。
(5) 社会の変化に柔軟かつ自律的に対応し、発展的に生きていくことができる。

●教養・学部必修
■学科選択必修
◎コース必修
○専修必修

△選択科目
生物資源DS科目
総合推奨科目

【資料 7-6】生命化学コース（生命機能化学専修）のカリキュラムマップ

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ（生命機能化学専修）



学習教育目標
(1) 幅広い教養と倫理観、国際感覚を身につけ、豊かな人間性を有している。
(2) 生命、環境、食料、健康等に関する生物資源学の基本的な知識と技術、経験を有している。
(3) 科学的で論理的な思考を展開することができ、計画的に問題の解決に取り組むことができる。
(4) 豊かなコミュニケーション能力を持ち、他者と協力して行動することができる。
(5) 社会の変化に柔軟かつ自律的に対応し、発展的に生きていくことができる。

●教養・学部必修
■学科選択必修
◎コース必修
○専修必修
△選択科目
生物資源DS科目
総合推奨科目

【資料8】三重大学学則

0国立大学法人三重大学学則

(平成16年4月16日学則第1号)

改正　平成17年1月20日学則　平成17年2月24日学則　平成17年2月24S学則
平成17年3月24日学則　平成17年3月29日学則　平成17年5月12日学則
平成17年9月29日学則　平成17年12月22日学則　平成18年3月23日学則
平成18年5月25日学則　平成18年9月28日学則　平成18年11月24日学則
平成19年3月29日学則　平成19年12月2m学則　平成20年3月27日学則
平成21年3月30日学則　平成22年2月25日学則　平成23年2月24日学則
平成23年12月22日学則　平成24年2月23日学則　平成24年9月27日学則
平成25年2月28日学則　平成26年3月27日学則　平成26年9月30日学則第1号
平成27年2月26日学則第1号　平成27年5月28日学則第1号　平成27年10月30日学則
平成28年3月24日学則第1号　平成28年7月20日学則第1号　平成28年9月29S学則第1号
平成29年2月23日学則　平成30年2月22日学則第1号　平成30年6月28日学則第1号
平成31年2月28日学則第1号　平成31年3月28日学則第1号　令和2年3月12日学則第1号
令和3年3月24日学則第1号　令和4年3月24日学則第1号　令和4年6月28日学則第1号
令和5年2月28日学則第1号

目次

第1章総則（第1条・第1条の2）
第2章大学の構成（第2条－第32条）
第3章修業年限，在学期間，学年，学期及び休業日（第33条－第38条）
第4章入学，休学，退学，転学，除籍及び賞罰（第39条－第58条）
第5章　教育課程及び教育職員免許（第59条－第71条）
第6章　卒業要件及び学位（第72条・第73条）
第7章授業料等（第74条－第87条）
第8章専攻生（第88条－第94条）
第9章科目等履修生（第95条－第101条）
第10章特別聴講学生（第102条－第104条）
第11章研究生（第105条－第112条）
第12章委託生（第113条－第115条）
第13章公開講座及び市民開放授業（第116条･第116条の2）
第14章厚生保健（第117条－第120条）
附則

第1章総則

(目的)

第1条　本学は，広く教養を与え，専門の学芸を教授研究し，科学及び技術の発展に努め，真理と正義を愛する人格を形成するとともに，人類の普遍的かつ地域の諸特性に応じた福祉と文化の進展に貢献することを目的とする。

第1条の2　学部，学科又は課程ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は，各学部において，別に定める。

第2章大学の構成

(学部，学科，課程及び収容定員)

第2条　本学に次の学部及び学科又は課程を置く。

人文学部	文化学科
	法律経済学科
教育学部	学校教育教員養成課程
医学部	医学科
	看護学科
工学部	総合工学科

生物資源学部 資源循環学科
共生環境学科
生物圏生命化学科
海洋生物資源学科

2　前項の各学部に置く学科及び課程の収容定員は，次のとおりとする。

学部	学科・課程	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
人文学部	文化学科	92	10	388
	法律経済学科	153	20	652
教育学部	学校教育教員養成課程	200		800
医学部	医学科	105		630
	看護学科	80	10	340
工学部	総合工学科	400	30	1660
生物資源学部	資源循環学科	70	3	286
	共生環境学科	70	3	286
	生物圏生命化学科	80	2	324
	海洋生物資源学科	40	2	164

3　学科及び課程に，教育・研究上の目的を達成するための教員組織として，講座又は学科目を置く。

4　講座及び学科目に関し必要な事項は，別に定める。

（大学院）

第3条　本学に大学院を置く。

2　大学院に関し必要な事項は，別に定める。

第4条　削除

（機構）

第5条　本学に次の機構を置く。

高等教育デザイン・推進機構
学生総合支援機構
情報教育・研究機構
みえの未来図共創機構
研究基盤推進機構

2　機構に関し必要な事項は，別に定める。

（地域拠点サテライト）

第5条の2　本学に地域拠点サテライトを置く。

2　地域拠点サテライトに関し必要な事項は，別に定める。

（情報ライブラリーセンター）

第6条　情報教育・研究機構に情報ライブラリーセンターを置く。

2　情報ライブラリーセンターに関し必要な事項は，別に定める。

（附属病院）

第7条　医学部に附属病院を置く。

2　附属病院に関し必要な事項は，別に定める。

（学内共同教育研究施設）

第8条　本学に次の学内共同教育研究施設を置く。

リカレント教育センター
国際交流センター
国際環境教育研究センター

2　学内共同教育研究施設に関し必要な事項は，別に定める。

（保健管理センター）
第9条　本学に保健管理センターを置く。
2　保健管理センターに関し必要な事項は，別に定める。
（学部附属の教育研究施設）
第10条　本学に次の学部附属の教育研究施設を置く。
　　教育学部　　教職支援センター
2　学部附属の教育研究施設に関し必要な事項は，別に定める。
（附属学校）
第11条　教育学部に次の附属学校を置く。
　　附属幼稚園，附属小学校，附属中学校，附属特別支援学校
2　附属学校に関し必要な事項は，別に定める。
第12条　削除
（事務組織）
第13条　本学に事務組織を置く。
2　事務組織に関し必要な事項は，別に定める。
（寄附講座等及び連携講座等）
第14条　学部，学部に置く学科及び課程並びに研究科，研究科に置く専攻その他本学に附属又は学部に附属する組織に，寄附講座及び寄附研究部門（以下「寄附講座等」という。）並びに産学官連携講座及び産学官連携研究部門（以下「連携講座等」という。）を設けることができる。
2　寄附講座等及び連携講座等に関し必要な事項は，別に定める。
（役員及び職員の種類）
第15条　本学の役員及び職員の種類は，次のとおりとする。
(1)　役員
　　学長
　　理事
　　監事
(2)　職員
　　教授
　　准教授
　　講師
　　助教
　　助手
　　校長
　　園長
　　教頭
　　主幹教諭
　　教諭
　　養護教諭
　　栄養教諭
　　教務職員
　　事務職員
　　技術職員
　　技能職員
　　医療職員
　　船員
（副学長）

第16条　本学に副学長を置き，本学の理事又は教授をもって充てる。
2　前項の規定にかかわらず，学長が特に必要と認める場合は，理事又は教授以外の者をもって充てることができる。
（学部長等）
第17条　各学部に学部長を置き，当該学部（教育学部にあっては，教育学研究科を含む。）の教授をもって充てる。
2　前項の規定にかかわらず，医学部，工学部及び生物資源学部にあっては，当該学部を基礎とする研究科の長をもって充てる。
（副学部長等）
第18条　各学部に副学部長を置き，当該学部（教育学部にあっては，教育学研究科を含む。）の教授をもって充てる。
2　前項の規定にかかわらず，医学部，工学部及び生物資源学部にあっては，当該学部を基礎とする研究科の副研究科長をもって充てる。
（学科長等）
第18条の2　各学科に学科長を置き，当該学科の教授をもって充てる。
2　前項の規定にかかわらず，医学部の各学科にあっては，医学系研究科の教授を，工学部の学科にあっては，工学研究科の教授を，生物資源学部の各学科にあっては，生物資源学研究科の教授をもって充てる。
（機構長）
第18条の3　各機構に機構長を置き，本学の理事又は副学長をもって充てる。
（地域拠点サテライト統括者）
第18条の4　地域拠点サテライトに統括者を置き，学長又は理事をもって充てる。
（情報ライブラリーセンター長）
第19条　情報ライブラリーセンターにセンター長を置き，本学の理事，副学長又は特命副学長をもって充てる。
（病院長）
第20条　附属病院に病院長を置く。
（副病院長）
第21条　附属病院に副病院長を置く。
（学内共同教育研究施設の長）
第22条　各学内共同教育研究施設に長を置き，本学の理事，副学長，教授又は准教授をもって充てる。
（保健管理センター所長）
第23条　保健管理センターに所長を置き，本学の教授又は准教授をもって充てる。
（学部附属の教育研究施設の長）
第24条　学部附属の教育研究施設に長を置き，当該学部（教育学部にあっては，教育学研究科を含む。）の教授又は准教授をもって充てる。
第25条及び第26条　削除
（役員会）
第27条　本学に役員会を置く。
2　役員会に関し必要な事項は，別に定める。
（学長選考・監察会議）
第28条　本学に学長選考・監察会議を置く。
2　学長選考・監察会議に関し必要な事項は，別に定める。
（経営協議会）
第29条　本学に経営協議会を置く。
2　経営協議会に関し必要な事項は，別に定める。

（教育研究評議会）
第30条　本学に教育研究評議会を置く。
2　教育研究評議会に関し必要な事項は，別に定める。
（委員会等）
第31条　本学に管理運営，教育研究に関する事項を審議する組織として，委員会その他必要な組織（以下「委員会等」という。）を置くことができる。
（教授会）
第32条　各学部に教授会を置く。
2　教授会に関し必要な事項は，別に定める。

第3章　修業年限，在学期間，学年，学期及び休業日

（修業年限）
第33条　学部の修業年限は，4年とする。ただし，医学部医学科の修業年限は，6年とする。
（在学期間の限度）
第34条　在学期間は，修業年限の2倍の年数を超えることができない。
2　前項の規定にかかわらず，第46条第1項から第3項までの規定により入学した者及び第47条第1項の規定により入学を許可された者（以下「編入学者等」という。）は，それぞれ第46条第5項及び第47条第3項の規定により定められた在学すべき年数の2倍の年数を超えて在学することはできない。
（長期にわたる教育課程の履修）
第35条　学生が，職業を有している等の事情により，第33条に規定する修業年限を超えて計画的に教育課程を履修し卒業する旨を申し出たときは，その計画的な履修（以下「長期履修」という。）を認めることができる。
2　長期履修の期間は，入学時から通算して8年以内とする。
3　長期履修の在学期間は，入学時から通算して12年を超えることができない。
4　長期履修に関し必要な事項は，別に定める。
（学年）
第36条　学年は，4月1日に始まり，翌年3月31日に終わる。
（学期）
第37条　学年を分けて，次の2学期とする。
前期　4月1日から9月30日まで
後期　10月1日から翌年3月31日まで
（休業日）
第38条　休業日は，次のとおりとする。
日曜日，土曜日及び国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に定める休日
春季休業　4月1日から4月10日まで
夏季休業　8月1日から9月30日まで
冬季休業　12月21日から翌年1月10日まで
2　学長は，必要により前項の休業日を変更し，又は休業日の期間中においても授業，実験，実習を課することがある。
3　臨時休業日は，学長がその都度定める。

第4章　入学，休学，退学，転学，除籍及び賞罰

（入学の時期）
第39条　学生の入学時期は，学年の始めとする。ただし，学年の途中においても，学期の区分に従い，学生を入学させることができる。

（入学資格）
第40条　本学に入学することのできる者は，次の各号のいずれかに該当する者とする。
(1)　高等学校又は中等教育学校を卒業した者
(2)　通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外により，これに相当する学校教育を修了した者
(3)　外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
(4)　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
(5)　専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
(6)　文部科学大臣の指定した者
(7)　高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号。以下「旧規程」という。）による大学入学資格検定（以下「旧検定」という。）に合格した者を含む。）
(8)　学校教育法（昭和22年法律第26号）第90条第2項の規定により大学に入学した者であって，本学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
(9)　本学において，個別の入学資格審査により，高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，18歳に達したもの
2　前項の規定にかかわらず，次の各号のいずれかに該当する者であって，特に優れた資質を有すると認めるものを，入学させることができる。
(1)　高等学校に2年以上在学した者
(2)　中等教育学校の後期課程，高等専門学校又は特別支援学校（学校教育法等の一部を改正する法律（平成18年法律第80号）第1条の規定による改正前の学校教育法第1条に規定する盲学校，聾学校又は養護学校を含む。）の高等部に2年以上在学した者
(3)　外国において，学校教育における9年の課程に引き続く学校教育の課程に2年以上在学した者
(4)　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設（高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定したものを含む。）の当該課程に2年以上在学した者
(5)　前項第5号の規定により文部科学大臣が別に指定する専修学校の高等課程に同号に規定する文部科学大臣が定める日以後において2年以上在学した者
(6)　文部科学大臣が指定した者
(7)　高等学校卒業程度認定試験規則第4条に定める試験科目の全部（試験の免除を受けた試験科目を除く。）について合格点を得た者（旧規程第4条に規定する受検科目の全部（旧検定の一部免除を受けた者については，その免除を受けた科目を除く。）について合格点を得た者を含む。）で，17歳に達したもの
（入学志願手続）
第41条　入学を志願する者は，入学願書に検定料並びに別に指定する書類を添えて提出しなければならない。
（入学者の選考）

第42条　入学志願者については，選考の上，当該学部教授会の議を経て，学長が合格者を決定する。
2　入学者の選考に関しては，別に定める。
（入学手続）
第43条　前条の選考に合格した者は，所定の期日までに，誓約書その他指定の書類を提出するとともに，入学料を納付しなければならない。
（入学許可）
第44条　学長は，前条の入学手続を終えた者に対し，入学を許可する。
2　第86条により入学料の免除又は徴収猶予を願い出た者の入学料に関しては，その免除願又は徴収猶予願の受理をもって入学手続を終えた者とみなし，入学を許可する。
（既納料の返還）
第45条　既納の検定料及び入学料は，返還しない。
2　前項の規定にかかわらず，第41条の規定に基づいて検定料を納付した者のうち，2段階選抜における第1段階選抜で不合格となった者及び個別学力検査の出願受付後に大学入学共通テスト受験科目の不足等による出願無資格者であることが判明した者に対しては，検定料のうち別表第1に定める額を返還する。ただし，第1段階選抜において，出願書類のほかに学力検査等を実施する場合を除く。
3　学校推薦型選抜，総合型選抜，帰国生徒の特別選抜，社会人の特別選抜及び第2次募集の各選抜において，2段階選抜を行った場合は，前項の規定を準用する。
4　前2項に規定するもののほか，大規模な風水害等の災害を受ける等やむを得ない事情があると学長が特に認めた場合は，既納の検定料相当額を返還することができる。
（3年次編入学）
第46条　人文学部，工学部及び生物資源学部の3年次に編入学することのできる者は，次の各号のいずれかに該当する者とする。
(1)　大学を卒業した者又は学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
(2)　学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）附則第7条の規定による者
(3)　大学の2年課程修了者及び短期大学卒業者
(4)　外国の短期大学を卒業した者及び外国の短期大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を我が国において修了した者（学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。）
(5)　高等専門学校，国立養護教諭養成所及び国立工業教員養成所のいずれかを卒業した者
(6)　学校教育法第132条の規定による専修学校の専門課程を修了した者
(7)　大学に2年以上在学し，所定の単位を修得した者
(8)　学校教育法第58条の2の規定による高等学校の専攻科の課程を修了した者
2　人文学部及び工学部の3年次に編入学することのできる者は，前項各号のいずれかに該当する者のほか，別に定める者とする。
3　医学部看護学科の3年次に編入学することのできる者は，次の各号のいずれかに該当する者とする。
(1)　短期大学の看護に関する学科を卒業した者
(2)　学校教育法第132条の規定による専修学校の専門課程のうち看護に関する課程を修了した者

(3)　学校教育法第５８条の２の規定による高等学校の専攻科の課程のうち看護に関する課程を修了した者

4　編入学した者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱いについては，当該学部教授会の議を経て学部長が決定する。

5　編入学した者の在学すべき年数は，2年とする。

(再入学，転入学，編入学及び転学部)

第47条　学長は，次の各号のいずれかに該当する者につき欠員のある場合，入学又は転学部(以下「入学等」という。)を許可することがある。

(1)　本学を退学した者又は除籍された者で同一学部に再入学を志願するもの

(2)　他大学の学生で当該学部長又は学長の承認を得て本学に転入学を志願する者

(3)　我が国において，外国の大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程に在学する者(学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。)で本学に転入学を志願するもの

(4)　大学を卒業した者又は学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者で本学に編入学を志願するもの

(5)　学校教育法施行規則附則第7条の規定により，本学に編入学を志願する者

(6)　大学の2年課程修了者及び短期大学卒業者にして本学に編入学を志願する者

(7)　高等専門学校，国立養護教諭養成所及び国立工業教員養成所のいずれかを卒業した者で本学に編入学を志願するもの

(8)　学校教育法第132条の規定による専修学校の専門課程を修了した者で本学に編入学を志願するもの

(9)　外国の短期大学を卒業した者及び外国の短期大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を我が国において修了した者(学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。)で本学に編入学を志願するもの

(10)　学校教育法第58条の2の規定による高等学校の専攻科の課程を修了した者で本学に編入学を志願するもの

(11)　本学の学生で，転学部を志願する者

2　前項の規定により入学等を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱いについては，当該学部教授会の議を経て学部長が決定する。

3　第1項の規定により入学等を許可された者の在学すべき年数については，当該学部教授会の議を経て学長が決定する。

第48条　前2条の規定による入学志願者については，第41条から第45条までの規定を適用する。

(留学)

第49条　学生が，外国の大学(専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下同じ。)又は外国の短期大学に留学を志願する場合は，学長に願い出て，その許可を受けなければならない。

2　前項の場合，学長は，当該学部教授会の議を経てこれを許可する。

3　留学した期間は，第33条の修業年限に含まれるものとする。

(休学)

第50条　疾病又はその他の理由により3月以上修学することができない者は，休学願により，学長に願い出なければならない。この場合において，休学の理由が疾病であるときは，医師の診断書を添えるものとする。

2　前項の場合，学長は，当該学部教授会の議を経てこれを許可する。
3　疾病のため修学することが適当でないと認められる者については，学長は，当該学部教授会の議を経て，休学を命ずることができる。
（休学期間）
第51条　休学期間は，1年以内とする。ただし，相当の理由がある場合は，引き続き休学することができる。
2　休学期間は，通算して修業年限（編入学者等にあっては，在学すべき年数とする。以下同じ。）の年数を超えることができない。ただし，特別の理由があり，学生の修学に支障がある場合は，この限りでない。
3　休学期間は，在学期間の年数に算入しない。
（復学）
第52条　休学期間が満了する場合又は休学期間中にその理由が消滅した場合は，復学願により，学長に願い出なければならない。この場合において，休学の理由が疾病であったときは，医師の診断書を添えるものとする。
2　前項の場合，学長は，当該学部教授会の議を経てこれを許可する。
（退学）
第53条　退学しようとする者は，退学願により，学長に願い出なければならない。
2　前項の場合，学長は，当該学部教授会の議を経てこれを許可する。
（転学）
第54条　学生が，転学しようとするときは，事由を詳記して学長に願い出て，その許可を受けなければならない。
2　前項の場合，学長は，当該学部教授会の議を経てこれを許可する。
（除籍）
第55条　学生が，次の各号のいずれかに該当する場合，学長は，当該学部教授会の議を経て除籍する。
(1)　長期間にわたり行方不明のとき。
(2)　第34条の規定に定める在学期間の限度を超えたとき。
(3)　第51条の規定に定める休学期間を超えてなお復学できないとき。
(4)　入学料の免除又は徴収猶予を願い出て，免除又は徴収猶予が不許可になった者又は一部の免除を許可された者で所定の期日までに，納付すべき入学料を納付しないとき。
(5)　授業料の納付を怠り督促を受けてもなお納付しないとき。
（表彰）
第56条　学生にして学業又はその行為が他の模範とするに足ると認めた者があるときは，学長は，当該学部教授会又は委員会等の議を経てこれを表彰することがある。
（懲戒）
第57条　学生が，本学の規則に違反し，又は学生としての本分に反する行為をしたときは，学長は，当該学部教授会の議を経てこれを懲戒する。
2　懲戒は，戒告，停学及び放学とする。ただし，放学は，次の各号のいずれかに該当する場合に限り命ずることがある。
(1)　学業を怠り成業の見込みのないとき。
(2)　性行不良で改善の見込みがないと認められたとき。
(3)　正当な理由なく出席常でないとき。
(4)　本学の秩序を乱し，その他学生の本分に反したとき。
（停学期間の取扱い）

第58条　停学期間が2か月以上に及ぶとき，その期間は，修業年限の年数に算入しない。
2　停学期間は，在学期間の年数に算入する。

第5章　教育課程及び教育職員免許

（教育課程の編成方針）
第59条　本学は，学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に基づき，必要な授業科目を自ら開設し，体系的に教育課程を編成する。
2　教育課程の編成に当たっては，本学は，学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに，幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い，豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮する。
（特別の課程の編成）
第59条の2　本学は，前条に規定するもののほか，学校教育法第105条の規定に基づき，本学の学生以外の者を対象とした特別の課程を編成することができる。
2　前項の特別の課程の編成に関し必要な事項は，別に定める。
（授業科目）
第59条の3　授業科目は，共通教育科目及び専門教育科目とする。
（授業科目等の特例）
第60条　外国人留学生（大学において教育を受ける目的をもって入国し，本学に入学した外国人留学生をいう。以下同じ。）の教育について必要があると認めるときは，前条に規定するもののほか，日本語科目及び日本事情に関する科目を開設することができる。
第61条　外国人留学生以外の学生で外国において相当の期間中等教育（中学校又は高等学校に対応する学校における教育をいう。）を受けたものの教育について必要があると認めるときは，前条の規定を準用する。
（単位の計算方法）
第62条　授業科目の単位の計算方法は，1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，第64条第1項に規定する授業の方法に応じ，当該授業による教育効果，授業時間外に必要な学修等を考慮して，次の基準によって計算する。
(1)　講義及び演習については，おおむね15時間から30時間までの範囲で，学部等が定める時間の授業をもって1単位とする。
(2)　実験，実習及び実技については，おおむね30時間から45時間までの範囲で，学部等が定める時間の授業をもって1単位とする。ただし，芸術等の分野における個人指導による実技の授業については，学部等が定める時間の授業をもって1単位とすることができる。
(3)　一の授業科目について，講義，演習，実験，実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合については，その組み合わせに応じ，前2号に規定する基準を考慮して学部等が定める時間の授業をもって1単位とする。
2　前項の規定にかかわらず，卒業研究等の授業科目については，これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には，これらに必要な学修等を考慮して，単位数を定めることができる。
（単位の授与）
第63条　授業科目を履修した学生に対しては，試験その他の学部等が定める適切な方法により学修の成果を評価し，合格した者に単位を与える。
（授業の方法）

第64条　授業は，講義，演習，実験，実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。
2　前項の授業は，文部科学大臣が定めるところにより，多様なメディアを高度に利用して，当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
3　第1項の授業は，外国において履修させることができる。前項の規定により，多様なメディアを高度に利用して，当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても，同様とする。
（履修方法）
第65条　学部の授業科目，単位数，履修方法（履修科目登録単位数の上限設定を含む。）及び考査に関することは，学部規程でこれを定める。
2　前項に規定するもののほか，共通教育科目に関し必要な事項は，別に定める。
（他学部の授業科目の履修）
第66条　他学部の授業科目を履修しようとする者は，所属学部長を経て当該学部長の許可を受けなければならない。
（他の大学（専門職大学を含む。）又は短期大学における授業科目の履修等）
第67条　教育上有益と認めるときは，学生が別に定めるところにより他の大学（専門職大学を含む。以下同じ。）又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を，学部教授会の議を経て60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
2　前項の規定は，学生が，第49条の規定により留学する場合，外国の大学又は外国の短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は外国の短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。
（大学以外の教育施設等における学修）
第68条　教育上有益と認めるときは，学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を，学部教授会の議を経て本学における授業科目の履修とみなし，単位を与えることができる。
2　前項により与えることができる単位数は，前条第1項及び第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
（休学期間中の外国の大学等における修得単位の取扱い）
第68条の2　教育上有益と認めるときは，学生が休学期間中に外国の大学又は外国の短期大学において修得した単位について，第67条第1項の規定を準用する。
2　前項により修得したものとみなすことのできる単位数は，第67条第1項及び第2項並びに前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
（入学前の既修得単位等の認定）
第69条　教育上有益と認めるときは，学生が本学に入学する前に大学（専門職大学を含む。）又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）第31条第1項に規定する科目等履修生及び同条第2項に規定する特別の課程履修生（いずれも本学の学生以外の者に限る。）として修得した単位を含む。）を，学部教授会の議を経て本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
2　前項の規定は，第67条第2項の場合に準用する。

3　教育上有益と認めるときは，学生が本学に入学する前に行った第68条第1項に規定する学修を，学部教授会の議を経て本学における授業科目の履修とみなし，単位を与えることができる。
4　前3項の規定により修得したものとみなし，又は与えることのできる単位数は，第46条第4項及び第47条第2項に規定する場合を除き，本学において修得した単位以外のものについては，第67条第1項及び第2項並びに第68条第1項並びに前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
（入学前に一定の単位を修得した者の修業年限の通算）
第70条　学校教育法第88条に規定する修業年限の通算は，第59条の2に基づき編成された特別の課程の履修生又は第95条に規定する科目等履修生（いずれも本学の学生以外の者に限る。）として本学において一定の単位を修得した者に対し，前条第1項の規定により本学に入学した後に修得したものとみなすことのできる当該単位数，その修得に要した期間その他本学が必要と認める事項を勘案し，学部教授会の議を経て学長が決定する。
（成績評価基準等の明示等）
第70条の2　本学は，学生に対して，授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。
2　本学は，学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては，客観性及び厳格性を確保するため，学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに，当該基準にしたがって適切に行うものとする。
（教育内容等の改善のための組織的な研修等）
第70条の3　本学は，学生に対する教育の充実を図るため，授業の内容及び方法を改善するための組織的な研修及び研究を行うものとする。
（教育職員の免許）
第71条　教員の免許状を受けるための所要資格を取得しようとする者は，教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める所要の単位を修得しなければならない。
2　本学の学部の学科又は課程において，教員の免許状を受けるための所要資格を取得できる免許状の種類及び免許教科又は特別支援教育領域は，別表第2のとおりとする。

第6章　卒業要件及び学位

（卒業要件）
第72条　卒業要件は，第33条に規定する修業年限を満たし，学部規程で定める授業科目を履修し，所定の単位数を修得するものとする。ただし，本学（医学部医学科を除く。）に3年以上在学し，学校教育法第89条に規定する場合には，その卒業を認めることができる。
2　前項の規定により卒業要件として修得すべき単位数のうち，第64条第2項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。ただし，124単位を超える単位数を卒業要件としている場合は，同条第1項の授業の方法により64単位以上の修得がなされていれば，60単位を超えることができる。
（学位）
第73条　卒業した者には，学士の学位を授与する。
2　学位について必要な事項は，本学学位規則の定めるところによる。

第7章　授業料等

（授業料，入学料及び検定料の額）

第74条　授業料，入学料及び検定料の額は，別表第3に定めるところによる。
（授業料の徴収方法）
第75条　授業料は，年額の2分の1ずつを次の2期に分けて納付しなければならない。
前期（4月から9月まで）　　納期　4月中
後期（10月から翌年3月まで）　納期　10月中
2　前項の規定にかかわらず，学生の申出があったときは，前期に係る授業料を徴収するときに，当該年度の後期に係る授業料を併せて徴収するものとする。
3　入学年度の前期又は前期及び後期に係る授業料については，第1項の規定にかかわらず，入学を許可される者の申出があったときは，入学を許可するときに徴収するものとする。
4　特別の理由のある者は，本人の願い出により，許可を得て，月割分納をすることができる。ただし，月割分納額は，年額の12分の1ずつを毎月5日までに納付しなければならない。
（長期履修を認められた者の授業料）
第76条　長期履修を認められた者の授業料の額及び徴収方法は，別に定めるところによる。
（転入学者等の授業料）
第77条　転入学，編入学及び再入学した者の授業料の額は，その者が転入学，編入学及び再入学した当該年次の在学者の額と同額とする。
（退学者等の授業料）
第78条　退学，除籍又は放学の場合は，その者の在学していた期までの授業料を納入しなければならない。
2　前項の規定にかかわらず第55条第5号の規定により除籍された者の未納の授業料は，これを免除する。
（休学者の授業料）
第79条　授業料納期限以前に休学を許可された者及び授業料の徴収猶予又は月割分納を許可された休学者については，月割計算により，休学許可当月の翌月から復学当月の前月までの授業料を免除する。
2　前項の規定に定める者以外の休学者は，その期の授業料を全額納入しなければならない。
（停学者の授業料）
第80条　停学を命ぜられた者については，その期間中の授業料は，これを納入しなければならない。
（授業料の免除及び徴収猶予）
第81条　学資の支弁が極めて困難と認められる学生に対しては，当該学年の授業料の全部又は一部を免除し，又は各学期末まで徴収を猶予することがある。
第82条　前条の規定により，授業料の免除又は納入猶予を受けようとする者は，事由を詳記した願書を当該学部長を経て学長に提出しなければならない。
第83条　授業料を免除された者で，その事由が止んだときは，翌月から月割でこれを納入しなければならない。
第84条　授業料を指定の日までに納入しないときは，これを催告し，なお，納入を怠る場合は，出席を停止する。
第85条　第81条から前条までに定めるもののほか，授業料の免除及び徴収猶予に関し必要な事項は，別に定める。
（授業料の不徴収）

第85条の2　第74条から第80条までの規定にかかわらず，学長が特に必要と認めた場合は，授業料を徴収しない。

（入学料の免除及び徴収猶予）

第86条　特別な事情により入学料の納付が著しく困難であると認められる者等に対しては，入学料の全部又は一部を免除し，又は徴収を猶予することがある。

2　入学料の免除及び徴収猶予に関し必要な事項は，別に定める。

（検定料の免除）

第86条の2　大規模な風水害等の災害を受ける等やむを得ない事情があると学長が特に認めた場合は，検定料を免除することができる。

（既納料の返還）

第87条　既納の授業料は，返還しない。ただし，前期に係る授業料を徴収するときに，後期に係る授業料を併せて納付した者が，後期に係る授業料徴収時期前に休学又は退学した場合には，納付した者の申出により後期に係る授業料相当額を返還する。

2　前項本文の規定にかかわらず，第75条第3項により徴収した授業料については，納付した者が入学年度の前年度の3月31日までに入学を辞退した場合は，納付した者の申出により当該授業料相当額を返還する。

3　第1項本文の規定にかかわらず，第75条第1項又は第2項により授業料を納付した者が，その後授業料納期限以前に休学を許可された場合は，納付した者の申出により第79条第1項の規定による当該授業料相当額を返還する。

4　第1項本文の規定にかかわらず，第75条第3項により徴収した授業料については，納付した者が入学年度の4月1日から休学を許可された場合は，納付した者の申出により月割計算により休学当月から復学当月の前月までの当該授業料相当額を返還する。

5　第1項本文の規定にかかわらず，第1項ただし書き及び前3項に規定するもののほか，学長が特に必要と認めた場合は，既納の授業料相当額を返還する。

第8章　専攻生

（入学許可）

第88条　学部の専門科目につき精深な程度において履修しようとする者があるときは，学長は，関係学部教授会の議を経た上，所定の手続を終えた者に対し，専攻生として入学を許可する。

（入学期，修業年限）

第89条　専攻生の入学期は，学年の始めとし，その修業年限は，1年以上とする。

（入学資格）

第90条　専攻生として入学することのできる者は，次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1)　大学を卒業した者

(2)　学校教育法施行規則第155条により大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

（検定料，入学料及び授業料）

第91条　専攻生の検定料，入学料及び授業料の額は，別表第3に定めるところによる。

2　授業料は，在学予定期間に応じ，3か月分又は6か月分を当該期間における当初の月に納入するものとし，在学予定期間が3か月又は6か月未満であるときは，その期間分に相当する額を当該期間における当初の月に納入しなければならない。

（研究費の負担）

第92条　研究に要する費用は，専攻生の負担とすることがある。
（証明書の交付）
第93条　専攻生が，専攻科目につき証明を希望したときは，専攻証明書を交付する。
（準用規定）
第94条　本章に定めるものの外，第4章及び第87条の規定は，専攻生にもこれを準用する。

第9章　科目等履修生

（入学許可）
第95条　本学の学生以外の者で，一又は複数の授業科目を履修しようとする者があるときは，学長は，関係学部教授会の議を経て科目等履修生として入学を許可することがある。
（入学期）
第96条　科目等履修生の入学期は，毎学期の始めとする。ただし，特別の事情がある場合は，この限りでない。
（入学資格等）
第97条　科目等履修生の入学資格及び入学志願手続等については，別に定める。
第98条　削除
（検定料，入学料及び授業料）
第99条　科目等履修生の検定料，入学料及び授業料の額は，別表第3に定めるところによる。
（単位の授与，証明書の交付）
第100条　科目等履修生に対しては，第63条の規定を準用し，単位を与える。
2　前項の規定により授与された単位について，科目等履修生が証明を希望したときは，単位修得証明書を交付する。
（準用規定）
第101条　本章に定めるものの外，第4章，第5章及び第87条の規定は，科目等履修生にもこれを準用する。

第10章　特別聴講学生

（入学許可）
第102条　他の大学，短期大学若しくは高等専門学校又は外国の大学若しくは外国の短期大学（以下この条において「他大学等」という。）の学生で，本学の授業科目を履修することを志願する者があるときは，他大学等との協議に基づき，学長は，関係学部教授会の議を経て特別聴講学生として入学を許可することがある。
（検定料，入学料及び授業料）
第103条　特別聴講学生の検定料及び入学料は，徴収しない。
2　特別聴講学生の授業料については，第99条の規定を準用する。ただし，特別聴講学生が他の国立大学法人が設置する大学，大学間相互単位互換協定に基づき締結された公立若しくは私立の大学若しくは短期大学又は単位互換協定に基づき締結された高等専門学校の学生であるときは，これを徴収しないことができる。
3　前項に定めるもののほか，特別聴講学生が本学研究科附属の教育研究施設を利用する授業科目を履修する場合は，授業料を徴収しないことができる。
4　特別聴講学生が外国の大学又は外国の短期大学との大学間交流協定（部局等間交流協定を含む。）に基づき受け入れる外国人留学生である場合，その授業料の額は，当該大学間交流協定の定めるところによる。
（準用規定）

第104条　本章に定めるものの外，第97条，第100条及び第101条の規定は，特別聴講学生にもこれを準用する。

第11章　研究生

（入学許可）

第105条　学部において特殊事項について研究しようとする者があるときは，学長は，関係学部教授会の議を経て研究生として入学を許可することがある。

（入学期）

第106条　研究生の入学期は，毎学期の始めとする。ただし，特別の事情がある者は，この限りでない。

（入学資格）

第107条　研究生の入学資格その他に関しては，学部においてこれを定める。

（入学志願手続）

第108条　研究生として入学を志願する者は，入学願書に研究事項及び期間を記載し，履歴書及び検定料を添え，本学に提出しなければならない。

（検定料，入学料及び授業料）

第109条　研究生の検定料，入学料及び授業料の額は，別表第3に定めるところによる。

2　授業料は，在学予定期間に応じ，3か月分又は6か月分を当該期間における当初の月に納入するものとし，在学予定期間が3か月又は6か月未満であるときは，その期間分に相当する額を当該期間における当初の月に納入しなければならない。

（研究費の負担）

第110条　研究に要する費用は，研究生の負担とする。

（証明書の交付）

第111条　研究生が研究事項につき，証明を希望したときは，研究証明書を交付する。

（準用規定）

第112条　本章に定めるものの外，第4章及び第87条の規定は，研究生にもこれを準用する。

第12章　委託生

（入学許可）

第113条　官庁又は公共団体から，履修科目或は研究事項を定め願い出る者があるときは，学長は，関係学部教授会の議を経て委託生として入学を許可することがある。

（証明書の交付）

第114条　委託生が，履修した科目又は研究事項につき，証明を希望したときは，証明書を交付する。

（準用規定）

第115条　本章に定めるものの外，第4章，第5章，第87条，第99条，第100条，第108条，第109条及び第110条の規定は，委託生にもこれを準用する。

第13章　公開講座及び市民開放授業

（公開講座）

第116条　本学は，必要に応じ，公開講座を行うことがある。

2　公開講座に関する事項は，別に定める。

（市民開放授業）

第116条の2　本学は，市民開放授業を行うことがある。

2　市民開放授業に関する事項は，別に定める。

第14章　厚生保健

（寄宿舎）

第117条　本学に寄宿舎を置き，学生の希望者を入舎させる。

2　寄宿舎に関する規程は，別に定める。

（厚生保健施設）

第118条　本学に厚生保健に関する施設を置き，学生に利用させる。

（健康診断）

第119条　学生は，毎年1回所定の健康診断を受けなければならない。

2　学長は，学生の健康を管理し，必要に応じ，治療を命じ，又は登校を停止することがある。

（施設の利用）

第120条　学生は，本学の施設を利用しようとするときは，その許可を受けなければならない。

附　則

1　この学則は，平成16年4月16日から施行し，平成16年4月1日から適用する。

2　平成15年度以前の入学者は，第2条及び第71条の規定については，なお従前の例による。

3　平成10年度以前の入学者の授業料については，別表第3の規定にかかわらず，次の表により読み替えるものとする。

平成5年度・6年度入学生	平成7年度・8年度入学生	平成9年度・10年度入学生
年額　411,600円	年額　447,600円	年額　469,200円

附　則（平成17年1月20日学則）

この学則は，平成17年4月1日から施行する。

附　則（平成17年2月24日学則）

この学則は，平成17年2月24日から施行し，平成16年10月1日から適用する。

附　則（平成17年2月24日学則）

この学則は，平成17年4月1日から施行する。

附　則（平成17年3月24日学則）

この学則は，平成17年4月1日から施行する。

附　則（平成17年3月29日学則）

この学則は，平成17年3月31日から施行し，平成17年度授業料から適用する。

附　則（平成17年5月12日学則）

この学則は，平成17年5月12日から施行する。

附　則（平成17年9月29日学則）

この学則は，平成17年10月1日から施行する。

附　則（平成17年12月22日学則）

この学則は，平成17年12月22日から施行し，平成17年4月1日から適用する。

附　則（平成18年3月23日学則）

1　この学則は，平成18年4月1日から施行する。
2　改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず，教育学部学校教育教員養成課程，情報教育課程及び生涯教育課程の収容定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科・課程	平成18年度	平成19年度	平成20年度
教育学部	学校教育教員養成課程	445	490	535
	情報教育課程	200	160	120
	生涯教育課程	75	70	65

附　則(平成18年5月25日学則)

この学則は，平成18年5月25日から施行する。

附　則(平成18年9月28日学則)

この学則は，平成18年9月28日から施行し，平成18年4月1日から適用する。

附　則(平成18年11月24日学則)

この学則は，平成18年11月24日から施行する。ただし，第97条及び第98条の改正規定は平成19年4月1日から施行する。

附　則(平成19年3月29日学則)

この学則は，平成19年4月1日から施行する。

附　則(平成19年12月27日学則)

この学則は，平成19年12月27日から施行し，平成19年12月26日から適用する。

附　則(平成20年3月27日学則)

1　この学則は，平成20年4月1日から施行する。
2　この学則施行前の人文学部社会科学科(以下「従前の学科」という。)は，改正後の学則第2条第1項の規定にかかわらず，平成20年3月31日に従前の学科に在学する者(平成20年度及び平成21年度に当該学科に編入学する者を含む。)が在学しなくなるまでの間，存続するものとする。
3　改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず，平成20年度及び平成21年度における人文学部法律経済学科(以下「法律経済学科」という。)への3年次編入学については，従前の学科に編入学するものとし，法律経済学科及び医学部医学科の収容定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
人文学部	法律経済学科	165	330	515	―	―
医学部	医学科	610	620	630	640	650

4　平成19年度以前の入学者については，改正後の学則第46条第5項の規定にかかわらず，なお従前の例による。

附　則(平成21年3月30日学則)

1　この学則は，平成21年4月1日から施行する。
2　改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず，医学部医学科の収容定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度

医学部	医学科	630	650	670	690	710

附　則(平成22年2月25日学則)

1　この学則は，平成22年4月1日から施行する。

2　改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず，医学部医学科の収容定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
医学部	医学科	655	680	705	730	745

3　平成22年3月31日に人文学部法律経済学科及び工学部に在学する者(以下「在学者」という。)並びに平成22年4月1日以降に在学者の属する年次に編入学等する者に係る教員の免許状を受けるための所要資格を取得できる免許状の種類及び免許教科は，改正後の学則別表第2の規定にかかわらず，なお従前の例による。

附　則(平成23年2月24日学則)

1　この学則は，平成23年4月1日から施行する。

2　平成23年3月31日に教育学部に在学する者に係る教員の免許状を受けるための所要資格を取得できる免許状の種類及び免許教科は，改正後の学則別表第2の規定にかかわらず，なお従前の例による。

附　則(平成23年12月22日学則)

この学則は，平成24年1月1日から施行する。

附　則(平成24年2月23日学則)

1　この学則は，平成24年4月1日から施行する。

2　平成24年3月31日に教育学部に在学する者に係る教員の免許状を受けるための所要資格を取得できる免許状の種類及び免許教科は，改正後の学則別表第2の規定にかかわらず，なお従前の例による。

附　則(平成24年9月27日学則)

この学則は，平成24年9月27日から施行する。

附　則(平成25年2月28日学則)

この学則は，平成25年4月1日から施行する。

附　則(平成26年3月27日学則)

1　この学則は，平成26年4月1日から施行する。

2　この学則施行前の教育学部情報教育課程及び生涯教育課程（以下「従前の課程」という。）は，改正後の学則第2条第1項の規定にかかわらず，平成26年3月31日に従前の課程に在学する者が在学しなくなるまでの間，存続するものとする。

3　改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず，教育学部学校教育教員養成課程の収容定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科・課程	平成26年度	平成27年度	平成28年度
教育学部	学校教育教員養成課程	615	650	685

4　この学則施行前の特別支援教育特別専攻科（以下「従前の専攻科」という。）は，改正後の学則第4条の規定にかかわらず，平成26年3月31日に従前の専攻科に在学する者が在学しなくなるまでの間，存続するものとする。

5　平成26年3月31日に従前の課程に在学する者に係る教員の免許状を受けるための所要資格を取得できる免許状の種類及び免許教科は，改正後の学則別表第2の規定にかかわらず，なお従前の例による。

附　則(平成26年9月30日学則第1号)

1　この学則は，平成27年4月1日から施行する。

2　平成26年度以前の入学者に係る授業科目は，改正後の学則第59条の3の規定にかかわらず，なお従前の例による。

附　則(平成27年2月26日学則第1号)

1　この学則は，平成27年4月1日から施行する。

2　改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず，生物資源学部資源循環学科，共生環境学科及び生物圏生命科学科の収容定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科・課程	平成27年度	平成28年度	平成29年度
生物資源学部	資源循環学科	250	260	270
	共生環境学科	325	310	295
	生物圏生命科学科	385	390	395

附　則(平成27年5月28日学則第1号)

この学則は，平成27年6月1日から施行する。

附　則(平成27年10月30日学則)

この学則は，平成27年11月1日から施行する。

附　則(平成28年3月24日学則第1号)

1　この学則は，平成28年4月1日から施行する。

2　この学則施行前の教育学部人間発達科学(以下「従前の課程」という。)は，改正後の学則第2条第1項の規定にかかわらず，平成28年3月31日に従前の課程に在学する者が在学しなくなるまでの間，存続するものとする。

3　改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず，教育学部学校教育教員養成課程の収容定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科・課程	平成28年度	平成29年度	平成30年度
教育学部	学校教育教員養成課程	705	760	780

附　則(平成28年7月20日学則第1号)

この学則は，平成28年7月21日から施行する。

附　則(平成28年9月29日学則第1号)

この学則は，平成28年11月1日から施行する。

附　則(平成29年2月23日学則)

1　この学則は，平成29年4月1日から施行する。

2　この学則施行前の生物資源学部生物圏生命科学科(以下「従前の学科」という。)は，改正後の学則第2条第1項の規定にかかわらず，平成29年3月31日に従前の学科に在学する者(以下「在学者」という。)及び平成29年4月1日以降在学者の属する年次に編入学する者が在学しなくなるまでの間，存続するものとする。

3　改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず，平成29年度及び平成30年度における生物資源学部の3年次編入学による収容定員については，なお従前の例によるものとし，人文学部文化学科及び法律経済学科並びに生物資源学部資源循環学科，共生環境学科，生物圏生命化学科及び海洋生物資源学科の収容定員は，次の2表により読み替えるものとする。

学部	学科・課程	平成29年度
人文学部	文化学科	412
	法律経済学科	688
生物資源学部	生物圏生命化学科	80
	海洋生物資源学科	40

学部	学科・課程	平成30年度	平成31年度
人文学部	文化学科	404	396
	法律経済学科	676	664
生物資源学部	資源循環学科	280	283
	共生環境学科	280	283
	生物圏生命化学科	160	242
	海洋生物資源学科	80	122

4　在学者及び平成29年4月1日以降に在学者の属する年次に編入学する者に係る教員の免許状を受けるための所要資格を取得できる免許状の種類及び免許教科は，改正後の学則別表第2の規定にかかわらず，なお従前の例による。

附　則(平成30年2月22日学則第1号)

1　この学則は，平成30年4月1日から施行する。

2　改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず，医学部医学科の入学定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	平成30年度	平成31年度
医学部	医学科	125	125

3　改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず，医学部医学科の収容定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度
医学部	医学科	750	750	730	710	690	670	650

附　則(平成30年6月28日学則第1号)

この学則は，平成30年7月1日から施行する。

附　則(平成31年2月28日学則第1号)

1　この学則は，平成31年4月1日から施行する。

2　この学則施行前の工学部機械工学科，電気電子工学科，分子素材工学科，建築学科，情報工学科及び物理工学科（以下「従前の学科」）という。）は，改正後の学則第2条第1項の規定にかかわらず，平成31年3月31日に従前の学科に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成31年4月1日以降在学者の属する年次に編入学する者が在学しなくなるまでの間，存続するものとする。

3　改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず，平成31年度及び平成32年度における工学部の3年次編入学による収容定員については，なお従前の例によるものとし，工学部総合工学科の収容定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	平成31年度	平成32年度	平成33年度
工学部	総合工学科	400	800	1230

附　則(平成31年3月28日学則第1号)

この学則は，平成31年4月1日から施行する。

附　則(令和2年3月12日学則第1号)

1　この学則は，令和2年4月1日から施行する。

2　改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず，医学部医学科の入学定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	令和2年度	令和3年度
医学部	医学科	125	125

3　改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず，医学部医学科の収容定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
医学部	医学科	750	750	730	710	690	670	650

4　令和2年3月31日に工学部に在学する者に係る教員の免許状を受けるための所要資格を取得できる免許状の種類及び免許教科は，改正後の学則別表第2の規定にかかわらず，なお従前の例による。

附　則(令和3年3月24日学則第1号)

この学則は，令和3年4月1日から施行する。

附　則(令和4年3月24日学則第1号)

1　この学則は，令和4年4月1日から施行する。

2　改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず，医学部医学科の入学定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	令和4年度
医学部	医学科	125

3　改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず，医学部医学科の収容定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
医学部	医学科	750	730	710	690	670	650

附　則(令和4年6月28日学則第1号)

1　この学則は，令和5年4月1日から施行する。

2　令和5年3月31日に在学する者(以下「在学者」という。)及び令和5年4月1日以降に在学者の属する年次に編入学等する者に係る授業科目及び履修方法は，改正後の学則第59条の3及び第65条第2項の規定にかかわらず，なお従前の例による。

附　則(令和5年2月28日学則第1号)

1　この学則は，令和5年4月1日から施行する。

2　改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず，医学部医学科の入学定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	令和5年度
医学部	医学科	125

3　改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず，医学部医学科の収容定員は，次の表により読み替えるものとする。

学部	学科	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
医学部	医学科	750	730	710	690	670	650

別表第1(第45条関係)

返還額
13,000円

別表第2(第71条関係)

学部	学科・課程	免許状の種類	免許教科又は特別支援教育領域
人文学部	文化学科	中学校教諭一種免許状	国語，社会，英語
		高等学校教諭一種免許状	国語，地理歴史，公民，英語
教育学部	学校教育教員養成課程	幼稚園教諭一種免許状	
		小学校教諭一種免許状	
		中学校教諭一種免許状	国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，技術，家庭，英語
		高等学校教諭一種免許状	国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，保健体育，家庭，情報，工業，英語
		特別支援学校教諭一種免許状	知的障害者，肢体不自由者，病弱者
工学部	総合工学科	高等学校教諭一種免許状	工業
生物資源学部	資源循環学科	高等学校教諭一種免許状	理科，農業
	共生環境学科	高等学校教諭一種免許状	理科，農業
	生物圏生命化学科	高等学校教諭一種免許状	理科，農業
	海洋生物資源学科	高等学校教諭一種免許状	水産

別表第3(第74条・第91条・第99条・第109条関係)

区分	授業料	入学料	検定料
学部学生	平成11年度以降の入学生 年額　535,800円	282,000円	17,000円
科目等履修生	1単位　14,800円	28,200円	9,800円
専攻生 研究生 委託生	月額　28,900円	84,600円	9,800円

三重大学成績評価ガイドライン

１．（成績評価ガイドラインの趣旨）

三重大学成績評価ガイドラインは，指針となるべき成績評価の基準と評価方法等を定めることによって大学教育としての実質化及び水準の確保を図ろうとするものである。

２．（成績の評価、評点、評価内容の基準）

成績の評価，評点，評価内容の基準を下記のように定める。

判定	評点	評価点	評定	評価内容基準	成績通知書への記載	成績証明書への掲載
合　格	95～100点	１０	ＡＡ	科目内容を修得し，到達目標を優れて満たしている	あり	あり
	90～94	9				
	80～89	8	A	科目内容を修得し，到達目標を十分に満たしている	あり	あり
	70～79	7	B	科目内容を修得し，到達目標を概ね満たしている	あり	あり
	60～69	6	C	科目内容を修得し，到達目標を必要限度満たしている	あり	あり
不合格	60点未満	５以下	D	科目内容を修得したと認められず，到達目標を満たしていない	あり	なし

注） 単位の認定のみを行う科目については，合格（Ｐ）あるいは認定（Ｅ）の表記とする。

注） 本学において、別に定めるプログラム等を修了した場合は、修了（Ｋ）の表記とする。

注） 成績通知書には原則として評価点を，成績証明書には評定を記載する。

３．（評価方法）

成績評価は，出席状況，報告・発表等の授業参加状況，学習記録，レポート，試験など，多様な要素の中から，それぞれの授業科目の形態，目標，内容に相応しくできる限り複数を選択して行う。

４．（学習成果の反映）

レポートの課題設定や試験の内容に，受講及び受講のための学習準備を通じて得られた学習成果が適切に反映されているなど，成績評価に学習成果が適切に反映されるように工夫するものとする。

５．（成績評価基準と方法の周知）

各授業科目の成績評価の基準と方法は，シラバスに明記するとともに，各授業において到達目標と関連づけながら説明するものとする。とくに到達目標と評定との関係を，授業の内容に基づいて具体的に説明する。

６．（授業科目間での成績評価基準・方法の調整）

アクティブラーニング，外国語教育，基礎教育など，名称や性格を同じくする授業科目が複数開講される場合は，必要に応じて，担当教員間で成績評価の基準や方法に差が生じないように，相互に調整する。

７．（卒業研究の評価）

卒業研究については，オリエンテーション等を行い，成績評価の基準と方法を明瞭に説明し，成果に応じた適切な成績評価を行うものとする。なお，成績評価に当たっては，研究内容はもとより，審査等における発表の仕方や応答など，その他の要素も勘案するものとする。

８．（説明責任）

成績評価に関する学生の質問及び疑問等には，適切に応えるものとする。

附　則

このガイドラインは，平成１９年４月１日から実施する。ただし，評定区分については，平成１９年度入学者から適用し，それ以前の学生については従前の４段階区分とする。

附　記

このガイドラインは，平成２２年４月１日から実施する。

附　記

このガイドラインは，平成２７年４月１日から実施する。

附　記

１．このガイドラインは，平成２７年　６月１６日から施行する。

２．このガイドラインは，平成２７年度入学生から適用する。

三重大学大学院成績評価ガイドライン

（成績評価ガイドラインの趣旨）

1　三重大学大学院成績評価ガイドラインは，指針となるべき成績評価の基準と評価方法等を定めることによって大学院教育としての実質化及び水準の確保を図ろうとするものである。

（成績の評価，評点，評価内容の基準）

2　成績の評価，評点，評価内容の基準を下記のように定める。

注）単位の認定のみを行う科目については，合格（P）あるいは認定（E）の表記とする。

注）本学において、別に定めるプログラム等を修了した場合は、修了（K）の表記とする。

注）成績通知書には原則として評価点を，成績証明書には評定を記載する。

判定	評点	評価点	評定	評価内容基準	成績通知書への記載	成績証明書への掲載
合格	95～100 点	10	AA	科目内容を修得し，到達目標を優れて満たしている	あり	あり
	90～94	9				
	80～89	8	A	科目内容を修得し，到達目標を十分に満たしている	あり	あり
	70～79	7	B	科目内容を修得し，到達目標を概ね満たしている	あり	あり
	60～69	6	C	科目内容を修得し，到達目標を必要限度満たしている	あり	あり
不合格	60 点未満	5 以下	D	科目内容を修得したと認められず，到達目標を満たしていない	あり	なし

（評価方法）

3　成績評価は，出席状況，報告・発表等の授業参加状況，学習記録，レポート，試験など，多様な要素の中から，それぞれの授業科目の形態，目標，内容に相応しくできる限り複数を選択して行う。

（学習成果の反映）

４　レポートの課題設定や試験の内容に，受講及び受講のための学習準備を通じて得られた学習成果が適切に反映されているなど，成績評価に学習成果が適切に反映されるように工夫するものとする。

（成績評価基準と方法の周知）

５　各授業科目の成績評価の基準と方法は，シラバスに明記するとともに，各授業において到達目標と関連づけながら説明するものとする。とくに到達目標と評定との関係を，授業の内容に基づいて具体的に説明する。

（学位論文の評価）

６　別に定める学位論文審査基準による。

（説明責任）

７　成績評価に関する学生の質問及び疑問等には，適切に応えるものとする。

附　記

このガイドラインは，平成１９年４月１日から実施する。ただし，評定区分については，平成１９年度入学者から適用し，それ以前の学生については従前の４段階区分とする。

附　記

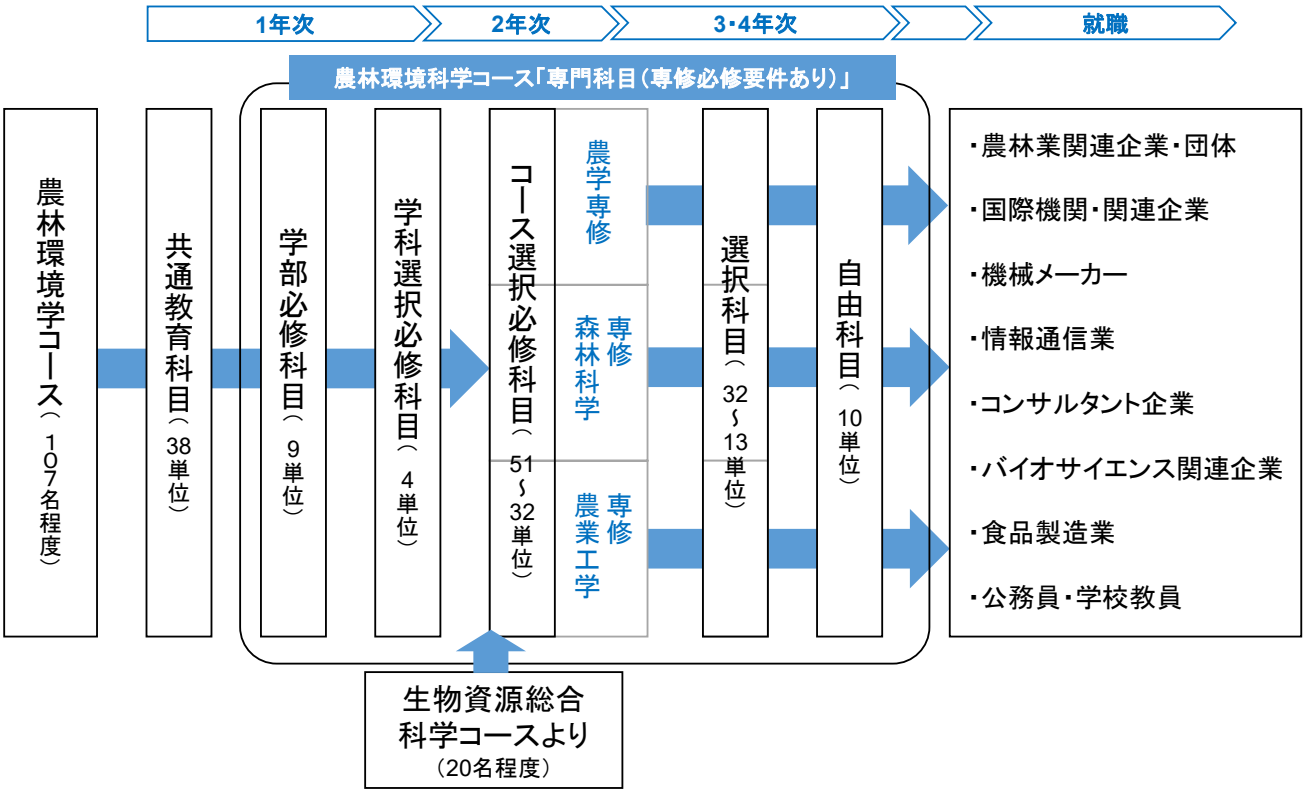
１．このガイドラインは，平成２７年　６月１６日から施行する。

２．このガイドラインは、平成２７年度入学生から適用する。

【資料 10-1】農林環境科学コースの履修モデル

農林環境科学コースの履修モデル

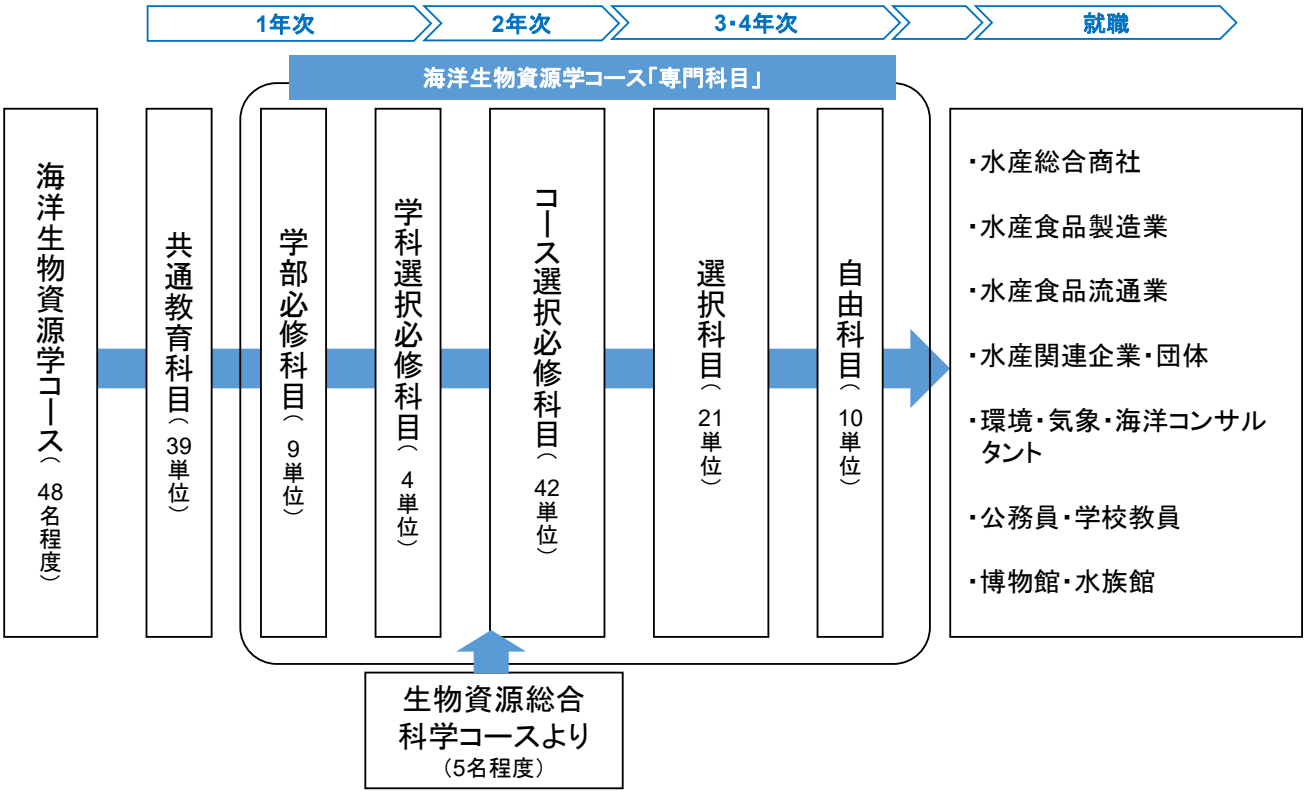
【養成する人材像】
農林環境を保全しながら、生物資源を持続的に生産することによって、フードシステムに関する幅広い知識と生物資源に関する専門知識を兼ね揃え、自ら問題を発見し、それを解決する能力を身につけた人材を養成



【資料 10-2】海洋生物資源学コースの履修モデル

海洋生物資源学コースの履修モデル

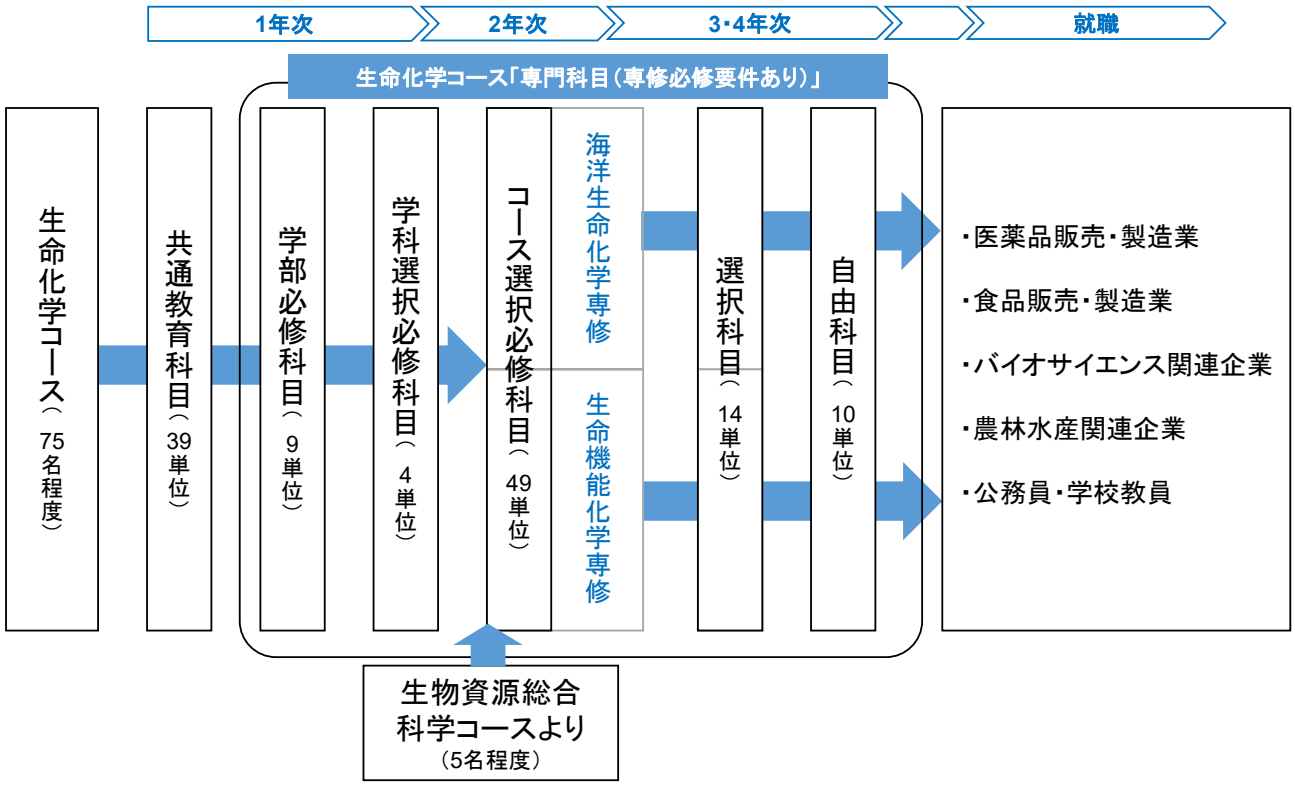
【養成する人材像】
海洋と気象に関する幅広い知識と海洋生物に関する専門知識を兼ね揃え、海洋環境を保全しながら海洋生物資源を持続的に生産することができ、また自ら問題を発見して、それを解決する能力を身につけた人材を養成



【資料 10-3】生命化学コースの履修モデル

生命化学コースの履修モデル

【養成する人材像】
生物資源を利活用した産業の創出によって、生物資源とそれを育む自然環境に対する幅広い知識とバイオ化学に関する専門知識を兼ね備え、自ら問題を発見し、それを解決する能力を身につけた人材を養成



【資料11】遠隔授業について

令和５年度以降入学生に係る遠隔授業の単位制限について

科　目	区　分	制限単位数
共通教育科目	大学基礎科目 教養基礎科目	12 単位
	専攻基礎科目	48 単位　※
専門教育科目		

※卒業の要件が 124 単位を超える学部・学科等においては、超えている単位数分は、共通教育科目における専攻基礎科目及び専門教育科目の制限単位数に加算するものとする。

【関係法令等】

○「大学設置基準（抜粋）」

（授業の方法）

第二十五条　授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2　大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3　（略）

4　（略）

（卒業の要件）

第三十二条　卒業の要件は、百二十四単位以上を修得することのほか、大学が定めることとする。

2　前項の規定にかかわらず、医学又は歯学に関する学科に係る卒業の要件は、百八十八単位以上を修得することのほか、大学が定めることとする。ただし、教育上必要と認められる場合には、大学は、修得すべき単位の一部の修得について、これに相当する授業時間の履修をもつて代えることができる。

3　（略）

4　（略）

5　前四項又は第四十二条の九の規定により卒業の要件として修得すべき単位数のうち、第二十五条第二項の授業の方法により修得する単位数は六十単位を超えないものとする。

6　第一項から第四項まで又は第四十二条の九の規定により卒業の要件として修得すべき単位数のうち、第二十七条の三の規定により修得したものとみなすものとする単位数は三十単位を超えないものとする。

○「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令の施行等について」（平成 11 年３月 31 日通知）（抄）

第２　大学設置基準（昭和 31 年文部省令第 28 号）の一部改正

２　大学設置基準第 25 条第２項の授業（以下「遠隔授業」という。）により修得することができる単位数の上限の拡大

遠隔授業は、他大学との間で単位互換として行われる場合が少なくないことから、単位互換の単位数の上限の拡大に伴い、遠隔授業により修得することができる単位数の上限について、60 単位を超えない範囲内としたこと。（改正後の第 32 条第４項関係）

なお、各大学において、124 単位を超える単位数を卒業の要件としている場合は、大学設置基準第 25 条第１項の授業によって 64 単位以上の修得がなされていれば、遠隔授業によって修得する単位数については、60 単位を超えることができるものであること

オンデマンド授業の取扱いについて

第１　オンデマンド授業とは、動画コンテンツの配信等により、授業の一部又は全部を代替する授業方式を指し、次の要件を充足しなければならない。

１）授業担当教員から学生に教材や課題の提示があること。

２）設問への解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導があること。

３）当該授業に関する学生の意見交換の機会が確保されていること。

第２　動画コンテンツは、授業担当教員が新たに教材を作る場合の他、他者が作成し、公開されている授業内容に合ったものを教材として利用することも可能とする。

第３　動画コンテンツは、シラバスで指定された学期・曜日・時限までに、配信する。

第４　教務基幹システム（GAKUEN、UNIPA 等）上の開講学期・曜日・時限に関する取扱いは、次のとおりとする。

１）授業回の一部がオンデマンド授業の場合は、シラバスで指定された開講学期・曜日・時限を設定する。

２）授業回の全てがオンデマンド授業で開講される授業については、開講学期は設定するが、開講曜日・時限は、設定しないものとする。

第５　授業回の全てがオンデマンド授業で開講される授業にあっても、当該開講時期における CAP 制の単位数には含めるものとする。

第６　授業回の全てがオンデマンド授業で開講される授業については、各部局長又は各部局の教務委員会による承認を得た上で実施するものとする。

令和４年２月１日

各学部長・研究科長
教養教育院長　　殿

教育担当理事・副学長
教育会議議長　　鶴原　清志

外国の大学又は短期大学が行う遠隔授業の履修及び本学の遠隔授業の
外国からの履修についての申合せの制定について（通知）

標題の件について令和４年１月18日付け教育会議において審議の結果、別紙のとおり承認・制定されました。ついては関係教職員・学生へ周知いただくと共に、遺漏のなきようご対応をお願いします。

外国の大学又は短期大学が行う遠隔授業の履修及び本学の遠隔授業の外国からの履修についての申合せ

三重大学教育会議 承認令和 4 年 1 月 18 日

標記について、以下のとおり申し合わせる。

（外国の大学が行う遠隔授業の履修）

第 1 本学の学生は、所属部局が認める場合には、全学又は部局間学生交流覚書による短期交換留学プログラム、海外の大学又は短期大学におけるサマープログラム、ウインタープログラム等により提供される遠隔授業について、国立大学法人三重大学学則（以下「学則」という。）第 67 条第 2 項及び三重大学大学院学則第 26 条第 2 項の規定に基づき履修することができる。（学則第 49 条の留学（以下「留学」という。）を承認された学生が感染症の拡大等の事情により渡航が制限された場合の代替措置として遠隔授業が提供される場合を含む。）

第 2 本学が案内する第 1 に規定する遠隔授業（以下「本学が案内する遠隔授業」）について、所属部局が認める場合には、本学の授業と同時期に履修することを妨げない。ただし、履修を認めるにあたって、所属部局は、学生の履修時間帯について重複がないこと又は過度な履修スケジュールになっていないかについて十分留意するものとする。

第 3 本学が案内する遠隔授業以外の遠隔授業の取扱いについては、各部局の定めるところによる。

第 4 第 1 に規定する遠隔授業の履修において取得した単位については、三重大学単位互換制度に関する取扱規程に基づき、本学の単位として認定することができる。

（本学の遠隔授業の履修（外国からの受入学生及び海外渡航学生））

第 5 本学の学生は、所属部局が認める場合には、学則第 64 条第 2 項及び三重大学大学院学則第 25 条により、本学の遠隔授業を外国において履修することができる。（感染症の拡大等の事情により渡航が制限され、遠隔授業が提供される場合を含む。）

第 6 本学の学生は、所属部局が認める場合は、学則第 49 条第 2 項で許可された留学中に本学の遠隔授業を外国において履修することができる。ただし、履修を認めるにあたって、所属部局は、留学中に履修する特段の事情及び必要性を慎重に判断し、学生の履修時間帯について重複がないこと又は過度な履修スケジュールになっていないかについて十分留意するものとする。

第 7 第 5 及び第 6 に定めるもののほか、外国から本学の遠隔授業への履修に関して、原則、特段の配慮はしないものとする。ただし、授業担当教員が認めた場合は、この限りでない。

付　記

この申合せは、令和 4 年 1 月 18 日から実施し、令和 3 年 10 月 1 日から適用する。

【資料12-1】学外実習受入機関調書一覧（R4年度分）

受入機関番号	実習実施機関	受入期間	インターシップ業務内容
1	東北農政局	2週間	農業用水利施設の見学、農村地域の活性化に向けた取組の事例整理、広報資料の作成、成果報告会
2	東北農政局 津軽土地改良建設事務所	2週間	現場見学、幹線用水路の調査及び流量観測、その他（土地改良区と意見交換）
3	東北農政局 北奥羽土地改良調査管理事務所	2週間	環境配慮調査（生き物調査等）、河川流量観測、農業用施設の機能診断調査・見学
4	東北農政局 北上土地改良調査管理事務所	2週間	農業農村整備事業の概要、現地調査、現地実習、実習発表会
5	東北農政局 西奥羽土地改良調査管理事務所	2週間	国営調査地区における営農状況調査、機能診断調査等
6	東北農政局 阿武隈土地改良調査管理事務所	2週間	農業農村整備事業の概要・調査管理事務所の役割、機能診断調査、現場実習・見学
7	東北農政局 土地改良技術事務所	2週間	支援業務等に関する各種資料等の整理、ドローン操作、機能診断、災害応急用機材操作、東日本大震災復興地現地調査
8	東北農政局 岩手山麓農業水利事業所	2週間	国営施設の見学、現地調査、成果発表会
9	東北農政局 和賀中央農業水利事業所	2週間	事業概要等学習、機能診断調査、環境配慮調査、現場見学、意見交換等
10	東北農政局 和賀中央農業水利事業所 豊沢川農業水利事業建設所	2週間	農業農村の学習、ダム揚圧力観測、農業用施設の現地見学、成果報告会
11	東北農政局 河南二期農業水利事業所	2週間	事業概要、施設現地研修、地下水観測実習、機能診断、土地改良区の業務概要把握
12	東北農政局 平鹿平野農業水利事業所	2週間	仮置き土砂の土量測量、職場見学、県内国営事業実施地区の現地見学、土地改良区との交流
13	東北農政局 平鹿平野農業水利事業所 成瀬皆瀬農業水利事業建設所	2週間	仮設道路路の測量、皆瀬ダム地下水位の監督とデータ検討、UAV実習、地区営農状況の見学、実習内容に関する発表
14	東北農政局 田沢二期農業水利事業所	2週間	現場見学、流量観測
15	東北農政局 旭川農業水利事業所	2週間	コンクリートの機能診断調査、土地改良区へのヒアリング、現場見学、実習内容に関する発表
16	東北農政局 八郎潟農業水利事業所	2週間	幹線用水路の沈下量測定、幹線用水路の取水量調査、幹線用水路改修工事の設計図作成、田んぼダム実施状況調査
17	東北農政局 最上川下流左岸農業水利事業所	2週間	排水路等の水位・流量観測、構造物のシュミットハンマー測定、現地見学、職場見学、土地改良区との交流
18	東北農政局 会津南部農業水利事業所	2週間	仮設道路の測量、表面被覆工の観察・記録、現場見学（会津北部地区を含む。）、土地改良区との意見交換
19	東北農政局 会津南部農業水利事業所 会津北部農業水利事業建設所	2週間	仮設道路の測量、表面被覆工の観察・記録、現場見学、土地改良区との意見交換
20	関東農政局農村振興部設計課	2週間	農業農村整備事業の各種技術に関する概要の実習、事業実施に関する資料作成・現地調査・現地打合せ（同席）、補助金及び交付金事業関係の現地調査、支払に関する検査等、成果発表

21	関東農政局 利根川水系土地改良調査管理事務所	2週間	農業農村工学概論実習、農業土木演習、施設機能診断調査、ドローンを活用した土地利用状況調査
22	関東農政局 西関東土地改良調査管理事務所	2週間	用水計画等、現場見学、農業農村振興施策の検討
23	関東農政局 土地改良技術事務所	2週間	設計・積算・施工基準の概要説明、歩掛解析の演習情報システムの取組について概要説明、工事積算書の作成演習水利施設の健全度診断技術の概要説明、測定機器実習ポンプ・ゲート等の施設管理の概要説明、国営事業地区施設見学、意見交換会並びに課題発表
24	関東農政局 那珂川沿岸農業水利事業所	2週間	工事費積算、現場見学、その他
25	関東農政局 栃木南部農業水利事業所	2週間	農業水利施設の現地見学、排水解析のあらまし、営農検討、環境配慮検討
26	関東農政局 荒川中部農業水利事業所	2週間	施設機能診断、設計・業務に関する実地研修、土地改良施設の現地見学、土地改良施設の維持管理の学習
27	関東農政局 印旛沼二期農業水利事業所	2週間	農業用用排水施設の現地見学及び調査、測量実習、広報用参考資料作成
28	関東農政局 三方原用水二期農業水利事業所	2週間	水利施設の機能診断調査、工事現場見学と検測（模擬）、水利計算、水理計算のチェック、工事・業務の積算補助、水利施設等の見学
29	関東農政局 茨城中部農地整備事業所	2週間	工事費積算、現地調査、現地見学
30	関東農政局 手賀沼農地防災事業所	2週間	水田畑利用調査、補給機場等調査
31	北陸農政局農村振興部設計課	2週間	農業農村整備の概要・業務内容、広報資料の作成体験、土地改良施設管理実習
32	北陸農政局 信濃川水系土地改良調査管理事務所	2週間	施設の機能診断調査、環境調査、地盤沈下対策調査、流量観測 、土地改良区等に対する施設の管理実態調査、室内演習
33	北陸農政局 西北陸土地改良調査管理事務所	2週間	機能診断、流量観測、環境調査、現地調査
34	北陸局農政局 ①新川流域農業水利事業所 ②加治川二期農業水利事業所	2週間	工事監督職員の補助作業、用地交渉の補助作業、施設管理の補助作業、庶務経理の補助作業 、現場見学
35	北陸農政局 信濃川左岸流域農業水利事業所	2週間	工事の実施に必要な調査、設計、積算、監督等の業務体験、土地改良区の業務体験
36	北陸農政局関川用水土地改良建設事業所	2週間	現地調査、現場作業、工事の設計・積算、土地改良区の業務体験
37	北陸農政局 新津郷用水農業水利事業所	2週間	現地調査、工事の設計・積算、各種調査、土地改良区の業務体験
38	北陸農政局 水橋農地整備事業所	2週間	地下かんがい実証試験調査業務、環境調査業務、区画整理の設計・積算・工事監督等の体験
39	北陸農政局 河北潟周辺農地防災事業所	2週間	調査、工事の設計・積算・工事監督等の体験、地域の農家との意見交換、現地見学
40	東海農政局 木曽川水系土地改良調査管理事務所	2週間	現地調査によるデータ収集、機能診断、工事関係作業、NN事業と環境配慮

41	東海農政局 木曽川水系土地改良調査管理事務所 犬山頭首工管理所	2週間	犬山頭首工ゲート設備の塗膜厚、板厚の測定等の補助、施設管理に係る体験実習、環境調査結果の整理補助、周辺水利施設等の見学
42	東海農政局 木曽川水系土地改良調査管理事務所 中勢支所	2週間	事業概要、現地見学、施設管理等、測量体験
43	東海農政局 土地改良技術事務所	2週間	設計・積算・施工管理基準等の整理、施設の機能診断調査、水路の流速調査（流量観測）、災害対応、現地調査
44	東海農政局 新濃尾農地防災事業所	2週間	流量観測、水質調査、現地調査、工事発注積算等、その他
45	近畿農政局 淀川水系土地改良調査管理事務所	2週間	現地調査、土地改良区訪問等、管内地区の機能診断調査、国営施設機能保全事業「日野川地区」の現地調査等
46	近畿農政局 南近畿土地改良調査管理事務所	2週間	国営土地改良事業実施予定地区の調査、直轄管理施設の調査
47	近畿農政局 土地改良技術事務所	2週間	施設見学、農業用施設機能診断、土質試験またはコンクリート試験練り、農業農村整備整備事業に関する生き物調査
48	近畿農政局 湖東平野農業水利事業所	2週間	用排水路等の現地調査、現地見学
49	近畿農政局 東条川二期農業水利事業所	2週間	現地見学、堤体内水位計観測、成果発表会、その他業務
50	近畿農政局 亀岡中部農地整備事業所	2週間	工事は中補助作業、調査設計、環境調査、営農組織活動状況の情報収集
51	近畿農政局 和歌山平野農地防災事業所	2週間	ドローンによる写真撮影、施工管理、現場見学、流量観測
52	近畿農政局農村振興部	2週間	農業農村整備事業等に係る広報、環境保全、計画基準等に係る現地調査、国営事業地区の現地調査、補助金及び交付金事業関係の現地調査及び資料整理
53	中国四国農政局農村振興部 農村振興部設計課、水利整備課、農地整備課	2週間	事業概要の説明、現地調査、技術資料作成、農業用水路の流量観測
54	中国四国農政局 土地改良技術事務所	2週間	災害対応技術演習、技術基準等図書の概要作成、現地調査、流量観測、広報用動画企画・作成
55	中国四国農政局 吉井川農業水利事業所	2週間	自動化された分水ゲートの取水状況把握するための流量観測等、国営造成施設の管理実態把握、地域農業の概要とりまとめ
56	中国四国農政局 宍道湖西岸農地整備事業所	2週間	農地整備計画の策定、業務発注に係る積算、地区界・基準点測量、現地見学
57	中国四国農政局　南周防農地整備事業所	2週間	ほ場の整備に関する測量設計、ほ場の整備に対する環境配慮調査、ほ場の整備に関連する埋蔵文化財調査、ドローン空撮
58	中国四国農政局 道前平野農地整備事業所	2週間	地下水・水質・水路流量観測、営農状況調査、境界測量、現地見学
59	中国四国農政局 岡山南土地改良建設事業所	2週間	調査、測量業務、現地調査
60	九州農政局農村振興部	2週間	農業農村整備事業等の必要性や土地改良事業計画の立案、現地調査、現地見学
61	九州農政局 北部九州土地改良調査管理事務所	2週間	農業用水路の流量観測、機能診断手法の学習・実習、国営造成施設見学、ドローンによる営農調査、「水と歴史の探検隊」参加

62	九州農政局 南部九州土地改良調査管理事務所	2週間	基礎調査補助、農業水利施設の見学
63	九州農政局 土地改良技術事務所	2週間	農業農村整備事業の概要、農業水利施設の機能診断実習、ドローンの活用事例と操作実習、土地改良事業完了地区現地視察、国営事業実施地区現地視察(工事実施状況)
64	九州農政局 八代平野農業水利事業所	2週間	八代地区の現状と課題、農業水利施設の見学、用水路の流量観測、工事監督の補助
65	九州農政局 宮崎中部農業水利事業所	2週間	事業内容説明、工事の積算、現地見学
66	九州農政局 喜界島農業水利事業所	2週間	地下水観測、地下ダムの地質断面図の作成、ボーリング調査の実施状況、農業水利施設等の見学、県営事業の実施状況、島内の営農状況の把握
67	九州農政局 宇城農地整備事業所	2週間	排水路調査
68	九州農政局 筑後川下流右岸農地防災事業所	2週間	環境調査、現地調査、用地調査
69	九州農政局 玉名横島海岸保全事業所	2週間	工事現場監督業務の随行、堤防動態観測(水準測量)、他農業水利施設の見学
70	九州農政局 八代海岸保全事業所	2週間	海岸堤防の調査設計、工事費積算、堤防高の測量、現場見学
71	九州農政局 西国東海岸保全事業所	2週間	数量計算書の確認(補助)、現場研修、施工管理、農業用ダムの現地視察
72	沖縄総合事務局 土地改良総合事務所	2週間	営農状況及び畑地かんがい諸元調査、地下水位観測及びデータ整理、施設管理に関する実習、成果レポート発表
73	沖縄総合事務局 宮古伊良部農業水利事業所	2週間	既存施設の現場見学、地下水位等観測業務、地元農家との意見交換、実習成果発表
74	沖縄総合事務局 石垣島農業水利事業所	2週間	かんがい施設の管理実習、工事監督業務、農業水利施設見学、実習成果レポート発表
75	独立行政法人水資源機構 利根導水総合事業所	2週間	配水管理業務、維持管理業務、流量観測、現場見学
76	独立行政法人水資源機構 千葉用水総合管理所	2週間	水位操作他管理業務、現場見学、設計業務
77	独立行政法人水資源機構 群馬用水管理所	2週間	流量観測、簡易測量、施設点検、環境調査等
78	独立行政法人水資源機構 霞ヶ浦用水管理所	2週間	取水、配水操作の補助、水管理データの整理等の補助、土木施設の点検等の補助
79	独立行政法人水資源機構 豊川用水総合事業部	2週間	設計業務等、工事監督業務、配水管理業務、施設管理、施設点検業務、施設確認
80	独立行政法人水資源機構 愛知用水総合管理所	2週間	配水管理業務、施設見学
81	独立行政法人水資源機構 木曽川用水総合管理所	2週間	施設の巡視、点検及び操作、水管理情報の収集及び管理データの整理、水源施設の見学

82	独立行政法人水資源機構 三重用水管理所	2週間	配水管理、施設管理業務の実習
83	独立行政法人水資源機構 香川用水管理所	2週間	堤体観測、データ整理補助、ゲート等操作補助、施設の点検・補修、水質調査等の補助業務、関連施設見学
84	独立行政法人水資源機構 筑後川下流総合管理所 筑後川下流用水事業所	2週間	配水計画作成、施設巡視点検、維持管理業務補助、水質調査、関連施設見学、調査設計等の補助
85	独立行政法人水資源機構 筑後川下流総合管理所 福岡導水事業所	2週間	導水路及び調整池の巡視点検、維持管理等、調査・設計補助、管水路の水理計算、工事監督補助、関連施設の見学
86	農研機構農村工学研究部門	2週間	農業水利施設の3次元モデル作成のための調査・計測・解析
87	農研機構農村工学研究部門	2週間	土壌物理性評価試験・アスパラガスの蒸発散測定のための流出量測定試験、バイオ炭やピートモスの蒸発抑制効果に関する室内試験、防草シートの蒸発抑制効果に関する野外試験、土壌水分計のキャリブレーション試験
88	農研機構農村工学研究部門	2週間	ICT水管理システム導入ほ場における用水量調査、〇水田の深水管理による用水量調査、水田整備に関する調査や現地視察
89	農研機構農村工学研究部門	2週間	用水の反復利用を想定した模型水路における水理模型実験、画像解析を用いた流量推定モデルの現地調査による検証、分水工の水理模型実験、現地調査、近隣土地改良区・水利施設等への現地見学

農林水産省就業体験実習実施要領

（１４農人第１９１７号
平成１５年１月３１日
農林水産省大臣官房秘書課長通知）

一部改正　平成１６年２月１６日
一部改正　平成１８年１１月２２日
一部改正　平成２１年１１月２０日
一部改正　平成２３年４月２６日
一部改正　平成２４年１２月６日
一部改正　平成２６年１月１０日
一部改正　平成２７年１０月１日
一部改正　平成３１年２月２７日
一部改正　令和２年４月２３日
一部改正　令和３年３月２４日
一部改正　令和３年７月１日

（趣旨）

第１　この要領は、大学（短期大学を含む。）、大学院その他の教育研修施設（以下「大学等」という。）の学生を対象として、農林水産省において就業体験実習（以下「実習」という。）を行う場合における当該実習の期間、実施方法、実習生の資格要件、募集方法、服務、その他必要な事項を定めるものである。

（実習の目的）

第２　本実習は、大学等の学生を農林水産省において就業体験を行わせることにより、学生の学習意欲を喚起し、高い職業意識を育成するとともに、農林水産業、農山漁村及び農林水産行政に対する理解を深めてもらうことを目的とする。

（実習の実施機関）

第３　実習の実施機関は、農林水産本省の内局（大臣官房（統計部を除く。）、大臣官房統計部及び本省の局並びに農林水産技術会議事務局をいう。）及び外局（林野庁本庁及び水産庁本庁をいう。）（以下「本省」という。）、植物防疫所、那覇植物防疫事務所、動物検疫所、農林水産政策研究所、地方農政局、北海道農政事務所並びに森林管理局とする。

（実習の期間）

第４　実習の期間については、次のとおりとする。

（１）実習の期間は、原則として、毎年、２月から４月まで又は７月から９月までの一週間以上一ヶ月間以下の期間とし、具体的な日程については、実習生を受入れる部署の実情により実習実施機関の長が決定する。

（２）実習生は、実習が開始された日から実習が終了する三日前までの間、実習の期間

の延長の申出を行うことができる。

（実習生の資格要件）

第５　実習生は、原則として大学等の学生であって、大学等が意欲、成績、人物、素行等に優れ、服務規律等を遵守することが確実であるとして推薦した者とする。また、実習を希望する学生が海外に所在する大学等の学生である場合に限り、大学等の推薦は不要とする。

ただし、次のいずれかの事項に該当する者は、実習生となることができない。

①　日本国籍を有さない者

②　正当な事由なくして大学等を休学している者

（実習生の募集及び決定等）

第６　実習生の募集及び決定等については、次のとおりとする。

（１）農林水産省は、インターネット等を通じて実習生を募集する。

（２）実習希望者は、大学等の就職担当部局等に申し出るものとする。

（３）大学等の就職担当部局等は、実習に参加させるものとして推薦する学生をとりまとめ、本省の実施分については大臣官房秘書課長に、植物防疫所、那覇植物防疫事務所、動物検疫所、農林水産政策研究所、地方農政局、北海道農政事務所及び森林管理局の実施分については各実習実施機関の長に提出する。

（４）農林水産省は、大学等の推薦に基づき、受入れる実習生を選考、決定し大学等に通知する。当該学生への結果の通知は各大学等において行う。ただし、実習を希望する学生が海外に所在する大学等の学生である場合に限り、実習実施機関の長は、当該実習を希望する学生に直接結果を通知するものとする。

（５）実習生は、実習開始前に服務規律等の遵守にかかる誓約をしなければならない。

（６）大学等の定める実習制度の適用上、当該大学等と覚書を交わす必要がある場合には、本実施要領及び別に定める実施細則の範囲内で、大臣官房秘書課長と各大学の総括責任者との間で覚書を交わすことができるものとする。

（実習の実施方法等）

第７　実習の実施方法等は、次のとおりとする。

（１）国家公務員法（昭和２２年法律第１２０号。）第１００条に基づき、実習の内容は、農林水産行政上漏えいすると重大な影響を与える情報等秘匿性の高い情報（以下「秘密情報」という。）を扱うものとなってはならない。また、秘密情報に接し得る状況に実習生をおいてはならない。

（２）実習生個人毎に指導員を置き、実習生の指導及び助言に当たらせる。

（３）指導員は、実習生に対する実習計画書を作成し、実習の適正かつ効果的な実施に努めるものとする。

（４）実習生は、指導員の助言のもとに当該課における補助的な行政事務に従事することとする。

（５）実習生は、実習期間終了の後、実習内容に関する報告書を作成し、実習実施機関の長に提出することとする。

（実習生の服務等の取扱い）

第８　実習生の服務等の取扱いは、次のとおりとする。

（１）実習期間中、実習生は国家公務員としての身分は保有しないが、実習期間中における服務については、原則として農林水産省の職員の服務に準ずるものとし、また、指導員の指導・監督等に従わなければならない。

（２）実習生は、農林水産省における実習活動中に知り得た情報（公開されているものを除く。）の取扱いについては、指導員の指示に従わなければならない。実習終了後においても、同様とする。

（３）実習の欠務は正当な事由がある場合以外はこれを認めないこととする。やむを得ず欠務する場合は事前に指導員に申し出ることとする。なお、正当な事由による場合であっても、２日以上欠務した場合、実習を打ち切ることができるものとする。

（４）実習生としてふさわしくない行為があったときは、実習を打ち切ることができるものとする。

（５）実習生の懲戒、賠償等に関する最終的な責任は、大学等で負うものとする。

（実習の打切りについて）

第９　実習の打切りについては、次のとおりとする。

（１）農林水産省は、新型コロナウイルス感染省の影響拡大等を踏まえ、実習を継続することが適切でないと判断した場合及び第８（３）並びに（４）に該当する場合の外、実習生がこの実施要領に従わない場合その他実習を継続し難い事由が生じた場合は実習を打切ることができるものとする。

（２）農林水産省は、実習を打切った場合は速やかに実習生の所属大学等にその旨を通知するものとする。

（省内 LAN システムの利用）

第 10　実習生の省内 LAN システムの利用は、次のとおりとする。

（１）実習生は、実習期間中、省内 LAN システムの電子掲示板へは一切アクセスしてはならない。

（２）実習生は、実習期間中、各部局等ごとにアクセス権限が設定されている共有フォルダへは、アクセスしてはならない。ただし、実習生は、実習生ごとに用意された作業用フォルダにアクセスすることができる。なお、各部局等の共有フォルダに保存されている電子データを作業用フォルダに複製・移送等する場合には、指導員の指導の下に行わなければならない。

（実習に係る費用負担）

第 11　実習生の実習のために要する費用の一切は、実習生個人又は大学等の負担とする。また、農林水産省は実習生に対し、一切の手当を支給しない。

（実習中の事故等に伴う災害補償）

第 12　実習中の事故等に伴う災害補償については、次のとおりとする。

（1）大学等又は実習生は、原則として、学生教育研究災害傷害保険及びインターンシップ等賠償責任保険その他の傷害保険（以下「保険」という。）に加入しなければならない。
（2）実習生が実習期間中実習により傷害を負った場合は、実習生の加入する保険により補償する。
（3）実習生が農林水産省又は第三者に損害を与えた場合は、法令に従って処理し、保険により補償する。
（4）上記（1）及び（2）に基づく保険の利用などに関する必要な手続きは、大学等が行うものとする。ただし、実習生が海外に所在する大学等の学生である場合に限り、当該実習生が保険の利用などに関する必要な手続きを行うことができる。

（実習成果の公表）
第13　実習生が実習の成果として論文等を外部へ発表する場合には、事前に実習実施機関の長の承認を受けなければならない。

（その他）
第14　この要領に定めのない事項であって、当該実習に必要な事項等については、次のとおりとする。
（1）この要領に定めるもののほか、当該実習の実施に関し必要な事項は、本省の実施分については大臣官房秘書課において、植物防疫所、那覇植物防疫事務所、動物検疫所、農林水産政策研究所、地方農政局、北海道農政事務所及び森林管理局の実施分については各実習実施機関において別に定める。
（2）この要領等に定めのない事項及びこの要領に関し疑義が生じた事項については、大臣官房秘書課、実習実施機関、大学等、実習生及びその他の関係者が協議して決定するものとする。

第15　各実習実施機関の長が独自に実習を企画及び実施する場合には、当該実習実施機関において、この要領を参考として、実習に関する規程を定めることができることとし、規程を定めた場合には、これを秘書課に報告するものとする。

本省における農林水産省就業体験実習生の募集、決定等について

平成１５年１月３１日
一部改正　平成１６年２月１６日
一部改正　平成１８年２月１日
一部改正　平成２１年１１月２０日
一部改正　平成２３年４月２６日
一部改正　平成２７年４月１７日
一部改正　令和２年４月２３日
一部改正　令和３年３月２４日
一部改正　令和３年７月１日
一部改正　令和４年１１月４日
大臣官房秘書課

（実習生の募集）

第１　実習生の募集は、次により行う。

（１）各実習実施機関の長は、実習生の受入れについて、受入れ可能な課室名、期間、人数、実施業務等につき別紙様式１にとりまとめ、大臣官房秘書課長へ報告する。

（２）大臣官房秘書課長は、各実習実施機関の報告をとりまとめた後、速やかに、大学等及び学生に対して、インターネット等を通じて、実習の実施を通知する。

（３）大学等の就職担当部局等は、実習に参加させるものとして推薦する学生を別紙様式２にとりまとめ、被推薦者毎に別紙様式３の個人調書を添付して、大臣官房秘書課長に提出する。ただし、海外に所在する大学等の学生が実習を希望する場合に限り、学生が直接、大臣官房秘書課長に提出する。

（実習生の決定等）

第２　実習生の決定は、次により行う。

（１）大臣官房秘書課長は、各実習実施機関の受入れ可能人数、学生の希望等を勘案し、各実習実施機関の長に対して、推薦する学生の一覧及び当該学生の作成した個人調書を送付する。

（２）各実習実施機関の長は、大臣官房秘書課長の推薦に基づき、受入れの可否を決定する。この際、実習を実施する課の長による面接を行うことができる。

実習実施機関の長は、決定後速やかに、実習生の受入れ先等につき大臣官房秘書課長まで報告することとする。

（３）大臣官房秘書課長は、各実習実施機関の長の報告を受けて、別紙様式４により速やかに大学等へ、受入れ可能な学生の氏名及び実習を実施する課室等（以下「受入課等」という。）を通知する。当該学生への結果の通知は、各大学等において行うこととする。ただし、実習生が海外に所在する大学等の学生である場合に限り、大臣官房秘書課長は、当該学生に直接結果を通知するものとする。

（４）実習生は、実施要領第６の（５）に規定する誓約については、別紙様式５による誓約書に署名し、大臣官房秘書課長に提出することとする。

（実習の実施に係る留意すべき事項）

第３　実習の実施方法等は、次のとおりとする。

（１）実習実施機関の長は、実習を実施する課の長に、その所属職員（原則として課長補佐クラス）のうちから指導員を指名させる。

（２）指導員は、別紙様式６により実施要領第７の（３）に規定する実習計画書を実習開始前日までに実習実施機関の長まで提出するものとする。

（３）実習生は、実習期間終了後２週間以内に、別紙様式７により実習内容に関する報告書（1,000 字程度）を作成し、指導員を経由して実習実施機関の長に提出することとする。

（４）指導員は、実習終了後、速やかに実習の結果について農林水産省ポータルに設置した報告フォームにより報告することとする。

（５）各実習実施機関の長は、実習終了後、実習の結果について別紙様式８にとりまとめ大臣官房秘書課長に報告する。

（６）実習に必要な机、椅子、パソコン等の事務用品は実習実施機関において準備し、実習生に供与する。

（７）指導員は、実施要領第 10 の趣旨を踏まえ、実習生が省内 LAN システムを適正に利用できるよう措置するとともに、実習生を指導・監督しなければならない。

（８）実習時間は午前９時 45 分から午後５時 15 分（以下、「定時という」。）までとし、このうち午後０時から午後１時までは休憩時間とする。なお、例外的に定時以外にも若干の実習を行うことがある。

（実習の期間の延長の取扱い）

第４　実施要領第４の（２）に基づく実習の期間の延長については、次のとおりとする。

（１）各実習実施機関の長は、実習生から実習の期間の延長の申出があり、受入課等として延長して受け入れることができると判断したときは、速やかに大臣官房秘書課長に連絡する。

（２）（１）により、実習の期間の延長の申出について連絡を受けた大臣官房秘書課長は、速やかに実習の期間の延長の申出を行った実習生が所属する大学等に連絡し、当該期間の延長についての可否の判断について伺いを立てるとともに、受入延長を行う期間が実習生が加入する保険（実施要領第 12 に定める保険をいう。）の保険期間内であることを確認する。ただし、実習生が海外に所在する大学等の学生である場合に限り、当該実習生が確認し大臣官房秘書課長へ報告する。

（３）大臣官房秘書課長は、（２）において行った実習の期間の延長の可否に係る判断等を総合的に勘案し、当該延長の可否について決定するものとする。

（４）大臣官房秘書課長は、（３）の結果について、速やかに各実習実施機関の長及び当該実習生の所属する大学等に連絡するものとする。

（５）（３）において、実習の期間の延長について「可」と判断したときは、大臣官房秘書課長、各実習実施機関の長等は、パソコンの貸出期間の延長等必要な手続を取ることとする。

（実習結果の報告）

第５　各大学等は、大臣官房秘書課長に、実習の結果の報告を求めることができる。

（特例的な取扱い）

第６　本実施細則第１及び第２の定めるところにかかわらず、実習生の募集及び決定等に関しては、大学等の事情に基づいて異なる取扱いを定めることができる。

（様式１）

文書番号
日　　付

大学総括責任者　あて

○○事業所長（実習実施機関の長）

農林水産省就業体験実習受入れの決定等について

貴殿より推薦のあった農林水産省就業体験実習の受入れについては、選考の結果別記農林水産省就業体験実習生名簿の者を受け入れることとしましたのでお知らせします。

つきましては、別添のとおり覚書を締結致しますので、覚書に記名の上、２通を提出してください。

また、同送の誓約書に記名の上１通を提出してください。

（備考）

１．送付期日

令和元年　　月　　日（　　）（必着）

＊送付に当たっては、書留扱いでお願いします。

２．送付先

〒○○○-○○○○　○○県○○市○○

農林水産省　○○局　○○事業所　○○課　宛

農林水産省就業体験実習に関する覚書

○○事業所と○○○大学（以下「大学」という。）は、別記「農林水産省就業体験実習生名簿」に記載されている大学の所属学生（以下「学生」という。）が、○○事業所において就業体験実習（以下「実習」という。）を行うことについて、下記のとおり覚書を締結する。

記

第１　就業体験実習実施に係る基本的役割等

○○事業所は、別記のとおり学生を就業体験実習として受け入れ、学生に対し必要な指導・助言を行う。大学は学生に対し、「農林水産省就業体験実習実施要領（平成 15 年１月 31 日農林水産大臣官房秘書課長通知）」及び本覚書に定める事項を周知するとともに、円滑な実習を進めるため必要な指導及び監督を行う。

第２　実習時間、手当等の支給及び事故への対応等

（１）　実習時間は、午前９時 45 分から午後５時 15 分まで（以下「定時」という。）とする。このうち午後０時から午後１時までを休憩時間とする。なお、定時以外にも若干の実習を行うことがある。

（２）　○○事業所は、実習中、学生に対し、通勤費（自宅及び滞在先より）、手当（日当）、食費及び旅費　（滞在先までの往復旅費）を支給しない。

（３）　大学は学生に「学生教育研究災害傷害保険」及び「インターンシップ等賠償責任保険」等の保険に加入させ、実習中における関係他者（○○事業所、人物、財物等）に対する損害、損傷等により被る法律上の損害賠償を補償する。

第３　実習中における遵守事項等

（１）　学生は、実習に関して○○事業所の指示に従い、実習期間中は実習に専念し、公務の信用を傷つけ、又は公務員全体の不名誉となるような行為を行ってはならない。

（２）　実習の欠務は、正当な事由による場合以外は認めない。やむを得ず欠務する場合は、事前に○○事業所に申し出てその指示に従うこととする。正当な事由による場合であっても２日以上欠務した場合、○○事業所は、実習を打ち切ることができることとする。

（３）　学生は、○○事業所における実習活動中に知り得た情報（公開されているものを除く。）の開示については、指導員の指示に従わなければならない。実習終了後においても、同様とする。

（４）　学生は、実習期間終了後２週間以内に、実習内容に関する報告書（1,000 字程度）を作成し、指導員を経由して実習実施機関の長に提出しなければならない。

（５）　学生は、実習の成果を論文等により外部へ発表する場合には、事前に実習実施機関の長の承認を受けなければならない。

（６）　○○事業所は、学生がこの覚書に従わない場合、その他実習を継続しがたい事由が生じた場合は実習を打ち切ることができる。○○事業所は、実習を打ち切った場合は、速やかに大学にその旨を通知する。

第４　誓約書の提出

学生は、実習に先立ち、○○事業所に対して誓約書を提出する。

第５　協議

本覚書に定めがない事項又は本覚書に疑義が生じた事項については、○○事業所と大学が協議の上決定するものとする。

本覚書の締結を証するため、本書２通を作成し、○○事業所及び大学が記名の上それぞれ１通を保管するものとする。

令和　　年　　月　　日

（日付は、空欄。当方において本覚書を受領した日付を記入し、貴職へ返送致します。）

○○事業所長（実習実施期間の長）○　○

○○大学・・・・・

（総括責任者）　　○　○　○

誓　約　書

○○事業所長（実習実施機関の長）　殿

農林水産省において就業体験実習を受けるに当たり、農林水産省就業体験実習実施要領（平成15年1月31日大臣官房秘書課長通知）等を理解し、実習生として下記のとおり遵守することを誓約します。

記

1．実習期間中は専ら所定の実習に従事し、実習目的の達成に努めること。

2．実習期間中は農林水産省職員が遵守すべき法令及び規則を守るとともに、実習生としての活動について指導員の指導、監督等に従うこと。

3．実習期間中は、特定の政治政党、宗教、企業、団体の利益のための行為を行わないこと。

4．農林水産省における実習活動中に知り得た情報（公開されているものを除く。）の開示については、指導員の指示に従うこと。実習終了後においても、同様とすること。

5．実習終了後2週間以内に、実習内容に関する報告書（1,000字程度）を作成し、指導員を経由して実習実施機関の長に提出すること。

6．実習の成果を論文等により外部へ発表する場合には、事前に実習実施機関の長の承認を受けること。

7．病気等のため予定されていた実習を受けられない場合は、あらかじめ、指導員にその旨を連絡すること。やむを得ない場合は、事後速やかに指導員にその旨を連絡すること。

令和　　年　　月　　日

大　　学：
学部・学科等：
氏　　名：

国立大学法人三重大学大学院生物資源学研究科と農林水産省東海農政局農村振興部との連携・協力に関する協定書

国立大学法人三重大学大学院生物資源学研究科（以下「甲」という。）と農林水産省東海農政局農村振興部（以下「乙」という。）は、次のとおり連携・協力に関する協定を締結する。

（目的）

第１条　本協定は、甲と乙がこれまで長年にわたって培ってきた信頼関係と連携・協力の実績を基盤として、甲が持つ教育及び研究の成果と乙が持つ農業農村の振興に係る施策のより緊密かつ組織的な連携・協力体制の強化を図ることにより、東海地域の農業農村の振興に寄与することを目的とする。

（連携・協力事項）

第２条　甲と乙は、第１条の目的を達成するため、次の事項について連携・協力を図るものとする。なお、本協定に基づく連携・協力の具体的な内容は、別表のとおりとし、詳細については別途、協議するものとする。

（１）農業農村の振興に係る教育、研究活動及び技術開発に関すること。

（２）農業農村の振興に係る施策の推進に関すること。

（３）農業農村の振興に係る人材育成に関すること。

（４）その他両者が必要と認める事項。

（経費）

第３条　第２条の連携・協力を図る際の経費については、その都度、甲乙で協議するものとする。ただし、乙の職員にかかる謝礼及び交通費は不要とする。

（有効期間）

第４条　本協定の有効期間は、協定締結の日から平成２９年３月３１日までとする。ただし、有効期間満了の１ヶ月前までに、甲、乙のいずれからも改廃の申し出がないときは、１年間更新するものとし、その後も同様とする。

（情報開示等）

第５条　甲と乙は、本協定に基づく連携・協力の実施に当たり、知り得た相手方の情報

のうち相手方が指定したものについては、本協定の有効期間中はもとより期間満了後又は解除による期間終了後においても漏洩してはならない。ただし、相手方が自ら公表した場合、又は第三者に対する開示について事前に相手方から文書による同意を得た場合はこの限りではない。

(事務局)

第６条　第２条に基づく連携・協力事項の実施にあたっては、甲においては生物資源学研究科事務部が、乙においては農村振興部設計課がその任に当たり、相互に調整して円滑に推進するものとする。

(その他)

第７条　本協定書に定めのない事項、又は本協定に疑義が生じた場合は、その都度協議して定めるものとする。

本協定の締結を証するため、本書２通を作成し、甲乙署名の上、各々１通を保有するものとする。

平成２８年１０月１８日

甲　国立大学法人三重大学大学院
生物資源学研究科長
梅　川　逸　人　　(印)

乙　農林水産省東海農政局
農村振興部長
丹　羽　啓　文　　(印)

(別表)連携・協力の具体的内容(第2条関連)

項　　目	具　体　的　内　容
(1)農業農村の振興に係る教育、研究活動及び技術開発に関すること	・甲の調査研究に必要な場所を乙が事業現場から候補地を選定し情報を提供すること
	・甲の研究成果を乙が事業現場の実状を踏まえ、必要に応じて検証すること
	・乙が実施する官民連携新技術研究開発事業への参画に向けて情報を提供すること
	・甲が実施する農業農村の振興に係る授業等において、乙が講師として参画すること
	・乙が実施する各種講習会において、甲が講師として参画すること
(2)農業農村の振興に係る施策の推進に関すること	・乙が実施する農業農村整備事業の法手続等に係る各種委員会の委員を必要に応じて甲に委嘱すること
	・乙が実施する農業農村整備事業の課題に対する方策について甲が技術的な指導助言を行うこと
	・乙の管内で実施されている農業農村整備事業の推進について甲が技術的な指導助言を行うこと
	・地震、豪雨等による自然災害からの復旧対策において甲が技術的指導及び助言を行うこと
(3)農業農村の振興に係る人材育成に関すること	・乙が甲に在学する学生に対し農業農村整備事業の現地研修の実施、インターンシップ等の受け入れを行うこと
	・乙が甲に在学する学生に対し東海農政局の業務に関する説明を実施すること
	・乙の職員と甲に在学する学生との意見交換会を実施すること
(4)その他両者が必要と認める事項	・連携・協力を円滑に推進するため、甲と乙との連絡会を適宜実施すること ・両者が必要と認める事項

【資料13】取得可能な資格一覧

（1）教育職員免許状の取得について

本学部に教育職員免許状取得のための養成課程を置き，指定科目を修得し卒業した者が教育職員免許状申請の可能者となる。

① 本学部において，取得できる教育職員免許状の種類は次のとおりである。

教員免許状の種類

○ 資源循環学科	高等学校教諭一種免許状 （理科・農業）
○ 共生環境学科	高等学校教諭一種免許状 （理科・農業）
○ 生物圏生命化学科	高等学校教諭一種免許状 （理科・農業）
○ 海洋生物資源学科	高等学校教諭一種免許状 （水産）

② 養成課程を希望する者は，「生物資源学部教職課程登録申請書」を提出し，全学と学部で毎年行われる「教職ガイダンス」には必ず出席し，履修指導を受けること。

また，取得に必要な単位数については，次頁の「教育職員免許状取得単位一覧」とし，詳細については「教職ガイダンス」にて配付する教育職員免許状取得案内(別冊)に示す。

教育職員免許状取得単位一覧

4学科共通

区　分	高一種免（農業）	高一種免（水産）	高一種免（理科）	本学部で必要な修得単位数
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	各免許（農業，水産，理科）共通科目			
	日本国憲法　2単位			2
	スポーツ健康科学 a・b　2単位			2
	英語Ⅰコミュニケーション　2単位			2
	データサイエンスⅠ　2単位			2
教科及び教科の指導法に関する科目	各学科，免許によって異なります。詳細は教育職員免許状取得案内で確認して下さい。			
	・教科に関する専門的事項 ・農業の関係科目 ・職業指導 それぞれの科目区分から1単位以上履修	・教科に関する専門的事項 ・水産の関係科目 ・職業指導 それぞれの科目区分から1単位以上履修	・教科に関する専門的事項 ・物理学 ・化学 ・生物学 ・地学 ・実験 それぞれの科目区分から1単位以上履修 物理学・化学・生物学・地学に関する実験（それぞれコンピュータ活用を含む）	20
	・教科の指導法（情報機器および教材の活用を含む。） 農業科教育法Ⅰ　2単位 農業科教育法Ⅱ　2単位	・教科の指導法（情報機器および教材の活用を含む。） 水産科教育法Ⅰ　2単位 水産科教育法Ⅱ　2単位	・教科の指導法（情報機器および教材の活用を含む。） 理科教育法Ⅰ　2単位 理科教育法Ⅱ　2単位	4
教職の基礎的理解に関する科目	以下の区分は，各免許（農業，水産，理科）共通科目			
	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学	2単位　必修	2
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職入門A　2単位 教職入門B　2単位	1科目履修	2
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育行政学　2単位 教育社会学　2単位	1科目履修	2
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学　2単位 発達心理学　2単位	1科目履修	2
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育入門	2単位　必修	2
	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論A　2単位 教育課程論B　2単位	1科目履修	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳の理論及び指導法			
	・総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導法	2単位　必修	2
	・特別活動の指導法	特別活動論A　2単位 特別活動論B　2単位	1科目履修	2
	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育技術論A　2単位 教育技術論B　2単位	1科目履修	2
	・生徒指導の理論及び方法	生徒指導論・進路指導論	2単位　必修	2
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	2単位　必修	2
	・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			
教育実践に関する科目	・教育実習	教育実習（高校） （事前・事後指導1単位を含む）	3単位　必修	3
	・学校活動体験			
	・教職実践演習	教職実践演習（高）	2単位　必修	2
大学が独自に設定する科目	「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」で取得した単位でそれぞれの最低必修単位を超える単位数を充てる。			12
				修得合計 71単位

（2）学芸員資格の取得について

本学部に学芸員資格取得のための学芸員養成課程を置き，次にあげる専門科目を修得し卒業した者が資格者となる。

〇資源循環学科，共生環境学科，生物圏生命化学科，海洋生物資源学科

・履修単位表（19単位）

法令上の科目		左記に対応する開設授業科目	
科目名	単位	授業科目名	単位
生涯学習概論	2	生涯学習概論	2
博物館概論	2	考古学・文化財学概論A	2
		博物館概論	2
博物館経営論	2	博物館経営論	2
博物館資料論	2	考古学・文化財学概論B	2
		博物館資料論	2
博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2
博物館展示論	2	博物館展示論	2
博物館教育論	2	博物館教育論	2
博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2
博物館実習	3	博物館実習（学内実習）	3
		博物館実習（事前・事後指導）	
		博物館実習（館園実習）	

注1：学芸員資格科目を履修するには，「生物資源学部学芸員養成課程登録申請書」を提出し，毎年行われるガイダンスに出席すること。

注2：科目の履修については，毎年行われるガイダンスの指示に従うこと。

注3：博物館実習については，3年後期からの学内実習と4年に実施する博物館での館園実習を修得すること。

（3）食品衛生管理者及び食品衛生監視員の取得について

本学部，生物圏生命化学科に食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得のための養成課程（食品衛生コース（農化），食品衛生コース（水産））を置き，次ページにあげる専門科目を修得し卒業した者が有資格者となる。

生物圏生命化学科：食品衛生コース（農化）

対象：生命機能化学教育コース

食品衛生法施行規則における区分			左記科目に該当する本学部開講「食品衛生コース」科目		
	学科	科目	新科目	単位	履修方法
第五十条第二項の科目	化学	分析化学	分析化学	2	必修科目11科目 22単位を取得のこと
		有機化学	有機化学Ⅰ	2	
			有機化学Ⅱ	2	
		無機化学			
	生物化学	生物化学	生化学Ⅰ	2	
		食品化学	食品化学	2	
		生理学	生理学	2	
		食品分析学			
		毒性学	創薬化学	2	
	微生物学	微生物学	微生物学	2	
		食品微生物学	微生物利用学	2	
		食品保存学			
		食品製造学			
	公衆衛生学	公衆衛生学	公衆衛生学	2	
		食品衛生学	食品衛生学	2	
		環境衛生学			
		衛生行政学			
		疫学			
	小計			22単位	
第五十条第三項の科目	その他の関連科目		細胞生物学	2	7科目14単位以上 取得のこと
			生物機能化学	2	
			生化学Ⅱ	2	
			栄養化学	2	
			物理化学	2	
			生物物理化学	2	
			食品工学	2	
			分子生物学	2	
			微生物遺伝学	2	
			発酵生理学	2	
			生命機能化学実験実習1	1	4科目4単位以上 取得のこと
			生命機能化学実験実習2	1	
			生命機能化学実験実習3	1	
			生命機能化学実験実習4	1	
			生命機能化学実験実習5	1	
	小計			18単位以上	
合計				40単位以上	

（注）履修期については前掲の学科カリキュラム表および各年度の授業時間割で確認して下さい。

生物圏生命化学科：食品衛生コース（水産）

対象：海洋生命分子化学教育コース

食品衛生法施行規則における区分			左記科目に該当する本学部開講「食品衛生コース」科目		
	学科	科目	新科目	単位	履修要件
第五十条第二項の科目	化学	分析化学	分析化学	2	必修科目11科目 22単位を取得のこと
		有機化学	有機化学Ⅰ	2	
			有機化学Ⅱ	2	
		無機化学			
	生物化学	生物化学	生化学Ⅰ	2	
		食品化学	水産食品化学	2	
		生理学	生理学	2	
		食品分析学			
		毒性学			
	微生物学	微生物学	微生物学	2	
		食品微生物学	微生物利用学	2	
		食品保存学			
		食品製造学			
	公衆衛生学	公衆衛生学	公衆衛生学	2	
		食品衛生学	水産食品衛生学	2	
		環境衛生学	海洋天然物化学	2	
		衛生行政学			
		疫学			
	小計			22単位	
第五十条第三項の科目	その他の関連科目		水圏生物化学	2	7科目14単位以上 取得のこと
			分子生物学	2	
			細胞生物学	2	
			生化学Ⅱ	2	
			海洋資源微生物学	2	
			生物物性学	2	
			食品安全化学	2	
			バイオインフォマティクス	2	
			脂質化学	2	
			マリンフードプロセス実習	1	4科目4単位 を取得のこと
			海洋生命分子化学実験1	1	
			海洋生命分子化学実験2	1	
			海洋生命分子化学実験3	1	
	小計			18単位以上	
合計				40単位以上	

（注）履修期については前掲の学科カリキュラム表および各年度の授業時間割で確認して下さい。

（4）測量士補資格の取得について

本学部，共生環境学科農業土木学教育コースに測量士補資格取得のためのカリキュラムを置き，次にあげる専門科目を取得し卒業した者が資格申請可能者となる。

〇共生環境学科　農業土木学教育コース

・履修単位表（32単位以上）

授　業　科　目	単位	履　修　方　法
環境解析基礎Ⅰ	2	必修科目14科目24単位を取得のこと
環境解析基礎Ⅱ	2	
環境解析基礎Ⅲ	2	
環境系数学	2	
基礎構造力学	2	
測量学	2	
基礎水理学	2	
測量学実習	1	
水理学	2	
基礎土質力学	2	
環境土壌学実験	1	
水理実験	1	
コンクリート・土質材料実験	1	
測量学演習	2	
土壌物理学	2	選択科目12科目から8単位以上取得のこと
土壌学	2	
構造力学	2	
地形学	2	
フィールド地質学	2	
実践農業土木学	2	
土質力学	2	
応用水文学	2	
地盤・防災工学	2	
農地工学	2	
農業土木学キャリアアップ演習	2	
地理情報システム学	2	
合計単位数		32単位以上

（5）樹木医補資格の取得について

本学部，資源循環学科に樹木医補資格取得のための専門科目を開講する，指定科目を修得し卒業した者が資格申請可能者となる。

指定科目の修得については，資源循環学科でガイダンスを行う。

【資料 14】選抜方法

（改組前）

学部	学科	入学定員	募集人員					
			一般選抜		総合型選抜	特別選抜		
			前期日程	後期日程		学校推薦型選抜	帰国生徒	社会人
生物資源学部	資源循環学科	70	33	15		20	1	1
	共生環境学科	70	35	15		18	1	1
	生物圏生命化学科	80	43	17		18	1	1
	海洋生物資源学科	40	22	8		8	1	1
	計	260	133	55		64	4	4

（改組後）

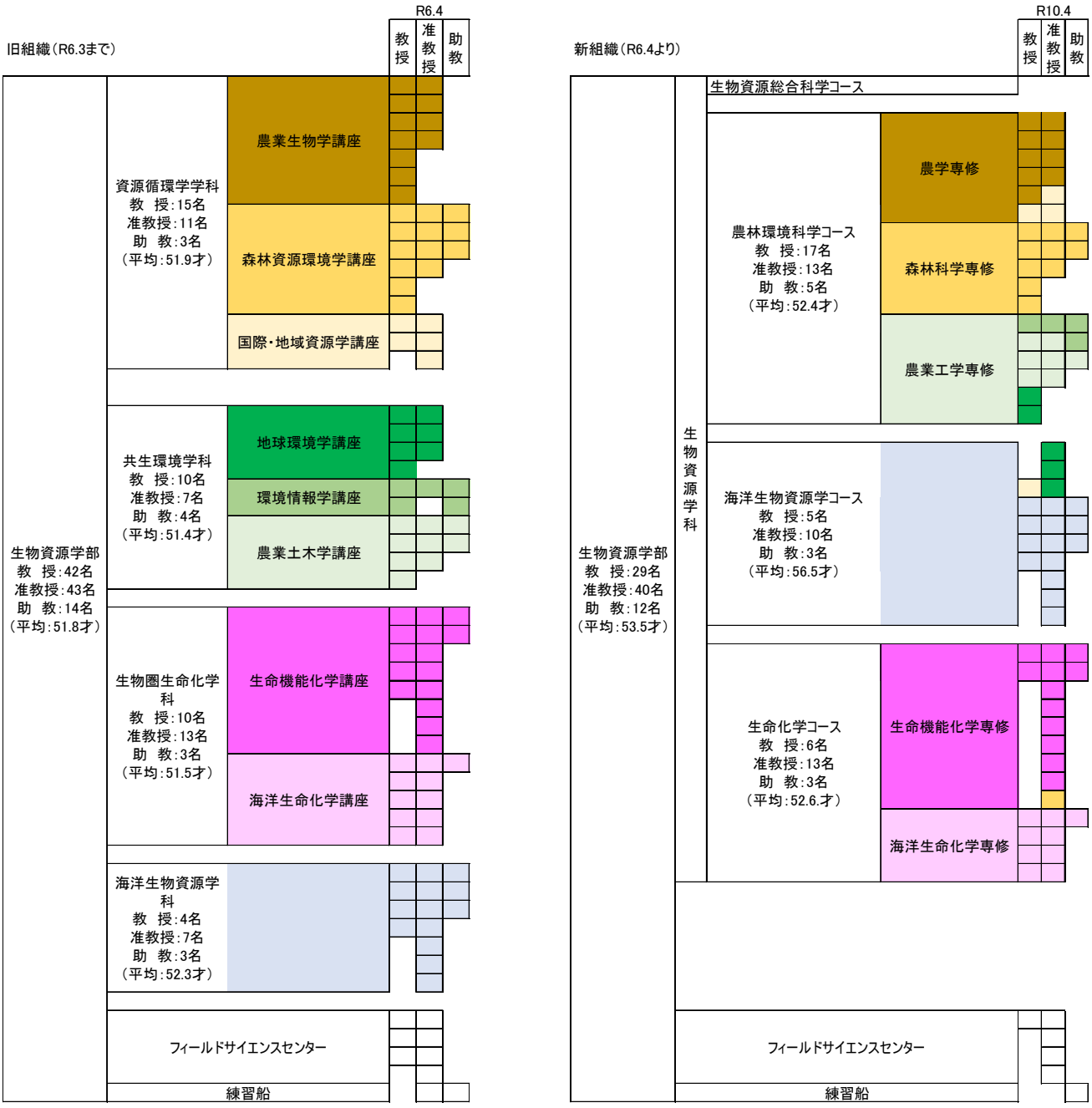
学部	学科・コース		入学定員	募集人員					
				一般選抜		総合型選抜	特別選抜		
				前期日程	後期日程		学校推薦型選抜	帰国生徒	社会人
生物資源学部	生物資源学科	生物資源総合科学コース	260	15			15		
		農林環境科学コース		53	28		25	2	2
		海洋生物資源学コース		25	10		8	1	1
		生命化学コース		41	10		22	1	1
		計	260	134	48		70	4	4

※１　各コースの募集人員は目安定員。生物資源総合科学コースは２年次進級にに希望する他の三コースに配属される（各コースの受け入れ体制によっては希望にそえないこともある）。

※２　生物資源総合科学コースの学校推薦型選抜は紀伊黒潮枠で実施する。

【資料 15】教員組織の構成

＊ 教員は研究科に所属。表中の人数は学科等の講義を担当する教員数。
＊＊ 表は、将来補充される人員を含まない。補充により教員数は微増し平均年齢は低くなる。



【資料16】職員就業規則

0国立大学法人三重大学職員就業規則

(平成16年4月1日規則第81号)

改正	平成17年6月23日規則	平成18年4月1日規則
	平成19年6月28日規則	平成20年3月27日規則
	平成20年9月25日規則	平成20年11月11日規則
	平成21年3月30日規則	平成21年5月28日規則
	平成22年3月24日規則	平成22年6月24日規則
	平成22年12月20日規則	平成24年3月29日規則
	平成25年3月28日規則	平成27年3月26日規則第81号
	平成28年3月24日規則第81号	令和元年11月21日規則第81号
	令和4年3月24日規則第81号	令和4年6月28日規則第81号
	令和4年10月11日規則第81号	令和4年11月22日規則第81号
	令和5年3月28日規則第81号	令和5年5月16日規則第81号

目次

第1章総則（第1条－第6条）
第2章人事
第1節採用（第7条－第9条）
第2節昇進及び降職（第10条－第11条の5）
第3節異動（第12条－第14条）
第4節休職（第15条－第18条）
第5節退職及び解雇（第19条－第28条）
第3章給与（第29条－第37条）
第4章服務（第38条－第44条）
第5章知的財産（第45条）
第6章勤務時間，休日，休暇等（第46条－第56条）
第7章研修（第57条）
第8章賞罰（第58条－第62条）
第9章安全衛生（第63条－第71条）
第10章出張（第72条・第73条）
第11章福利・厚生（第74条・第75条）
第12章災害補償（第76条･第77条）
第13章退職手当（第78条－第80条）
附則

第1章総則

(目的)

第1条　この就業規則（以下「規則」という。）は，労働基準法（昭和22年法律第49号。以下「労基法」という。）第89条の規定に基づき，国立大学法人三重大学（以下「大学」という。）に勤務する職員の就業に関し必要な事項を定めるものである。

(適用範囲)

第2条　この規則は，大学の職員に適用する。ただし，次の各号に定める職員の就業については，別に定める。

⑴　非常勤職員
⑵　第23条の規定により再雇用された職員
⑶　生物資源学研究科附属錬習船勢水丸に勤務する船員
⑷　外国人教師及び外国人研究員
⑸　特任一般職員
⑹　専任の医学部附属病院長

(7)　その他学長が必要と認める職員

(職員の区分)

第3条　この規則における職員の区分は，次の各号に掲げるとおりとする。

(1)　教育職員　大学教員及び附属学校教員

(2)　一般職員　前号以外の職にある者

2　前項の職員の職種及び職名は，別に定める。

3　第1項の職員のうち，任期を付して雇用される職員の任期に関する事項は，別に定める。

(権限の委任)

第4条　学長は，この規則に規定する権限の一部を他の職員に委任することができる。

(法令との関係)

第5条　この規則に定めのない事項については，労基法，その他の関係法令及び諸規程の定めるところによる。

(遵守遂行)

第6条　大学及び職員は，それぞれの立場でこの規則を遵守し，誠実にその履行に努めなければならない。

第2章　人事

第1節　採用

(採用)

第7条　職員の採用は，競争試験又は選考による。

2　職員の選考に関し必要な事項は，別に定める国立大学法人三重大学職員採用等規程(以下「採用等規程」という。)による。

(労働条件の明示)

第8条　学長は，職員の採用に際しては，採用をしようとする職員に対し，あらかじめ，次の各号に掲げる事項を記載した文書を交付するものとする。

(1)　給与に関する事項

(2)　就業の場所及び従事する業務に関する事項

(3)　労働契約の期間に関する事項

(4)　始業及び終業の時刻，所定労働時間を超える労働の有無，休憩時間，休日並びに休暇に関する事項

(5)　交替制勤務をさせる場合は就業時転換に関する事項

(6)　退職(解雇の事由を含む。)に関する事項

(試用期間)

第9条　職員として採用された者には，採用の日から3カ月間の試用期間を設ける。ただし，国，地方公共団体又はこれに準ずる関係機関の職員から引き続き大学の職員となった者については，この限りでない。

2　試用期間終了前に正規の職員とするに学長が不適当と認めたときは，解雇することがある。

3　試用期間は，勤続年数に通算する。

第2節　昇進及び降職

(昇進)

第10条　職員の昇進は，選考による。

2　前項の選考は，その職員の勤務成績等に基づいて行う。

3　職員の選考に関し必要な事項は，別に定める採用等規程による。

(降職)

第11条　職員が次の各号のいずれかに該当する場合には，降職させることがある。
(1)　勤務実績がよくない場合
(2)　心身の故障のため職務の遂行に支障があり，又はこれに堪えない場合
(3)　その他，必要な適格性を欠く場合
2　職員の降職に関し必要な事項は，別に定める採用等規程による。
(管理監督職勤務上限年齢による降職)
第11条の2　学長は，管理又は監督の地位(国立大学法人三重大学職員給与規程(以下「給与規程」という。)第13条第1項に規定する管理職手当支給対象者が就いている職(以下「管理監督職」という。))にある職員(大学教員を除く。)で，当該管理監督職に係る管理監督職勤務上限年齢に達している職員について，当該管理監督職勤務上限年齢に達した日の翌日から同日以後における最初の4月1日までの期間(第11条の4の規定により延長された期間を含む。以下「異動期間」という。)に，管理監督職以外の最も上位の職へ降職をするものとする。ただし，異動期間にこの規則の他の規定により，当該職員について他の職への昇進若しくは降職をした場合又は第22条第1項の規定により当該職員を管理監督職に就いたまま引き続き勤務させることとした場合は，この限りでない。
2　前項の管理監督職勤務上限年齢は，満60歳とする。
3　第1項の規定による他の職への降職に関し必要な事項については，別に定める。
(管理監督職への採用等の制限)
第11条の3　学長は，採用，昇進又は降職しようとする管理監督職に係る管理監督職勤務上限年齢に達している者を，その者が当該管理監督職に就いているものとした場合における異動期間の末日の翌日(管理監督職勤務上限年齢により降職した職員にあっては，当該降職をされた日)以後，当該管理監督職に採用，昇進又は降職することができない。
(管理監督職勤務上限年齢による降職及び管理監督職への採用等の制限の特例)
第11条の4　学長は，管理監督職以外の職へ降職をすべき管理監督職に就いている職員について，次に掲げる事由があると認めるときは，当該職員が就く管理監督職に係る異動期間の末日の翌日から起算して1年を超えない期間内(当該期間内に第21条に規定する定年退職日がある職員にあっては，当該異動期間の末日の翌日から定年退職日までの期間内)で当該異動期間を延長し，引き続き当該管理監督職に就く職員に，当該管理監督職に就いたまま勤務をさせることができる。
(1)　当該職員の職務の遂行上の特別の事情を勘案して，当該職員の降職により職務の運営に著しい支障が生ずると認められる場合
(2)　当該職員の職務の特殊性を勘案して，当該職員の降職により，当該管理監督職の欠員の補充が困難となることにより職務の運営に著しい支障が生ずると認められる場合
2　学長は，前項又はこの項の規定により異動期間(これらの規定により延長された期間を含む。)が延長された管理監督職に就く職員について，前項各号に掲げる事由が引き続きあると認めるときは，延長された当該異動期間の末日の翌日から起算して1年を超えない期間内(当該期間内に定年退職日がある職員にあっては，延長された当該異動期間の末日の翌日から定年退職日までの期間内)で延長された当該異動期間を更に延長することがきる。ただし，更に延長される当該異動期間の末日は，当該職員が就く管理監督職に係る異動期間の末日の翌日から起算して3年を超えることができない。
3　前二項に定めるもののほか，これらの規定による異動期間(これらの規定により延長された期間を含む。)の延長及び当該延長に係る職員の降職に関し必要な事

項については，別に定める採用等規程による。
（希望降職）
第11条の5　第11条の2に規定するもののほか，管理監督職に就いている職員以外の職員（大学教員を除く。）が満60歳に達した日以後に降職を希望する場合には，降職させることがある。
2　前項の規定により降職の決定をした職員を降職させる時期は，原則として申出のあった日の属する年度の翌年度の4月1日とする。ただし，特に必要と認められる場合は，この限りでない。
3　職員の希望降職に関し必要な事項は，別に定める採用等規程による。
第3節　異動
（配置換及び兼務）
第12条　職員は，業務上の都合により配置換又は兼務を命ぜられることがある。
2　前項に規定する異動を命ぜられた職員は，正当な理由がない限り拒むことができない。
3　職員の配置換及び兼務に関し必要な事項は，別に定める採用等規程による。
（出向）
第13条　職員は，業務上必要と認められる場合は，出向を命ぜられることがある。
2　職員の出向に関し必要な事項は，別に定める国立大学法人三重大学職員出向規程による。
（赴任）
第14条　赴任の命令を受けた職員は，発令の日から，次の各号に掲げる期間内に新任地に赴任しなければならない。ただし，やむを得ない理由により定められた期間内に赴任できないときは，新任地の上司の承認を得なければならない。
(1)　住居移転を伴わない赴任の場合　即日
(2)　住居移転を伴う赴任の場合　7日以内
第4節　休職
（休職）
第15条　職員が次の各号のいずれかに該当するときは，休職とする。
(1)　負傷又は疾病により長期の療養を要する場合
(2)　刑事事件に関し起訴され，職務の正常な遂行に支障をきたす場合
(3)　学校，研究所，病院その他大学が指定する施設において，その職員の職務に関連があると認められる学術に関する事項の調査，研究若しくは指導に従事し，又は大学が指定する国際事情の調査等の業務に従事する場合
(4)　科学技術に関する共同研究及び受託研究に係る業務であって，その職員の職務に関連があると認められるものに，前号に掲げる施設又は大学が当該研究に関し指定する施設において従事する場合
(5)　国立大学法人三重大学職員兼業規程（以下「兼業規程」という。）第11条に規定する研究成果活用企業の役員（監査役を除く。），顧問又は評議員（以下「役員等」という。）の職を兼ねる場合において，主として当該役員等の職務に従事する必要があり，大学の職務に従事することができない場合
(6)　我が国が加盟している国際機関，外国政府の機関等からの要請に基づいて職員を派遣する場合
(7)　労働組合業務に専従する場合
(8)　水難，火災その他の災害により，生死不明又は所在不明となった場合
(9)　その他特別の事由により休職とすることが適当と認められる場合
2　試用期間中の職員については，前項の規定を適用しない。

3　職員の休職に関し必要な事項は，別に定める採用等規程による。

（休職の期間）

第16条　前条第1項第1号の事由が業務外である場合の休職期間は，必要に応じ，3年を超えない範囲内で学長が定める。この休職の期間が3年に満たない場合においては，休職した日から引き続き3年を超えない範囲内においてこれを更新することができる。ただし，学長が特に必要と認める場合はこの限りでない。

2　前条第1項第1号の事由が業務上である場合の休職期間は，当該負傷又は疾病が治癒（症状固定を含む。）するまでの期間とする。ただし，労基法第81条の規定により打切補償を受けた場合又は業務災害による療養開始後3年を経過した日において傷病補償年金を受取ることになった場合は，この限りでない。

3　前条第1項第2号の休職期間は，その事件が裁判所に係属する期間とする。

4　前条第1項第3号から第5号まで，第8号及び第9号の休職期間は，必要に応じ，3年を超えない範囲内で学長が定める。この休職の期間が3年に満たない場合においては，休職した日から引き続き3年を超えない範囲においてこれを更新することができる。

5　前条第1項第6号及び第7号の休職期間は必要に応じ，5年を超えない範囲内で学長が定める。同項第6号の休職の期間が5年に満たない場合においては，休職した日から引き続き5年を超えない範囲内においてこれを更新することができる。

6　前条第1項第3号から第5号までの休職期間が引き続き3年に達する際特に必要があると学長が認めたときは，2年を超えない範囲内において休職の期間を更新することができる。この更新した休職の期間が2年に満たない場合においては，学長は，必要に応じ，更新した休職の期間の初日から起算して2年を超えない範囲内において，再度これを更新することができる。

7　学長は，特に必要があると認めたときは，第4項の規定にかかわらず，前条第1項第5号の休職の期間を3年を超え5年を超えない範囲内において定めることができる。この休職の期間が5年に満たない場合においては，学長は，必要に応じ，休職した日から引き続き5年を超えない範囲内において，これを更新することができる。

8　前条第1項第4号及び第5号の休職の期間が引き続き5年に達する際，やむを得ない事情があると学長が認めたときは，必要に応じ，これを更新することができる。

（復職）

第17条　学長は，前条の休職期間を満了するまでに休職事由が消滅したと認めた場合には，すみやかに復職を命じるものとする。

2　前項の定めによらず，第15条第1項第1号の休職については，職員が休職期間の満了までに復職を願い出て，医師が休職事由が消滅したと診断した場合に限り，復職を命じる。この場合，産業医又は大学が指定する医師の診断を求めることがある。

3　前2項の場合，学長は，原則として休職前の職場に復帰させる。ただし，心身の状態その他を考慮し，産業医又は大学の指定する医師の意見を聴取の上，他の職務に就かせるなど必要な措置をとることがある。

（休職中の身分）

第18条　休職者は，職員としての身分を保有するが，職務に従事しない。

2　休職者は，その休職期間中，別に定める給与規程において別段の定めをしない限り，給与を支給されない。

第5節　退職及び解雇

（退職）
第19条　職員は，次の各号のいずれかに該当するときは，退職とし，職員としての身分を失う。
(1)　退職を申し出て学長から承認されたとき。
(2)　定年に達したとき。
(3)　第21条の2に定める早期退職制度に基づき，退職を申し出て学長から承認されたとき。
(4)　期間を定めて雇用されている場合，その期間を満了したとき。
(5)　第15条第1項第1号（業務上の事由に起因する場合を除く。）から第9号までに定める休職の期間が満了し，休職の事由がなお消滅せず，復職できないとき。
(6)　死亡したとき。
2　退職を申し出た職員が第59条第1項各号のいずれかに該当し，懲戒処分の手続中である場合は，前項第1号の規定にかかわらず，当該退職を認めないことがある。
（自己都合による退職手続）
第20条　職員は，自己の都合により退職しようとするときは，退職を予定する日の少なくとも14日前までに学長に退職届を提出しなければならない。
2　職員は，退職届を提出後も，退職するまでの間は，従来の職務に従事しなければならない。
（定年）
第21条　職員の定年は，満65歳とする。
2　定年による退職の日（以下「定年退職日」という。）は，定年に達した日以後における最初の3月31日とする。
（大学教員の早期退職）
第21条の2　大学教員は，前条第1項第1号に定める定年より前に，早期退職制度により退職することができる。
2　早期退職制度に関し必要な事項は，別に定める国立大学法人三重大学大学教員早期退職規程による。
（定年による退職の特例）
第22条　学長は，定年に達した職員（大学教員を除く。）が第21条の規定により退職すべきこととなる場合において，その職員の特殊性又はその職員の職務の遂行上の特別の事情からみてその退職により業務の運営に著しい支障が生じると認められる十分な理由があるときは，同条の規定にかかわらず，当該職員に係る定年退職日の翌日から起算して１年を超えない範囲内で期限を定め，当該職員を当該定年退職日において従事している職務に従事させるため，引き続き勤務させることができる。ただし，第11条の4第1項及び第2項の規定により異動期間（これらの規定により延長された期間を含む。）を延長した職員であって，定年退職日において管理監督職に就いている職員については，同条第1項又は第2項の規定により当該定年退職日まで当該異動期間を延長した場合であって，引き続き勤務させることについて承認したときに限るものとし，当該期限は，当該職員が就いている管理監督職に係る異動期間の末日の翌日から起算して3年を超えることができない。
2　学長は，前項の期限又はこの項の規定により延長された期限が到来する場合において，前項に掲げる事由が引き続きあると認めるときは，これらの期限の翌日から起算して1年を超えない範囲内で期限を延長することができる。ただし，当該期限は，当該職員に係る定年退職日（同項ただし書に規定する職員にあって

は，当該職員が就いている管理監督職に係る異動期間の末日)の翌日から起算して3年を超えることができない。
3　職員の定年退職日の延長に関し必要な事項は，別に定める採用等規程による。
(再雇用)
第23条　第21条の規定により退職した者(大学教員を除く。)，満60歳に達した日以後に第19条第1項第1号の規定により退職した者(大学教員を除く。)又は前条の規定により定年退職日を延長して勤務した後退職した者で，本人が再雇用を希望し，第19条第1項第5号に定める退職事由又は第24条に定める解雇事由に該当しない場合は，1年を超えない範囲内で雇用期間を定め，再雇用するものとする。
2　前項の雇用期間又はこの項の規定により更新された雇用期間は，1年を超えない範囲で更新することができる。ただし，別途定める更新基準を満たさない場合はこの限りでない。
3　前2項の規定による雇用期間の末日は，その者が満65歳に達する日以後における3月31日以前とする。
(解雇)
第24条　職員が次の各号のいずれかに該当する場合には，解雇することがある。
(1)　勤務実績が著しく不良で，改善の見込みのない場合
(2)　心身の故障のため職務の遂行に著しく支障があり，又はこれに堪えない場合
(3)　前2号に規定する場合のほか，その職務に必要な適格性を欠く場合
(4)　天災事変その他やむを得ない事由により大学の事業継続が不可能となった場合
(5)　上記各号に準ずるやむを得ない事由が生じた場合
2　職員の解雇に関し必要な事項は，別に定める採用等規程による。
(解雇制限)
第25条　前条の規定にかかわらず，次の各号のいずれかに該当する期間は解雇しない。ただし，第1号の場合において療養開始後3年を経過しても負傷又は疾病が治らず労基法第81条の規定によって打切補償を支払う場合又は業務災害による療養開始後3年を経過した日において傷病補償年金を受取ることになった場合は，この限りでない。
(1)　業務上負傷し，又は疾病にかかり療養のため休業する期間及びその後30日間
(2)　産前産後の女性職員が，別に定める国立大学法人三重大学に勤務する職員の勤務時間，休暇等に関する規程(以下「勤務時間等規程」という。)第28条第7号及び第8号の規定により休業する期間及びその後30日間
(解雇予告)
第26条　第24条の規定により職員を解雇する場合は，少なくとも30日前に本人に予告をするか，又は平均賃金の30日分以上の解雇予告手当を支払う。ただし，試用期間中の職員(14日を超えて引き続き雇用された者を除く。)を解雇する場合又は所轄労働基準監督署長の認定を受けて第60条第1項第5号に定める懲戒解雇をする場合はこの限りでない。
(退職後の責務)
第27条　退職又は解雇された者は，在職中に知り得た秘密を他に漏らしてはならない。
(退職証明書)

第28条　学長は，退職又は解雇された者が，退職証明書の交付を請求した場合は，遅滞なくこれを交付する。ただし，解雇理由に関してのみ退職前でも請求があれば交付する。

2　前項の証明書に記載する事項は，次の各号に掲げるとおりとする。

(1)　雇用期間

(2)　業務の種類

(3)　その他事業における地位

(4)　給与

(5)　退職の事由(解雇の場合は，その理由)

3　証明書には前項の事項のうち，退職又は解雇された者が請求した事項のみを証明するものとする。

第3章　給与

(給与の種類)

第29条　職員の給与は，本給(本給の調整額及び教職調整額を含む。)及び諸手当とする。

2　諸手当は，扶養手当，管理職手当，地域手当，広域異動手当，住居手当，通勤手当，単身赴任手当，特殊勤務手当，特地勤務手当，超過勤務手当，休日給，夜勤手当，宿直手当，初任給調整手当，義務教育等教員特別手当，本府省業務調整手当，特別調整手当，競争的研究費獲得手当，職務手当，クロスアポイントメント手当，クロスアポイントメント特別手当，期末手当及び勤勉手当とする。

(給与の支給日)

第30条　本給，扶養手当，管理職手当，地域手当，広域異動手当，住居手当，通勤手当，単身赴任手当，特地勤務手当，初任給調整手当，義務教育等教員特別手当，本府省業務調整手当，特別調整手当及びクロスアポイントメント手当は，その月の月額の全額を毎月21日に，特殊勤務手当，超過勤務手当，休日給，夜勤手当，宿直手当及び職務手当は，その月の分を翌月21日に，競争的研究費獲得手当は，毎年4月21日(この条において，「支給日」という。)に支給する。ただし，支給日が土曜日，日曜日又は休日に当たるときは，支給日の直前の土曜日，日曜日又は休日でない日に繰り上げて支給する。

2　前項の規定にかかわらず，前項ただし書きの規定により繰り上げる日数は前々日までとし，それ以外は支給日後の最初の土曜日，日曜日又は休日でない日に繰り下げて支給する。

3　クロスアポイントメント特別手当，期末手当及び勤勉手当は，6月30日及び12月10日(この項において，「支給定日」という。)に支給する。ただし，支給定日が日曜日に当たるときは，支給定日の前々日に，支給定日が土曜に当たるときは，支給定日の前日に支給する。

(給与の支給)

第31条　職員の給与は，その全額を現金で，直接職員に支払うものとする。ただし，法令に基づき職員の給与から控除すべき金額がある場合には，その職員に支払うべき給与の金額から，その金額を控除して支払うものとする。

2　労基法第24条第1項ただし書に定める労使協定が締結された事業場において，大学は，給与の一部を控除して支払うことができる。

3　第1項の規定にかかわらず，労使協定が締結された事業場においては，職員の申出に基づき，大学の取引銀行が振込可能な金融機関及び郵便局における本人の預貯金口座へ振り込むことにより，これを支払う。

(給与の決定)

第32条　職員の受ける本給は，所定の勤務時間による勤務に対する報酬であって，職務の複雑，困難及び責任の度に基づき，かつ，勤労の強度，勤務時間，勤務環境その他の勤務条件を考慮して，本給表に定める級及び号給に決定される。

2　本給表の種類は，次の各号に掲げるとおりとする。

(1)　一般職本給表(一)

(2)　一般職本給表(二)

(3)　海事職本給表(一)

(4)　海事職本給表(二)

(5)　教育職本給表(一)

(6)　教育職本給表(二)

(7)　教育職本給表(三)

(8)　医療職本給表(二)

(9)　医療職本給表(三)

(10)　指定職本給表

3　各本給表及び本給表の適用範囲は，別に定める。

4　第2項の本給表に定める職務の級の分類の基準となるべき標準的な職務の内容及びその級別の資格基準等については，別に定める。

(初任給)

第33条　新たに採用する者の初任給は，その者の学歴，免許・資格，職務経験等を考慮して決定する。

(昇給)

第34条　職員の昇給は，毎年1月1日に同日前1年間におけるその者の勤務成績に応じて，行うものとする。

(年俸制適用者の給与)

第35条　職員の給与については，第29条から前条までの規定にかかわらず，学長が必要と認める場合は，年俸制を適用することができるものとし，その適用範囲，その他必要な事項は，別に定める。

第36条　削除

(給与に関する事項)

第37条　職員の給与に関し必要な事項は，第29条から第34条までに定めるもののほか，別に定める給与規程による。

第4章　服務

(誠実義務)

第38条　職員は，大学の社会的使命と職務上の責任を自覚して勤務中は職務に専念し，大学がなすべき責を有する職務を誠実に遂行するとともに，大学の発展に努めなければならない。

(職務従事免除期間)

第39条　職員は，次の各号のいずれかに該当する期間については，職務従事を免除される。

(1)　勤務時間内レクリエーションに参加を承認された期間

(2)　勤務時間内に組合交渉に参加することを承認された期間

(3)　雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律(以下「均等法」という。)第12条の規定に基づき，勤務時間内に保健指導又は健康診査を受けることを承認された期間

(4)　均等法第13条の規定に基づき，通勤緩和，休憩，休業及び補食により勤務しないことを承認された期間

(5)　勤務時間内に総合的な健康診査を受けることを承認された期間

（遵守事項）
第40条　職員は，次の各号に掲げる事項を守らなければならない。
(1)　職場の内外を問わず，大学の信用を傷つけ，その利益を害し，又は職員全体の不名誉となるような行為をしてはならない。
(2)　職務上知ることのできた機密事項や個人情報を正当な理由なく他に漏らしてはならない。
(3)　常に公私の別を明らかにし，その職務や地位を私的利用のために用いてはならない。
(4)　大学の敷地及び施設内（以下「大学内」という。）で，喧騒等業務の正常な遂行を妨げる行為をしてはならない。
(5)　大学内で，風紀を乱す行為をしてはならない。
(6)　学長に許可なく，大学内で営利を目的とする金品の貸借をし，物品の売買を行ってはならない。
（職員の倫理）
第41条　職員は，大学の業務の公共性を自覚し，公正に職務を遂行しなければならない。
2　職員の倫理に関し必要な事項は，別に定める国立大学法人三重大学役職員倫理規程による。
（ハラスメントに関する措置）
第42条　大学は，ハラスメントの防止及び排除のために必要な措置をとるように努めるとともに，健全なる職場環境の保持に努めなければならない。
2　職員は，互いに大学の構成員の自由及び権利を尊重しあうとともに，自己の有する権限や影響力を濫用して，大学の構成員の人格及び権利を侵害する行為を行ってはならない。
3　ハラスメントの防止等に関する措置は，別に定める国立大学法人三重大学におけるハラスメントの防止及び対策に関する規程による。
（兼業の制限）
第43条　職員は，学長の許可を受けた場合でなければ，他の業務に従事し，又は自ら営利企業を営んではならない。
2　職員の兼業に関し必要な事項は，別に定める兼業規程による。
（内部告発者の保護）
第44条　大学内で行われた非違行為の事実を大学に通報した職員は，通報したことにより，いかなる不利益も受けない。ただし，誹謗中傷を目的とした通報に関しては，この限りでない。

第5章　知的財産

（知的財産）
第45条　知的財産に関し必要な事項は，別に定める国立大学法人三重大学知的財産規程による。

第6章　勤務時間，休日，休暇等

（勤務時間）
第46条　職員の勤務時間は，休憩時間を除き，1週間当たり38時間45分とする。
2　1日の勤務時間は，7時間45分とする。
（始業及び終業の時刻並びに休憩時間）
第47条　職員の始業及び終業の時刻並びに休憩時間は，次のとおりとする。
(1)　始業　8時30分
(2)　終業　17時15分

(3)　休憩時間　12時から13時まで
2　前項の規定にかかわらず，業務の都合上必要と認められる場合は，前条第2項に定める勤務時間を超えない範囲において，始業及び終業の時刻並びに休憩時間を変更することができる。
(変形労働時間制)
第48条　学長が指定する部署における職員の勤務時間は，第46条及び第47条の規定にかかわらず，別に定めるところにより変形労働時間制を適用することができる。
(裁量労働制)
第49条　業務の性質上必要と認められる大学教員の勤務時間は，第46条及び第47条の規定にかかわらず，別に定めるところにより裁量労働に関するみなし勤務労働制を適用することができる。
(週休日)
第50条　職員の週休日(勤務時間を割り振らない日をいう。)は，日曜日及び土曜日とする。
2　第48条を適用された職員の週休日は，別に定める。
(休日)
第51条　職員は，次の各号に掲げる日には，特に勤務を命ぜられる者を除き，正規の勤務時間においても勤務することを要しない。
(1)　国民の祝日に関する法律に規定する休日
(2)　年末年始(12月29日から翌年1月3日までの日，前号に該当する休日を除く。)
(時間外及び休日労働等)
第52条　職員は業務の都合により，労基法第36条の定めるところにより第46条の所定労働時間を超え，又は第50条の週休日及び第51条の休日に勤務を命ぜられることがある。
(休暇の種類)
第53条　職員の有給休暇は，年次有給休暇，病気休暇及び特別休暇とする。
(勤務時間，休日及び休暇等に関する事項)
第54条　職員の勤務時間，休日及び休暇等に関し必要な事項は，第46条から前条までに定めるもののほか，別に定める勤務時間等規程による。
(育児休業等)
第55条　職員のうち，3歳に満たない子の養育を必要とする者は，学長に申し出て育児休業の適用を受けることができる。
2　職員のうち，満9歳に達する日以後の最初の3月31日までの子の養育を必要とする者は，学長に申し出て部分休業又は育児短時間勤務の適用を受けることができる。
3　育児休業等に関し必要な事項は，別に定める国立大学法人三重大学職員の育児休業等に関する規程による。
(介護休業等)
第56条　職員の家族で傷病のため介護を要する者がいる場合は，学長に申し出て介護休業又は介護部分休業の適用を受けることができる。
2　介護休業等に関し必要な事項は，別に定める国立大学法人三重大学職員の介護休業等に関する規程による。
第7章　研修
(研修)

第57条　職員は，業務に関する必要な知識及び技能を向上させるために，絶えず研修に努めるとともに，研修に参加することを命ぜられた場合には，研修を受けなければならない。
2　学長は，職員の研修機会の提供に努めるものとする。
3　教育職員は，本務に支障のない限り，所属長の承認を得て，勤務場所を離れて研修を行うことができる。
4　職員の研修に関し必要な事項は，別に定める国立大学法人三重大学職員研修規程による。

第8章　賞罰

(表彰)
第58条　学長は，職員が大学の業務に関し，特に功労があって他の模範とするに足りると認められるときは，別に定める国立大学法人三重大学表彰規程により，これを表彰する。
(懲戒)
第59条　学長は，職員が次の各号のいずれかに該当する場合は，所定の手続の上，懲戒処分を行う。
(1)　職務上の義務に違反したとき。
(2)　故意又は重大な過失により大学に損害を与えたとき。
(3)　正当な理由なく欠勤したとき。
(4)　正当な理由なく繰り返し遅刻，早退する等勤務を怠ったとき。
(5)　法律上の犯罪に該当する行為があったとき。
(6)　重大な経歴詐称をしたとき。
(7)　大学の機密事項や不利益となること並びに職務上知り得た個人情報を，正当な理由なく他に漏らしたり又は漏らそうとしたとき。
(8)　この規則その他大学の定める諸規程に違反したとき。
(9)　前各号に準ずる行為があったとき。
2　職員の懲戒に関し必要な事項は，別に定める国立大学法人三重大学職員懲戒規程による。
(懲戒の種類，内容)
第60条　懲戒の種類及び内容は，次の各号に掲げるとおりとする。
(1)　譴責　始末書を提出させ，将来を戒める。
(2)　減給　始末書を提出させ減給する。ただし，減給額の1回の額は，平均賃金の1日分の2分の1，1カ月の額は，当該月の給与額の10分の1の範囲とする。
(3)　出勤停止　始末書を提出させるほか，6月以下の期間を定め出勤を停止し，職務に従事させず，その間の給与は支給しない。
(4)　諭旨解雇　退職を勧告して解雇する。ただし，勧告に応じない場合は，懲戒解雇する。
(5)　懲戒解雇　即時に解雇する。この場合において，所轄労働基準監督署長の認定を受けたときは労基法第20条に規定する手当を支給しない。
(禁錮以上の刑の扱い)
第60条の2　職員が禁錮以上の刑に処せられた場合には，役員会の議を経て前条第5号に規定する懲戒解雇とする。
2　前項において，執行猶予が付された場合は，第59条の規定により懲戒処分を行うものとする。
(訓告等)

第61条　第59条にかかわる懲戒処分の必要がない者についても，服務を厳正にし，規律を保持する必要があるときは，訓告，厳重注意を文書等により行うことができる。

（損害賠償）

第62条　職員が故意又は重大な過失によって大学に損害を与えた場合は，第60条又は第61条の規定による懲戒処分等を行うほか，その損害の全部又は一部を賠償させるものとする。

第9章　安全衛生

（安全・衛生管理）

第63条　大学は，職員の健康増進と危険防止のために必要な措置をとるとともに，快適な職場環境の形成に努めなければならない。

2　職員は，自己，同居人又は近隣の者が病毒伝播の恐れのある感染症にかかり若しくはその疑いがあり，大学の業務に重大な影響を及ぼす可能性がある場合は申し出て，大学の定める措置に従わなければならない。

（協力義務）

第64条　職員は，安全，衛生及び健康確保について，労働安全衛生法（昭和47年法律第57号）及びその他の関係法令のほか，学長の指示を守るとともに，大学が行う安全，衛生に関する措置に協力しなければならない。

（安全・衛生教育）

第65条　職員は，大学が行う安全，衛生に関する教育，訓練を受けなければならない。

（非常時の措置）

第66条　職員は，火災その他非常災害や事故の発生を発見し，又はそのおそれがあることを知ったときは，臨機の措置を取るとともに，直ちにその旨を上司その他関係者に連絡し，お互いに協力してその災害を最小限度にとどめるよう努めなければならない。

（安全及び衛生に関する遵守事項）

第67条　職員は，次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

(1)　安全及び衛生について学長の命令，指示等を守り，実行すること。

(2)　常に職場の整理，整頓，清潔に努め，災害防止と衛生の向上に努めること。

(3)　安全衛生装置，消火設備，衛生設備，その他危険防止等のための諸施設を勝手に動かしたり，許可なく当該地域に立ち入らないこと。

（健康診断）

第68条　職員は，大学が毎年定期又は臨時に行う健康診断を受けなければならない。ただし，医師による健康診断を受け，当該健康診断の結果を証明する書面を提出したときは，この限りでない。

2　前項の健康診断により産業医又は大学が指定する医師が必要と認める場合は，学長は一定期間の就業の禁止，勤務時間の短縮，時間外労働の制限，配置換等，当該職員の療養及び健康維持に必要な措置を講ずるものとする。

（就業禁止）

第69条　職員が次の各号のいずれかに該当する場合は，学長は産業医若しくは大学の指定する医師の意見を聴取の上，就業を禁止することができる。

(1)　病毒伝播の恐れのある感染症にかかったとき。

(2)　心臓，腎臓，肺等の疾病で業務により病勢が著しく増悪する恐れがあるとき。

(3)　その他，前2号に準ずる疾病で，厚生労働大臣の指定する疾病にかかったとき。

(妊産婦である職員の就業制限)

第70条　学長は，妊娠中の職員及び産後1年を経過しない職員を，妊娠，出産，哺育等に有害な業務に就かせないものとする。

(安全・衛生に関する事項)

第71条　職員の安全・衛生に関し必要な事項は，第63条から前条までに定めるもののほか，別に定める国立大学法人三重大学職員安全衛生管理規程による。

第10章　出張

(出張)

第72条　職員は，業務上必要がある場合は，出張を命ぜられることがある。

2　出張を命ぜられた職員が帰任したときは，速やかに，学長に報告しなければならない。

(旅費)

第73条　前条の出張に要する旅費に関し必要な事項は，別に定める国立大学法人三重大学旅費規程による。

第11章　福利・厚生

(能率増進計画)

第74条　学長は，職員の勤務能率の発揮及び増進のために，次の各号に掲げる事項について計画を樹立し，これの実施に努めなければならない。

(1)　職員のレクリエーションに関する事項

(2)　職員の厚生に関する事項

(宿舎利用基準)

第75条　職員の宿舎の利用に関し必要な事項は，別に定める国立大学法人三重大学宿舎規程による。

第12章　災害補償

(業務上の災害補償)

第76条　職員の業務上の災害については，労基法及び労働者災害補償保険法(昭和22年法律第50号。以下「労災法」という。)の定めるところにより，災害補償を行う。

(通勤途上災害)

第77条　職員の通勤途上における災害については，労災法の定めるところにより，補償を行う。

第13章　退職手当

(退職手当の支給)

第78条　職員が退職し，又は解雇された場合は，職員の勤続年数並びに退職事由及び解雇事由に応じて，退職手当を支給する。

(退職手当の不支給)

第79条　職員が次の各号の一に該当する場合は，退職手当を支給しない。

(1)　勤続期間が6月未満の場合

(2)　第60条第5号の規定により懲戒解雇された場合

(退職手当に関する事項)

第80条　職員の退職手当に関し必要な事項は，第78条及び前条に定めるもののほか，別に定める国立大学法人三重大学職員退職手当規程による。

附　則

この規則は，平成16年4月1日から施行する。

附　則(平成17年6月23日規則)
この規則は，平成17年6月23日から施行し，平成17年4月1日から適用する。

附　則(平成18年4月1日規則)
この規則は，平成18年4月1日から施行する。

附　則(平成19年6月28日規則)
この規則は，平成19年6月28日から施行し，平成19年4月1日から適用する。

附　則(平成20年3月27日規則)
この規則は，平成20年3月27日から施行し，平成19年4月1日から適用する。

附　則(平成20年9月25日規則)
この規則は，平成20年9月25日から施行し，平成20年9月1日から適用する。

附　則(平成20年11月11日規則)
この規則は，平成20年11月11日から施行する。

附　則(平成21年3月30日規則)
この規則は，平成21年4月1日から施行する。

附　則(平成21年5月28日規則)
この規則は，平成21年6月1日から施行する。

附　則(平成22年3月24日規則)
この規則は，平成22年4月1日から施行する。

附　則(平成22年6月24日規則)
この規則は，平成22年6月30日から施行する。

附　則(平成22年12月20日規則)
この規則は，平成23年1月1日から施行する。

附　則(平成24年3月29日規則)
この規程は，平成24年4月1日から施行する。

附　則(平成25年3月28日規則)
1　この規則は，平成25年4月1日から施行する。
2　平成25年3月31日に定年により退職した者については，改正後の第23条の規定にかかわらず，なお従前の例による。

附　則(平成27年3月26日規則第81号)
この規則は，平成27年4月1日から施行する。

附　則(平成28年3月24日規則第81号)
この規則は，平成28年4月1日から施行する。

附　則(令和元年11月21日規則第81号)
この規則は，令和元年12月1日から施行する。

附　則(令和4年3月24日規則第81号)

この規則は，令和4年4月1日から施行する。

附　則(令和4年6月28日規則第81号)

この規則は，令和4年6月28日から施行し，令和4年2月1日から適用する。

附　則(令和4年10月11日規則第81号)

この規則は，令和4年12月1日から施行する。

附　則(令和4年11月22日規則第81号)

この規則は，令和4年11月22日から施行し，令和4年10月1日から適用する。

附　則(令和5年3月28日規則第81号)

1　この規則は，令和5年4月1日から施行する。

2　次の表の左欄に掲げる期間における第21条第1項の規定の適用については，同項中「満65歳」とあるのは，同表の左欄に掲げる期間の区分に応じそれぞれ同表の右欄に掲げる字句とする。ただし，大学教員を除く職員に限る。

令和5年4月1日から令和7年3月31日まで	満61歳
令和7年4月1日から令和9年3月31日まで	満62歳
令和9年4月1日から令和11年3月31日まで	満63歳
令和11年4月1日から令和13年3月31日まで	満64歳

3　前項の規定にかかわらず，一般職員のうち労務作業に従事する者の次の表の左欄に掲げる期間における第21条第1項の規定の適用については，同項中「満65歳」とあるのは，同表の左欄に掲げる期間の区分に応じそれぞれ同表の右欄に掲げる字句とする。

令和5年4月1日から令和7年3月31日まで	満63歳
令和7年4月1日から令和9年3月31日まで	満63歳
令和9年4月1日から令和11年3月31日まで	満63歳
令和11年4月1日から令和13年3月31日まで	満64歳

附　則(令和5年5月16日規則第81号)

この規則は，令和5年5月16日から施行し，令和5年4月1日から適用する。

学生確保の見通し等を記載した書類　目次

（１）　学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア. 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析　2

イ. 地域・社会的動向等の現状把握・分析　2

ウ. 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等　3

エ. 学生確保の見通し

A. 学生確保の見通しの調査結果　5

B. 新設学部等の分野の動向　5

C. 中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等　5

D. 競合校の状況　6

E. 既設学部等の学生確保の状況　7

オ. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果　7

（２）　人材需要の動向等社会の要請

①. 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）　7

②. 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠　8

学生確保の見通し等を記載した書類

（１）学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア　設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

三重大学生物資源学部（以下、本学部という。）は農学と水産学を基盤として 1987 年に発足した。以来、「山の頂から海の底まで」の各種生態系において利用可能な資源と、生物資源生産に密接に関連する環境要因とを包括的に捉え、環境保全を含めた広範囲な研究領域を対象としてきた。2000 年には、深刻化する食糧危機や環境汚染、資源枯渇などの問題解決に向けた自然環境と調和した資源循環型社会の構築といった社会的要請に応えるべく、循環型社会の実現を教育研究面から支える資源循環学科、自然との共存・自然環境の保全を教育研究する共生環境学科、多様な生物資源の持続的利用を教育研究する生物圏生命科学科を設置した。

また、循環型社会の実現、自然との共存・自然環境の保全、多様な生物資源の持続的利用は人間活動と自然環境との複雑な相互関係の解明があって解決できる問題である。これらの問題には、狭い専門分野に閉じた教育研究では対処が困難であり、専門分野を超えた総合的な「フィールド科学」の確立が必要である。そこで、2002 年に総合的「フィールド科学」の教育研究拠点として利活用できる「紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター」を設置した。

そして、2017 年にこれまで培ってきた生物資源学の強みを活かし地域の農林水産業及び関連産業などの振興を担う人材を育成するため、教育の狙いを明確にした組織の拡充強化を目的に、生物圏生命科学科を廃止し、農芸化学と水産化学が協働した他大学にない生物資源に関する総合的な生命化学の生物圏生命化学科と、本学部が研究で先行している鯨類繁殖分野に水産増養殖分野を拡充した海洋生物資源学科を設置した。

このように、本学部は時事変容する社会的要請を見越した学科の再編により、入学定員を継続的に確保するとともに、広い視野をもって生物資源の生産ならびに環境保全に関する時々の諸問題を解決し、地域社会・国際社会に貢献できる人材を養成してきた。しかしながら、資源循環学科と共生環境学科については 2000 年の学科設立以降組織の見直しができておらず、現状では、次節イに挙げるような近年ますます複雑化する地域の課題に対応する人材育成に最適化されていない。また、様々な社会のニーズに対応して研究室を細分化した結果【資料 1】、高い研究力と専門性を顕示した反面、近年多様化の進む配属学生【資料 2】への対応やカリキュラムの持続的開講に脆弱性が生じている。

イ　地域・社会的動向等の現状把握・分析

近年、東海・近畿地方のフードシステムは、SDGs や Society5.0、気候変動や異常気象への対応、脱炭素社会やポストコロナに向けたライフスタイルの変容などますます複雑

化しており、食農バリューチェーン各セクターにおける個別対応では解決困難な課題が噴出している【資料 3】、【資料 4】。こうしたフードシステム諸問題の解決には、地域の自然・気候と栽培環境の資源循環、作物や栽培技術の選定、インフラ、加工、流通、経営・経済等の専門家に加え、これらの分野について幅広い知識を有し、総合的な取捨選択の判断や啓発活動が可能な人材の育成が急務である。各専門性に加え、情報収集とそれを分析・総括する力、組織を牽引するマインドと行動力を持った、変革を迫られる地域経済の基盤を支える人材や、生産者だけでなく消費者にも寄り添った農林水産行政を運用できる人材が求められている。

ところが、現在の本学部は、フードシステム構成要素を網羅する国内屈指の陣容にもかかわらず、近年の社会変容に即応した分野横断的な教育・研究が不足している。学生においても、自分の専門分野の教育に限らず、専門外の周辺分野の学際的知識も学びたいという要求は高い【資料 5】。SDGs や Society5.0 を考えるうえで必要不可欠なデータサイエンス教育についても、関連講義が予てより幾つかの分野で個々に開講されているものの、必ずしも全ての学生が享受できる仕組みが整っておらず、分野間の課題を有機的に関連付けて応用する仕組みも十分に整っていない。また、学生の中には入学時から志望する分野が明確な者がいる一方、広く生物資源各分野の内容に触れてから志望分野を選択したい学生もいる【資料 5】。

すなわち、現在の本学部の課題は、専門的教育の質を維持した上での分野横断的な教育、学生対応やカリキュラムの持続的開講の脆弱性、既存のデータサイエンス科目群の更なる活用、入学時から志望する分野が明確な学生と広く生物資源各分野の内容に触れてから志望分野を選択したい学生両者への対応と分析できる。

ウ　新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

これまで培ってきた本学部の強みは、第一に多くの有用な人材を地域に輩出し、農林水産業や食品産業などのフードシステム関連産業で要職について活躍する卒業生ネットワークを擁していることである。そのため、ネットワークが既に形成されており、共同研究をはじめとする地域における多様な連携が進行している。第二には、農学部と水産学部の伝統を引き継ぎ、農・林・水にわたる基礎から応用までのフードシステム構成要素の全ての教育・研究分野を網羅していることである。特に、山の頂から海の底に至るまでの多様な生物資源を有する三重県において、紀伊半島や伊勢湾など豊富な自然のフィールドに対応した農学や林学を網羅的・体系的に教育・研究できるようになっている。さらに、東海地方随一の農業工学系の分野は、三重高等農林からの長い伝統と蓄積を持ち、昨今社会的関心が高まっている農業 DX やスマート農業研究においても数多の研究蓄積を有している。

今回の組織再編においては、上記の本学部の強みとなっている教育・研究分野の連携を深め、日本最大の紀伊半島が生み出す多様な生物資源を活かした紀伊黒潮生命地域の

創生を支える教育・研究を展開することを目指し、生物資源を効率よく循環利用し調和の取れた循環型社会の構築に貢献する資源循環学科と自然との共存・自然環境の保全を探求する共生環境学科を融合し、農学、林学、農業工学が協働した生物資源に関する総合的な教育研究を行う「農林環境科学コース」を新設する。これにより持続可能なデータ駆動型農業・林業の人材育成やフードシステム各構成要素に共通する物質変換プロセス分野の人材育成についての教育研究機能を強化する。そして、平成 29 年度の改組で強みの拡充・強化に既に成功している、鯨類繁殖分野を活かし海洋生物資源の保全と増養殖の発展を目指した海洋生物資源学科には気象・海洋物理の分野を補強し「海洋生物資源学コース」とし、農芸化学と水産化学が協働した生物資源に関する生命化学の教育研究を行う生物圏生命化学科は「生命化学コース」とする。

また、SDGs、Society5.0、ポストコロナの新生活様式等、近年の農林水産分野の現場的課題は複合的であり、単一分野の専門知識のみでは対応できない。社会の要請の一つは地域の基幹産業である生物資源・フードシステムの様々な分野の基礎知識を学んだ上で専門性を身につけ、場面に応じて異なる分野に応用、展開できるトランスファラブルな知識と経験を有する人材の育成である。このような要請に応えるため、「生物資源総合科学コース」を新設する。生物資源総合科学コースでは、入学時に志望コースを限定せず、1 年次に各コースの基礎を一通り学び、2 年次に自分の適性や志向と合致した前述の 3 コースのいずれかを選択する。この際、生物資源総合科学コースには、学校推薦型選抜に地域枠を設定するとともに、フードシステム関連科目をつなぐ自発的学びを促す科目を課す。幅広い生物資源学・フードシステム構成各要素の知識を修得した後に専門分野を選択することは、地域を先導するマインドや地域課題への対応力の涵養にも繋がる。さらに、多様な入口、志向の学生が高学年でともに学ぶことで、分野間での取り組みへの刺激や学生の研究意識の向上にもつながると期待される。

「農林環境科学」「海洋生物資源学」「生命化学」と「生物資源総合科学」の 4 つのコースを一つの「生物資源学科」内に併設することで、多学科制では難しかった異分野科目の効果的、学際的な履修を可能とするカリキュラム体制の構築を通して学生定員と部局組織に柔軟性を持たせ、多様な社会問題に対応できる能力を持った学生、自律的に学修を継続できる学生を育成する俯瞰的知識の涵養と専門性の深化を促すカリキュラム、農林水産業・製造業の高度化に対応できるバイオ DX 人材を育成するフィールドも活用したカリキュラムを整えて、社会の要請や時代の変化に迅速に対応できる組織と機動力を確保する。またコースの中に複数研究室からなるユニットを置くなど教員組織を多層化することで、バラエティに富んだ特色ある研究力を保持しつつ、教員数の変化に依らず多様な学生への対応、主要科目の維持など教育の質の保証の担保、安全管理や運営負担を相補するとともに自由な研究の場を確保し、教育研究両輪の強化をはかる。

「生物資源学科」1 学科への再編後の入学定員は、現在の 4 学科の総定員と同数の 260 名である。各コースの配属目安は、現在の定員が各々70 名の資源循環学科全てと共生

環境学科 3/4 からなる農林環境科学コースは 130 名程度、定員 40 名の海洋生物資源学科と共生環境学科 1/4 からなる海洋生物資源学コースは 50 名程度、定員 80 名の生物圏生命化学科からなる生命化学コースは 80 名程度とする。

各コースの募集人員については、生物資源総合科学コースは、現行の学校推薦型志願者数や県内高校からの進学者数、学生アンケートの結果【資料 5】を鑑み 30 名とする。農林環境科学、海洋生物資源学、生命化学各コースについては、前段落の各コース配属目安から、2 年次進級時に生物資源総合科学コースよりそれぞれのコースへ 20 名、5 名、5 名が配属されると考え、その数を除いた 110 名、45 名、75 名程度とする。

本学部の初年度納付金は入学金 282,000 円、授業料年額 535,800 円の合計 817,800 円である。これは「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」で規定された国立大学法人の標準額と同一であり、妥当な金額であると考える。

エ　学生確保の見通し

A. 学生確保の見通しの調査結果

本学部における 2010 年以降の入試倍率の推移をみると【資料 6】、各学科の経年変動や、2017 年の改組を機にした一時的な高倍率になっている年はあるものの、全体としては漸増傾向にあり堅実に学生を確保できている。東海、近畿地方からの入学者も高い割合で推移しており【資料 6】、地域における高い知名度から機会があれば本学部の受験を考える学生も多い。

2021 年度以降、全国の国公立大学農学系学部の志願者数は増加を続けており【資料 7】、本学部の学生確保の見通しを担保する要因の一つと言える。また、本学部における専門学校からの志願者は増加傾向【資料 8】にある。

本学部の改組は、現在から今後の地域のフードシステムの課題への対応を見越した学科再編であり、今後も中長期的に安定した学生確保が見込まれる環境であると考える。

B. 新設学部等の分野の動向

東海地方（三重県、愛知県、岐阜県、静岡県）にある国立大学農学系学部の志願倍率をみると【資料 9】、三重大学、岐阜大学、静岡大学のいずれの学部においても、前期日程の倍率が 3 倍程度で推移している。2023 年度においては、3 大学の総募集人員 346 名に対し 1,024 名が偏りなく各校を受験している。こうした倍率の変遷は、各大学の堅実な努力により地域全体の農学系の倍率を高く保っている現れであり、本学部においてもこれまでの努力を改組後も継承することで、引き続き定員を充足できると考える。

C. 中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等

全国の 18 歳人口は 2024 年に約 106 万人となる。その後 2025～27 年に微増するものの、2028 年から減少傾向が続き 2033 年に約 101 万人、2040 年には 88 万人（出典：

文科省 URL：https://www.mext.go.jp/content/20201126-mxt_daigakuc02-000011142_9.pdf）と経年的に減少していることがわかる。

2022 年から 2034 年における 18 歳人口の減少率は、全国平均 11％である。本学部入学者の 6 割【資料 6】を占める愛知県と三重県については、愛知県は減少率 6.9%と緩やかであるが、三重県は減少率 16.5%と高くなっている。

全国の大学進学率は、2022 年現在で 55.3%と上昇を続けており、本学部入学者の 6 割【資料 6】を占める東海地方の進学率 55.1%、入学者の 2 割を占める近畿地方の進学率 61.6％と全国平均よりも高い。

地元残留率は、全国的には微増しており、2022 年現在の東海地方の地元残留率は平均 49.9%（内、愛知県 71.6%、三重県、岐阜県は 21.7%）と全国平均の 44.8%より高くなっている。（18 歳人口減少率、大学進学率、地元残留率に係る出典：リクルート進学総研マーケットリポート 2022　2023 年 2 月号 URL：https://souken.shingakunet.com/research/pdf/202302_souken_report.pdf）

このことから、人口の減少率と大学進学率、地元残留率の掛け合わせが地域の大学の将来の充足率の指標と考えれば、愛知県の学生は人口の減少が少なく地元に残る志向も強いため、今後も継続的に獲得できる見込みを持てる。大阪や京都、兵庫など近畿地方の学生は人口の減少率も高いが地元志向も高く、マーケットの縮小が考えられる。一方、三重県は、進学希望者に対する大学の可能収容学生数が 36%、学生人口に対しては 18%と【資料 10】、全国でも低調な状況にあり、地元残留率が低い要因になっていると考えられる。本学部に入学を希望する学生は、食や健康に対する社会的価値観の変化や持続可能な地球社会の実現をめざす国際的潮流から、18 歳人口が漸減する現在も漸増傾向にある【資料 6】。そこで、愛知県の学生の確保については現在同様の努力をする一方、三重県の大学の収容力不足で県内に進学できない学生の確保や近畿地方への学生の流出を抑えるべく、学校推薦型選抜における地域枠選抜の実施、高大連携の更なる強化、地域産業との連携、三重県の地の利を活かしたフィールドサイエンス教育や、伊勢志摩海洋教育研究アライアンスなどの本学部ならではの取組を推進することで、学生の充足が可能と考える。

D. 競合校の状況

入試動向や入学者の出身県の動向から分析すると、水産系の大学で本学部と競合する大学学部は近隣には存在しない。農学系大学については、同じ東海地方に位置する岐阜大学応用生物科学部と静岡大農学部が、本学部と比較的近い受験者層を有しており、お互いの県の学生を県内に留めている点で競合しているとみなすこともできる。【資料 11】人口の集中する名古屋市の主要ターミナルである名古屋駅からの立地条件を比較すると、本学部は約 1 時間 15 分、岐阜大学応用生物科学部は約 55 分、静岡大学農学部は

新幹線を使用すれば 1 時間 30 分とおおむね近い時間距離にある。(各大学のアクセス案内から引用)

こうした各大学の位置関係からも、これら 3 学部は競合しているというより、バランス良く地域の学生の進学先となっていることが、各学部の志願倍率動向等【資料 9】、【資料 11】からも考えられる。

E. 既設学部等の学生確保の状況

食や健康に対する社会的価値観の変化や持続可能な地球社会の実現をめざす国際的潮流から、18 歳人口が漸減する現在でも本学部に入学を希望する学生は漸増傾向にある【資料 6】。過去 5 年の入学志願状況等を見ても、全ての年度で入学定員を満たしており、今回の改組後も安定して学生を確保できると考える【資料 12】。

オ　学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

水産学と練習船、農業工学、紀伊半島の豊かな天然林と人工林を扱う林学、海の底から山の底から海の頂にわたるフィールドサイエンスの場など、東海・近畿地方に類を見ない本学部の特色（全学的に推進している「地域拠点サテライト」での活動【資料 13】やフィールドサインスセンター、鯨類研究センター等の附属施設との連携等）の広報の強化を行う。

入学者選抜においては、生物資源総合科学コースの学校推薦型選抜で新たに地域枠を設けることで、地域の特質を理解した人材を地域のフードシステム関連産業へ輩出することが期待できる。

これらにより、先に示した今後の中長期的な学生確保の焦点である、東海・近畿地方を中心に地域バランスのとれた学生の確保が見込まれる。

（２）人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

SDGs や Society5.0、脱炭素社会とポストコロナの生活様式の変容、異常気象災害の低減技術、異常気象にも対応しうる農作物の導入と栽培技術の導入、最適化など、近年、東海・近畿地方のフードシステムの諸問題はますます複雑化・グローバル化している。このような諸問題の解決には、ステークホルダーが地域に根ざした企業や農業者、遠く離れた消費者であることから、地域の自然・気候と栽培環境の資源循環、作物や栽培技術の選定、インフラ、加工、流通、経営・経済等の専門家に加え、これらの分野について幅広い知識を有し、総合的な取捨選択の判断や啓発活動が可能な行政官や経営者といった人材の育成が急務である。

また、フードシステムを俯瞰した実効性の高い対応策を提案するため、各専門性に加え、情報収集とそれを分析・総括する力、組織を牽引するマインドと行動力を持った、

変革を迫られる地域経済の基盤を支える人材や、生産者だけでなく消費者にも寄り添った農林水産行政を運用できる人材が求められている。

以上のことから、本学部を再編し、食と農林水産・フードシステムに関わる俯瞰的な視点を持ちつつ、地域の豊かな自然から生み出される生物資源の適切な開発・利用・保全に貢献出来る知識と能力を身につけ、データの論理的な分析に基づき、地域でも世界でも活躍できる人材を養成する教育研究を行う。

具体的には、農林生産から消費流通の基礎をなす様々な専門を学ぶことができる資源循環学科とプログラミングや ICT を活用した農業基盤や農業機械、あるいは農業気象に関する様々な基礎を学ぶことができる共生環境学科を農林環境科学コースにまとめることで、上述の諸課題の対処に必要な ICT 技術の活用やデータ駆動型の決定法など、農林水産業における DX 推進やスマート農業を実践できる人材を育成する。

資源循環学科と共生環境学科には、県や自治体、あるいは産業と個別あるいはコースごとの連携例が多々ある。両学科を一つとした教育を進めることで、こうした連携の多角的や深化も可能と期待される。

海洋生物資源学コースでは、現在の海洋生物資源学科で行われてきた海洋生物資源の保全と増養殖分野を中心とした教育研究に加え、気象・海洋物理の分野を補強する。

生命化学コースでは、農芸化学と水産化学が協働した生物資源に関する生命化学の教育研究を行う。

さらに、2 年次に配属するコースを決める生物資源総合科学コースを置くことで分野横断的な考え方や地域課題についての意識を高める。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

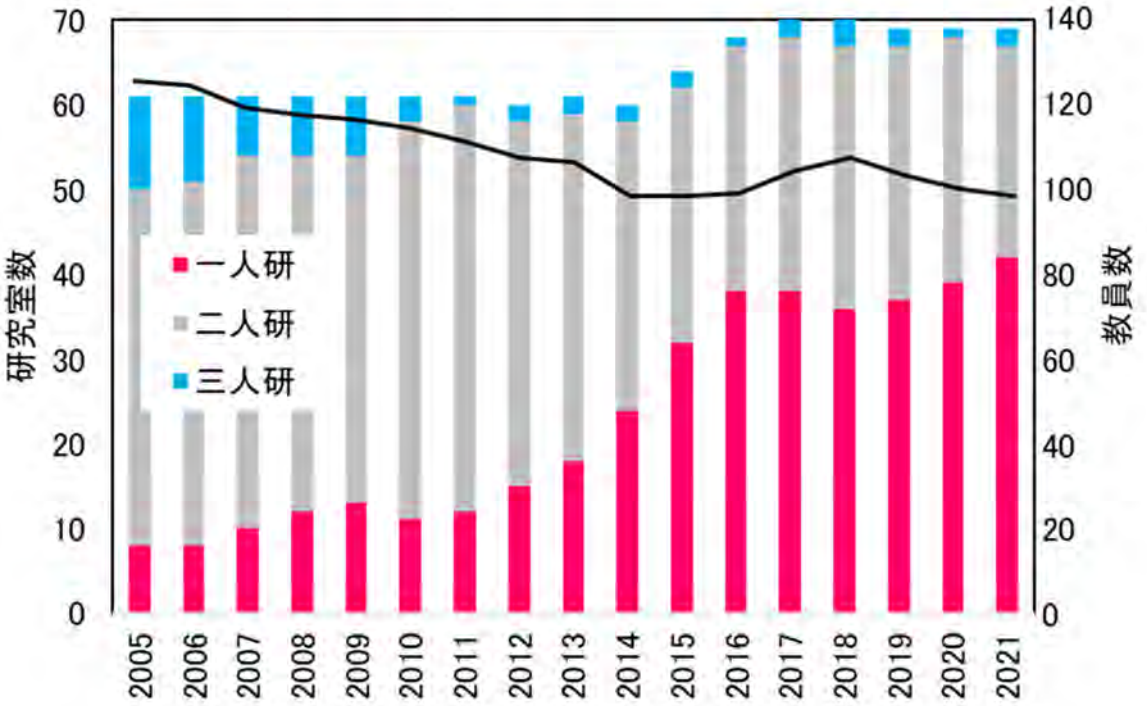
食とフードシステムに関わる地域の公務員や企業への就職率は高く、恒常的に卒業生を輩出していることは【資料 14】、これらの現場の課題に対処できる人材育成を目的とする根拠である。また、産業界から本学部への期待として、「学生が地域課題を学ぶ機会を提供すること」、「分野横断的な考え方を持った学生を育成し社会的に輩出すること」、「行政との連携を深化すること」等の声がある。【資料 15】

学生確保の見通し等を記載した書類　資料

【資料 1】生物資源学部の研究室数の推移
【資料 2】学生の多様化
【資料 3】複雑化するフードシステムの諸問題
【資料 4】東海近畿圏のフードシステムの変容
【資料 5】学生アンケートの結果
【資料 6】志望倍率と入学者の出身
【資料 7】2023 年度国公立大志願状況
【資料 8】県内専門高等学校からの要望書
【資料 9】東海地方の農学系学部の入試倍率
【資料 10】18 歳人口予測、大学・短期大学・専門学校進学率と地元残留率の動向
【資料 11】三重県の大学進学者収容力
【資料 12】岐阜県内の高校からの入学者数
【資料 13】三重大学地域拠点サテライトの概要
【資料 14】卒業生の進路
【資料 15】農業工学系人材育成の拡大・強化についての要望書
【資料 16】有識者とのオンライン懇談会(概要まとめ)

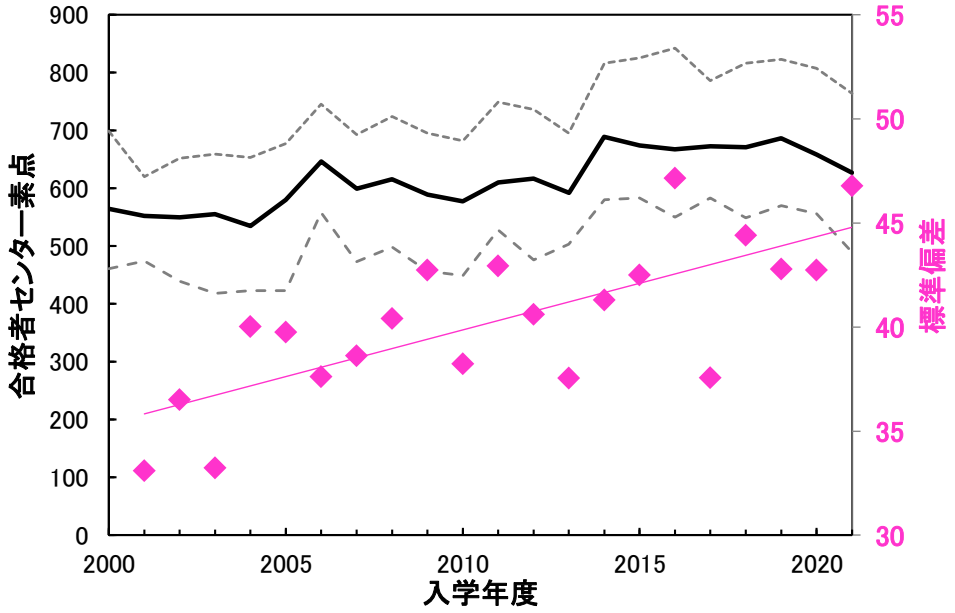
【資料 1】本学部の研究室数の推移

本学部では、過去 10 年間、教員数が減少するも研究室を細分化することで社会に求められる専門性に対応してきた。一方で一人研究室が倍増したことにより、修学意欲や個性の多様化が進む学生【資料 2】や担当教員との関係で問題を抱える学生への対応が難しくなったり、学生に修学意欲があっても担当教員の会議や出張による不在期間が増え対応しづらくなったりしつつある。さらには、コロナ禍のオンライン活動の拡大により、人間関係の構築の難しさに関する問題や、大学へ帰属している実感の低下を訴える学生も増え、これにも対応が追いつかない傾向にある。



本学部の教員数と研究室数の推移

【資料 2】学生の多様化



センター試験の平均点と標準偏差の推移

本学部への入学生については、2000 年の改組以降、センター試験の平均点（黒実線）や最高最低点（点線と破線）に大きな変化は見られないものの、個々の学生の学力のばらつき（ピンク実線）は年々増加している。

【資料 3】複雑化するフードシステムの諸問題

2021 年 9 月国連フードシステムサミットがニューヨークで開催された。食料生産の環境から栽培、物流、消費、廃棄までのフードシステムが世界的に注目される。フードシステムの諸問題に関する SDGs は直接的なものだけでなく、環境や生物多様性に関連する項目まで多岐にわたる。また、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の第六次報告が示され、実効性のある地球温暖化対策や持続的発展、脱炭素社会とポストコロナのライフスタイルの変容、異常気象災害の逓減技術、異常気象にも対応しうる農作物の導入と栽培技術の導入、最適化が求められている。特に気候変動に関しては、食品・農林水産業分野、即ち一連のフードシステムにおいて排出されるグリーンハウスガス(GHG)排出量が、地球規模での人間の活動由来全排出量の 1/3(34%, IPCC 報告)を占める(Crippa et al. 2021)。この数字は先進国、開発途上国というよりも食品・農林水産業を主要な産業とする場合には大きな割合を示す(日本:30%, カナダ:69%, IPCC 報告)。工業分野での GHG 排出量削減技術の開発は進んでいるものの、食品・農林水産業分野でのこれらの対策は遅れている。

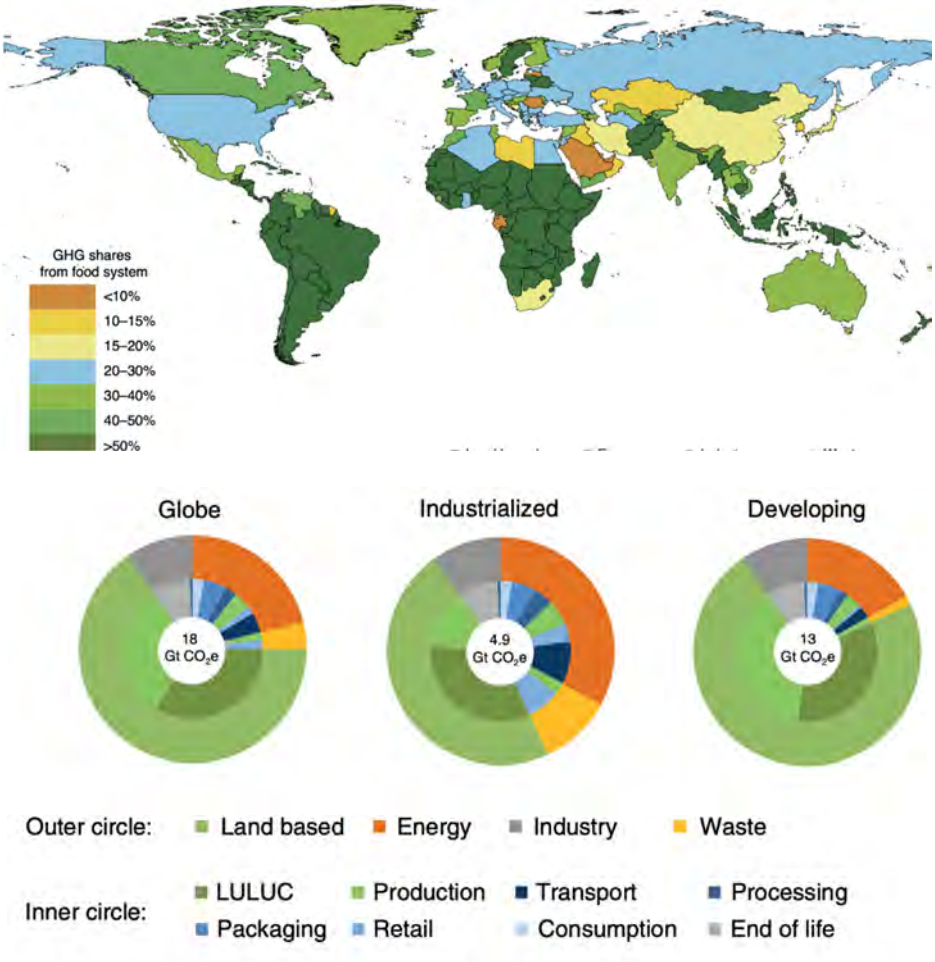


Fig. 1 | GHG emissions from the food system in different sectors in 2015.

(Crippa et al. 2021)

Food and Agriculture Organization of the United Nations　ipcc intergovernmental panel on climate change　Food Systems Summit 2021　SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

【資料 4】東海近畿圏のフードシステムの変容

〈農業生産〉

◆兼業農家の引退（高齢化・離農）と若手農家、生産法人への集積、農業の成長産業化

49 歳以下の若手農家が販売農家全体の 1 割に増加しており（**図 2-1**）、稲作単一経営の 1 戸あたりの経営耕地面積も 7.1 ha と 10 年で 1.5 倍に増加（農水省）。全農地面積の担い手による利用は 2013 年の 49%から 2021 年の 80%に激増、2025 年には担い手のほぼ全てがデータを活用した農業を実践とされる（内閣府成長戦略）。

◆三重県の場合

2000 年以降耕作放棄地の増加率は抑えられているが、それまでに増加した放棄地の活用が進まない（**図 2-2**）。三重県でも担い手に農地集積が進み、10 ha 以上の農家は 2005 年からの 10 年で 0.6%から 1.9%に増加したが、30 ha 程度までの中小規模に留まる（**図 2-3**）。これは、担い手も労働力不足で適期に作業ができず期待される収量・品質が得られないため、スマート農業による生産効率の向上が望まれるが、こうした県内主力農産物を取り巻く複雑な状況や課題に対応するには、生産者、JA、流通業者、小売業者、技術者等の各セクターが一体で取り組む必要があり、その役割を担う行政職には当学部の卒業生が多く就く（24%）。

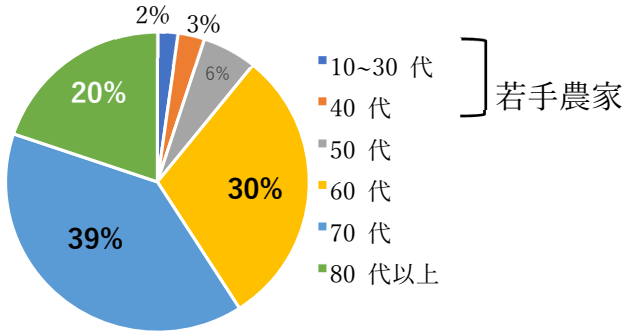


図 2-1 基幹的農業従事者の年齢割合（男女計）（農林業センサス）

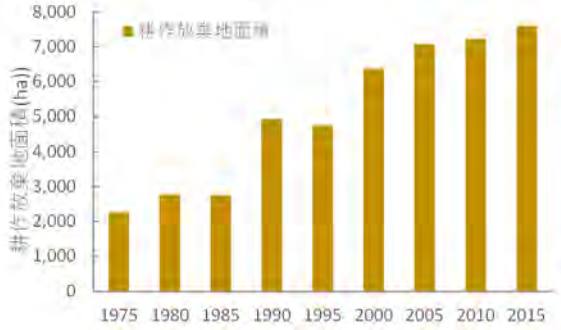


図 2-2 耕作放棄地の水位（農林業センサス）

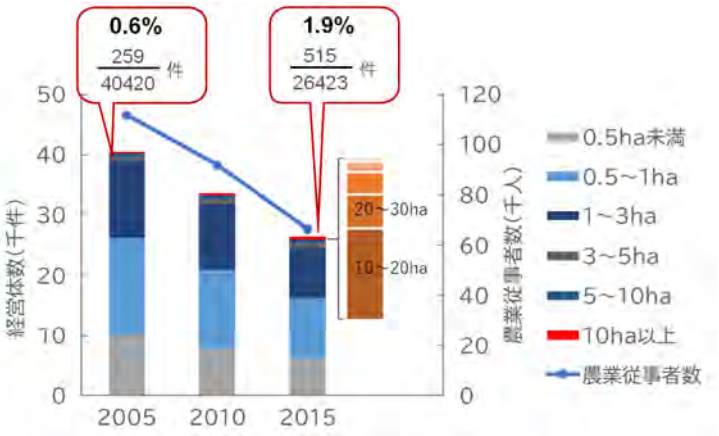


図 2-3 三重県の耕地面積規模別経営体数と農業従事者数の推移（農林業センサス）

〈森林〉

◆三重県は先進的林業地域として全国を牽引

「尾鷲ヒノキ」に代表される伝統的林業地域でありながら、全国に先駆け 2000 年に FSC 認証（適切な森林管理を認証する国際的な制度）を取得した企業を擁する先進的林業地域として全国を牽引している。過去数十年で林業従事者は約 1/4 と漸減傾向にあるが、近年では若手参入により 40 代以下が半数近くを占めており若返り傾向にある（**図 2-4**）。一方で、製材用の生産量に比して、合板用・チップ用生産量が急増し社会的ニーズが変化している（**図 2-5**）。

◆東海近畿圏の炭素の吸収源

東海圏（愛知）や近畿圏（大阪、兵庫）の温室効果ガス排出量（91.9MtCO₂）は、紀伊半島の 3 県（26,810 千 tCO₂）の 3 倍以上を占める（**図 2-6**）。愛知、大阪、兵庫では森林の CO₂ 吸収量が排出量の 1.6%なのに対し、紀伊半島の 3 県では 10%と、紀伊半島の森林は、炭素の吸収源としてカーボンニュートラルの視点からも、その保全と利活用が期待される。

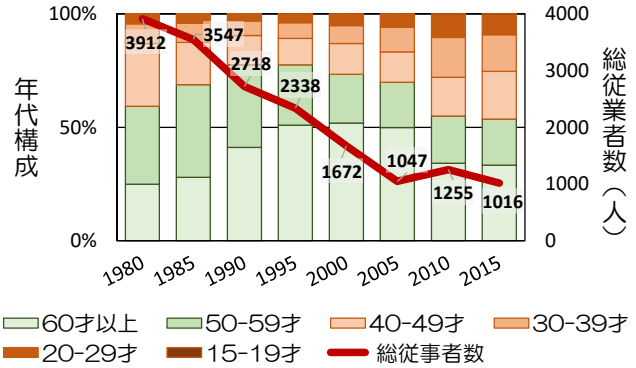


図 2-4　三重県の林業従事者数の推移
（三重県の森林・林業）

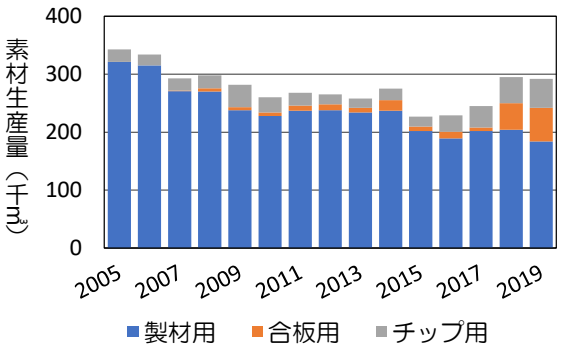


図 2-5　三重県の素材生産量の推移
（森林・林業統計書）

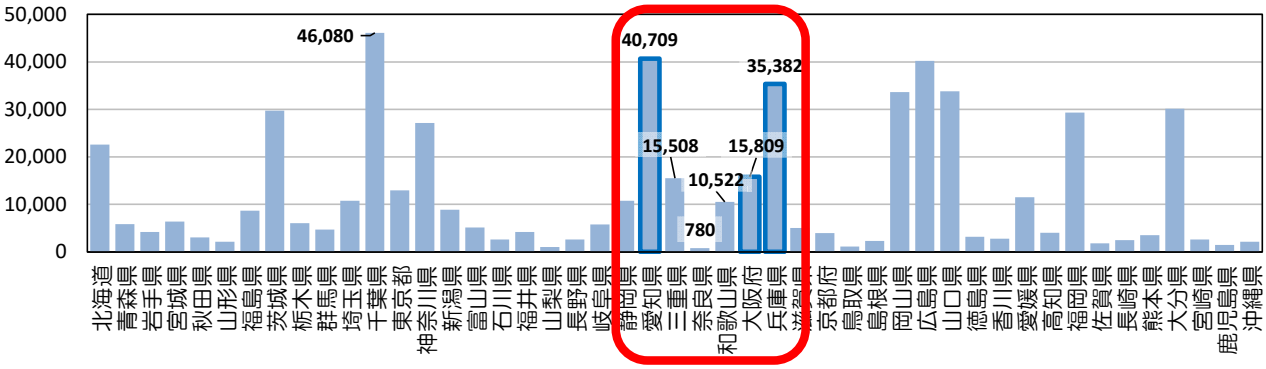


図 2-6　都道府県別温室効果ガス排出量（環境省）

〈農業工学〉

農業工学系建設コンサルは成長産業（**図 2-7**）である一方、20 代職員数は激減している（**図 2-8**）。募集も農業土木、林学、農学、農業経済、地質学等多岐に及ぶが、本学からは農業土木以外の就職がない。農学や森林科学の学生が農業工学の教育も経験することにより、農業土木以外の分野からも人材輩出が期待される。

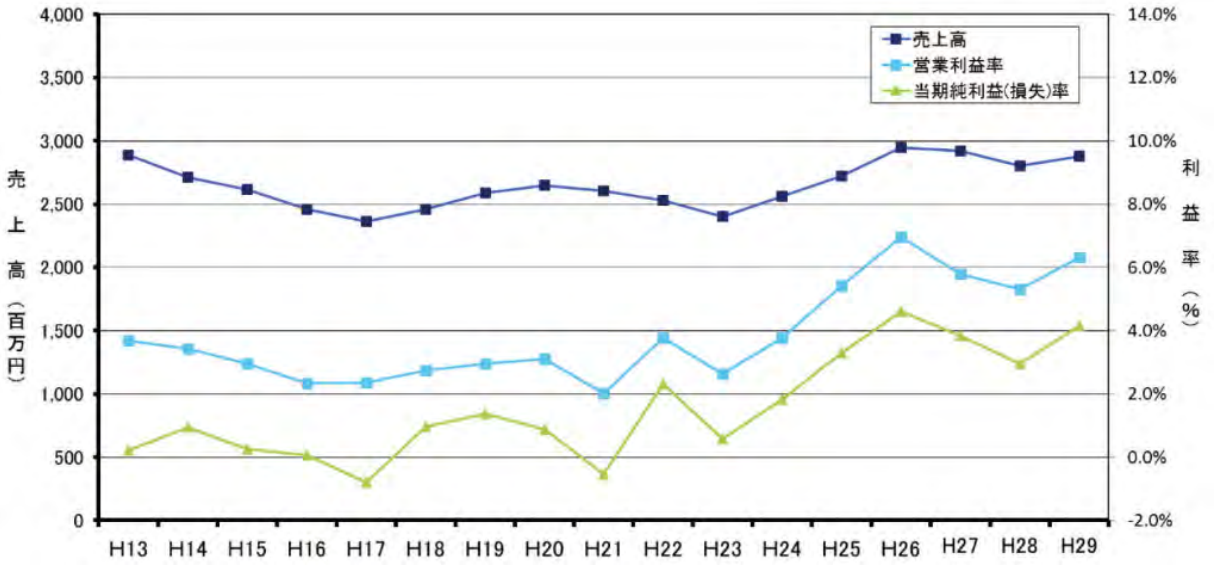


図 2-7　建設コンサルの売上高・営業利益率・純利益率（建設コンサルタンツ協会，2017）

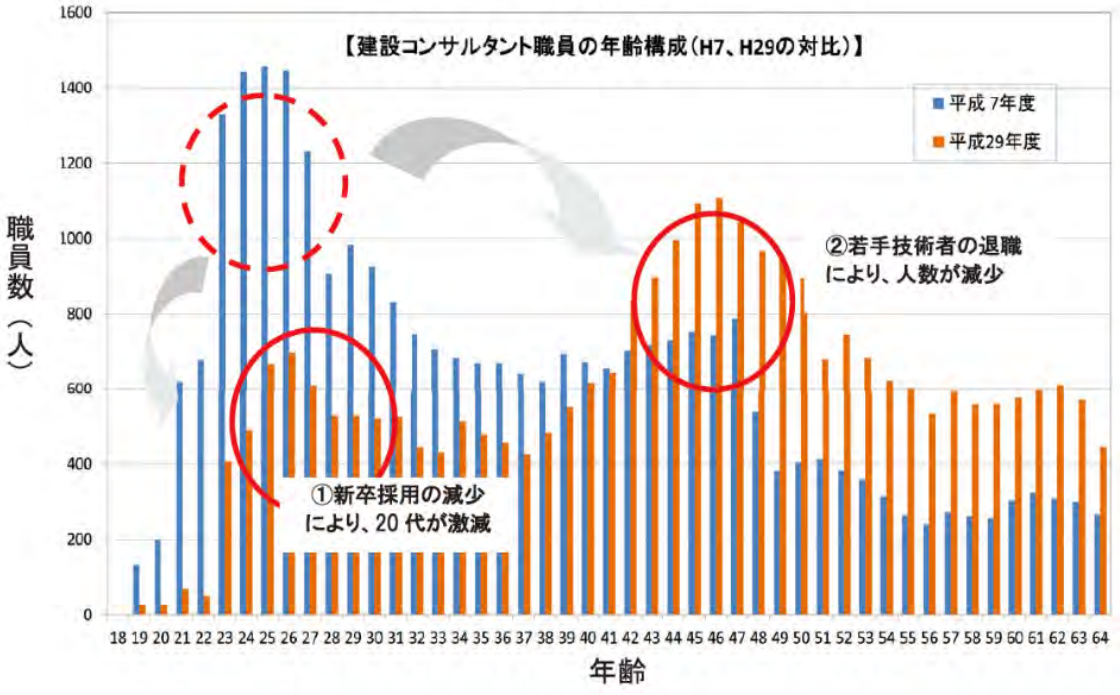


図 2-8　建設コンサルの職員年齢構成（建設コンサルタンツ企業年金基金資料）

〈食品製造〉

食品製造の分野は、本学部の卒業生の就職先として 2 割以上を占めるが、年々欠員数（(未充足求人数／常用労働者数）× 100）が増加している（**図 2-9**)。また、食品製造の分野でも自動化・機械化の加速が必須であり（**図 2-10**)、食品製造に多くの学生を輩出する分野と農業工学分野の融合、およびバイオ DX 教育は時宜にかなっている。

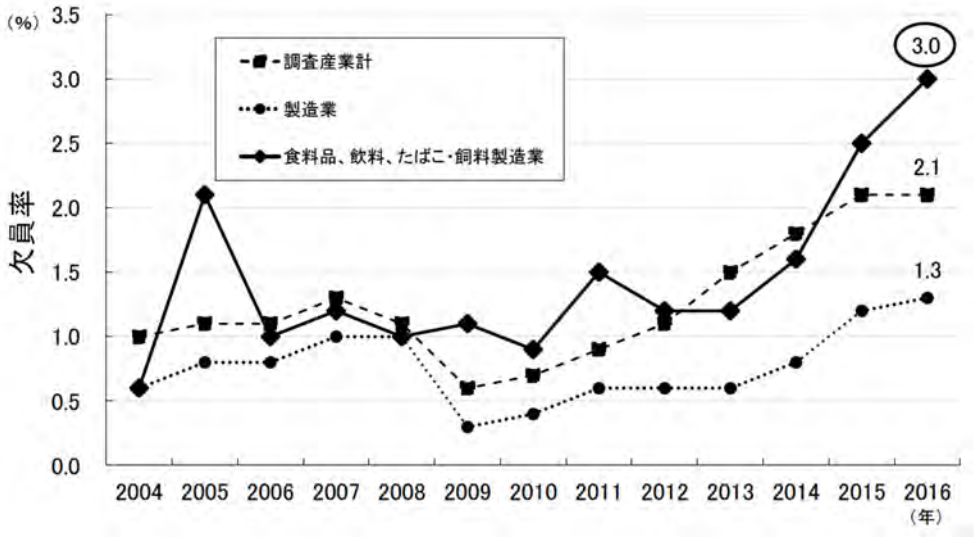


図 2-9　食品産業における欠員率（農水省，2019）

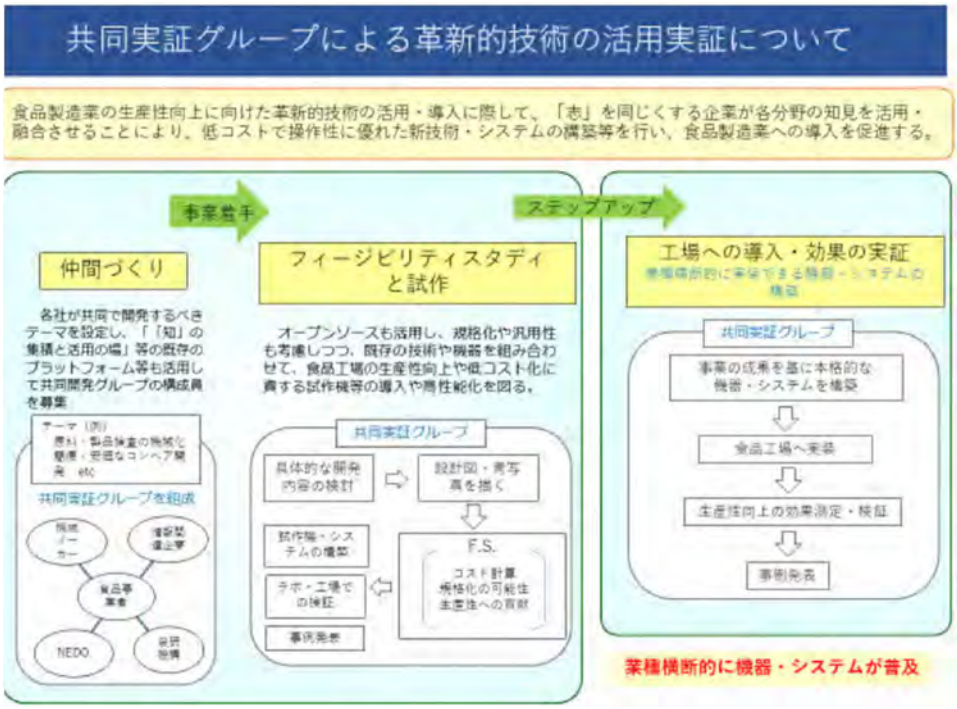
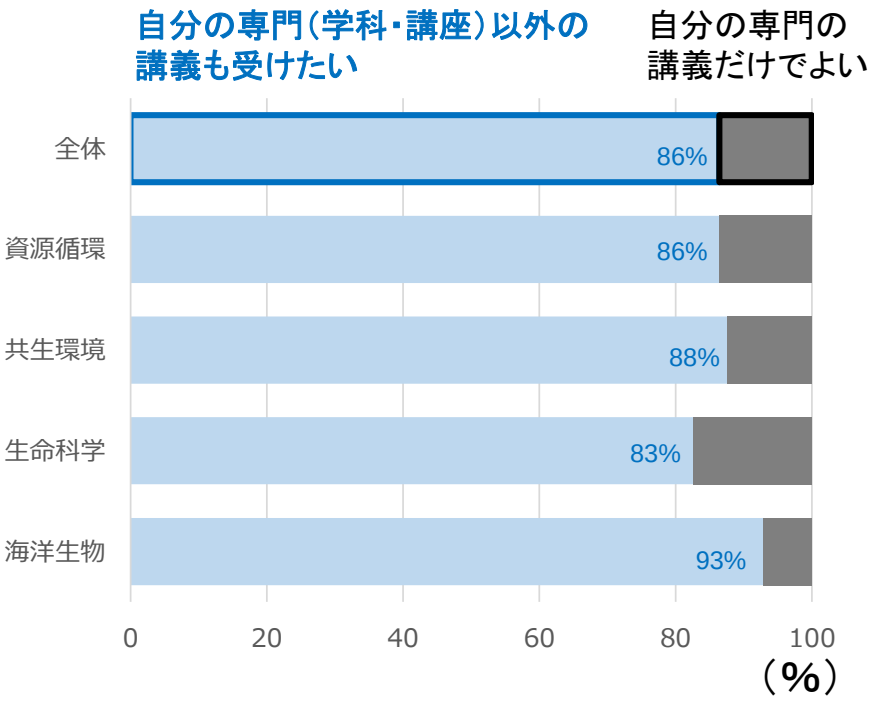
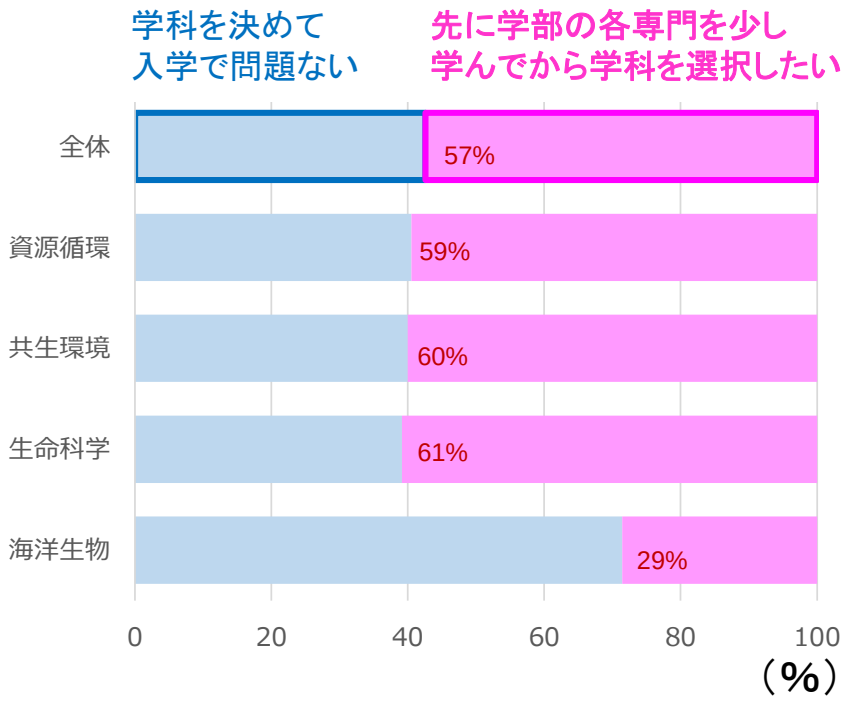


図 2-10　食品製造業における労働力不足克服ビジョン（農水省，2019）

【資料 5】学生アンケートの結果

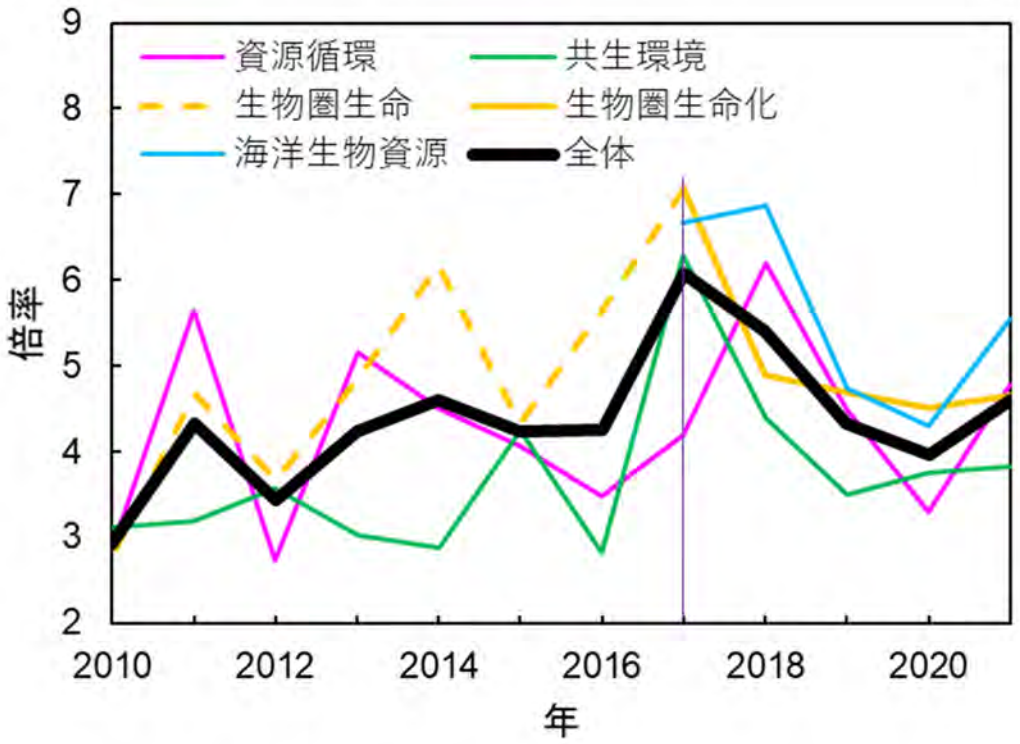
生物資源学部 1 年生対象に 2021 年 11 月実施。回答率は全学生 260 名中 65%。
自分の専攻する専門科目に加え、生物資源・フードシステムに関わる基礎科目を広く修得する機会を希望する学生は多い。また、海洋生物資源学科以外の学科の学生からは、生物資源・フードシステムに関わる基礎科目を一通り受講後に自分に適した専門を選択したかったという声もある。





【資料 6】志望倍率と入学者の出身

入試倍率は、各学科毎に隔年変動がみられるが、概ね漸増傾向。2017 年は、生物圏生命科学科を生物圏生命化学科と海洋生物資源学科の 2 学科に再編した年であり一時的に倍率が増加した。



生物資源学部の入試倍率の推移

生物資源学部の学生は三重県と愛知県の出身者が 6 割を占め、近畿圏の出身者も 2 割と比較的高い。これらの地域には、機会があれば生物資源学部の受験を考える学生も多い。

過去５年の入学者の出身県（%）

	三重	愛知	岐阜	静岡	近畿	その他
2023	31	29	4	2	22	12
2022	29	32	3	3	19	13
2021	24	30	5	6	18	17
2020	26	36	4	3	19	12
2019	26	35	8	3	18	10

【資料7】国公立大学農学系学部の入学者選抜（一般選抜）志願者数の推移

	2021年度			2022年度			2023年度		
	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員
国立大学	**19,357**	**3.6**	5,448	**20,890**	**3.8**	5,445	**21,554**	**4.0**	5,403
公立大学	**4,982**	**5.6**	897	**4,281**	**5.6**	764	**4,320**	**5.7**	761
合計	**24,339**	**3.8**	6,345	**25,171**	**4.1**	6,209	**25,874**	**4.2**	6,164

（出典：文部科学省「国公立大学入学者選抜確定志願状況」（令和3～5年度）より抜粋）

【資料8】専門高校（農業、水産、工業に関する学科）からの志願者数推移
（生物資源学部推薦Ⅰの志願状況）

	2021年度 志願者数	2022年度 志願者数	2023年度 志願者数
資源循環学科	8（3）	13（5）	11（4）
共生環境学科	3（1）	4（2）	2（2）
生物圏生命化学科	1（1）	1（0）	3（1）
海洋生物資源学科	6（1）	1（0）	5（1）
4学科合計	18（6）	19（7）	21（8）

※（）三重県内人数を示す

【資料9】東海地方の農学系学部の入試倍率

三重大学　生物資源学部

学科	日程	2023年度 募集人員	志願者	倍率	2022年度 募集人員	志願者	倍率
資源循環	前期	33	52	1.6	33	73	2.2
共生環境		35	147	4.2	35	108	3.1
生物圏生命化学		43	126	2.9	43	103	2.4
海洋生物資源		22	59	2.7	22	76	3.5
前期計		133	384	**2.9**	133	360	**2.7**
資源循環	後期	15	119	7.9	15	79	5.3
共生環境		15	158	10.5	15	70	4.7
生物圏生命化学		17	189	11.1	17	96	5.6
海洋生物資源		8	86	10.8	8	61	7.6
後期計		55	552	**10**	55	306	**5.6**

名古屋大学　農学部

学科	日程	2023年度 募集人員	志願者	倍率	2022年度 募集人員	志願者	倍率
生物環境科学	前期	27	60	2.2	27	54	2
資源生物科学		43	136	3.2	43	89	2.1
応用生命科学		66	162	2.5	66	195	3
前期計		136	358	**2.6**	136	338	**2.5**

岐阜大学　応用生物科学部

学科	日程	2023年度 募集人員	志願者	倍率	2022年度 募集人員	志願者	倍率
応用生命科学	前期	57	150	2.6	57	102	1.8
生産環境科学		50	108	2.2	50	122	2.4
共同獣医		26	102	3.9	26	132	5.1
前期計		133	360	**2.7**	133	356	**2.7**
応用生命科学	後期	10	161	16.1	10	156	15.6
生産環境科学		10	95	9.5	10	121	12.1
後期計		20	256	**12.8**	20	277	**13.9**

静岡大学　農学部

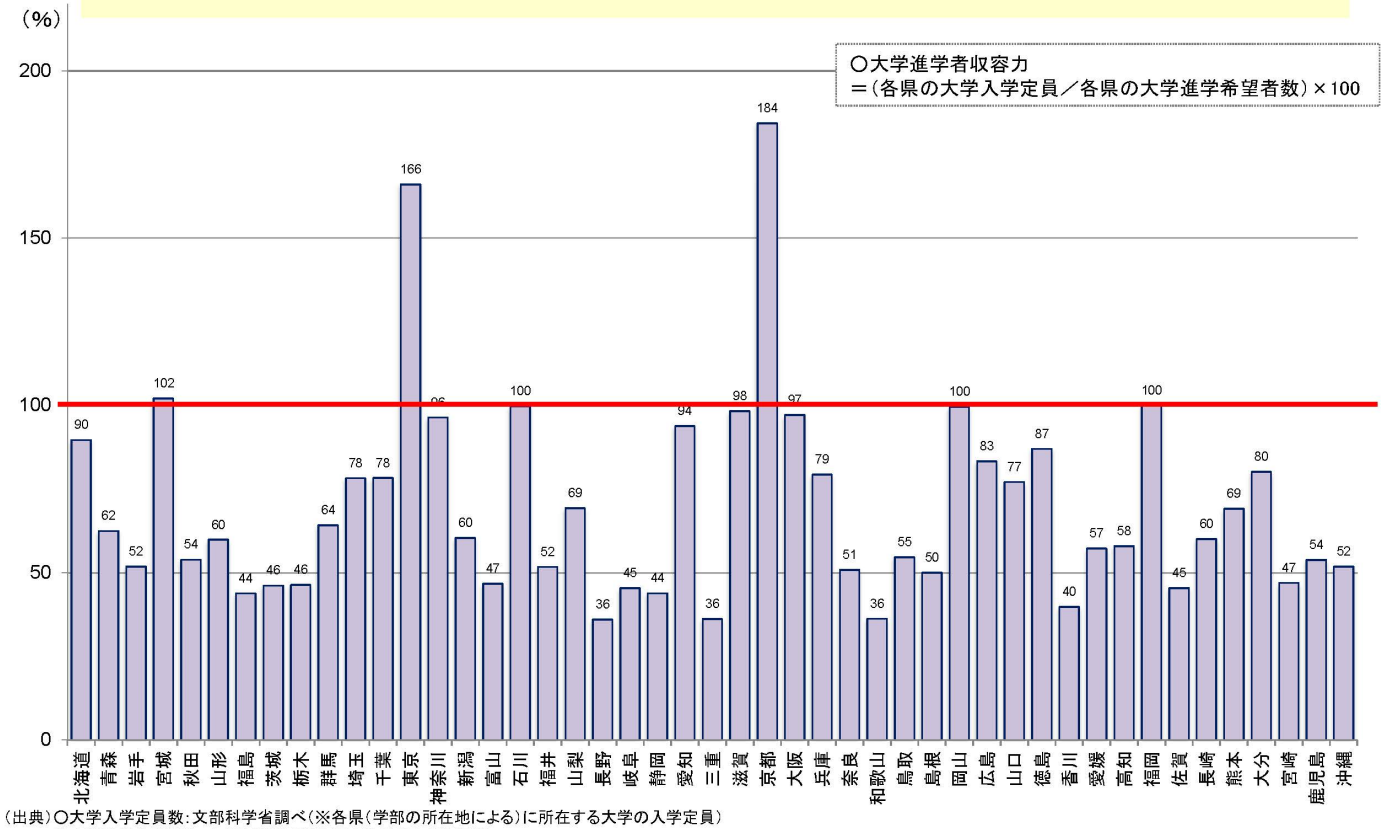
学科	日程	2023年度 募集人員	志願者	倍率	2022年度 募集人員	志願者	倍率
生物資源科学	前期	45	175	3.9	45	125	2.8
応用生命科学		35	105	3	35	113	3.2
前期計		80	280	**3.5**	80	238	**3**
生物資源科学	後期	25	240	9.6	25	211	8.4
応用生命科学		20	188	9.4	20	137	6.9
後期計		45	428	**9.5**	45	348	**7.7**

（出典：各大学のホームページ「入学者選抜状況」より抜粋）

【資料 10】三重県の大学進学者収容力

都道府県別大学進学者収容力（対大学進学希望者）

各県の大学進学希望者に対する収容力は、東京都と京都府で150%を上回っているほか、9県でも90%を超えている。他方で、50%に満たない県も９県ある。

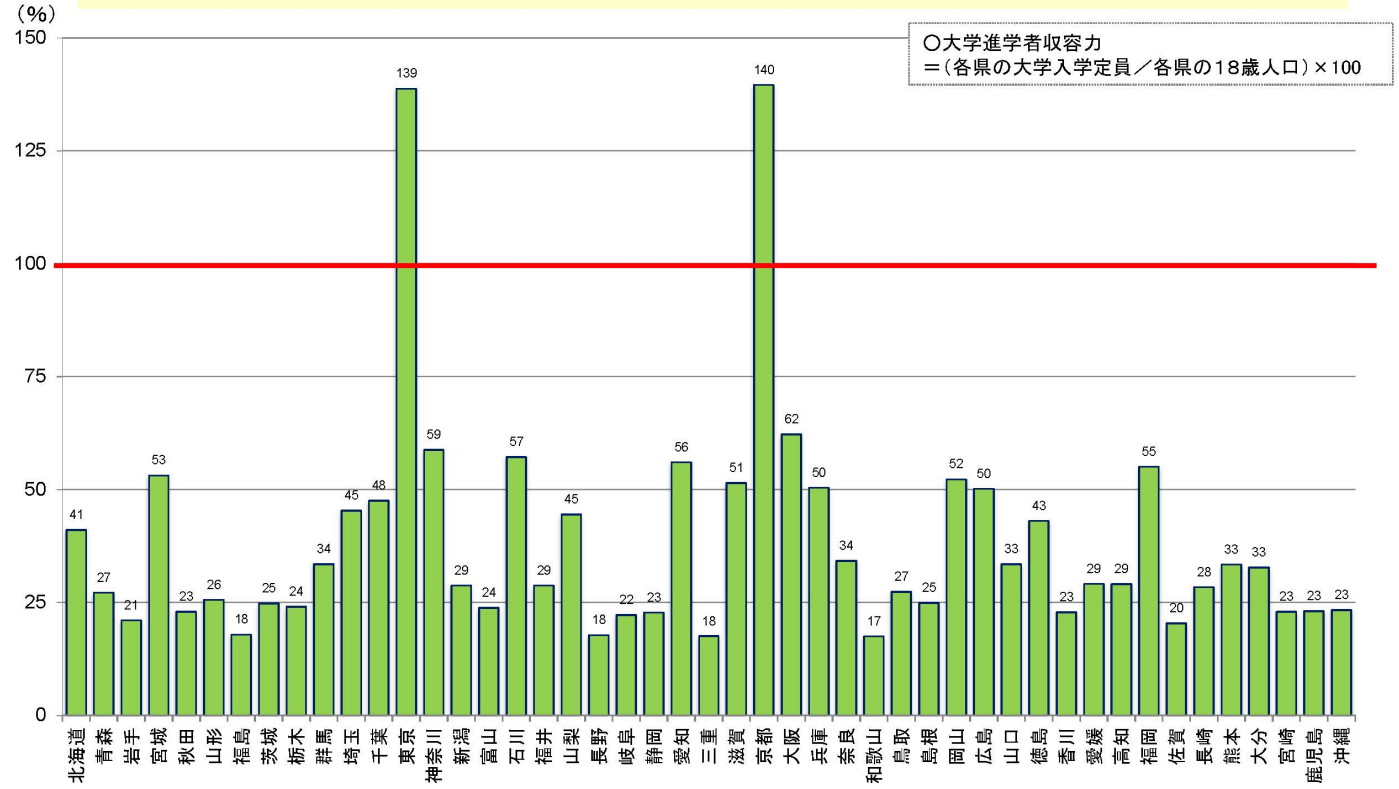


（出典）○大学入学定員数：文部科学省調べ（※各県（学部の所在地による）に所在する大学の入学定員）
○大学進学希望者数：文部科学省「学校基本統計（平成30年度）」

40

都道府県別大学進学者収容力（対18歳人口）

各県の１８歳人口に対する収容力は東京都と京都府を除く全ての県で100%を下回っており、その多くの県では５０%未満となっている。



（出典）○大学入学定員数：文部科学省調べ（※各県（学部の所在地による）に所在する大学の入学定員）
○18歳人口：3年前の中学校卒業者数及び中等教育学校前期課程修了者数

41

出典：文部科学省 地域連携プラットフォーム構築に関するガイドライン参考資料集２より抜粋

【資料11】3大学の出身別入学者（2023年度入試）

	三重県	愛知県	岐阜県	静岡県	その他
三重大学 生物資源学部	**31%**	29%	4%	2%	34%
岐阜大学 応用生物科学部	4%	44%	**24%**	0%	28%
静岡大学 農学部	2%	15%	6%	**30%**	47%

※小数点以下は四捨五入

（出典：各大学の令和5年度入試統計資料を基に作成）

【資料12】生物資源学部入学志願状況（H31年度～R5年度）

令和5年度

	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
資源循環学科	70	208	130	80	75	107.1%
共生環境学科	70	317	208	87	71	101.4%
生物圏生命化学科	80	352	207	92	84	105.0%
海洋生物資源学科	40	176	112	44	43	107.5%
計	260	1,053	657	303	273	105.0%

令和4年度

	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
資源循環学科	70	176	118	78	74	105.7%
共生環境学科	70	201	154	83	74	105.7%
生物圏生命化学科	80	239	154	91	83	103.8%
海洋生物資源学科	40	164	116	48	41	102.5%
計	260	780	542	300	272	104.6%

令和3年度

	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
資源循環学科	70	251	164	80	75	107.1%
共生環境学科	70	206	158	82	72	102.9%
生物圏生命化学科	80	312	193	92	83	103.8%
海洋生物資源学科	40	203	150	44	42	105.0%
計	260	972	665	298	272	104.6%

令和2年度

	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
資源循環学科	70	251	164	80	75	107.1%
共生環境学科	70	206	158	82	72	102.9%
生物圏生命化学科	80	312	193	92	83	103.8%
海洋生物資源学科	40	203	150	44	42	105.0%
計	260	972	665	298	272	104.6%

平成31年度

	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
資源循環学科	70	233	144	78	74	105.7%
共生環境学科	70	186	130	87	78	111.4%
生物圏生命化学科	80	314	186	97	85	106.3%
海洋生物資源学科	40	172	125	43	41	102.5%
計	260	905	585	305	278	106.9%

国立大学法人
三重大学

地域拠点サテライト

◆北勢サテライト
・知的イノベーション研究センター
〒510-0074 四日市市鵜の森1-4-28 ユマニテクプラザ 1階

◆伊賀サテライト
・伊賀研究拠点
〒518-0131 伊賀市ゆめが丘1-3-3 産学官連携地域産業創造センター ゆめテクノ伊賀内
・伊賀連携フィールド・国際忍者研究センター
〒518-0873 伊賀市上野丸之内500 ハイトピア伊賀 2階

◆伊勢志摩サテライト
・海女研究センター
〒517-0025 鳥羽市浦村町大吉1731-68 海の博物館内

◆東紀州サテライト
・東紀州教育学舎
〒519-4394 熊野市木本町1101-4 三重県立木本高等学校 旧寄宿舎（南風寮）
・東紀州産業振興学舎
〒519-3602 尾鷲市天満浦161番地 東紀州産業振興学舎 天満荘

三重大学地域創生推進チーム
〒514-8507 津市栗真町屋町1577
TEL 059-231-6271
E-mail regional-t@ab.mie-u.ac.jp
http://www.rscn.mie-u.ac.jp/

令和2年3月発行

三重大学的 地域創生。

三重大学 地域拠点サテライト

三重大学 地域拠点 サテライトとは？

概要

三重大学では地域創生への取り組みの一つとして、平成28年度から「地域拠点サテライト」による活動をスタートさせました。「地域拠点サテライト」では、県内全域を教育研究フィールドと位置付け、地元企業や自治体と大学を繋ぐハブ機能として、多様な地域特性を有する4つの地域サテライト（北勢サテライト、伊賀サテライト、伊勢志摩サテライト、東紀州サテライト）を展開しています。

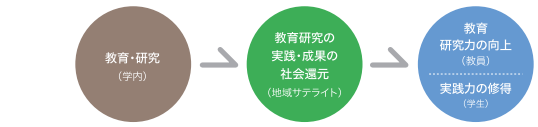
また、各地域サテライトには、自治体や教育機関等との連携・協力のもと、特色豊かな活動拠点を設置しています。

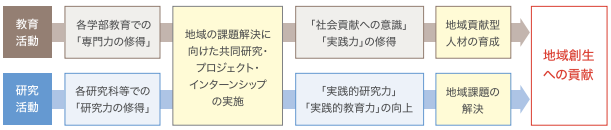
これら4つの地域サテライトと活動拠点が、大学近隣にとどまらない県内全域での活動を推進するとともに、教員や学生がフィールドワーク等の実践的な教育研究活動を展開するほか、企業や自治体との共同研究・共同プロジェクトを通じた地域の課題解決等に全学的に取り組みながら、大学の教育研究力の向上に加え、地域創生や地域の人材育成に貢献しています。

地域拠点サテライトとは

目的

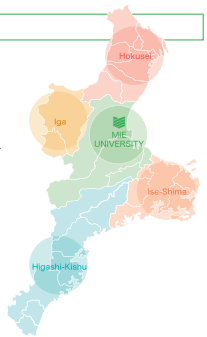
教育研究機能の強化を通じた地域創生への貢献





4つの地域サテライト

地域の課題・特性に応じた
社会還元・実践的な教育研究力向上の場



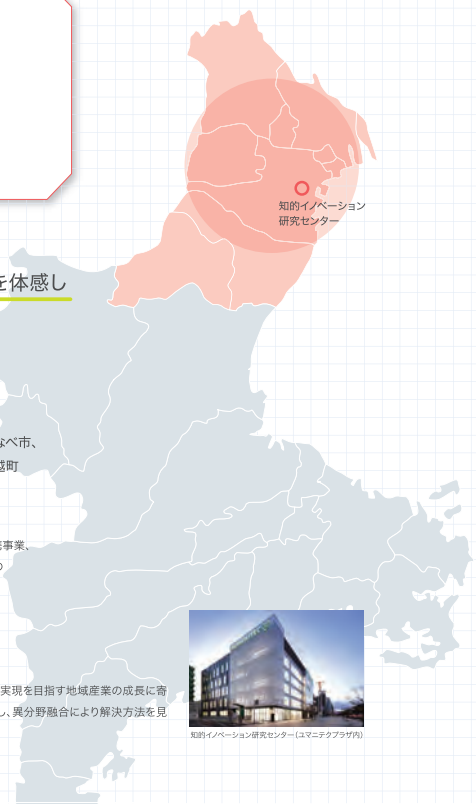
北勢サテライト	〈担当エリア〉四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、木曽岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町
伊賀サテライト	〈担当エリア〉名張市、伊賀市
伊勢志摩サテライト	〈担当エリア〉伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、南伊勢町
東紀州サテライト	〈担当エリア〉尾鷲市、熊野市、大台町、大紀町、紀北町、御浜町、紀宝町

※津市、松阪市、多気町、明和町は大学本部が担当

平成30年度開設

北勢サテライト

Hokusei Regional Satellite



日本のモノづくりの真髄を体感し富を生み出す拠点。

担当エリア

四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、木曽岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町

活動内容

自動車、石油化学、食品化学企業との産学連携事業、企業人材のリカレント教育、モノづくり企業との連携による学生・若手教員の育成等

活動拠点・概要

知的イノベーション研究センター

産学官連携を通じたSociety5.0・SDGsの実現を目指す地域産業の成長に寄与するため、多面的な視点から課題を発見し、異分野融合により解決方法を見いだし、成果の社会実装を推進します。

知的イノベーション研究センター（ユマニテクプラザ内）

活動紹介

大学院工学研究科公開セミナー ～みんな見せます工学研究科～

大学の活動について、地域の方々に少しでも理解を深めて頂くために、「みんな見せます」をテーマとした工学研究科の全活動を紹介する初めてのイベントとして開催しています。この企画により、大学での研究成果の地域還元を促進し、共同研究・インターンシップ・人材育成へと発展させ、三重県の地域創生へと繋げます。令和元年度は専攻ごとに全5回開催し、県内企業・自治体関係者を中心に、延べ349名が参加しました。

北勢サテライト主催の講習会「イーブニング・アカデミア」

日中は仕事をしている社会人向けのリカレント教育を目的とした講習会です。令和元年度は北勢サテライト長が講師を務め、「仕事に役立つデータサイエンスとは何か？ー統計学の基礎からEXCELで学習し、変量の予測値を求めるー」と題したデータサイエンス（統計解析）の入門講習を実施しました。データサイエンスを理解するための基礎となる統計学を、コンピュータを活用した演習とグループ学習により体験的に学習し、Society5.0、SDGsを推進する人材を育成します。

SDGs研究会

2015年国連サミットで採択された「国連持続可能な開発目標（SDGs）」について地域の自治体や企業、本学学生・教職員が学び、実行するためのプラットフォームとなる取り組みです。地域と国際の両面を視野に入れた政策提案と人材育成を目指します。

健康福祉システム開発研究会

今後益々進む超高齢社会で、高齢者が肉体的にも精神的にも健康に生活できるよう支援するシステムの実現を目指し、課題抽出から社会実装まで、企業や自治体との産学官連携による研究開発を行います。

地域研究フォーラム in 四日市

大学院人文社会科学研究科の講義科目「三重の文化と社会Ⅰ・Ⅱ」にて、北勢地域をフィールドとした研究を実施しました。最終報告として市民や関係者を対象に現地発表会を行いました。

教養教育公開講座 in 四日市

「音を診るー騒音の計測と評価ー」「意味を読むーコミュニケーションはどのように成り立つのかー」をテーマに、クイズやゲームなどを取り入れた講演を行い、25名が参加しました。

三重大学と地元企業との連携セミナー

「三重大学大学院生物資源学研究科におけるフードシステム研究」と題し、教員による共同研究の対象や実績、新たなビジネスの種となる研究内容を紹介しました。

SDGsに関する講演・分科会

IATSSフォーラム（国際交通安全学会）との共催で、東南アジアからの研修生と本学学生・留学生の総勢40名が参加し、SDGsの達成に向けた議論を行いました。

平成28年度開設

伊賀サテライト

Iga Regional Satellite

固有文化と地域資源の活用で地域再生に寄与する拠点。

担当エリア

名張市、伊賀市

活動内容

忍者等の歴史・文化、医薬品企業との連携、森林資源の活用等

活動拠点・概要

伊賀研究拠点

伊賀地域の企業の高度化や新産業の創出に向けて地域特性を活かした産学官連携に取り組むとともに、地域活性化に寄与するため、文化的啓発活動に取り組みます。

伊賀連携フィールド・国際忍者研究センター

地域振興上の諸課題等に適切に対応することにより、伊賀地域の充実・発展に寄与します。国際忍者研究センターでは、忍者に関する教育・文化振興・研究の推進を図るとともに、国際的な忍者研究を推進し、その成果を広く国内外に発信します。

伊賀研究拠点（ゆめテクノ伊賀内）

伊賀連携フィールド・国際忍者研究センター（ハイトピア伊賀内）

活動紹介

学際的・国際的忍者研究の展開

国際忍者研究センターでは、史料等の調査研究のほか、忍術書の内容を科学的に検証するなど、文系理系の各専門分野の教員が協力して研究活動を進めています。平成30年2月には、国際的な情報の集約と発信による研究の発展を目的に国際忍者学会を設立し、国内外の研究者による議論も活発に行われています。忍者文化は世界的にも関心が高く、海外での講演会も実施しています。

全国忍者調査プロジェクト（略称「忍プロ」）

平成30年8月から、全国の教育委員会・博物館・文書館等900ヶ所に調査票を送付し、全国に点在する忍者学関係史料の調査・収集を行うプロジェクトを進めています。収集した情報はデータベース化を行い、一般公開も予定しています。この取り組みにより、今後のさらなる研究の発展が期待できます。

兵糧丸風かたやき小焼き開発

「忍者の知恵を活かした携帯食に関する研究」をテーマに名張市の洋菓子店「モンパクトル」と共同研究を行い、三重大学産学連携認定商品として販売を開始しました。

伊賀の森林・里山研究会

雑木や侵入竹を伐採除去し、里山の景観を良くすることを目的として伊賀市内で里山整備を行っています。整備した跡地には苗木を植樹し、環境保護活動を進めています。

健康科学食品研究会

食の機能性と健康の観点から、専門家による話題提供を基にした意見交換を行っています。これにより、伊賀地域の企業と連携し、地域産業の支援を進めています。

忍者・忍術学講座

学内外の忍者に関する研究者を講師とした市民講座「忍者・忍術学講座」を毎月1回開催しています。令和元年度は延べ1,151名が参加しました。

産学官連携セミナー in 伊賀

地域の進展に向けて産学官連携の在り方を考える機会として、毎年テーマを変えて開催しています。令和元年度は127名が参加しました。

「こども大学」開催

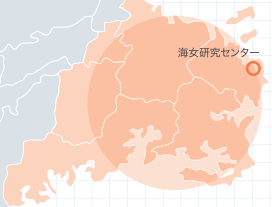
子供たちに科学の楽しさを伝え興味を持ってもらうことで、将来地域に貢献できる人材の育成を目指して毎年開催する取り組みです。本学学生・教職員、自治体職員が講師として参加しています。

平成29年度開設

伊勢志摩サテライト

Ise-Shima Regional Satellite

歴史ある自然との共生・共存の
思想を世界に発信する拠点。



担当エリア

伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、
度会町、南伊勢町

活動内容

食と観光産業による地域創生の研究（歴史文化の交流、海女文化、水産資源の活性化、食品の6次産業化、観光資源の活用など）、地域人材の育成等

活動拠点・概要

- **海女研究センター**
  「海女」を切り口とした、教育研究・人材育成・情報発信等を展開する地域連携の拠点として、専門知識・技術（スキル・ノウハウ）・人材の提供を通じて、地域との協働を基に地域の課題解決を支援します。

海女研究センター（鳥羽市立海の博物館内）

活動紹介

伊勢志摩サテライト交流会

伊勢志摩サテライト関係自治体（全6市町）と本学教職員が参加し、全員で伊勢志摩の地域創生を考えるフラットな勉強会です。テーマに即した教員による知見の提供をもとに意見交換・情報共有を行い、課題解決や地域創生の糸口を探ります。平成30年度からこれまでに全11回延べ271名が参加し、大学をハブとして市町間の横の繋がりも強まり、組織の枠を超えた新たな地域共創の動きも生まれています。

海女の歴史・文化関係アーカイブのデータベース構築

海女に関する画像・映像、古文書、民俗資料などの文化的価値の高い海女関係資料をデジタル化して文化財の保護に寄与するとともに、データベース化を進めることで海女研究の基礎的な資産を構築する取り組みです。これまでに書籍720件、論文524件の書誌データと、約2万3千件の画像データのデジタル化を行いました。これらは基礎研究・応用研究の進展に用いるだけでなく、情報発信や展示会・映写会等に活用し、海女文化の理解と地域振興に貢献します。

海女漁村の空間（景観）構造調査研究

海女漁村の文化的景観の保全活用として、海女文化を体験できるモデル地区整備に向けた景観計画を自治体と協働して策定し、県内初となる国の重要文化的景観選定を目指します。

若者の観光を促進する参加型観光商品開発に向けた基礎的研究

伊勢志摩地域における若者の観光需要を喚起させる参加型観光商品開発を目指して、学生参画のもと伊勢志摩圏の文化や産業に関する調査、フィールドワークを実施しています。

宮川用水パイプライン内タイワンシジミ詰まり問題の調査研究

海外でも抜本的な解決策が確立されていないタイワンシジミの被害抑制に向け、自治体や地域関係者との協働により、国内初の事例への先駆の研究を進めています。

南伊勢町まちづくりリーダー交流会

本学教員がコーディネーターとして参画する南伊勢町の地域リーダー養成を目的とした定期的な交流会です。地域の若手人材や高校生・教員等を対象に地域の将来を牽引する人材養成を推進しています。

学生を主体とした地域連携活動

地域での学生活動を支援する取り組みです。平成30年度は医学部生を中心とした学生団体による、志摩市の海水浴場での応急救護活動を支援し、救急車の適正利用と利用者の満足度向上に寄与しました。

イタリア食科学大学との合同フィールドスタディ

連携協定を結ぶイタリア食科学大学の学生を迎え、伊勢志摩の食文化を中心とした三重県の食資源と文化特性の理解と国際認知度向上に向けた合同フィールドスタディを実施しました。

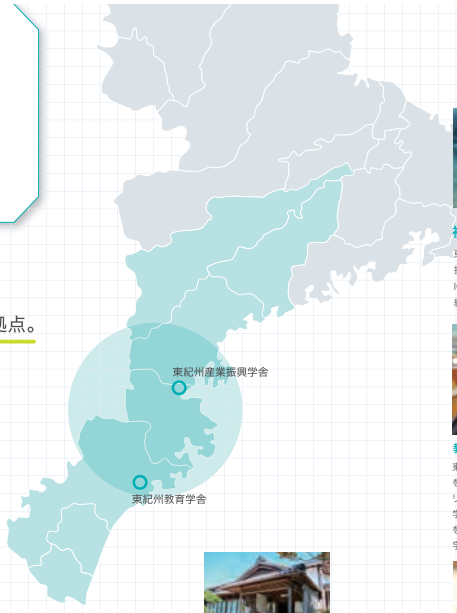
伊勢志摩サテライト

平成28年度開設

東紀州サテライト

Higashi-Kishu Regional Satellite

地域資源で富を生み
力強い子供が育つことを支える拠点。



担当エリア

尾鷲市、熊野市、大台町、大紀町、紀北町、
御浜町、紀宝町

活動内容

地域に根ざした教育、水産増養殖・加工業との連携、森林資源や観光資源の活用等

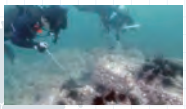
活動拠点・概要

- **東紀州産業振興学舎**
  地域産業振興や地域雇用の拡大に向けて、地場産業である柑橘農業、水産業、林業を県内外の企業の協力を得ながら地域の自治体との共同プロジェクトや県内外の企業との共同研究を実施します。
- **東紀州教育学舎**
  東紀州地域を中心に学校教育支援を行います。特に小学校外国語（英語）教育について、教材開発や複式学級に対応した年間指導計画や指導案を作成・提供します。各学校で出前授業や教員研修を実施し、プログラミングやICTを活用した教育の発信や教員の指導力向上を目指します。

東紀州産業振興学舎（天満荘）

東紀州教育学舎
（三重県立木本高校旧南風寮）

活動紹介



藻場再生事業

東紀州は、豊かな海（黒潮）からの恩恵を受ける、漁業が盛んな地域です。しかし最近では「磯焼け」という海藻が繁茂しなくなる現象により漁獲高が減少しており、漁業者にとって深刻な問題となっています。本学では、自治体と連携し調査研究結果を取りまとめた「三重県版磯焼け対策ガイドライン」に沿って、水産資源や環境を守るため、ウニ類（ガンガゼ）の除去等、藻場の再生プロジェクトを実施しています。

複式学級に対応した小学校外国語（英語）教育

東紀州地域では、多くの小学校が複式学級で授業を行っていますが、複式学級に対応した外国語の指導法が確立されていません。そこで東紀州教育学舎では、2020年に教科化される小学校英語にICTの活用を含めた年間指導計画を作成し、出前授業等の場で実践しています。さらに、他の複式学級を抱える地域でも活用されるよう情報発信を行うとともに普及を目指しています。

教育アプリの開発

東紀州教育学舎で、児童生徒が手軽に画像を撮影し音声付きで短い作品が作れるアプリ「くまた」を設計・実用化したほか、本学大学院工学研究科と協働で、英語の綴りと発音を学べるアプリ「Let'sフォニックス」を開発し学校現場で実践しています。

インバウンド拡大への取り組み

東紀州地域の企業と連携し、本学留学生の視点から見た外国人観光客の誘致における課題について、モニターツアーやヒアリング、エージェントとの交流会などを通じて集約し、東紀州の地域性に富む新たな観光商品の開発・提案につなげることを目指しています。

自然環境リテラシー学

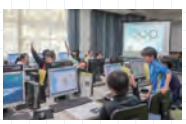
生物資源学部の専門科目です。4泊5日の現地合宿型実習を通して、自然環境と人間が相互に与え合う影響（地域文化を含む）を理解し、自然環境を保護・保全し、情報発信できる広範な知識および技能（＝自然環境リテラシー）を習得したリーダーを育成します。

木育プロジェクト

東紀州の子どもたちが、伝統ある林業・木材産業や、豊かな森林について理解し、将来の担い手や良き消費者となることを目的とした、森を守り、木を育て、伐採し、製材・加工し、利用する、実践的な木育・森林環境教育プログラムの開発と実践を行っています。

林業活性化セミナー

本学林学系研究者の最新の知見を紹介し、未来の林業・林産業について考えることを目的に、「木材のサプライチェーンマネジメントシステム」「ICTを活用したスマート林業構想」をテーマとしたセミナーを実施しました。



プログラミング教育の出前授業

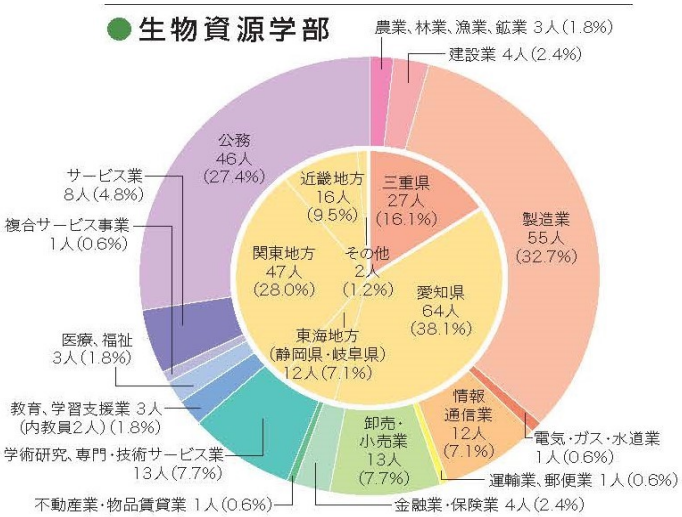
2020年から必修化されるプログラミング教育について、スクラッチやスクラッチ・ジュニアを利用して、各教科等でプログラミング教育を実施できるように、小中学校への出前授業や教員研修等の教育支援を行っています。

東紀州サテライト

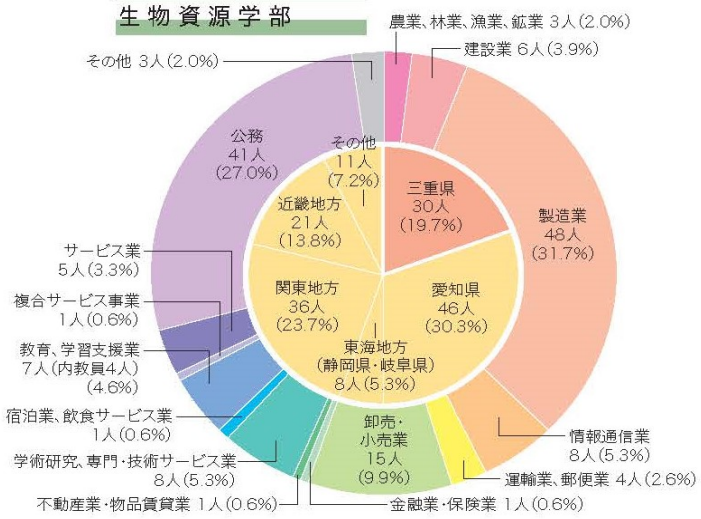
【資料 14】卒業生の進路　（令和2年度～令和4年度の生物資源学部就職状況）

公務員はもちろん、フードシステムは食料生産から食品製造、流通、消費まで幅広い産業と関連するため、多岐にわたる職業分野に恒常的に卒業生を輩出している。

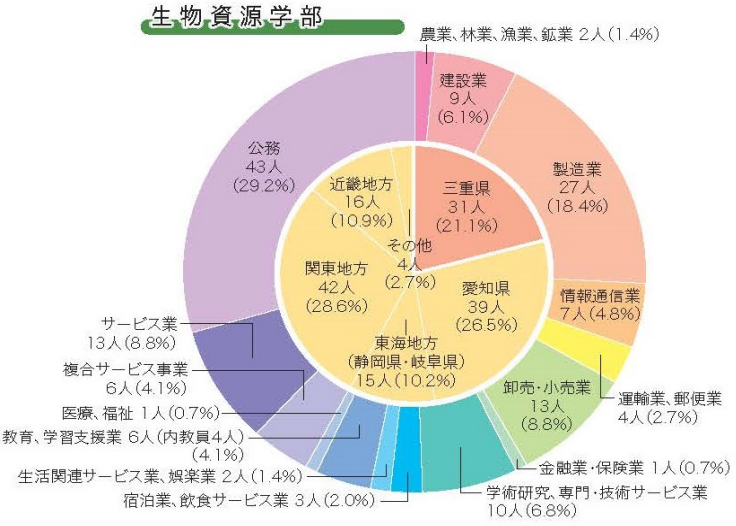
令和2年



令和3年



令和4年



【資料15】　有識者とのオンライン懇談会　（概要）

日　時：２０２２年7月２１日(木)　１０時００分～１２時００分
出席者：県内企業の有識者、三重大学関係者

テーマ　三重大学に期待すること、本学の人材育成に関する意見交換

《主な意見》

・県内に本社を置く企業としては、人材の育成・輩出の面での期待が大きい。また、距離的にも近く、連携も取りやすいことから、研究機関としても共同でできることは多いように思う。

・県内、国内の消費が今後大きく伸びることは考えにくく、海外展開がますます増えてくると思われることから、人材育成についても社会情勢に適合したものとなることを希望している。

・個々の研究室から出てきた研究成果は、正直に申し上げて社会で役に立たないものが多い。地域課題の解決に向けた研究については、分野横断的な考え方を持たれると効果が出やすいように思う。

・三重大学、生物資源学部の課題や今度の取組みについて、在学生がどれほど関心を持っているかが気になった。学生にもっと関心を持ってもらうことで三重大学マインドを醸成できると思う。

・第一次産業に従事する人が減少し続ける中で重要なのは、「業」として成り立つかどうかと、労働環境がどうなっていくかだと思う。現場の課題を把握している行政との連携を強化し、大学が有する知見を活かしていただきたい。

・国内需要の拡大が望めない中で海外へ積極的に展開しているが、現地で雇用した人材だけでは、企業文化を理解したうえで事業を進めていくことが難しいことから、日本国内で必要な人材をしっかり育てる必要がある。どこの大学でもそうだと思うが、日本で必要な知識を学んだあとに母国に帰る留学生の方も多くみえると思うので、卒業後に我々のような企業で仕事を学んでいただき、現地の責任者として母国に帰えるというような人材輩出の仕組みがあっても良いのではと思う。

・地方に人を呼び戻すには、個々の企業では限界があり、自治体が政策として進めていく必要がある。大学は地元の自治体との連携を深め、政策の内容や結果をしっかり分析して必要な提言などを行っていくべきだと思うが、現状はそのあたりが少ないように感じる。

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　　員　　名　　簿

学　　長　　の　　氏　　名　　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
―	学長	イトウ　マサアキ 伊藤　正明 ＜令和３年４月＞		医学博士		三重大学 学長 （令和3.4～令和9.3）

（注）　高等専門学校にあっては校長について記入すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（生物資源学部生物資源学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	ｶｹﾀﾞ ｶﾂﾕｷ 掛田　克行 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		生物学基礎Ⅰ 生物学基礎Ⅰ 植物遺伝育種学 農学演習Ⅰ 農学演習Ⅱ 農学演習Ⅲ 卒業研究	1前 1後 2後 3後 4前 4後 4通	4 2 2 1 1 1 4	2 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平3.4)	5日
2	専	教授	ﾅﾀﾞ ｶｽﾞﾖｼ 名田　和義 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		生物資源学総論※ 植物学※ 生理学※ 農業生物学実験※ 園芸学 園芸植物生理学 農学演習Ⅰ 農学演習Ⅱ 農学演習Ⅲ 卒業研究	1前 2前 2前 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通	0.1 1 0.5 0.1 2 2 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平8.12)	5日
3	専	教授	ﾏﾂｲ ﾋﾛｷ 松井　宏樹 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		生物資源学Ａ※ 生物学基礎Ⅰ 生物資源学Ａ※ 生物学基礎Ⅰ ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽ農場実習Ⅰ※ ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽ農場実習Ⅲ※ 動物生産学※ 動物機能学※ 農学演習Ⅰ 農学演習Ⅱ 農学演習Ⅲ 卒業研究	1前 1前 1後 1後 2前 2後 2後 3前 3後 4前 4後 4通	0.3 4 0.7 2 0.1 0.3 1 1 1 1 1 4	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平14.3)	5日
4	専	教授	ﾅｶｼﾏ ﾁﾊﾙ 中島　千晴 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		国際理解特殊講義５※ 農業生物学実験※ 植物病理学 農学演習Ⅰ 農学演習Ⅱ 農学演習Ⅲ 卒業研究	1後 2前 2後 3後 4前 4後 4通	0.1 0.2 2 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平16.2)	5日
5	専	教授	ﾂｶﾀﾞ ﾓﾘｵ 塚田　森生 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		生物学基礎Ⅱ 生物学基礎Ⅱ 植物保護学※ 農業生物学実験※ 昆虫学 農林統計学※ 農学演習Ⅰ 農学演習Ⅱ 農学演習Ⅲ 卒業研究	1後 2前 2前 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通	2 2 1 0.3 2 0.5 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平7.4)	5日
6	専	教授	ｷｻﾇｷ ﾋﾛﾐﾂ 木佐貫　博光 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		生物学基礎Ⅰ 生物学基礎Ⅰ 植物学※ FSC演習林実習Ⅰ 森林生物学実験※ 森林育成学 森林生態学実習※ 森林科学英語 森林科学演習 卒業研究	1前 1後 2前 2前 2後 2後 3前 3前 3後4通 4通	4 2 1 1 0.2 2 0.5 2 3 4	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平12.5)	5日
7	専	教授	ﾏﾂﾀﾞ ﾖｳｽｹ 松田　陽介 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		生物資源学総論※ 生物学基礎Ⅱ 生物学基礎Ⅱ 森林微生物機能学 農林統計学※ 植物微生物学実験 森林科学英語 森林科学演習 卒業研究	1前 1後 2前 2前 3前 3前 3前 3後4通 4通	0.1 2 2 2 0.7 1 2 3 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平12.4)	5日
8	専	教授	ﾅｶｲ ﾀｶﾋｻ 中井　毅尚 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		木質資源工学 森林生物学実験※ 木質材料学 森林物理学実験※ 森林科学英語 森林科学演習卒業研究 卒業研究	2前 2後 3前 3前 3前 3後4通 4通	2 0.2 2 0.5 2 3 4	1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平29.5)	5日
9	専	教授	ﾉﾅｶ ﾋﾛｼ 野中　寛 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		生物資源学Ａ※ 森林化学 森林化学実験 植物材料化学 植物成分化学実験 バイオマス化学 森林科学英語 森林科学演習 卒業研究	1後 2後 2後 3前 3前 3後 3前 3後4通 4通	1 2 1 2 1 2 2 3 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平17.10)	5日
10	専	教授	ｼﾞｮｳ ｾｲｼｭｳ 常　清秀 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		経済学Ｇ 水産学総論※ 水産経済学 水産物流通論 水産物流通調査実習 海洋生物資源学演習Ⅰ※ 海洋生物資源学演習Ⅱ 卒業研究	1後 2前 2後 3後 3後 3通 4通 4通	2 0.4 2 1 1 1.1 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平13.5)	5日

11	専	教授	ｾｷﾔ ﾉﾌﾞﾋﾄ 関谷　信人 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		生物資源学総論※ ﾌｰﾄﾞｼｽﾃﾑﾁｭｰﾄﾘｱﾙ 農業生物学実験※ 食農システム学 農学演習Ⅰ 農学演習Ⅱ 農学演習Ⅲ 卒業研究	1前 2通 2前 2後 3後 4前 4後 4通	0.1 2 0.2 2 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平27.11)	5日
12	専	教授	ｻｶﾓﾄ ﾀﾂﾋｺ 坂本　竜彦 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		地質学 持続可能な地域づくり学 卒業研究	2前 2後 4通	2 2 4	1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平24.4)	5日
13	専	教授	ﾓﾘｵ ﾖｼﾅﾘ 森尾　吉成 ＜令和6年4月＞		農学博士		データサイエンスⅠ データサイエンスⅡ 応用数学 プログラミング 生物情報工学※ 農業食料工学実習※ 環境情報ｼｽﾃﾑ工学実習Ⅰ※ 環境情報ｼｽﾃﾑ工学実習Ⅱ※ 農業工学現場実習※ ベンチャー企業論【隔年】 農業食料工学実験※ 卒業研究	1前 1後 2前 2後 2後 2後 2後 3前 3前 3前 3後 4通	2 2 2 2 1.1 0.3 0.1 0.1 0.3 2 0.2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平7.7)	5日
14	専	教授	ｵｶｼﾞﾏ ｹﾝｼﾞ 岡島　賢治 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		地学基礎 応用力学Ⅰ 応用力学Ⅱ 水利施設工学 鉄筋コンクリート工学 実践農業工学 農業工学現場実習※ 農業工学ｷｬﾘｱｱｯﾌﾟ演習 フューチャーアース論※ 卒業研究	2前 2前 2後 2後 3前 3前 3前 3後 3後 4通	2 2 2 2 2 0.4 1 2 0.1 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平19.1)	5日
15	専	教授	ﾎｾｲﾝ ｻﾞｶﾘｱ 保世院　座狩屋 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		国際環境保全学（英語） 基礎土質力学 土質力学 フューチャーアース論※ 卒業研究	2前 3前 3後 3後 4通	2 2 2 0.1 4	1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平11.4)	5日
16	専	教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｸﾆｵ 渡邊　晋生 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		数学基礎 ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ体験演習※ 生物資源学インターンシップ 農地工学 土壌物理学実験 ﾌｰﾄﾞｼｽﾃﾑﾁｭｰﾄﾘｱﾙ 水文・農業気象学 フューチャーアース論※ 実践英語演習 卒業研究	1前 1通 2･3･4通 2前 2後 2通 3前 3後 3前 4通	2 2 1 2 1 0.2 2 0.1 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平13.8)	5日
17	専	教授	ｲﾅｶﾞｷ ﾐﾉﾙ 稲垣　穣 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		化学基礎Ⅰ 有機化学Ⅰ 化学実験 生命化学概論※ 生命機能化学実験Ⅱ※ 生命機能化学概論※ 生命機能化学演習Ⅰ 生命機能化学演習Ⅱ 卒業研究	1前 1後 2前 2前 3前 3前 3後 4通 4通	2 2 1 0.1 0.2 0.1 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平3.12)	5日
18	専	教授	ﾊｼﾓﾄ ｱﾂｼ 橋本　篤 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		生命化学概論※ 生物化学工学 生命機能化学実験Ⅰ※ 食品工学 生命機能化学概論※ 生命機能化学演習Ⅰ 生命機能化学演習Ⅱ 卒業研究	2前 2後 2後 3前 3前 3後 4通 4通	0.1 2 0.2 2 0.1 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平4.4)	5日
19	専	教授	ｷﾑﾗ ﾃﾂﾔ 木村　哲哉 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		応用生命化学概論※ 生命化学概論※ 微生物学 化学実験 生命機能化学実験Ⅰ※ 微生物遺伝学 生命機能化学概論※ 生命機能化学演習Ⅰ 生命機能化学演習Ⅱ 卒業研究	1前 2前 2前 2前 2後 3前 3前 3後 4通 4通	0.7 0.1 2 1 0.2 2 0.1 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平7.10)	5日
20	専	教授	ｶｷﾇﾏ ﾏｺﾄ 柿沼　誠 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		化学基礎Ⅱ 生命化学概論※ 分子生物学※ 生化学Ⅰ※ 水圏生物化学 海洋生命化学概論※ 海洋生命化学演習Ⅰ 海洋生命化学演習Ⅱ 卒業研究	1後 2前 2前 2前 2後 3前 3後 4通 4通	2 0.4 1 1 2 0.1 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平10.4)	5日
21	専	教授	ﾀﾏﾙ ﾕﾀｶ 田丸　浩 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		化学実験 生命化学概論※ 遺伝子工学 海洋生命化学実験Ⅲ※ 海洋生命化学概論※ 海洋生命化学演習Ⅰ 海洋生命化学演習Ⅱ 卒業研究	2前 2前 2後 3前 3前 3後 4通 4通	1 0.4 2 0.5 0.1 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平12.7)	5日
22	専	教授	ﾌﾅﾊﾞﾗ ﾀﾞｲｽｹ 舩原　大輔 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		生命化学概論※ 分子生物学※ 海洋生命化学実験Ⅱ※ バイオインフォマティクス 海洋生命化学概論※ 海洋生命化学演習Ⅰ 海洋生命化学演習Ⅱ 卒業研究	2前 2前 2後 3前 3前 3後 4通 4通	0.4 1 0.5 2 0.1 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平13.7)	5日

23	専	教授	ﾌｸｻﾞｷ ｻﾄｼ 福﨑　智司 ＜令和6年4月＞		工学博士		現代社会理解特殊講義２※ 化学基礎Ⅰ 化学基礎Ⅰ 生命化学概論※ 微生物利用学 マリンフードプロセス実習 海洋生命化学概論※ 海洋生命化学演習Ⅰ 海洋生命化学演習Ⅱ 卒業研究	1前 1前 1後 2前 2後 3前 3前 3後 4通 4通	0.1 2 2 0.4 2 1 0.1 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平25.4)	5日
24	専	教授	ｲｼｶﾜ ｱｷﾗ 石川　輝 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		生物学３※ 生物学基礎Ⅱ 海洋生物学※ 生物学基礎Ⅱ 生物学実験 浮遊生物学 紀伊黒潮流域圏航海実習 海洋植物学実験※ 生物海洋学実習 海洋生物資源学演習Ⅰ※ 海洋生物資源学演習Ⅱ 卒業研究	1前 1後 1後 2前 2前 2前 2後 3前 3前 3通 4通 4通	1 2 0.3 2 1 2 1 0.5 1 1.1 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平7.5)	5日
25	専	教授	ｲﾂｼｷ ﾀﾀﾞｼ 一色　正 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		水産学総論※ 水族病理学 水族病理学実験 海洋生物資源学演習Ⅰ※ 海洋生物資源学演習Ⅱ 卒業研究	2前 3前 3前 3通 4通 4通	0.4 2 1 1.1 2 4	1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平15.12)	5日
26	専	教授	ｷﾑﾗ ﾀｴｺ 木村　妙子 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		生物資源学総論※ 環境学Ａ※ 海洋生物学※ 生物学実験 底生生物学 海洋動物学実験 海洋生態学実習 海洋生物資源学演習Ⅰ※ 海洋生物資源学演習Ⅱ 卒業研究	1前 1後 1後 2前 2前 3前 3後 3通 4通 4通	0.1 0.7 0.3 1 2 1 1 1.1 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平14.5)	5日
27	専	教授	ｶﾜﾑﾗ ｺｳｲﾁ 河村　功一 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		環境学Ａ※ 生物学基礎Ⅱ 生物学基礎Ⅱ 生物学実験 細胞生物学※ 資源生物学実験 養殖学※ 動物分類学 海洋生物資源学演習Ⅰ※ 海洋生物資源学演習Ⅱ 卒業研究	1後 1後 2前 2前 2前 2後 3前 3後 3通 4通 4通	0.5 2 2 1 0.7 1 0.7 2 1.1 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平16.10)	5日
28	専	教授	ﾂﾂｲ ﾅｵｱｷ 筒井　直昭 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		水産学総論※ 栽培漁業学 繁殖生理学※ 浅海増殖学実習 海洋生物資源学演習Ⅰ※ 海洋生物資源学演習Ⅱ 卒業研究	2前 3前 3前 3前 3通 4通 4通	0.4 1 1.1 1 1 2 4	1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平30.7)	5日
29	専	教授	ﾅｶﾞｽｶﾞ ｷﾖｼ 長菅　輝義 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		生物資源学Ａ※ 生物学基礎Ⅰ 生物学基礎Ⅰ ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ体験演習※ 農場・演習林実習※ 農業生物学実験※ 農作物生育制御概論※ ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽ農場実習Ⅰ※ ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽ農場実習Ⅱ※ ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽ農場実習Ⅲ※ 農学演習Ⅰ 農学演習Ⅱ 農学演習Ⅲ 卒業研究	1前 1前 1後 1通 2前 2前 2前 2前 2後 2後 3後 4前 4後 4通	0.2 4 2 0.2 0.5 0.1 1 0.5 0.5 0.5 1 1 1 4	1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平20.4)	5日
30	専	教授	ﾏﾂﾀﾞ ﾋﾛｶｽﾞ 松田　浩一 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ体験演習※ 水産学総論※ 臨海実習 増殖生態学 フィールド科学技術実習 海洋情報学実習 養殖学※ 海洋生物資源学演習Ⅰ※ 海洋生物資源学演習Ⅱ 卒業研究	1通 2前 2前 2前 2前 3後 3前 3通 4通 4通	0.2 0.4 3 2 1 1 0.7 1 2 4	1 1 3 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (令2.4)	5日
31	専	教授	ﾌｸｼﾏ ﾀｶｼ 福島　崇志 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		生物資源学総論※ 電気・電子工学 生物情報工学※ 農業食料工学実習※ 環境情報ｼｽﾃﾑ工学実習Ⅰ※ 実践データサイエンス 制御工学 メカトロニクス実践 環境情報ｼｽﾃﾑ工学実習Ⅱ※ 農業食料工学実験※ 卒業研究	1前 2後 2後 2後 2後 3前 3前 3前 3前 3後 4通	0.1 2 0.9 0.2 0.2 2 2 2 0.2 0.1 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (H19.4)	5日
32	専	教授	ﾓﾘｻｶ ﾀﾀﾞﾐﾁ 森阪　匡通 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		生物資源学総論※ 生物学基礎Ⅱ 海洋生物学※ 生物学基礎Ⅱ 海生哺乳動物学 卒論スタートアップ演習 海洋生物資源学演習Ⅰ※ 海生哺乳動物学実習 海洋生物資源学演習Ⅱ 卒業研究	1前 1後 1後 2前 2後 3後 3通 3後 4通 4通	0.1 2 0.4 2 2 1 1 1 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (H29.4)	5日

33	専	准教授	ﾅｶﾞﾔ ﾕｳｲﾁ 長屋　祐一 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		データサイエンスⅠ 農林環境科学概論※ 農業生物学実験※ 作物学 農業生産工程管理学概論※ 作物学各論 農学演習Ⅰ 農学演習Ⅱ 農学演習Ⅲ 卒業研究	1前 1後 2前 2後 2後 3前 3後 4前 4後 4通	4 0.7 0.1 2 1 2 1 1 1 4	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平10.5)	5日
34	専	准教授	ﾊﾞﾝ ﾄﾓﾐ 伴　智美 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		生物資源学Ａ※ 農業生物学実験※ 農業化学実験 動物生産学※ 動物機能学※ 農学演習Ⅰ 農学演習Ⅱ 農学演習Ⅲ 卒業研究	1後 2前 2後 2後 3前 3後 4前 4後 4通	0.7 0.1 1 1 1 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平16.4)	5日
35	専	准教授	ｺﾝﾄﾞｳ ﾏｺﾄ 近藤　誠 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		生物資源学Ａ※ 農業生物学実験※ 動物飼料学 農学演習Ⅰ 農学演習Ⅱ 農学演習Ⅲ 卒業研究	1後 2前 2後 3後 4前 4後 4通	0.7 0.1 2 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平18.3)	5日
36	専	准教授	ｼﾛｳｽﾞ ﾀｶｼ 白水　貴 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		データサイエンスⅡ※ 植物保護学※ ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽ農場実習Ⅰ※ 農業生物学実験※ 農学演習Ⅰ 農学演習Ⅱ 農学演習Ⅲ 卒業研究	1後 2前 2前 2前 3後 4前 4後 4通	0.7 1 0.1 0.2 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平29.3)	5日
37	専	准教授	ﾄﾘﾏﾙ ﾀｹｼ 鳥丸　猛 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		生物学基礎Ⅱ 生物学基礎Ⅱ FSC演習林実習Ⅰ 森林生物学実験※ 森林科学英語 森林生態学 森林生態学実習※ 森林科学演習 卒業研究	1後 2前 2前 2後 3前 3前 3前 3後4通 4通	2 2 1 0.2 2 2 0.5 3 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平26.4)	5日
38	専	准教授	ﾐｽﾞﾉ ﾀｶﾌﾐ 水野　隆文 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		生物資源学Ａ※ 無機化学 生命化学概論※ 土壌学 植物栄養学 生命機能化学概論※ 生命機能化学演習Ⅰ 生命機能化学演習Ⅱ 卒業研究	1後 2前 2前 2後 3前 3前 3後 4通 4通	1 2 0.1 2 2 0.1 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平14.7)	5日
39	専	准教授	ｲﾀﾔ(ﾀﾏｷ) ｱｹﾐ 板谷(玉木)　明美 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		生物資源学Ｂ※ 森林利用・情報学 森林利用・情報学演習 森林科学英語 FSC演習林実習Ⅳ 森林科学演習 卒業研究	1後 2後 3前 3前 3後 3後4通 4通	0.5 2 2 2 1 3 4	1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平18.10)	5日
40	専	准教授	ﾅｶｼﾞﾏ ﾄｵﾙ 中島　亨 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		食料・資源経済学 農業経済・統計学 ﾌｰﾄﾞｼｽﾃﾑﾁｭｰﾄﾘｱﾙ 農業・応用経済学 農学演習Ⅰ 農学演習Ⅱ 農学演習Ⅲ 卒業研究	2通 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通	2 2 2 2 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平28.4)	5日
41	専	准教授	ﾉﾅｶ ｱｷﾋｻ 野中　章久 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		データサイエンスⅡ※ 農業経営学 農林統計学※ 基礎経営学 農学演習Ⅰ 農学演習Ⅱ 農学演習Ⅲ 卒業研究	1後 2後 3前 3前 3後 4前 4後 4通	0.7 2 0.8 2 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平31.4)	5日
42	専	准教授	ﾖｼﾊﾗ ﾕｳ 吉原　佑 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		生物資源学Ｂ 農業生物学実験※ 資源動物学 農学演習Ⅰ 農学演習Ⅱ 農学演習Ⅲ 卒業研究	1前 2前 3前 3後 4前 4後 4通	2 0.3 2 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平28.4)	5日
43	専	准教授	ﾆｼｲ ｶｽﾞｱｷ 西井　和晃 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		生物資源学総論※ 海洋気象数値解析演習 海洋気象学 海洋生物資源学演習Ⅰ※ 海洋生物資源学演習Ⅱ 卒業研究	1前 2後 3後 3通 4通 4通	0.1 1 2 1.1 2 4	1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平28.4)	5日
44	専	准教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾌｸｼﾞ 山田　二久次 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		数学基礎 大気海洋科学 海洋科学実習 海洋生物資源学演習Ⅰ※ 海洋生物資源学演習Ⅱ 卒業研究	1前 3前 3後 3通 4通 4通	2 2 1 1.1 2 4	1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平12.7)	5日
45	専	准教授	ﾏﾝﾀﾞ ｱﾂﾖｼ 万田　敦昌 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		大気海洋循環学 大気海洋循環学実習 海洋生物資源学演習Ⅰ※ 海洋生物資源学演習Ⅱ 卒業研究	2前 3後 3通 4通 4通	2 1 1.1 2 4	1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平28.3)	5日
46	専	准教授	ﾓﾘﾓﾄ ﾋﾃﾞﾂｸﾞ 森本　英嗣 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		測量学 測量学実習 測量応用実習 農村計画学 農村ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ運営実習※ フューチャーアース論※ 卒業研究	2後 2後 3前 3後 3後 3後 4通	2 1 1 2 0.5 0.1 4	1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平31.4)	5日

47	専	准教授	ｺﾝﾄﾞｳ ﾏｻｱｷ 近藤　雅秋 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		物理学基礎Ⅰ 物理学基礎Ⅱ かんがい排水学 フューチャーアース論※ 水理実験※ 卒業研究	1前 1後 3後 3後 3通 4通	2 2 2 0.1 1 4	1 1 1 1 2 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平7.4)	5日
48	専	准教授	ｽｽﾞｷ ﾃﾂﾋﾄ 鈴木　哲仁 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		農業食料工学実習※ 環境情報ｼｽﾃﾑ工学実習Ⅰ※ 環境情報ｼｽﾃﾑ工学実習Ⅱ※ 設計製図学Ⅰ 農業食料工学実験※ 卒業研究	2後 2後 3前 3前 3後 4通	0.1 0.2 0.2 2 0.2 4	1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (令5.4)	5日
49	専	准教授	ﾀｹﾊﾞﾔｼ ｼﾝｲﾁﾛｳ 竹林　慎一郎 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		生物資源学総論※ 化学基礎Ⅱ 化学基礎Ⅱ 生命化学概論※ 生化学Ⅱ 生命機能化学実験Ⅱ※ 生命機能化学概論※ 生命機能化学演習Ⅰ 生命機能化学演習Ⅱ 卒業研究	1前 1後 2前 2前 2後 3前 3前 3後 4通 4通	0.1 2 2 0.1 2 0.6 0.1 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平26.4)	5日
50	専	准教授	ﾐﾔｹ ﾋﾃﾞｵ 三宅　英雄 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		データサイエンスⅡ 化学実験 生命化学概論※ 生物物理化学 生命機能化学実験Ⅰ※ 生命機能化学概論※ 生命機能化学演習Ⅰ 生命機能化学演習Ⅱ 卒業研究	1後 2前 2前 2前 2後 3前 3後 4通 4通	2 1 0.1 2 0.6 0.1 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平15.4)	5日
51	専	准教授	ﾏｽﾀﾞ ﾕｳｲﾁ 増田　裕一 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		生命化学概論※ 創薬化学 生命機能化学実験Ⅱ※ 生命機能化学概論※ 生命機能化学演習Ⅰ 生命機能化学演習Ⅱ 卒業研究	2前 2後 3前 3前 3後 4通 4通	0.1 2 0.6 0.1 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平28.1)	5日
52	専	准教授	ｶﾂｻﾞｷ ﾋﾛﾀｶ 勝崎　裕隆 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		自然科学概論２※ キャリア教育入門 応用生命化学概論※ 化学実験 生命化学概論※ 生命機能化学実験Ⅱ※ 生命機能化学概論※ 生物機能化学 生命機能化学演習Ⅰ 生命機能化学演習Ⅱ 卒業研究	1前 1後 1後 2前 2前 3前 3前 3後 3後 4通 4通	0.1 0.5 0.7 1 0.1 0.2 0.1 2 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平5.12)	5日
53	専	准教授	ｵｶｻﾞｷ ﾖｳｿﾞｳ 岡崎　洋三 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		生命化学概論※ 分析化学 生命機能化学実験Ⅱ※ 生命機能化学概論※ 生命機能化学演習Ⅰ 生命機能化学演習Ⅱ 卒業研究	2前 2後 3前 3前 3後 4通 4通	0.1 2 0.6 0.1 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平29.4)	5日
54	専	准教授	ｲｿﾉ ﾅｵﾄ 磯野　直人 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		自然科学概論２※ 生物資源学総論※ 生命化学概論※ 生化学Ⅰ※ 食品化学 生命機能化学実験Ⅱ※ 生命機能化学概論※ 生命機能化学演習Ⅰ 生命機能化学演習Ⅱ 卒業研究	1前 1前 2前 2前 2後 3前 3前 3後 4通 4通	0.1 0.1 0.1 1 2 0.6 0.1 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平16.4)	5日
55	専	准教授	ﾆｼｵ ﾏｻﾋﾛ 西尾　昌洋 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		自然科学概論２※ 化学実験 生命化学概論※ 栄養化学 生命機能化学実験Ⅱ※ 生命機能化学概論※ 生命機能化学演習Ⅰ 生命機能化学演習Ⅱ 卒業研究	1前 2前 2前 3前 3前 3前 3後 4通 4通	0.3 1 0.1 2 0.2 0.1 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平21.6)	5日
56	専	准教授	ｳﾒｶﾜ(ﾀﾅｶ) ﾐﾄﾞﾘ 梅川(田仲)　碧里 ＜令和6年4月＞		博士 (生命科学)		化学実験 細胞生物学※ 生命化学概論※ 生命機能化学実験Ⅰ※ 発酵生理学 生命機能化学概論※ 生命機能化学演習Ⅰ 生命機能化学演習Ⅱ 卒業研究	2前 2前 2前 2後 3前 3前 3後 4通 4通	1 0.7 0.1 0.5 2 0.1 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平30.3)	5日
57	専	准教授	ｲﾄｳ ﾄﾓﾋﾛ 伊藤　智広 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		生物資源学総論※ 応用生命化学概論※ 化学実験 生命化学概論※ 脂質化学 海洋生命化学実習※ 海洋生命化学概論※ 海洋生命化学演習Ⅰ 海洋生命化学演習Ⅱ 卒業研究	1前 1後 2前 2前 3前 3前 3前 3後 4通 4通	0.1 0.7 1 0.4 2 0.5 0.1 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平28.4)	5日
58	専	准教授	ﾀﾅｶ ﾚｲｼﾞ 田中　礼士 ＜令和6年4月＞		博士 (水産科学)		生物資源学総論※ 細胞生物学※ 生命化学概論※ 海洋生命化学実験Ⅰ※ 海洋資源微生物学 海洋生命化学概論※ 海洋生命化学演習Ⅰ 海洋生命化学演習Ⅱ 卒業研究	1前 1後 2前 2後 3前 3前 3後 4通 4通	0.1 0.7 0.4 0.5 2 0.1 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平18.11)	5日

59	専	准教授	ｵｶｻﾞｷ ﾌﾐﾖｼ 岡﨑　文美 ＜令和6年4月＞		博士 (材料科学)		生命化学概論※ 生体代謝化学 マリンフードプロセス実習 海洋生命化学実習※ 海洋生命化学概論※ 海洋生命化学演習Ⅰ 海洋生命化学演習Ⅱ 卒業研究	2前 3前 3前 3前 3前 3後 4通 4通	0.4 2 1 0.5 0.1 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平28.3)	5日
60	専	准教授	ｼﾊﾞﾀ ﾄｼﾕｷ 柴田　敏行 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		自然科学概論２※ 生命化学概論※ 水産食品化学 海洋生命化学実験Ⅲ※ 海洋生命化学概論※ 海洋生命化学演習Ⅰ 海洋生命化学演習Ⅱ 卒業研究	1前 2前 3前 3前 3前 3後 4通 4通	0.3 0.4 2 0.5 0.1 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平19.6)	5日
61	専	准教授	ﾐﾔｻﾞｷ ﾀｴｺ 宮﨑　多恵子 ＜令和6年4月＞		博士 (水産学)		生物学３※ 海洋生物学※ 海洋生物比較生理学 生物学実験 海洋生物生理学実習 海洋生物感覚生理学 海洋生物資源学演習Ⅰ※ 海洋生物資源学演習Ⅱ 卒業研究	1前 1後 2前 2前 3前 3後 3通 4通 4通	1 0.3 2 1 1 2 1.1 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平14.1)	5日
62	専	准教授	ｸﾗｼﾏ ｱｷﾗ 倉島　彰 ＜令和6年4月＞		博士 (水産学)		環境科学２※ 生物資源学総論※ 海洋生物学※ 生物学実験 藻類学 海洋植物学実験※ 藻類学実習 海洋生物資源学演習Ⅰ※ 海洋生物資源学演習Ⅱ 卒業研究	1前 1前 1後 2前 2前 3前 3前 3通 4通 4通	0.1 0.1 0.3 1 2 0.5 1 1.1 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平9.4)	5日
63	専	准教授	ﾖﾄﾞ ﾀｲｶﾞ 淀　太我 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		キャリア教育入門 環境学Ａ※ 海洋生物学※ 生物学実験 魚類学 魚類増殖学 魚類種苗育成学実習 魚類種苗生産学実習 海洋生物資源学演習Ⅰ※ 海洋生物資源学演習Ⅱ 卒業研究	1後 1後 1後 2前 2後 3前 3前 3前 3通 4通 4通	0.5 0.7 0.3 1 2 2 1 1 1 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平16.4)	5日
64	専	准教授	ｶﾅｲﾜ ﾐﾉﾙ 金岩　稔 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		データサイエンスⅡ 海洋個体群動態学 海洋動物学実験 海洋生物資源学演習Ⅰ※ 生物統計学 海洋生物資源学演習Ⅱ 卒業研究	1後 2後 3前 3通 4前 4通 4通	2 2 1 1.1 2 2 4	1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平28.10)	5日
65	専	准教授	ﾌﾅｻｶ ﾉﾘｺ 船坂　徳子 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		生理学※ 繁殖生理学※ 魚類種苗生産学実習 海生哺乳動物学実習 海洋生物資源学演習Ⅰ※ 海洋生物資源学演習Ⅱ 卒業研究	1後 3前 3後 3後 3通 4通 4通	0.5 0.9 1 1 1 2 4	1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平28.3)	5日
66	専	准教授	ﾐｼﾏ ﾀｶｼ 三島　隆 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		生物資源学Ａ※ 現代社会理解特殊講義３※ ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ体験演習※ 農場・演習林実習※ 生理学※ ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽ農場実習Ⅰ※ ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽ農場実習Ⅱ※ ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽ農場実習Ⅲ※ 食品衛生学 生命機能化学概論※ 生命機能化学演習Ⅰ 生命機能化学実習 生命機能化学演習Ⅱ 卒業研究	1前 1後 1通 2前 2前 2前 2後 2後 2後 3前 3後 3後 4通 4通	0.9 0.3 0.2 0.2 0.4 0.2 0.4 0.3 2 0.1 2 1 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平11.4)	5日
67	専	准教授	ﾇﾏﾓﾄ ｼﾝﾔ 沼本　晋也 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		自然科学概論３ ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ体験演習※ 農場・演習林実習※ FSC演習林実習Ⅱ 森林・緑環境評価学※ FSC演習林実習Ⅲ FSC演習林実習Ⅴ	1前 1通 2前 3前 3前 3前 3前	2 0.2 0.5 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平12.8)	5日
68	専	准教授	ﾌﾁｶﾞﾐ ﾕｳｷ 渕上　佑樹 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		自然科学概論３ 環境科学２※ 農林環境科学概論※ ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ体験演習※ 農場・演習林実習※ FSC演習林実習Ⅴ	1前 1前 1後 1通 2前 3前	2 0.1 0.6 0.2 0.5 1	1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平28.1)	5日
69	専	准教授	ｵｶﾍﾞ ﾀｸﾐ 岡辺　拓巳 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ体験演習※ 臨海実習 フィールド科学技術実習 海洋情報学実習 水産情報利用学 海洋生物資源学演習Ⅰ※ 海洋生物資源学演習Ⅱ 卒業研究	1通 2前 2前 3後 3後 3通 4通 4通	0.2 3 1 1 2 1 2 4	1 3 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (令2.10)	5日
70	専	准教授	ﾓﾘｶﾜ ﾖｼﾀｶ 森川　由隆 ＜令和6年4月＞		博士 (水産学)		データサイエンスⅠ 水産学総論※ 漁業生産学 漁業生産学実習 卒論スタートアップ演習 海洋生物資源学演習Ⅰ※ 海洋生物資源学演習Ⅱ 卒業研究	1前 2前 3前 3後 3後 3通 4通 4通	4 0.4 2 1 1 1.1 2 4	2 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平8.8)	5日
71	専	准教授	ﾏﾂｵ ﾅｵｺ 松尾　奈緒子 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		森林・緑環境計画学 森林・緑環境評価学※ FSC演習林実習Ⅲ 森林科学英語 森林科学演習 卒業研究	2後 3前 3前 3前 3後4通 4通	2 1 1 2 3 4	1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平18.12)	5日

72	専	准教授	ｻｶｲ ﾏｻﾙ 坂井　勝 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		生物資源学総論※ 環境系数学 数値計算法 土壌物理学 土壌物理学実験 フューチャーアース論※ 卒業研究	1前 2前 2後 2後 2後 3後 4通	0.1 2 2 2 1 0.1 4	1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (平23.4)	5日
73	専	助教	ｷﾀｶﾞﾐ ﾕｳﾀﾞｲ 北上　雄大 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		データサイエンスⅡ 森林生物学実験※ 植物微生物学実験 森林科学英語 森林科学演習 卒業研究	1後 2後 3前 3前 3後4通 4通	2 0.2 1 2 3 4	1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 助教 (令2.4)	5日
74	専	助教	ｳﾁｻｺ ﾀｶﾕｷ 内迫　貴幸 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		データサイエンスⅠ 森林生物学実験※ 森林物理学実験※ 森林科学英語 森林科学演習 卒業研究	1前 2後 3前 3前 3後4通 4通	4 0.2 0.5 2 3 4	2 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 助教 (平3.8)	5日
75	専	助教	ﾄｸﾅｶﾞ ﾕｳｷ 徳永　有希 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		森林化学実験 植物成分化学実験 森林科学英語 森林科学演習 卒業研究	2後 3前 3前 3後4通 4通	1 1 2 3 4	1 1 1 1 1	三重大学大学院生物資源学研究科 助教 (令4.4)	5日
76	専	助教	ﾀｷｻﾜ ｹﾝｼﾞ 滝沢　憲治 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		力学基礎Ⅰ 熱力学 農業食料工学実習※ 環境情報ｼｽﾃﾑ工学実習Ⅰ※ 力学基礎Ⅱ 環境情報ｼｽﾃﾑ工学実習Ⅱ※ 農業食料工学実験※ 卒業研究	2後 2後 2後 2後 3前 3前 3後 4通	2 2 0.2 0.2 2 0.2 0.2 4	1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 助教 (平30.2)	5日
77	専	助教	ﾅｲﾄｳ ﾋﾛﾀｶ 内藤　啓貴 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		生物資源学総論※ 農林環境科学概論※ 農業食料工学実習※ 環境情報ｼｽﾃﾑ工学実習Ⅰ※ 環境情報ｼｽﾃﾑ工学実習Ⅱ※ 設計製図学Ⅱ 設計製図学演習 農業食料工学実験※ 卒業研究	1前 1後 2後 2後 3前 3後 3後 3後 4通	0.1 0.7 0.2 0.2 0.2 2 2 0.2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 助教 (令2.10)	5日
78	専	助教	ﾀﾅｶ ﾖｼｶｽﾞ 田中　宣多 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		物理学基礎Ⅰ 測量学実習 測量応用実習 CAD実習 フューチャーアース論※ コンクリート・土質実験 卒業研究	1前 2後 3前 3後 3後 3通 4通	2 1 1 1 0.1 2 4	1 1 1 1 1 2 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 助教 (令4.1)	5日
79	専	助教	ｲﾄｳ ﾘﾖｳｴｲ 伊藤　良栄 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		データサイエンスⅠ 農業情報ネットワーク 基礎水理学 水理学 フューチャーアース論※ 卒業研究	1前 2後 2後 3前 3後 4通	2 2 2 2 0.1 4	1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 助教 (平3.4)	5日
80	専	助教	ｸﾆﾀｹ(ｲﾄｳ) ｴﾐ 國武(伊藤)　絵美 ＜令和6年4月＞		博士 (応用生命科学)		化学実験 生命化学概論※ 生命機能化学実験Ⅰ※ 生命機能化学概論※ 生命機能化学演習Ⅰ 生命機能化学演習Ⅱ 卒業研究	2前 2前 2後 3前 3後 4通 4通	1 0.1 0.5 0.1 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 助教 (平29.3)	5日
81	専	助教	ｸﾘﾔ ｹﾝｼﾞ 栗谷　健志 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		化学実験 生命化学概論※ 生命機能化学実験Ⅱ※ 生命機能化学概論※ 生命機能化学演習Ⅰ 生命機能化学演習Ⅱ 卒業研究	2前 2前 3前 3前 3後 4通 4通	1 0.1 1.2 0.1 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 助教 (平30.10)	5日
82	専	助教	ｲｶﾞﾗｼ ﾖｳｼﾞ 五十嵐　洋治 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		データサイエンスⅡ 化学実験 生命化学概論※ 海洋生命化学実験Ⅰ※ 海洋生命化学概論※ 海洋生命化学演習Ⅰ 海洋生命化学演習Ⅱ 卒業研究	1後 2前2後 2前 2後 3前 3後 4通 4通	2 2 0.4 0.5 0.1 2 2 4	1 2 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 助教 (令2.4)	5日
83	専	助教	ﾎｳｷ ｼｮｳｼﾞ 伯耆　匠二 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		データサイエンスⅠ 海洋生物学※ 資源生物学実験 海洋生物資源学演習Ⅰ※ 海洋生物資源学演習Ⅱ 卒業研究	1前 1後 2後 3通 4通 4通	4 0.3 1 1.1 2 4	2 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 助教 (平29.2)	5日
84	専	助教	ﾔﾏﾓﾄ ｺｳｽｹ 山本　康介 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ体験演習※ 生物学実験 臨海実習 フィールド科学技術実習 海洋情報学実習 海洋生物資源学演習Ⅰ※ 海洋生物資源学演習Ⅱ 卒業研究	1通 2前 2前 2前 3後 3通 4通 4通	0.2 1 3 1 1 1 2 4	1 1 3 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 助教 (令3.4)	5日
85	専	助教	ﾅｶﾑﾗ ﾄｵﾙ 中村　亨 ＜令和6年4月＞		学士 (水産学)		環境科学１ ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ体験演習※ 乗船実習 海洋観測航海実習 海事概論※ 紀伊黒潮流域圏航海実習 総合航海実習 海洋生物資源学演習Ⅱ 卒業研究	1前 1通 2通 2後 2後 2後 3前 4通 4通	2 0.2 3 3 0.9 1 2 2 4	1 1 3 3 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 助教 (平15.4)	5日
86	専	准教授	ﾍﾟﾚﾗ ﾀﾗﾝｶﾞ(ﾀﾗｶﾞﾗ ｱｰﾗﾂﾁｹﾞ ﾀﾗﾝｶﾞ ﾋﾟﾔﾏｰﾘ ﾀﾗｶﾞﾗ) ぺれら　たらんが (THALAGALA ARACHCHIGE THARANGA PIYAMALI THALAGALA) ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		農学科学英語 海洋科学英語 生命化学英語	3前 3後 3後	2 2 2	1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 特任准教授 (教育担当) (平23.4)	4日

87	兼担	教授	ｽﾜﾍﾞ ｹｲﾀ 諏訪部　圭太 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		農業化学実験 分子細胞生物科学 農学演習Ⅰ 農学演習Ⅱ 農学演習Ⅲ 卒業研究	2後 3前 3後 4前 4後 4通	1 2 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 地域イノベーション学 研究科 教授 (平21.2)	5日
88	兼担	教授	ｽｴﾊﾗ ｹﾝｲﾁﾛｳ 末原　憲一郎 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		現代科学理解特殊講義２ 生命化学概論※ 物理化学 生命機能化学実験Ⅰ※ 生命機能化学概論※ 生命機能化学演習Ⅰ 生命機能化学演習Ⅱ 卒業研究	1後 2前 2前 2後 3前 3後 4通 4通	2 0.1 2 0.5 0.1 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 地域イノベーション学 研究科 教授 (平17.10)	5日
89	兼担	教授	ｵｵｲ ｱﾂｼ 大井　淳史 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		物理学２ 数学基礎 化学実験 海洋生命化学実験Ⅱ※ 生物物性学	1前1後 1前1後 1後 2後 3前	4 4 1 0.5 2	2 2 1 1 1	三重大学 生物資源学研究科 教授 (昭63.4) 三重大学 共通教育センター 教授 (令4.4)	5日
90	兼担	教授	ｻｶｲ ﾄｼﾉﾘ 酒井　俊典 ＜令和6年4月＞		農学博士		地域防災論※	1後	0.1	1	三重大学　理事 (令5.4)	5日
91	兼担	教授	ｸｽﾞﾊ ﾔｽﾋｻ 葛葉　泰久 ＜令和6年4月＞		博士（工学）		地域防災論※ 数学基礎	1後 1前	0.1 2	1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平16.4)	5日
92	兼担	教授	ｶﾘﾀ ｼｭｳｲﾁ 苅田　修一 ＜令和6年4月＞		博士（学術）		自然科学概論２※	1前	0.1	1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平3.7)	5日
93	兼担	教授	ﾖｼｵｶ ﾓﾄｲ 吉岡　基 ＜令和6年4月＞		農学博士		生物学４	1後	2	1	三重大学　理事 (令5.4)	5日
94	兼担	教授	ｺｳﾊﾞﾗ ｼﾞｭﾝ 神原　淳 ＜令和6年4月＞		農学博士		生物学３※	1前	0.2	1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (昭60.11)	5日
95	兼担	教授	ｲｼｶﾜ ﾄﾓｱｷ 石川　知明 ＜令和6年4月＞		博士（農学）		生物資源学Ｂ※ 現代社会理解特殊講義１※	1後 1前 1後	0.5 0.1 0.1	1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平10.4)	5日
96	兼担	教授	ｳﾒｻﾞｷ ﾃﾙﾋｻ 梅崎　輝尚 ＜令和6年4月＞		農学博士		環境学Ａ 現代社会理解特殊講義１※	1前 1前 1後	2 0.1 0.1	1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平4.7)	5日
97	兼担	教授	ﾅｶﾞｲ ﾋｻﾔ 永井　久也 ＜令和6年4月＞		博士（工学）		防災論※	1前	0.1	1	三重大学大学院 工学研究科 教授 (平8.4)	5日
98	兼担	教授	ﾏﾙﾔﾏ ﾅｵｷ 丸山　直樹 ＜令和6年4月＞		博士（工学）		環境科学２※ 現代社会理解特殊講義１※	1前 1前 1後	0.1 0.1 0.1	1 1 1	三重大学大学院 地域イノベーション学 研究科 教授 (昭63.4)	5日
99	兼担	教授	ｲﾜﾀ ｲｯﾃﾂ 岩田　一哲 ＜令和6年4月＞		博士（経済学）		経済学Ｇ	1前	2	1	三重大学 人文学部 教授 (平14.4)	5日
100	兼担	教授	ｸﾎﾞ ﾏｻﾀｶ 久保　雅敬 ＜令和6年4月＞		博士（工学）		化学Ａ※	1前 1後	0.1 0.1	1 1	三重大学大学院 工学研究科 教授 (昭62.4)	5日
101	兼担	教授	ﾔﾏﾓﾘ ｶｽﾞﾉﾘ 山守　一徳 ＜令和6年4月＞		工学博士		情報科学Ａ	1後	2	1	三重大学 教育学部 教授 (平10.10)	5日
102	兼担	教授	ｺﾀﾆ ﾋﾛｶｽﾞ 小谷　泰一 ＜令和6年4月＞		医学博士		医学医療Ａ２※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 (令2.8)	5日
103	兼担	教授	ﾀﾆｲ ﾋｻｼ 谷井　久志 ＜令和6年4月＞		医学博士		医学医療Ｂ２※	1後	0.5	1	三重大学 保健管理センター 教授 (平14.4)	5日
104	兼担	教授	ﾀﾆｸﾞﾁ ﾄﾓﾏｻ 谷口　智雅 ＜令和6年4月＞		博士（地理学）		環境地理学Ａ 環境地理学Ｂ 環境地理学Ｃ	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	三重大学 人文学部 非常勤教員 (令4.4)	5日
105	兼担	教授	ﾀﾆﾑﾗ ｽｽﾑ 谷村　晋 ＜令和6年4月＞		博士（医学）		医学医療Ｃ２※ 国際保健と地域医療※	1前 1後	0.1 0.1	1 1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 (平27.6)	5日
106	兼担	教授	ﾀｹｳﾁ ｻﾁｴ 竹内　佐智恵 ＜令和6年4月＞		博士（看護学）		医学医療Ｃ２※ 医学医療Ｄ※	1前 1後	0.1 0.5	1 1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 (平21.10)	5日
107	兼担	教授	ﾀｹﾓﾄ ｷﾜﾑ 竹本　研 ＜令和6年4月＞		博士（医学）		医学医療Ａ２※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 (令2.4)	5日
108	兼担	教授	ﾅｶﾆｼ ﾖｼﾌﾐ 中西　良文 ＜令和6年4月＞		修士 (教育心理学)		心理学Ａ	1前	2	1	三重大学 教育学部 教授 (平16.4)	5日
109	兼担	教授	ｱｻﾋ ｻﾁﾖ 朝日　幸代 ＜令和6年4月＞		社会科学修士		経済学Ｇ	1後	2	1	三重大学 人文学部 教授 (平17.4)	5日
110	兼担	教授	ﾂｶﾓﾄ ｱｷﾗ 塚本　明 ＜令和6年4月＞		博士（文学）		日本史Ｃ 日本文化論Ｂ 地域防災論※	1前 1前 1後	2 2 0.1	1 1 1	三重大学 人文学部 教授 (平1.4)	5日
111	兼担	教授	ﾀﾏﾙ ｻﾄｼ 田丸　智巳 ＜令和6年4月＞		博士		医学医療入門※	1前	0.1	1	三重大学医学部 附属病院 教授 (平19.1)	5日

112	兼担	教授	ﾀﾅｶ ｱｷｺ 田中　亜紀子 ＜令和6年4月＞		博士（法学）		法学Ａ	1前	2	1	三重大学 人文学部 教授 (平18.4)	5日
113	兼担	教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾏｻﾄｼ 渡邉　昌俊 ＜令和6年4月＞		博士（医学）		医学医療Ａ２※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 (平7.7)	5日
114	兼担	教授	ｼﾏ ｹｲｲﾁ 嶋　恵一 ＜令和6年4月＞		修士 (横浜国立大学)		経済学Ｆ	1前	2	1	三重大学 人文学部 教授 (平8.4)	5日
115	兼担	教授	ﾕｱｻ ﾖｳｺ 湯浅　陽子 ＜令和6年4月＞		博士（文学）　京都大学		中国の文化 中国語ＩＡａ 中国語ＩＡｂ	1前 1後 1前 1後	2 2 1 1	1 1 1 1	三重大学 人文学部 教授 (平10.4)	5日
116	兼担	教授	ﾐﾅﾐ ﾏﾅﾌﾞ 南　学 ＜令和6年4月＞		博士（心理学）		心理学Ｆ	1前	4	2	三重大学 教育学部 教授 (平18.4)	5日
117	兼担	教授	ｺﾞﾄｳ ﾖｳｺ 後藤　洋子 ＜令和6年4月＞		学士（体育学）		スポーツ健康科学Ａ	1前	1	1	三重大学 教育学部 教授 (昭55.4)	4日
118	兼担	教授	ﾓﾓｻｷ ﾘｮｳ 百崎　良 ＜令和6年4月＞		PhD、MPH		医学医療Ｃ１※	1後	0.1	1	三重大学医学部 附属病院 教授 (令2.3)	5日
119	兼担	教授	ﾀﾜﾗ ｲｻｵ 俵　功 ＜令和6年4月＞		博士（医学）		医学医療Ｂ２※	1前	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 (平24.7)	5日
120	兼担	教授	ﾌｸｵｶ ﾏｻｺ 福岡　昌子 ＜令和6年4月＞		人文科学博士		日本理解特殊講義２※ 日本理解特殊講義５	1前 1前	0.1 2	1 1	三重大学 国際交流センター 教授 (平14.4)	5日
121	兼担	教授	ﾌｸﾛｸ ｹｲｺ 福録　恵子 ＜令和6年4月＞		博士(保健学)		医学医療Ｃ１※ 医学医療Ｄ※ 医学医療入門※	1後 1後 1前	0.1 0.1 0.1	1 1 1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 (平2.4)	5日
122	兼担	教授	ﾋﾗﾔﾏ ﾀﾞｲｽｹ 平山　大輔 ＜令和6年4月＞		博士（理学）		環境科学２※ 現代社会理解実践１	1前 1前	0.7 2	1 1	三重大学 教育学部 教授 (平21.4)	5日
123	兼担	教授	ｶﾀｵｶ ﾐｶ 片岡　三佳 ＜令和6年4月＞		保健学博士		医学医療Ｃ２※	1前	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 (平28.4)	5日
124	兼担	教授	ﾊﾟｸ ｹｲｼｭｸ 朴　恵淑 ＜令和6年4月＞		博士（理学）		環境科学２※ 現代社会理解特殊講義２※	1前 1前	0.4 0.1	1 1	三重大学 人文学部 教授 (平7.4)	5日
125	兼担	教授	ｱｻﾉ ﾏｻｺ 麻野　雅子 ＜令和6年4月＞		法学修士		政治学Ｇ	1前 1後	2 2	1 1	三重大学 人文学部 教授 (平6.4)	5日
126	兼担	教授	ﾅｼﾞﾏ ﾄｼｷ 名島　利喜 ＜令和6年4月＞		法学修士		法学Ｇ	1前	2	1	三重大学 人文学部 教授 (平16.4)	5日
127	兼担	教授	ﾕﾀﾞ ﾏｻｵ 油田　正夫 ＜令和6年4月＞		博士（医学）		医学医療Ａ２※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 (平9.4)	5日
128	兼担	教授	ﾉﾛ ﾕｳｲﾁ 野呂　雄一 ＜令和6年4月＞		博士（工学）		ＰＢＬ現代科学理解特殊講義２	1後	2	1	三重大学高等教育デザイン・推進機構 全学共通教育センター 教授 (昭61.4)	5日
129	兼担	教授	ﾔｷﾞ ﾉﾘｵ 八木　規夫 ＜令和6年4月＞		教育学修士		スポーツ健康科学概論	1前	2	1	三重大学教育学部 教授 (昭54.4)	4日
130	兼担	教授	ﾄｶﾞｼ ｹﾝｼﾞ 冨樫　健二 ＜令和6年4月＞		博士（医学）		スポーツ健康科学概論	1前	2	1	三重大学教育学部 教授 (平3.4)	5日
131	兼担	教授	ﾓﾘｵ ｸﾆﾏｻ 森尾　邦正 ＜令和6年4月＞		修士 (産業関係学)		医学医療入門※	1前	0.1	1	三重大学 医学部 助教 (平21.2)	5日
132	兼担	教授	ﾓﾘﾓﾄ ﾅｵﾕｷ 森本　尚之 ＜令和6年4月＞		博士（情報学）		現代科学理解特殊講義２	1後	2	1	三重大学情報教育・研究機構 情報ライブラリーセンター 准教授 (平26.4)	5日
133	兼担	教授	ｿｳｹﾞﾏ ｼｹﾞﾙ 笹島　茂 ＜令和6年4月＞		医学博士		医学医療Ａ２※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 (平6.3)	5日
134	兼担	教授	ｸﾞｯﾄﾏﾝ ﾃｨｴﾘ ﾙｼｱﾝ ｼﾞ グットマン　ティエリー ＜令和6年4月＞		政治学博士号		比較政治文化 比較文化論	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	三重大学 人文学部 教授 (平13.4)	5日
135	兼担	教授	ｱｼﾞｷ ｶｽﾞﾋﾛ 安食　和宏 ＜令和6年4月＞		博士（理学）		人文地理学Ａ 人文地理学Ｃ	1前 1後	2 2	1 1	三重大学 人文学部 教授 (平3.4)	5日
136	兼担	教授	ｱｻｶ ﾖｳｺ 安積　陽子 ＜令和6年4月＞		博士（保健学）		医学医療Ｄ※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 (昭62.4)	5日
137	兼担	教授	ｲﾄｳ ｱｷﾋﾛ 伊藤　彰浩 ＜令和6年4月＞		博士(工学)		化学Ａ※	1前 1後	0.1 0.1	1 1	三重大学大学院 工学研究科 教授 (平9.4)	5日
138	兼担	教授	ｲﾄｳ ﾄｼｺ 伊藤　敏子 ＜令和6年4月＞		Ph.D		国際理解特殊講義１	1後	2	1	三重大学 教育学部 教授 (平8.4)	5日

139	兼担	教授	ｲｿﾜ ﾄｷｺ 磯和　勅子 ＜令和6年4月＞		博士（心理学）		医学医療Ｄ※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 （平20.4）	5日
140	兼担	教授	ﾅｶﾞﾀﾆ ｹﾝ 永谷　健 ＜令和6年4月＞		博士（文学）		社会学Ａ	1前	2	1	三重大学 人文学部 教授 （平7.4）	5日
141	兼担	教授	ﾄｵﾔﾏ ｱﾂｼ 遠山　敦 ＜令和6年4月＞		文学修士		倫理学Ａ 倫理学Ｂ	1前 1後	2 2	1 1	三重大学 人文学部 教授 （平5.4）	5日
142	兼担	教授	ｵｶﾀﾞ ﾓﾄﾋﾛ 岡田　元宏 ＜令和6年4月＞		博士（医学）		医学医療Ｂ２※	1前	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 （平8.4）	5日
143	兼担	教授	ｶｸ ﾘｭｳｼﾞ 賀来　隆治 ＜令和6年4月＞		博士（医学）		医学医療Ｃ１※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 （平21.10）	5日
144	兼担	教授	ｲﾜｻｷ ﾔｽﾋｺ 岩﨑　恭彦 ＜令和6年4月＞		修士（法学）		日本国憲法	1後	2	1	三重大学 人文学部 教授 （平16.4）	5日
145	兼担	教授	ﾖｼﾏﾙ ｶﾂﾔ 吉丸　雄哉 ＜令和6年4月＞		博士（文学）		演劇入門※ 日本文学Ｂ	1前 1前	0.8 2	1 1	三重大学 人文学部 教授 （平22.4）	5日
146	兼担	教授	ﾐﾔｵｶ ｸﾆﾋﾃﾞ 宮岡　邦任 ＜令和6年4月＞		博士（理学）		地域防災論※ 日本理解特殊講義２※	1後 1前	0.4 0.1	1 1	三重大学 教育学部 教授 （平8.7）	5日
147	兼担	教授	ﾐﾔﾓﾄ ｹｲｲﾁ 宮本　啓一 ＜令和6年4月＞		理学博士		化学Ｂ	1後	2	1	三重大学大学院 地域イノベーション学 研究科 教授 （平5.7）	5日
148	兼担	教授	ｺﾝﾄﾞｳ ﾐﾈｵ 近藤　峰生 ＜令和6年4月＞		医学博士		医学医療Ｂ２※	1前	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 （平10.7）	5日
149	兼担	教授	ｶﾈｺ ｻﾄｼ 金子　聡 ＜令和6年4月＞		博士（工学）		化学Ａ※ 環境学Ｆ※ 日本理解特殊講義２※	1前 1後 1前 1前	0.1 0.1 1.1 0.3	1 1 1 1	三重大学大学院 工学研究科 教授 （平7.7）	5日
150	兼担	教授	ｺﾏﾀﾞ ｻﾄｼ 駒田　諭 ＜令和6年4月＞		博士（工学）		現代社会理解特殊講義２※	1前	0.1	1	三重大学大学院 工学研究科 教授 （平1.4）	5日
151	兼担	教授	ｸﾏｶﾞｲ ｹﾝ 熊谷　健 ＜令和6年4月＞		博士（商学）		経済学Ｆ	1前	2	1	三重大学 人文学部 教授 （令3.4）	5日
152	兼担	教授	ｶﾈｺ ﾄｼﾋﾛ 兼児　敏浩 ＜令和6年4月＞		医学博士		医学医療入門※	1前	0.1	1	三重大学医学部 附属病院 教授 （平15.5）	5日
153	兼担	教授	ﾌﾙｾ ﾋﾛﾕｷ 古瀬　啓之 ＜令和6年4月＞		博士（法学）		政治学Ｇ	1後	2	1	三重大学 人文学部 教授 （平21.10）	5日
154	兼担	教授	ｺﾞﾄｳ ﾋﾃﾞﾏｻ 後藤　英仁 ＜令和6年4月＞		医学博士		医学医療Ａ２※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 特任教員（研究担当） （平30.5）	5日
155	兼担	教授	ｴﾅﾘ ﾐﾕｷ 江成　幸 ＜令和6年4月＞		人文科学修士		社会学Ｂ	1前 1後	2 2	1 1	三重大学 人文学部 教授 （平7.4）	5日
156	兼担	教授	ｲｼｸﾗ ｹﾝ 石倉　健 ＜令和6年4月＞		博士（医学）		医学医療Ｂ２※	1前	0.1	1	三重大学 附属病院 講師 （平28.7）	5日
157	兼担	教授	ｲﾏﾅｶ ｷﾖｳｺ 今中　恭子 ＜令和6年4月＞		医学博士		医学医療Ａ２※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 （平4.1）	5日
158	兼担	教授	ｻｸﾏ ﾊｼﾞﾒ 佐久間　肇 ＜令和6年4月＞		医学博士 三重大学		医学医療Ｂ２※	1前	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 （昭63.4）	5日
159	兼担	教授	ﾐﾀ ﾉﾘﾕｷ 三田　紀行 ＜令和6年4月＞		博士（工学）		防災論※	1前	0.3	1	三重大学大学院 工学研究科 教授 （平5.4）	5日
160	兼担	教授	ﾔﾏｻﾞｷ ﾋﾃﾞﾄｼ 山崎　英俊 ＜令和6年4月＞		博士（歯学）		医学医療Ａ２※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 （平8.4）	5日
161	兼担	教授	ﾔﾏﾅｶ ｹｲｲﾁ 山中　恵一 ＜令和6年4月＞		医学博士		医学医療Ｂ２※	1前	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 （平11.4）	5日
162	兼担	教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾕｳｼﾞ 山田　雄司 ＜令和6年4月＞		博士（学術）		日本史Ｂ	1前 1後	2 2	1 1	三重大学 人文学部 教授 （平11.4）	5日
163	兼担	教授	ｺﾊﾞﾔｼ ﾃﾂ 小林　哲 ＜令和6年4月＞		医学博士		医学医療Ｂ２※	1前	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 （平21.5）	5日
164	兼担	教授	ｺﾊﾞﾔｼ ﾖｼﾅｵ 小林　由直 ＜令和6年4月＞		医学博士		医学医療Ｂ２※	1後	0.7	1	三重大学 保健管理センター 教授 （平16.1）	5日
165	兼担	教授	ｵｻﾞﾜ ﾂﾖｼ 小澤　毅 ＜令和6年4月＞		博士（文学）		日本考古学Ｂ 日本史Ａ	1後 1前	2 2	1 1	三重大学 人文学部 教授 （昭60.4）	5日

166	兼担	教授	ﾏﾂｵｶ ﾏﾓﾙ 松岡　守 ＜令和6年4月＞		博士（工学）		日本理解特殊講義４※	1後	0.3	1	三重大学 教育学部 教授 （平6.4）	5日
167	兼担	教授	ﾏﾂｵｶ ﾏﾘ 松岡　真里 ＜令和6年4月＞		看護学博士		医学医療Ｄ※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 （平8.4）	5日
168	兼担	教授	ｱﾗｲ ﾅｵﾔ 新井　直也 ＜令和6年4月＞		博士（歯学）		医学医療Ｂ２※	1前	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 （平12.5）	5日
169	兼担	教授	ｼﾝﾄﾞｳ ｱｷﾋﾛ 新堂　晃大 ＜令和6年4月＞		博士（医学）		医学医療Ｂ２※	1前	0.1	1	三重大学医学部 附属病院 教授 （平23.4）	5日
170	兼担	教授	ﾓﾘ ﾏｻﾄ 森　正人 ＜令和6年4月＞		博士（地理学）		文化と空間Ｂ	1前	6	3	三重大学 人文学部 教授 （平15.10）	5日
171	兼担	教授	ﾓﾘﾜｷ ﾕﾐｺ 森脇　由美子 ＜令和6年4月＞		文学修士		西洋史Ｂ 現代社会理解特殊講義２※	1前 1後 1前	2 2 0.1	1 1 1	三重大学 人文学部 教授 （平11.4）	5日
172	兼担	教授	ｾﾄ ﾐﾅｺ 瀬戸　美奈子 ＜令和6年4月＞		博士 （心理学）		心理学Ａ	1後	4	2	三重大学 教育学部 教授 （平23.10）	5日
173	兼担	教授	ﾅﾘﾀ ﾏｻｱｷ 成田　正明 ＜令和6年4月＞		医学博士		医学医療Ａ２※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 （平10.6）	5日
174	兼担	教授	ﾅﾙｼﾏ ﾐﾂﾅｶﾞ 成島　三長 ＜令和6年4月＞		医学博士		国際保健と地域医療※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 （平29.4）	5日
175	兼担	教授	ﾆｼﾑﾗ ﾉﾘﾋﾛ 西村　訓弘 ＜令和6年4月＞		博士（農学）		日本理解特殊講義４※	1前	0.3	1	三重大学大学院 地域イノベーション学 研究科 教授 （平19.1）	5日
176	兼担	教授	ﾆｼﾑﾗ ﾕｳﾍｲ 西村　有平 ＜令和6年4月＞		医学博士		医学医療Ａ２※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 （平10.4）	5日
177	兼担	教授	ｲｼﾊﾗ ｱﾂｼ 石原　篤 ＜令和6年4月＞		工学博士		化学Ａ※	1前 1後	0.1 0.1	1 1	三重大学大学院 工学研究科 教授 （平1.4）	5日
178	兼担	教授	ｶﾜｸﾞﾁ ｱﾂｺ 川口　敦子 ＜令和6年4月＞		京都大学博士（文学）		日本語学Ａ 日本語学Ｂ	1前 1後	2 4	1 2	三重大学 人文学部 教授 （平16.4）	5日
179	兼担	教授	ｱｻﾉ ｻﾄｼ 浅野　聡 ＜令和6年4月＞		博士（工学）		防災論※	1前	0.3	1	三重大学大学院 工学研究科 教授 （平6.4）	5日
180	兼担	教授	ﾑﾗﾀ ﾏﾘｺ 村田　真理子 ＜令和6年4月＞		医学博士		医学医療Ａ２※ 現代社会理解特殊講義２※	1後 1前	0.1 0.7	1 1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 （昭59.4）	5日
181	兼担	教授	ﾀｼﾛ ﾔｽﾗ 太城　康良 ＜令和6年4月＞		博士（理学）		医学医療Ａ1 医学医療Ｂ1	1前 1後	4 4	2 2	三重大学高等教育デザイン・推進機構 全学共通教育センター 教授 （平21.1）	5日
182	兼担	教授	ｵｵﾉ ｹﾝ 大野　研 ＜令和6年4月＞		京都大学博士（農学）		環境科学１ 地域防災論※	1後 1後	2 0.1	1 1	三重大学高等教育デザイン・推進機構 全学共通教育センター 教授 （昭56.9）	5日
183	兼担	教授	ﾅｶｶﾞﾜ ﾀﾀﾞｼ 中川　正 ＜令和6年4月＞		Ph.D. (Geography)		人文地理学Ｂ 文化と空間Ｃ	1前 1後 1前	2 2 2	1 1 1	三重大学 人文学部 教授 （平62.10）	4日
184	兼担	教授	ﾄﾘｶｲ ﾅｵﾔ 鳥飼　直也 ＜令和6年4月＞		博士（工学）		化学Ａ※	1後	0.1	1	三重大学大学院 工学研究科 教授 （平9.4）	5日
185	兼担	教授	ﾄﾞﾋ ｶｵﾙ 土肥　薫 ＜令和6年4月＞		医学博士		医学医療Ｂ２※	1前	0.3	1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 （平18.10）	5日
186	兼担	教授	ｼﾏｵｶ ﾓﾄﾑ 島岡　要 ＜令和6年4月＞		医学博士		医学医療Ａ２※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 （平7.10）	5日
187	兼担	教授	ﾊﾁﾔ ｲﾜｵ 八谷　巌 ＜令和6年4月＞		博士（理学）		化学Ａ※	1前 1後	0.1 0.1	1 1	三重大学大学院 工学研究科 教授 （平12.4）	5日
188	兼担	教授	ﾄﾖﾌｸ ﾕｳｼﾞ 豊福　裕二 ＜令和6年4月＞		経済学博士		経済学Ｇ	1後	2	1	三重大学 人文学部 教授 （平14.4）	5日
189	兼担	教授	ﾎﾘ ﾋﾛｷ 堀　浩樹 ＜令和6年4月＞		医学博士		国際保健と地域医療※ 日本理解特殊講義２※	1後 1前	0.1 0.1	1 1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 （平5.3）	5日
190	兼担	教授	ﾏｽﾔ ﾏｻﾋﾛ 桝屋　正浩 ＜令和6年4月＞		医学博士		医学医療Ｃ２※	1前	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 （平7.10）	5日
191	兼担	教授	ﾂﾓﾄ ｶﾝﾀ 湊元　幹太 ＜令和6年4月＞		博士（学術）		化学Ｂ※	1後	1.5	1	三重大学大学院 工学研究科 教授 （平14.12）	5日

192	兼担	教授	ﾉﾀﾞ ｱｷﾗ 野田　明 ＜令和6年4月＞		修士（文学）		英語ＩＴＯＥＩＣ	1前	1	1	三重大学 人文学部 教授 (平1.4)	5日
193	兼担	教授	ﾀﾁｶﾜ ｱｷﾋﾄ 立川　陽仁 ＜令和6年4月＞		博士 （社会人類学）		文化人類学Ａ	1前	4	2	三重大学 人文学部 教授 (平16.10)	5日
194	兼担	教授	ﾊﾔｼ ﾄﾓｺ 林　智子 ＜令和6年4月＞		博士（看護学）		医学医療Ｄ※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 教授 (平12.4)	5日
195	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ﾋﾃﾞﾊﾙ 髙橋　秀治 ＜令和6年4月＞		法学修士		法学Ｂ	1前	2	1	三重大学 人文学部 教授 (平6.4)	5日
196	兼担	教授	ｸﾘﾊﾗ ﾕｷﾄ 栗原　行人 ＜令和6年4月＞		博士（理学）		地域防災論※	1後	0.1	1	三重大学 教育学部 教授 (平21.10)	5日
197	兼担	教授	ﾐｿﾞｸﾞﾁ ｱｷﾗ 溝口　明 ＜令和6年4月＞		医学博士		地域防災論※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 産学官連携講座教授 (昭59.12)	5日
198	兼担	教授	ﾉｻﾞｷ ﾃﾂﾔ 野崎　哲哉 ＜令和6年4月＞		商学修士		日本理解特殊講義１※	1前	0.1	1	三重大学 人文学部 教授 (平6.4)	5日
199	兼担	教授	ﾊﾔｼ ｱｻｺ 林　朝子 ＜令和6年4月＞		教育学修士		日本理解特殊講義２※	1前	0.3	1	三重大学教育学部 教授 (平19.4)	5日
200	兼担	准教授	ﾂﾁﾔ ﾄｵﾙ 土屋　亨 ＜令和6年4月＞		博士 （農学）		細胞生物科学 農業化学実験 農学演習Ⅰ 農学演習Ⅱ 農学演習Ⅲ 卒業研究	2前 2後 3後 4前 4後 4通	2 1 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 地域イノベーション学 研究科 准教授 (平9.4)	5日
201	兼担	准教授	ｶｶﾞﾔ ﾔｽｱｷ 加賀谷　安章 ＜令和6年4月＞		博士 （学術）		生理学※ 農業化学実験 農学演習Ⅰ 農学演習Ⅱ 農学演習Ⅲ 卒業研究	2前 2後 3後 4前 4後 4通	0.5 1 1 1 1 4	1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 地域イノベーション学 研究科 准教授 (平13.7)	5日
202	兼担	准教授	ﾌｼﾞﾔﾏ ｿｳ 藤山　宗 ＜令和6年4月＞		博士 （農学）		データサイエンスⅡ 水理実験※ 卒業研究	1後 3通 4通	2 1 4	1 2 1	三重大学みえの未来図 共創機構 地域共創展開センター 准教授 (令5.2)	5日
203	兼担	准教授	ｳﾉ ﾀｶﾋﾛ 宇野　貴浩 ＜令和6年4月＞		博士（工学）		化学Ａ※ 現代社会理解特殊講義２※	1前 1後 1前	0.1 0.1 0.1	1 1 1	三重大学大学院 工学研究科 准教授 (平11.11)	5日
204	兼担	准教授	ｼﾓﾑﾗ ﾄﾓｺ 下村　智子 ＜令和6年4月＞		修士（教育学）		スタートアップＰＢＬセミナー 現代社会理解特殊講義２※	1前 1前	6 0.1	3 1	三重大学高等教育デザイン・推進機構 全学共通教育センター 准教授 (平27.4)	5日
205	兼担	准教授	ｶﾒﾀﾞ ﾕｶ 亀田　夕佳 ＜令和6年4月＞		文学博士		日本文学Ａ	1前 1後	4 4	2 2	三重大学 人文学部 非常勤教員 (平3.4)	4日
206	兼担	准教授	ﾐﾔｼﾀ ｲｷﾁ 宮下　伊吉 ＜令和6年4月＞		教授システム学修士		現代社会理解実践３	1前	2	1	三重大学高等教育デザイン・推進機構 アドミッションセンター 准教授 (平29.4)	5日
207	兼担	准教授	ｶﾉｳ ﾐｷﾋﾄ 狩野　幹人 ＜令和6年4月＞		博士（学術）		日本理解特殊講義４※	1前	0.3	1	三重大学みえの未来図 共創機構 知的財産マネジメント部門 准教授 (平16.9)	5日
208	兼担	准教授	ｻｶｲ ｹｲｺ 酒井　恵子 ＜令和6年4月＞		博士（歴史学）		東洋史Ａ	1前 1後	2 2	1 1	三重大学 人文学部 准教授 (平29.4)	5日
209	兼担	准教授	ｳｴｲ ﾀｹﾄ 上井　長十 ＜令和6年4月＞		修士（法学）		法学Ｃ	1後	2	1	三重大学 人文学部 准教授 (平16.4)	5日
210	兼担	准教授	ﾌｶﾀﾞ ｼﾞｭﾝﾀﾛｳ 深田　淳太郎 ＜令和6年4月＞		博士（社会学）		文化人類学Ａ	1後	2	1	三重大学 人文学部 准教授 (平27.4)	5日
211	兼担	准教授	ｽｷﾞｳﾗ ﾄｸﾋﾛ 杉浦　徳宏 ＜令和6年4月＞		博士（工学）		データサイエンスⅠ※ 現代科学理解特殊講義２	1前 1後	1.8 2	6 1	三重大学情報教育・研究機構 総合情報処理センター 准教授 (平13.4)	5日
212	兼担	准教授	ﾑﾗﾊﾞﾀ ﾏﾕﾐ 村端　真由美 ＜令和6年4月＞		看護学修士		医学医療Ｃ２※	1前	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 准教授 (平22.9)	5日
213	兼担	准教授	ﾅｶﾞﾊﾏ ﾌﾐﾖ 長濱　文与 ＜令和6年4月＞		修士（心理学）		スタートアップＰＢＬセミナー	1前	6	3	三重大学高等教育デザイン・推進機構 全学共通教育センター 准教授 (平22.4)	5日
214	兼担	准教授	ﾀﾅｶ ｱﾔﾉ 田中　綾乃 ＜令和6年4月＞		博士 （人間文化科学専攻）		演劇入門※	1前	0.3	1	三重大学 人文学部 准教授 (平21.10)	5日
215	兼担	准教授	ﾀﾊﾞﾀ ｹﾝﾀﾛｳ 田畠　健太郎 ＜令和6年4月＞		Ph.D.		英語Ⅰ初級ＴＯＥＩＣ 英語Ⅱ発展Ｅ	1前 1前 1後	1 1 1	1 1 1	三重大学 人文学部 准教授 (平30.10)	5日

216	兼担	准教授	ﾌｼﾞﾓﾄ ﾏﾘ 藤本　真理 ＜令和6年4月＞		修士（法学）		法学Ｃ	1後	2	1	三重大学 人文学部 准教授 (平18.10)	5日
217	兼担	准教授	ｳﾁﾉ ｺｳﾀﾞｲ 内野　広大 ＜令和6年4月＞		博士（法学）		日本国憲法	1前	2	1	三重大学 人文学部 准教授 (平23.4)	5日
218	兼担	准教授	ｼﾗｲｼ ﾏｻﾄ 白石　將人 ＜令和6年4月＞		博士（歴史学）		中国語ＩＡａ 中国語ＩＡｂ 中国語ＩＢａ 中国語ＩＢｂ	1前 1後 1前 1後	1 1 2 2	1 1 2 2	三重大学 人文学部 准教授 (令4.4)	5日
219	兼担	准教授	ﾔｶﾞﾐ ﾋｻﾉﾘ 八神　寿徳 ＜令和6年4月＞		博士 (情報科学)		日本理解特殊講義４※ 日本理解特殊講義４	1前 1後	0.3 2	1 1	三重大学みえの未来図 共創機構 知的財産マネジメント 部門 准教授 (平22.4)	5日
220	兼担	准教授	ﾊｯﾄﾘ ｱｷｺ 服部　明子 ＜令和6年4月＞		文学（博士）		日本理解特殊講義２※	1前	0.7	1	三重大学 教育学部 准教授 (平23.4)	5日
221	兼担	准教授	ﾋﾗﾏﾂ ﾏﾕｺ 平松　万由子 ＜令和6年4月＞		老年学博士		医学医療Ｄ※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 准教授 (平17.4)	5日
222	兼担	准教授	ｶﾀﾔﾏ ｶﾝ 片山　鑑 ＜令和6年4月＞		博士課程・博士後期課程		医学医療Ｂ２※	1前	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 准教授 (平29.4)	5日
223	兼担	准教授	ﾄﾖﾀﾞ ﾋﾃﾞﾐ 豊田　秀実 ＜令和6年4月＞		博士（医学）		医学医療Ｂ２※	1前	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 准教授 (平20.7)	5日
224	兼担	准教授	ｷﾀｶﾞﾜ ｼﾝﾔ 北川　眞也 ＜令和6年4月＞		博士（地理学）		文化と空間Ａ	1前 1後	2 2	1 1	三重大学 人文学部 准教授 (平24.4)	5日
225	兼担	准教授	ﾎﾘｳﾁ ﾖｼﾀｶ 堀内　義隆 ＜令和6年4月＞		博士（経済学）		経済学Ｇ	1前	2	1	三重大学 人文学部 准教授 (平21.4)	5日
226	兼担	准教授	ﾜﾀﾞ ﾏｻﾉﾘ 和田　正法 ＜令和6年4月＞		博士（学術）		ＰＢＬアカデミック・ライティング 自然科学概論１ ＰＢＬ自然科学概論 現代科学理解特殊講義１ ＰＢＬ現代科学理解特殊講義１	1前 1後 1後 1前 1後 1後	6 4 2 4 4 4	3 2 1 2 2 2	三重大学高等教育デザイン・推進機構 全学共通教育センター 准教授 (平27.4)	5日
227	兼担	准教授	ｸﾆﾅｶ ﾋﾛﾄ 國仲　寛人 ＜令和6年4月＞		博士 (人間・環境学)		現代社会理解特殊講義２※	1前	0.1	1	三重大学 教育学部 准教授 (平22.4)	5日
228	兼担	准教授	ﾖｺﾀ ﾕｳﾔ 横田　悠矢 ＜令和6年4月＞		博士 (テクストとイメージの歴史と記号学)		フランス語ＩＢａ フランス語ＩＢｂ	1前 1後	1 1	1 1	三重大学 人文学部 特任准教授 (教育担当) (令5.4)	4日
229	兼担	准教授	ｾｷ ﾖｼｺ 関　良子 ＜令和6年4月＞		博士（文学）		英語Ｉ大学基礎 英語ＩＴＯＥＩＣ	1前 1前	1 2	1 2	三重大学 人文学部 准教授 (令5.4)	5日
230	兼担	准教授	ｵｲｶﾜ ｼﾝｼﾞ 及川　伸二 ＜令和6年4月＞		博士 (環境科学)		公衆衛生学	4前	2	1	三重大学大学院 医学系研究科 准教授	5日
231	兼担	准教授	ｲﾑﾗ ｶｽﾞﾐ 井村　香積 ＜令和6年4月＞		博士（看護学）		医学医療Ｄ※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 准教授 (平15.4)	5日
232	兼担	准教授	ｲﾅﾊﾞ ｴｲｼﾞ 稲葉　瑛志 ＜令和6年4月＞		修士 (人間環境学)		ドイツ語ＩＢａ ドイツ語ＩＢｂ 異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語Ｂ）	1前 1後 1前 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	三重大学 人文学部 准教授 (令3.4)	5日
233	兼担	准教授	ｶﾄｳ ﾀｶﾔ 加藤　貴也 ＜令和6年4月＞		博士（工学）		日本理解特殊講義４※	1前	1.5	1	三重大学大学院 地域イノベーション学 研究科 准教授 (平19.4)	5日
234	兼担	准教授	ﾊﾅｼﾞﾘ ﾅｵｺ 花尻　奈緒子 ＜令和6年4月＞		博士（学術）		中国語ＩＡａ 中国語ＩＡｂ 中国語ＩＢａ 中国語ＩＢｂ	1前 1後 1前 1後	2 2 3 3	2 2 3 3	三重大学 人文学部 特任准教授 (教育担当) (平31.4)	5日
235	兼担	准教授	ｷｭｳﾏ ﾀｲｹﾝ 久間　泰賢 ＜令和6年4月＞		Dr.Phil.		宗教学Ｂ 宗教学Ｃ	1前 1後	2 2	1 1	三重大学 人文学部 准教授 (平12.4)	5日
236	兼担	准教授	ﾐﾔﾀ ﾁﾊﾙ 宮田　千春 ＜令和6年4月＞		博士 (人間健康科学)		医学医療Ｄ※ 現代社会理解特殊講義２※	1後 1前	0.1 0.1	1 1	三重大学大学院 医学系研究科 准教授 (平1.10)	5日
237	兼担	准教授	ｵｵｸﾏ ｾﾂｺ 大隈　節子 ＜令和6年4月＞		体育学修士		スポーツ健康科学Ｂ	1後	1	1	三重大学 教育学部 准教授 (平19.4)	5日
238	兼担	准教授	ﾐｿﾞﾀ ｲｻｵ 溝田　功 ＜令和6年4月＞		博士（工学）		化学Ａ※	1前 1後	0.3 0.3	1 1	三重大学大学院 工学研究科 准教授 (平24.4)	5日
239	兼担	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾐﾎ 高橋　美穂 ＜令和6年4月＞		博士（学術）		ドイツ語ＩＢａ ドイツ語ＩＢｂ 異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語Ａ）	1後 1前 1前 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	三重大学 人文学部 准教授 (平29.9)	5日
240	兼担	准教授	ｻﾄｳ ｺｳｽｹ 佐藤　公亮 ＜令和6年4月＞		博士（工学）		防災論※	1前	0.3	1	三重大学大学院 工学研究科 准教授 (平28.6)	5日

241	兼担	准教授	ｻｶｸﾞﾁ ﾐﾜ 坂口　美和 ＜令和6年4月＞		博士（看護学）		医学医療Ｄ※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 准教授 （平22.8）	5日
242	兼担	准教授	ﾔﾏﾑﾗ ﾅｵｷ 山村　直紀 ＜令和6年4月＞		博士(工学)		現代社会理解特殊講義１※	1前 1後	1.7 1.7	1 1	三重大学大学院 工学研究科 准教授 （平5.4）	5日
243	兼担	准教授	ﾏﾂｵｶ ﾁﾂﾞｺ 松岡　知津子 ＜令和6年4月＞		博士（教育学）		日本理解特殊講義２※ 国際理解実践３	1前 1後	0.1 2	1 1	三重大学 国際交流センター 准教授 （平21.4）	5日
244	兼担	准教授	ｼﾛﾔﾏ ﾀｶｼ 城山　隆 ＜令和6年4月＞		医学博士		医学医療Ｂ２※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 准教授 （平5.4）	5日
245	兼担	准教授	ﾓﾘ ﾀﾞｲｽｹ 森　大輔 ＜令和6年4月＞		博士（理学）		化学Ａ※	1前 1後	0.3 0.3	1 1	三重大学大学院 工学研究科 准教授 （平29.3）	5日
246	兼担	准教授	ﾓﾘﾔﾏ ﾀｶﾕｷ 森山　貴之 ＜令和6年4月＞		理学博士		基礎線形代数学Ⅰ	1後	2	1	三重大学 教育学部 准教授 （平20.9）	5日
247	兼担	准教授	ﾐｽﾞﾀﾆ ﾏﾕﾐ 水谷　真由美 ＜令和6年4月＞		看護学博士		医学医療Ｃ２※ 国際保健と地域医療※	1前 1後	0.1 0.1	1 1	三重大学大学院 医学系研究科 准教授 （平27.4）	5日
248	兼担	准教授	ﾐｽﾞﾉ ﾄｼﾛｳ 水野　聡朗 ＜令和6年4月＞		博士課程 （内科系内科学Ⅱ）		医学医療Ｂ２※	1前	0.1	1	三重大学医学部 附属病院 准教授 （平17.4）	5日
249	兼担	准教授	ﾆｼ ﾉﾌﾞﾔｽ 西　信康 ＜令和6年4月＞		博士（文学）		倫理学Ⅰ	1前 1後	2 4	1 2	三重大学 人文学部 非常勤教員 （平31.4）	3日
250	兼担	准教授	ｶﾜｸﾞﾁ ｼﾞｭﾝ 川口　淳 ＜令和6年4月＞		博士（工学）		防災論※	1前	0.9	1	三重大学大学院 工学研究科 准教授 （平2.4）	5日
251	兼担	准教授	ﾏｴﾀﾞ ｻﾀﾞﾀｶ 前田　定孝 ＜令和6年4月＞		修士（法律学）		日本国憲法	1後	2	1	三重大学 人文学部 准教授 （平18.10）	5日
252	兼担	准教授	ｵｵﾂｷ ｱﾂｼ 大月　淳 ＜令和6年4月＞		博士(工学)		演劇入門※ 防災論※	1前 1前	0.1 0.1	1 1	三重大学大学院 工学研究科 准教授 （平9.4）	5日
253	兼担	准教授	ﾌｼﾞｲ ﾖｼﾋｻ 藤井　義久 ＜令和6年4月＞		博士（工学）		化学Ａ※	1前 1後	0.1 0.1	1 1	三重大学大学院 工学研究科 准教授 （平28.7）	5日
254	兼担	准教授	ﾉﾑﾗ ｺｳｲﾁ 野村　耕一 ＜令和6年4月＞		文学修士		西洋史Ｃ 国際理解特殊講義３	1後 1後	2 2	1 1	三重大学 人文学部 准教授 （平2.4）	5日
255	兼担	准教授	ﾊﾔｼ ﾋﾃﾞﾔ 林　英哉 ＜令和6年4月＞		修士（文学）		ドイツ語ＩＡａ ドイツ語ＩＡｂ ドイツ語ＩＢａ ドイツ語ＩＢｂ 異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語Ａ）	1前 1後 1前 1後 1前 1後 1前 1後	1 1 1 1 2 2 1 1	1 1 1 1 2 2 1 1	三重大学 人文学部 非常勤教員 （令4.4）	4日
256	兼担	准教授	ﾊﾔｼﾊﾞﾗ ｱｷﾋﾛ 林原　玲洋 ＜令和6年4月＞		博士（社会学）		社会学Ａ 社会学Ｂ	1前 1後 1前 1後	4 4 4 4	2 2 2 2	三重大学高等教育デザイン・推進機構 全学共通教育センター 准教授 （平28.10）	5日
257	兼担	准教授	ｽｽﾞｷ ﾋﾃﾞﾉﾘ 鈴木　秀憲 ＜令和6年4月＞		修士（文学）		哲学Ⅰ	1前 1後	2 2	1 1	三重大学 人文学部 特任准教授 （教育担当） （平31.4）	3日
258	兼担	准教授	ｽｽﾞｷ ﾕｳｷ 鈴木　勇輝 ＜令和6年4月＞		博士 （生命科学）		化学Ｂ※	1後	0.5	1	三重大学大学院 工学研究科 准教授 （平28.4）	5日
259	兼担	准教授	ﾐｽﾞｷ ﾁﾊﾙ 水木　千春 ＜令和6年4月＞		博士 （環境科学）		地域防災論※	1後	0.4	1	三重大学みえの未来図共創機構 地域圏防災・減災研究センター 准教授 （平29.4）	5日
260	兼担	准教授	ｲﾁｶﾜ ｼｭﾝｽｹ 市川　俊輔 ＜令和6年4月＞		博士（学術）		環境科学２※	1前	0.1	1	三重大学 教育学部 准教授 （平28.4）	5日
261	兼担	准教授	ﾊｼﾓﾄ ﾀﾀﾞﾉﾘ 橋本　忠範 ＜令和6年4月＞		博士（工学）		化学Ａ※	1前 1後	0.1 0.1	1 1	三重大学大学院 工学研究科 准教授 （平6.10）	5日
262	兼担	准教授	ｶﾂﾏﾀ ﾋﾃﾞﾕｷ 勝又　英之 ＜令和6年4月＞		博士（理学）		化学Ａ※	1前	0.1	1	三重大学大学院 工学研究科 准教授 （平13.4）	5日
263	兼担	准教授	ｺｼｵ ｱｷﾗ 小塩　明 ＜令和6年4月＞		博士（理学）		化学Ａ※	1前 1後	0.1 0.1	1 1	三重大学大学院 工学研究科 准教授 （平14.10）	5日
264	兼担	准教授	ｵｼﾞﾏ ﾁﾋﾛ 小嶋　ちひろ ＜令和6年4月＞		博士（人間・環境学）		演劇入門※	1前	0.1	1	三重大学 人文学部 准教授 （令2.10）	5日
265	兼担	講師	ｵｸﾀﾞ ﾋｻﾊﾙ 奥田　久春 ＜令和6年4月＞		教育学修士		スタートアップＰＢＬセミナー 地域学 国際理解実践３ 国際理解特殊講義５	1前 1後 1後 1後	2 4 2 2	1 2 1 1	三重大学高等教育デザイン・推進機構 全学共通教育センター 特任講師 （教育担当） （平31.4）	5日

266	兼担	講師	ﾀﾏﾘ ｹﾝｺﾞ 玉利　健悟 ＜令和6年4月＞		博士（医学）		ＰＢＬアカデミック・ライティング 医学医療Ｃ１ ＰＢＬ医学・看護学	1後 1前 1前 1後	4 2 10 8	2 1 5 4	三重大学高等教育デザイン・推進機構 全学共通教育センター 非常勤教員 （令3.4）	5日
267	兼担	講師	ﾔﾏｻﾞｷ ﾕｳﾄ 山崎　祐人 ＜令和6年4月＞		修士（文学）		ドイツの文化 ドイツ語ＩＢａ ドイツ語ＩＢｂ 異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語Ｂ）	1前 1後 1前 1後 1前 1後	4 4 2 2 1 1	2 2 2 2 1 1	三重大学 人文学部 非常勤教員 （令4.4）	4日
268	兼担	講師	ﾓﾘﾔﾏ ｻﾔｶ 守山　紗弥加 ＜令和6年4月＞		修士（教育学）		スタートアップＰＢＬセミナー	1前	4	2	三重大学高等教育デザイン・推進機構 全学資格プログラムセンター 特任講師 （教育担当） （平31.4）	5日
269	兼担	講師	ｼｮｳｼﾞ ﾀｶﾕｷ 庄司　貴由 ＜令和6年4月＞		博士（政策・メディア）		ＰＢＬアカデミック・ライティング 政治学Ａ 政治学Ｂ 政治学Ｇ ＰＢＬ政治学１ ＰＢＬ政治学２	1後 1前 1前 1前 1後 1前 1後 1前 1後	4 4 2 2 2 2 4 2 2	2 2 1 1 1 1 2 1 1	三重大学高等教育デザイン・推進機構 全学共通教育センター 非常勤教員 （平31.4）	5日
270	兼担	講師	ﾅｶﾞｵｶ ﾐｶ 長岡　みか ＜令和6年4月＞		修士（人間学）、修士（キャリアデザイン学）		キャリア教育入門 キャリア教育入門※ インターンシップ入門	1前 1後 1前 1後	2 1.6 2 2	1 1 1 1	三重大学高等教育デザイン・推進機構 全学共通教育センター 講師 （平30.9）	5日
271	兼担	講師	ﾌｼﾞｲ ﾀｹﾋﾛ 藤井　武宏 ＜令和6年4月＞		博士（医学）		医学医療入門※	1前	0.1	1	三重大学医学部 附属病院 講師 （平24.6）	5日
272	兼担	講師	ﾄｸﾅｶﾞ ｶｽﾞﾋﾛ 徳永　和博 ＜令和6年4月＞		修士（言語教育情報学）		英語Ｉ大学基礎 英語Ｉコミュニケーション 英語ＩＴＯＥＩＣ	1前 1後 1前 1後 1前	1 1 1 1 2	1 1 1 1 2	三重大学 人文学部 非常勤教員 （令4.4）	4日
273	兼担	講師	ﾊﾀﾅｶ ﾏﾘｺ 畠中　茉莉子 ＜令和6年4月＞		博士（学術）		社会学Ａ	1後	2	1	三重大学 人文学部 講師 （令4.4）	5日
274	兼担	講師	ｶｻﾞﾏ ｼﾞｭﾝｷ 風間　惇希 ＜令和6年4月＞		博士（心理学）		こころのサポート ピアサポート実践 学習支援実践 現代社会理解実践２※ 国際理解実践２	1前 1前 1後 1前 1後 1後	2 2 2 2 1.2 2	1 1 1 1 1 1	三重大学学生総合支援機構 学生活動センター 講師 （平30.2）	5日
275	兼担	講師	ﾌｸﾀﾞ ﾄﾓｺ 福田　知子 ＜令和6年4月＞		博士（理学）		ＰＢＬアカデミック・ライティング 生物学１ ＰＢＬ現代科学理解特殊講義２ ＰＢＬ現代科学理解特殊講義３	1前 1後 1前 1後 1後 1前 1後	4 4 6 2 2 4 2	2 2 3 1 1 2 1	三重大学高等教育デザイン・推進機構 全学共通教育センター 特任講師 （教育担当） （平31.4）	5日
276	兼担	講師	ﾓﾁｷ ｲｸﾖ 望木　郁代 ＜令和6年4月＞		修士（文学）		こころのサポート 医学医療入門※	1前 1後 1前	2 2 0.5	1 1 1	三重大学 医学部 講師 （平23.4）	5日
277	兼担	講師	ｱｹﾀﾞ ｺｳｼﾞ 明田　浩司 ＜令和6年4月＞		医学博士		医学医療Ｃ１※	1後	0.1	1	三重大学医学部 附属病院 講師 （平18.1）	5日
278	兼担	講師	ｻｺﾗｳﾞｽｷｰ ｼﾞｪｼｰ ﾀﾞﾆｴﾙ SOKOLOVSKY　JESSE DANIEL ＜令和6年4月＞		修士（学術）		英語Ⅱ発展Ａａ 現代社会理解特殊講義４ 国際理解特殊講義４	1前 1後 1前 1後 1前 1後	2 2 4 4 4 4	2 2 2 2 2 2	三重大学高等教育デザイン・推進機構 全学共通教育センター 講師 （平30.10）	5日
279	兼担	講師	ｺｼﾞﾏ ﾑｷﾞﾎ 児島　麦穂 ＜令和6年4月＞		修士（言語文化学）		英語Ｉ大学基礎 英語Ｉコミュニケーション 英語ＩＴＯＥＩＣ	1前 1後 1前 1後 1前	1 1 2 2 3	1 1 2 2 3	三重大学 人文学部 特任講師 （教育担当） （令5.4）	4日
280	兼担	講師	ﾐﾜ ﾔｽﾕｷ 三輪　泰之 ＜令和6年4月＞		修士（文学）		倫理学Ｆ 倫理学Ｇ	1前 1後	2 2	1 1	三重大学 人文学部 特任講師 （令5.4）	2日
281	兼担	講師	ｲﾄｳ ｻﾄｼ 伊藤　怜 ＜令和6年4月＞		学士（医学）		英語Ｉ大学基礎 英語Ｉコミュニケーション 英語ＩＴＯＥＩＣ	1前 1後 1前 1後 1前	1 1 2 2 2	1 1 2 2 2	三重大学 人文学部 特任講師 （教育担当） （平31.4）	4日
282	兼担	講師	ﾅｶﾞﾄﾐ ﾋﾛｱｷ 永富　央章 ＜令和6年4月＞		修士（文学）		英語Ｉ大学基礎 英語Ｉコミュニケーション 英語ＩＴＯＥＩＣ	1前 1後 1前 1後 1前 1後	2 2 2 2 1 1	2 2 2 2 1 1	三重大学 人文学部 非常勤教員 （令3.4）	4日
283	兼担	講師	ｵｸﾊﾗ ｼｭﾝ 奥原　俊 ＜令和6年4月＞		博士(工学)		現代科学理解特殊講義２	1後	2	1	三重大学大学院 工学研究科 講師 （令2.4）	5日
284	兼担	講師	ﾖｺﾁ ｱﾕﾑ 横地　歩 ＜令和6年4月＞		博士（医学）		医学医療Ｃ１※	1後	1.1	1	三重大学医学部 附属病院 講師 （平14.10）	5日

285	兼担	講師	ｶ ｵｸｺｳ 何　憶鴻 ＜令和6年4月＞		博士（文学）		中国語ＩＡａ 中国語ＩＡｂ 中国語ＩＢａ 中国語ＩＢｂ 中国語Ⅱ演習ａ 中国語Ⅱ演習ｂ 中国語Ⅲ応用Ａａ 中国語Ⅲ応用Ａｂ 中国語Ⅲ応用Ｂａ 中国語Ⅲ応用Ｂｂ	1前 1後 1前 1後 1前 1後 1前 1後 1前 1後	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学 人文学部 非常勤教員 （令4.4）	4日
286	兼担	講師	ｶﾜﾉ ﾐﾂｵ 河野　光雄 ＜令和6年4月＞		医学博士		医学医療Ａ２※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 講師 （平3.4）	5日
287	兼担	講師	ﾋﾗｷ ｼﾝｽｹ 開　信介 ＜令和6年4月＞		博士（人間・環境学）		日本文学Ｃ	1前 1後	4 4	2 2	三重大学 人文学部 非常勤教員 （令2.4）	4日
288	兼担	講師	ﾖｼﾑﾗ ﾏｲ 吉村　真衣 ＜令和6年4月＞		修士（環境学）		社会学Ａ	1前	2	1	三重大学 人文学部 講師 （平30.10）	5日
289	兼担	講師	ﾊｼﾂﾞﾒ ﾘｮｳﾀﾛｳ 橋詰　令太郎 ＜令和6年4月＞		博士（医学）		医学医療入門※	1前	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 講師 （平19.4）	5日
290	兼担	講師	ﾌﾙﾀ ﾉﾘｺ 古田　範子 ＜令和6年4月＞		学士（医学）		医学医療Ｂ２※	1後	0.1	1	三重大学 保健管理センター 講師 （平31.4）	5日
291	兼担	講師	ｴﾄｳ ﾐﾁﾙ 江藤　みちる ＜令和6年4月＞		博士（理学）		現代社会理解特殊講義２※	1前	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 講師 （平22.6）	5日
292	兼担	講師	ﾀｶﾊｼ ﾖｼﾉﾘ 高橋　佳紀 ＜令和6年4月＞		医学博士		医学医療Ｂ２※	1後	0.1	1	三重大学医学部 附属病院 講師 （平30.5）	5日
293	兼担	講師	ﾏﾂｳﾗ ﾕﾀｶ 松裏　豊 ＜令和6年4月＞		修士（保健学）		医学医療Ｃ２※	1前	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 講師 （令4.4）	5日
294	兼担	講師	ﾀﾅｶ ﾋﾃﾞﾊﾙ 田中　秀治 ＜令和6年4月＞		博士（文学）		英語Ｉ大学基礎 英語Ｉコミュニケーション 英語ＩＴＯＥＩＣ	1前 1後 1前 1後 1前	1 1 2 2 1	1 1 2 2 1	三重大学高等教育デザイン・推進機構 全学共通教育センター 特任講師 （教育担当） （平31.4）	5日
295	兼担	講師	ﾉｶﾞﾐ ｼｶﾞｸ 野上　志学 ＜令和6年4月＞		博士（文学）		哲学Ｇ	1前 1後	2 2	1 1	三重大学 人文学部 講師 （令4.4）	5日
296	兼担	講師	ﾉｽﾞｴ ｻﾁｺ 野末　幸子 ＜令和6年4月＞		修士（文学）		英語Ｉ大学基礎 英語Ｉコミュニケーション 英語ＩＴＯＥＩＣ	1前 1後 1前 1後 1前	2 2 2 2 1	2 2 2 2 1	三重大学高等教育デザイン・推進機構 全学共通教育センター 非常勤教員 （令4.4）	5日
297	兼担	講師	ｽｽﾞｷ ｴｲｲﾁﾛｳ 鈴木　英一郎 ＜令和6年4月＞		教育学修士		こころのサポート ピアサポート実践 学生生活支援実践	1後 1前 1後 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	三重大学 学生総合支援機構 学生相談センター 講師 （平17.4）	5日
298	兼担	講師	ｻｲﾄｳ ﾋﾛｱｷ 齋藤　広明 ＜令和6年4月＞		修士（言語学）		英語ＩＴＯＥＩＣ	1前	2	2	三重大学高等教育デザイン・推進機構 全学共通教育センター 非常勤教員 （平31.4）	5日
299	兼担	講師	ﾀｶﾊｼ ｶｽﾞﾏ 髙橋　一馬 ＜令和6年4月＞		修士（人間・環境学）		英語Ｉ大学基礎 英語Ｉコミュニケーション 英語ＩＴＯＥＩＣ	1前 1後 1前 1後 1前 1後	2 2 1 1 1 1	2 2 1 1 1 1	三重大学高等教育デザイン・推進機構 全学共通教育センター 非常勤教員 （令4.4）	5日
300	兼担	講師	ｸﾛｶﾐ ﾋｻｵ 黒上　久生 ＜令和6年4月＞		修士（人文科学）		英語ＩＴＯＥＩＣ 英語Ｉ初級ＴＯＥＩＣ	1前 1後	1 1	1 1	三重大学 人文学部 講師 （令5.4）	5日
301	兼担	助教	ﾀｸﾞﾁ ｶｽﾞﾉﾘ 田口　和典 ＜令和6年4月＞		水産学博士		データサイエンスＩ 生物学実験	1前 2前	2 1	1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 助教 （平1.10）	5日
302	兼担	助教	ﾀﾈﾀﾞ ﾕｶﾘ 種田　ゆかり ＜令和6年4月＞		修士（看護学）		医学医療Ｄ※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 助教 （平18.10）	5日
303	兼担	助教	ﾏﾂﾊﾞﾗ ﾀｶｺ 松原　貴子 ＜令和6年4月＞		医学博士（緩和医療学）		医学医療入門※	1前	0.1	1	三重大学医学部 附属病院 助教 （平26.4）	5日
304	兼担	助教	ﾏﾂｻｷ ﾀｶｼ 松﨑　孝 ＜令和6年4月＞		修士（人文科学）		医学医療Ｃ１※	1後	0.1	1	三重大学医学部 附属病院 助教 （平21.5）	5日
305	兼担	助教	ﾌﾅｵ ﾋﾛｷ 船尾　浩貴 ＜令和6年4月＞		看護学修士		医学医療Ｃ２※	1前	0.1	1	三重大学 医学部 助教 （平25.4）	5日
306	兼担	助教	ﾀﾑﾗ ﾕｳｺ 田村　裕子 ＜令和6年4月＞		修士(三重大学)		医学医療Ｄ※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 助教 （平20.4）	5日
307	兼担	助教	ﾅｲﾄｳ ﾖｳﾍｲ 内藤　陽平 ＜令和6年4月＞		博士（医学）		医学医療Ｂ２※	1前	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 助教 （平24.10）	5日

308	兼担	助教	ｼﾗｲ ﾉﾌﾞﾋﾛ 白井　伸宙 ＜令和6年4月＞		博士＜理学＞		データサイエンスⅠ※ データサイエンスⅢ	1前 1後	1.8 2	6 1	三重大学 情報教育・研究機構 総合情報処理センター 助教 （平27.10）	5日
309	兼担	助教	ﾊｯﾄﾘ ﾕｶ 服部　由佳 ＜令和6年4月＞		看護学博士		医学医療Ｃ２※ 地域防災論※	1前 1後	0.1 0.1	1 1	三重大学大学院 医学系研究科 助教 （平25.2）	5日
310	兼担	助教	ｷﾀｶﾞﾜ ｱｷｺ 北川　亜希子 ＜令和6年4月＞		修士（保健学）		医学医療Ｃ２※	1前	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 助教 （平11.4）	5日
311	兼担	助教	ﾎﾘｶﾜ ｼﾝｲﾁ 堀川　慎一 ＜令和6年4月＞		博士(工学)		データサイエンスⅠ※ 現代科学理解特殊講義２	1前 1後	1.8 2	6 1	三重大学 情報教育・研究機構 総合情報処理センター 助教 （平14.10）	5日
312	兼担	助教	ｱﾛﾝｺﾞﾜ 阿栄　高娃 ＜令和6年4月＞		博士（薬学）		医学医療Ａ２※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 助教 （平28.4）	5日
313	兼担	助教	ﾔｽﾏ ﾀﾛｳ 安間　太郎 ＜令和6年4月＞		学士（医学）		医学医療Ａ２※	1後	0.1	1	三重大学医学部 附属病院 助教 （平27.10）	5日
314	兼担	助教	ｶﾄｳ ｼﾝﾔ 加藤　信哉 ＜令和6年4月＞		博士（生命システム科学）		生物学２	1後	2	1	三重大学 研究基盤推進機構 放射線科学・安全管理学部門 助教 （平25.4）	5日
315	兼担	助教	ｺﾝﾄﾞｳ ﾓﾓｺ 近藤　桃子 ＜令和6年4月＞		保健学専攻　臨床看護学分野(修士)		医学医療Ｃ２※	1前	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 助教 （平21.4）	5日
316	兼担	助教	ｲﾇﾏﾙ ｱﾝﾘ 犬丸　杏里 ＜令和6年4月＞		修士		医学医療Ｃ２※	1前	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 助教 （平18.4）	5日
317	兼担	助教	ｺﾞﾄｳ ﾐﾁｺ 後藤　道子 ＜令和6年4月＞		修士（人間文化）		医学医療入門※	1前	0.1	1	三重大学 医学部 寄附講座助教 （平23.4）	5日
318	兼担	助教	ｻｲｷ ﾊﾙｺ 齋木　晴子 ＜令和6年4月＞		学士（医学）		医学医療Ｂ２※	1後	0.1	1	三重大学医学部 附属病院 助教 （令4.1）	5日
319	兼担	助教	ｻｶﾓﾄ ﾀﾀﾞｼ 坂本　正 ＜令和6年4月＞		学士（医学）		医学医療Ｃ１※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 助教 （令2.4）	5日
320	兼担	助教	ｵｶﾞﾜ ｼｮｳﾀ 小川　将太 ＜令和6年4月＞		博士(保健学)		医学医療Ｄ※	1後	0.1	1	三重大学大学院 医学系研究科 助教 （令1.9）	5日
321	兼担	助教	ｵﾉ ﾀﾞｲｽｹ 小野　大輔 ＜令和6年4月＞		学士（医学）		医学医療Ｃ１※	1後	0.1	1	三重大学医学部 附属病院 助教 （令4.4）	5日
322	兼担	助教	ﾏﾂﾀﾞ ﾐｷｺ 松田　未来子 ＜令和6年4月＞		修士（看護学）		医学医療Ｄ※	1後	0.1	1	三重大学 医学部 助教 （平10.4）	5日
323	兼担	助教	ﾏﾂﾓﾄ ﾘｭｳｽｹ 松本　龍介 ＜令和6年4月＞		学士（医学）		医学医療Ｂ２※	1後	0.1	1	三重大学医学部 附属病院 助教 （平27.4）	5日
324	兼担	助教	ｼｮｳｼﾞ ｼﾝｲﾁ 正路　真一 ＜令和6年4月＞		言語学博士		三重学１ 日本理解特殊講義２※ 日本理解特殊講義５ 国際理解実践１	1前 1後 1前 1後 1後	2 2 0.1 2 2	1 1 1 1 1	三重大学 国際交流センター 助教 （平29.1）	5日
325	兼担	助教	ﾀﾐﾅﾄ ｿｳ 田港　聡 ＜令和6年4月＞		博士（理学）		化学Ａ※	1前 1後	0.1 0.1	1 1	三重大学大学院 工学研究科 助教 （平30.3）	5日
326	兼担	助教	ﾀﾃｲｼ ｲﾂｷ 立石　一希 ＜令和6年4月＞		修士（工学）		環境学Ｆ※ 環境科学２※ 現代社会理解実践１	1前 1前 1前	0.9 0.1 2	1 1 1	三重大学 国際環境教育研究センター 助教 （平30.1）	5日
327	兼担	特任教員(教育担当)	ｺﾊﾞﾔｼ ｲｯｾｲ 小林　一成 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		農学演習Ⅰ 農学演習Ⅱ 農学演習Ⅲ	3後 4前 4後	1 1 1	1 1 1	三重大学大学院 地域イノベーション学研究科 教授 （昭63.4）	5日
328	兼担	病院教授	ｲﾜﾓﾄ ｼｮｳﾀﾛｳ 岩本　彰太郎 ＜令和6年4月＞		学士（医学）		医学医療入門※	1前	0.1	1	三重大学医学部 附属病院 教授 （平19.4）	5日
329	兼担	副看護部長	ﾐｽﾞﾀﾆ ﾔｽｺ 水谷　泰子 ＜令和6年4月＞		修士（看護学）		現代社会理解特殊講義２※	1前	0.1	1	三重大学医学部 附属病院 副看護部長 （平6.4）	5日
330	兼担	外国人教師	ﾋﾙ ﾘﾁｬｰﾄﾞ ｱﾗﾝ HILL　RICHARD　ALAN ＜令和6年4月＞		The Degree of Master of Arts in English Language Education		英語Ⅱ発展Ａａ 英語Ⅱ発展Ａｂ	1前 1後	2 2	2 2	三重大学 人文学部 外国人教師 （令5.4）	5日
331	兼任	教授	ｺﾏﾙ　ｱｷﾗ 古丸　明 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		生物学３※ 環境学Ａ※ 水族発生学	1前 1後 2後	0.3 0.4 2	1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 （昭58.4）	5日
332	兼任	講師	ﾀﾁﾊﾞﾅ ﾖｼﾋﾛ 立花　義裕 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		地域防災論※ 将来気候予測論	1後 2前	0.1 2	1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 （平20.4）	5日

333	兼任	講師	ｵｳ ｼｭｳﾛﾝ 王　秀崙 ＜令和6年4月＞		農学博士		物理学基礎Ⅰ 農業食料工学実習※ 環境情報ｼｽﾃﾑ工学実習Ⅰ※ 環境情報ｼｽﾃﾑ工学実習Ⅱ※ 農業食料工学実験※	1前 2後 2後 3前 3後	2 0.1 0.1 0.1 0.1	1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平2.7)	5日
334	兼任	講師	ﾄﾘﾃﾞ ﾉﾌﾞｵ 取出　伸夫 ＜令和6年4月＞		農学博士		数学基礎 土壌圏物質移動論	1前 3後	2 2	1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平7.4)	5日
335	兼任	講師	ﾃﾗﾆｼ ｶﾂﾉﾘ 寺西　克倫 ＜令和6年4月＞		農学博士		化学基礎Ⅰ 有機化学Ⅱ	1前 2前	2 2	1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平3.4)	5日
336	兼任	講師	ｱｵｷ ﾀｶﾋｺ 青木　恭彦 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		化学基礎Ⅰ 化学基礎Ⅰ 水産食品衛生学	1前 1後 2後	2 2 2	1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平1.6)	5日
337	兼任	講師	ｵｸﾀﾞ ﾋﾄｼ 奥田　均 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		生物資源学Ａ※ ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ体験演習※ 農場・演習林実習※ 農作物生育制御概論※ ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽ農場実習Ⅰ※ ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽ農場実習Ⅱ※ 農業生産工程管理学概論※ ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽ農場実習Ⅲ※ 農学演習Ⅰ 農学演習Ⅱ 農学演習Ⅲ	1前 1通 2前 2前 2前 2後 2後 2後 3後 4前 4後	0.8 0.2 0.5 1 0.5 0.5 1 0.5 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 教授 (平18.4)	5日
338	兼任	講師	ﾏｴｶﾜ ﾖｳｲﾁ 前川　陽一 ＜令和6年4月＞		水産大学校漁業学科専攻科修了		環境科学１ ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｲｴﾝｽｾﾝﾀｰ体験演習※ 乗船実習 海洋観測航海実習 海事概論※ 紀伊黒潮流域圏航海実習 総合航海実習 海洋生物資源学演習Ⅱ	1前 1通 2通 2後 2後 2後 3前 4通	2 0.2 3 3 1.1 1 2 2	1 1 3 3 1 1 1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 准教授 (昭63.4)	5日
339	兼任	講師	ｸﾗﾗﾂﾄﾅ ｼﾞｬｶﾞｯﾄ ｼﾘ KULARATNE　JAGATH SIRI ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		農学科学英語 生命化学英語	3前 3後	2 2	1 1	三重大学大学院 生物資源学研究科 特任教員(教育担当) (平28.4)	4日
340	兼任	教授	ﾅｶｵ　ﾖｳｲﾁ 中尾　洋一 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		海洋天然物化学	3前	2	1	早稲田大学 先進理工学部 教授 (平19.4)	1日
341	兼任	教授	ｲｲｼﾞﾏ ﾖｼﾋﾛ 飯島　慈裕 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		地球環境ﾘﾓｰﾄｾﾝｼﾝｸﾞ	3後	2	1	東京都立大学 教授 (令5.4)	1日
342	兼任	講師	ｲﾁﾑﾗ　ｶｽﾞｵ 市村　一雄 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		花卉園芸学【隔年】	2前	2	1	福花園種苗株式会社 顧問	1日
343	兼任	講師	ﾋﾗｲﾜ ﾕｳｲﾁ 平岩　勇一 ＜令和6年4月＞		学士 (経済学)		簿記会計演習Ⅰ 簿記会計演習Ⅱ	3前 3後	2 2	1 1	ひかり監査法人 公認会計士	1日
344	兼任	講師	ﾊﾏｸﾞﾁ　ﾏｻﾐ 浜口昌巳 (非常勤) ＜令和6年4月＞		修士		水圏環境生物学	3前	2	1	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 沿岸生態システム部 主幹研究員 (平24.4)	1日
345	兼任	講師	ﾂﾂｲ　ﾂﾄﾑ 筒井 努 (非常勤) ＜令和6年4月＞		修士 (学術)		養殖学※	3前	0.7	1	代々木高等学校 志摩本校 講師(非常勤) (令6.4)	1日
346	兼任	講師	ﾔｽﾓﾄ　ｺﾞｳ 安元　剛 ＜令和6年4月＞		博士 (薬学)		生物無機化学	2後	2	1	北里大学 海洋生命科学部 講師 (平22.4)	1日
347	兼任	講師	ｵｸｶﾞﾜ　ﾀｸｼﾞ 奥河　卓司 ＜令和6年4月＞		学士 (水産学)		食品安全化学【隔年】	2前	2	1	ニチレイ（株） 品質保証部長 (平元.4)	1日
348	兼任	講師	ﾔﾏｻﾞｷ ｴｲｼﾞ 山﨑　栄次 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		環境化学概論	2後	2	1	三重県工業研究所 食と医薬品研究課 主幹研究員 (平27.4)	1日
349	兼任	講師	ｵｵｸﾎﾞ ﾂﾄﾑ 大久保　勉 ＜令和6年4月＞		理学博士		生物プロセス工学	3後	2	1	三重大学大学院 生物資源各研究科 非常勤講師 (令4.10)	1日
350	兼任	講師	ﾔﾏﾓﾄ ﾉﾌﾞﾕｷ 山本　伸幸 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		森林政策学	3前	2	1	(国)森林研究・整備機構森林総研林業経営・政策研究領域室長 (平16.3)	1日
351	兼任	講師	ｻﾄｳ　ｸﾆｵ 佐藤　邦夫 ＜令和6年4月＞		農学博士		食料生産システム学	3前	2	1	三重大学国際環境教育研究センター 研究員 (昭54.4)	1日
352	兼任	講師	ﾆｼﾂﾞ ﾀｶﾋｻ 西津　貴久 ＜令和6年4月＞		農学博士 (京都大学)		電子計測学【隔年】	3後	2	1	岐阜大学大学院応用生物科学研究科 教授 (平2.4)	1日
353	兼任	講師	ﾏﾂｲ ﾘｮｳｽｹ 松井　良介 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		材料・加工学	3後	2	1	愛知工業大学工学部 准教授 (H24.4)	1日
354	兼任	講師	ｷﾄｳ ｺｳｼﾞ 鬼頭　孝治 ＜令和6年4月＞		博士（学術）		エネルギー利用学	3後	2	1	三重大学大学院 生物資源学研究科 講師 (令6.4)	1日
355	兼任	講師	ｵﾑﾗ ﾐﾁｱｷ 小村　道昭 ＜令和6年4月＞		修士 (工学)		ベンチャー企業論【隔年】	3前	0.7	1	株式会社アルベッジ 代表取締役CEO (平16.5)	1日
356	兼任	講師	ﾉﾑﾗ ﾔｽｼ 野村　廉士 ＜令和6年5月＞		学士 (農学)		農村ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ運営実習※	3後	0.5	1	三重県庁 (平1.4)	1日
357	兼任	講師	ｵﾎﾞｶﾀ　ﾖｼﾉ 小保方　よしの ＜令和6年4月＞		学士 (教育学)		入門数学演習	1後	2	1	三重大学大学院 工学研究科 講師 (令6.4)	1日

358	兼任	講師	ﾀｶﾊｼ ﾕﾘ 高橋　ゆり ＜令和6年4月＞		修士 （学術）		Science English Ⅰ Science English II	2通 2・3通	2 2	1 2	ヒロ・コーポレーション GES英会話 (H26.4)	1日
359	兼任	講師	ｸｹﾞ ﾖｼｵ 久下　義生 ＜令和6年4月＞		学士 （海洋科学）		技術者倫理	3前	2	3	久下技術士事務所 (H29.5)	1日
360	兼任	講師	ﾀﾅｶ ﾐﾂｸﾞ 田中　貢 ＜令和6年4月＞		修士（人文社会）		日本理解特殊講義１ 現代社会理解特殊講義３	1前 1後	2 2	1 1	三重大学 高等教育コンソーシアムみえ 地域活性化推進コーディネーター (平30.7)	1日
361	兼任	講師	ﾑﾗｶﾐ ｶﾂｽｹ 村上　克介 ＜令和6年4月＞		学術博士		物理学基礎Ⅱ	1後	2	1	三重大学 生物資源学研究科 非常勤講師 (令5.3)	1日
362	兼任	講師	ｺﾑﾛ ﾒｲｺ 小室　銘子 ＜令和6年4月＞		キャリアデザイン学修士		ビジネスキャリア入門	1前	2	1	株式会社パーソル総合研究所 (平21.4)	1日
363	兼任	講師	ｼﾗｻｶ ｱﾔﾉ 白坂　彩乃 ＜令和6年4月＞		修士（人間・環境学）		ドイツ語ＩＢａ ドイツ語ＩＢｂ	1前 1後	2 2	2 2	日本学術振興会特別研究員DC1 (令5.3)	1日
364	兼任	講師	ﾓﾘ ｹﾝｼﾞ 森　健治 ＜令和6年4月＞		教育学士		スポーツ健康科学Ａ	1前	2	2	津市立一志中学校、津市立白山中学校 (令4.4)	1日
365	兼任	講師	ﾀﾞﾒﾑ ｼﾞｬﾝ･ﾌﾗﾝｿﾜ ダメム　ジャン・フランソワ ＜令和6年4月＞		高等学校卒		フランス語Ⅱ演習ａ フランス語Ⅱ演習ｂ	1前 1後	1 1	1 1	三重大学 非常勤講師 (平25.4)	1日
366	兼任	講師	ﾊﾞﾙﾄﾛﾒ ｾﾊﾞｽﾃｨｱﾝ バルトロメ　セバスティアン ＜令和6年4月＞		修士（経済学）		ドイツ語ＩＡａ ドイツ語ＩＡｂ	1前 1後	4 4	4 4	三重大学 非常勤講師 (平30.4)	1日
367	兼任	講師	ﾎﾞｲﾙ ｶｽﾞｴ ボイル　一恵 ＜令和6年4月＞		修士（人文科学）		英語Ⅰコミュニケーション	1前	1	1	津東高等学校教諭 (令5.3)	1日
368	兼任	講師	ﾏｸﾀﾞﾆｴﾙ ﾌﾛｲﾄﾞ マクダニエル フロイド ＜令和6年4月＞		Judicial Doctor （米国）		英語Ⅱ発展Ｂ 英語Ⅱ発展Ｄ 国際理解特殊講義２	1前 1後 1前 1後 1前 1後	2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 1 1	三重大学 非常勤講師 (平25.4)	1日
369	兼任	講師	ﾏﾎﾆｰ･ﾌﾞﾗｲｱﾝ･ｼﾞｪｰﾑｽ マホニー・ブライアン・ジェームス ＜令和6年4月＞		政治学士 （米国）		環境学Ａ 国際理解特殊講義２	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	鈴鹿大学 国際地域学部 講師 (平22.4)	1日
370	兼任	講師	ﾘﾁｬｰｽﾞ ｼﾞｮﾝ リチャーズ　ジョン ＜令和6年4月＞		Master's of Education （米国）		英語Ⅱ発展Ｂ 英語Ⅱ発展Ｃ	1前 1後 1前 1後	1 1 2 1	1 1 2 1	Mississippi School of English 院長 (平8.4)	1日
371	兼任	講師	ｵｶﾀﾞ ｺｳﾀﾛｳ 岡田　宏太郎 ＜令和6年4月＞		法学修士		政治学Ａ	1前	2	1	三重大学 非常勤講師 (平25.4)	1日
372	兼任	講師	ﾐﾔﾑﾗ ﾕｳｽｹ 宮村　悠介 ＜令和6年4月＞		文学博士		哲学Ｆ	1前 1後	2 2	1 1	愛知教育大学 准教授 (令4.4)	1日
373	兼任	講師	ｺｾｷ ﾊﾙﾀｶ 古関　春隆 ＜令和6年4月＞		理学博士		数理科学Ａ 数理科学Ｄ 数理科学Ｇ	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	三重大学 非常勤講師 (令5.4)	1日
374	兼任	講師	ｵﾔﾏﾀﾞ ﾏﾎ 小山田　真帆 ＜令和6年4月＞		修士（文学）		西洋史Ａ	1後	2	1	京都大学 大学院文学研究科 博士後期課程 (平31.4)	1日
375	兼任	講師	ﾆｼﾑﾗ ｶｽﾞﾋｺ 西村　一彦 ＜令和6年4月＞		工学博士		経済学Ａ	1後	2	1	中京大学 国際学部 教授 (令2.4)	1日
376	兼任	講師	ﾆｼﾀﾞ ﾏｺﾄ 西田　誠 ＜令和6年4月＞		修士（体育学）		スポーツ健康科学Ａ	1前 1後	2 2	2 2	ユマニテク短期大学 事務職員 (平31.4)	1日
377	兼任	講師	ｿ ｹﾝ 祖　建 ＜令和6年4月＞		学術博士		中国語ＩＡａ 中国語ＩＡｂ 中国語ＩＢａ 中国語ＩＢｂ	1前 1後 1前 1後	3 3 3 2	3 3 3 2	三重大学 非常勤講師 (平9.4)	1日
378	兼任	講師	ｵｵﾆｼ ﾉﾘｶｽﾞ 大西　範和 ＜令和6年4月＞		博士（医学）		スポーツ健康科学Ｂ	1後	2	2	三重県立看護大学 看護学部・大学院看護学研究科 教授 (平20.4)	1日
379	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾔｽﾖ 渡辺　康代 ＜令和6年4月＞		博士（文学）		人文地理学Ａ	1前	2	1	三重大学 非常勤講師 (平29.4)	1日
380	兼任	講師	ｳﾁﾀﾞ ﾐﾉﾙ 内田　実 ＜令和6年4月＞		教育学士		スポーツ健康科学Ａ スポーツ健康科学Ｂ	1前 1後	2 2	2 2	三重大学 非常勤講師 (令5.4)	1日
381	兼任	講師	ｱﾗｷ ﾓﾄｺ 荒木　素子 ＜令和6年4月＞		修士（文学）		英語ＩＴＯＥＩＣ	1前	1	1	三重大学 非常勤講師 (平25.4)	1日
382	兼任	講師	ｲｵｶ ﾐｷﾋﾛ 井岡　幹博 ＜令和6年4月＞		農学修士		情報科学Ｂ 情報科学Ｃ	1前 1後	4 4	2 2	四日市大学 環境情報学部 教授 (平17.4)	1日
383	兼任	講師	ｲﾃﾞ ﾂﾄﾑ 井出　勉 ＜令和6年4月＞		文学修士		フランス語ＩＡａ フランス語ＩＡｂ フランス語Ⅱ総合ａ フランス語Ⅱ総合ｂ	1前 1後 1前 後	1 1 1 1	1 1 1 1	三重大学 非常勤講師 (平13.4)	1日
384	兼任	講師	ｲﾄｳ ﾐｶ 伊藤　美香 ＜令和6年4月＞		修士（学術）		数理科学Ｆ	1前 1後	2 2	1 1	三重大学 非常勤講師 (平28.4)	1日
385	兼任	講師	ｲﾅﾊﾞ ﾋﾛﾄ 稲葉　寛人 ＜令和6年4月＞		医学博士		国際保健と地域医療※	1後	0.1	1	St. Jude Children's Research Hospital (平15.7)	1日
386	兼任	講師	ｲﾑﾗ ｸﾐｺ 井村　久美子 ＜令和6年4月＞		学士（教育）		スポーツ健康科学Ａ スポーツ健康科学Ｂ	1前 1後	2 2	2 2	株式会社イムラアスリートアカデミー コーチ (平24.1)	1日
387	兼任	講師	ｲﾜﾓﾄ ﾀｶﾋﾛ 岩本　隆宏 ＜令和6年4月＞		理学修士		数理科学Ｈ	1前 1後	2 2	1 1	三重高等学校 常勤講師 (平28.4)	1日

388	兼任	講師	ｳﾒﾓﾄ ﾏｻｶｽﾞ 梅本　正和 ＜令和6年4月＞		医学博士		医学医療入門※	1前	0.1	1	うめもとこどもクリニック 院長 (平10.7)	1日
389	兼任	講師	ｵｶｶﾞｷ ﾂﾖｼ 岡垣　壮 ＜令和6年4月＞		理学博士		物理学基礎Ⅱ	1前	2	1	三重大学 非常勤講師 (令4.4)	1日
390	兼任	講師	ｵｸﾑﾗ ﾐﾔｺ 奥村　都子 ＜令和6年4月＞		農学士		化学実験	1前	1	1	三重大学 非常勤講師 (平4.4)	1日
391	兼任	講師	ｵｸﾔﾏ ﾃﾂﾔ 奥山　哲也 ＜令和6年4月＞		学士（工学）		環境科学２※	1前	0.3	1	オフィス　オクヤマ 代表 (平6.8)	1日
392	兼任	講師	ｵｻﾞﾜ ﾕｳｺ 小沢　優子 ＜令和6年4月＞		芸術学修士		音楽文化論	1後	2	1	三重大学 非常勤講師 (令3.10)	1日
393	兼任	講師	ｶﾀｸﾗ ﾉｿﾞﾑ 片倉　望 ＜令和6年4月＞		修士（文学）※		倫理学Ｈ	1後	2	1	三重大学 非常勤講師 (平31.4)	1日
394	兼任	講師	ｶﾅﾏﾙ ｹｲｺ 金丸　恵子 ＜令和6年4月＞		医学博士		医学医療入門※	1前	0.1	1	金丸産婦人科 院長 (平8.1)	1日
395	兼任	講師	ｶﾐﾔ ﾊｼﾞﾒ 神谷　元 ＜令和6年4月＞		博士（医学）		国際保健と地域医療※	1後	0.1	1	国立感染症研究所　実地疫学研究センター 主任研究官 (平24.8)	1日
396	兼任	講師	ｶﾜﾍﾞ ｼﾝｼﾞ 河邉　真次 ＜令和6年4月＞		修士 （人文科学）※		スペイン語ＩＡａ スペイン語ＩＡｂ スペイン語ＩＢａ スペイン語ＩＢｂ 文化人類学Ｂ	1前 1後 1前 1後 1前	1 1 1 1 2	1 1 1 1 1	三重大学 非常勤講師 (平19.4)	1日
397	兼任	講師	ｸｽﾓﾄ ﾐﾁﾙ 楠本　みちる ＜令和6年4月＞		学士（医学）		医学医療Ｂ２※	1後	0.1	1	三重県こころの健康センター 所長 (平29.4)	1日
398	兼任	講師	ｺ ﾖｳ 胡　蓉 ＜令和6年4月＞		博士（哲学）		中国語ＩＡａ 中国語ＩＡｂ 中国語ＩＢａ 中国語ＩＢｂ 中国語Ⅱ総合ａ 中国語Ⅱ総合ｂ	1前 1後 1前 1後 1前 1後	3 3 2 3 1 1	3 3 2 3 1 1	三重大学 非常勤講師 (平17.3)	1日
399	兼任	講師	ｺｲｽﾞﾐ ｹｲｺﾞ 小泉　圭吾 ＜令和6年4月＞		学士（医学）		国際保健と地域医療※	1後	0.1	1	神島診療所　所長 (平21.4)	1日
400	兼任	講師	ｺﾀﾞﾏ ﾚｲｺ 児玉　玲子 ＜令和6年4月＞		文学修士※		英語Ｉ大学基礎	1前 1後	1 1	1 1	三重大学 非常勤講師 (令4.4)	1日
401	兼任	講師	ｻｸﾏ ｱﾂｼ 佐久間　篤 ＜令和6年4月＞		修士 （言語科学）		英語ＩＴＯＥＩＣ	1前	1	1	三重大学 非常勤講師 (平30.4)	1日
402	兼任	講師	ｻｸﾗｲ ﾋﾛﾕｷ 櫻井　洋至 ＜令和6年4月＞		博士（医学）		国際保健と地域医療※	1後	0.1	1	伊賀市立上野総合市民病院 副病院長 (令4.4)	1日
403	兼任	講師	ｼｹﾞﾏﾂ ﾖｼﾐ 重松　由美 ＜令和6年4月＞		博士（文学）		ポルトガル語ＩＡａ ポルトガル語ＩＡｂ ポルトガル語ＩＢａ ポルトガル語ＩＢｂ	1前 1後 1前 1後	1 1 2 2	1 1 2 2	三重大学 非常勤講師 (平25.4)	1日
404	兼任	講師	ｽｶﾞﾇﾏ ﾕｷ 菅沼　友規 ＜令和6年4月＞		修士（人間科学） （米国）		英語ＩＴＯＥＩＣ	1前	1	1	三重大学 非常勤講師 (令4.4)	1日
405	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ﾅｶﾄ 鈴木　中人 ＜令和6年4月＞		修士 （社会福祉）		医学医療入門※	1前	0.1	1	特定非営利活動法人いのちをバトンタッチする会 代表 (平17.3)	1日
406	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ﾋｻｼ 鈴木　久嗣 ＜令和6年4月＞		文学修士※		ドイツ語ＩＡａ ドイツ語ＩＡｂ	1前 1後	2 2	2 2	三重大学 非常勤講師 (平8.10)	1日
407	兼任	講師	ﾀｷﾄｳ ﾁｴﾐ 瀧藤　千恵美 ＜令和6年4月＞		修士（学術）※		ポルトガル語ＩＡａ ポルトガル語ＩＡｂ ポルトガル語ＩＢａ ポルトガル語ＩＢｂ	1前 1後 1前 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	三重大学 非常勤講師 (平25.4)	1日
408	兼任	講師	ﾀｹﾀﾞ ﾋﾃﾞｶｽﾞ 武田　秀一 ＜令和6年4月＞		学士（工学）		日本理解特殊講義４	1後	2	1	武田経営研究所 代表 (平10.5)	1日
409	兼任	講師	ﾀｹﾀﾞ ﾏﾎﾄ 竹田　真帆人 ＜令和6年4月＞		工学博士		物理学１ 物理学基礎Ｉ	1後 1前	2 2	1 1	三重大学工学研究科 リサーチフェロー (平31.4)	1日
410	兼任	講師	ﾀﾅｶ ｱｷﾖｼ 田中　晶善 ＜令和6年4月＞		農学博士		自然科学概論２※	1前	0.8	1	三重大学 非常勤講師 (H31.4)	1日
411	兼任	講師	ﾀﾆｻﾞｷ ﾘｭｳﾀﾛｳ 谷崎　隆太郎 ＜令和6年4月＞		学士（医学）		医学医療入門※	1前	0.1	1	市立伊勢総合病院内科 副部長 (平27.4)	1日
412	兼任	講師	ﾁﾝ ｼﾍｲ 陳　志平 ＜令和6年4月＞		教育学修士		中国語ＩＡａ 中国語ＩＡｂ	1前 1後	1 1	1 1	三重大学 非常勤講師 (平9.4)	1日
413	兼任	講師	ﾂｶﾓﾄ ｱｷﾋｻ 塚本　晃久 ＜令和6年4月＞		Ph.Ｄ（言語学） （オーストラリア）		宗教学Ｄ	1前	2	1	三重大学 非常勤講師 (平29.10)	1日
414	兼任	講師	ﾅｶｶﾞﾜ ﾀｸﾔ 中川　拓哉 ＜令和6年4月＞		修士（文学）※		ドイツ語ＩＡａ ドイツ語ＩＡｂ	1前 1後	1 1	1 1	名古屋大学 博士研究員 (平29.4)	1日
415	兼任	講師	ﾅｶﾞﾅﾜ ｶﾝ 長縄　寛 ＜令和6年4月＞		修士（文学）※		ドイツ語ＩＢａ ドイツ語ＩＢｂ	1前 1後	1 1	1 1	三重大学 非常勤講師 (平16.4)	1日
416	兼任	講師	ﾅｶﾆｼ ﾁｵﾘ 中西　千織 ＜令和6年4月＞		修士 （教育心理学）		心理学Ｆ	1後	4	2	三重大学 非常勤講師 (平16.4)	1日
417	兼任	講師	ﾅｶﾉ ﾏﾘｺ 中野　麻里子 ＜令和6年4月＞		修士 （中国研究）		中国語ＩＡａ 中国語ＩＡｂ	1前 1後	3 3	3 3	三重大学 非常勤講師 (平18.4)	1日
418	兼任	講師	ﾅｶﾔﾏ ｹﾝ 中山　顕 ＜令和6年4月＞		修士（法学）※		日本国憲法	1前 1後	4 2	2 1	三重大学 非常勤講師 (令4.4)	1日
419	兼任	講師	ﾅﾙﾐ ｺｳﾍｲ 鳴海　康平 ＜令和6年4月＞		学士（文学）		演劇入門※	1前	0.1	1	劇団第七劇場 主宰者 (平11.8)	1日

420	兼任	講師	ﾆｼ ｱﾂｼ 西　淳 ＜令和6年4月＞		経済学修士※		経済学G	1後	2	1	三重大学 非常勤講師 (平12.10)	1日
421	兼任	講師	ﾆﾜ ﾚｲｼ 丹羽　怜史 ＜令和6年4月＞		修士（心理学）		現代社会理解実践２※	1後	0.3	1	三重大学 非常勤講師 (令元.10)	1日
422	兼任	講師	ﾉｸﾞﾁ ﾀｹﾙ 野口　武 ＜令和6年4月＞		博士 （中国研究）		中国語ＩＢａ 中国語ＩＢｂ	1前 1後	3 3	3 3	三重大学 非常勤講師 (令4.4)	1日
423	兼任	講師	ﾊﾔｼ ﾀﾂﾔ 林　辰弥 ＜令和6年4月＞		博士（医学）		医学医療入門※	1前	0.1	1	三重県立看護大学 看護学部 教授 (平20.4)	1日
424	兼任	講師	ﾊﾔｼ ﾋﾛｼ 林　浩士 ＜令和6年4月＞		教育学修士		英語Ｉコミュニケーション	1前 1後	1 1	1 1	鈴鹿工業高等専門学校 教養教育科 教授 (平3.4)	1日
425	兼任	講師	ﾋﾀﾞﾉ ﾏﾘｺ 肥田野　万里子 ＜令和6年4月＞		博士（理学）		基礎線形代数学Ⅱ 数理科学Ｂ	1前 1後	2 2	1 1	三重大学 非常勤講師 (平27.4)	1日
426	兼任	講師	ﾋﾛｽﾞﾐ ﾄﾖｶｽﾞ 廣住　豊一 ＜令和6年4月＞		博士（学術）		データサイエンスＩ 現代科学理解特殊講義２※	1前 1後	2 0.8	1 1	四日市大学環境情報学部 准教授 (平27.4)	1日
427	兼任	講師	ﾌｼﾞﾀ ｶｽﾞﾄﾖ 藤田　一豊 ＜令和6年4月＞		体育学士		スポーツ健康科学Ａ スポーツ健康科学Ｂ	1前 1後	2 2	2 2	三重大学 非常勤講師 (平29.4)	1日
428	兼任	講師	ﾌﾙｶﾜ ｺｳｼﾞ 古川　浩司 ＜令和6年4月＞		工学博士		環境科学２	1前	2	1	三重県環境保全事業団 課長 (平11.4)	1日
429	兼任	講師	ﾎﾘｴ ﾀﾛｳ 堀江　太郎 ＜令和6年4月＞		博士（理学）		基礎微分積分学Ⅰ 基礎微分積分学Ⅱ	1後 1前	2 2	1 1	鈴鹿工業高等専門学校 教養教育科 教授 (平12.4)	1日
430	兼任	講師	ﾏｴｶﾜ ｹﾝｲﾁ 前川　賢一 ＜令和6年4月＞		修士（教育学）		現代社会理解実践２※	1後	0.4	1	特定非営利活動法人アイパートナー 視覚障害者生活訓練等指導員 (平12.6)	1日
431	兼任	講師	ﾏｴﾀﾞ ｹﾝｼﾞ 前田　憲司 ＜令和6年4月＞		経営学士		日本学	1後	2	1	芸能史研究家 企画編集者 (平22.4)	1日
432	兼任	講師	ﾏｼﾞﾏ ｼﾞｭﾝﾔ 間島　順哉 ＜令和6年4月＞		修士（工学）		環境学Ａ	1前 1後	2 2	1 1	株式会社ICS 代表取締役 (平21.2)	1日
433	兼任	講師	ﾏﾂｳﾗ ｼｹﾞﾕｷ 松浦　茂之 ＜令和6年4月＞		経済学士		演劇入門※	1前	0.1	1	三重県文化会館副館長 兼事業課長 (平19.4)	1日
434	兼任	講師	ﾏﾙﾔﾏ ｼﾞｭﾝｺ 丸山　淳子 ＜令和6年4月＞		博士（医学）		医学医療入門※	1前	0.1	1	鈴鹿医療科学大学医用工学部臨床工学科 教授 (平22.4)	1日
435	兼任	講師	ﾓｳﾘ ｲﾁﾛｳ 毛利　伊知郎 ＜令和6年4月＞		文学修士		東洋文化史	1前 1後	2 2	1 1	三重大学 非常勤講師 (令4.4)	1日
436	兼任	講師	ﾔﾏｼﾞ ｱｽﾀ 山路　明日太 ＜令和6年4月＞		博士（文学）		ロシア語ＩＡａ ロシア語ＩＡｂ ロシア語ＩＢａ ロシア語ＩＢｂ	1前 1後 1前 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	三重大学 非常勤講師 (平27.4)	1日
437	兼任	講師	ﾔﾏﾓﾄ ｼﾝ 山本　伸 ＜令和6年4月＞		修士（教育学）		英語Ｉコミュニケーション	1前 1後	1 1	1 1	東海学園大学経営学部 教授 (令2.4)	1日
438	兼任	講師	ﾕﾀ ｱｷﾗ 油田　晃 ＜令和6年4月＞		高等学校卒		演劇入門※	1前	0.3	1	NPO法人パフォーミングアーツネットワークみえ 代表理事 (平23.12)	1日
439	兼任	講師	ﾖｺﾔﾏ ｹｲ 横山　慶 ＜令和6年4月＞		理学士		現代社会理解実践２※	1後	0.3	1	全国要約筆記問題研究会 三重県支部長 (平18.4)	1日
440	兼任	講師	ﾖｼﾉ ｻﾂｷ 吉野　さつき ＜令和6年4月＞		Master of Arts in Arts Manegement（英国）		演劇入門※	1前	0.1	1	愛知大学文学部 教授 (平24.4)	1日
441	兼任	講師	ﾖｼﾑﾗ ｱｲｺ 吉村　愛子 ＜令和6年4月＞		博士(学術)		英語Ｉコミュニケーション	1後	1	1	三重大学 非常勤講師 (令2.4)	1日
442	兼任	講師	ﾘ ｹｲﾐﾝ 李　惠敏 ＜令和6年4月＞		文学修士※		朝鮮・韓国語ＩＡａ 朝鮮・韓国語ＩＡｂ 朝鮮・韓国語ＩＢａ 朝鮮・韓国語ＩＢｂ	1前 1後 1前 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	三重大学 非常勤講師 (令3.4)	1日
443	兼任	講師	ｱﾝﾄﾞｳ ﾅｵｷ 安藤　直樹 ＜令和6年4月＞		修士（教育学）		心理学Ａ	1前 1後	2 2	1 1	三重大学 非常勤講師 (平23.10)	1日
444	兼任	講師	ﾏﾙﾔﾏ ｶｽﾞｵ 丸山　一男 ＜令和6年4月＞		医学博士		地域防災論※	1後	0.1	1	三重大学 非常勤講師 (令4.10)	1日
445	兼任	講師	ﾀｹﾀﾞ ﾋﾃﾞｶｽﾞ 武田　秀一 ＜令和6年4月＞		学士（工学）		日本理解特殊講義４	1後	2	1	武田経営研究所 代表 (平10.5)	1日
446	兼任	講師	ｸﾙﾐﾔ ﾀｶｼ 久留宮　隆 ＜令和6年4月＞		学士（医学）		国際保健と地域医療※	1後	0.1	1	国境なき医師団日本 会長 (令2.3)	1日
447	兼任	講師	ｻｲﾄｳ　ﾄｼｱｷ 齋藤　俊彰 ＜令和6年4月＞		農学士		職業指導Ⅰ	2後	2	1	三重大学生物資源学部 非常勤講師 (H29.4)	1日
448	兼任	講師	ナカタ　ナオト 中田　直人 ＜令和7年4月＞		農学士		職業指導Ⅰ	2後	2	1	三重県立四日市農芸高等学校長 (R3.4)	1日
449	兼任	講師	ツツイ　ツトム 筒井　努 ＜令和6年4月＞		修士 (学術)		職業指導Ⅱ	2後	2	1	代々木高等学校本校非常勤講師 (R3.4)	1日

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

職位	学位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計	備考
教授	博士	0人	0人	4人	20人	8人	0人	0人	32人	
	修士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
准教授	博士	0人	1人	21人	18人	1人	0人	0人	41人	
	修士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
講師	博士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	修士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
助教	博士	0人	10人	0人	0人	2人	0人	0人	12人	
	修士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学士	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	1人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
合計	博士	0人	11人	25人	38人	11人	0人	0人	85人	
	修士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学士	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	1人	
	短期大学士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
4　専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。